

斜里町

カモイベツ遺跡

—一般国道334号斜里町日の出事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

令和元年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 遺跡全景



2 調査状況(オホーツク文化期)



1 焼土と周辺の遺物 (F-61付近・縄文時代)



2 貝・骨ブロック (SB-4・アイヌ文化期)



1 竪穴住居跡群（オホーツク文化期）



2 土坑墓（GP-3・続縄文時代）



3 土坑墓上層の人骨（GP-4・続縄文時代）



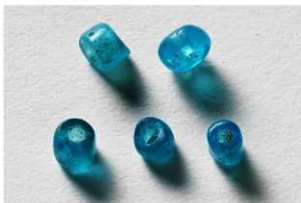
4 石組炉（SF-7・続縄文時代）



5 集石土坑（PS-26・続縄文時代）



1 土器（縄文・続縄文・オホーツク式）



2 土坑墓出土のガラス玉（GP-4）



3 骨角器（貝・骨ブロック）



4 金属製品

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局網走開発建設部が行う国道改良事業に伴う斜里町カモイベツ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。調査は、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成29(2017)年に測量調査、平成30(2018)年に発掘調査を実施した。また斜里町教育委員会が平成20・21・23・24(2008・2009・2011・2012)年に発掘調査を実施した。本報告は、斜里町教育委員会が実施した分を含め、当センターがまとめて作成した。
 2. 整理作業の担当は、笠原興・阿部明義・山中文雄・直江康雄である。
 3. 本書の執筆は、笠原・影浦覚・阿部・直江が行い、編集は阿部が担当した。また斜里町教育委員会調査分については、調査概要報告書や図面・写真などをもとに阿部が記載した。
 4. 現場写真撮影は笠原・阿部・直江、遺物写真撮影は第1調査部第1調査課 中山昭大が行った。
 5. 石器などの石材鑑定は直江が行い、第1調査部普及活用課 立田理の助言・協力を得た。また木製品・材・金属製品(一部除く)の保存処理は第1調査部第1調査課 三浦正人が行い、田口尚の協力を得た。非鉄金属製品の蛍光X線分析について、第1調査部普及活用課 柳瀬由佳の協力を得た。動物遺存体・骨角器の分類は、東海大学 内山幸子氏の指導の下行い、第1調査部第2調査課 土肥研晶・福井淳一の助言・協力を得た。
 6. 各種分析・鑑定・保存処理は下記に委託・依頼した。
 - 黒曜石原材産地分析：(株)パレオ・ラボ(2018年)
 - 金属製品保存処理：バリノ・サーヴェイ株式会社(2018年)
 - ガラス玉・石製品分析：函館工業高等専門学校 竹内孝・中村和之(2011年)
 - 動物遺存体同定：東海大学 内山幸子(2019年)
 - 国立歴史民俗博物館 上奈穂美、北海道大学総合博物館 江田真毅(2008年)
 - 炭化木片樹種同定：(株)加速器分析研究所(2018年)
 - 炭化種実同定：バリノ・サーヴェイ株式会社(2019年)
 - 放射性炭素¹⁴C年代測定：(株)パレオ・ラボ(2008~2012年)、(株)加速器分析研究所(2018年)
 - 火山灰同定：(株)アースサイエンス(2018年)
 - 地形・地質解析：(株)アースサイエンス(2012年) ※Ⅱ章に成果を反映して記載
 7. 赤色顔料分析について、地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部地質研究所より分析データの提供を受けた。
 8. 調査にあたって、下記の諸機関および個人よりご指導、ご協力をいただいた(順不同・敬称略)。
 - 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
 - 斜里町教育委員会 松田功、平河内毅、斜里町 金盛典夫、合地信生
 - 羅臼町教育委員会 天方博章、根室市教育委員会 猪熊樹人
 - 北海道博物館 右代啓視、鈴木琢也、北海道大学 筑島栄紀、
 - 東京大学大学院人文社会系研究科付属北海文化研究所実習施設 熊本俊朗
- ※そのほか2008年調査時の協力者(斜里町教育委員会2009より記載)
- 石田肇、池田永寿、宇田川洋、加藤春雄、北野博司、国木田大、榊田明広、佐藤孝雄、佐藤宏之、ジェイムス・テイラー、角達之助、瀬下直人、高橋健、高橋光永、武田修、福田正宏、福田岬子、松村論文、本吉春雄、涌坂周一

記号等の説明

1. 遺構は、以下の記号によって表記し、発掘調査順に番号を付した。なお2008～2012年調査における遺構名（**号址、PIT**など）を新遺構名に変換した上で、それに続く番号を2018年度の遺構名に付した。

「H」：住居跡

「HP」：住居跡の土坑・柱穴状小土坑 「HF」：住居跡の炉・焼土

「HS」：住居跡の礫集中

「GP」：土坑墓 「P」：土坑 「PS」：集石を伴う土坑（集石土坑）

「SP」：柱穴状小土坑 「F」：焼土 「SB」：貝・骨ブロック

「FC」：フレイクチップ集中 「S」：礫集中

2. 遺構図には方位記号を付した。2018年発掘区の基線（北-南、数字のライン）は真北に対し26°12'西偏している。レベルは標高（単位m）を示す。
3. 遺構の規模は、「確認面での長軸×短軸/底面での長軸×短軸/厚さ（深さ）」の順で記した。一部破壊されているものや不明確なものについては、現存長を「()」で、不明のものは「-」で示した。
4. 掲載した遺構図等の縮尺は原則的に以下のとおりとした。また変則的なものについても随時スケールを入れている。

遺構実測図 1：40

遺物出土分布図 1：100 遺物出土詳細図 1：20

土器実測図・拓影図 1：4

剥片石器実測図 1：2 礫石器実測図 1：4（一部の大型石器等は1：6）

土製品・石製品・骨角器等 1：2 鉄製品 1：4～1：2

5. 石器実測図中で、敲打痕はV—V、すり痕は|——|で範囲を表した。
 6. 遺物写真の縮尺は原則的に以下のとおりである。
- 土器・礫石器 約1：4 鉄製品 約1：3 剥片石器・石製品・骨角器等 約1：2
7. 出土遺物分布図等での表示は、遺物の種類別に略記号やシンボルマークで示した。

●：土器（・貝-アイヌ文化期） ▲：剥片石器 ■：礫・礫石器

★：金属製品 ×：骨

8. 土層の混合状態を表現するために、以下のように表記してある。

A+B：AとBが同量混じる。 A≐B：AとBの土層が類似する。

A>B：AにBが少量混じる。 A>B：AにBが微量混じる。

9. 土層の色調には『新版標準土色帖』30版（小山・竹原2008）を使用し、カラーチャートの番号を付したものがあ。また、土層の記述には下記の記号・略称を用いた場合がある。

T a - a：樽前 a 降下火山灰

K o - c₂：駒ヶ岳 c₂降下火山灰

M a - b 5：摩周 b 5 テフラ

目 次

口絵

例言・記号等の説明

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

I 章 緒 言

1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査に至る経緯	4
4	遺構・遺物の分類・名称	5
	(1) 遺構 (2) 土器等 (3) 石器等 (4) その他の遺物	
5	調査結果の概要	7

II 章 遺跡の環境

1	遺跡の立地と環境	9
	(1) 遺跡の位置と地名 (2) 地形と地質 (3) 自然環境	
2	調査区の土層と砂丘列	11
	(1) カモイベツ周辺の砂丘列と基本土層 (2) 各砂丘列の土層堆積状況	
3	歴史的環境	17
	(1) 概要 (2) 周辺の遺跡	

III 章 2017・2018年の調査と出土遺物

1	調査の概要	21
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 整理作業の方法 (5) 調査結果の概要	
2	遺構の調査とその遺物	31
a	縄文時代の遺構	31
	(1) 住居跡 (2) 土坑 (3) 柱穴状小土坑 (4) 焼土 (5) フレイクチップ集中	
b	オホーツク文化期の遺構	43
	(1) 竪穴跡 (2) 集石土坑 (3) 礫集中 (4) フレイクチップ集中	
c	アイヌ文化期の遺構	52
	(1) 貝・骨ブロック (2) 柱穴状小土坑 (3) 礫集中	
3	包含層出土の遺物	66
	(1) 遺物出土状況 (2) 土器 (3) 石器等 (4) 鉄製品 (5) 加工痕ある骨片 (6) その他	

IV 章 2008年の調査と出土遺物

1	調査の概要	97
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 調査結果の概要	
2	遺構の調査とその遺物	104
a	縄文時代の遺構	104
	(1) 竪穴住居跡	

b	縄文時代の遺構	108
	(1) 竪穴住居跡 (2) 柱穴列 (3) 土坑墓 (4) 土坑 (5) 集石を伴う土坑 (6) 石組炉 (7) 礫集中 (8) ペンガラ製作址	
c	オホーツク文化期の遺構	132
	(1) 竪穴住居跡 (2) 土坑墓 (3) 集石を伴う土坑 (4) 石組炉 (5) 焼土	
3	包含層出土の遺物	164
	(1) 土器 (2) 石器等	
V章 2009年の調査と出土遺物		
1	調査の概要	185
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 調査結果の概要	
2	遺構の調査とその遺物	190
a	縄文時代の遺構	190
	(1) 焼土	
b	縄文時代の遺構	190
	(1) 石組炉	
3	包含層出土の遺物	192
	(1) 土器 (2) 石器等	
VI章 2011年の調査と出土遺物		
1	A地区の調査の概要	199
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 調査結果の概要	
2	A地区の遺構の調査	205
a	縄文時代の遺構	205
	(1) 土坑 (2) 柱穴状小土坑 (3) フレイクチップ集中	
3	A地区の包含層出土の遺物	205
	(1) 土器 (2) 石器等 (3) 金属製品・木製品	
4	B地区の調査の概要	210
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 調査結果の概要	
5	B地区の遺構の調査とその遺物	215
a	縄文時代の遺構	215
	(1) 土坑墓 (2) 土坑 (3) 集石土坑 (4) 小土坑 (5) 石組炉 (6) 焼土 (7) 礫集中 (8) フレイクチップ集中 (9) 土器埋設遺構 (10) ペンガラ集中 (11) 「廃棄場」	
b	アイヌ文化期の遺構	239
	(1) 柱穴状小土坑	
6	B地区の包含層出土の遺物	240
	(1) 土器 (2) 石器等	
VII章 2012年の調査と出土遺物		
1	調査の概要	253
	(1) 調査の方法と経過 (2) 発掘区の設定 (3) 土層 (4) 調査結果の概要	
2	遺構の調査とその遺物	259
a	縄文時代の遺構	259
	(1) 土坑 (2) 集石を伴う土坑 (3) 柱穴状小土坑 (4) 石組炉 (5) 焼土	

(6) 礫集中 (7) フレイクチップ集中 (8) 土器埋設遺構 (9) ベンガラ集中	
b オホーツク文化期の遺構	282
(1) 土坑 (2) 柱穴状小土坑 (3) 焼土	
3 包含層出土の遺物	285
(1) 土器等 (2) 石器等 (3) 骨角器 (4) 旧河道出土の材・木片	
Ⅷ章 自然科学的分析・鑑定	
1 カモイベツ遺跡出土黒曜石製石器の産地推定	321
2 斜里町カモイベツ遺跡ガラス玉・石製品分析	325
3 カモイベツ遺跡(2008年調査)出土の魚類・哺乳類遺体	327
4 カモイベツ遺跡(2008年調査)出土の鳥類遺体について	341
5 カモイベツ遺跡(2018年調査)の動物遺体	346
6 カモイベツ遺跡出土炭化木片の樹種	361
7 カモイベツ遺跡の炭化種実同定	365
8 放射性炭素年代測定(1)2008~2012年	373
9 カモイベツ遺跡における放射性炭素年代(2)2018年	380
10 火山灰同定	388
11 赤色顔料について	393
Ⅸ章 まとめ	
1 主な遺構群の特徴	397
(1) 統縄文時代の特徴的な遺構 (2) オホーツク文化刻文期における堅穴群	
(3) アイヌ文化期のカモイベツと松浦武四郎	
2 遺物の特徴	401
(1) 土器 (2) 石器 (3) 金属製品 (4) 動物遺存体・骨角器	
引用・参考文献	406
写真図版	409
・現地調査状況	
・出土遺物	
報告書抄録	

挿図目次

図 I - 1	カモイバツ遺跡の位置	3	図 III - 39	包含層出土の土器 (2)	74
図 I - 2	年度別調査範囲	3	図 III - 40	包含層出土の土器 (3)	75
図 I - 3	カモイバツ遺跡遺構位置図	8	図 III - 41	包含層出土の土器 (4)	76
図 II - 1	遺跡の範囲と周辺の地形	10	図 III - 42	包含層出土の石器 (1)	79
図 II - 2	基本土層	11	図 III - 43	包含層出土の石器 (2)	80
図 II - 3	カモイバツ遺跡および周辺地形概念図	12	図 III - 44	包含層出土の石器 (3)	81
図 II - 4	砂丘の形成過程	13	図 III - 45	包含層出土の石器 (4)	82
図 II - 5	周辺の遺跡	19	図 III - 46	包含層出土の石器 (5)	83
図 III - 1	2018年発掘区設定図	23	図 III - 47	包含層出土の石器 (6)	84
図 III - 2	調査区土層断面 (1)	24	図 III - 48	包含層出土の鉄製品 (1)	85
図 III - 3	調査区土層断面 (2)	25	図 III - 49	包含層出土の鉄製品 (2)	86
図 III - 4	調査区土層断面 (3)	26	図 III - 50	包含層出土の加工痕ある骨片	87
図 III - 5	調査区土層断面 (4)	27	図 IV - 1	2008年発掘区設定図・土層断面位置	98
図 III - 6	2018年調査区遺構位置図	30	図 IV - 2	調査区土層断面 (1)	99
図 III - 7	H - 22	32	図 IV - 3	調査区土層断面 (2)	100
図 III - 8	H - 22出土の遺物	33	図 IV - 4	調査区土層断面 (3)	101
図 III - 9	P - 29	34	図 IV - 5	2008年調査区遺構位置図	103
図 III - 10	S P - 22~31	35	図 IV - 6	H - 15 (37c号址)	104
図 III - 11	F - 56~59	37	図 IV - 7	H - 15 (37c号址) 出土の遺物	105
図 III - 12	F - 60~63	38	図 IV - 8	H - 17 (51号址)	106
図 III - 13	F - 64~71	40	図 IV - 9	H - 17 (51号址) 出土の遺物	107
図 III - 14	F C - 12~16	42	図 IV - 10	H - 16 (25号址)	108
図 III - 15	H - 19・20 (1)	44	図 IV - 11	H - 16 (25号址) 出土の遺物	109
図 III - 16	H - 19・20 (2)	45	図 IV - 12	H - 18 (24a号址)・B H - 2 (3号址)	110
図 III - 17	H - 19・20出土の遺物	46	図 IV - 13	G P - 2 (38号址)	111
図 III - 18	H - 21	48	図 IV - 14	G P - 3 (44号址)	112
図 III - 19	P S - 31	49	図 IV - 15	G P - 3 (44号址) 出土の遺物	113
図 III - 20	S - 11・12・F C - 11	51	図 IV - 16	P - 1・2 (24b・34号址)	115
図 III - 21	S B - 1・2	52	図 IV - 17	P - 3・4 (27・26号址)	116
図 III - 22	S B - 3	54	図 IV - 18	P - 5・6 (28・47号址)	117
図 III - 23	S B - 3 出土の遺物	55	図 IV - 19	P - 7 (43号址)	118
図 III - 24	S B - 4 (1)	56	図 IV - 20	P S - 5・6 (37a b・39号址)	119
図 III - 25	S B - 4 (2)	57	図 IV - 21	P S - 7 (23号址)	120
図 III - 26	S B - 4 出土の遺物	58	図 IV - 22	P S - 8・9 (40・48号址)	121
図 III - 27	S B - 5	59	図 IV - 23	P S - 10 (49号址)	122
図 III - 28	S B - 5 出土の遺物	60	図 IV - 24	P S - 11・12 (46・50号址)	124
図 III - 29	S B - 6・7	61	図 IV - 25	P S - 12出土の遺物・P S - 13 (41・45号址)	125
図 III - 30	S B - 8・9	63	図 IV - 26	P S - 14・15 (31b・35号址)	126
図 III - 31	S B - 10	64	図 IV - 27	P S - 16・17・18 (36・53・54号址)	127
図 III - 32	S P - 32~34・S - 13・14	65	図 IV - 28	P S - 19・20 (30・33号址)	128
図 III - 33	Ⅶ b層遺物分布 (1)	67	図 IV - 29	P S - 21 (42号址)・S F - 4 (31a号址)・S - 1 (52号址)	129
図 III - 34	Ⅶ b層遺物分布 (2)	68	図 IV - 30	R - 1 (29号址)	131
図 III - 35	Ⅶ b層 (3)・Ⅶ a層遺物分布	69	図 IV - 31	H - 1 (2号址)	132
図 III - 36	Ⅶ b層一括土器出土状況	70			
図 III - 37	I ~ II層遺物分布・出土状況	71			
図 III - 38	包含層出土の土器 (1)	73			

図Ⅳ-32	H-3・4 (4・55号址) ……………	133
図Ⅳ-33	H-3 (4号址) 出土の遺物 ……………	134
図Ⅳ-34	H-5・6 (20・19号址) (1) ……………	136
図Ⅳ-35	H-5・6 (20・19号址) (2) ……………	137
図Ⅳ-36	H-7 (5号址) (1) ……………	138
図Ⅳ-37	H-7 (5号址) (2) ……………	139
図Ⅳ-38	H-7 (5号址) 出土の遺物 (1) ……………	140
図Ⅳ-39	H-7 (5号址) 出土の遺物 (2) ……………	141
図Ⅳ-40	H-8 (6号址) (1) ……………	142
図Ⅳ-41	H-8 (6号址) (2) ……………	143
図Ⅳ-42	H-8 (6号址) 出土の遺物 (1) ……………	144
図Ⅳ-43	H-8 (6号址) 出土の遺物 (2) ……………	145
図Ⅳ-44	H-9・10・11 (15a・b・21号址) (1) ……………	146
図Ⅳ-45	H-9・10・11 (15a・b・21号址) (2) ……………	147
図Ⅳ-46	H-9・10・11 (15a・15b・21号址) 出土の遺物 (1) ……………	148
図Ⅳ-47	H-9・10・11 (15a・15b・21号址) 出土の遺物 (2) ……………	149
図Ⅳ-48	H-12 (8号址) ……………	152
図Ⅳ-49	H-12 (8号址) 出土の遺物 ……………	153
図Ⅳ-50	H-13 (7号址) ……………	154
図Ⅳ-51	H-13 (7号址) 出土の遺物 ……………	155
図Ⅳ-52	H-14 (9号址) (1) ……………	156
図Ⅳ-53	H-14 (9号址) (2) ……………	157
図Ⅳ-54	GP-1 (1号址) ……………	158
図Ⅳ-55	PS-1・2 (32・17号址) ……………	159
図Ⅳ-56	PS-3・4 (14・18号址) ……………	160
図Ⅳ-57	SF-1~3・F-1~3 (10~13・16・22号址) ……………	162
図Ⅳ-58	SF・F 出土の遺物 ……………	163
図Ⅳ-59	包含層出土の土器 (1) ……………	166
図Ⅳ-60	包含層出土の土器 (2) ……………	167
図Ⅳ-61	包含層出土の土器 (3) ……………	168
図Ⅳ-62	包含層出土の土器 (4) ……………	169
図Ⅳ-63	包含層出土の石器 (1) ……………	171
図Ⅳ-64	包含層出土の石器 (2) ……………	172
図Ⅳ-65	包含層出土の石器 (3) ……………	173
図Ⅴ-1	2009年発掘区設定図・土層断面位置 ……………	185
図Ⅴ-2	調査区土層断面 (1) ……………	187
図Ⅴ-3	調査区土層断面 (2) ……………	188
図Ⅴ-4	調査区土層断面 (3) ……………	189
図Ⅴ-5	2009年調査区遺構位置図 ……………	190
図Ⅴ-6	F-4・5 (PIT1・2)・ SF-5 (石囲い炉) ……………	191
図Ⅴ-7	包含層出土の土器 ……………	193
図Ⅴ-8	包含層出土の石器 (1) ……………	194
図Ⅴ-9	包含層出土の石器 (2) ……………	195
図Ⅴ-10	包含層出土の石器 (3) ……………	196

図Ⅵ-1	2011年A地区発掘区設定図・ 土層断面位置 ……………	199
図Ⅵ-2	A地区土層断面 (1) ……………	200
図Ⅵ-3	A地区土層断面 (2) ……………	201
図Ⅵ-4	2011年A地区遺構位置図 ……………	202
図Ⅵ-5	P-8・SP-1~10 (1) ……………	203
図Ⅵ-6	P-8・SP-1~10 (2)・ FC-1 ……………	204
図Ⅵ-7	A地区包含層出土の土器 ……………	205
図Ⅵ-8	A地区包含層出土の石器 (1) ……………	207
図Ⅵ-9	A地区包含層出土の石器 (2) ……………	208
図Ⅵ-10	A地区包含層出土の石器 (3)・キセル ……………	209
図Ⅵ-11	2011年B地区発掘区設定図・地形測量図 ……………	211
図Ⅵ-12	B地区土層断面 ……………	212
図Ⅵ-13	2011年B地区遺構位置図 ……………	214
図Ⅵ-14	GP-4 (1号墓塚) (1) ……………	215
図Ⅵ-15	GP-4 (1号墓塚) (2) ……………	216
図Ⅵ-16	P-9・10・11・12 (PIT13・2・5・25) ……………	218
図Ⅵ-17	P-13・30 (PIT8・21) ……………	219
図Ⅵ-18	PS-22 (PIT7) ……………	220
図Ⅵ-19	PS-22 (PIT7) 出土の遺物 ……………	221
図Ⅵ-20	PS-23・24 (PIT17・15) ……………	222
図Ⅵ-21	PS-23・24出土の遺物・ SP-13 (PIT10) ……………	223
図Ⅵ-22	SF-6・7 (PIT16・12) ……………	225
図Ⅵ-23	F-6・7 (PIT23・22) ……………	226
図Ⅵ-24	S-2・3 (PIT9・集石) ……………	228
図Ⅵ-25	S-4・5 (PIT20・14) ……………	229
図Ⅵ-26	S-3・4・5出土の遺物 ……………	230
図Ⅵ-27	S-6・7 (集石1・PIT6) ……………	231
図Ⅵ-28	FC-2・3・17 (石器集中)・ 埋設土器1 ……………	232
図Ⅵ-29	R-2・3・4 (PIT11・24・18) ……………	233
図Ⅵ-30	R-5 ……………	234
図Ⅵ-31	「廃棄場」 ……………	236
図Ⅵ-32	「廃棄場」出土の土器 ……………	237
図Ⅵ-33	「廃棄場」出土の石器 ……………	238
図Ⅵ-34	SP-11・12 (PIT3・4) ……………	239
図Ⅵ-35	B地区包含層出土の土器 (1) ……………	240
図Ⅵ-36	B地区包含層出土の土器 (2) ……………	241
図Ⅵ-37	B地区包含層出土の石器 (1) ……………	243
図Ⅵ-38	B地区包含層出土の石器 (2) ……………	244
図Ⅵ-39	B地区包含層出土の石器 (3) ……………	245
図Ⅶ-1	2012年発掘区設定図・土層断面位置 ……………	254
図Ⅶ-2	調査区土層断面 (1) ……………	255
図Ⅶ-3	調査区土層断面 (2) ……………	256
図Ⅶ-4	2012年調査区遺構位置図 ……………	258

図VII-5	P-14・15・16 (PIT53・27・28)	260
図VII-6	P-17・18 (PIT47・29)	261
図VII-7	P-19・20・21・22 (PIT45・65・63・61)	262
図VII-8	P-23・24・27・28 (PIT30A・31・50・69)	263
図VII-9	P S-25・26 (配石1・3)	264
図VII-10	P S-27 (PIT64)	265
図VII-11	P S-28・29・30 (PIT70・68・67) S P-20・21 (柱穴)	266
図VII-12	S F-8・9 (PIT30B・35)	268
図VII-13	F-9~15 (PIT46・48ほか)	269
図VII-14	F-16~21 (PIT66ほか)	270
図VII-15	F-22~25 (焼土・木炭)	271
図VII-16	F-26・28~30 (PIT34・36・37・39)	272
図VII-17	F-31・33・35・38~40 (PIT40ほか)	273
図VII-18	F-41~44 (PIT55・45・56・52)	274
図VII-19	F-45~51 (PIT75ほか)	275
図VII-20	F-50~55 (PIT73ほか)	276
図VII-21	S-8~10 (集石・配石)	278
図VII-22	F C-4~10 (石器集中)	279
図VII-23	F C-18~20 (石器集中)・埋設土器2・ R-13 (ベンガラ集中)	280
図VII-24	R-6~12 (ベンガラ範囲)	281
図VII-25	P-25・26 (PIT42・43)	282
図VII-26	S P-14~17 (PIT41・44・62)	283
図VII-27	S P-18・19 (PIT57・49)・ F-32・34・36・37 (PIT40ほか)	284
図VII-28	包含層出土の土器(1)	287
図VII-29	包含層出土の土器(2)	288
図VII-30	包含層出土の土器(3)	289
図VII-31	包含層出土の土器(4)	290
図VII-32	包含層出土の土器(5)	291
図VII-33	包含層出土の土器(6)	292
図VII-34	包含層出土の土器(7)	293
図VII-35	包含層出土の石器(1)	297
図VII-36	包含層出土の石器(2)	298
図VII-37	包含層出土の石器(3)	299
図VII-38	包含層出土の石器(4)	300
図VII-39	包含層出土の石器(5)	301

図VII-40	包含層出土の石器(6)	302
図VII-41	包含層出土の石器(7)	303
図VII-42	包含層出土の石器(8)	304
図VII-43	包含層出土の石器(9)	305
図VII-44	包含層出土の石器(10)	306
図VII-45	包含層出土の石器(11)	307
図VII-46	包含層出土の石器(12)・骨角器	308
図VII-47	旧河道出土の材・木片	309

〔Ⅷ章-1〕

図1	黒曜石産地分布図(東日本)	321
図2	黒曜石産地推定判別図(1)	324
図3	黒曜石産地推定判別図(2)	324
図4	黒曜石産地推定判別図(3)	324

〔Ⅷ章-3〕

第1図	動物遺体の出土位置	333
第2図	遺跡全体の種構成	337
第3図	遺構別種構成(魚類・鳥獣類)	337
第4図	遺構別種構成(哺乳類)	337

〔Ⅷ章-8〕

図1-1	暦年校正結果	378
図1-2	暦年校正結果	379

〔Ⅷ章-9〕

図1	暦年校正結果(cal BC/AD)	385
図2	暦年校正年代グラフ(マルチプロット図、 cal BC/AD)	387

〔Ⅷ章-10〕

図1	カモイバツ遺跡No1・2・3・4の火山ガラス 屈折率	390
図2	カモイバツ遺跡No1・2・3・4の斜方輝石 屈折率	390

〔Ⅷ章-11〕

図1	赤色顔料X線粉末回折法分析結果	396
----	-----------------	-----

図IX-1	オホーツク文化期(剣文期)の竪穴	399
図IX-2	カモイバツ遺跡周辺のアイヌ文化期の 遺跡とコタン	400
図IX-3	主な出土土器	402
図IX-4	時期別石器一覧	403
図IX-5	オンネベツ川西側台地遺跡出土の鉄製品 (鉄網・鉄斧・鉄鎌)	405

表目次

表I-1	遺構名対照表	5
表I-2	遺構数一覧	7
表I-3	遺物点数一覧	7

表II-1	調査年別土層対比表	15
表II-2	周辺の遺跡	20

表III-1	2018年調査遺構一覧	88
--------	-------------	----

表Ⅲ-2	2018年調査遺物集計	89
表Ⅲ-3	2018年調査掲載土器一覧(1)	90
表Ⅲ-4	2018年調査掲載土器一覧(2)	91
表Ⅲ-5	2018年調査掲載石器一覧(1)	92
表Ⅲ-6	2018年調査掲載石器一覧(2)	93
表Ⅲ-7	2018年調査掲載金属製品一覧	94
表Ⅲ-8	2018年調査掲載骨角器等一覧	95
表Ⅲ-9	フローテーション結果	95
表Ⅲ-10	動物遺存体ほか水洗選別結果	96
表Ⅳ-1	2008年調査遺構一覧	174
表Ⅳ-2	2008年調査遺物集計(1)	175
表Ⅳ-3	2008年調査遺物集計(2)	176
表Ⅳ-4	2008年調査掲載土器一覧(1)	177
表Ⅳ-5	2008年調査掲載土器一覧(2)	178
表Ⅳ-6	2008年調査掲載土器一覧(3)	179
表Ⅳ-7	2008年調査掲載土器一覧(4)	180
表Ⅳ-8	2008年調査掲載土器一覧(5)	181
表Ⅳ-9	2008年調査掲載土器一覧(6)	182
表Ⅳ-10	2008年調査掲載石器一覧(1)	182
表Ⅳ-11	2008年調査掲載石器一覧(2)	183
表Ⅳ-12	2008年調査掲載石器一覧(3)	184
表Ⅴ-1	2009年調査遺構一覧	197
表Ⅴ-2	2009年調査遺物集計	197
表Ⅴ-3	2009年調査掲載土器一覧	197
表Ⅴ-4	2009年調査掲載石器一覧	198
表Ⅵ-1	2011年調査遺構一覧	246
表Ⅵ-2	2011年調査遺物集計	247
表Ⅵ-3	2011年調査掲載土器一覧(1)	248
表Ⅵ-4	2011年調査掲載土器一覧(2)	249
表Ⅵ-5	2011年調査掲載石器等一覧(1)	250
表Ⅵ-6	2011年調査掲載石器等一覧(2)	251
表Ⅵ-7	2011年調査掲載石器等一覧(3)	252
表Ⅵ-8	2011年調査掲載ガラス製品一覧	252
表Ⅶ-1	2012年調査遺構一覧(1)	310
表Ⅶ-2	2012年調査遺構一覧(2)	311
表Ⅶ-3	2012年調査遺物集計	312
表Ⅶ-4	2012年調査掲載土器一覧(1)	313
表Ⅶ-5	2012年調査掲載土器一覧(2)	314
表Ⅶ-6	2012年調査掲載土器一覧(3)	315
表Ⅶ-7	2012年調査掲載土器一覧(4)	316
表Ⅶ-8	2012年調査掲載石器一覧(1)	317
表Ⅶ-9	2012年調査掲載石器一覧(2)	318
表Ⅶ-10	2012年調査掲載石器一覧(3)	319
表Ⅶ-11	2012年調査掲載石器一覧(4)	320
表Ⅶ-12	2012年調査掲載骨角器一覧	320

〔Ⅷ章-1〕		
表1	分析対象	321
表2	東日本黒曜石産地の判別群	322
表3	測定値および産地推定結果	323
表4	時期および器種別の産地	323
〔Ⅷ章-2〕		
表1	半定量分析値	325
表2	破面の成分比率	326
〔Ⅷ章-3〕		
表1	種名一覧(魚類・哺乳類)	333
表2	出土内容(魚類)	333
表3	出土内容(哺乳類)	334
表4	遺構別集計	336
〔Ⅷ章-4〕		
表1	カモイベツ遺跡から出土した鳥類遺体の一覧	344
表2	カモイベツ遺跡の各遺構から出土した鳥類遺体	344
〔Ⅷ章-5〕		
表1	出土動物一覧	351
表2	軟体動物門(腹足綱・斧足綱)・節足動物門・棘皮動物門	352
表3	魚綱	354
表4	マダラとみられるタラ科の耳石と推定体長	357
表5	魚綱	358
表6	哺乳綱	359
〔Ⅷ章-6〕		
表1	カモイベツ遺跡の樹種同定結果	362
〔Ⅷ章-7〕		
表1	炭化種実同定結果	366
表2	炭化鱗茎の計測値	367
〔Ⅷ章-8〕		
表1	測定試料及び処理	376
表2	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	377
〔Ⅷ章-9〕		
表1	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	383
表2	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年校正用 ^{13}C 年代、校正年 cal BC/AD)	383
〔Ⅷ章-10〕		
表	火山灰同定試料一覧	388
表1	カモイベツ遺跡テフラの粒子粗製分析結果	389
〔Ⅷ章-11〕		
表1	カモイベツ遺跡赤色顔料(ベンガラ)出土遺構	394
表2	赤色顔料X線回折法分析試料	395
表Ⅸ-1	刻文期竪穴調査遺跡	399

写真図版目次

●口絵

口絵 1 2017・2018年

- 1 遺跡全景
- 2 調査状況（オホーツク文化期）

口絵 2 2018年

- 1 焼土と周辺の遺物（F-61付近・統縄文時代）
- 2 貝・骨ブロック（SB-4・アイヌ文化期）

口絵 3 2008～2012年 斜里町教育委員会調査

- 1 堅穴住居跡群（オホーツク文化期）
- 2 土坑墓（GP-3・統縄文時代）
- 3 土坑墓上層の人骨（GP-4・統縄文時代）
- 4 石組炉（SF-7・統縄文時代）
- 5 集石土坑（PS-26・統縄文時代）

口絵 4

- 1 土器（縄文・統縄文・オホーツク式）
- 2 土坑墓出土のガラス玉（GP-4）
- 3 骨角器（アイヌ文化期）
- 4 金属製品（アイヌ文化期）

●Ⅷ章 自然科学的分析・鑑定

〔Ⅷ章-2〕

図 1 ガラス玉資料

〔Ⅷ章-3〕

図版 1 魚類

図版 2 哺乳類（陸獣）

図版 3 哺乳類（海獣）

〔Ⅷ章-4〕

図版 1 カモイベツ遺跡出土の鳥類遺体

〔Ⅷ章-6〕

図版 1 カモイベツ遺跡の炭化木片（1）

図版 2 カモイベツ遺跡の炭化木片（2）

〔Ⅷ章-7〕

図版 1 炭化種実

図版 2 炭化鱗茎

〔Ⅷ章-11〕

図版 1 赤色顔料X線回折法分析試料

●図版

〔カラー写真〕

図版 1 調査状況と基本土層

- 1 調査状況（2018年・調査区中央部）
- 2 基本土層（2018年・I105区）
- 3 調査部北壁土層（2018年・J82区）
- 4 礫浜と土層（2018年・J53区付近）
- 5 調査部北壁（2018年・J35区）
- 6 アイヌ文化期調査状況（2018年・調査区東部）

図版 2 調査状況と基本土層

- 1 調査状況（2008年・調査区中央部 西から）

- 2 調査区土層（2008年・中央東部）
- 3 調査状況（2009年・調査区中央部 東から）
- 4 調査区土層（2009年・a147区）
- 5 調査状況（2011年A・K152区 北西から）
- 6 礫層検出（2011年A・南部）

図版 3 調査状況と基本土層

- 1 基本土層（2011年B・D140区 西から）
- 2 調査状況（2011年B・IX層 北西から）
- 3 調査状況（2012年・Ⅷ層下 東から）
- 4 湿地部土層（2012年・E108区 西から）
- 5 砂丘部土層（2012年・E91区 南から）

図版 4 住居跡炉ほか

- 1 H-1（2号址）石組炉（南から）
- 2 H-8（6号址）炉・貼床（南から）
- 3 H-12（8号址）集石（北から）
- 4 H-17（51号址）石組炉（南から）
- 5 H-19HF-1土層断面（南から）
- 6 H-19HF-2土層断面（南から）
- 7 H-21HF-1土層断面（西から）
- 8 H-22HF-1土層断面（西から）

図版 5 石組炉

- 1 SF-1（13号址）検出（南から）
- 2 SF-2（10号址）検出（南東から）
- 3 SF-4（31a号址）検出（東から）
- 4 SF-5（石組炉）検出（東から）
- 5 SF-6（PIT16）検出（北から）
- 6 SF-7（PIT12）火床面検出（南から）
- 7 SF-8（PIT30B）検出（南西から）
- 8 SF-9（PIT35）検出（北から）

図版 6 焼土

- 1 F-1（22号址）検出（南から）
- 2 F-4（PIT1）検出（北から）
- 3 F-7（PIT22）焼砂検出（北から）
- 4 F-21（PIT66）検出（東から）
- 5 F-26（PIT34）検出（東から）
- 6 F-29（PIT39）検出（東から）
- 7 F-33（焼土1）検出（北東から）
- 8 F-39（焼土6）土層断面（南西から）

図版 7 焼土

- 1 F-42（PIT45）検出（西から）
- 2 F-45（焼砂）検出（北から）
- 3 F-55（PIT73）土層断面（西から）
- 4 F-60土層断面（北西から）
- 5 F-61土層断面（西から）
- 6 F-62・63土層断面（北西から）
- 7 F-64～66検出・土層断面（西から）
- 8 F-67～70検出・土層断面（北から）

図版 8 ベンガラ関連

- 1 R-1（29号址）検出（南から）

- 2 R-2 (PIT11) ベンガラ土層断面 (南から)
- 3 ベンガラ層検出 (E 122区 東から)
- 4 R-10 (ベンガラ範囲) ほか検出 (北から)
- 5 ベンガラ関連遺物 (2008・2011・2012年)

[モノクロ写真]

●現地調査状況

図版 9 2017・2018年

- 1 遺跡遠景 (上空西から)
- 2 H-19付近調査状況 (東から)
- 3 統縄文時代遺物出土状況 (西から)

図版 10 2018年

- 1 H-22検出・遺物出土状況 (北から)
- 2 H-22土器出土状況 (南から)
- 3 H-22HF-1 検出 (北から)
- 4 H-22HP-6 メノウ埋設
- 5 H-22完掘 (北西から)

図版 11 2018年

- 1 P-29土層断面 (南西から)
- 2 P-29遺物出土状況 (南から)
- 3 SP-22~25完掘 (北西から)
- 4 SP-28礎出土状況
- 5 F-56検出・土層断面 (西から)
- 6 F-57検出・土層断面 (北から)
- 7 F-58検出・土層断面 (北から)
- 8 F-59検出・土層断面 (北から)

図版 12 2018年

- 1 F-62・63検出 (西から)
- 2 F-64~66検出 (北西から)
- 3 F-67~70検出 (北東から)
- 4 F-67土層断面 (北から)
- 5 F-71土層断面 (北から)

図版 13 2018年

- 1 FC-12検出 (北西から)
- 2 FC-14検出 (北西から)
- 3 FC-15検出 (南から)
- 4 FC-16検出 (北西から)
- 5 石核出土状況 (北東から)
- 6 土器出土状況 (後北C₁式 北西から)
- 7 土器出土状況 (後北C₂・D式 北東から)
- 8 小型注口土器出土状況 (東から)

図版 14 2018年

- 1 H-19覆土遺物出土状況
- 2 H-19東西土層断面 (南西から)
- 3 H-19南北土層断面 (東から)
- 4 H-19HF-1 完掘 (南東から)
- 5 H-19・20完掘 (南東から)

図版 15 2018年

- 1 H-20南北土層断面 (東から)
- 2 H-20床面検出 (南東から)
- 3 H-21検出 (北東から)
- 4 H-21土層断面 (北東から)

- 5 H-21完掘 (北から)

図版 16 2018年

- 1 PS-31検出 1 (南西から)
- 2 PS-31検出 2 (南東から)
- 3 PS-31検出 3 (南西から)
- 4 PS-31土層断面 (南東から)
- 5 PS-31炭化材出土状況 (南東から)
- 6 S-11検出 (南東から)
- 7 S-12検出 (南から)
- 8 FC-11検出 (北東から)

図版 17 2018年

- 1 貝・骨ブロック調査状況 (西から)
- 2 SB-1 検出 (南東から)
- 3 SB-2 検出 (南西から)
- 4 SB-3 検出 (南東から)
- 5 SB-3 骨角器出土状況
- 6 SB-3 下位灰層検出 (南東から)
- 7 SB-3 下位灰層断面 (東から)

図版 18 2018年

- 1 SB-4 検出 (西から)
- 2 SB-4 海獣頭骸骨出土状況
- 3 SB-4 灰層断面 (西から)
- 4 SB-4 シカ顎骨出土状況
- 5 SB-5 検出 (北東から)
- 6 SB-5 樹皮出土状況
- 7 SB-5 土層断面 (南西から)
- 8 SB-5 鹿角加工品出土状況

図版 19 2018年

- 1 SB-6 検出 (南東から)
- 2 SB-6 灰層断面 (北から)
- 3 SB-8 検出 (南東から)
- 4 SB-8 灰層断面 (南から)
- 5 SB-9 検出 (北東から)
- 6 SB-9 灰層骸骨出土状況 (南西から)
- 7 SB-10検出 (北から)
- 8 SB-10土層断面 (北から)

図版 20 2018年

- 1 SP-32~34検出 (南西から)
- 2 SP-32土層断面 (南から)
- 3 S-13検出 (北西から)
- 4 S-14検出 (南西から)
- 5 II層鉄斧出土状況 (西から)
- 6 II層鎌出土状況 (北から)
- 7 貝・骨等水洗乾燥作業
- 8 水洗後の魚骨等

図版 21 2008年

- 1 調査状況 (東から)
- 2 H-17 (51号址) 検出 (北から)
- 3 H-16 (25号址) 検出 (北から)
- 4 同 倒立土器出土状況
- 5 H-18 (24号址) 完掘 (北から)
- 6 柱穴列H-2 (3号址) 検出

図版22 2008年

- 1 G P - 2 (38号址) 検出 (北から)
- 2 G P - 3 (44号址) 検出 (南から)
- 3 G P - 3 (44号址) 遺体層 (南から)
- 4 G P - 3 (44号址) 坑底 (北から)
- 5 P - 4 (26号址) 完掘 (北から)
- 6 P - 5 (28号址) 検出 (北から)
- 7 P - 6 (47号址) 検出 (東から)
- 8 P - 7 (43号址) 検出 (北から)

図版23 2008年

- 1 P S - 5 上位 (37 a 号址) 検出 (北から)
- 2 P S - 5 下位 (37 b 号址) 検出 (北から)
- 3 P S - 7 (23号址) 検出 (南東から)
- 4 P S - 8 (40号址) 検出 (南東から)
- 5 P S - 9 (48号址) 検出 (南東から)
- 6 P S - 10 (49号址) 検出 (南東から)
- 7 P S - 11 (46号址) 検出 (南から)
- 8 P S - 12 (50号址) 検出 (北から)

図版24 2008年

- 1 P S - 13 (45号址) 断面 (南から)
- 2 P S - 14 (31 b 号址) 検出 (北から)
- 3 P S - 15 (35号址) 検出 (北から)
- 4 P S - 17 (53号址) 断面 (南から)
- 5 P S - 18 (54号址) 断面 (南から)
- 6 P S - 20 (33号址) 検出 (北から)
- 7 P S - 21 (42号址) 検出 (南から)
- 8 S - 1 (52号址) 検出 (南から)

図版25 2008年

- 1 H - 1 (2号址) 検出 (北から)
- 2 H - 3 (4号址) 検出 (南から)
- 3 H - 5 (20号址) 検出 (北東から)
- 4 H - 6 (19号址) 検出 (南から)

図版26 2008年

- 1 H - 7 (5号址) 検出 (西から)
- 2 H - 8 (6号址) 検出 (南から)
- 3 H - 9・10 (15 a・b 号址) 検出 (南から)
- 4 同 遺物出土状況 (東から)

図版27 2008年

- 1 H - 12 (8号址) 検出 (北西から)
- 2 同 集石下位 (西から)
- 3 H - 13 (7号址) 検出 (西から)
- 4 同 土坑下位 (北から)
- 5 H - 14 (9号址) 検出 (北から)
- 6 同 土坑 (南から)

図版28 2008年

- 1 G P - 1 (1号址) 土器出土状況 (南から)
- 2 G P - 1 (1号址) 完掘 (北から)
- 3 P S - 1 (32号址) 検出 (南から)
- 4 P S - 2 (17号址) 検出 (南西から)
- 5 P S - 3 (14号址) 検出 (南東から)
- 6 P S - 4 (18号址) 検出 (西から)
- 7 調査区西部手掘式土器出土状況

8 調査区西部礫層検出 (西から)

図版29 2009・2011年A地区

- 1 調査状況 (北から)
- 2 S F - 5 (石組炉) 検出 (東から)
- 3 F - 5 (PIT 2) 検出 (北から)
- 4 北筒式土器出土状況 (南から)
- 5 南端部調査状況 (北西から)
- 6 S P - 1 (PIT11) 土層断面
- 7 P - 8 (PIT14) 検出 (南から)
- 8 F C - 1 泥岩片集中 (西から)

図版30 2011年B地区

- 1 調査状況 (「廃棄場」PIT1 付近 西から)
- 2 「廃棄場」土層断面 (PIT1 付近)
- 3 G P - 4 (1号墓坑) 蓋石出土状況
- 4 同 土層断面 (北から)
- 5 同 土層断面 (南から)
- 6 同 下位人骨出土状況 (南東から)
- 7 同 下層人骨頸骨出土状況 (南から)
- 8 同 完掘 (南東から)

図版31 2011年B地区

- 1 P - 9 (13号址) 完掘 (北から)
- 2 P - 10 (2号址) 完掘 (西から)
- 3 P - 11 (5号址) 完掘 (南から)
- 4 P - 12 (25号址) 完掘 (南から)
- 5 P - 13 (8号址) 完掘 (北から)
- 6 P S - 22 (7号址) 検出 (南東から)
- 7 P S - 23 (17号址) 検出 (西から)
- 8 P S - 24 (15号址) 検出 (東から)

図版32 2011年B地区

- 1 P - 30 (PIT21) 検出 (南から)
- 2 S - 5 (PIT14) 検出 (北から)
- 3 S - 6 (集石1) 検出 (西から)
- 4 S - 7 (PIT6) 検出 (北東から)
- 5 「廃棄場」(PIT1) 石製品出土状況
- 6 樹皮出土状況 (F124区 西から)
- 7 S P - 11 (PIT3) 完掘 (東から)
- 8 S P - 12 (PIT4) 土層断面 (東から)

図版33 2012年

- 1 調査状況 (東から)
- 2 調査状況 (西から)
- 3 P - 14 (PIT53) 完掘 (北から)
- 4 P - 15 (PIT27) 完掘 (東から)
- 5 P - 16 (PIT28) 完掘 (北から)
- 6 同 土器出土状況 (北から)
- 7 P - 17 (PIT47) 完掘 (北から)
- 8 P - 18 (PIT29) 遺物出土状況 (西から)

図版34 2012年

- 1 P - 19 (PIT45) 完掘 (東から)
- 2 P - 20 (PIT65) 土層断面 (北から)
- 3 P - 21 (PIT63) 完掘 (北から)
- 4 P - 22 (PIT61) 完掘 (北から)
- 5 P - 23 (PIT30A) 完掘 (南から)

- 6 P-24 (PIT31) 完掘 (南から)
- 7 P-27 (PIT50) 遺物出土状況 (南東から)
- 8 P-28 (PIT69) 完掘 (東から)

図版35 2012年

- 1 P S-25 (配石1) 検出 (北から)
- 2 P S-26 (配石3) 検出 (南から)
- 3 P S-27 (PIT64) 土層断面 (北から)
- 4 P S-28 (PIT70) 検出 (南から)
- 5 P S-29・30 (PIT68・67) 土層断面 (北から)
- 6 F-14 (焼土2) 検出 (北から)
- 7 F-16 (焼土1) 検出 (北から)
- 8 F-17 (焼土2) 検出 (北から)

図版36 2012年

- 1 F-20 (焼土3) 検出 (東から)
- 2 F-22 (焼土木炭範囲2) 検出 (北から)
- 3 F-23 (焼土木炭範囲1) 検出 (西から)
- 4 F-24 (骨・木炭範囲2) 検出 (北から)
- 5 F-35 (焼土4) 検出 (南東から)
- 6 F-40 (PIT54) 検出 (南から)
- 7 F-41 (PIT55) 検出 (南から)
- 8 F-43 (PIT56) 検出 (東から)

図版37 2012年

- 1 F-44 (PIT52) 検出 (南東から)
- 2 F-46 (PIT60) 検出 (東から)
- 3 F-47 (PIT59) 検出 (北から)
- 4 F-50 (PIT75) 検出 (南から)
- 5 S-8 (集石) 検出 (北東から)
- 6 S-9 (配石2) 検出 (北から)
- 7 S-10 (鯨骨・集石) 検出 (西から)

図版38 2012年

- 1 F C-5 (石器集中) 検出 (南から)
- 2 F C-6 (石器集中) 検出 (南から)
- 3 F C-8 (石器集中) 検出 (東から)
- 4 F C-9 (石器集中) 検出 (西から)
- 5 埋設土器2 (埋設土器) 検出 (西から)
- 6 土器出土状況 (宇津内Ⅱb式 南から)
- 7 シカ歯列出土状況 (F111区 南東から)
- 8 鯨骨・樹皮出土状況 (F91区 北から)

図版39 2012年

- 1 P-25 (PIT42) 礫出土状況 (北から)
- 2 P-26 (PIT43) 木炭検出 (東から)
- 3 S P-14 (PIT41) 土層断面
- 4 S P-16 (PIT62) 土層断面
- 5 S P-15 (PIT44) 柱材・土層断面 (北から)
- 6 S P-17 (柱穴) 検出 (北から)
- 7 S P-18 (PIT57) 土層断面 (東から)

図版40 2012年ほか

- 1 S P-19 (PIT49) 完掘 (北から)
- 2 F-34 (PIT40) 土層断面 (南から)
- 3 低地部調査状況 (南から)
- 4 低地部材出土状況 (南から)
- 5 殖民軌道のレール (2018年)

- 6 完掘 (2011年 西から)

●出土遺物

図版41 2018年

- 1 H-22出土の遺物
- 2 F-60出土の遺物
- 3 F-67・70出土の遺物
- 4 F C-14・15出土の遺物
- 5 H-19・20出土の遺物

図版42 2018年

- 1 H-21出土の遺物
- 2 P S-31出土の遺物
- 3 S-11出土の遺物
- 4 S-11・12、F C-11出土の遺物
- 5 S B-3出土の遺物

図版43 2018年

- 1 S B-4 出土の遺物
- 2 S B-5 出土の遺物
- 3 S B-6・8・9 出土の遺物
- 4 S B-10 出土の遺物

図版44 2018年

- 1 包含層出土の土器 (1)

図版45 2018年

- 1 包含層出土の土器 (2)

図版46 2018年

- 1 包含層出土の土器 (3)
- 2 包含層出土の石器 (1)

図版47 2018年

- 1 包含層出土の石器 (2)

図版48 2018年

- 1 包含層出土の骨角器等
- 2 包含層出土の鉄製品 (1)

図版49 2018年

- 1 包含層出土の鉄製品 (2)

図版50 2008年

- 1 H-15 (37c号址) 出土の遺物
- 2 H-17 (51号址) 出土の遺物
- 3 H-16 (25号址) 出土の遺物
- 4 H-18 (24号址) 出土の遺物
- 5 G P-2 (38号址) 出土の遺物

図版51 2008年

- 1 G P-3 (44号址) 出土の遺物
- 2 P-3・4 (27・26号址) 出土の遺物
- 3 P-5 (28号址) 出土の遺物
- 4 P S-5・7・10・11・12 出土の遺物

図版52 2008年

- 1 P S-14 (31b号址) 出土の遺物
- 2 P S-15・16・19、R-1 出土の遺物
- 3 H-1 (2号址) 出土の遺物
- 4 H-5 (19号址) 出土の遺物
- 5 H-3 (4号址) 出土の遺物
- 6 H-6 (20号址) 出土の遺物

- 図版53 2008年
1 H-7 (5号址) 出土の遺物
- 図版54 2008年
1 H-8 (6号址) 出土の遺物
- 図版55 2008年
1 H-9・10 (15a・b号址) 出土の遺物 (1)
- 図版56 2008年
1 H-9・10 (15a・b号址) 出土の遺物 (2)
2 H-11 (21号址) 出土の遺物
3 H-12 (8号址) 出土の遺物
- 図版57 2008年
1 H-13 (7号址) 出土の遺物
2 H-14 (9号址) 出土の遺物
3 GP-1、PS-2、SF-1、F-1~3
出土の遺物
- 図版58 2008年
1 包含層出土の土器 (1)
- 図版59 2008年
1 包含層出土の土器 (2)
- 図版60 2008年
1 包含層出土の土器 (3)
2 包含層出土の石器
- 図版61 2009年
1 包含層出土の土器
2 包含層出土の石器 (1)
- 図版62 2009年・2011年A地区
1 包含層出土の石器 (2)
2 SP-7 (PIT18) 出土の遺物
3 SP-9 (PIT21) 出土の遺物
4 A地区包含層出土の土器
- 図版63 2011年A地区
1 A地区包含層出土の石器
- 図版64 2011年B地区
1 P-10・13・30、PS-22~24出土の遺物
- 図版65 2011年B地区
1 SF-6・7、F-7、S-2~5 出土の遺物
- 図版66 2011年B地区
1 S-7、埋設土器、R-4・5 出土の遺物
2 「廃棄場」出土の遺物 (1)
- 図版67 2011年B地区
1 「廃棄場」出土の遺物 (2)
- 図版68 2011年B地区
1 B地区包含層出土の土器
- 図版69 2011年B地区
1 B地区包含層出土の石器
- 図版70 2012年
1 P-14・16・18・21・23、PS-27・28
出土の遺物
- 図版71 2012年
1 SF-8・9、F-26・29・41・43・44・
50・51・53・54・55、FC-5、P-26、
埋設土器、SP-18・19出土の遺物
- 図版72 2012年
1 包含層出土の土器 (1)
- 図版73 2012年
1 包含層出土の土器 (2)
- 図版74 2012年
1 包含層出土の土器 (3)
- 図版75 2012年
1 包含層出土の土器 (4)
- 図版76 2012年
1 包含層出土の石器 (1)
- 図版77 2012年
1 包含層出土の石器 (2)
- 図版78 2012年
1 包含層出土の石器 (3)
- 図版79 2012年
1 包含層出土の石器 (4)・骨角器
- 図版80 2012年ほか
1 SP-15 (PIT44) 出土の木柱
2 旧河道出土の加工痕ある材
3 2008年H-12 (8号址) 出土の繊維
4 各年度出土の樹皮
5 2011年A地区出土のキセル

I章 緒言

1 調査要項

[平成29・30年度、令和元年度]

事業名：一般国道334号斜里町峰浜中央帯設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成29年度）
 一般国道334号斜里町日の出事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
 （平成30年度・令和元年度）

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

受託者：公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

所在地：斜里郡斜里町峰浜311, 312

調査面積：1,695㎡

調査期間：平成29年10月1日～令和2年3月23日

（現地調査：平成29年11月4日～11月13日・平成30年5月15日～10月18日）

[平成20・21・23・24年度]

事業名：一般国道334号斜里町峰浜道路工事（交通安全対策事業）に伴う埋蔵文化財発掘調査
 （平成20・21年度）
 一般国道334号斜里町峰浜道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（平成23・24年度）

委託者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

受託者：斜里町教育委員会

所在地：斜里郡斜里町峰浜国道敷地内

調査面積：7,282㎡（平成20年度2,200㎡、平成21年度2,560㎡、平成23年度1,170㎡、
 平成24年度1,352㎡）

調査期間：平成20年7月1日～平成21年3月31日、平成21年8月1日～平成22年3月31日、
 平成23年9月1日～平成24年3月30日、平成24年6月1日～平成25年3月29日

（現地調査：平成20年7月1日～10月31日、平成21年8月1日～9月30日、
 平成23年9月1日～11月5日、平成24年6月1日～8月31日）

2 調査体制

[平成29・30年度]（公財）北海道埋蔵文化財センター

理事長 越田 賢一郎（～令和元年6月21日）

副理事長 中田 仁（～令和元年6月21日）

専務理事 山田 寿雄（事務局長兼務）

常務理事 長沼 孝（～令和元年6月21日、第1調査部長兼務、平成29年度調査担当者）

第2調査部長 鈴木 信（～令和元年6月21日、平成29年度調査担当者）

○平成30年度

第2調査課 課長 笠原 興（発掘担当者）

主査 阿部 明義（発掘担当者）

主査 直江 康雄（発掘担当者）

〔令和元年度〕(公財)北海道埋蔵文化財センター

理事長	長沼 孝 (令和元年6月21日～)
専務理事	山田 寿雄 (事務局長兼務)
常務理事	鈴木 信 (令和元年6月21日～、第1調査部長兼務)
第2調査部長	村田 大 (令和元年10月1日～)
第2調査課	課長 笠原 興
	主査 影浦 覚
	主査 阿部 明義
	主査 山中 文雄
第1調査部第1調査課	課長 中山 昭大
	主任 三浦 正人
	主任 田口 尚

〔平成20・21・23・24年度〕斜里町教育委員会

調査主体者	教育長	川名 賢洋 (～平成20年9月30日)
		金田 清見 (平成20年10月1日～平成23年10月1日)
		村田 良介 (平成23年10月2日～)
事務局	知床博物館	館長 石下 孝行 (平成23年度担当)
		山中 正実 (平成24年度担当)
	総務課長	中川 元 (平成20・21年度担当)
	臨時職員	高橋 葵 (平成20・21・24年度)
		溝端 ゆりか (平成21年度)
		佐藤 トモ子 (平成23・24年度)

○平成20年度

担当者	知床博物館	学芸係長	松田 功
		文化財サポート有限会社	豊原 熙司
調査員		文化財サポート有限会社	豊原 熙司
			坂井 通子
整理補助員		文化財サポート有限会社	宮夫 靖夫
			因幡 勝雄

○平成21年度

担当者	知床博物館	学芸係長	松田 功
調査員	斜里町埋蔵文化財センター	臨時職員	村本 周三
調査補助員	斜里町埋蔵文化財センター	臨時職員	門間 勇
		臨時職員	原 靖寿

○平成23・24年度

担当者	知床博物館	学芸主幹	松田 功
調査員	斜里町埋蔵文化財センター	臨時職員	村本 周三
		臨時職員	田代 雄介

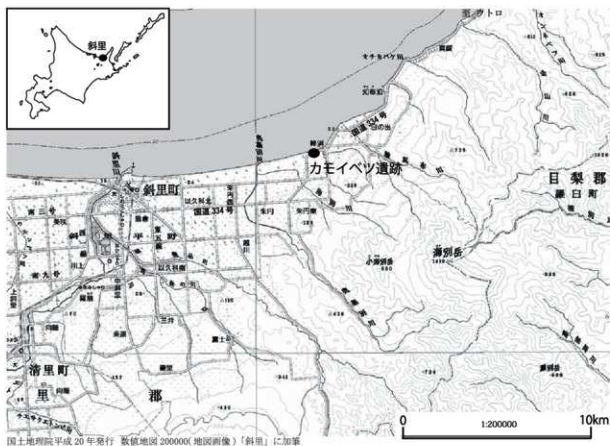


図 I-1 カモイベツ遺跡の位置

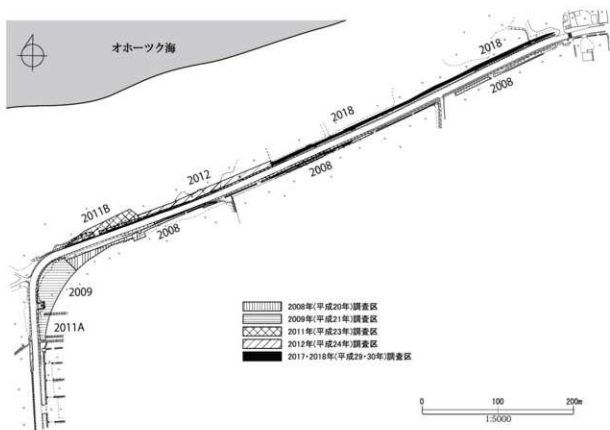


図 I-2 年度別調査範囲

3 調査に至る経緯

北海道開発局網走開発建設部は、知床半島に通じる一般国道334号線の整備・改良、交通安全対策事業の一環として、「一般国道334号斜里町峰浜道路改良工事」を計画した。これに伴い、網走開発建設部長から北海道教育委員会教育長あてに埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。協議を受けた北海道教育委員会（以下、道教委）は昭和63年（1988年）6月に路線内の埋蔵文化財包蔵地の所在確認調査を実施した。その結果、「カモイベツ遺跡」（登録番号I-08-30）（当該地）について試掘調査が必要との回答がなされた。その後、当該区域の工事が具体的となった平成11年（1999年）8月に道教委による範囲確認調査（試掘調査）が実施された。その結果、オホーツク文化期の住居跡と考えられる遺構や遺物が確認されたことから、事前協議に対して工事計画の変更が困難な場合は発掘調査を行い記録保存が必要である、との回答がなされた。それを受けて網走開発建設部は、道教委と用地内に係る埋蔵文化財包蔵地の保護に関する協議を行った結果、工事計画の変更は困難と判断され、網走開発建設部から斜里町教育委員会（以下、斜里町教委）に発掘調査の業務依頼があった。平成20年（2008年）から斜里町立知床博物館を調査主体として委託契約が結ばれ、発掘調査が実施されることになった。

発掘調査は平成20年から着手され、21年、23年、24年の4次にわたって行われた。調査総面積は7,282㎡である。平成20年度は国道南東側の延長約700mの狭小な範囲（図I-2）で、重機の進入や土砂の仮置き場、道路路面の養生などについて十分な配慮を行った。調査を進めると、堅穴住居跡群など予想を大幅に超える遺構が検出されたことから、調査範囲が一部拡張された（IV章1、斜里町教委2009）。平成21年度は国道南側の急カーブ緩和のための工用地（図I-2）を対象とした（V章1、斜里町教委2010）。平成23年度は21年度の続きのA地区と国道北西側のB地区（図I-2）の両地区の調査を行った。B地区では、攪乱や土層の堆積状況などから最終掘削面を2段階に設定している（VI章4、斜里町教委2012）。平成24年度は23年度B地区の東側延長部分（図I-2）の調査を行った。中央部に旧河道が確認され、その東西で土層や遺構・遺物の出土状況が異なるものの、続縄文時代～オホーツク文化期の各時期の遺構・遺物を層的に検出した（VII章1、斜里町教委2013）。各年度の調査状況について、発掘調査概要報告書が刊行されている（斜里町教委2009・2010・2012・2013）。

平成24年の調査後も国道334号線の交通安全対策整備事業は継続され、「峰浜中央帯整備事業」の区間について、平成29年度は発掘調査に先駆けた予備的な調査を実施した（III章1）。発掘調査は、道教委、網走開発建設部、斜里町教委を交えた協議の結果、当センターが行うこととなった。

平成30年（2018年）の調査区は、現在の国道334号線の北側に位置し（III章1）、平成24年度の東側延長部分にあたる。「峰浜中央帯整備事業」の残事業区間、幅約4m、延長460mの範囲で、林野庁の旧所有地である。この調査区と接する北側（オホーツク海側）は、網走南部森林管理署管轄の潮害防備保安林および保険保安林となっており、この林野庁用地内の樹木の保護も視野に入れての調査となった。特に重機が稼働する表土除去や残土処理時には、樹木に損壊を与えぬように注意を払う必要があった。また、調査区の南側は国道334号線の路肩となっており、電柱や道路標識などの構築物や埋設物があり、これらの周囲は崩落の危険性があるため掘削せずにクリアランスを確保して調査を行った。（笠原 興）

4 遺構・遺物の分類・名称

(1) 遺構

過年度は、遺構検出順に連続番号を付した。

【2008年】「1号址」～「55号址」

【2009年～2011年A地区】「PIT1」～「PIT23」、石組炉、泥岩集中など

【2011年B地区～2012年】「PIT1」～「PIT75」、石器集中、埋設土器、ベンガラ範囲など

これらを以下(2018年)の記号を用い変換した(表I-1)。2018年はこれに続く番号を付した。

【2018年】例：住居跡はH-19～

H：住居跡・建物跡 BH：柱穴列 GP：土坑墓 P：土坑 PS：集石を伴う土坑

SP：柱穴状(小)土坑 SF：石組炉 F：焼土 S：集石 FC：フレイクチップ集中

(石器集中) R：ベンガラ製作址・ベンガラ集中 SB：貝・骨ブロック

表I-1 遺構名対照表(旧→新)

旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)	旧遺構名(新遺構名)
2008年	2009年	2009年	2011年B地区	2012年	2012年	2012年	2012年
1号址 GP-1	29号址 R-1	屋外炉 SF-5	PIT13 P-9	PIT35 SF-9	PIT64 PS-27	F119焼土1	F-19
2号址 H-1	30号址 PS-19	PIT1 F-4	PIT14 S-5	PIT36 F-30	PIT65 P-20	F119焼土2	F-17
3号址 H-2	31号址 SF-4	PIT2 P-6	PIT15 PS-24	PIT37 F-28	PIT66 F-21	F119埋設中	FC-4
4号址 H-3	31b号址 PS-14	2011年A地区	PIT16 SF-6	PIT38 (C)	PIT67 PS-30	F117ノコギリ	FC-7
5号址 H-7	32号址 PS-1	PIT11 SP-1	PIT17 PS-23	PIT39 F-29	PIT68 PS-29	F118土器	F-23
6号址 H-8	33号址 PS-20	PIT12 SP-2	PIT18 R-4	PIT40 F-34	PIT69 P-28	F116焼土	F-22
7号址 H-13	34号址 P-2	PIT13 SP-3	PIT19 (C)	PIT41 SP-14	PIT70 PS-28	F117石組集中	FC-7
8号址 H-12	35号址 PS-15	PIT14 P-8	PIT20 S-4	PIT42 P-25	PIT71 F-49	F117土器	F-25
9号址 H-14	36号址 PS-16	PIT15 SP-4	PIT21 P-30	PIT43 P-26	PIT72 F-53	F117瓦葺	FC-24
10号址 SF-2	37号址 PS-5	PIT16 SP-5	PIT22 P-7	PIT44 SP-15	PIT73 F-55	F111埋設中	埋設土器
11号址 F-2	37b号址 PS-5	PIT17 SP-6	PIT23 P-6	PIT45 F-42	PIT74 (C)	F109焼土1	F-31
12号址 F-3	37c号址 H-15	PIT18 SP-7	PIT24 R-3	PIT45a P-19	PIT75 F-50	E99焼土1	F-32
13号址 SF-1	38号址 GP-2	PIT30 SP-8	PIT25 P-12	PIT46 F-11	PIT76 (C)	F96a・b・c	S-10
14号址 PS-3	39号址 PS-6	PIT21 SP-9	PIT26 R-5	PIT47 P-17	PIT77 F-51	F97土器集中	FC-8
15a号址 H-9	40号址 PS-8	PIT23 SP-10	石組炉 FC-2	PIT48 F-13	PIT78 F-54	F94焼土	F-33
15b号址 H-10	41号址 PS-13	埋設土器 FC-3	PIT49 SP-19	PIT49 SP-19	E122焼土	F-9	F92焼土
16号址 SF-3	42号址 PS-21	2011年B地区	PIT50 P-27	PIT50 P-27	F122a土1	F-10	F92焼土7
17号址 PS-2	43号址 P-7	1号墓塚 GP-4	墓石 S-3	PIT51 (C)	F122b焼土	FC-4	F92木炭
18号址 PS-4	44号址 GP-3	PIT1(腰巻堀)	埋設土器	PIT52 F-44	E122集石 S-8	F92焼土4	F-35
19号址 H-6	45号址 PS-13	PIT2 P-10	埋設土器	PIT53 P-14	F120焼土1	F-12	F92焼砂
20号址 H-5	46号址 PS-11	PIT3 SP-11	2012年	PIT54 F-40	F119焼土1	F-16	F91柱穴
21号址 H-11	47号址 P-6	PIT4 SP-12	PIT27 P-15	PIT55 F-41	F120焼土1	F-15	F91土器集中
22号址 F-1	48号址 PS-9	PIT5 P-17	PIT28 P-16	PIT56 F-43	F120a土2	F-14	F91土器集中
23号址 PS-7	49号址 PS-10	PIT6 S-7	PIT29 P-18	PIT57 SP-18	F120a土1	F-15	F91土器集中
24号址 H-18	50号址 PS-12	PIT7 PS-22	PIT30A P-23	PIT58 (C)	F120a土2	S-9	F90焼砂
24b号址 P-1	51号址 H-17	PIT8 P-13	PIT30B SP-8	PIT59 F-47	F120a土3	PS-26	F89焼砂
25号址 H-16	52号址 S-1	PIT9 S-2	PIT31 S-24	PIT60 F-46	F119焼土3	F-20	E88柱穴
26号址 P-4	53号址 PS-17	PIT10 SP-13	PIT32 (C)	PIT61 P-22	石組炉 FC-5		E88柱穴
27号址 P-3	54号址 PS-18	PIT11 R-2	PIT33 (C)	PIT62 SP-16	F118埋設中	FC-18	E88柱穴
28号址 P-5	55号址 H-4	PIT12 SP-7	PIT34 P-26	PIT63 P-21	F119焼土1	F-18	E88柱穴

(2) 土器等

【斜里町教育委員会による2008～2012年カモイバツ遺跡の遺物台帳掲載の仮記号】

J：縄文土器 - JD：縄文後期、JE：縄文晩期

Z：統縄文土器 - ZUA：宇津内Ⅱa式、ZUB：宇津内Ⅱb式、ZKD：後北C₂・D式

O：オホーツク式土器 - OK：刻文土器、OH：貼付文土器(大部分は掘根貼付文)

【当センターによる2018年調査の分類】

I群 縄文時代早期の土器群。II群 縄文時代前期の土器群。当遺跡では出土していない。

III群 縄文時代中期に属する土器群。(過年度出土)

IV群 縄文時代後期に属する土器群。(過年度出土)

a類：初頭～前葉の土器群。北筒Ⅱ式(新)・Ⅲ式・Ⅳ式・Ⅴ式に相当するもの。

羅白式・細筒式・「ウトロ型」・「シャリ型」に相当するものを含む。

b類：中葉の土器群。手稲式・鯉潤式・エリモB式などに相当するもの。

c類：後葉の土器群。堂林式・栗沢式などに相当するもの。

V群 縄文時代晩期に属する土器群。(過年度出土)

a類：前葉のもの。**b類**：内藤式など。**c類**：幣舞式、緑ヶ岡式などに相当するもの。

VI群 統縄文時代に属する土器群。

a類：初頭～前葉のもの。フシココタン下層式、元町2式など。

b類：宇津内Ⅱa式・Ⅱb式のほか、下田ノ沢式、後北A式・B式などを含む。

c類：後北C₁式、後北C₂・D式に相当するもの。

d類：北大Ⅰ式・Ⅱ式などに相当するもの。

VII群 撥文文化期に属する土器群。当遺跡では出土していない。

VIII群 オホーツク文化期・トビニタイ期に属する土器群。

a類：十和田式に相当するもの。

b類：刻文期（・沈線文期）に相当するもの。

c類：貼付文期に相当するもの。

d類：トビニタイ式に相当するもの。

土製品 円盤状土製品がある。

(3) 石器等

下記の分類を使用した。点数には破片を含む。なお、斜里町教育委員会で調査した2008～2012年度分の分類はすでに行われ台帳化されていたため、基本的にはそれを踏襲した。同様の遺物について別な呼称が用いられている場合は、集計を行う上で名称を統一した。なおカッコ内には町教委の略称を記し、名称が異なる場合のみ日本語名も付記した。

【器種】

剥片石器等：石鏃(AH)、石槍(PO)、ナイフ(削器KN)、石錐(DR)、スクレイパー(搔器ES)、楔形石器、Rフレイク(RF)、Uフレイク(UF)、フレイク(FF、※CCチップ含む)、石核(CO)

礫石器等：石斧(AX)、石のみ、石錘、浮子、火打石、たたき石(HU)、くほみ石(CA)、すり石(GR)、砥石(WS)、台石(SD)、板状加工礫、加工痕のある礫、破砕礫、礫(※GAベンガラ付き礫含む)

石製品：環状、棒状などがある。

【石材】

黒曜石(OB)、頁岩(硬質頁岩HS)、チャート(CH)、メノウ(AG)、蛇紋岩(MS)、緑色片岩(G-SCH)、流紋岩(RH)、安山岩(AND)、砂岩(SS)、泥岩(MS)、凝灰岩(TF)、軽石(PU)

(4) その他の遺物

金属製品 〔鉄製品〕刀子、斧(鉞)、鎌、鍋、釘、鉤状製品など 〔銅製品〕環状製品など

木製品 杭

ガラス製品 玉

自然遺物 貝類、獣骨片、魚骨片、炭化材、炭化種実、褐鉄鉱

5 調査結果の概要 (図I-3 表I-2・3)

カモイベツ遺跡では、2008～2018年に断続的に6次にわたる調査を行った。面積は合計で8,977㎡である。その結果、主に統縄文時代宇津内Ⅱa式期～後北C₂・D式期の土坑墓や多数の焼土を含む遺構群、オホーツク文化刻文期の竪穴住居跡群、アイヌ文化期の貝・骨ブロックなどを検出し、縄文時代・統縄文時代・オホーツク文化期・アイヌ文化期の遺物が出土した。

遺構は総数259件で、竪穴住居跡・竪穴等21軒、柱穴列1か所、土坑墓4基、土坑61基（うち集石を伴う土坑31基）、柱穴状土坑31基、石組が9か所、焼土69か所、集石12か所、フレイクチップ集中20か所、埋設土器2か所、ベンガラ集中13か所、貝・骨ブロック10か所がある。ほかに炭化木片や骨片の分布範囲を多数検出した。時期別・調査年度別の遺構数は、下表（表I-2）のとおりで、各時期の特徴はⅨ章でまとめる。

遺物は総点数73,485点である（表I-3）。内訳は、土器が15,213点、石器等48,583点、礫9,482点、金属製品146点、ガラス玉5点、木製品2点、骨角器・加工痕ある骨片54点である。ほかに褐鉄鉱およびベンガラ、貝、骨片、炭化木片をそれぞれコンテナ数箱分回収し、さらに木片、炭化種子（堅果類が主体）、樹皮、陶磁器片などがある。土器は、縄文時代では中期～後期の北筒Ⅱ～Ⅴ式、後期の手稲式・鮎潤式・エリモB式・堂林式、晩期の緑ヶ岡式、統縄文時代では宇津内Ⅱa式・宇津内Ⅱb式・後北C₁式・後北C₂・D式のほか鈴谷式・北大式（少数）、オホーツク式では刻文・擬縄貼付文土器がある。石器等はフレイクチップ類（約97%）を除くと、石鏃・スクレイパー・ナイフ・すり石・台石の点数が多い。ほかに石製品が7点出土している。金属製品は、斧（鉞）・鎌・鍋・釘類・装飾品などがある。骨角器等は、鋧頭・中柄・装飾品のほかは加工痕がみられるものである。

(阿部 明義)

表I-2 遺構数一覧

遺構時代	H	P	SP	PC	年					計
					2008年	2009年	2011年	2012年	2013年	
縄文時代	H	竪穴住居跡	2						2	
	P	土坑			1				1	
	SP	柱穴状小土坑			10				10	
	PC	フレイクチップ集中			1				1	
統縄文時代	H	竪穴住居跡・住居跡	2				1		3	
	HI	柱穴列	1						1	
	GP	土坑墓	2	1					3	
	P	土坑	7	6	13	1			27	
	PS	集石を伴う土坑	17	3	6				26	
	SP	柱穴状小土坑			3		10		13	
	SF	石組伊	1	1	2				4	
	F	焼土		2	2	42	16		62	
	S	集石	1		6	3			10	
	PC	フレイクチップ集中			3	10	5		18	
		土器埋設遺構			1	1			2	
	R	ベンガラ集中	1		4				5	
		「埋家場」			1				1	
	オホーツク文化期	H	竪穴住居跡・竪穴	13			3			16
GP		土坑墓							1	
P		土坑				2			2	
PS		集石を伴う土坑	4				1		5	
SP		柱穴状小土坑				6			6	
SF		石組伊	3						3	
F		焼土	3			4			7	
S		集石							2	
PC		フレイクチップ集中							1	
		貝・骨ブロック				10			10	
アイヌ文化期	SP	柱穴状小土坑			2				2	
	S	集石							2	
									1	
計			98	3	46	97	53	239		

表I-3 遺物点数一覧

遺物種別	J	Z	O	不明・その他	年					計	
					2008年	2009年	2011年	2012年	2013年		
土器	J	縄文土器	61	1,393	139					1,633	
	Z	統縄文土器	746	577	1,335	2,506	2,511			7,675	
	O	オホーツク式土器	3940		6	1,252	642			5,840	
		不明・その他	61	7	9	5	13			95	
		土製品								10	
		計	4808	1,977	1,489	3,763	3,176			15,213	
	石器等	AH	石鏃	79	7	30	93	64			273
		PO	石槍	5	2	2	1	4			14
		DR	石鏃	1	3	2	2	21			29
		RN	(筋溝)・ナイフ	34	25	37	56	14			166
ES		(縁器)・スクレイパー	37	5	43	56	83			224	
		楔形石器	1				1			40	
RF		石・ヒレノコ	34	10	88	87	83			302	
PF・CC		フレイク・チップ	7775	1074	10,135	18,879	9,005			46,668	
CO		石鏃	7	3	4	14	22			50	
AX		石斧・石のみ	2	2	8	1	13			26	
WS		砥石	1		25	27	5			58	
HL		たたま石	2		8	10	5			25	
CA		くぼみ石	2		2	14	1			19	
GR		すり石	7	5	22	161	4			199	
SD		台石			37	68	90			195	
		加工礫			1		78			79	
		その他	2		9	2	7			20	
		石製品			2	1	4			7	
		計	7989	1134	10,449	19,482	9,529			48,583	
礫				36	7	942	1,903	6591			9483
			金属製品			1	1	144			146
			ガラス製品				5				5
			木製品			1	1				2
	骨角器等				1	53			54		
計			12836	3118	12,887	25,515	19,493			73,485	

()内は科里町教委の押収

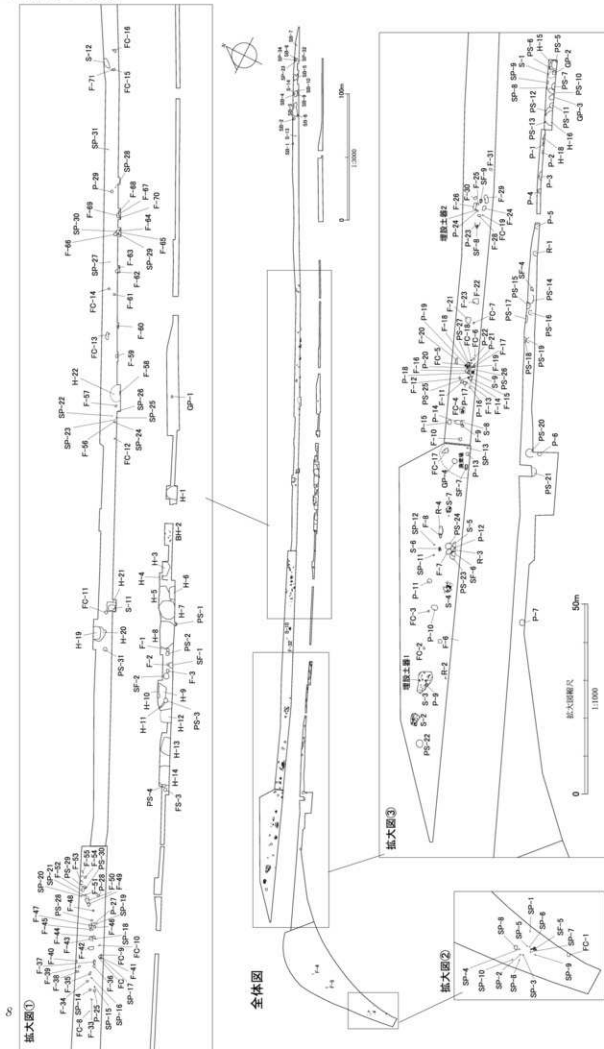


図1-3 カモイヘン遺跡遺構位置図

II章 遺跡の環境

1 遺跡の立地と環境 (図II-1)

(1) 遺跡の位置と地名

遺跡が所在する斜里町は北海道東部、網走地方の東端に位置する。北はオホーツク海に面しており、海岸線は西端の^{ウラ}海釣沼から東端の知床岬まで約100kmに及ぶ。南東部に隣接する羅臼町とは知床連山の稜線を境にして知床半島を二分している。南は標津町および清里町、西は小清水町に接する。町域の約4分の3が山林で、同約4分の1の平野部に畑地・牧場・原野・市街地等がある。

カモイベツ遺跡は、中心市街地から半島方向へ海岸沿いに約10km、オホーツク海に面した峰浜地区の海岸砂丘上に立地する。アイヌ語でカモイは神・神靈でベツは川の意に解される。幕末期に当地を訪れた松浦武四郎の知床日誌に「カモイヲヲハツ」「神靈のある川という義」と記載されている。なお、現在の峰浜はその昔、シュマトゥカリと呼ばれていた地域であるが、これはシュマトゥカリベツ (suma-tukari-pet 石の・こちら・川)、すなわち斜里市街地側からの砂浜が途切れて、半島側の礫浜へと切り替わる地点であることに由来した地名である。明治期に和人の入植が進んで地名がつけられた際には、このシュマトゥカリから朱円村となった。シュ・マドカの当て字と考えられるもので、シュマトカリと振り仮名がつけられたが、いつしか「しゅえん」と呼ばれるようになった。その後、シュマトゥカリ川口付近について、朱円と分離して新たに峰浜と改称されたものである。峰浜の集落は当遺跡から海岸沿いに約2km東側へ離れたところにある。

(2) 地形と地質

【知床連山】

知床半島の^{ウラ}中軸部には南西基部から北東端の知床岬に向かって、斜里岳 (1544.8m)、海別岳 (1419.4m)、遠音別岳 (1330.5m)、羅臼岳 (1660.7m) など標高1,000m級の第四紀火山が並ぶ。これらはいずれも約90万年前から現在までの火山活動で形成されたものである。

【火山活動】

道東地方には屈斜路火山と摩周火山の大型カルデラがあり、いずれも過去複数回の大規模噴火が発生した。これらの大噴火に伴って生じた膨大な量の火山灰や火砕流の流入が斜里平野の形成に大きく影響している。後期更新世以降の主な火山活動として、まず約12万年前に発生した屈斜路火山の最初の大噴火が挙げられる。斜里平野一面を火砕流が覆い、それまでに形成されていた地形の起伏を埋めたことで、現在の斜里平野の基礎となる平坦地形が形成された。層厚は約20~30m。次に約7万年前に屈斜路火砕流が2度発生しており、それぞれ層厚10mほど堆積した。その後、約3万年前に発生した火砕流が屈斜路火山の起源としては最後のものとなっている。一方、摩周起源の火山灰は約14,000年前の江南軽石層 (kop) を形成した噴火と現在の摩周湖 (カルデラ) を形成した7,600年前ころの噴火に伴うものが大規模である。後者にもなう噴火では、下部から順にMa-j、i、h、g、fの各火山灰が断続的に降灰したが、斜里平野ではこのうちのMa-fと称される青灰色の細粒火山灰が10~15cmほど堆積している。町内における縄文時代早期の堅穴遺構には、この摩周火山灰を含んだ再堆積物層が覆っている。その後、約1,000年前には摩周カルデラ外輪山の最高峰、摩周岳 (カムイヌプリ) を給源とする火山灰が降灰した。平野部では10~15cm、砂丘地で1~2cm堆積しており、時代判別の鍵層にもなっている。色調は淡黄色でMa-b5と命名されている。さらに上位では、樽前a

火山灰 (T a - a, A.D.1739) や駒ヶ岳 c₂火山灰 (K o - c₂, A.D.1697) の薄層も観察される。

【平野部の形成】

斜里平野は山側から海側へ向かって順に河成段丘、扇状地、沖積面 (過去の潟湖跡)、砂丘の各地形が発達している。まず、約20,000年前に氷河期の最寒冷期を迎えた際に海水面が現在より約120m下がったことから、それに連動して河口付近も大きく下刻した。一方、山間部では寒冷地化のために植物があまり育たず、河川浸食による土砂の堆積が進んだ。上流域の河床は土砂の流入で上昇し、下流域および河口部周辺の河床が海水面の低下に伴って下刻したため全体に地形が急傾斜となり、上流部から押し出された多量の土砂の堆積によって、山麓部にはそれまで以上に扇状地が広く発達した。

約6,000年前には温暖化にともなって海水面が上昇に転じた。現在より平均5mほど海水面が高くなったため、海水が流入して内湾が形成され、多くの汽水湖も形成された。いわゆる縄文海進である。海岸線で浸食基準面が上昇したため古い溪谷が土砂で埋没し、地形の傾斜も緩やかになった。



図Ⅱ-1 遺跡の範囲と周辺の地形

その後、気温が寒冷化に転じ、約4,000年前（縄文時代後期初頭）に海水準はほぼ現在の高さと同程度になった。西から東へと流れるオホーツク海沿岸流によって運ばれてきた砂礫や海風で吹き寄せられた砂の堆積により現在の海岸線に、西から東に向かって徐々に沿岸州ならびに砂丘が形成されて内湾が閉じ、現在のサロマ湖や風蓮湖のようなラグーン（潟湖）ができあがった。このラグーンはその後、河川が運搬する土砂の堆積や泥炭の形成によって陸地化が進み、現在あるような斜里平野が徐々に形成されていったものの、縄文時代後期以降、長期にわたって砂丘上に遺跡が集中していることから、ラグーン縮小後も居住に適さない湿地が長らく続いていたと考えられる。

(3) 自然環境

当遺跡は海岸線に沿って形成された砂丘列上に位置する。遺跡がある砂丘の頂部は高いところで標高6.8m。主な植生は砂丘上に形成された海岸砂丘林と林床植物、海側に向けて砂地に点在する海滨植物から構成されている。砂丘林はアカエゾマツやカシワ、イタヤカエデ等を主体とする針広混交林である。これらの樹木は海からの風を受けて内陸側へと樹形を傾けている（風衝作用）。風当たりが強いもともと海側の砂丘頂部で灌木化し、それより海側ではほとんど生育していない。

林床にはオオイトドリ、トクサ、クマイザサが群生している。ほかエゾイラクサ、エゾオオヤマハコベ、チシママンテマ、シロザ、カラマツソウ、ナワシロイチゴ、チシマフウロ、ミツバフウロ、キツリフネ、オオヨモギ、ノゲシ等が見られる。外来植物として、セイヨウアブラナ、コゴメハギ、コメツブツメクサ、オオマツヨイグサの侵入が認められた。

海滨植物は、砂丘林の周辺にテンキグサ、オカヒジキ、ハマハタザオ、ハマナス、ハマボウフウ、ナミキソウ、ハマニガナ、シロヨモギ、エゾノコウボウムギなどが自生している。

鳥類はハシボソミズナギドリ、オオセグロカモメ、ウミネコ等の海鳥が多い。

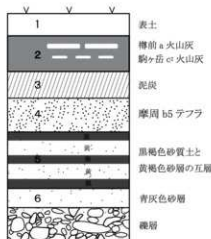
昆虫はキバネハサミムシが多く目についた。蝶類ではモンシロチョウ、モンキチョウなどシロチョウ科の蝶を多く見かけたが、セイヨウアブラナ等の吸蜜が目的であろう。（影浦 覚）

2 調査区の土層と砂丘列（図Ⅱ-2～4、表Ⅱ-1）

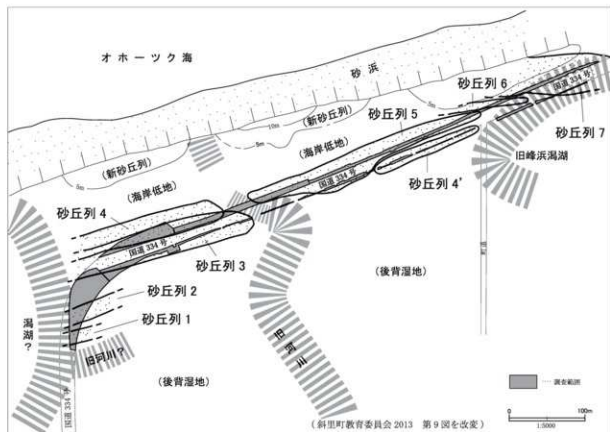
(1) カモイベツ周辺の砂丘列と基本土層

遺跡は砂丘列上に立地していることから、基本土層（図Ⅱ-2、表Ⅱ-1）を説明するにあたって、まず砂丘列の全体的な状況と形成過程について述べる。

砂丘列の形成は縄文海進以降のイベントである。当遺跡のこれまでの調査所見と、国土地理院の空中写真の判読から、少なくとも7本の砂丘列の存在が確認され、内陸側から海側に向かって順に、砂丘列1、砂丘列2、砂丘列3・・・とした。現況の海岸線とほぼ並行するように砂丘列が発達し、現海岸部付近は砂丘の高低差が大きい。砂丘列の形成は内陸側ほど早く形成し、時期を追うごとに海岸方面の北側と知床半島方面の東側に砂丘状に発達していったとみられる（図Ⅱ-3）。



図Ⅱ-2 基本土層



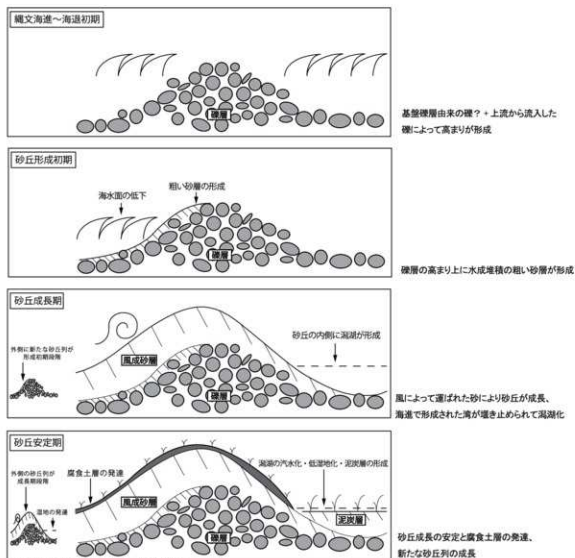
図Ⅱ-3 カモイベツ遺跡および周辺地形概念図

発掘調査の結果と2012年度にアースサイエンス社に委託して行った海岸低地から砂丘にかけてのトレンチ調査の結果も踏まえると、砂丘形成過程については以下のように推定される（図Ⅱ-4）。

砂丘形成の最初期は、礫層の高まりが形成される時期である。礫の主体は安山岩であることから、供給源は海別岳周辺である可能性が高い。峰浜地区においては江南軽石層（kop摩周火山起源 14,000¹⁴CBP頃）より下層でも同様の礫層がある。現・海別川流域で同様の礫層がみられ、海別川、シマトッカリ川、マクシベツ川等の各河口付近には波に洗われて円磨が進行した火山岩礫の堆積もみられる。海岸部への礫の広がりについては、打ち寄せる波浪によるものと思われ、河口周辺では砂丘列の上部付近にまで打ち上げられている例もある。前述の地名の項でも述べた通り、斜里市街からこの付近まで続いた砂浜が半島にかけて礫浜に変わるの、このような安山岩礫供給状況による影響が大きい。また、礫層の上位には粒度の粗い青灰色砂層（6層）が堆積している場所もあり、礫同様に海流によって波で打ち寄せられた小礫や粗砂が堆積した可能性が高い。

礫層や6層（＝主にⅧ層・X層）の上層になると細かい風成砂層が厚く堆積する（5層）。本層は基本的に①黒色・黒褐色・暗褐色砂質土と②黄褐色・オリーブ褐色砂土との互層となっているが、砂丘列によってそれぞれ異なる。基本的に遺物が含まれる層は前者①であり、後者②は砂丘の発達期に堆積した風成砂とみられる。前者①は砂丘停滞期にあたり、植物類が生育し砂地にやや腐植が発達するような環境で、人間活動の活発な時期と考えられる。風成砂の供給が弱まる理由としては、海退が進み、海側に新しい砂丘列が形成され始めたことなどが挙げられよう。また、部分的に河川の流路となり、5層の大半が河川堆積物となっている場所も確認している。

5層（＝主にⅧ層）の文化層の時期は、縄文時代中期からオホーツク文化期までである。砂丘列によって時期は異なるが、砂丘列の新旧に対応して包含される遺物の時期が新しいものが主体となる。このことは、当時の人々が周辺の砂丘列全体を広く利用していたのではなく、その時期に最も海岸に近い砂丘列上で主に活動を行っていたことが考えられる。各砂丘列の最も古い時期の遺物を挙げると、砂丘列1・2では、縄文時代中期末の北筒Ⅱ式（トコロ6類）土器のほか、押型ないしは絡条体回転施文を地文とする土器が出土した。なお、同じく砂丘上の遺跡であるウナベツ川遺跡の調査でも、古い砂丘列から縄文時代前期後半期の押型土器の破片やシュブノツナイ式土器が出土している。砂丘列3は国道334号線の直下に位置する。縄文時代後期後葉の堂林式土器が出土した。砂丘中から採取した木炭の年代測定結果は3,300±25 BP（PLD-14950）であり（Ⅷ章8）、該期の他の遺跡例と対比すると堂林式期の年代値として総合的である。砂丘列4では字津内Ⅱa・b式期、砂丘列5では後北C・D式期の遺物と共にオホーツク文化期の遺物も多く見られた。砂丘列6ではオホーツク文化期の遺物が出土している。なお、これ以降の新しい砂丘列では5層が礫層以下となっており、オホーツク文化期の砂丘列7地点はまだ海中であったと考えられる。



（斜里町教育委員会 2013 第8図より）

図 II - 4 砂丘の形成過程

また、砂丘列全体を通して比較すると、統縄文時代は砂丘の形成期と安定期の周期が短い。特にその時点で砂の供給が多くなる海側の新しい砂丘では、黄色砂と黒色砂の複数の互層がみられる。遺物包含層は無遺物層のオリーブ褐色砂にバックされることから、包含層の堆積時期が限定的な状況となっている。対照的に内陸側の砂丘になると砂の供給が少なくなり、5層ではほとんど互層が発達せず、一つの遺物包含層に多時期の遺物が含まれる状況であった。

4層（＝主にⅥ層）は黄～白色を呈する摩周b5火山灰である（Ma-b5）。約1,000年前に降下した火山灰であり、調査区内のほとんどの範囲で10～20cm前後の堆積が確認された。

3層は茶褐色を呈する腐植質・泥炭質の層である。海側に砂丘列が発達したことにより、内陸側に広がったラグーン（潟湖）に関連する土層とみられる。

2層（＝主にⅡ～Ⅳ層）は黒褐色の砂質土である。上位に駒ヶ岳c₂火山灰（1694年）、樽前a火山灰（1739年）がそれぞれ一部分断された状態で確認できる地点がある。風性の砂を母材としながら腐植の発達が強い土層で、最も新しい砂丘列7では二つの火山灰の上位に近世アイヌ文化期の包含層が確認された。

1層（＝主にⅠ層）は表土・ボサとなっている。

（影浦・直江）

（2）各砂丘列の土層堆積状況

前述のとおり各砂丘列によって異なる堆積状況であったため、各年度や地点の土層名は統一したものではなく、それぞれの状況に合わせて付したものとなっている。以下、各地点の基本土層について対比表（表Ⅱ-1）を参照しながら遺物包含層の土層と遺物を中心として、連続する砂丘列を含む調査年度をまとめて古い砂丘列順に説明していく。

2008年調査区は東西方向に細長く、調査区内には砂丘列3（C地点）・4'（B地点旧33～60ライン）・5（B地点旧61～80ライン）・7（A地点）が含まれ、砂丘列7以外で遺物が出土している。その他にB地点の旧81ライン付近では旧河川の流路痕が認められた。これは後述する2012年調査区の砂丘部と低地部間に確認された河道跡とつながる可能性がある。基本土層は砂丘列と対応するようにA～C地点で異なり、さらにB地点は3つに細分できた。C地点（砂丘列3）の基本土層は、最下位のⅨ層（礫層）、Ⅷ層（黄色砂）の上に黒色砂土のⅦ層が堆積し、統縄文時代宇津内Ⅱa期を中心に縄文時代後・晩期からオホーツク文化刻文期までの遺物が含まれている。上位のⅥ層（黄色砂）、Ⅴ層（暗褐色砂）には主にⅤ層に統縄文時代宇津内Ⅱb期・後北期を中心として宇津内Ⅱa式期からオホーツク文化刻文期までの遺物が含まれている。B地点旧33～60ラインは最下位の遺物包含層の内容が西側の砂丘列4と類似するため、ほぼ同時期に発達した砂丘列と考えられる。しかし、両者は離れた位置にあり連続した状況が確認できていないことから砂丘列4'とした。基本土層は、無遺物のⅩ～Ⅷ層の上位に黒色土のⅦ層が堆積し、統縄文時代後北期を中心として宇津内Ⅱb期の遺物が含まれている。B地点旧61～80ライン（砂丘列5）の基本土層は、無遺物のⅩ～Ⅷ層の上位に黒色土のⅦ層と黒灰砂土のⅥ層が堆積し、主にⅦ層にホーツク文化刻文期を中心とした遺物が含まれている。A地点（砂丘列7）では遺物が出土していないが、摩周b5火山灰の上位に礫層が見られるため、2018年調査区の1～35ラインと同様に11世紀以降に形成・発達した砂丘と考えられる。

2009年調査区と2011年度A地区は遺跡の西部にあたり、範囲内には、砂丘列1（旧l・m・n・oライン）・2（旧d・e・f・g・hライン）と砂丘列3（旧X・Yライン）の裾野部が含まれている。また、砂丘列2の北側には近接した範囲（旧a・b143区付近）に高まりが認められた。層位が連続していることから、この北側の高まりは砂丘列2とほぼ同時期に発達した小砂丘と認識することがで

表II-1 調査年別土層対比表

調査年	西一				西一				西一				
	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	調査年	
調査年	2008	2009	2011	2011	2011	2012	2012	2012	2018	2018	2018	2018	
地区・グリッド	A地区 旧133~607イ	B地区 旧81~607イ	日地区 旧817イ付近	C地区 旧96~1307イ	A地区	砂丘部	低地部	低地部	110~557イ	55~357イ	35~17イ	35~17イ	
砂丘・水少	77イ	5	-	3	1	4	5	5	5	6	7	7	
表土・水少	I: 黒色土 II: 茶褐色土 III: 茶褐色土(埋) IV: 灰褐色土 V上: 白色粘土 VF: 黒色粘土	I: 黒色土 II: 黒色土	I: 黒色土	I: 黒色土 II: 黒色砂土	I	I	I	I	I	I	I	I	
近世アヌ文化層	VI: 茶褐色土 VII: 白黒粘土層 VIII: 茶褐色土 IX: 灰褐色土 X: 灰褐色土 XI: 灰白色砂 XII: 磁器	II: 茶褐色土 III: 茶褐色土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土 VII: 黒色砂土 VIII: 黒色砂土 IX: 黒色砂土 X: 黒色砂土 XI: 黒色砂土 XII: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色土 IV: 黒色土 V: 黒色土 VI: 黒色土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色土 IV: 黒色土 V: 黒色土 VI: 黒色土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土	II: 黒色土 III: 黒色砂土 IV: 黒色砂土 V: 黒色砂土 VI: 黒色砂土
層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
層別C2	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
層別b5	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
オホーヅク段文	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
北大	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
後北C2・D	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
後北C1	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
宇津内E	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
宇津内目a	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
縄文前期	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	
縄文中期	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	層別	

I: 旧河道

II: 旧河道

III: 旧河道

IV: 旧河道

V: 旧河道

VI: 旧河道

VII: 旧河道

VIII: 旧河道

IX: 旧河道

X: 旧河道

XI: 旧河道

XII: 旧河道

XIII: 旧河道

XIV: 旧河道

XV: 旧河道

XVI: 旧河道

XVII: 旧河道

XVIII: 旧河道

XIX: 旧河道

XX: 旧河道

XXI: 旧河道

XXII: 旧河道

XXIII: 旧河道

XXIV: 旧河道

XXV: 旧河道

XXVI: 旧河道

XXVII: 旧河道

XXVIII: 旧河道

XXIX: 旧河道

XXX: 旧河道

XXXI: 旧河道

XXXII: 旧河道

XXXIII: 旧河道

XXXIV: 旧河道

XXXV: 旧河道

XXXVI: 旧河道

XXXVII: 旧河道

XXXVIII: 旧河道

XXXIX: 旧河道

XXXX: 旧河道

XXXXI: 旧河道

XXXXII: 旧河道

XXXXIII: 旧河道

XXXXIV: 旧河道

XXXXV: 旧河道

XXXXVI: 旧河道

XXXXVII: 旧河道

XXXXVIII: 旧河道

XXXXIX: 旧河道

XXXXX: 旧河道

XXXXXI: 旧河道

XXXXXII: 旧河道

XXXXXIII: 旧河道

XXXXXIV: 旧河道

XXXXXV: 旧河道

XXXXXVI: 旧河道

XXXXXVII: 旧河道

XXXXXVIII: 旧河道

XXXXXIX: 旧河道

XXXXXX: 旧河道

XXXXXXI: 旧河道

XXXXXXII: 旧河道

XXXXXXIII: 旧河道

XXXXXXIV: 旧河道

XXXXXXV: 旧河道

XXXXXXVI: 旧河道

XXXXXXVII: 旧河道

XXXXXXVIII: 旧河道

XXXXXXIX: 旧河道

XXXXXXX: 旧河道

XXXXXXXI: 旧河道

XXXXXXXII: 旧河道

XXXXXXXIII: 旧河道

XXXXXXXIV: 旧河道

XXXXXXXV: 旧河道

XXXXXXXVI: 旧河道

XXXXXXXVII: 旧河道

XXXXXXXVIII: 旧河道

XXXXXXXIX: 旧河道

XXXXXXXX: 旧河道

XXXXXXXXI: 旧河道

XXXXXXX XII: 旧河道

XXXXXXX XIII: 旧河道

XXXXXXX XIV: 旧河道

XXXXXXX XV: 旧河道

XXXXXXX XVI: 旧河道

XXXXXXX XVII: 旧河道

XXXXXXX XVIII: 旧河道

XXXXXXX XIX: 旧河道

XXXXXXX XX: 旧河道

XXXXXXX XXI: 旧河道

XXXXXXX XXII: 旧河道

XXXXXXX XXIII: 旧河道

XXXXXXX XXIV: 旧河道

XXXXXXX XXV: 旧河道

XXXXXXX XXVI: 旧河道

XXXXXXX XXVII: 旧河道

XXXXXXX XXVIII: 旧河道

XXXXXXX XXIX: 旧河道

XXXXXXX XXX: 旧河道

き、この部分を砂丘2'と呼称する。ただし2009年調査区の基本土層は、複数の砂丘列を含んだ遺跡全体を平均化したものとなっている。実際の遺物包含層であるⅦ層の細分は、場所ごとに上位から土壌質の砂土(Ⅶa・Ⅶc・Ⅶe)と互層となる風成の砂土(Ⅶb・Ⅶd)に対して命名しており、同一層名が地点間に対応する状況ではない。砂丘列ごとに包含層を対比すると、砂丘列1～2及び2'は発生から移り変わりが急速だったためか、いずれも最下位の礫層上位に縄文時代中期～後期前葉の北筒式土器を多く含む。この内砂丘2'ではⅦc層の下部に北筒式土器、中部にエリモB式土器、晩期の土器、中～上部に続縄文時代の土器がおおよそ時間的な矛盾なく出土した。また、上位のⅦa層からは北大式土器が1点出土している。砂丘列3は砂丘列2のⅦc層下部が堆積していた時期に礫浜であったとみられ、礫層直上のⅦe層から主に晩期の土器がまとまって出土している。また、2011年A地区の範囲内には砂丘列1が含まれており、礫層上位のⅦb～d層にかけて縄文時代中期～晩期の遺物が出土している。

2011年B地区・2012・2018年調査区は東西方向に細長く連続しており、まとめて説明する。範囲内には砂丘列3(2011年B地区の一部)・4(2011年B地区・2012年砂丘部)・5(2012年低地部・2018年55～110ライン)・6(2018年35～55ライン)・7(2018年1～35ライン)がある。砂丘列3・4は裾野部が不整合に重なって観察されており(図IV-13)、砂丘列3からは遺物は出土せず、基本土層には含まれていない。

2011年B地区と2012年砂丘部(砂丘列4)の基本土層は、礫層の上位にあたるⅨ層は1～5cm程の薄層群が厚く堆積するもので、特徴的な薄層のまとまりを単位として上からⅨa～Ⅸe層に細分している。Ⅸ層中には宇津内Ⅱa式期を中心として後北式期までの遺物が含まれている。上位のⅧ層(黄褐色砂)は2012年調査区で遺物が多く、宇津内Ⅱb式期の遺物を主体としている。Ⅷ層(黒褐～暗褐色砂土)はオホーツク文化刻文期から後北式期を主体とする遺物包含層で、Ⅶ層は上からⅦs・Ⅶa・Ⅶb層に細分している。両年調査区ともⅦ層中に間層となる風成の無遺物層があまり発達しなかったため、それぞれの層位に時期の異なる多様な遺物が出土する状況となっている。しかし、おむね下位(Ⅶb層)に宇津内Ⅱb式期、下位から中位(Ⅶa・b層)に後北式期、鈴谷式土器、上位(Ⅶs層)にオホーツク文化刻文期の遺物が出土する傾向がみられた。

2012年低地部と2018年55～110ライン(砂丘列5)は、前述の砂丘列4Ⅷ層堆積期(宇津内Ⅱb期)に礫浜となっていた範囲である。礫層上位に黒褐色砂土(2012年低地部Ⅷ層、2018年Ⅶb層)があり、主に後北式期の遺物が出土している。さらに上位には風成の無遺物層を挟んで暗褐色砂土(2012年低地部Ⅷ層、2018年Ⅶa層)があり、オホーツク文化刻文期の遺物が出土している。これは砂丘列4のⅦs層から連続する土層と認識できる。時期の限定的な2枚の遺物包含層が分離して堆積していることが大きな特徴である。

2018年35～55ライン(砂丘列6)は、前述の砂丘列5Ⅶb層堆積期(後北式期)に礫浜となっていた範囲である。表面的には砂丘列5から起伏なく連続するものの、礫層の位置の相違から砂丘列6と認識した。礫層から間層を挟んだ上位に暗褐色砂土のⅦa層があり、オホーツク文化刻文土器が少量出土している。これは前述の砂丘列5のⅦa層から連続する土層である。

2018年1～35ライン(砂丘列7)は、調査区内で最も東側にあたる。摩周b5火山灰を含めてⅡ層の下部まで礫層となっている。Ⅱ層は黒色砂土で、場所によっては上部に胸ヶ岳c₂火山灰や樽前a火山灰が一部分断された形で堆積している。これらの火山灰の上位となるⅡ層上部に貝・魚骨ブロックが広がっており、近世アイヌ文化期の骨角器や鉄製品などが出土している。(直江 康雄)

3 歴史的環境

(1) 概要

斜里町内では平成31年4月1日現在で379か所の遺跡が登録されており、遺跡数は道内の市町村の中でも3番目に多く、遺跡の分布密度も高い。遺跡分布は、縄文海進やその後のラグーン形成を反映したものになっている。

時系列に概観すると、縄文時代早期の遺跡分布は平野縁辺の比較的高地に分布し、海岸付近や平坦部においては見られない。その理由としては縄文時代前期前半に起こった縄文海進、その後の海退による当時の海岸の浸食作用、湿潤温暖化による河川の発達と平野部の不安定化が挙げられる。この時期の遺跡が仮に海岸域や現在の平坦部に存在していたとしても、こうした自然の営みにより消滅している可能性が考えられる。前期後半から中期にかけては海岸部に形成された砂州に遺跡分布が認められるが、平野部中央は大きな空白地帯となっている。ラグーンが広がっていたためと考えられる。

続く縄文時代後期・晩期では砂州の南縁辺部の微高地に遺跡分布がみられるようになるが、これはラグーンが縮小化したためであろう。河川の流域部にも遺跡が分布している。縄文時代後期は中期に比べて確認されている遺跡数が少ない。その原因としては、調査が行われた遺跡による偏りも考えられるが、人口自体が減少した可能性も考えられている。後期前半期は北筒Ⅲ式からⅤ式に相当する。北筒Ⅳ式・Ⅴ式段階は斜里地方ではウトロ型、シャリ型という在地色の強い土器が展開する。幌別川口遺跡(斜里町教委1980)の調査成果により設定されたもので、ウトロ型は頸部に太い隆帯が巡るのを大きな特徴とし、シャリ型は口縁に丸みを帯びた山形突起が4カ所あり、全面に斜行縄文を施した土器である。一方、後期後半期は一転して手桶式、鯉調式、堂林式、御殿山式等、道内に広がる土器型式が展開する。この時期の遺跡として海岸沿いの砂丘南端縁において環状列石を検出したオクシベツ川遺跡(斜里町教委1980)、それからオクシベツ川とアッカシベツ川に挟まれた標高16~17mの緩斜面上に立地する朱円周堤墓(宇田川洋編1981ほか)が特に有名である。環状列石は最大径が約11mで、5~10個の礫からなる立石を伴う小さな環状列石が連鎖状に巡って構成していると報告された。また、環状列石の中心部が浅く掘りこまれ、その底から大きな石が焼土とともに出土した(配石遺構)。朱円周堤墓はA号およびB号の2つからなり、周堤部の内側に配石あるいは積石された土坑墓がある。全面調査がなされていないことから正確な墓の数は不明であるが、斜里町史によればA号で20基以上、B号で1基があると記載され、これらのうち7基が調査されている。土坑墓からは、ヒスイを含む玉類、漆製品片等、多彩な副葬品が出土した。なお平成22・23年(2010・2011年)には、北海道立埋蔵文化財センターが「重要遺跡確認調査」として詳細分布調査を行った。内容は、3次元レーザースキャナを用いた測量調査、遺物・写真その他記録類の資料調査、トレンチによる発掘調査などで、現周堤下に縄文時代の周堤を確認するなどの成果を得た。

縄文時代早期から中期は堅穴住居跡が多く検出されている。一方、縄文時代後期・晩期は墓を多く検出しているものの堅穴住居跡がほとんど確認されていない。あるいはこの時期、堅穴住居から平地住居等へと住居構造が変換していたのかもしれない。

縄文時代はこれまでに町内で発掘調査が行われた中で、もっとも多くの資料が出土している時期である。砂丘列が安定化し、海岸林が形成された段階であり、そのことを反映して砂丘上および縁辺部に遺跡が集中する。逆に、河川の支流域での遺跡分布は縄文時代を境にして減少に転じている。

オホーツク文化を含む擦文文化期、アイヌ文化期も海岸砂丘上に集落を形成する傾向は継続する。これは、生活基盤が河口部あるいは海岸に置かれていたことの反映でもある。オホーツク文化ならびに擦文文化の堅穴住居跡は、比較的新しいため今なお埋まり切らなくほみとして多くが砂丘上に点

在し、その数は町域全体で優に1,000軒以上が数えられている。これらは海岸砂丘林、防潮保安林内に位置することから保存状態は極めて良好である反面、調査が行われなため詳しいことはわかっていない。なお、北方から渡道してきた集団であるオホーツク文化と在来集団の糠文文化は時期が重なる上に居住地域も重なるため、斜里町内では共存していた可能性が高いとみられている。

アイヌ文化期は知床半島沿岸域に多くのチャシが点在する。当遺跡周辺にも、西側の砂丘列に広がる朱円型穴住居跡群遺跡の範囲内にウナベツチャシが存在する（分布図外）。また、当遺跡の西にウナベツコタンが存在し、幕末期に松浦武四郎が訪れている。当遺跡では元文4（1739）年降灰の樽前a火山灰より上位において貝・骨ブロック10か所等を検出した。

（2）周辺の遺跡（図Ⅱ-5、表Ⅱ-2）

峰浜地区において発掘調査が行われた遺跡につき、調査結果の概要を略記する。「()」内番号は、北海道教育委員会遺跡台帳登録番号)

【峰浜海岸1遺跡】(10)

堅穴住居跡は縄文時代前期の朱円式期が6軒、前期と考えられるもの1軒、中期の北筒式期が3軒検出された。前期の住居跡のうち1軒は焼失家屋であり、この中から石斧や石鏃が多数出土した。住居跡の特徴は隣接するボンシュマトカリベツ9遺跡とほぼ同内容であるが、多くは近接する堅穴同士で重なり切り合っていた。土坑墓は前期と考えられるもの4基を検出した。土坑墓は平面形が円形で、住居内あるいは住居に近接している。長軸2mを超える大型のものもある。底面からベンガラは検出されていないが、焼土や炭化物が伴うものがある。堅穴住居跡から出土した木炭を試料とする炭素同位体年代測定の結果は、補正值で $5,080 \pm 70$ yBPである。

【峰浜8線遺跡】(31)

縄文時代中期末～後期初頭（北筒Ⅱ式～Ⅲ式期）の堅穴住居跡9軒、土坑16基を検出した。堅穴住居跡は大型2軒と小型7軒からなる。ほかに北筒Ⅱ式期の焼土群1基、後期初頭北筒Ⅲ式期の盛土状遺構1基、時期不明の集石遺構1基を検出している。盛土状遺構は上下2枚に大別され、下部から焼土群や土坑を検出した。

【ボンシュマトカリベツ1遺跡】(105)

縄文時代中期末～後期初頭（北筒Ⅱ式・Ⅲ式期）の堅穴住居跡3軒、堅穴状遺構2基、屋外炉1基、土坑14基を検出した。土坑のうち4基は墓の可能性もある。ほかに縄文時代晩期の屋外炉1基、オホーツク文化期の焼土跡1か所を検出している。オホーツク文化期の焼土跡には近接して無文の倒置土器1個体と台石が伴っている。

【ボンシュマトカリベツ9遺跡】(113)

堅穴住居跡は縄文時代早期が7軒、前期が6軒、中期が7軒検出された。早期の住居跡はいずれも大型で、配置関係や調査範囲から10軒を超える集落があったと推測されている。早期中頃の沈線文を主体とした土器が出土し、住居跡から貝殻文を特徴とする沼尻式土器も出土した。前期の堅穴住居跡は朱円式土器を伴う。平面形が隈丸多角形のものや楕円形のものがあり、最大長は3～10mを越すものまである。堅穴の深度は、小規模のものでは浅く、大型のものは概して深い。この傾向は縄文時代早期同様である。朱円式期の堅穴住居跡から出土した木炭を試料とする炭素同位体年代測定の結果は補正值で $5,190 \pm 80$ yBPであった。縄文時代中期末（北筒式期）の住居跡は平面形が様々であるが堅穴の掘り込みは概して浅めで、規模は縄文時代早期・前期より小型のものが多い。比較的大型の住居は床面中央に炉を有し、壁際に沿って柱穴が巡るものが多い。ほか、縄文時代晩期の土坑墓3基を検

出した。うち2基は土坑上部に配石を伴う。配石は径30cm以上の大型礫が多く、中には台石も含まれていた。また配石下部からは木炭等が見られ、土坑内で火を焚いたか、あるいは付近で火を焼き、その土を入れた可能性も考えられている。副葬品は土器や石器のほか、蛇紋岩性の飾り玉もある。

【ボンシュマトカリベツ13遺跡】(117)

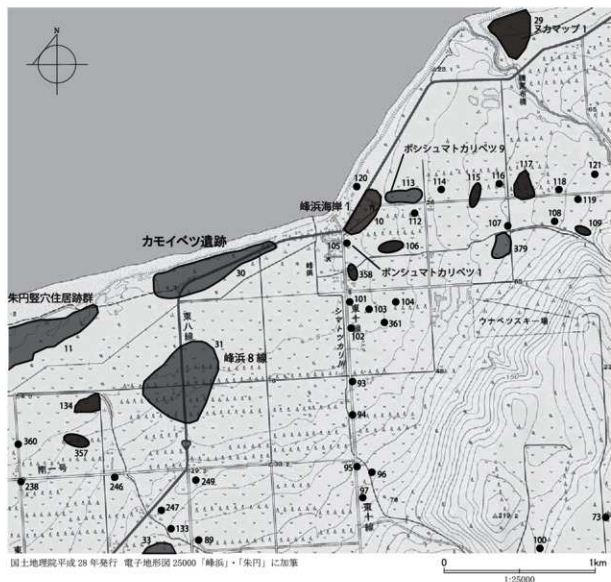
縄文時代中期末北筒式期の竪穴住居跡1軒、土坑3基、焼土49か所を検出した。土坑3基のうち2基は集石を伴っている。

【シュマトカリベツ9遺跡】(101)

竪穴住居跡は縄文時代早期3軒、中期末北筒式期5軒を検出した。早期の竪穴住居跡は大型で、出土土器片からテンネル式期の可能性が考えられている中期末の竪穴住居跡は平面形が隈丸多角形、円形、楕円形、不定形と様々であるが、総じて規模は縄文時代早期・前期より小型である。

【ウナベツ24遺跡】(357)

縄文時代晩期の土坑墓1基、土坑2基、焼土遺構5か所を検出した。土坑墓内から土器が1個体分ままとって出土した。(影浦)



図Ⅱ-5 周辺の遺跡

表Ⅱ-2 周辺の遺跡

登録№	遺跡名	種別	時代時期	立地	標高	調査機関(日付)
10	精出橋岸1遺跡	集落跡	縄文(前・中・後・晩期)、 河縄文、アイヌ	シマトカリ川右岸の砂丘	10m	1998(1999)・2008(2007)町教委
11	東河野住居跡群遺跡	集落跡	縄文(中・後・晩期)、総縄文、 オホーツク、縄文	南岸砂丘	10～15m	
29	ヌカマップ2遺跡	集落跡	縄文	ヌカマップ川河口右岸砂丘	25m	
30	カモイバツ遺跡	集落跡	縄文(後期)、総縄文、 オホーツク、アイヌ	南岸砂丘	5m	2006・09・11・12町教委 2017・08(2016)本報社
31	峠底8遺跡群	集落跡	縄文(中・晩期)、総縄文、縄文	砂丘南側の低湿地帯	5m	2010・12(2013)町教委
33	ウナベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	南側川左岸砂丘	30～40m	
39	ウナベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文	ウナベツ川右岸 丘陵緩斜面	45m	
93	シュマトカリベツ1遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	シマトカリ川右岸 丘陵緩斜面	30m	
94	シュマトカリベツ2遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	シマトカリ川右岸 丘陵緩斜面	20m	
95	シュマトカリベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	シマトカリ川左岸 丘陵緩斜面	50m	
96	シュマトカリベツ4遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	シマトカリ川右岸 丘陵緩斜面	60m	
97	シュマトカリベツ5遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	シマトカリ川左岸 丘陵緩斜面	65m	
99	シュマトカリベツ1遺跡	遺物包蔵地	縄文	シマトカリ川右岸 丘陵斜面	200m	
101	シュマトカリベツ9遺跡	集落跡	縄文(中・前・中・晩期)	シマトカリ川右岸 沖積低地	8～9m	1993(1994)町教委
102	シュマトカリベツ10遺跡	遺物包蔵地	縄文(早・中・晩期)	シマトカリ川右岸 沖積低地	10m	
103	シュマトカリベツ11遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	シマトカリ川右岸 沖積低地	10m	
104	シュマトカリベツ12遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	シマトカリ川支流右岸、丘陵緩	25m	2007(2008)町教委
105	ボンシュマトカリベツ1遺跡	集落跡	縄文(早・前・中・晩期)、 オホーツク	マクシベツ川右岸 沖積低地	8 m	2010(2011)町教委
106	ボンシュマトカリベツ2遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	マクシベツ川右岸 丘陵緩	20m	
107	ボンシュマトカリベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	マクシベツ川右岸 丘陵緩斜面	50m	
108	ボンシュマトカリベツ4遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	マクシベツ川右岸 丘陵緩斜面	70m	
109	ボンシュマトカリベツ5遺跡	遺物包蔵地	縄文	マクシベツ川右岸 丘陵緩斜面	80m	
112	ボンシュマトカリベツ8遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	3本の小川に区別された丘陵緩	25m	
113	ボンシュマトカリベツ9遺跡	集落跡	縄文(早・前・中)、 縄文	小流右岸 段丘頂	25m	1997・08(1999)町教委
114	ボンシュマトカリベツ10遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	小流右岸 丘陵緩斜面	30m	
115	ボンシュマトカリベツ11遺跡	博士館	縄文(中・晩期)	小流右岸 丘陵緩斜面	40m	1996(1996)町教委
116	ボンシュマトカリベツ12遺跡	遺物包蔵地	縄文	小流右岸 丘陵緩斜面	45m	
117	ボンシュマトカリベツ13遺跡	集落跡	縄文(早・中・晩期)	小流右岸 丘陵緩斜面	55m	1995(1996)町教委
118	ボンシュマトカリベツ14遺跡	遺物包蔵地	縄文	小流右岸 丘陵緩斜面	70m	
119	ボンシュマトカリベツ15遺跡	遺物包蔵地	縄文	丘陵緩斜面	80m	
120	峠底橋岸2遺跡	遺物包蔵地	縄文(晩期)	南岸砂丘	10m	
121	ヌカマップ2遺跡	遺物包蔵地	縄文	ヌカマップ川左岸 丘陵緩斜面	40m	
131	ウナベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	ウナベツ川右岸 丘陵緩斜面	35m	
134	ウナベツ3遺跡	遺物包蔵地	縄文	ウナベツ川左岸 丘陵緩	5 m	
238	東河野2遺跡	遺物包蔵地	縄文(中期)	北河川右岸	1.5～10m	
246	ウナベツ9遺跡	遺物包蔵地	縄文	南側川左岸	22.5～25m	
247	ウナベツ20遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	南側川右岸	325～330m	
319	ウナベツ22遺跡	遺物包蔵地	縄文	南側川右岸	35m	
357	ウナベツ4遺跡	遺物包蔵地	縄文(晩期)	ウナベツ川左岸 緩斜面段丘上	15m	2007(2008)町教委
358	ボンシュマトカリベツ16遺跡	遺物包蔵地	縄文(中・晩期)	マクシベツ川より南側、 北側シュマトカリベツ川の左岸	8 m	2011(2012)町教委
360	東河野遺跡	遺物包蔵地		河川堆積物により形成された低湿地帯	5～7 m	
361	シュマトカリベツ13遺跡	遺物包蔵地	縄文(早・前・中期)	東部の小川(シュマトカリ川の支流)の左岸右岸	10～20m	2007(2008)町教委
379	ボンシュマトカリベツ17遺跡	遺物包蔵地	縄文(早・中・晩期)	マクシベツ川丘陵緩斜面	40～50m	

Ⅲ章 2017・2018年の調査と出土遺物

1 調査の概要

(1) 調査の方法と経過

【2017年】

次年度の発掘調査に向けた予備的な測量調査で、調査予定区域の草刈りとドローンを活用した空中撮影および写真測量を行った。

草刈りを行った結果、調査区東部では砂採取などの後世の攪乱とみられる大規模な窪地が連続していた。しかし、調査区中央部には多角形とみられる深さ80cmほどのくぼみが1か所確認でき、堅穴住居跡の可能性のあるものとみられていた（2018年調査で攪乱と判明）。

空中撮影は、調査区全景および遠景の撮影を多方向から行った。写真測量は、調査区の真上から一部が重複するよう連続撮影し、オルソ画像を作成して地形図に変換した。3D画像の作成も行った。

【2018年】

同調査区の本発掘である。調査区が細長いことや、排土場が調査区内と西側調査区外の一部のみであったことから調査区を4回に分け、排土通路を確保するため各回ともさらに分割しながら調査を行った。第1回目は調査区西部の110～83ラインで5月15日～6月22日、第2回目は調査区西部～中央部の83～58ラインで6月26日～8月24日（盆休み1週間を挟む）、第3回目は調査区中央部～東部の58～32ラインで8月28日～9月27日、第4回目は調査区東部の32～5ラインで10月1日～10月17日に調査を行った。

表土除去については過年度の調査結果から、第1～3回目はⅥ層（摩周b5降下軽石層）上面までを重機により除去し、Ⅶ層を調査対象とした。遺物を包含するⅦa層・Ⅶb層は手掘り、間層（Ⅶ層）はスコップを併用し、調査区境に設定したトレンチ調査の状況からⅦb層下面を最終掘削面とした。第3回目後半でⅥ層以下が礫層に移行し遺物が出土しない一方、Ⅱ層相当の土壌から貝が出土したことから近世貝塚の検出を想定し、第4回目はⅡ層上面までを重機により除去し撈前a火山灰の面までを調査対象とした。

検出された遺構は、土層観察用のベルトを設けトレンチ調査を初め随時調査を行った。出土した遺物は、遺構出土のものや集中出土のものについて選択的に出土状況の図化や地点計測を行った（「点上げ」）。それ以外は発掘区ごと・層位ごとに取り上げた。また遺物分布範囲の広いⅦb層については、分布状況を視覚的にとらえられるよう極力遺物分布図を作成した。

焼土など、微細な遺物が含まれることが見込まれる土壌についてサンプリングを行いフローテーション作業を行った。

記録類

地形測量図・土層断面図・遺構平面図・遺構断面図・遺物出土状況図などを作成した。地形測量は調査区内において2mごとに標高を測量し、コンター図を作成した。

写真撮影は、リバーサル6×7判、デジタルカメラを用いた。6×7判は広域を対象とした撮影や主要遺構・遺物など選択的に使用した。デジタルカメラは高画質一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを用い、全撮影対象に使用した。

(2) 発掘区の設定 (図Ⅲ-1)

2017年の測量調査の際に、改めて発掘区を設定した。現地において過年度の基準点が不明であったことや、過年度を含めた全調査区の発掘区設定を行うことによる。なお発掘区の単位は、過年度は5mメッシュであったが、今回は4mメッシュとした。

発掘区の基準点は、国道334号のセンターライン、起点(羅白町本町36-1)から57.4kmポイント(57,400)と57.5kmポイント(57,500)を用い、これを結ぶ線を基軸のMラインとした。57,400ポイントに直交する線を50ラインとし、交点を「M50」とした。これを基軸として4mメッシュでラインを設定し、北から南へアルファベット、東から西へ算用数字を付した。調査区内のそれぞれの交点に杭を打ち、4mごとに方形区画された範囲の北東側(海側、ウトロ側)の杭を発掘区の呼称とした。

基準点の座標値は、以下のとおりである。座標系は、世界測地系平面直角座標系第XⅢ系である。なお設定に当たっては、周辺の四等三角点「峰浜」・「烏戸狩」、3級基準点「H19-網道-01」、二等水準点第10052号(峰浜164番地2)を使用し、基準点等を設置し利用した。

[調査区基準点]

57,400 (M50) X = -7,721.447 Y = 43,349.742

57,500 (M75) X = -7,765.583 Y = 43,260.009

[3級基準点]

H19-網道-01 X = -7,633.004 Y = 43,523.7954 H = 5.381m

北緯43°55' 48.0384" 東経144°47' 31.4445"

(3) 土層

基本土層(2018年)は以下の通りである。

I層:表土～近年の砂丘等。

II層:暗褐色砂壤土。

層中に樽前a(1739年降下)および駒ヶ岳c₂(1694年降下)火山灰を含む。

III層:褐色泥炭

IV層:灰白色粘土層。摩周b5降下火山灰と粘土が混じる再堆積層。

V層:黒褐色砂層。

VI層:摩周b5降下軽石層(10世紀ころ)

明瞭な鍵層。調査区全域に10～15cm堆積する。

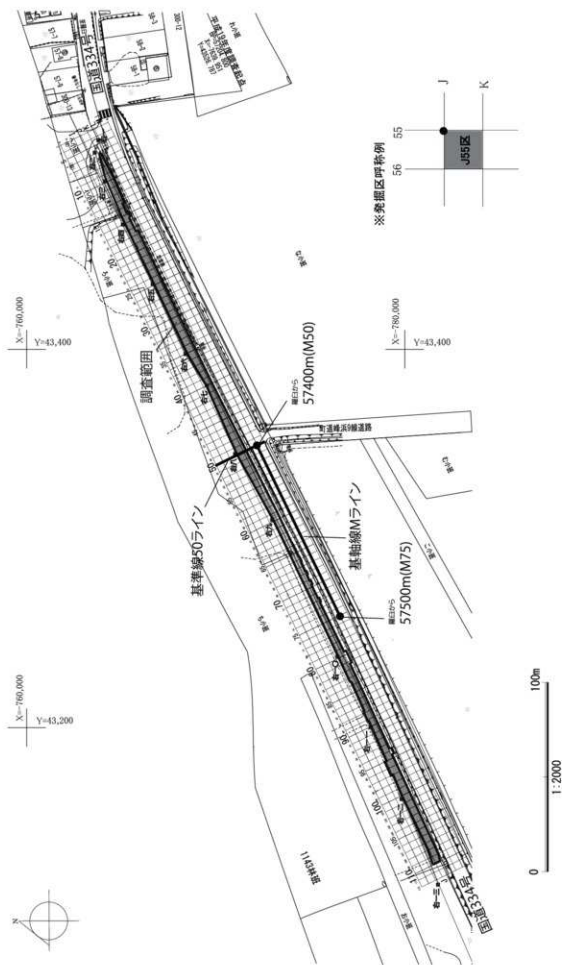
VII層:砂層……黄褐色砂と黒褐色砂の互層。

VI a層:VI層下の黒褐色砂層。オホーツク文化期の遺物を含む。

VI b層:黄褐色砂層間にある黒褐色砂の薄層。続縄文時代後半期の遺物を含む。

VIII層:砂層……青灰色砂・黄褐色砂。無遺物。

また調査区を横断するトレンチや境界壁面で土層断面図を作成した(図Ⅲ-2～5)。

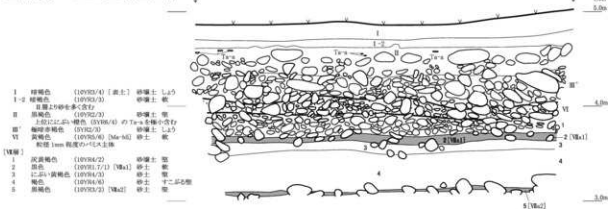


図Ⅲ-1 2018年発掘区設定図

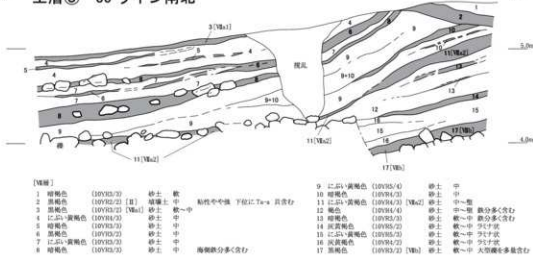
土層① J21区北壁



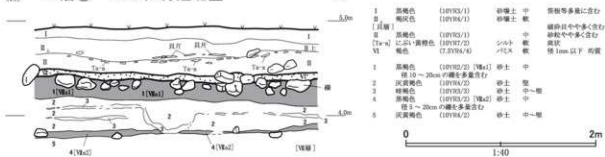
土層② J25区北壁



土層③ 35ライン南北

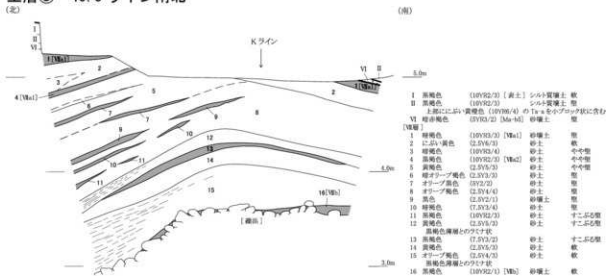


土層④ J36区付近北壁

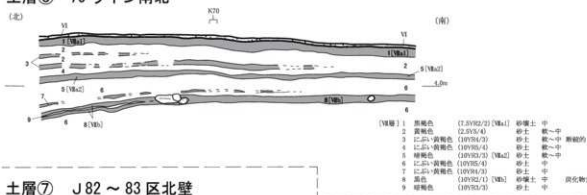


図Ⅱ-2 調査区土層断面(1)

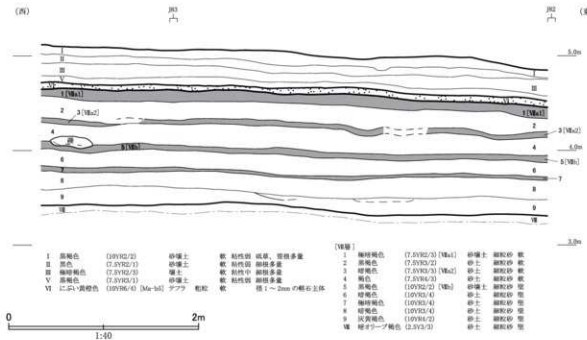
土層⑤ 40.5 ライン南北



土層⑥ 70 ライン南北



土層⑦ J 82 ~ 83 区北壁



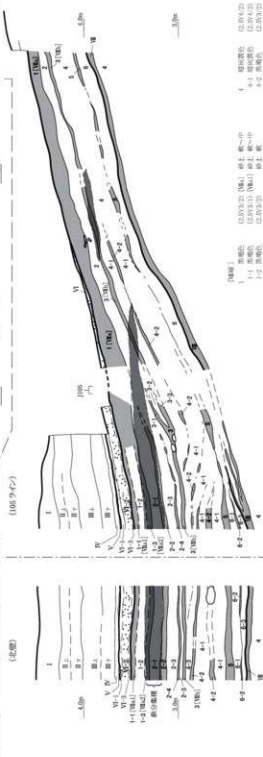
図Ⅲ-3 調査区土層断面 (2)

土層⑧ 96ライン南北



- | | | | |
|-------|------------------|-----|---|
| 1 黒褐色 | (197922) (東上) | 腐葉土 | 腐 |
| 2 黒褐色 | (197923) | 腐葉土 | 腐 |
| 3 黒褐色 | (197924) | 腐葉土 | 腐 |
| 4 黒褐色 | (197925) | 腐葉土 | 腐 |
| 5 黒褐色 | (197926) | 腐葉土 | 腐 |
| 6 黒褐色 | (197927) (No.45) | 腐葉土 | 腐 |
| 7 黒褐色 | (197928) | 腐葉土 | 腐 |
| 8 黒褐色 | (197929) | 腐葉土 | 腐 |
| 9 黒褐色 | (197930) | 腐葉土 | 腐 |
- 10m 1 ~ 2mm 程度の石を主体
- 1 黒褐色 (197931) (No.41) 腐葉土 腐
- 2 黒褐色 (197932) (No.42) 腐葉土 腐
- 3 黒褐色 (197933) (No.43) 腐葉土 腐
- 4 黒褐色 (197934) (No.44) 腐葉土 腐
- 5 黒褐色 (197935) (No.45) 腐葉土 腐
- 6 黒褐色 (197936) (No.46) 腐葉土 腐
- 7 黒褐色 (197937) (No.47) 腐葉土 腐
- 8 黒褐色 (197938) (No.48) 腐葉土 腐
- 9 黒褐色 (197939) (No.49) 腐葉土 腐

土層⑨ 105ライン南北・北壁



- | | | | |
|-------|----------|-----|---|
| 1 黒褐色 | (197942) | 腐葉土 | 腐 |
| 2 黒褐色 | (197943) | 腐葉土 | 腐 |
| 3 黒褐色 | (197944) | 腐葉土 | 腐 |
| 4 黒褐色 | (197945) | 腐葉土 | 腐 |
| 5 黒褐色 | (197946) | 腐葉土 | 腐 |
| 6 黒褐色 | (197947) | 腐葉土 | 腐 |
| 7 黒褐色 | (197948) | 腐葉土 | 腐 |
| 8 黒褐色 | (197949) | 腐葉土 | 腐 |
| 9 黒褐色 | (197950) | 腐葉土 | 腐 |
- 10m 1 ~ 2mm 程度の石を主体
- 1 黒褐色 (197951) (No.51) 腐葉土 腐
- 2 黒褐色 (197952) (No.52) 腐葉土 腐
- 3 黒褐色 (197953) (No.53) 腐葉土 腐
- 4 黒褐色 (197954) (No.54) 腐葉土 腐
- 5 黒褐色 (197955) (No.55) 腐葉土 腐
- 6 黒褐色 (197956) (No.56) 腐葉土 腐
- 7 黒褐色 (197957) (No.57) 腐葉土 腐
- 8 黒褐色 (197958) (No.58) 腐葉土 腐
- 9 黒褐色 (197959) (No.59) 腐葉土 腐

- | | | | |
|-------|-----------------|------|---|
| 1 腐葉土 | (239322) (No.1) | 腐土 腐 | 腐 |
| 2 腐葉土 | (239323) (No.2) | 腐土 腐 | 腐 |
| 3 腐葉土 | (239324) (No.3) | 腐土 腐 | 腐 |
| 4 腐葉土 | (239325) (No.4) | 腐土 腐 | 腐 |
| 5 腐葉土 | (239326) (No.5) | 腐土 腐 | 腐 |
| 6 腐葉土 | (239327) (No.6) | 腐土 腐 | 腐 |
| 7 腐葉土 | (239328) (No.7) | 腐土 腐 | 腐 |
| 8 腐葉土 | (239329) (No.8) | 腐土 腐 | 腐 |
| 9 腐葉土 | (239330) (No.9) | 腐土 腐 | 腐 |
- 10m 1 ~ 2mm 程度の石を主体
- 1 腐葉土 (239331) (No.10) 腐土 腐
- 2 腐葉土 (239332) (No.11) 腐土 腐
- 3 腐葉土 (239333) (No.12) 腐土 腐
- 4 腐葉土 (239334) (No.13) 腐土 腐
- 5 腐葉土 (239335) (No.14) 腐土 腐
- 6 腐葉土 (239336) (No.15) 腐土 腐
- 7 腐葉土 (239337) (No.16) 腐土 腐
- 8 腐葉土 (239338) (No.17) 腐土 腐
- 9 腐葉土 (239339) (No.18) 腐土 腐

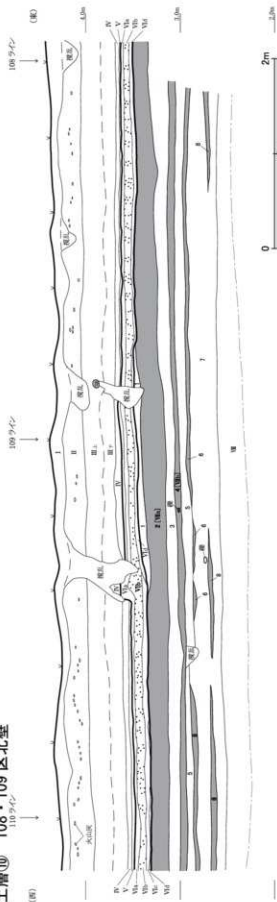
- | | | | |
|-------|-----------------|------|---|
| 1 腐葉土 | (239342) (No.1) | 腐土 腐 | 腐 |
| 2 腐葉土 | (239343) (No.2) | 腐土 腐 | 腐 |
| 3 腐葉土 | (239344) (No.3) | 腐土 腐 | 腐 |
| 4 腐葉土 | (239345) (No.4) | 腐土 腐 | 腐 |
| 5 腐葉土 | (239346) (No.5) | 腐土 腐 | 腐 |
| 6 腐葉土 | (239347) (No.6) | 腐土 腐 | 腐 |
| 7 腐葉土 | (239348) (No.7) | 腐土 腐 | 腐 |
| 8 腐葉土 | (239349) (No.8) | 腐土 腐 | 腐 |
| 9 腐葉土 | (239350) (No.9) | 腐土 腐 | 腐 |
- 10m 1 ~ 2mm 程度の石を主体
- 1 腐葉土 (239351) (No.10) 腐土 腐
- 2 腐葉土 (239352) (No.11) 腐土 腐
- 3 腐葉土 (239353) (No.12) 腐土 腐
- 4 腐葉土 (239354) (No.13) 腐土 腐
- 5 腐葉土 (239355) (No.14) 腐土 腐
- 6 腐葉土 (239356) (No.15) 腐土 腐
- 7 腐葉土 (239357) (No.16) 腐土 腐
- 8 腐葉土 (239358) (No.17) 腐土 腐
- 9 腐葉土 (239359) (No.18) 腐土 腐

- | | | | |
|-------|----------|-----|---|
| 1 腐葉土 | (197962) | 腐葉土 | 腐 |
| 2 腐葉土 | (197963) | 腐葉土 | 腐 |
| 3 腐葉土 | (197964) | 腐葉土 | 腐 |
| 4 腐葉土 | (197965) | 腐葉土 | 腐 |
| 5 腐葉土 | (197966) | 腐葉土 | 腐 |
| 6 腐葉土 | (197967) | 腐葉土 | 腐 |
| 7 腐葉土 | (197968) | 腐葉土 | 腐 |
| 8 腐葉土 | (197969) | 腐葉土 | 腐 |
| 9 腐葉土 | (197970) | 腐葉土 | 腐 |
- 10m 1 ~ 2mm 程度の石を主体
- 1 腐葉土 (197971) (No.40) 腐葉土 腐
- 2 腐葉土 (197972) (No.41) 腐葉土 腐
- 3 腐葉土 (197973) (No.42) 腐葉土 腐
- 4 腐葉土 (197974) (No.43) 腐葉土 腐
- 5 腐葉土 (197975) (No.44) 腐葉土 腐
- 6 腐葉土 (197976) (No.45) 腐葉土 腐
- 7 腐葉土 (197977) (No.46) 腐葉土 腐
- 8 腐葉土 (197978) (No.47) 腐葉土 腐
- 9 腐葉土 (197979) (No.48) 腐葉土 腐

図Ⅲ-4 調査区土層断面 (3)

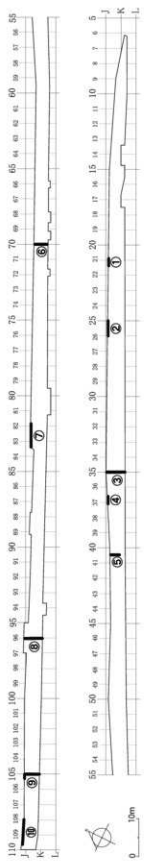


土層⑩ 108・109区北壁



- | | | | |
|--|---|--|--|
| <p>1 黒褐色 (10792J) 埋土
2 黒褐色 (10792J) 埋土
3 黒褐色 (10792J) 埋土
4 黒褐色 (10792J) 埋土
5 黒褐色 (10792J) 埋土
6 黒褐色 (10792J) 埋土
7 黒褐色 (10792J) 埋土
8 黒褐色 (10792J) 埋土</p> | <p>中 埋土
中下層 埋土
下層 埋土
下下層 埋土</p> | <p>埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土</p> | <p>埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土
埋土</p> |
|--|---|--|--|
- 108・109区北壁の土層断面図
- 108・109区北壁の土層断面図は、108・109区北壁の土層断面図を示す。断面は、埋土、埋土、埋土、埋土、埋土、埋土、埋土、埋土の順に構成されている。断面の深さは、0から100センチメートルまでである。断面の幅は、約10メートルである。

〔土層断面位置〕



図Ⅲ-5 調査区土層断面 (4)

(4) 整理作業の方法

一次整理

現地での整理作業は、主に雨天等で発掘作業が困難な日を利用しながら行った。遺物については、水洗・乾燥・分類・計量・遺物台帳作成・仮収納などを行った。採取した土壌サンプルについて、フローテーション法により水洗選別した。また土壌ごと取り上げた貝・骨等の自然遺物については、1mmメッシュのふるいを用いてシャワー水洗を行った。そのほか遺構図の点検・写真フィルム整理などを行った。

注記は主に土器・石器について、江別市の北海道埋蔵文化財センター整理作業棟で行った。

※遺物注記内容

「遺跡名」, 「遺構名」または「発掘区」, 「層位」(「遺物番号」)

例：(遺構) MKB. H-19. フク土2. 15

(包含層) MKB. K85. VII b

※「MKB」…「峰浜・カモイ・ベツ」、斜里町教育委員会に準拠

二次整理

北海道埋蔵文化財センター整理作業棟で行った。遺物整理について、土器は接合・復元作業を行い、19個体の土器を復元し、実測・トレースを行った。また70点あまりについて拓本作業を行った。それらを取りまとめ、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。石器は一部礫石器の接合作業を行った。また分類を見直し、報告書掲載石器を抽出した。実測・トレースを進め、図版作成・一覧表作成・写真撮影を行った。

木製品・金属製品は、観察・簡易的なクリーニング等事前の作業後、第1調査部第1調査課が保存処理を行った。一部の金属製品について保存処理を外部委託した。保存処理後、実測・トレース、写真撮影を行った。

貝・骨ブロックの水洗試料は、貝・魚骨・獣骨の別のほか炭化木片・微細な石器剥片・礫片などを区分した。貝は、調査区に近い峰浜海岸で採取した現生標本などをもとに分類・計量・計数を行い一覧表にまとめた。魚骨・獣骨は、分類可能とみられるものと分類が困難とみられるもの(フレイク)とを分けた。その後の詳細な同定作業は、東海大学国際化学部内山幸子氏の指導のもとで行った。なお一部の獣骨片・骨角器について、接合作業、B72塗布を行ったものがある。

フローテーション法による水洗選別資料は、まず微細な土器・石器ほかについて、肉眼による選別により回収した。浮遊物について拡大鏡等を用いて種子など微細な遺物を選別回収した。炭化種実について、同定を委託した。

遺構挿図は、素図作成後Adobe Illustratorを用いてデジタルトレースを行った。遺物実測図は、ロットリング等でトレースした図をスキャナーでデジタル化することを基本としたが、拓本土器断面図についてはデジタルトレースを行った。遺物挿図はAdobe Illustratorを用いて、版面にレイアウトし作成した。また遺構・遺物写真図版作成ではデジタル写真を使用し、Adobe InDesignを用いて版面にレイアウトし作成した。

そのほか表作成、原稿執筆を行い、報告書編集作業を行った。

遺物・記録類の保管

整理終了後の遺物は「報告書掲載遺物」と「非掲載遺物」に区分してダンボール箱(復元土器)およびコンテナに収め、「遺物収納台帳」に記載した。本報告書刊行後、北海道教育委員会の指示により移管予定である。写真・図面等の記録類は、当センターで保管される。

(5) 調査結果の概要 (図III-6)

調査の結果、統縄文時代後半とオホーツク文化期の中ころ、そしてアイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。遺物は約19,500点を数えた(自然遺物除く)。

【統縄文時代】

調査区西部(斜里側)～中央部にかけてのⅦb層で、後北C₂・D式期の住居跡1軒、土坑1基、柱穴状小土坑10基、焼土(「焼砂」)16か所、フレイクチップ集中5か所を検出した。なお調査区中央部～東部方面は徐々に標高を下げ3m以下となり、礫浜が広がり遺物は皆無であった。

遺物出土状況の特徴として、焼土と大小の礫を中心とし黒曜石の微細な剥片や土器片(後北C₂・D式)などが広い範囲から出土するという傾向にある。また時折一全体や半全体のまとまった土器が出土している。焼土は標高4m前後の砂丘肩部付近に列するものが多い。径50～100cm・被熱層の厚さ5～10cmほどの規模で、上面に微細な骨片を含み周囲に炭化木片が散在するものがある。「住居跡」としたものは、掘り込みはなく4mほどの範囲に焼土と柱穴状小土坑で構成される。

【オホーツク文化期】

調査区西部(斜里側)のⅦa層で、刻文期の堅穴3軒、集石土坑1基、集石2か所、フレイクチップ集中1か所を検出した。なお調査区中央部は集石1か所とわずかな遺物が出土するのみで、調査区東部方面は徐々に標高を下げ、礫浜が広がり遺物は皆無であった。

今回特筆すべき遺構として、検出例が少ない刻文期の「小型堅穴」が挙げられる。典型的な大型多角形の堅穴住居跡と異なり、径2.2～3.1mの方形(1軒は多角形)である。貼床・溝・柱穴・骨塚(祭壇跡)などの施設を欠くが、方形に配された石組炉が明瞭に残る(1軒除く)。堅穴1軒(H-21)の覆土には上層遺構として集石があり、刻文土器が出土している。集石土坑は円形土坑に一部油脂の付着した焼け礫が密に詰まっており、坑底には太い燃焼材が残存する。

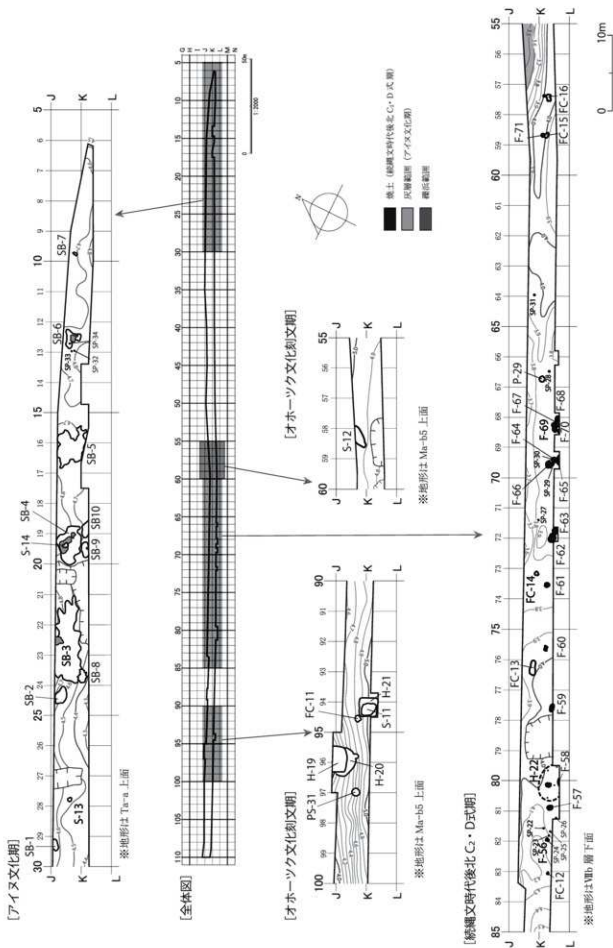
【(近世)アイヌ文化期】

調査区東部(ウトロ側)のⅡ層、樽前a火山灰より上位において、貝・骨ブロック10か所、柱穴状小土坑3基、集石2か所を検出した。

貝・骨ブロックは、Ⅱ層中の樽前a火山灰より上位にあり、面的に薄く広がる。ただし一部は灰層を伴い、魚骨を主体に最大10cm程度の厚みをもつ。貝はピノスガイ・ウバガイを主体とし、ホタテガイ、サラガイなど扁平な二枚貝のほか巻貝も少数みられ、現在の峰浜海岸に打ちあがる貝殻の構成に近似する。魚骨はサケ科、カジカ科、タラ科、ヒラメ・カレイ類、カサゴ類ほか、獣骨はシカ・イヌなどの陸獣やアザラシなどの海獣類が少数確認できる。

遺物は、金属製品では鉄鍋(攪乱出土)・鎌・斧・刀子・釘類、銅製(または真鍮)の環状製品などが出土している。骨角器では、銛先(3点のうち1点は鋼鐵基部が残る)、刺突具、その他獣骨加工品などがある。また樹皮が複数出土しており、灯火用の素材の可能性がある。そのほか、いわゆる「棒状礫」に近似する集石が貝・骨ブロックの内外から2か所検出されており、立地から魚網の錘石などの利用が考えられる。

(阿部)



図Ⅲ-6 2018年調査区遺構位置図

2 遺構の調査とその遺物

a 縄文時代の遺構

(1) 住居跡

1軒(H-22)を検出した。時期は、構築面や周辺の出土遺物から縄文時代後半の後北C₂・D式土器の時期である。

H-22 (図Ⅲ-7・8 表Ⅲ-1・2 図版4・10・41)

確認・調査：Ⅶb層を調査中に焼土とそれを取り囲むような柱穴状小土坑を複数確認した。柱穴状小土坑は焼土の東側に3基、西側に2基の計5基検出し、南側の調査区外にも続くと思われる。また、焼土の南側にメノウの石核を埋設した小土坑も見られた。住居跡を想定し周辺を精査しながら調査を進めたが、明確な掘り込みは確認できなかった。これらの付属遺構の存在と位置関係から簡易的な平地式住居跡と認定し、柱穴状小土坑の配置を元に楕円形の住居の範囲を想定した。構築面はⅦb層である。

付属遺構：焼土1か所、土坑1基、柱穴5基を検出した。

〔炉〕H-22HF-1

柱穴から想定した平面形のうち、中央やや北西寄りにある長径72cmの地床炉。被熱層はⅦb層にあたる。炉内の土層は中央に炭化木片・骨片を少量含む極暗赤褐色土の被熱層、その上位に炭化木片を多く含む黒色土がリング状に広がっている。遺物は上面からスクレイパー1点が出土した。

焼土を採取してフローテーション作業を行った(表Ⅲ-9)。また、同焼土で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、 $1,790 \pm 20$ yBP ($\delta^{13}C$ 補正あり)という結果であった(Ⅷ章9)。

〔土坑〕H-22HP-6

柱穴から想定される平面形のうち、ほぼ中央から検出した小型の土坑。土坑内にメノウの石核が立石の状態で埋設されていた。坑底面はほぼ平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。埋土はⅦb層由来と思われる暗褐色土である。

〔柱穴〕H-22HP-1～5

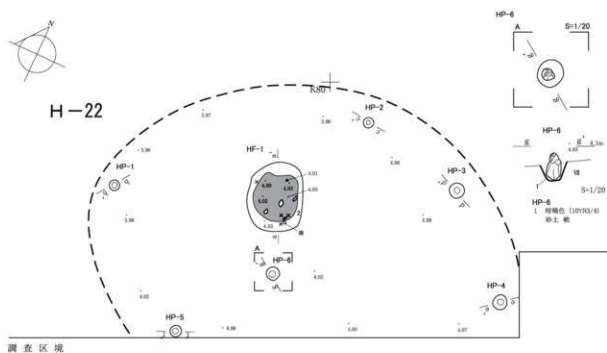
HF-1を取り囲むように周辺から小型の柱穴状土坑が検出された。炉の東側に3基、西側に2基あり、間隔はやや不規則で1～1.6mである。いずれも径15cm前後で、深さは10cm程度の浅いものが主体となっている。埋土はⅦb層由来と思われる黒～黒褐色土が観察された。

遺物出土状況：大まかな傾向として炉の南側に石器類が多く、特にHP-5の周囲にメノウ製のチップが集中して見られた。北側には10～20cm大の礫が散在し、同範囲中から白色粘土のまとまりを検出した。また、北側の縁辺部から注口土器が一括出土している。

出土遺物の総数は146点で、土器が25点、石器等が121点である。土器はすべて後北C₂・D式、石器は石鏃1点、スクレイパー6点、Rフレイク2点、フレイクチップ83点、石核2点、礫27点がある。またHF-1上面からスクレイパー1点、HP-6から石核2点(1個体)出土した。

掲載遺物：1・2は後北C₂・D式。1は小型鉢形の注口土器。口縁部に注口部がある。地文はやや不規則に縄文が施文されており、口縁部には擬縄貼付文が注口部まで続く。2は深鉢形下部。内面にスズ状の炭化物が付着している。

3は石鏃。平基で細身の二等辺三角形である。裏面の加工はわずかで、素材面が大きく残っている。4～7はスクレイパー。4は原石面打面加工が周縁に及ぶ。5の側縁には錯交状の加工が施されている。6・7は撥形の形状で、いずれも比較的平坦な加工が施されている。8はメノウ製の石核。剥離は少なく、長軸横方向の剥離が主体的である。(直江)



HF-1

- 1 黒褐色 (J.VY92/2) 砂礫土 すこぶら型
- 2 黒色 (J.VY91.7/1) 砂礫土 すこぶら型
- 3 緑褐色 (J.VY92/2) 砂土 すこぶら型 [粘土]

HP-1

- 1 黒色 (J.VY91.5/1) 砂礫土 すこぶら型 灰青褐色 (J.VY94/2) の砂礫層に突入

HP-2

- 1 黒色 (J.VY91.2/1) 礫土 敷

HP-3

- 1 黒色 (J.VY91.2/1) 礫土 敷

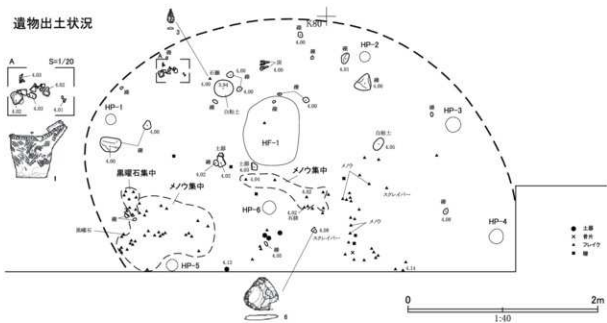
HP-4

- 1 黒褐色 (J.VY92/2) 砂礫土 敷

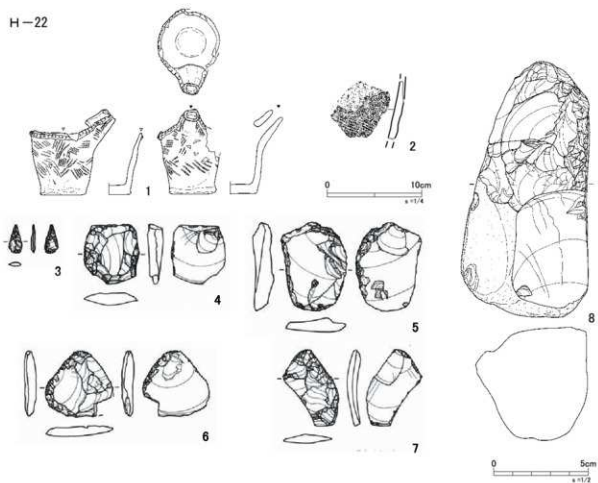
HP-5

- 1 黒褐色 (J.VY92/2) 砂礫土 敷一枚

遺物出土状況



図Ⅲ-7 H-22



図Ⅲ-8 H-22出土の遺物

(2) 土坑

1基 (P-29) を検出した。時期は、構築面や周辺の出土遺物から統縄文時代後半の後北C₂・D式土器の時期である。

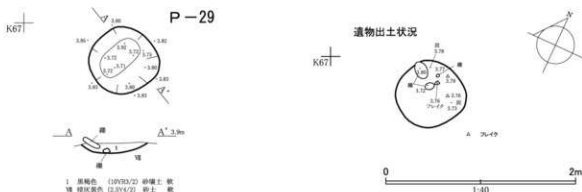
P-29 (図Ⅲ-9 表Ⅲ-1・2 図版11)

確認・調査：Ⅶb層調査後に、周辺が暗灰黄色の砂層となった時点で、黒褐色の円形の落ち込みを検出した。中心に向かって傾いて包含される礫も存在したことから、短軸方向で半截を行い、底面と壁の立ち上がりを確認した。

覆土：掘り込み面はⅦb層中と思われる。覆土は炭化物を少量含むⅦb層由来の黒褐色土のみであった。なお覆土中の炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、1,910±20yBP (δ¹³C補正あり) という結果であった (Ⅷ章9)。

坑底・壁：底面はやや平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：遺物はいずれも覆土下部から、Rフレイク1点、フレイクチップ3点、礫が3点出土した。出土遺物の総数は7点である。 (直江)



図Ⅲ-9 P-29

(3) 柱穴状小土坑

10基 (S P-22~31) を検出した。時期は、いずれも構築面と周辺の出土遺物から統視文時代後半の後北C₂・D式土器の時期とみられる。

S P-22~26 (図Ⅲ-10 表Ⅲ-1・2 図版11)

調査・特徴：Ⅶ b層およびF-56の調査後、周辺が暗灰黄色の砂層となった時点で、2m四方の範囲に直径10cm程度の黒褐色の円形のひろがり を4か所検出し、さらに1.8mほど東側から1か所検出した。半載したところいずれも類似した形状で、丸みのある底面とやや開き気味の壁の立ち上がりを確認した。覆土はⅦ b層由来とみられる黒褐色土で、いずれも堅密度が高い。S P-24の覆土に炭化物粒が少量含まれている。またS P-26の底面付近から小型の礫が2点出土した。構築面はS P-22・23・25・26がⅦ b層中、S P-24がⅦ b層下部でF-56形成前とみられる。 (直江)

S P-27 (図Ⅲ-10 表Ⅲ-1)

調査・特徴：Ⅶ b層の調査中、10cm大の板状礫が立石の状態で出土した。精査したところ、礫周囲に黒褐色のひろがり を検出した。半載したところ、先端がやや尖る杭穴状の断面を確認した。礫はこの小土坑に含まれる。覆土はⅦ b層黒褐色土で、構築面はⅦ b層中とみられる。 (阿部)

S P-28 (図Ⅲ-10 表Ⅲ-1・2 図版11)

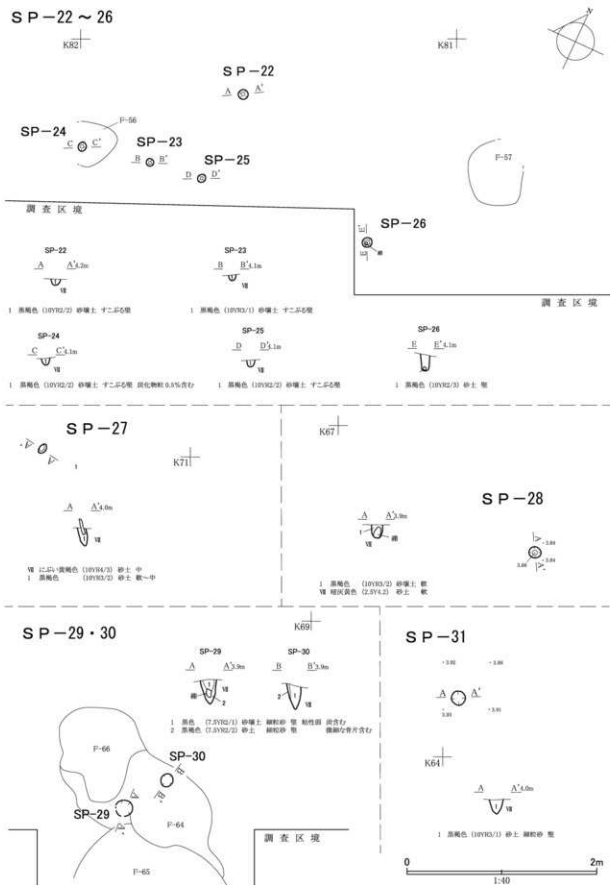
調査・特徴：Ⅶ b層の調査後、周辺が暗灰黄色の砂層となった時点で、直径約10cmの黒褐色の円形のひろがり を検出した。半載したところ、丸みのある底面と垂直に近い壁の立ち上がりを確認した。覆土はⅦ b層由来とみられる黒褐色土である。構築面はⅦ b層中とみられる。底面付近から10cm大の礫が立石の状態 で出土した。 (直江)

S P-29・30 (図Ⅲ-10 表Ⅲ-1・2)

調査・特徴：焼土F-64~66の調査後、砂層上面で黒褐色の小型円形のひろがり を2か所検出した。半載したところ、先端がやや尖る杭穴状小土坑と判断した。覆土はⅦ b層とみられる黒褐色土で、構築面はⅦ b層中である。S P-29の覆土から礫が1点出土し、微細な骨片も含む。 (笠原)

S P-31 (図Ⅲ-10 表Ⅲ-1)

調査・特徴：Ⅶ b層の調査後、砂層上面で黒褐色の小型円形のひろがり を検出した。半載し、先端がやや尖る杭穴状小土坑と判断した。覆土はⅦ b層黒褐色土で、構築面はⅦ b層中である。 (阿部)



図Ⅲ-10 SP-22~31

(4) 焼土

16か所（F-56～71）を検出した。時期は、いずれも形成面と周囲の遺物から統縄文時代後半の後北C₂・D式土器の時期である。各焼土を採取してフローテーション作業を行った（表Ⅲ-9）。

F-56（図Ⅲ-11 表Ⅲ-1・2 図版11）

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、極暗赤褐色の範囲を検出した。半載したところⅦb層が厚さ4cmほど被熱し、上部には骨片がわずかに含まれていた。緑辺部は漸遷し、周囲は炭化物粒・焼土ブロックを含む黒色土が落ち込み、焼土下位に続いている。遺物は、焼土上面の緑辺部からフレイクチップが出土している。

F-57（図Ⅲ-11 表Ⅲ-1・2 図版11）

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、極暗赤褐色の範囲を検出した。半載したところⅦb層が厚さ5cmほど被熱していた。焼土がブロック状に含まれている部分もみられた。緑辺部は漸遷し、周囲は炭化物粒・骨片を含む黒色土が落ち込んでいる。

F-58（図Ⅲ-11 表Ⅲ-1・2 図版11）

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。半載したところⅦb層が厚さ6cmほど被熱していた。緑辺部は漸遷し、焼土層下位に炭化物粒を含む暗褐色土が堆積している。時間を置いて複数回利用されていたことが考えられる。（F-56～58：直江）

F-59（図Ⅲ-11 表Ⅲ-1・2 図版11）

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。トレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が被熱している状況を確認した。上部には骨片や炭化物が少数みられた。主体部は強く被熱しているものとみられる。緑辺部は漸遷する。上面から礫が2点出土した。（阿部）

F-60（図Ⅲ-12 表Ⅲ-1・2 図版7・41）

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。トレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が被熱している状況を確認した。上部には骨片や炭化物が少量散在していた。主体部は強く被熱している。焼土上面からⅥ群c類土器の口縁部破片が2点出土した。

掲載遺物：1は後北C₂・D式の鉢形注口土器で、口縁端に注口がある。口縁部には擬縄貼付文が施されている。胴部はやや不規則に帯縄文が施文されている。（笠原）

F-61（図Ⅲ-12 表Ⅲ-1・2 図版7）

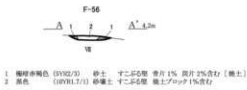
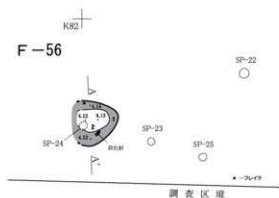
調査・特徴：Ⅶb層を調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。トレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が被熱している状況を確認した。上部には炭化物がやや多くみられ、周縁部から炭化材片が出土した。主体部は強く被熱しているものとみられ、骨片がわずかに含まれていた。緑辺部は漸遷する。

F-62（図Ⅲ-12 表Ⅲ-1・2 図版7・12）

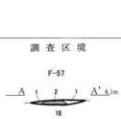
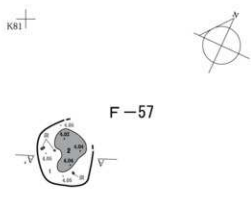
調査・特徴：Ⅶb層を調査中、連続する赤褐色～褐色の範囲を検出した。長軸方向でトレンチ調査を行ったところⅦb層が2か所被熱しており、西側をF-62とした。上面は灰を含む薄層があり、主体部は褐色を呈し強く被熱している。緑辺部は漸遷し、端部がF-63に重複し、当遺構が新しい。焼土上面からフレイクチップが15点出土した。

F-63（図Ⅲ-12 表Ⅲ-1 図版7・12）

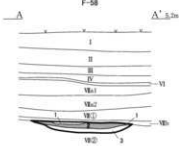
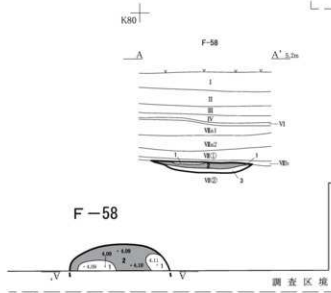
調査・特徴：Ⅶb層を調査中、連続する赤褐色～褐色の範囲を検出した。長軸方向でトレンチ調査を行ったところⅦb層が2か所被熱しており、東側をF-63とした。主体部は赤褐色を呈し強く被熱している。緑辺部は漸遷し、端部がF-62に重複し、当遺構の方が古い。（F-61～63：阿部）



- 1 暗褐色角色 (S192/3) 砂土 すこぶる質 骨片1% 炭片2%含む [黄土]
- 2 黒色 (S191/7/1) 砂礫土 すこぶる質 黄土ブロック1%含む

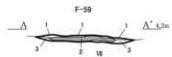
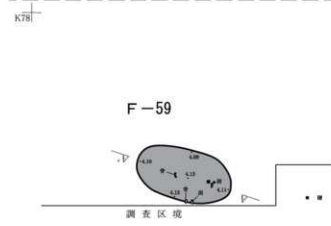


- 1 黒色 (S191/7/1) 砂礫土 すこぶる質 骨片1%以下 炭化物粒2%含む
- 2 暗褐色角色 (S192/3) 砂土 すこぶる質 黄土ブロック1%含む [黄土]



- 1 暗褐色 (S192/3) 礫土 軟
- II 暗褐色 (S192/2) 礫土 堅 上部Tens. Ker.コアアブを列点状に含む
- III 暗褐色 (S193/4) 礫礫土 堅
- IV 暗褐色 (S192/3) 礫土 堅
- V 石灰土塊層 (S193/4) 砂土 堅 1mm前後の石灰土主体
- VI 暗褐色 (S192/2) 砂礫土 堅
- VII 石灰土塊層 (S193/4) 砂土 堅
- VIII オリーブ褐色 (S194/3) 砂土 軟
- IX 黒色 (S191/7/1) 砂礫土 堅

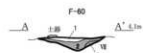
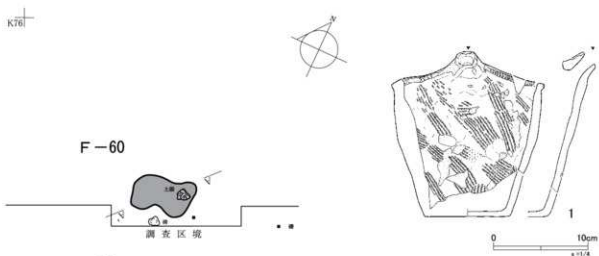
- 1 暗褐色 (S192/2) 砂礫土 堅 炭化物粒1%以下含む
- 2 暗褐色 (S193/4) 砂土 堅
- 3 暗褐色 (S192/4) 砂土 堅 炭化物粒1%以下含む



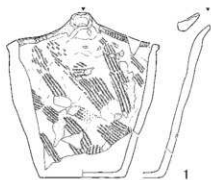
- 1 黒褐色 (S192/3) 砂土 軟 炭化物・骨片少量含む
- 2 暗褐色角色 (S192/3) 砂土 軟 炭屑不規則 均質 [黄土]
- 3 暗褐色 (S192/3) 砂土 軟



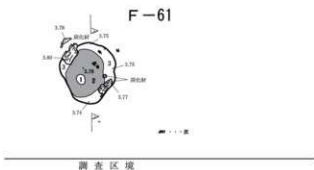
図III-11 F-56~59



- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂礫土、細粒砂、炭、炭化植物含む、底上2層北C、D式土層 [Mh>V]
- 2 暗赤褐色 (2.5YR2/2) 砂土、細粒砂、炭 [炭土]
- 3 黒色 (7.5YR1.7/1) 砂礫土、細粒砂、炭、粘性土 [粘土]

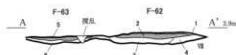
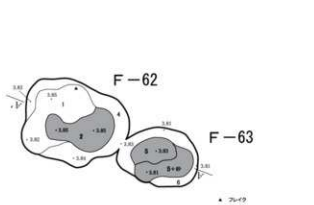


K73



- 1 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂土、炭~中、炭化木片や中骨を含む
- 2 暗赤褐色 (5YR3/4) 砂土、炭~中、炭、小骨片少量含む [粘土]
- 3 暗褐色 (7.5YR2/2) 砂土、中、少量炭骨や中骨

K72



- F-62
- 1 黒褐色 (10YR1/1) 砂土、左L、炭含む、やや不均質
 - 2 紅褐色~褐色 (7.5YR4~4/3) 砂礫土、中、炭化骨片多量、炭層 [粘土]
 - 3 褐色 (7.5YR3/3) + 灰褐色 (7.5YR3/2) 砂土、炭、炭層
 - 4 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂土、中

- F-63
- 5 紅褐色 (5YR4/4) 砂土、炭~中、炭層 [粘土]
 - 6 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂土、炭~中

0 2m
1:40

図Ⅲ-12 F-60~63

F-64 (図III-13 表III-1・2 図版7・12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、赤褐色～褐色を呈した広がりを検出した。長軸方向でトレンチを設定し調査を行った。その結果、赤褐色を呈し強く被熱している主体部が3か所分布しており、中央部をF-64とした。南東側の上位には、微細な骨片、炭化物、黒曜石のチップが混じる。焼土層の端部がF-66・65と重複する。F-65より古く、F-66より新しい。なお出土した炭化木片の放射性炭素年代測定を行った結果、 $1,950 \pm 20\text{yrBP}$ という測定値を得た(Ⅶ章9)。

F-65 (図III-13 表III-1・2 図版7・12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、赤褐色～褐色を呈した広がりを検出した。長軸方向でトレンチを設定し調査を行った。主体部は赤褐色を呈し強く被熱し、調査区域外に広がっている。上位には微細な骨片、炭化物が混じる。北側はF-64と重複する。F-64より新しい。

F-66 (図III-13 表III-1・2 図版7・12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、赤褐色～褐色を呈した広がりを検出した。長軸方向でトレンチを設定し調査を行った。主体部は赤褐色を呈し強く被熱し、F-64と重複する。上位には微細な骨片が混じる。F-64より古い。

(F-64-66：笠原)

F-67 (図III-13 表III-1・2 図版7・12・41)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、重複する暗赤褐色の範囲を検出した。長軸方向で半截したところⅦb層が厚さ6cmほど被熱し、上部には骨片がわずかに含まれていた。縁辺部は漸遷し、周囲は炭化物粒を含む極暗褐色土が落ち込んでいる。焼土層下位には東側にF-68、北西側にF-69が部分的に重複している。遺物は総数102点で、焼土上面から石鏃2点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、フレイクチップ5点、礫8点、焼土中からRフレイク1点、フレイクチップ83点が出土した。

掲載遺物：1は石鏃。平基で細身の二等辺三角形である。正裏面とも微細な加工が施されている。2はスクレイパー。下端部が折損している。加工は両側縁に見られる。

F-68 (図III-13 表III-1・2 図版7・12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、重複する極暗赤褐色の範囲を検出した。長軸方向でトレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が厚さ6cmほどF-67の下位で被熱していた。縁辺部は漸遷し、周囲は炭化物粒を含む黒褐色土が落ち込み、焼土下位に続く。遺物は17点で、焼土上面および焼土中から出土した。

F-69 (図III-13 表III-1・2 図版7・12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、重複する明赤褐色の範囲を検出した。長軸方向でトレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が厚さ13cmほど被熱し、上部に骨片をわずかに含む。縁辺部は漸遷し、周囲は炭化物粒や骨片を含む黒褐色土が落ち込む。焼土層上位には南東側にF-67が重複して形成されている。遺物は総数529点で、焼土上面および焼土中から出土した。

F-70 (図III-13 表III-1・2 図版7・12・41)

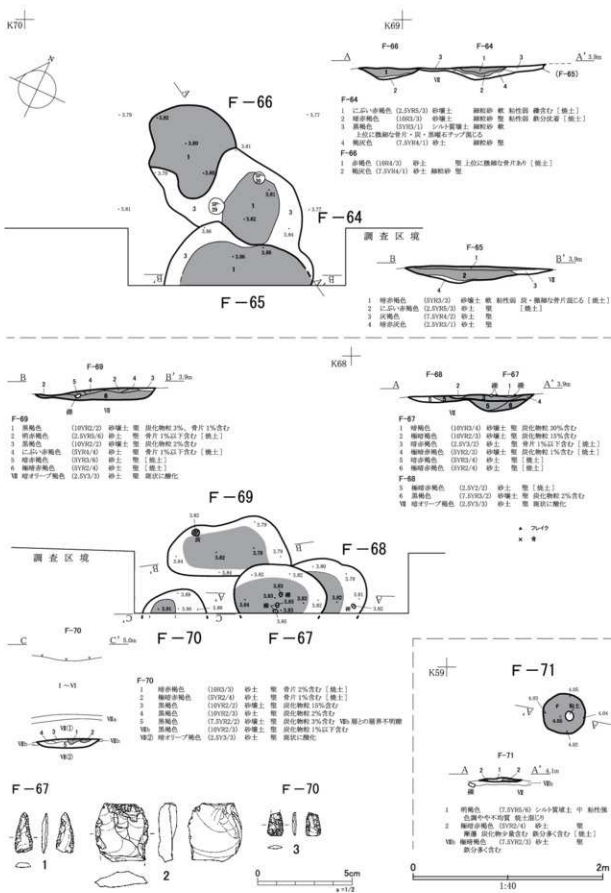
調査・特徴：Ⅶb層を調査中、暗赤褐色の範囲を検出した。調査区域に沿ってトレンチ調査を行ったところ、Ⅶb層が厚さ6cmほど被熱していた。縁辺部は漸遷し、周囲に焼土下位から堆積する炭化物粒を含む黒褐色土が広がっている。遺物は12点で、焼土上面および焼土中から出土した。

掲載遺物：3は石鏃。先端部が折損している。平基で細身、二等辺三角形であったとみられる。裏面の加工はわずかで、素材面が大きく残っている。

(F-67-70：直江)

F-71 (図III-13 表III-1・2 図版12)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、褐色～暗褐色の範囲を検出した。半截したところ、Ⅶb層が厚さ3cmほど被熱していた。上面に暗灰色の粘土塊がある。焼土の南側にはメノウ片が集中する範囲がある



図III-13 F-64~71

(FC-15)。周辺は一部が橙色～暗褐色になった砂層で、酸化した鉄分が付着したと考えられる。

(阿部)

(5) フレイクチップ集中

5か所を検出した。時期は、いずれも検出面と周辺を含めた出土遺物から、縄文時代後半の後北C₂・D時期とみられる。

FC-12 (図Ⅲ-14 表Ⅲ-1・2 図版13)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、北側にわずかに下がる緩斜面上で、チップを中心とする細かな石器が30cm程度の範囲の中にまとまって出土した。出土遺物の総数は24点で、すべて黒曜石製のフレイクチップである。

FC-13 (図Ⅲ-14 表Ⅲ-1・2)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、北側にわずかに下がる緩斜面上で、チップを中心とする細かな石器が2m程度の範囲の中にややまとまって出土した。出土遺物の総数は290点で、すべて黒曜石製のフレイクチップである。

FC-14 (図Ⅲ-14 表Ⅲ-1・2 図版13)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、ほぼ平坦な地形上でチップを中心とする細かな石器が50cm程度の範囲の中にまとまって出土した。出土遺物の総数は944点で、石鏃3点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、フレイクチップ938点である。安山岩製フレイク1点以外はすべて黒曜石製である。

掲載遺物：1は石鏃。上下端が折損しており、全体の形状は不明である。薄手で細かな加工が施されている。

(FC-12~14：直江)

FC-15 (図Ⅲ-14 表Ⅲ-1・2 図版13)

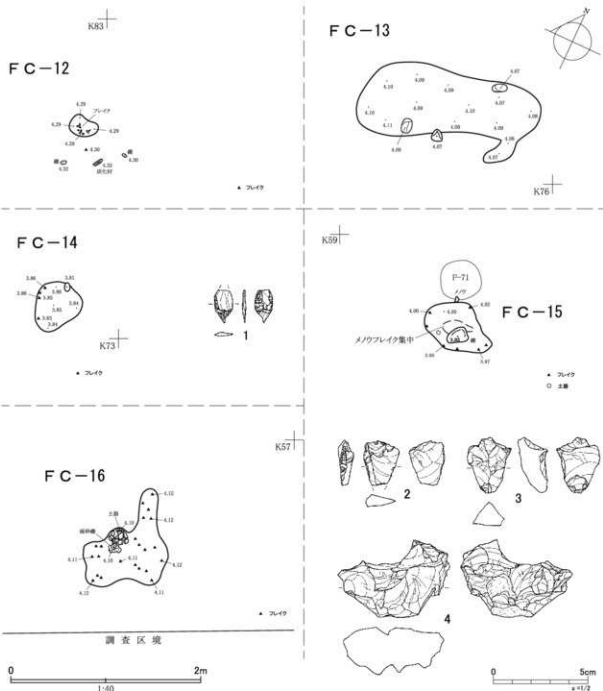
調査・特徴：Ⅶb層を調査中、焼土F-71を検出し、その南側にメノウ片が集中する不整形な範囲を確認した。出土遺物の総数は64点で、スクレイパー1点、楔形石器1点、Rフレイク2点、石核2点、フレイクチップ58点である。石材はすべてメノウである。

掲載遺物：2はスクレイパー。左側縁に急角度の加工が施されている。3は楔形石器の剥片。ウートラパッセを起こし器体の大部分を取り込んだものとなっている。4は石核。主に平坦な正裏面で剥離が行われている。

FC-16 (図Ⅲ-14 表Ⅲ-1・2 図版13)

調査・特徴：Ⅶb層を調査中、土器片や破砕礫がややまとまって出土し、その周囲からチップを主体とする細かな石器が不整形な範囲で出土した。出土遺物の総数は797点で、すべて黒曜石のフレイクチップである。大部分は土壌水洗により回収したものである。

(FC-15・16阿部)



図Ⅲ-14 FC-12~16

b オホーツク文化期の遺構

(1) 竪穴跡

3軒(H-19-21)を検出した。時期は、いずれも掘り込み面や出土遺物、年代測定の結果などから、オホーツク文化刻文期である。

H-19 (図Ⅲ-15-17 表Ⅲ-1・2 図版4・14・41)

確認調査：Ⅰ～Ⅴ層を重機で除去する際に、Ⅲ層が落ち込み範囲を確認した。遺構を想定し、Ⅲ層の落ち込みを残し、人力調査において落ち込みの中心部からグリッドラインに沿った南北方向に土層観察用のベルトを設定しⅥ層上面まで掘り下げた。断面を観察したところ、Ⅵ層まで自然堆積が落ち込んでいる点、平面的に長軸4m程の皿状の窪みとなった点から10世紀以前の遺構と判断し、北側の調査範囲を調査区用地まで拡張して前述のベルトと調査区境界に沿った2本のトレンチ調査を行った。その結果、Ⅶa 1層下部から掘り込まれた平坦な床面と中央部に石組炉を検出した。また、本遺構は砂丘列間の最も低い位置に構築されている。通常であれば竪穴住居跡と認定するが、本遺構は帰属する時期の住居跡に比べ小型であること、形状が隅丸方形を呈すること、柱穴や明瞭な貼床が見られないことから、「竪穴」跡とする。なお、南側のH-20と重複関係があり、本遺構が新しい。

覆土：掘り込み面はⅦa 1層の下部で、遺構上位はⅦa 1層に10～20cm程覆われている。遺構内は黒褐色・暗褐色土を主体として堆積しており、中央部ほど薄層となっている。壁際には三角堆積の3・4層がみられた。埋土は自然堆積と考えられる。

床・壁：床面はほぼ平坦だが、堅密度が弱いⅦ層となっている。南西部で貼床の残部の可能性がある白色の粘土が見られた。壁はやや開き気味に立ち上がる。

付属遺構：焼土2か所を検出した。

〔炉〕H-19HF-1

「竪穴」中央部やや西寄りにある石組炉。扁平な円礫と円礫を分割した板状加工礫13点が楕円形に配置されている。炉石は全て安山岩製で、横に立てて並べている。長径は94cm。炉の内側にあたる礫表面は薄く赤色や黒色に変色しているものが多い。南側の炉石列中に楕円形の抜き取り痕を確認した。確認面では東寄りの炉内外に炭化木片が密集してみられた。炉内の土層は中央に炭化木片・骨片を含む赤褐色土の被熱層、その上下に炭化木片を含む黒褐色土が堆積している。炉内を清掃しながら繰り返し利用したものと考えられる。遺物は上面から礫1点が出土した。明瞭な被熱痕は確認できなかった。

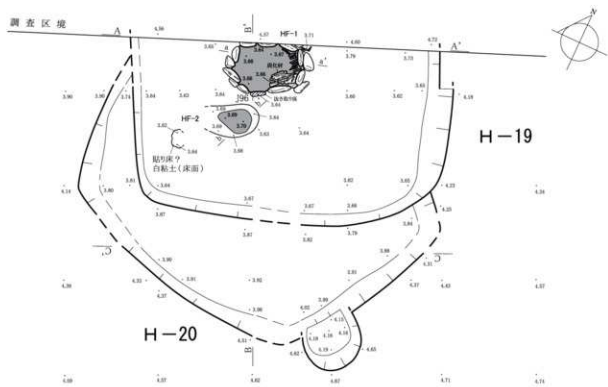
焼土を採取してフローテーション作業を行った(表Ⅲ-9)。また、同焼土で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、1340±20yBP(δ¹³C補正あり)という結果であった(Ⅷ章9)。

〔炉〕H-19HF-2

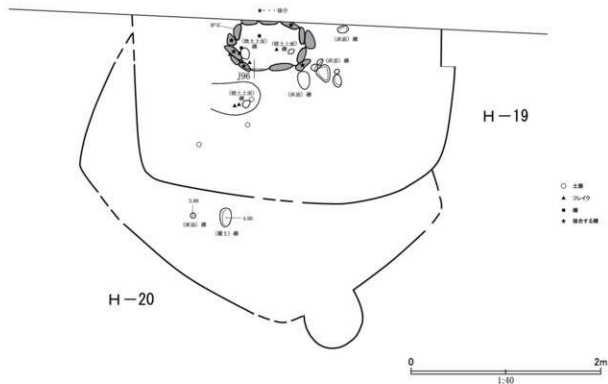
「竪穴」北西部にある床面で検出した小型の地床炉。HF-1と近接した位置にある。被熱面の径は約35cmで、その下位に炭化物粒を含む黒褐色土が見られる。明瞭な被熱痕は確認できなかった。焼土を採取してフローテーション作業を行った(表Ⅲ-9)。また、同焼土で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、1350±20yBP(δ¹³C補正あり)という結果であった(Ⅷ章9)。

遺物出土状況：遺物は炉に近い中心部から多く出土している。こぶし大の礫がHF-1の東側に散在して見られた。

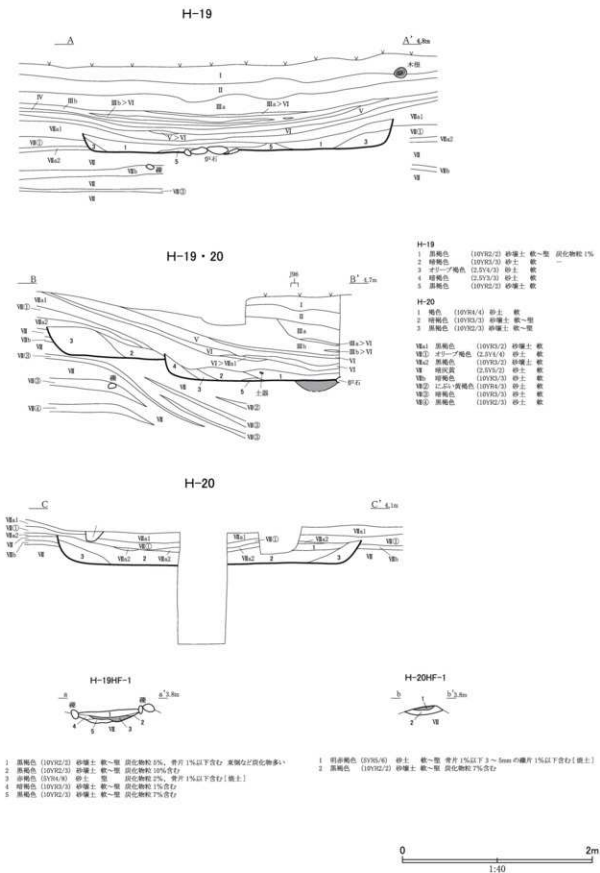
出土遺物の総数は61点で、土器が5点、石器等が26点、礫が30点である。床面からフレイク7点、台石2点、礫9点、覆土からオホーツク刻文土器5点、たたき石1点、台石1点、礫9点が出土した。またHF-1では上述の炉石、HF-2上面からフレイク12点、礫1点が出土した。



遺物出土状況

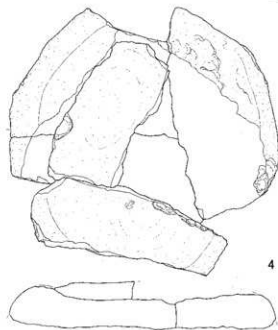
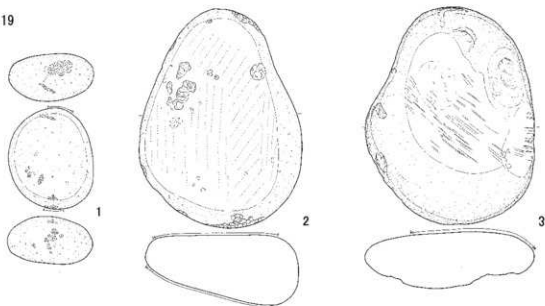


図Ⅲ-15 H-19・20 (1)

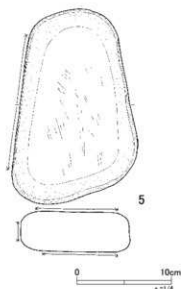


図Ⅲ-16 H-19・20 (2)

H-19



H-20



図Ⅲ-17 H-19・20出土の遺物

掲載遺物：1はたたき石。扁平な安山岩の上下端に敲打痕が見られる。2・3は台石。4は炉石5点の接合した礫の状態。大型で扁平な安山岩を板状に分割して板状加工礫として炉石に利用している。出土位置は図Ⅲ-16の礫輪郭に星印として記した。(直江)

H-20 (図Ⅲ-15~17 表Ⅲ-1・2 図版14・15・41)

確認調査：H-19でトレンチ調査を行った際、その南側でⅦa 2層中からの掘り込みを確認した。やや北側に傾斜する床面とⅦb層を切る壁の立ち上がりを検出した。H-19に切られているため、確認できた平面形の角部は3か所のみであるが、各辺は130度前後で交わることから、平面形は五角形が推定される。通常であれば堅穴住居跡と認定するが、本遺構は帰属する時期の住居跡に比べ小型

であること、柱穴や明瞭な貼床が見られないことから、「堅穴」跡とする。

覆 土：掘り込み面はⅦa 2層の下部で、遺構上位はⅦa 2層に部分的に覆われている。遺構内の土層は1～3層に分層した。壁際に黒褐色土の三角堆積が見られ、その上位を広く褐色土が覆っている。最上位の1層は厚さ約10cmで西側のみで確認された。

床 ・ 壁：床面は北側に向かって緩やかに傾斜している。床面は堅密度が弱いⅦ層となっている。壁はやや開き気味に立ち上がる。

付 属 遺 構：土坑1基を検出した。

〔土坑〕H-20HP-1

「堅穴」南東側に張り出す土坑。長軸50cm、深さは約45cmで平面形はやや不整な円形である。底面はほぼ平坦で、住居内側にやや傾斜し、「堅穴」床面と土坑底面の比高は20cm程度の階段状となっている。

遺物出土状況：南西側で床面と覆土下位から少量の礫・礫石器が出土した。出土遺物の総数は5点で、床面から礫1点、覆土から台石1点、礫3点である。

掲 載 遺 物：1は台石。平坦な正裏面のほか側面の小口面にも平滑面が見られる。（直江）

H-21（図Ⅲ-18 表Ⅲ-1・2 図版4・15・42）

確 認 ・ 調 査：Ⅶa層を調査中に検出したいくほみを調査したところ、礫集中S-11（後述）を確認した。これは当遺構の「上層遺構」にあたる。

S-11の調査後、一部の礫を残しながら十字状のトレンチを延長したうえで掘削したところ、平坦面と壁の立ち上がりを確認した。覆土を掘り下げ、平坦な床面と壁を精査し、炉を検出した。帰属する時期の他の住居跡に比べ径が2.5m以下と小型であることや付属施設が欠落するものが多いことから、「堅穴」の表現とする。掘り込み面はⅦa層中である。

覆 土：上位（1層）はⅦa層に相当する暗褐色砂層で、層中に礫集中S-11が形成されている。堅穴中央南側に分布する中位（2層）は、炭化木片を多く含む黒色土が堆積する。壁面付近～下位（3・4層）は暗褐色～黒褐色の砂層で、色調がやや不均質である。

床 ・ 壁：床面はⅦb層以下の砂層（Ⅶ層）に達し、おおむね平坦である。壁は急に立ち上がる。堅穴は緩斜面に構築されており、掘り込み面と床面の高低差は緩斜面上方の南側が約50cm、下方の北側が約25cmと差がある。

付 属 遺 構：石組炉1か所を検出した。

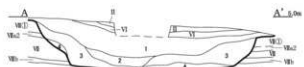
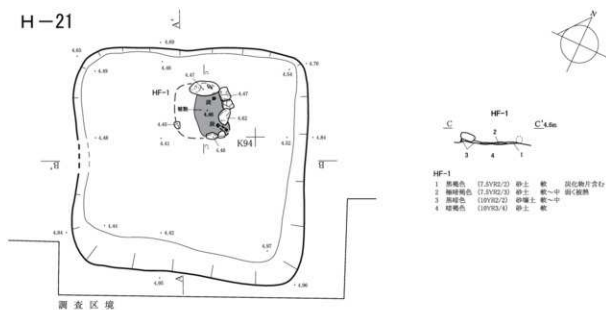
〔炉〕H-21HF-1

堅穴の中央から北寄りに位置する。方形配置の石組炉とみられ、西半はコの字状に残存するが、東側は大部分を欠いている。礫は北側の1点が径約30cmと大型であるが、それ以外は10～20cmほどの大きさである。炉の周辺から出土した礫片と接合するものがある。炉を構成する礫は、ほとんどが弱く被熱していると観察され、一部にタール状の黒色物質が付着している。炉内の砂層は極暗褐色を呈し、被熱している。被熱層上面から炭化木片が少数出土している。

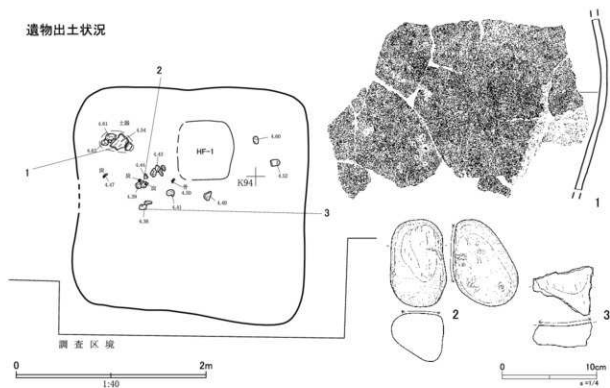
遺物出土状況：遺物は炉の周辺～堅穴北西部の覆土から出土した。炉の周辺では、礫や炭化物が散在していた。堅穴北西部の覆土では、炭化物のほか土器がまとまって出土した。また前述のとおり、堅穴南側の覆土では微細な炭化木片がやや多く出土した。

出土遺物の総数は104点で、土器が81点、石器等が2点、礫が21点である。床面からすり石1点、礫7点、覆土からオホーツク刻文土器81点、台石1点、礫6点が出土した。またHF-1からは炉石

H-21



遺物出土状況



図Ⅲ-18 H-21

を含め礫が8点出土した。

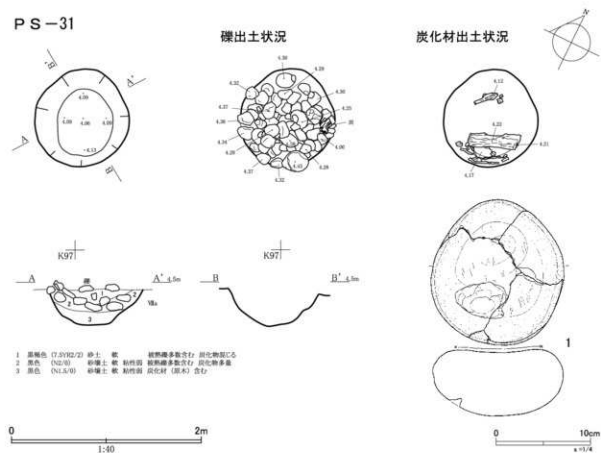
掲載遺物：1はオホーツク文化土器。覆土3層中からまともに出て出土した。甕の胴部で、無文である。2はすり石。小口面に擦り面が見られる。3は台石の破損品である。(阿部)

(2) 集石土坑

1基(PS-31)を検出した。時期は、検出層位と周辺から出土した遺構や遺物等から、オホーツク文化刻文期である。

PS-31 (図Ⅲ-19 表Ⅲ-1・2 図版16・42)

確認調査：Ⅶa層の上面を精査中に、J96・97区で円礫がやや環状に散在し、その外周には炭化物が一部弧を描くように包含された範囲を確認した。集石土坑を想定し調査を行った。その結果、径約1.0mを測る概ね円形を呈した落ち込みで、その中には円礫等が密に充填されていた。集石は中央部に向かってやや凹んでいる。集石の表面は酸化や被熱の影響等により赤色化したものや、ひび割れているもの、油脂が付着したようなものもある。平面観での記録終了後、南西から北東方向で半截を行った。礫は覆土中層まで詰められていた。また、坑底からは燃料材と考えられる炭化材も出土した。覆土下層から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行った結果、1,540±20yrBPという測定値を得た(Ⅷ章9)。



図Ⅲ-19 PS-31

覆土：黒色の砂壤土で、3層に分けた。覆土の2層から3層にはやや粘性があり、砂全体に油脂がしみ込んだような様相を呈する。覆土中には炭化物は多く含まれるが、焼骨等はない。

坑底・壁：底面はやや狭く凹んでおり、壁は緩やかに立ち上がる。坑底の立ち上がりから壁面全体が赤色化している。

遺物出土状況：出土遺物の総数は148点で、覆土から台石が9点、礫が139点出土した。また上述のとおり、覆土下位からは長さ約55cm、太さ約15cmの炭化材（原木）も出土した。

掲載遺物：1は台石。正面の平滑面が皿状に浅く窪んでいる。（笠原）

（3）礫集中

2か所（S-11・12）を検出した。時期はいずれも検出層位と周辺を含めた出土遺物から、オホーツク文化刻文期と推察される。

S-11（図Ⅲ-20 表Ⅲ-1・2 図版16・42）

調査・特徴：Ⅶa層上面を精査中、K94区杭付近でⅦ層（Ma-b5）が環状に分布する範囲を検出した。土層観察用の十字のベルトを設定しトレンチ調査を行ったところ、Ma-b5が落ち込み、その下から礫が多数出土することがわかった。ベルトを残して掘削し、すり鉢状に落ち込むMa-b5を検出した。さらに掘削したところ、落ち込みの中央において礫がおむね楕円形の範囲で密にまつまって出土し、礫集中とした。礫は径10～20cm（大礫）の亜円礫が多い。また礫群の隙間や近接した位置から土器破片が多数出土した。

出土遺物の総数は165点で、内訳はオホーツク刻文土器71点、台石1点、礫93点である。

なお遺構は、下位の竪穴遺構H-21の覆土上に形成された「上層遺構」にあたる。

掲載遺物：1はオホーツク刻文土器。甕の胴～底部で、無文である。下位の遺構H-21出土土器と同一個体の可能性がある。2は台石の破損品である。

S-12（図Ⅲ-20 表Ⅲ-1・2 図版16・42）

調査・特徴：Ⅶa層を調査中、礫がまつまって出土する長楕円形の範囲を確認した。調査区塊の1点は径30cm超の巨礫であるが、それ以外は径10～20cmほどの大礫である。一部に直線的なブロックがみられる。出土遺物の総数は20点で、内訳は板状加工礫1点、礫19点である。

掲載遺物：3は板状加工礫。小型で正表面に分割面がある。（阿部）

（4）フレイクチップ集中

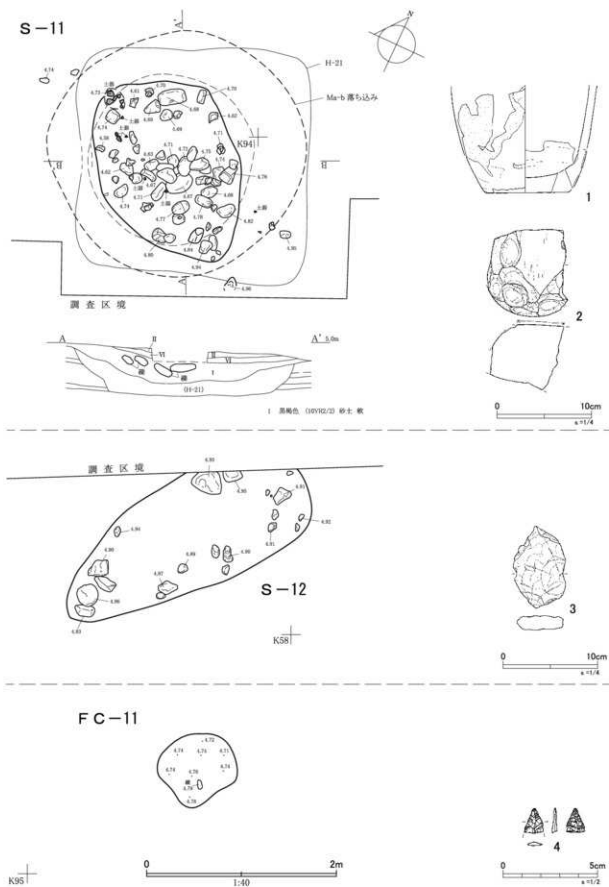
1か所（FC-11）を検出した。時期は、検出層位と周辺を含めた出土遺物から、オホーツク文化刻文期と推察される。

FC-11（図Ⅲ-20 表Ⅲ-1・2 図版16・42）

調査・特徴：Ⅶa層を調査中、H-21の北西側に近接する緩斜面上でチップを中心とする細かな石器が80cm程度の範囲の中にややまつまって出土した。

出土遺物の総数は4,187点で、内訳は石鏃1点、フレイク4,185点、礫1点である。なおフレイクの多くは水洗選別により回収したものである。

掲載遺物：4は石鏃。下端が破損している。両面に平坦剥離が施されている。（直江）



図III-20 S-11・12・FC-11

c アイヌ文化期の遺構

(1) 貝・骨ブロック

10か所（SB-1～10）を検出した。全体的に平面的または薄層で「貝塚」のようなマウンドがないため、「ブロック」の表現にとどめおいている。時期はいずれも検出面や出土遺物から、樽前a降下火山灰（1739年）より新しい近世アイヌ文化期とみられる。

SB-1（図Ⅲ-21 表Ⅲ-1 図版17）

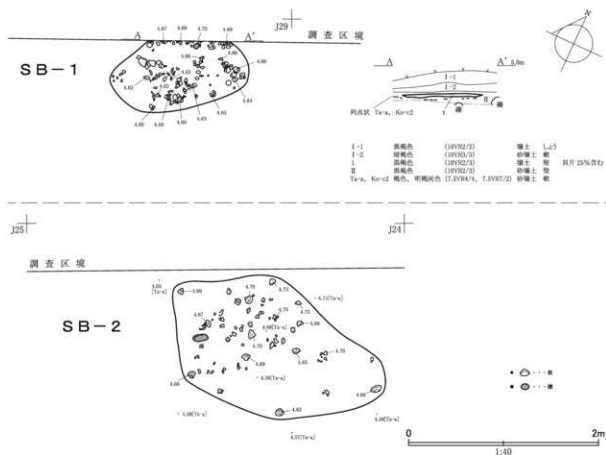
調査・特徴：Ⅱ層上部を調査中、南側にわずかに下がる緩斜面上で、ピノスガイを中心とした貝類が1.5m程の範囲の中でまとまって出土した。周辺をTa-a上面まで掘り下げ平面的な広がりを把握し、調査区域で断面を記録した。

出土遺物：水洗選別により、貝類約1.4kgのほか魚骨・獣骨片がわずかに回収できた（表Ⅲ-10）。貝類はサラガイ1点のほかはすべてピノスガイで、最小個体数は27である。（直江）

SB-2（図Ⅲ-21 表Ⅲ-1 図版17）

調査・特徴：Ⅱ層上部を調査中、南側にわずかに下がる緩斜面上で、貝類がややまとまって出土した。周辺をTa-a上面まで掘り下げ平面的な広がりを把握し、貝・骨ブロックとした。径約2.5mの規模があるが、他のブロックより貝類の分布密度が小さい。

出土遺物：水洗選別により、貝類約0.6kgのほか魚骨・獣骨片がわずかに回収できた（表Ⅲ-10）。貝類はピノスガイ（最小個体数11）、ウバガイ（最小個体数2）、その他少数がある。（阿部）



図Ⅲ-21 SB-1・2

SB-3 (図Ⅲ-22・23 表Ⅲ-1・2 図版17・42)

調査・特徴：表土を除去し、Ⅱ層上面を精査して周辺を含めた範囲を掘り下げたところ、貝や骨片が東西方向に広がる集中範囲を検出した。標高4.7m前後、やや南側に傾斜する地形で、T a - a 火山灰より上位のⅡ層上位に分布する。また北側の調査区外にも広がっている。貝・魚骨ブロックとして調査を行った。動物遺存体は魚骨・貝を中心に、獣骨片も散在していた。貝類ではピノスガイ、ウバガイが多く占める。獣骨ではシカが大半を占めるが、範囲中央付近では犬と考えられる下顎骨等も見られた。また骨角器等や金属製品が広い範囲に分布していた。

土層断面は南北23ラインの東側と灰層範囲に設定した。貝・骨類は大部分が層をなさず、Ⅱ層上に面的に出土した。また当ブロックの上位と下位から、黒褐色の砂層をはさみ二種類の火山灰も分布している。火山灰の分析結果では、上位が樽前 a 降下火山灰 (1739年)、下位は駒ヶ岳 c₂ 火山灰 (1694年) であることが報告されている (Ⅷ章 9)。

出土遺物：人工遺物の総数は48点で、石器等が19点、金属製品13点、骨角器等16点である。石器は石錐1点、Rフレイク2点、フレイク11点、たたき石2点、台石1点があり、金属製品は刀子、釘などの鉄製品のほか、真鍮製の環状製品がある。骨角器は中柄およびその未成品、ヤス未成品のほか、各種加工残片がある。そのほか、碟13点、樹皮2点などが出土した。

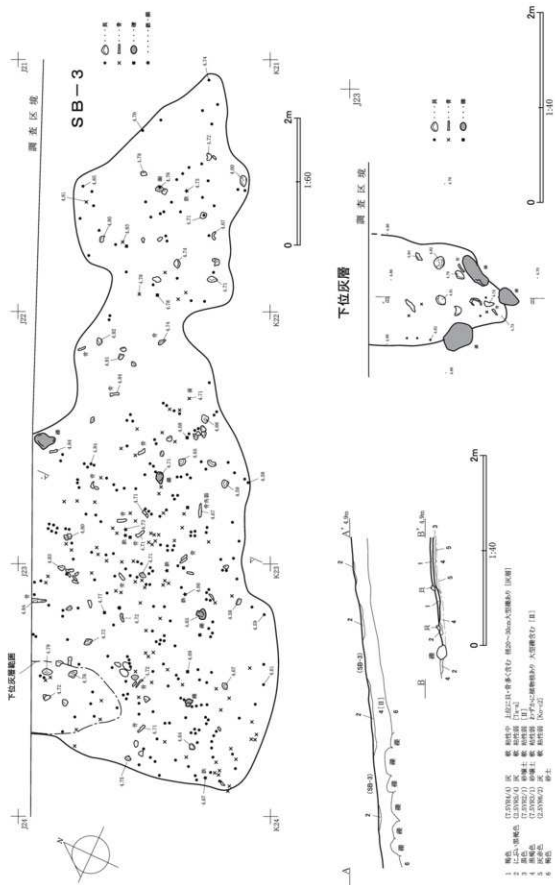
水洗選別により、貝類約9kgのほか魚骨約100g、獣骨約1kgが回収できた。また下位灰層からは炭化木片を約16g回収した (表Ⅲ-10)。貝類はピノスガイ (最小個体数46)、ウバガイ (最小個体数30)、サラガイ (アラスジサラガイ含む)、スノメアサリ、ホタテガイ、エゾタマキガイなどの二枚貝のほか、エゾボラ、エゾタマガイなどの巻貝が少数ある。他のブロックに比較して種類が多く、ウバガイの比率が高い点特徴である。魚骨はサケ科・タラ科・カジカ科が多く、ヒラメ・カレイ類、アイナメ・ウグイなどがある。鳥類ではウミスズメ科・カモメ科などがある。また獣骨が他のブロックに比べて多く、シカ・イヌが主体をなし、キタキツネ、アザラシなどがある。

掲載遺物：1～5は石器。1は石錐。メノウ製剥片の鋭い角部を利用して刃部を作成している。2はRフレイク。正面右側面にわずかに加工が施されている。3・4はたたき石。長軸上の端部に敲打痕が見られる。4は敲打の衝撃により、下端部の一部が剥落している。5は台石。中央の一部に平滑面が見られる。6～12は金属製品。6は真鍮製の耳輪と考えられる。孔が1か所あけられ、一方は先端が欠損している。7は平棟平造りの刀子で切先を欠失する。8・9は釘の一部。10・11は断面が長方形で下方がややすぼまり、楔と思われる。12は鉤状製品 (マレク) の端部の可能性がある。

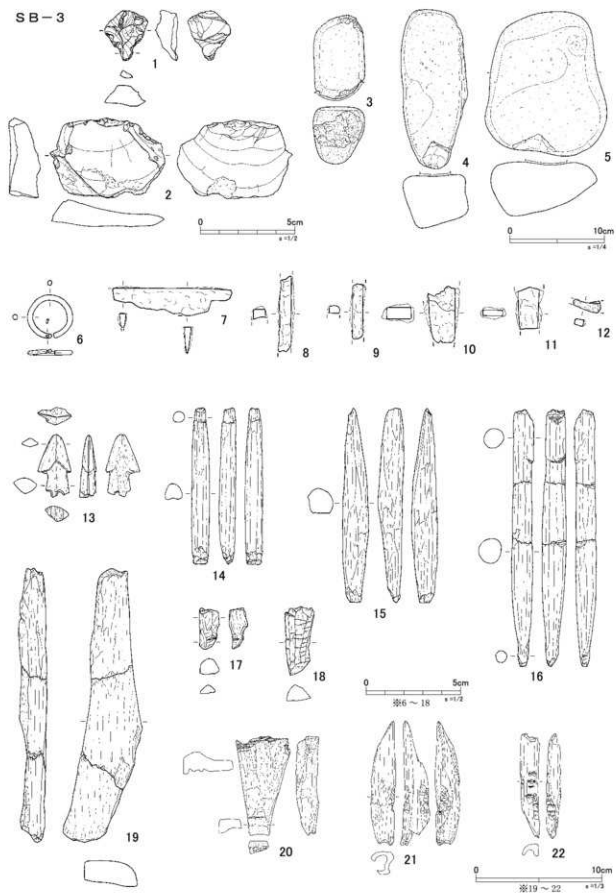
13～22は骨角器および加工残片等。13は鹿角製の鉤頭。かえしが作り出されている。断面は三角形に近いひし形で、表面中央の稜が明瞭である。表面は鹿角の海面質が露出する。14は中柄。シカの手中骨が形用いられ、再加工中に放棄した可能性がある。15は中柄の未成品。16は一見中柄にも見えるが、かえしの加工があり、ヤスなどの刺突具の未成品と考えられる。17は何らかの加工品。18・21・22は骨角器制作時の残片。19は海獣骨片で骨角器の原材となるもの。20は鉤頭などの原材となるもので、上端に切断痕、下端に加工痕がある。

(笠原)

6について非破壊での材質分析を行った。委託先によるクリーニング・保存処理後の資料表面をエタノールで清拭し分析に供した。分析装置は日本電子製エネルギー分散型蛍光X線分析装置JSX-3220を使用し、定性分析およびFP法による標準試料を用いない半定量分析を行った。装置の仕様は、管球：Rh、検出器：Si(Li)半導体検出器、測定条件は、管電圧：30.0kV、管電流：自動設定、雰囲気：真空、照射径：7mm、測定時間：300秒。分析は図版42-5に示した3か所で行った。検出された主要元素の平均値(重量%)は、銅90.2%、亜鉛4.7%で、6の材質は銅-亜鉛合金の真鍮である。(柳瀬由佳)



図Ⅲ-22 SB-3

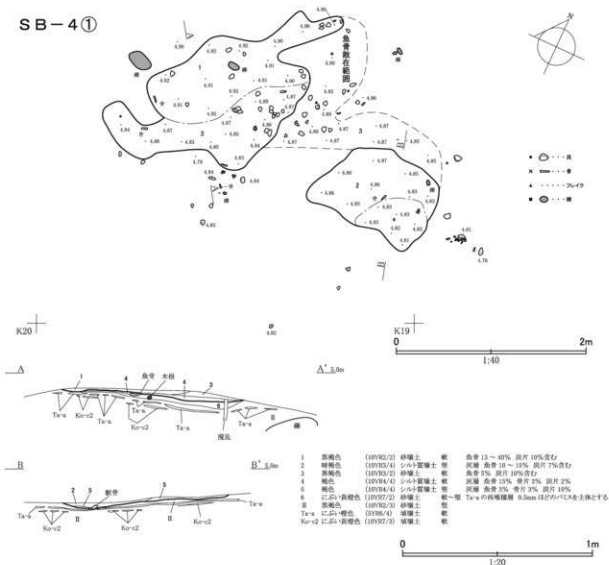


図Ⅲ-23 SB-3出土の遺物

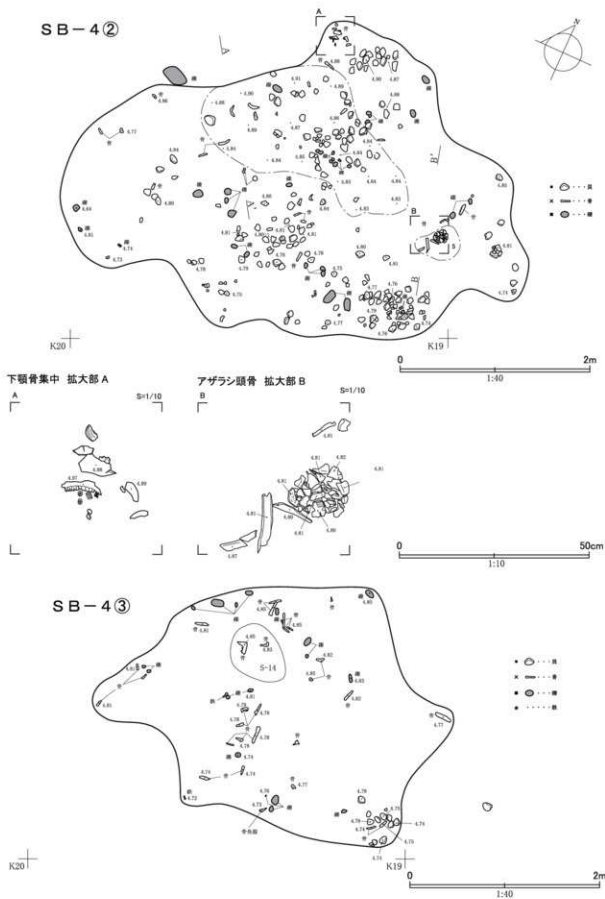
SB-4 (図Ⅲ-24~28 表Ⅲ-1・2 口絵2 図版18・43)

調査・特徴：表土を除去しⅡ層上面を精査した段階で、魚骨と貝を中心とした近接する2か所の濃密な集中を東西に検出し、両者を合わせ貝・骨ブロックとした(図Ⅲ-25、SB-4①)。南側にわずかに下がる緩斜面上に立地する。それぞれ南北方向にトレンチを入れ、断面の観察を行った。その結果、両者とも下位に魚骨を非常に多く含む灰層がみられた。平面的に掘り下げたところ、貝・骨ブロックの範囲は約5m、下位の灰層の範囲は東西方向に約3m広がり、上面で確認した集中は繋がり大きな一つの範囲となる(図Ⅲ-26、SB-4②)。動物遺存体は魚骨・貝を中心に、獣骨も一定程度みられた。獣骨ではシカが大半を占めるが、灰層5の上面ではアザラシの頭蓋骨が潰れた状態で一個体分出土した。その他にシカの下顎骨が灰層周辺に散在している。その後調査を進めると、範囲が縮小し(図Ⅲ-26、SB-4③)獣骨類の出土率が高い傾向がみられた。また、灰層4中に70cm程の範囲に小礫の集中がみられ、S-14として別途記録し取り上げた。また灰層で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定では、190±20yBP(δ¹³C補正あり)という結果であった(Ⅷ章9)。

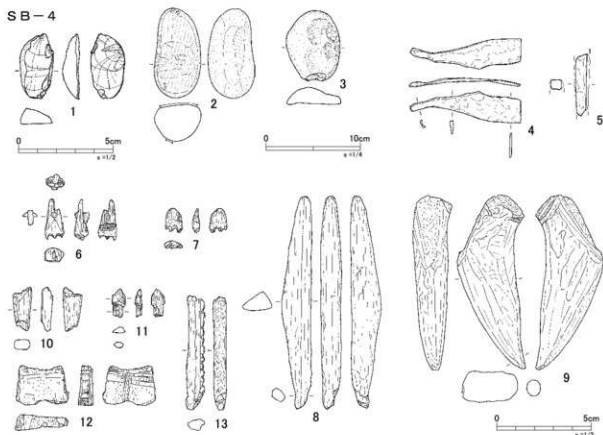
出土遺物：人工遺物の総数は36点で、石器等が19点、金属製品7点、骨角器等10点である。石器等はRフレイク1点、すり石1点などがある。金属製品は鉄釘、不明鉄片、銅製品各1点がある。骨



図Ⅲ-24 SB-4 (1)



図Ⅲ-25 SB-4(2)



図Ⅲ-26 SB-4出土の遺物

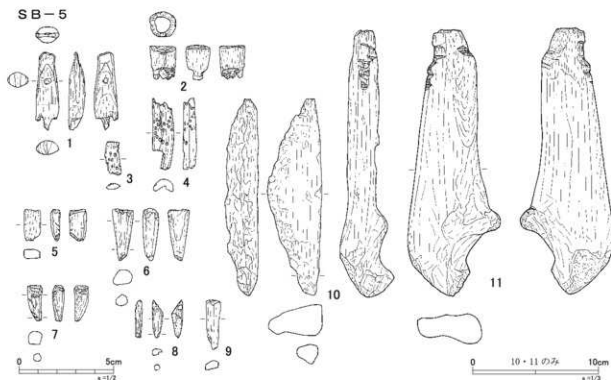
角器等は銆頭2点、鉤状製品のほか、未成品や残片が複数ある。ほかに礫が37点出土した。

水洗選別により、貝類約6.7kgのほか魚骨約3.8kg、獣骨約1kgが回収できた。また炭化木片を約580g回収した(表Ⅲ-10)。他のブロックに比べ、魚骨の比率が高い。貝類はピノスガイ(最小個体数93)が主体で、ウバガイ(最小個体数5)、サラガイ、ホタテガイ、バカガイなどの二枚貝のほか、巻貝、フジツボが少数ある。魚骨はサケ科、カジカ科、ヒラメ・カレイ類、タラ科が多く、アイナメ、ウグイ、ニシンなどがある。特に、オオカミウオは注目すべきである。鳥類は、ウミスズメ科、アホウドリ科などがある。獣骨は、上記のアザラシの頭蓋骨のほか、シカの顎骨や四肢骨などがある。

掲載遺物：1～3は石器等。1はRフレイク。横長剥片を素材として右側縁の一部に加工が施されている。2はすり石。正面を中心に擦り痕が認められる。3は加工痕ある礫。下端に小型の加工が施されている。4は銅製品で、薄い板状のもの。5は鉄釘。6～13は骨角器等。6・7は銆頭で、6は目釘(鉄)が残存する。被熱し白色化している。表面は目釘の位置から左右斜方向に細い筋状の沈線がみられ、裏面には金属部分を外すためと考えられる切込みがある。7は作り出しによるものとみられる。8は中柄の未成品。両端部に加工痕がある。9は鹿角の先端に近い部分を利用した鉤状製品。切断痕が明瞭である。10は刺突具等、何らかの骨角器片で、面取加工がみられる。11は未成品。12・13は残片で、加工痕が明瞭に残る。(直江)

SB-5 (図Ⅲ-27・28 表Ⅲ-1・2 図版18・43)

調査・特徴：表土を除去しⅡ層上面を精査した段階で、貝がまとまって出土する地点を確認した。周辺を含めた範囲を掘り下げたところ、貝や骨片が集中する範囲を検出し、貝・魚骨ブロックとした。標高4.8m前後のほぼ平坦なⅡ層中に不整形な範囲で分布する。その中でも特に貝類・魚骨等が濃密



図Ⅲ-28 SB-5出土の遺物

に分布する範囲をそれぞれ貝集中①・②・③、魚骨集中②・③（①は欠番）とした。貝集中①はピノスガイの貝殻が原形を保っているものが多い。貝集中②は魚骨集中②と重複し、破片が多い。貝集中③はやや密度が低い。貝集中周辺も含め、シカの各部位が良好に残存していた。魚骨集中②・③は薄い灰層を伴い、魚骨が多量に含まれている。

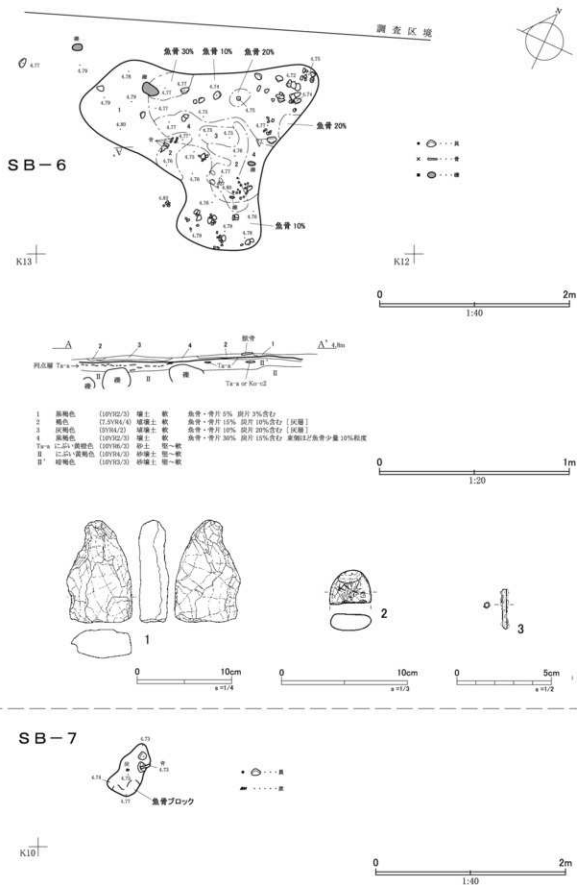
土層断面は南北16ライン付近で確認した。貝類は大部分が層をなさず、II層中に面的に含まれていることが確認できた。ただし魚骨集中②付近には薄い灰層がみられる。また当ブロックの下位から、それぞれ薄層をはさみ2層の火山灰層を検出した。火山灰の分析を委託したところ、上位はT a - a、下位はT a - aとK o - c₂が混合した可能性がある、との結果が報告された（Ⅷ章10）。

なお、魚骨集中②で採取した炭化物を試料とした¹⁴C年代測定は、170±20yB.P.（δ¹³C補正あり）という結果であった（Ⅷ章9）。

出土遺物：人工遺物の総数は37点で、石器等が12点、鉄製品6点、骨角器等が19点である。ほかに礫28点、樹皮4点などが出土した。骨角器は銜頭1点、装飾品1点、弓筈状1点のほか、未成品、残片、原材がある。

水洗選別により、貝類約13.5kgのほか魚骨約0.9kg、獣骨約0.7kgが回収できた。また炭化木片を約370g回収した（表Ⅲ-10）。貝類は全ブロックの中で最も多い。ピノスガイ（最小個体数177）の比率が特に高く、バカガイ（最小個体数28）、ウバガイ、サラガイなどの二枚貝のほか、エゾタマガイなどの巻貝、フジツボが少数ある。魚骨はカレイ類、カジカ科、タラ科が多く、カサゴ類、アイナメ、ウグイなどがある。サケが少数である点が特徴である。獣骨は、シカの顎骨や四肢骨、踵骨などが良好な状態で残存していたほか、ヒゲマの尺骨が1点出土した。

掲載遺物：1～11は骨角器等。2～4・7・9は白色化しており、被熱によるものとみられる。1は海獣骨製の銜頭で、銅鏃の基部が目釘とともに残存している。装着部分以外の銅鏃を裁断し、残



図III-29 SB-6・7

存部の左右両側を叩き潰し、銅鍍部とともに再利用したと考えられる。2は鹿角製の「弓筈」状の製品。下端に切込みがみられる。3・4は陸獣骨を利用した装飾品。円形刺突列が曲線状に連続する。5は中柄の未成品と考えられる。全面面取りされている。6～9は先端が尖り、刺突具等の製品・未成品・残片と考えられるもの。7は切込み、9は面取りがみられる。(阿部)

SB-6 (図Ⅲ-29 表Ⅲ-1・2 図版19・43)

調査・特徴：表土を除去しⅡ層上面を精査した段階で、貝を中心とするまとまりと魚骨を多く含む帯状の灰層を検出し、貝・骨ブロックとした。北側にわずかに下がる緩斜面上に立地する。他のブロックに比べ小さい範囲で集中の濃淡が大きく変化していることが特徴である。東西方向にトレンチを入れ、断面の観察を行った。その結果、灰層は上部のみ部分的にみられ、下部には魚骨を多く含む黒褐色土が広がっている。全体的に炭化木片の含有量が高い。

出土遺物：人工遺物の総数は36点で、石器等ではフリイク28点、線刻礫1点、加工痕ある礫1点火打石?1点がある。ほかに鉄製品が5点あり、釘などを含む。水洗選別により、貝類約2.3kgのほか魚骨約1kg、獣骨約0.2kgが回収できた。また炭化木片を約240g回収した(表Ⅲ-10)。比較的魚骨の割合が高い。貝類はビノスガイ(最小個体数22、ウバガイ(最小個体数7)、サラガイ、エゾバカガイなどの二枚貝のほか、巻貝が少数ある。魚骨はタラ科、カジカ科、ヒラメ・カレイ類が多く、サケ科がほとんど見られない。獣骨はシカ、アザラシなどがある。

掲載遺物：1・2は石器等。1は加工痕ある礫。全体的に粗い加工に覆われている。2は線刻礫。小型で扁平な泥岩の平坦面に細い線刻が多方向から刻まれている。3は鉄釘の下端付近。(直江)

SB-7 (図Ⅲ-29 表Ⅲ-1・2)

調査・特徴：調査区東端部方面のⅡ層上部を調査中、貝類がややまとまって出土した。周辺をT a-a 上面まで掘り下げ平面的な広がりを把握し、貝・骨ブロックとした。最も小規模なブロックである。魚骨がやや密に含まれる範囲が部分的にある。

出土遺物：水洗選別により、貝類約80gのほか魚骨約15g、獣骨約10gが回収できた。また炭化木片を約10g回収した(表Ⅲ-10)。貝類はエゾバカガイ、ビノスガイ、ウバガイが少数ある。獣骨はイヌのほか小動物が含まれている。(阿部)

SB-8 (図Ⅲ-30 表Ⅲ-1・2 図版19・43)

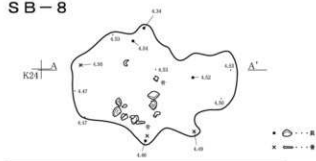
調査・特徴：J・K24区の南側Ⅱ層上面を精査中に、貝や骨がややまとまっている灰層を確認した。周辺にはT a-a 火山灰と考えられるものも見られる。主体部を掘り下げ、平面的な広がりを把握し、貝・骨ブロックとした。概ね東西方向で半截し、土層断面を記録した。魚骨がやや密に含まれる部分もある。下位にはK o-c₂火山灰も確認した。

出土遺物：水洗選別により、フリイク3点、鉄製品6点と骨角器等2点を回収した。鉄製品は釘2点、不明鉄片4点、骨角器等は未成品や残片である。また灰層のサンプルから、人の歯を1点回収した。下顎の第一乳臼歯または成人であれば上顎の第二小臼歯とみられる。

自然遺物は貝類約0.8kgのほか魚骨約400g、獣骨約40gが回収できた。また炭化木片を約80g回収した(表Ⅲ-10)。貝類はビノスガイ(最小個体数7)、ウバガイ(最小個体数2)のほか、サラガイ、ホタテガイ、エゾキンチャクガイ、オオミゾガイ、エゾバカガイなどの二枚貝、エゾボラ、エゾタマガイなどの巻貝が少数ある。比較的種類が多い。魚骨はサケ科を主体とし、ヒラメ・カレイ類、カジカ科、タラ科などがある。獣骨はシカの四肢骨片などのほか、イヌの歯がある。鳥骨はウミスズメ科など少量含まれる。

掲載遺物：1は鉄釘。2は骨角器未成品で、先端部が加工されている。(笠原)

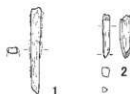
SB-8



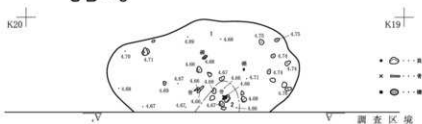
調査区境



- 1 におし・褐色 (T.PV02/4) 灰 軟 動物中「炭層」上部に貝・骨、下部にも魚骨を含む 炭化物多量を含む
 2 黒褐色 (T.PV02/1) 砂礫土 軟 粘性弱「炭層」上部にTe-a 炭化物、下部にNo-aあり



SB-9



調査区境



- 1-1 黒褐色 (T.PV02/7) 砂土 軟
 1-2 灰褐色 (L.PV7/3) 砂土 L:2.5
 1 黒褐色 (I.PV02/2) 砂礫土 軟～硬 高骨 10% 炭片 10%含む
 2 におし・黄褐色 (I.PV06/3) 礫礫土 軟 高骨 10% 炭片 10%含む (炭層)
 3 黒褐色 (I.PV02/3) 砂礫土 軟
 Te-a におし・黄褐色 (I.PV07/4) 砂礫土 軟



図III-30 SB-8・9

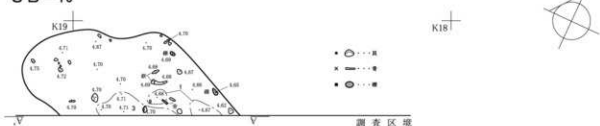
SB-9 (図III-30 表III-1・2 図版19・43)

調査・特徴：II層上部を調査中、南側にわずかに下がる緩斜面上で、ピノスガイを中心とした貝類が2m程の範囲の中でまとまって出土した。SB-4・10と隣接する。周辺をT a - a上面まで掘り下げ平面的な広がり把握し、調査区境で断面を記録した。中心部ほど魚骨の含有量が高くなり、下位には灰層がみられた。

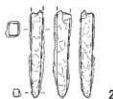
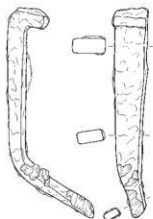
出土遺物：2点出土し、鉄製品が1点、骨角器1点がある。ほかに礫1点を回収した。

水洗選別により、貝類約600gのほか魚骨約200g、獣骨約20gが回収できた。また炭化木片を約70g回収した(表III-10)。貝類はピノスガイ(最小個体数11)、ウバガイ(最小個体数1)のみが確認できた。魚骨はサケ科、カジカ科、ヒラメ・カレイ類が多く、ほかにタラ科、アイナメ、ニシンなどがある。獣骨はシカの肩甲骨片などがある。

SB-10



1-1	黒褐色土 (T.2592/3)	砂土	炭
1	褐色土 (T.2594/6)	硬質土	炭 魚骨 3% 炭片 10% 骨付 [灰層]
2	黒褐色土 (H992/3)	砂質土	炭 魚骨 15% 炭片 10% 骨付
3	にじみ・黄褐色土 (H994/3)	砂質土	炭 魚骨 7% 炭片 10% 骨付 [灰層]
4	黒色土 (H991.2/1)		(炭片)
5	にじみ・黄褐色土 (H995/A)	砂質土	炭 魚骨・貝片 3% 炭片 2% 1層を7cm厚に1%骨付
6	暗褐色土 (H992/3)	硬質土	炭 魚骨 14% 炭片 10% 3層との境界線不明瞭
Ta-a	にじみ・黄褐色土 (H997/A)	砂質土	炭
遺	黒褐色土 (H992/3)	砂質土	炭



図Ⅲ-31 SB-10

掲載遺物：3は骨角器。鹿角製の中柄未成品で、刺突具の可能性もある。被熱している。

(直江)

SB-10 (図Ⅲ-31 表Ⅲ-1・2 図版19・43)

調査・特徴：Ⅱ層上部を調査中、南側にはわずかに下がる緩斜面上で、ピノスガイを中心とした貝類の2m程のまとまりを検出し、その中央には灰層もみられた。周辺をTa-a上面まで掘り下げ平面的な広がりを把握し、調査区境で断面を記録した。周縁の一部と中央下部に多くの魚骨が含有されている。2点の鉄製品は近接して中央からやや北側の黒褐色土から出土した。

出土遺物：人工遺物は4点で、金属製品が3点、骨角器1点である。ほかに礫4点を回収した。

水洗選別により、貝類約200gのほか魚骨約300g、獣骨約20gが回収できた。また炭化木片を約120g回収した(表Ⅲ-10)。貝類はピノスガイ(最小個体数3)、ウバガイ(最小個体数1)、エゾバカガイが確認できた。魚骨はヒラメ・カレイ類、タラ科が多く、サケ科、カサゴ類、カジカ科などがある。鳥骨はカモメ科が同定された。

掲載遺物：1～3は鉄製品、4は骨角器。1は折釘で、脚部が屈曲している。2は角釘の下端部。3は刀子片。刃部ではなく、柄とみられる。4は鉋頭。SB-4出土の鉋頭(図Ⅲ-26-7)と形状が近似する。目釘穴に鉄錆が残存する。

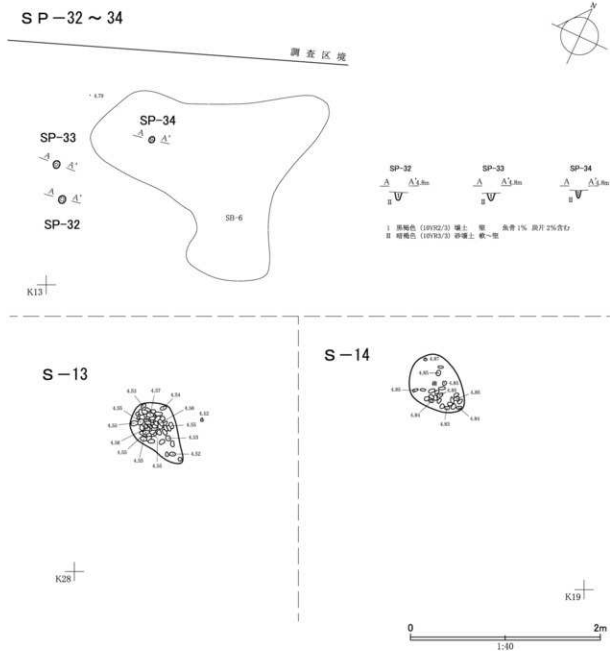
(直江)

(2) 柱穴伏小土坑

3基（SP-32～34）を検出した。時期はいずれも構築面と周辺の出土遺物から近世アイヌ文化期と推察される。

SP-32～34（図Ⅲ-32 表Ⅲ-1 図版20）

調査・特徴：SB-6を調査し、周辺のII層をTa-a上面まで掘り下げたところ、径1m程の範囲から直径8cm程の黒褐色の円形のひろがりをもつ3か所を検出した。半截したところ、やや尖った底面とやや開き気味の壁の立ち上がりを確認した。いずれも類似した形状である。覆土はII層由来とみられる黒褐色土で、いずれも堅密度が高い。構築面はいずれもII層上部とみられる。（直江）



図Ⅲ-32 SP-32～34・S-13・14

(3) 礫集中

2カ所(S-13・14)を検出した。時期は形成面と周辺の出土遺物から、いずれも近世アイヌ文化期と推察される。

S-13 (図Ⅲ-32 表Ⅲ-1・2 図版20)

調査・特徴：Ⅱ層上部を調査中、南側にわずかに下がる緩斜面上で、50cm程の範囲に小礫の集中を検出した。北西-南東方向に広がる分布のうち、北西側の集中度が高い。礫の大きさは5~8cm程度のものが選択されている。

出土遺物の総数は礫が55点で、1点の石英岩を除きすべて安山岩である。 (直江)

S-14 (図Ⅲ-32 表Ⅲ-1・2 図版20)

調査・特徴：南側にわずかに下がる緩斜面上に立地する。S B-4を調査中、最下部で50cm程の範囲に小礫の集中を検出した。北西-南東方向に広がる分布のうち、南東側の集中度が高い。礫の大きさは5~8cm程度のものが選択されている。

出土遺物の総数は礫が25点で、すべて安山岩である。 (直江)

3 包含層出土の遺物

(1) 遺物出土状況 (図Ⅲ-33~40)

Ⅵb層 (図Ⅲ-33~36)

調査区中央部~西部(51~110ライン)に連綿と遺物が分布し、今回調査区の遺物包含層の主体をなす。時期は統縄文時代後北C₂・D式期にほぼ限られる。

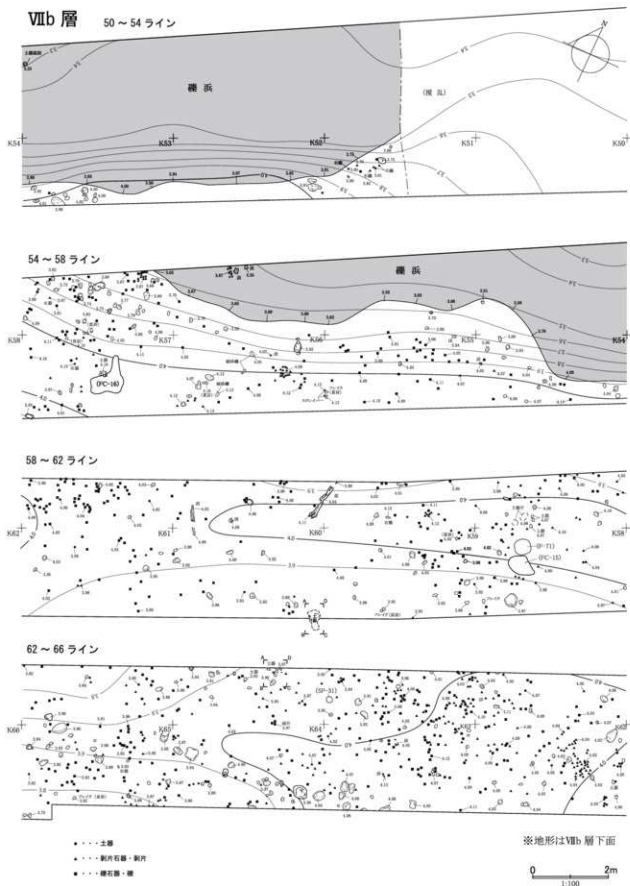
調査区東部、標高約3.7mの51ライン以東は礫浜が続き、東方ほど標高が下がる。40ライン付近では国道側が標高約3.5m、海側が3m以下に礫浜が確認できる。51~57ラインでは、調査区内に礫浜の境界が東西に現れ、その境界近くまで遺物が分布する。57~62ラインでは、特に焼土(F-71)周辺に遺物が目立ち、フレイクチップ集中(FC-15)もみられる。62~78ラインは最も遺物密度が高い範囲である。やはり各焼土の周辺から多数の遺物がみられる。特にK73区では、焼土(F-61)およびその周辺に板状の炭化木片が広がり、礫とともに多数のフレイクチップ類が分布していた(FC-14含む)。さらにJ69~75区では、北側への傾斜の肩部に沿って大型礫が列する状態が観察された。81ライン付近では住居跡の周辺に遺物が多いが、以西では遺物密度を減ずる。ただし単独個体出土の土器が目立つようになる(図Ⅲ-36)。95~110ラインは再び遺物密度を増し、北側に下る緩斜面上にまとまって出土する範囲がある。

Ⅵa層 (図Ⅲ-35)

調査区西部(83~110ライン)に遺物が断続的に分布し、特に堅穴跡H-19~21周辺から多く出土している。また調査区中央部(54~57ライン)にも礫を主体とした分布域がわずかにある。遺物の時期は、オホーツク文化刻文期~擬縄貼付文期である。さらに間層を複数はさんだ下位の「Ⅶa2層」からも、後北C₂・D式期やオホーツク文化刻文期の遺物がわずかに出土する(66ライン付近など)。

I~Ⅱ層 (図Ⅲ-37)

調査区東部(7~39ライン)に貝・骨片が連綿と分布し、集中域はブロックとした(SB-1~10)。遺物の時期は近世アイヌ文化期である。ブロック周辺以外では、K33~39区の斜面上位側にややまとまった範囲がある。ほかに42ライン付近の攪乱坑の底部から同一個体とみられる鉄鍋片が散在していた。

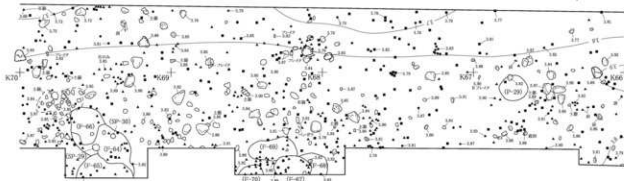


図Ⅲ-33 VIIb層遺物分布(1)

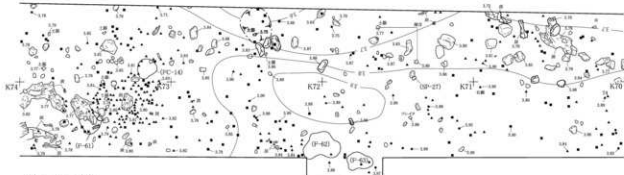
VIIb 層



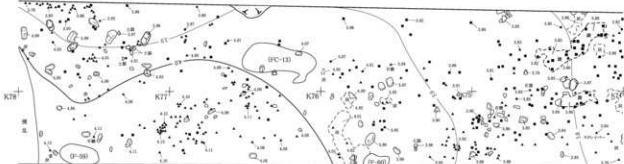
66 ~ 70 ライン



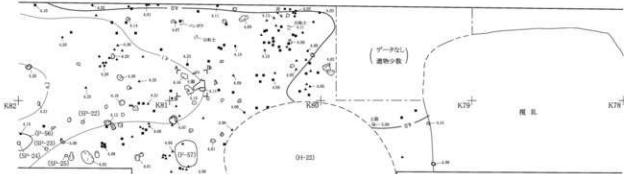
70 ~ 74 ライン



74 ~ 78 ライン



78 ~ 82 ライン



- ● ● 土層
- ○ ○ 陶片石器・製片
- ■ ■ 石器・礫

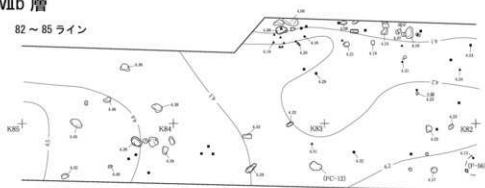
※地形はVIIb層下面



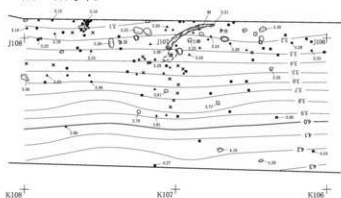
図Ⅲ-34 VIIb層遺物分布(2)

VIIb 層

82 ~ 85 ライン



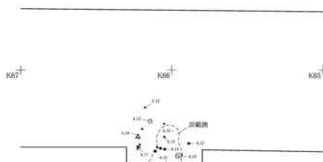
106 ~ 108 ライン



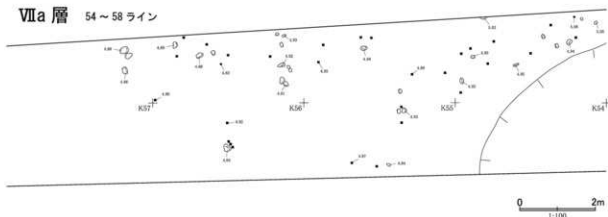
※地形はVIIb 層下面

VIIa2 層

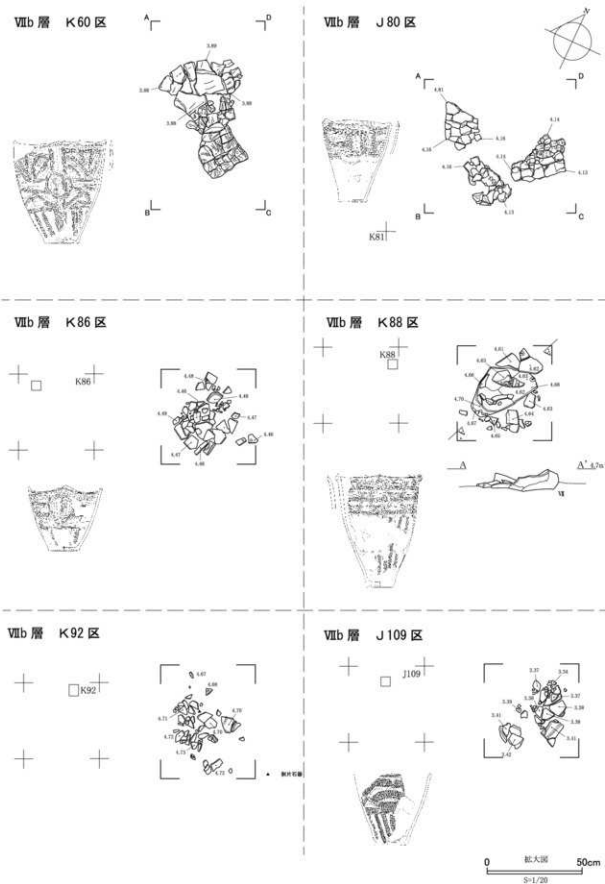
66 ライン付近



VIIa 層 54 ~ 58 ライン

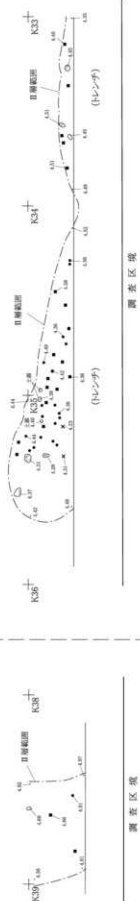


図III-35 VIIb 層 (3)・VIIa 層遺物分布



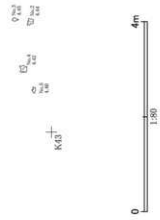
図Ⅲ-36 VIIb層一括土器出土状況

I層下位～II層 33～39ライン・K42区付近



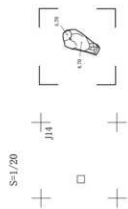
I層下位

J42区 鉄鱗片出土状況

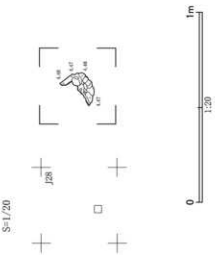


II層上位

J14区 斧出土状況



J28区 鎌出土状況



図III-37 I～II層遺物分布・出土状況

(2) 土器 (図Ⅲ-38~41 表Ⅲ-3・4 図版44~46)

縄文時代の土器 (1~50)

後北C₁式 (1)

1は復元個体土器としては当遺跡唯一の後北C₁式。4単位の波頂部突起を基準に縦8単位、横3段の文様構成をとる。施文は、胴下部の縦位の帯縄文→上部の横位の帯縄文→帯縄文に沿う列点文→微隆起線(横走・山形・弧線)→結節点に円形刺突/突起・口唇刻み、の順に施されている。全体的に表面が風化し赤黒くサビついたように観察される。微隆起線の結節点への円形刺突は独特である。

後北C₂・D式 (2~50)

後北C₂・D式の中葉、「道東3式」(熊木2001)に相当するものがほとんどである。

2~16は復元個体。2は縦4単位の「主文様」+「副文様」が割り付けられている。微隆起線に沿って赤彩が施されている。国道向いの2008年調査区で出土した土器片と接合した。3は小型鉢で、底径が小さい。2単位の主・副の文様構成である。4は帯縄文が顕著にみられる。5は上面観が楕円形を呈し、焼成前に大きくゆがんだようである。内外面とも炭化物が多量に付着している。一方、6は上面観が正円に近い。縦4単位で横は2段構成をとるが線対称ではない。「道東2式」に近い「道東3式」と思われる。8は縦4単位(・横3単位)だが、縦1単位は間隔の狭い2個組の波頂部の直下に区画文様を施している。3~4本単位の縦横の条痕による文様構成である。9~11は無文の平底。12~16は注口や片口付きの土器。12・13は注口付きの小型鉢。波頂部下に小型の注口がある。14は片口付き。無文で、片口・底部以外は粗雑な成形である。15は口唇が平坦に成形されている。16は底部が瘤状の五脚とみられる。小型ながら深鉢同様の文様構成をなす。

17~29は微隆起線が施されているもの。17~23は深鉢・鉢形土器で、弧線文を基調とした文様が配されている。21・22は同一個体。24~29は注口付きや浅鉢土器など。24は注口の裾部。25は浅鉢で、上面観が楕円もしくは舟形を呈すると思われる。底面にも文様がおよぶ。26は片口付近に縦位の微隆起線が列する。28・29は注口部。28は屈曲し上方に開く。

30~46・48~50は擬縄貼付文・帯縄文・三角列点などで文様が構成されるもの。31・36は擬縄貼付文が2列施されている。31は口唇上に刻みではなく刺突列が施されている。37は細沈線により円文などを模倣してえがいたと思われる。38~40・43は底部。39は小型ながら三角列点が底部付近に施されている。41は環状の把手部。45・46は同一個体。48~50は注口部。

47は無文で、口唇上に刺突が連続する。

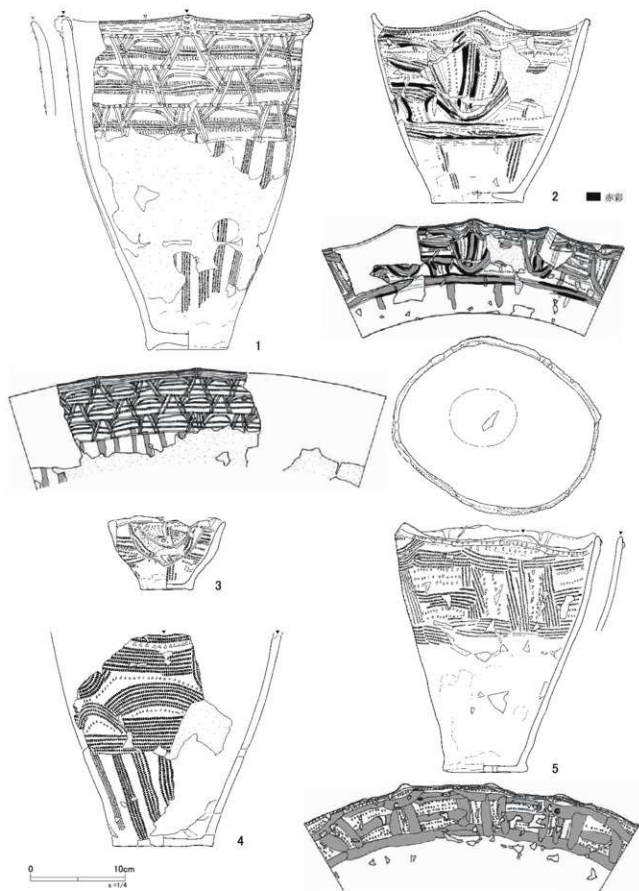
オホーツク文化期の土器 (51~71)

刻文土器 (51~70)

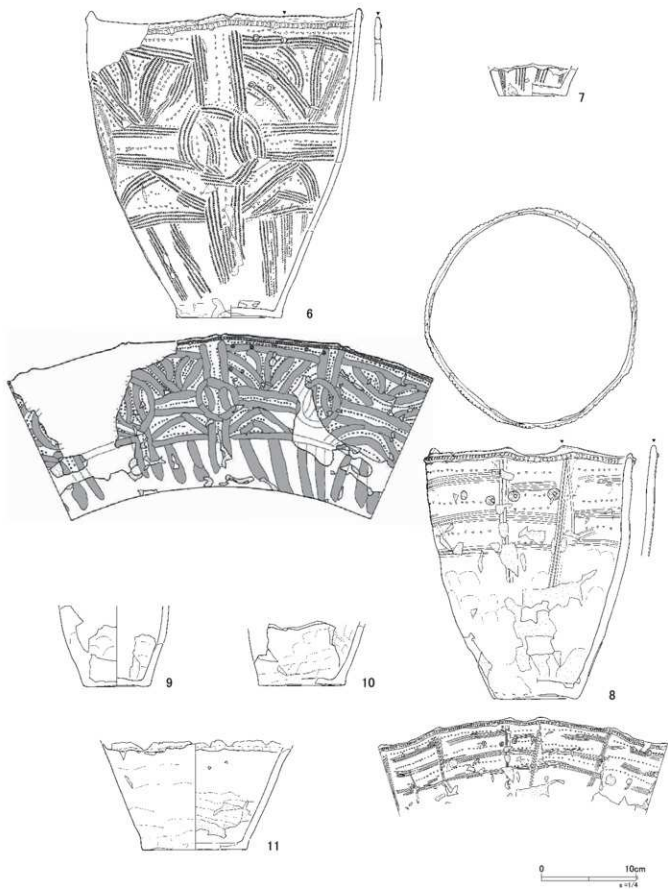
51~56は櫛歯文が施されているもの。51は2列の櫛歯文がみられる。53は上1列下2列の刻文による帯状区画内に縦位の櫛歯文が連続する。54・55は2列の刻文間に櫛歯文が施されている。55は表面・断面とも褐色を呈し明るい色調である。56は刻文・沈線文土器。斜位の刻文・2条の細沈線による2段の帯状区画内に斜位の櫛歯文が連続する。57~62は肥厚する口縁部の下端に刻文が施されている。うち59~62は爪形文とつまみ出した粘土が残り(指圧式浮文)、62には2段施されている。63~67は刺突列や短刻文がみられるもの。64・65は間隔の狭い2列の刻文がみられる。66はやや太めの刺突列が3列施されている。67は多段の刺突列の下に弧状の貼付文がみられる。68・69は無文で、68は口縁部が肥厚する。70は底面が比較的薄い。

擬縄貼付文土器 (71)

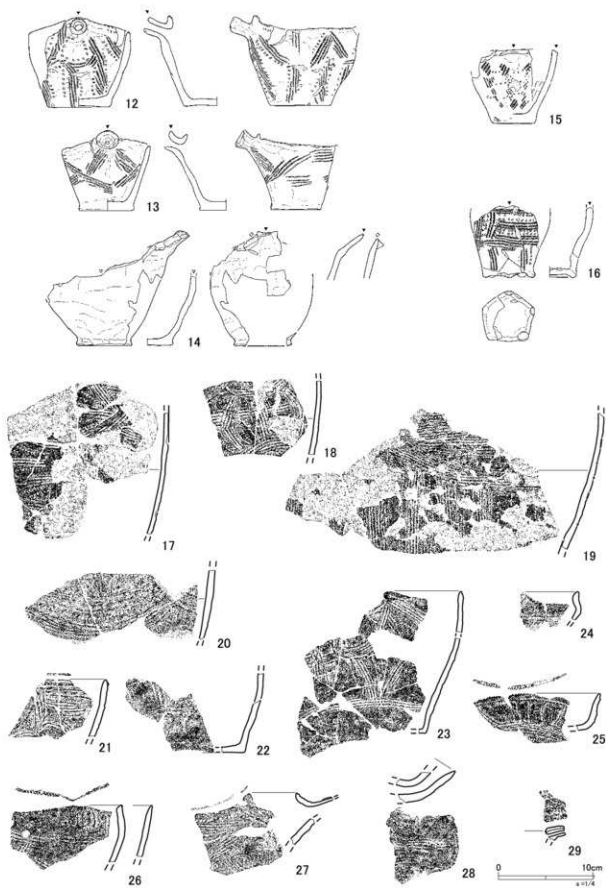
71は堅穴H-19の周囲から出土した。細い粘土紐による擬縄貼付文が2列施されている。(阿部)



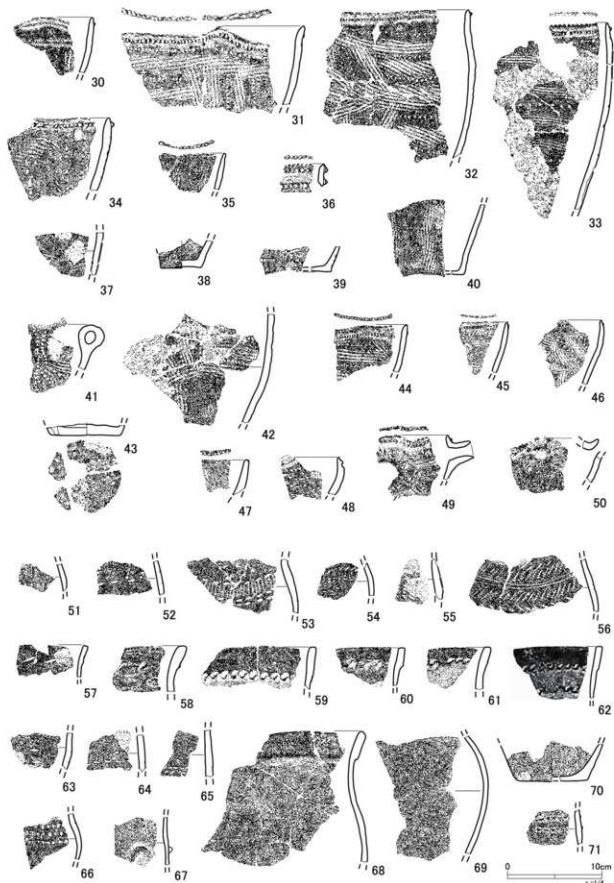
図Ⅲ-38 包含層出土の土器(1)



図Ⅲ-39 包含層出土の土器(2)



図Ⅲ-40 包含層出土の土器（3）



図Ⅲ-41 包含層出土の土器(4)

(3) 石器等 (図Ⅲ-42~47 表Ⅲ-5・6 図版46・47)

層位によって統縄文時代後半の後北C₂・D式期とオホーツク文化刻文期に明瞭に時期区分できるため、層位ごとに報告する。

Ⅵb層出土の遺物 (1~93)

1~93は統縄文時代後半期に属し、主に後北C₂・D式土器期のものが主体となっている。

石鏃 (1~21)

1~16が平基、17が凹基、18が凸基、19・20が有茎、21が下端部の折損により形状不明である。平基の石鏃は、全般的に小型・薄手で正裏いずれかの面に素材面を残すものが大半を占める。この内11は細長く、両側縁がほぼ直線的で、加工が前面に及ぶもので、他の平基の石鏃とは異なる。12~16は先端部が欠損しているが、いずれも両側縁が左右非対称である。製作途中の未成品の可能性がある。17は内湾する下端部形状で、正裏面の中央に素材面が残存する。18は丸みのある下端部形状で、正裏面全体に加工が施されている。20の茎部は逆三角形で明瞭なカエシが見られる。

石槍またはナイフ (22~30)

22~26は加工が両面のほぼ全体に及ぶもの。22は細身の形状で尖頭形である。縁辺中央部に小さなカエシがあり、ほぼ平行する太い茎部となっている。23は両端が尖る細身の木葉形である。24は細身で下端部が尖頭形である。25は左右非対称で下端部が欠損している。26はやや粗い加工による厚手の器体で、未成品とみられる。

27~30は主に片面ないし縁辺に加工が見られるもの。27・28は下端が尖る。29・30は撥形に近い形状で、片側の角部が鋭角となっている。スクレイパーの中にも類似した形状のものが存在する。

スクレイパー (31~54)

31~34は撥形に近い形状で、片側の角部が鋭角となっている。ナイフの中にも同様の形状のものが存在するが、スクレイパーの方がより小型で、縁辺の加工が急角度である。ナイフの刃部再生の結果、相似形的に小型化し、刃部が急角度のスクレイパーに器種転換したと考えられる。

35~42は縁辺を中心とした加工が施されるものである。35・36は縦長剥片を素材としている。37は下端の一部に不規則な両面加工が見られる。38は左側縁に両面加工が施されている。39~42は端部を尖らせるような加工が見られる。42は急角度加工が施されている。

43~54は下端部に加工が施されるものである。刃部はほぼ円弧状に作出されている。素材の打面側が刃部となっているのは43・44・48である。加工が側縁にも連続して全体的に及ぶのは43~45・47・48・50・51・53・54で、この内、44・47・51は両側縁に加工が施されている。54は錯交状の加工により先端部が尖頭形となっている。

石錐 (55~66)

65・66は黒曜石製、それ以外はメノウ製である。メノウ製の方が概して小型である。55~57は素材・刃部ともに薄手のもので、刃部の加工もごくわずかである。55は錯交状の加工が施されている。56は左側縁と上縁との角部にも刃部が作出されている。

58~66は厚手の刃部のものである。58・61は裏面の対向する加工により刃部が作出されている。60の刃部は剥片の折損部が利用されている。65・66は縁辺にも加工が及んでいる。

楔形石器 (67~76)

基本的に相対する縁辺に対向する剥離が見られ、一部が潰れている。67・70は薄手の剥片を素材としている。縁辺の角度を観察すると、片側が鋭く反対の縁辺が急角度となるものが主体的だが、70は上下端とも鋭い縁辺となっている。73・75は横方向にも対向する剥離が見られる。

Rフレイク (77・78)

77・78は、いずれも縁辺の一部に細かな加工が施されている。

石核 (79～84)

79は正面の上端にやや潰れたような剥離が見られる。大きさと断面形状が69と類似しており、楔形石器として使用されたが、痕跡が現れなかった可能性がある。80は素材剥片の腹面を主要剥離面として求心状の剥離が行われている。81は原石面を打面として正裏面で剥離が行われている。82は主に正面上からと下面裏からの剥離が行われている。83は扁平な原石の正裏面で求心状の剥離が行われ、主に横長剥片が剥離されている。84は長軸方向の剥離が各面で上下から行われている。

石のみ (85)

85は、両面への研磨により両刃の刃部が作成されている。裏面上部には衝撃剥離の可能性のある上からの剥離が見られる。

くぼみ石 (86)

86は、正裏面に窪んだ痕跡が見られるほか、上下端にわずかな敲打痕が存在する。

砥石 (87・88)

87は後北C₂・D式期に特徴的な軽石製の有溝砥石である。表裏面に溝が見られる。88は砂岩製で表裏面に浅い溝状の擦痕が見られる。

台石 (89～92)

89～92は、いずれも安山岩製で正面中央に平滑面が見られる。

板状加工礫 (93)

93は、正裏面とも大型の剥離がなされ、板状に成形されたものである。

Ⅵa層出土の遺物 (94～108)

94～108は、オホーツク文化刻文期に属するものが主体となっている。

石鏃 (94～97)

94・95は凹基、96は両端が尖る柳葉形、97はその折損品。いずれも両面に平坦加工が施されている。94は裏面に横方向の素材面が残存している。95は長さ5.1cmと長大で、95・96とも斜平行剥離が両側縁とも斜め下に向かって施されている。

石槍 (98)

98は、両面加工が施され太い柄部があり、縁辺中央にわずかなカエシが作出されている。

スクレイパー (99)

99は、両側縁に急角度の加工が施されている。

楔形石器 (100～103)

100の縦断面形は上下端とも鋭角となっている。101は下端が鋸歯状の剥離となっている。102は上端が急角度、対向する下端が鋭角で縁辺が潰れている。103は主に裏面に対向する剥離が見られる。

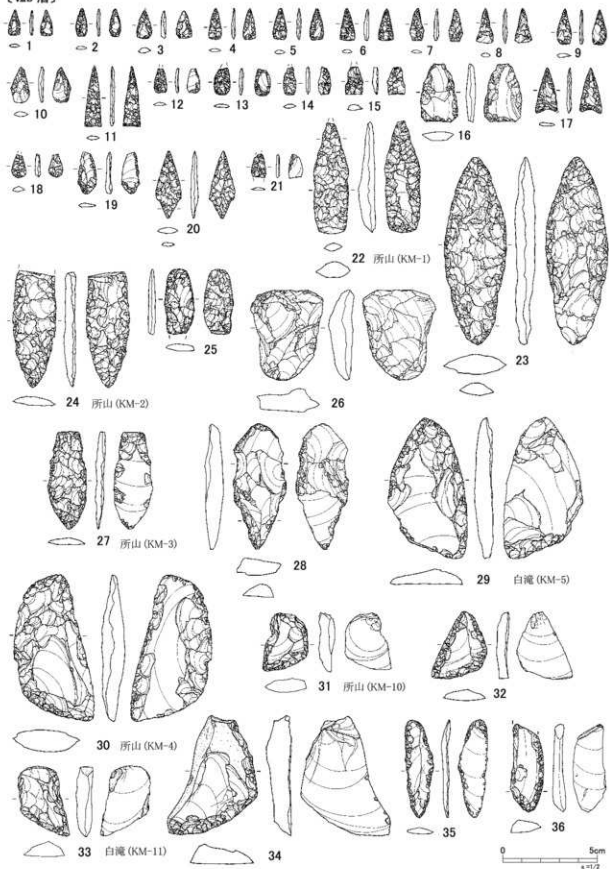
石核 (104)

104は剥片素材と考えられるもので、主に裏面で長軸方向の剥離の後に横方向の細かな加工が施されている。

たたき石 (105)

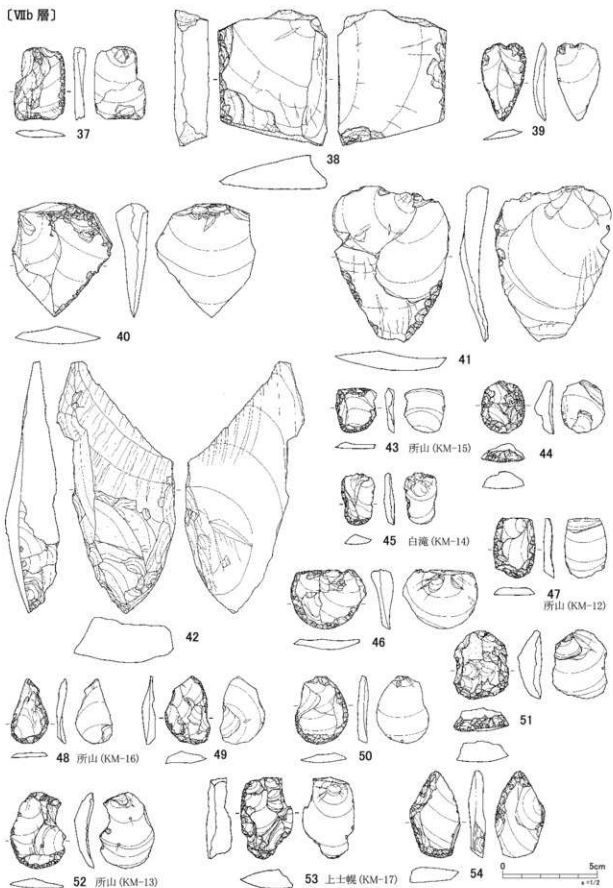
105は、上下端と右側縁に敲打痕があり、下端と裏面に敲打による剥離が見られる。

〔VIIb層〕



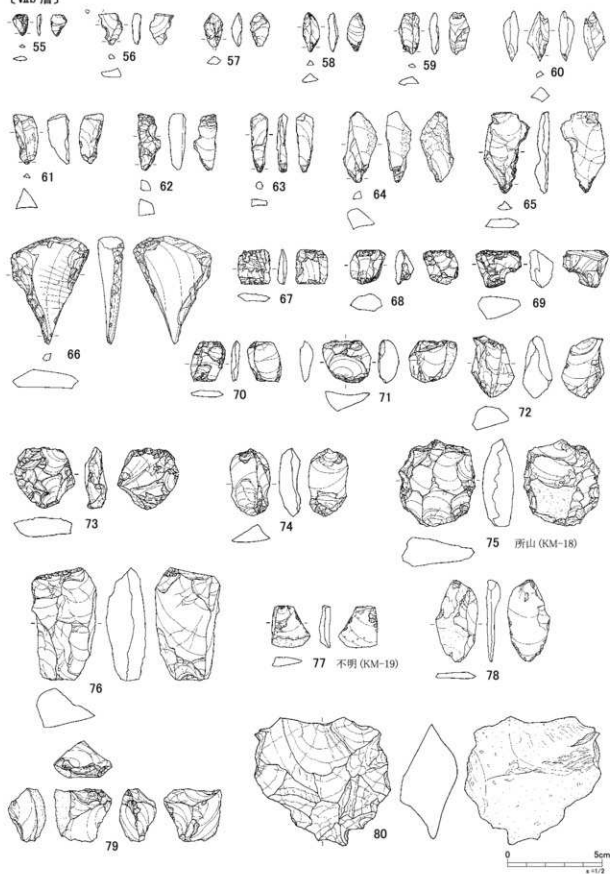
図Ⅲ-42 包含層出土の石器 (1)

〔VIIb 層〕



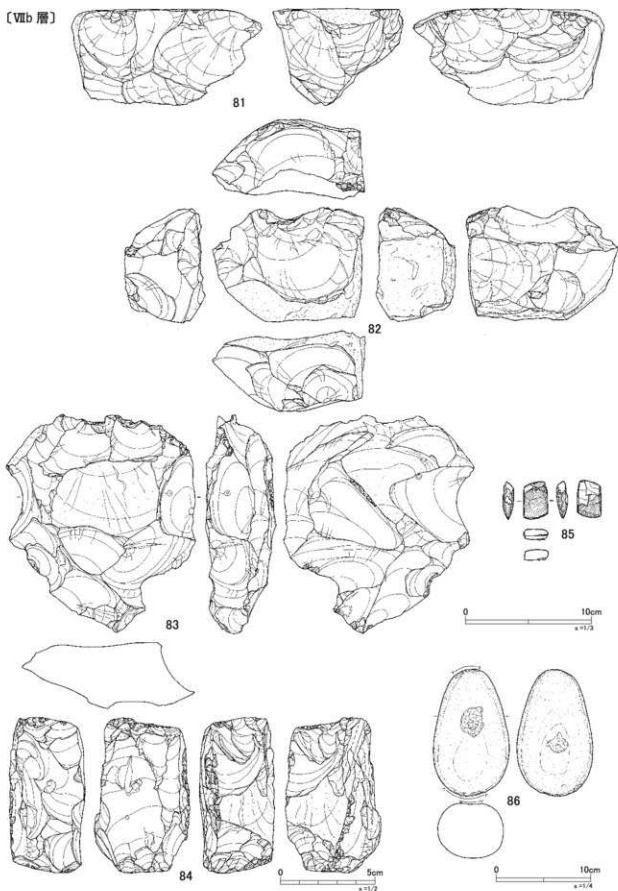
図Ⅲ-43 包含層出土の石器 (2)

〔Ⅷb層〕



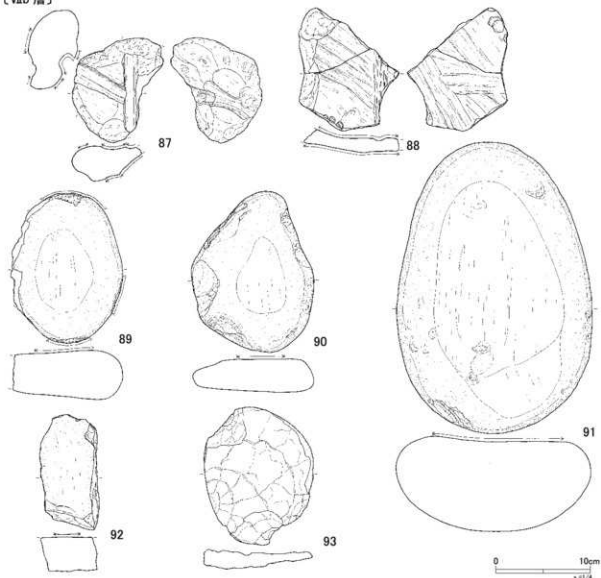
図Ⅲ-44 包含層出土の石器 (3)

〔VIIb層〕



図Ⅲ-45 包含層出土の石器（4）

〔VIIb層〕



図Ⅲ-46 包含層出土の石器（5）

すり石（106）

106は、正面全体にすり面が広がっている。

台石（107）

107は、正面中央に平滑面が見られる。

板状加工礫（108）

108は、厚さ3cmの板状に分割された後、形状を整える加工が周縁から施されている。

II層出土の遺物（109）

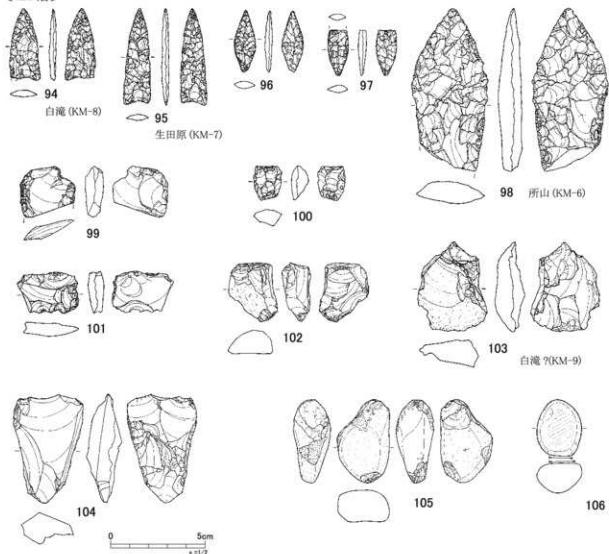
109は近世アイヌ文化期に属するものである。

石製品（109）

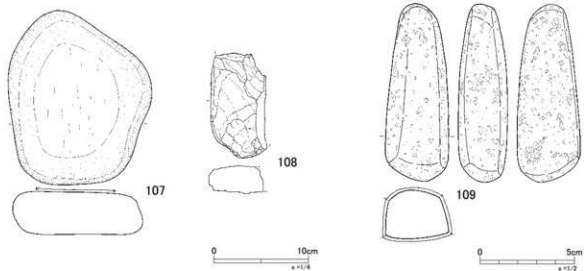
109は全面が研磨された軽石製の石製品である。

（直江）

〔Ⅶa層〕



〔Ⅱ層〕

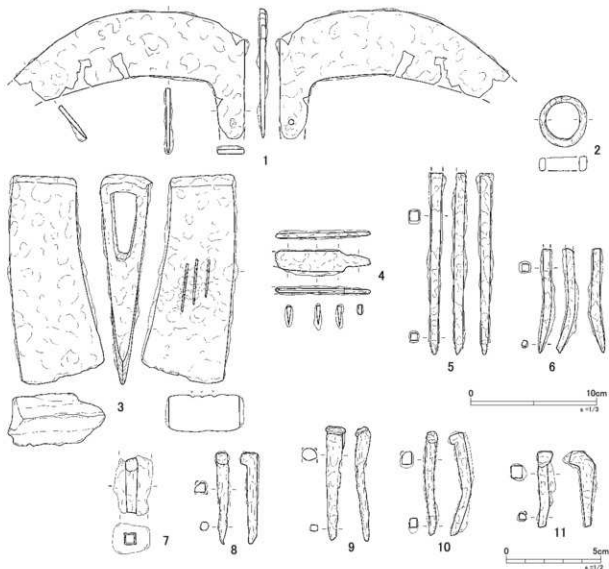


図Ⅲ-47 包含層出土の石器 (6)

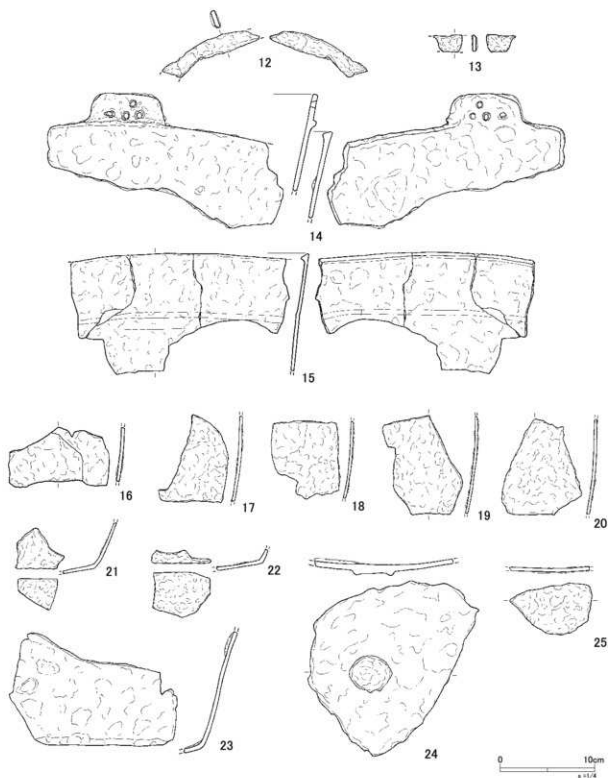
(4) 鉄製品 (図Ⅲ-48・49 表Ⅲ-7 図版48・49)

調査区の東側、樽前a降下火山灰(1739年)の上位から金属製品が出土した。時期は出土層位からアイヌ文化期である。内訳は鉄鍋片が23点、刀子5点、鉄斧1点、鉄鎌1点、環状鉄製品2点、釘15点、不明9点である。このうちの鉄鍋片14点、鉄鎌1点、環状鉄製品1点、鉄斧1点、刀子1点、釘7点について図示した。

1は有茎タイプの鉄鎌で、茎部から刃部にかけてほぼ直角に近い形状を呈する。刃部は曲刃で、刃の先端部が失われている。目釘孔はX線撮影により確認した。2はK34区のII層から出土した環状の鉄製品で、鉄鎌(1)の口金の可能性がある。3は鉄斧で立木を切り倒す斧(鉞)である。平面形は短冊型、斧頭から刃部にかけてゆるやかに湾曲し、刃部幅が広い。刃部は両刃で、刃こぼれが見られる。側面の形状は楔形で、柄の装着部(秘)は斧頭側が広い台形の孔があげられている。また、斧身の一方には縦に三本の筋目が刻まれている。この三本の筋目についてはIX章2(3)に記載した。4は平棟平造の刀子で、切先を欠失する。目釘孔はない。5~11は鉄製の和釘である。5・6は頭が欠失している。基部から脚部にかけて断面の形態は方形である。7は和釘の基部が欠失し、錆蝕だけが



図Ⅲ-48 包含層出土の鉄製品(1)



図Ⅲ-49 包含層出土の鉄製品(2)

残ったものと思われる。断面の形態は方形である。8～11は折釘で断面の形態は概ね方形である。9は頭が潰れている。

12～25は吊耳鉄鍋の破片である。12・13は鉢の部分で、断面の形態は扁平である。12はわずかにねじりが認められる。耳孔に差し込む先端部は出土していない。14・15は口縁部から胴部にかけての破

片で、口縁部（外帯）と胴部が一続きとなっている。14の上端には山形で鉦を掛けるための耳金具が付き、4つの耳孔があげられている。口縁部と耳金具の接合部は外側に張り出しがある。15の内面には、口縁部と胴部の境に蓋が落ちないように作られた浅い段差がある。14・15とも口唇部断面が内側に鋭角に張り出す。16～20は胴部片でやや丸みを帯びる。21～23は底部から胴部にかけての破片で、胴部は60°前後の角度で立ち上がりと思われる。24・25は底部の破片。24には径約3cmの丸型湯口の跡が残る。脚を示すものは出土していない。口縁部と底部から推定される大きさは、口径が約36～37cm、底径約27～28cmと考えられる。（笠原）

(5) 加工痕ある骨片 (図Ⅲ-50 表Ⅲ-8 図版49)

貝・骨ブロック周辺の包含層から獣骨片が出土した中で、加工痕等があるものを掲載した。

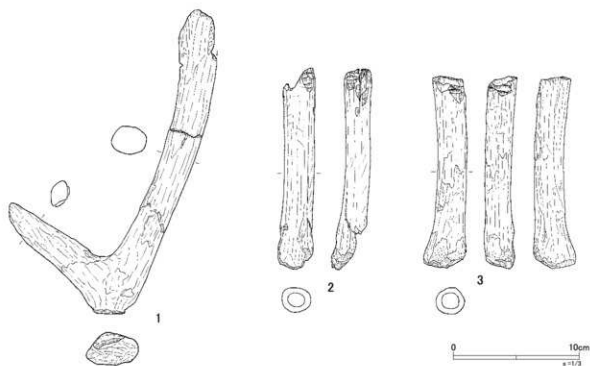
1は鹿角。形状から基部は角座に近く、先端は磨滅して切断痕・加工痕が不明瞭であるが、まだ先に続いていたものと思われる。鉤状の道具または掘り具として用いた可能性がある。2・3はシカの脛骨（L・R）で、切断痕が明瞭に残っている。

(6) その他

貝・骨ブロック周辺から出土した陶磁器の小片のほか、ビン・缶・釘などの近現代遺物がある。

植民軌道のレール (図版40)

2011・2012・2018年調査において、表土除去前の調査区および周辺の防風林に、鉄道のレールが残存していた。これは植民軌道斜里線（斜里～知布泊、1932～1952年）で使用されていたもので、6kg/m（現行30～60kg/m）と簡易な規格である。カモイベツ遺跡付近では現国道より内陸側（約500m）に路線があったが、廃止後に防風林の若木の支柱などとして利用されたようである（斜里町金盛典夫氏 談）。現に調査区内には柱穴状の攪乱が列をなしていた。なお、レールは付近の峰浜小学校（廃校）のグラウンドのバックネットにも使用されていた。（阿部）



図Ⅲ-50 包含層出土の加工痕ある骨片

表Ⅲ-1 2018年調査遺構一覧

種別	遺構名	掲載		検出位置		平面形	規模(m)					時期	備考		
		種別	写真 図版	発掘区	層位		検出面		断面		深さ				
							長さ	幅	長さ	幅					
壁穴	H-19	Ⅲ-15~17	14	I・J95・96	VIIa層	隅丸方形	(3.38)	(1.90)	(3.00)	(1.76)	0.24	オホーツク文化期末期			
	HP-1		4	I・J95	床面	楕円形	9.68	(0.50)	—	—	—				
	HP-2			J96	床面	楕円形?	(0.44)	0.32	—	—	—				
	H-20	Ⅲ-15~17	14・15	J95・96	VIIa層	五角形?	(3.60)	(2.44)	(3.21)	(2.08)	(0.28)		オホーツク文化期末期		
	H-21	Ⅲ-18	15	J・K93・94	VIIa層	隅丸方形	2.48	2.48	2.24	2.16	0.47		オホーツク文化期末期		
	HP-1		4	J94	床面	隅丸方形	0.31	(0.30)	—	—	—		0.02		
住居跡	H-22	Ⅲ-7・8	10	K79・80	VIIb層	長楕円形	(45.6)	(2.68)	—	—	—	縄文時代 後北C・D時期			
	HP-1		4	K80	VIIb層	円形	0.76	0.59	—	—	—		0.09		
	HP-1			K80	VIIb層	円形	0.11	0.11	0.06	0.06	0.08				
	HP-2			K79	VIIb層	円形	0.10	0.10	0.04	0.04	0.09				
	HP-3			K79	VIIb層	円形	0.15	0.15	0.06	0.06	0.06				
	HP-4			K79	VIIb層	円形	0.16	0.16	0.06	0.06	0.08				
	HP-5			K80	VIIb層	円形	0.12	0.12	0.06	0.06	0.10				
HP-6		10	K80	VIIb層	円形	0.15	0.14	0.06	0.06	0.10					
土器	PS-31	Ⅲ-19	16	J96・97	VIIa層	円形	1.08	1.04	0.68	0.58	0.39	オホーツク文化期末期			
	P-29	Ⅲ-9	11	K66	VIIb層	円形	0.68	0.68	0.46	0.25	0.12	後北C・D時期			
柱穴状小土坑	SP-22	Ⅲ-10	11	K81	VIIb層	円形	0.07	0.07	0.04	0.04	0.05	後北C・D時期			
	SP-23			K81	VIIb層	円形	0.05	0.05	0.02	0.02	0.04	後北C・D時期			
	SP-24			K81	VIIb層	円形	0.07	0.06	0.04	0.04	0.05	後北C・D時期			
	SP-25			K81・82	VIIb層	円形	0.05	0.05	0.04	0.02	0.05	後北C・D時期			
	SP-26			K81	VIIb層	円形	0.08	0.08	0.04	0.03	0.20	後北C・D時期			
	SP-27			J71	VIIb層	楕円形	0.08	0.06	0.08	0.05	0.20	後北C・D時期			
	SP-28			K66	VIIb層	円形	0.12	0.11	0.06	0.06	0.13	後北C・D時期			
	SP-29			K69	VIIb層	円形	0.20	0.20	—	—	0.24	後北C・D時期			
	SP-30			K69	VIIb層	楕円形	0.14	0.12	—	—	0.27	後北C・D時期			
	SP-31			J63	VIIb層	楕円形	0.16	0.16	—	—	0.17	後北C・D時期			
	SP-32	Ⅲ-32	20	J12	II層	円形	0.08	0.07	0.04	0.04	0.08	アイヌ文化期			
	SP-33			J12	II層	楕円形	0.08	0.06	0.03	0.03	0.08	アイヌ文化期			
	SP-34			J12	II層	円形	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07	アイヌ文化期			
	境上	F-56	Ⅲ-11	11	K81・82	VIIb層	円形?	(0.40)	0.46	—	—	—	後北C・D時期		
F-57				K80	VIIb層	不整形円形	(0.68)	0.62	—	—	—	0.04	後北C・D時期		
F-58				K80・81	VIIb層	楕円形?	(1.04)	(0.24)	—	—	—	(0.10)	後北C・D時期		
F-59				K77	VIIb層	楕円形	1.01	0.52	—	—	—	—	0.08	後北C・D時期	
F-60		Ⅲ-12		K75	VIIb層	不定形	0.66	0.36	—	—	—	—	0.12	後北C・D時期	
F-61			7・12	K73	VIIb層	不整形円形	0.60	0.60	—	—	—	—	0.14	後北C・D時期	
F-62				K71・72	VIIb層	不整形円形	1.16	0.86	—	—	—	—	0.12	後北C・D時期	
F-63				K71・72	VIIb層	不整形円形	0.81	0.62	—	—	—	—	0.08	後北C・D時期	
F-64		Ⅲ-13		K69	VIIb層	不定形	(2.08)	(0.92)	—	—	—	—	0.12	後北C・D時期	
F-65				K69	VIIb層	不定形	(1.48)	(0.64)	—	—	—	—	0.20	後北C・D時期	
F-66				K69	VIIb層	不定形	0.96	0.88	—	—	—	—	0.12	後北C・D時期	
F-67				K68	VIIb層	楕円形?	0.96	(0.48)	—	—	—	—	0.17	後北C・D時期	
F-68				K68	VIIb層	—	(0.79)	0.56	—	—	—	—	0.05	後北C・D時期	
F-69				K68	VIIb層	不定形	1.28	(0.50)	—	—	—	—	0.15	後北C・D時期	
F-70				K68	VIIb層	—	(0.64)	(0.25)	—	—	—	—	0.08	後北C・D時期	
F-71			12	K58	VIIb層	円形	0.40	0.40	—	—	—	—	0.03	後北C・D時期	
アイヌ文化期 遺構中		FC-11	Ⅲ-20	16	J94	VIIa層	不整形円形	0.82	0.78	—	—	—	—	オホーツク文化期末期	
	FC-12	Ⅲ-14		K83	VIIb層	不整形円形	0.32	0.20	—	—	—	—	後北C・D時期		
	FC-13			J75	VIIb層	不整形円形	1.96	0.84	—	—	—	—	後北C・D時期		
	FC-14		13	J73	VIIb層	不整形円形	0.55	0.49	—	—	—	—	後北C・D時期		
	FC-15			K58	VIIb層	不定形	0.76	0.52	—	—	—	—	後北C・D時期		
	FC-16			K57	VIIb層	不定形	1.02	0.92	—	—	—	—	後北C・D時期		
縄文集中	S-11	Ⅲ-20	16	J・K94	VIIb層	不整形円形	2.12	2.52	—	—	—	—	オホーツク文化期末期		
	S-12			J57・58	VIIb層	不整形円形	2.84	1.20	—	—	—	—	オホーツク文化期末期		
	S-13	Ⅲ-32	20	J28	II層	不整形円形	0.80	0.48	—	—	—	—	アイヌ文化期		
	S-14			J19	II層	楕円形	0.68	0.52	—	—	—	—	アイヌ文化期		
貝・骨プロトク	SB-1	Ⅲ-21	17	J20	II層	楕円形?	1.48	(0.79)	—	—	—	—	アイヌ文化期		
	SB-2			J24	II層	不定形	2.42	1.42	—	—	—	—	アイヌ文化期		
	SB-3	Ⅲ-22・23		J21~23	II層	不定形	11.28	(3.91)	—	—	—	—	0.04	アイヌ文化期	
	SB-4	Ⅲ-24~26	18	J18・19	II層	不定形	4.92	1.68	—	—	—	—	—	アイヌ文化期	
	SB-5	Ⅲ-27・28		J・K15・16	II層	不定形	(5.44)	(3.72)	—	—	—	—	—	アイヌ文化期	
	SB-6	Ⅲ-29	19	J12	II層	不定形	2.48	1.96	—	—	—	—	0.06	アイヌ文化期	
	SB-7			J9	II層	不定形	0.59	0.28	—	—	—	—	—	アイヌ文化期	
	SB-8	Ⅲ-30	19	J・K24	II層	不定形	1.76	1.24	—	—	—	—	0.07	アイヌ文化期	
	SB-9			K19	II層	不整形円形	2.00	(1.00)	—	—	—	—	—	アイヌ文化期	
	SB-10	Ⅲ-31		K18・19	II層	—	2.32	0.84	—	—	—	—	—	アイヌ文化期	

表Ⅲ-3 2018年調査掘載土器一覧(1)

神国 番号	再載 番号	写真図版 番号	遺構/ (壁掘ID)	層位	遺物 No.	点数 破片 計	分類	器種	部位	文様等/計測値	備考	個体番号
Ⅲ-8	1	41-1	H-22/K80	Ⅴb		13 13	Vlc	小型鉢形 注口	口～底	無文/口径16.5cm 底径1.8cm 器高 9.5cm	約80%残存	18-11
Ⅲ-8	2	41-1	H-22/K80	Ⅴb		1 1	Vlc	深鉢	胴	華文文		18-220
Ⅲ-12	1	41-2	F-60 K75	Ⅴ上土		2 7	Vlc	深鉢形 注口	口～胴	無文/口径16.0cm 底径0.0cm 器高 17.5cm	約30%残存	18-12
				Ⅴb		5						
Ⅲ-18	1	42-1	H-21	Ⅴ土3		20 21	Ⅴb	甕	胴	無文		18-101
				S-11	Ⅴ土1		1					
Ⅲ-20	1	42-1	S-11	Ⅴ土1		27 27	Ⅴb	甕	胴～底	無文/底径0.7cm 器高11.3cm		18-15
Ⅲ-38	1	44-1	K88	Ⅴb		52 52	Vlc (後北 C1式)	深鉢	口～底	口径14.0cm、小突起、 無文/底径12.5cm 底径1.0cm 器高 25.4cm	約70%残存	18-1
Ⅲ-38	2	44-1	K86 08MKR59e	Ⅴb		111 112	Vlc	深鉢	口～胴	無文/口径23.3cm 底径9.8cm 器高 28.5cm	赤彩	18-2
						14 1						
Ⅲ-38	3	44-1	J77	Ⅴb		6 6	Vlc	鉢	口～底	無文/口径12.0cm 底径5.5cm 器高 7.8cm	約60%残存	18-7
Ⅲ-38	4	44-1	J109	Ⅴb		23 23	Vlc	深鉢	胴～底	三角列点、華文文 /底径10.6cm 器高22.5cm		18-6
Ⅲ-38	5	44-1	J80	Ⅴb		157 157	Vlc	深鉢	口～底	無文/口径21.8cm 底径9.0cm 器高 26.3cm		18-5
Ⅲ-39	6	44-1	K60	Ⅴb		81 81	Vlc	深鉢	口～底	口径14.0cm、無文/口径 /口径28.9cm 底径11.0cm 器高22.8cm		18-3
Ⅲ-39	7	44-1	J53	Ⅴb		5 5	Vlc	深鉢	底	華文文 /底径17.0cm 器高13.0cm		18-53
Ⅲ-39	8	44-1	K69	Ⅴb		93 93	Vlc	深鉢	口～底	無文/口径23.3cm 底径10.0cm 器高 26.7cm		18-4
Ⅲ-39	9	44-1	K66	Ⅴb		8 10	Vlc	鉢	胴～底	無文		18-51
			K67	Ⅴb		2				無文/底径6.5cm 器高0.5cm		
Ⅲ-39	10	44-1	J106	Ⅴb		2 3	Vlc	深鉢	胴～底	無文/底径0.8cm 器高0.8cm		18-52
			J106	Ⅴb		1						
Ⅲ-39	11	44-1	J64	Ⅴb		39 39	Vlc	深鉢	胴～底	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-16
Ⅲ-40	12	45-1	K68	Ⅴb		7 7	Vlc	注口付き 小型鉢	口～底	口径14.0cm、列点、華文文 /口径11.0cm 底径6.4cm 器高 9.5cm	約60%残存	18-8
Ⅲ-40	13	45-1	J71	Ⅴb		3 3	Vlc	注口付き 小型鉢	口～底	華文文 /口径9.3cm 底径5.0cm 器高8.4cm	約90%残存	18-9
Ⅲ-40	14	45-1	J69	Ⅴb		20 20	Vlc	片口付き 鉢	胴～底	無文、片口 底径14.0cm 底径6.0cm 器高 12.1cm		18-14
Ⅲ-40	15	45-1	K73	Ⅴb		4 4	Vlc	(注口付き) 小型鉢	口～底	三角列点、華文文 /底径15.0cm 器高7.8cm	約70%残存	18-10
Ⅲ-40	16	45-1	J106	Ⅴb		24 24	Vlc	小型鉢	胴～底	三角列点、華文文、五脚 底径13.5cm 器高17.3cm	五脚	18-13
Ⅲ-40	17	45-1	K62	Ⅴb		11 11	Vlc	深鉢	胴	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-106①
Ⅲ-40	18	45-1	K62	Ⅴb		4 4	Vlc	深鉢	胴	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-106②
Ⅲ-40	19	45-1	J88	Ⅴb		21 21	Vlc	深鉢	胴	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-113
Ⅲ-40	20	45-1	K86	Ⅴb		3 3	Vlc	深鉢	胴	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-114
Ⅲ-40	21	45-1	J80	Ⅴb		4 4	Vlc	鉢	口	無文/口径14.0cm 底径6.0cm 器高 12.1cm		18-111①
Ⅲ-40	22	45-1	J77	Ⅴb		2 2	Vlc	鉢	底	三角列点、華文文		18-111②
Ⅲ-40	23	45-1	J67	Ⅴb		9 17	Vlc	注口付き 鉢	胴～底	無文/口径14.0cm、無文/底 底径14.0cm 底径6.0cm 器高 12.1cm		18-107①
			K67	Ⅴb		7						
			K68	Ⅴb		1						
Ⅲ-40	24	45-1	J66	Ⅴb		1 2	Vlc	注口付き 小型鉢	注口	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-107②
			K67	Ⅴb		1						
Ⅲ-40	25	45-1	J81	Ⅴb		2 2	Vlc	深鉢	口～底	無文/底径11.0cm 器高11.5cm		18-223
Ⅲ-40	26	45-1	K63	Ⅴa2		1 1	Vlc	片口付き 鉢	片口	口径14.0cm、無文/底径 底径14.0cm 底径6.0cm 器高 12.1cm		18-222
Ⅲ-40	27	45-1	K88	Ⅴb		5 5	Vlc	注口付き 鉢	胴	口径14.0cm、無文/底径 底径14.0cm 底径6.0cm 器高 12.1cm		18-115

表Ⅲ-4 2018年調査掲載土器一覧(2)

神岡 番号	掲載 番号	写真図版 番号	遺構/ (発掘区)	層位	遺物		点数	分類	器種	部位	文様等/計測値	備考	個体番号
					No.	破片 計							
ⅢⅢ-40	28	45-1	J72	Ⅴb		1	1	Ⅴc	注口	注口	三角列点、書織文		18-230
ⅢⅢ-40	29	45-1	J62	Ⅴb		1	1	Ⅴc	注口	注口	編織胎付文		18-231
ⅢⅢ-41	30	45-1	J77	Ⅴb		1	1	Ⅴc	深鉢	口	編織胎付文、三角列点、書織文		18-225
ⅢⅢ-41	31	45-1	K75	Ⅴb		3	3	Ⅴc	深鉢	口	口唇初突、編織胎付文、三角列点、書織文		18-112
ⅢⅢ-41	32	45-1	J97	Ⅴb		10	10	Ⅴc	深鉢	口	口唇初突、編織胎付文、三角列点、書織文		18-108
ⅢⅢ-41	33	45-1	J81	Ⅴb		8	8	Ⅴc	深鉢	口～胴	口唇初突、編織胎付文、列点、書織文		18-109
ⅢⅢ-41	34	45-1	K68	Ⅴb		1	1	Ⅴc	深鉢	口	編織胎付文、三角列点、書織文、縹の点		18-221
ⅢⅢ-41	35	45-1	K66	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	口	口唇初突、三角列点、書織文		18-226
ⅢⅢ-41	36	45-1	K72	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	口	口唇初突、編織胎付文		18-232
ⅢⅢ-41	37	45-1	J63	Ⅴb		2	2	Ⅴc	鉢	胴	沈線		18-227
ⅢⅢ-41	38	45-1	K79	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	底	書織文		18-235
ⅢⅢ-41	39	45-1	J90	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	底	三角列点、書織文		18-236
ⅢⅢ-41	40	45-1	J73	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	底	書織文		18-234
ⅢⅢ-41	41	45-1	I107	Ⅴb		1	1	Ⅴc	把手付鉢	口	砂手、三角列点、書織文		18-110①
ⅢⅢ-41	42	45-1	I107	Ⅴb		7	7	Ⅴc	把手付鉢	胴	三角列点、書織文		18-110②
ⅢⅢ-41	43	45-1	I107	Ⅴb		3	3	Ⅴc	把手付鉢	底	無文		18-110③
ⅢⅢ-41	44	45-1	K72	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	口	口唇初突、編織胎付文、三角列点、書織文		18-224
ⅢⅢ-41	45	45-1	J73	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	口	口唇初突、編織胎付文、三角列点、書織文		18-116①
ⅢⅢ-41	46	45-1	J73	Ⅴb		2	2	Ⅴc	鉢	口	三角列点、書織文		18-116②
ⅢⅢ-41	47	45-1	K74	Ⅴb		1	1	Ⅴc	鉢	口	口唇初突		18-207
ⅢⅢ-41	48	45-1	J62	Ⅴb		1	1	Ⅴc	注口	口	編織胎付文、三角列点		18-233
ⅢⅢ-41	49	45-1	K74	Ⅴb		1	1	Ⅴc	注口	注口	口唇初突、編織胎付文、三角列点、書織文		18-228
ⅢⅢ-41	50	45-1	X69	Ⅴb		1	1	Ⅴc	注口	注口	編織胎付文、三角列点		18-229
ⅢⅢ-41	51	46-1	J90	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	書織文		18-211
ⅢⅢ-41	52	46-1	J108	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	書織文、紅文		18-210
ⅢⅢ-41	53	46-1	J108	Ⅴa		3	3	Ⅴb	甕	胴	書織文、紅文		18-208
ⅢⅢ-41	54	46-1	J96	Ⅴa2		1	1	Ⅴb	甕	胴	書織文、紅文		18-209
ⅢⅢ-41	55	46-1	I107	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	書織文、紅文		18-217
ⅢⅢ-41	56	46-1	J96	Ⅴa2		1	1	Ⅴb	甕	胴	書織文、紅文、横走沈線		18-212
ⅢⅢ-41	57	46-1	J99	Ⅴa		3	3	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文		18-103
ⅢⅢ-41	58	46-1	J108	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文		18-202
ⅢⅢ-41	59	46-1	I108	Ⅴa		1	2	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文(瓜形文)		18-204
			J107	Ⅴa			1						
ⅢⅢ-41	60	46-1	K81	Ⅴa1		1	1	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文(瓜形文)		18-203
ⅢⅢ-41	61	46-1	I109	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文(瓜形文)		18-201
ⅢⅢ-41	62	46-1	I105	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	口	口縁部肥厚帯、紅文(瓜形文)		18-205
ⅢⅢ-41	63	46-1	K93	Ⅴa1		1	1	Ⅴb	甕	胴	紅文		18-206
ⅢⅢ-41	64	46-1	I102	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	紅文		18-215
ⅢⅢ-41	65	46-1	J108	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	紅文		18-216
ⅢⅢ-41	66	46-1	J108	Ⅴa		1	1	Ⅴb	甕	胴	刺突文		18-213
ⅢⅢ-41	67	46-1	J98	Ⅴa1		1	1	Ⅴb	甕	胴	刺突文、弧状胎付文		18-214
ⅢⅢ-41	68	46-1	J104	Ⅴa		10	10	Ⅴb	甕	口～胴	口縁部肥厚帯		18-102①
ⅢⅢ-41	69	46-1	J96	Ⅴa		1	5	Ⅴb	甕	口～胴	無文		18-102②
			J96	Ⅴa2			3						
			J98	Ⅴa			1						
ⅢⅢ-41	70	46-1	J96	Ⅴa2		1	1	Ⅴb	甕	底	無文		18-219
ⅢⅢ-41	71	46-1	J96	Ⅴa2		1	1	Ⅴc	甕	胴	編織胎付文		18-218

表Ⅱ-5 2018年調査掲載石器一覧(1)

種別番号	掲載 表頁	写真図版 表頁	遺構 埋蔵区	層位	遺物 番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	埋土 分析	備考	発掘 表頁
図Ⅱ-8	3	41-1	H-22/K80	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.5	0.7	0.2	0.2				115
図Ⅱ-8	4	41-1	H-22/K79	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	3.1	2.9	0.9	7.7				119
図Ⅱ-8	5	41-1	H-22/K79	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	4.7	3.5	1.2	12.6				117
図Ⅱ-8	6	41-1	H-22/K79	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	3.5	3.5	0.6	7.0				118
図Ⅱ-8	7	41-1	H-22/K79	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	(4.0)	(3.0)	0.7	(4.0)				120
図Ⅱ-8	8	41-1	H-22/Ⅱ-6	坑底面	石鏃	メノウ	6.8	13.5	6.6	738.0				112
図Ⅱ-13	1	41-3	F-67	機土上面	石鏃	黒曜石	2.1	0.9	0.3	0.3				121
図Ⅱ-13	2	41-3	F-67	機土上面	スクレイパー	黒曜石	(3.1)	2.8	1.0	8.8				116
図Ⅱ-13	3	41-3	F-70	機土上面	石鏃	黒曜石	(1.2)	0.8	0.2	(0.2)				122
図Ⅱ-14	1	41-4	FC-14	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.7)	1.0	0.2	(0.2)				137
図Ⅱ-14	2	41-4	FC-15	Ⅴb	スクレイパー	メノウ	(2.4)	1.9	0.8	(2.5)				124
図Ⅱ-14	3	41-4	FC-15	Ⅴb	楔形石器	メノウ	2.9	2.3	1.6	6.6				125
図Ⅱ-14	4	41-4	FC-15	Ⅴb	石鏃	メノウ	4.1	5.9	2.5	50.5				126
図Ⅱ-17	1	41-5	H-19	覆土	たたく石	安山岩	10.7	8.9	5.0	708.0				131
図Ⅱ-17	2	41-5	H-19	床面	台石	安山岩	23.0	17.1	7.4	4200.0				132
図Ⅱ-17	3	41-5	H-19	覆土	台石	安山岩	22.9	17.9	6.4	3440.0				133
図Ⅱ-17	4	41-5	H-19/Ⅱ-1	床面	3・4・8・ 12・14	板状加工機	安山岩	28.3	28.4	5.0	4900.0		検合	
図Ⅱ-17	5	41-5	H-20	覆土下位	1	台石	安山岩	20.5	13.3	4.3	2055.0			127
図Ⅱ-18	2	42-1	H-21	床面	9	すり石	安山岩	9.2	5.9	6.8	503.0			129
図Ⅱ-18	3	42-1	H-21	覆土4層	3	台石	安山岩	(5.1)	(6.3)	(2.4)	(82.1)			130
図Ⅱ-19	1	42-2	P5-31	覆土	台石	安山岩	15.2	14.0	7.0	1973.0				134
図Ⅱ-20	2	42-3	S-11	覆土1層	台石	安山岩	(9.2)	(8.5)	(7.8)	(774.0)				141
図Ⅱ-20	3	42-4	S-12	Ⅴa)	板状加工機	安山岩	8.7	5.6	1.6	99.5				113
図Ⅱ-20	4	42-4	FC-11	Ⅴa)	石鏃	黒曜石	(1.3)	(1.0)	(0.2)	(0.2)				123
図Ⅱ-23	1	42-5	SB-3/J22d	Ⅱ	石鏃	メノウ	2.7	2.2	1.2	4.6				106
図Ⅱ-23	2	42-5	SB-3/J23d	Ⅱ	フレイク	メノウ	6.1	4.2	1.7	39.8				108
図Ⅱ-23	3	42-5	SB-3/J23b	Ⅱ	たたく石	安山岩	8.8	7.4	6.0	412.0				110
図Ⅱ-23	4	42-5	SB-3/J23b	Ⅱ	たたく石	安山岩	16.7	7.0	5.5	960.0				111
図Ⅱ-23	5	42-5	SB-3/J23b	Ⅱ	台石	安山岩	15.2	12.8	5.6	1415.0				109
図Ⅱ-26	1	43-2	SB-4	Ⅱ	フレイク	メノウ	3.4	1.8	0.9	5.5				107
図Ⅱ-26	2	43-2	SB-4	Ⅱ	すり石	硃岩	9.5	4.9	3.8	186.1				105
図Ⅱ-26	3	43-2	SB-4	Ⅱ	加工痕あり機	安山岩	7.4	5.7	1.7	83.1				103
図Ⅱ-29	1	43-4	SB-6	Ⅱ	加工痕あり機	安山岩	10.7	6.9	3.2	293.8				104
図Ⅱ-29	2	43-4	SB-6	Ⅱ	新刃部	黒曜石	(2.7)	3.3	(1.3)	(13.4)				135
図Ⅱ-42	1	46-2	K69	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.3	0.6	0.2	0.1				6
図Ⅱ-42	2	46-2	K65	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.5	0.6	0.2	0.1				23
図Ⅱ-42	3	46-2	K68	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.4)	0.8	0.2	(0.2)				8
図Ⅱ-42	4	46-2	J70	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.6	0.6	0.2	0.2				27
図Ⅱ-42	5	46-2	J73	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.7	0.7	0.3	0.2				24
図Ⅱ-42	6	46-2	K68	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.7	0.8	0.3	0.2				39
図Ⅱ-42	7	46-2	K52	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.7	0.8	0.3	0.2				32
図Ⅱ-42	8	46-2	J84	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.8	0.9	0.2	0.2				42
図Ⅱ-42	9	46-2	K66	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.8	0.7	0.2	0.2				5
図Ⅱ-42	10	46-2	K52	Ⅴb	石鏃	黒曜石	1.9	1.0	0.3	0.4				31
図Ⅱ-42	11	46-2	K77	Ⅴb	石鏃	黒曜石	3.2	0.8	0.2	0.5				3
図Ⅱ-42	12	46-2	J64	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.3)	0.7	0.2	(0.1)				41
図Ⅱ-42	13	46-2	J63	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.4)	0.8	0.2	(0.2)				40
図Ⅱ-42	14	46-2	J80	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.4)	0.7	0.2	(0.2)				43
図Ⅱ-42	15	46-2	K77	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.4)	1.0	0.3	(0.3)				136
図Ⅱ-42	16	46-2	K79	Ⅴb	石鏃	黒曜石	3.1	2.0	0.5	2.9			未成品	35
図Ⅱ-42	17	46-2	J63	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(2.3)	(1.1)	0.2	(0.4)				4
図Ⅱ-42	18	46-2	K73	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.2)	0.7	0.3	(0.2)				44
図Ⅱ-42	19	46-2	J100	Ⅴb	石鏃	黒曜石	2.2	1.0	0.3	0.6				28
図Ⅱ-42	20	46-2	I102	Ⅴb	石鏃	硬質頁岩	3.5	1.3	0.4	1.3				2
図Ⅱ-42	21	46-2	K76	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(1.2)	0.7	0.2	(0.1)				46
図Ⅱ-42	22	46-2	K74	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(5.8)	1.8	0.9	(9.1)	所山			10
図Ⅱ-42	23	46-2	J59	Ⅴb	石鏃	黒曜石	9.9	3.2	1.1	31.8				1
図Ⅱ-42	24	46-2	K69	Ⅴb	石鏃	黒曜石	(6.1)	2.2	0.6	(9.1)	所山			11
図Ⅱ-42	25	46-2	J70	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	(3.4)	1.6	0.4	2.1			キヌタ	62
図Ⅱ-42	26	46-2	K68	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	4.7	3.8	13.5	20.1				26
図Ⅱ-42	27	46-2	I109	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	5.1	2.1	0.5	4.7	所山			12
図Ⅱ-42	28	46-2	K57	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	6.6	2.8	1.0	14.9				67
図Ⅱ-42	29	46-2	J69	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	7.5	4.5	1.0	29.4	白滝2			17
図Ⅱ-42	30	46-2	K65	Ⅴb	ナイフ	黒曜石	7.7	4.3	1.2	33.0	所山			13
図Ⅱ-42	31	46-2	K65	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	3.2	2.8	0.9	5.5	所山			57
図Ⅱ-42	32	46-2	J70	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	3.5	2.9	0.6	5.6				19
図Ⅱ-42	33	46-2	K69	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	4.1	2.7	0.8	7.8	白滝2			60
図Ⅱ-42	34	46-2	J97	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	6.3	4.7	1.4	26.2				16
図Ⅱ-42	35	46-2	J71	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	5.2	1.5	0.5	2.4				58
図Ⅱ-42	36	46-2	J69	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	(4.7)	1.7	0.7	(4.5)				64
図Ⅱ-43	37	46-2	I105	Ⅴb	スクレイパー	黒曜石	3.8	2.7	0.7	5.2				68
図Ⅱ-43	38	46-2	J63	Ⅴb	スクレイパー	安山岩	7.2	5.8	1.8	92.6				73

表Ⅲ-6 2018年調査掲載石器一覧(2)

検体番号	掲載 表番号	写真図版 番号	遺物 保存 地区	層位	遺物 番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	産地 分析	備考	実測 長さ
3000-43	39	46-2	K55	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	4.1	2.4	0.7	3.3			66
3000-43	40	46-2	K57	Ⅴb		スクレイパー	硬質頁岩	6.0	5.3	2.0	35.5			72
3000-43	41	46-2	K58	Ⅴb		スクレイパー	硬質頁岩	8.2	6.2	1.5	45.8			15
3000-43	42	46-2	609	Ⅴb		スクレイパー	硬質頁岩	13.3	6.3	2.8	154.7			56
3000-43	43	46-2	K71	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	2.4	2.2	0.5	2.3	西山		71
3000-43	44	46-2	K79	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	2.8	2.3	1.0	5.2			20
3000-43	45	46-2	J107	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	2.7	1.8	0.6	2.2	白濁2		70
3000-43	46	46-2	K68	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.1	4.0	1.2	8.2			59
3000-43	47	46-2	82	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.2	2.2	0.5	4.2	西山		61
3000-43	48	46-2	K73	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.4	1.9	0.5	2.2	西山		75
3000-43	49	46-2	K73	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.6	2.4	0.7	4.1			65
3000-43	50	46-2	K69	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.5	2.8	0.6	5.2			74
3000-43	51	46-2	87	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	3.6	2.9	1.2	12.2			18
3000-43	52	46-2	K68	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	4.0	2.9	1.0	6.4	西山		69
3000-43	53	46-2	K69	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	4.3	2.7	1.3	13.8	上十輪		76
3000-43	54	46-2	K73	Ⅴb		スクレイパー	黒曜石	4.6	2.6	1.1	9.3			63
3000-44	55	47-1	J71	Ⅴb		石鏃	黒曜石	1.1	0.8	0.2	0.2			50
3000-44	56	47-1	K56	Ⅴb		石鏃	メノウ	1.7	1.3	0.5	0.7			55
3000-44	57	47-1	K63	Ⅴb		石鏃	メノウ	(1.7)	1.0	0.6	(0.7)			7
3000-44	58	47-1	K81	Ⅴb		石鏃	メノウ	2.0	0.8	0.5	0.7			48
3000-44	59	47-1	K67	Ⅴb		石鏃	メノウ	2.2	1.1	0.5	0.9			89
3000-44	60	47-1	K56	Ⅴb		石鏃	メノウ	2.6	1.1	0.8	1.4			52
3000-44	61	47-1	80	Ⅴb		石鏃	メノウ	2.6	1.3	1.2	3.1			9
3000-44	62	47-1	83	Ⅴb		石鏃	メノウ	3.0	1.2	0.9	2.7			54
3000-44	63	47-1	K73	Ⅴb		石鏃	メノウ	3.1	0.9	0.6	1.4			47
3000-44	64	47-1	80	Ⅴb		石鏃	メノウ	3.7	1.8	1.3	4.8			53
3000-44	65	47-1	K67	Ⅴb		石鏃	メノウ	4.3	2.4	0.8	5.0			8
3000-44	66	47-1	J73	Ⅴb		石鏃	黒曜石	5.7	4.1	1.4	19.0			51
3000-44	67	47-1	K74	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	1.8	1.7	0.5	1.5			81
3000-44	68	47-1	K61	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	1.8	1.9	1.0	2.6			86
3000-44	69	47-1	K81	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	1.9	2.4	1.3	4.0			87
3000-44	70	47-1	K57	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	2.1	1.8	0.4	1.5			82
3000-44	71	47-1	K74	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	2.2	2.5	1.1	4.9			83
3000-44	72	47-1	K66	Ⅴb		楔形石鏃	メノウ	3.2	2.3	1.6	8.5			84
3000-44	73	47-1	83	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	3.2	3.2	1.2	9.7			79
3000-44	74	47-1	J110	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	3.5	2.1	1.1	6.0			14
3000-44	75	47-1	J73	Ⅴb		楔形石鏃	黒曜石	4.6	4.1	1.6	27.7	西山		85
3000-44	76	47-1	K69	Ⅴb		楔形石鏃	メノウ	6.0	3.4	2.1	40.4			80
3000-44	77	47-1	K67	Ⅴb		Rフレイク	黒曜石	2.2	2.0	0.6	2.4	不明		88
3000-44	78	47-1	K67	Ⅴb		Rフレイク	黒曜石	4.3	2.2	0.7	4.0			89
3000-44	79	47-1	K77	Ⅴb		石鏃	黒曜石	2.8	3.0	2.0	11.6			91
3000-44	80	47-1	85	Ⅴb		石鏃	安山岩	6.8	7.2	3.0	124.9			96
3000-45	81	47-1	K81	Ⅴb		石鏃	安山岩	5.0	10.6	6.8	348.0			95
3000-45	82	47-1	J101	Ⅴb		石鏃	安山岩	6.1	8.0	4.2	220.4			98
3000-45	83	47-1	K65	Ⅴb		石鏃	硬質頁岩	11.4	10.1	3.7	384.0			97
3000-45	84	47-1	89	Ⅴb		石鏃	硬質頁岩	8.2	5.0	4.0	182.3			90
3000-45	85	47-1	89	Ⅴb		石のみ	緑色片岩	3.0	1.9	0.9	7.6			100
3000-45	86	47-1	88	Ⅴb		くぼみ石	安山岩	13.4	8.0	5.7	963.0			99
3000-46	87	47-1	J57	Ⅴb		礫石	砂岩	11.0	(9.6)	5.5	(67.6)			93
3000-46	88	47-1	K74	Ⅴb		礫石	砂岩	(12.9)	(10.6)	(2.6)	(234.2)			92
3000-46	89	47-1	K60	Ⅴb		台石	安山岩	15.8	(11.8)	5.3	(1432.0)			139
3000-46	90	47-1	K81	Ⅴb		台石	安山岩	17.0	12.9	3.4	1112.0			138
3000-46	91	47-1	83	Ⅴb		台石	安山岩	30.7	20.6	10.0	8900.0			142
3000-46	92	47-1	K67	Ⅴb		台石	砂岩	(12.1)	(6.3)	(3.7)	(322.0)			143
3000-46	93	47-1	88	Ⅴb下		板状加工塊	安山岩	14.5	11.5	2.0	343.0			101
3000-47	94	47-1	138	Ⅴa1		石鏃	黒曜石	(3.8)	1.6	0.4	(1.8)	白濁2		23
3000-47	95	47-1	86	Ⅴa1		石鏃	黒曜石	5.1	1.4	0.4	2.4	生田原		24
3000-47	96	47-1	J109	Ⅴa		石鏃	硬質頁岩	3.2	1.2	0.5	1.1			22
3000-47	97	47-1	J108	Ⅴa		石鏃	硬質頁岩	(2.5)	1.1	0.4	(1.0)			25
3000-47	98	47-1	J102	Ⅴa		石鏃	黒曜石	(8.6)	4.1	1.2	(39.1)	西山		21
3000-47	99	47-1	84	Ⅴa		スクレイパー	黒曜石	(2.7)	2.9	1.0	2.1			26
3000-47	100	47-1	K66	Ⅴa2		楔形石鏃	メノウ	1.8	1.5	1.0	6.3			78
3000-47	101	47-1	K66	Ⅴa2		楔形石鏃	黒曜石	2.2	3.3	0.9	6.0			77
3000-47	102	47-1	J109	Ⅴa		楔形石鏃	黒曜石	3.1	2.6	1.5	9.3			27
3000-47	103	47-1	J107	Ⅴa		楔形石鏃	黒曜石	4.7	3.7	1.6	21.3	白濁2†		28
3000-47	104	47-1	J109	Ⅴa		石鏃	硬質頁岩	5.7	3.7	1.9	23.4			29
3000-47	105	47-1	J107	Ⅴa		たぶき石	硬質頁岩	8.7	5.5	4.0	202.5			30
3000-47	106	47-1	K93	Ⅴa1		半円石	安山岩	5.9	4.7	3.2	133.3			128
3000-47	107	47-1	J58	Ⅴa1		台石	安山岩	18.3	15.2	4.5	2170.0			140
3000-47	108	47-1	82	Ⅴa1		板状加工塊	安山岩	(11.0)	(6.0)	3.0	(246)			102
3000-47	109	47-1	128	Ⅱ		石製品	軽石	9.4	3.3	2.6	23.1			103

表Ⅲ-7 2018年調査掲載金属製品一覧

種別番号	掲載番号	写真図版番号	遺構/発掘区	遺物番号	層位	点数	種別	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
図Ⅲ-23	6	42-5	SB-3/J21d	1	Ⅱ	1	銅製品	環状	2.3	2.4	0.2	2.1	耳輪?	1
図Ⅲ-23	7	42-5	SB-3/J22a	1	Ⅱ	1	鉄製品	刀子	6.3	1.5	0.4	6.0		12
図Ⅲ-23	8	42-5	SB-3/J23d	1	Ⅱ	1	鉄製品	釘	4.0	0.9	0.7	5.0		14
図Ⅲ-23	9	42-5	SB-3/J23b		Ⅱ	1	鉄製品	釘	2.9	0.9	0.4	2.0		15
図Ⅲ-23	10	42-5	SB-3/J21d	2	Ⅱ	2	鉄製品	楔	2.2	1.5	0.6	2.5		21
図Ⅲ-23	11	42-5	SB-3/J22a	1	Ⅱ	4	鉄製品	楔	3.0	1.9	1.0	10.5		22
図Ⅲ-23	12	42-5	SB-3/J23c	1	Ⅱ	2	鉄製品	鉤状	1.5	1.7	0.6	0.5	端部	25
図Ⅲ-26	4	43-2	SB-4		Ⅱ	1	銅製品	不明	5.8	1.6	0.2	2.0	板状	2
図Ⅲ-26	5	43-2	SB-4		Ⅱ	1	鉄製品	釘	3.2	0.7	0.5	4.0		16
図Ⅲ-29	3	43-4	SB-6	ksb-30	Ⅱ	1	鉄製品	釘	2.1	0.5	0.4	0.5		37
図Ⅲ-30	1	43-4	SB-8	ksb-33	灰	2	鉄製品	釘	4.6	0.8	0.3	2.5		38
図Ⅲ-31	1	43-4	SB-10		Ⅱ	1	鉄製品	平釘	16.5	2.9	1.9	270.0		5
図Ⅲ-31	2	43-4	SB-10		Ⅱ	1	鉄製品	角釘	6.9	1.2	1.4	22.8		6
図Ⅲ-31	3	43-4	SB-10	ksb-36	Ⅱ	1	鉄製品	刀子	3.8	2.0	0.5	4.0	柄	39
図Ⅲ-48	1	48-2	J28		Ⅱ	12	鉄製品	鎌	18.1	10.2	0.7	90.2	接合	4
図Ⅲ-48	2	48-2	K34		Ⅱ	1	鉄製品	環状	2.7	2.6	0.8	3.0	口金	10
図Ⅲ-48	3	48-2	J14		Ⅱ	1	鉄製品	斧	16.5	7.7	4.1	975.0	鍔	3
図Ⅲ-48	4	48-2	J13		Ⅱ	3	鉄製品	刀子	7.5	2.1	0.7	11.9		9
図Ⅲ-48	5	48-2	J17		Ⅱ	1	鉄製品	角釘	14.3	1.4	1.3	32.9		7
図Ⅲ-48	6	48-2	K28		Ⅱ	1	鉄製品	角釘	8.2	1.4	1.1	17.0		8
図Ⅲ-48	7	48-2	J17		Ⅱ	1	鉄製品	角釘	2.9	0.7	0.7	12.4	サビ多量、中空	13
図Ⅲ-48	8	48-2	J14		Ⅱ	2	鉄製品	釘	4.9	1.1	0.8	3.0	接合	17
図Ⅲ-48	9	48-2	J14		Ⅱ	2	鉄製品	釘	6.0	1.1	0.8	3.5	接合	18
図Ⅲ-48	10	48-2	J14		Ⅱ	2	鉄製品	釘	5.5	1.4	0.8	5.0	接合	19
図Ⅲ-48	11	48-2	J14		Ⅱ	1	鉄製品	釘	4.0	1.8	1.0	4.0		20
図Ⅲ-49	12	49-1	J41		I下位	3	鉄製品	鍋	10.9	2.0	0.9	27.7	吊手(弦)	11-35
図Ⅲ-49	13	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	3.1	1.9	0.6	5.0	吊手(弦)	11-36
図Ⅲ-49	14	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	25.0	10.3	1.0	520.0	口縁・吊耳	11-1
図Ⅲ-49	15	49-1	J42		I下位	1	鉄製品	鍋	23.1	12.4	0.6	329.9	3点接合	11-17
			J42		I下位	1								11-37
			J42		I下位	1								11-38
図Ⅲ-49	16	49-1	J42	1	I下位	3	鉄製品	鍋	10.6	6.3	0.6	79.4		11-4
図Ⅲ-49	17	49-1	J42	1	I下位	3	鉄製品	鍋	9.3	7.3	0.5	66.5		11-24
図Ⅲ-49	18	49-1	J42	2	I下位	3	鉄製品	鍋	8.3	7.2	0.4	70.5		11-31
図Ⅲ-49	19	49-1	J42	6	I下位	1	鉄製品	鍋	12.4	7.5	0.8	92.6		11-39
図Ⅲ-49	20	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	10.1	8.5	0.5	90.2		11-41
図Ⅲ-49	21	49-1	J42		I下位	1	鉄製品	鍋	4.3	5.2	0.4	44.3	胴～底	11-18
図Ⅲ-49	22	49-1	J42		I下位	1	鉄製品	鍋	1.4	6.3	0.4	46.3	胴～底	11-20
図Ⅲ-49	23	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	11.8	17.8	0.5	361.5	胴～底	11-2
図Ⅲ-49	24	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	19.5	15.1	1.3	680.0	底・丸型湯口	11-3
図Ⅲ-49	25	49-1	J41		I下位	1	鉄製品	鍋	8.7	5.5	0.5	68.6	底	11-5

表Ⅲ-8 2018年調査掘載骨角器等一覧

検体番号	掲載番号	写真図版番号	遺構/発掘区	層位	点数	種別	分類	材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測番号
Ⅲ-23	13	42-5	SB-3	下位灰	1	骨角器	経頭	鹿角	3.3	1.8	0.9	1.9	水洗	BT-1
Ⅲ-23	14	42-5	SB-3/J22a	Ⅱ	1	骨角器	中柄	鹿・中手中足骨	8.2	1.0	0.9	4.9		BT-6
Ⅲ-23	15	42-5	SB-3/J23d	Ⅱ	1	骨角器	中柄(未成品)	鹿骨	10.2	1.4	1.4	9.2		BT-7
Ⅲ-23	16	42-5	SB-3/J22d	Ⅱ	3	骨角器	ヤス木成品	鹿骨	13.6	1.2	1.3	10.7	接合、骨髄?	BT-10
Ⅲ-23	17	42-5	SB-3/J23d	Ⅱ	1	骨角器等	骨角器片	鹿骨	2.2	1.0	1.0	1.0		BT-21
Ⅲ-23	18	42-5	SB-3/J23d	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿骨	3.6	1.6	0.9	3.2	面取り、切込	BT-29
Ⅲ-23	19	42-5	SB-3/J23b	Ⅱ	3	骨角器等	彫材(未成品)	海獣(トドク)	21.5	6.2	2.3	88.6	接合	BT-16
Ⅲ-23	20	42-5	SB-3/J23a	Ⅱ	1	骨角器等	経頭彫材	鹿角	7.9	4.3	1.9	17.9	切断痕ほか	BT-18
Ⅲ-23	21	42-5	SB-3/J22b	Ⅱ	2	骨角器等	残片(スベール剥片)	鹿骨	9.8	2.0	2.3	10.6	接合、切込	BT-28
Ⅲ-23	22	42-5	SB-3/J22a	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿骨	8.3	1.7	1.1	5.9	切込	BT-27
Ⅲ-26	6	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器	経頭	鹿角	2.1	1.0	0.8	0.6	目釘跡/残	BT-3
Ⅲ-26	7	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器	経頭	鹿角	1.3	0.9	0.4	0.3	片、作跡出	BT-4
Ⅲ-26	8	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器	中柄(未成品)	鹿骨	11.2	1.6	1.1	8.4		BT-8
Ⅲ-26	9	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器	鉤状製品	鹿角	9.2	3.6	2.1	22.8	切断痕ほか	BT-14
Ⅲ-26	10	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器等	骨角器片	鹿骨	2.3	1.0	0.6	0.7	面取り	BT-20
Ⅲ-26	11	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器等	未成品	鹿骨	1.5	0.7	0.4	0.3		BT-23
Ⅲ-26	12	43-1	SB-4魚骨具範圍Ⅰ	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿角	2.1	2.8	0.8	2.8	平板状、切込	BT-31
Ⅲ-26	13	43-1	SB-4	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿角	6.0	1.0	0.7	2.4	切断痕	BT-30
Ⅲ-28	1	43-2	SB-5	Ⅱ	1	骨角器	経頭	鹿角	4.1	1.2	0.9	5.0	銅線残存	BT-2
Ⅲ-28	2	43-2	SB-5 貝敷中③	Ⅱ	3	骨角器	弓矢状製品	鹿角	1.8	1.4	1.3	2.2	接合、切込	BT-12
Ⅲ-28	3	43-2	SB-5 魚骨敷中②	Ⅱ	1	骨角器	裝飾品	鹿角	1.8	1.3	0.3	0.3	刺突列	BT-11
Ⅲ-28	4	43-2	SB-5 魚骨敷中②	Ⅱ	1	骨角器	裝飾品	鹿骨	3.8	1.2	0.7	1.2	3点接合、刺突列	BT-11
Ⅲ-28	5	43-2	SB-5	Ⅱ	1	骨角器	中柄未成品	鹿骨	1.7	0.9	0.5	0.6	全面面取り	BT-24
Ⅲ-28	6	43-2	SB-5 貝敷中③	Ⅱ	1	骨角器	骨角器片	鹿骨	2.8	1.1	0.9	0.9		BT-22
Ⅲ-28	7	43-2	SB-5 魚骨敷中②	Ⅱ	1	骨角器等	骨角器片	鹿骨	1.9	0.8	0.7	0.8	切込、ケズリ	BT-13
Ⅲ-28	8	43-2	SB-5 貝敷中③	Ⅱ	1	骨角器	未成品	鹿角	2.0	0.6	0.4	0.2	先端部加工	BT-25
Ⅲ-28	9	43-2	SB-5 魚骨敷中②	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿角	2.7	0.8	0.5	0.7	面取り	BT-32
Ⅲ-28	10	43-2	SB-5	Ⅱ	1	骨角器等	彫材(未成品)	鹿骨	11.0	2.9	1.8	19.9		BT-19
Ⅲ-28	11	43-2	SB-5	Ⅱ	1	骨角器等	残片	ヒゲマシ骨	20.1	7.3	4.3	140.9	解体骨、切断痕	BT-17
Ⅲ-30	2	43-3	SB-8	Ⅱ	1	骨角器等	未成品	鹿角	2.3	0.4	0.6	0.4	先端部加工	BT-26
Ⅲ-30	3	43-3	SB-9	Ⅱ	1	骨角器	中柄(未成品)	鹿骨	2.3	0.5	0.5	0.4	刺突列?	BT-9
Ⅲ-31	4	43-4	SB-10	Ⅱ	1	骨角器	経頭	鹿角	1.4	0.7	0.4	0.2	片、目釘穴あり	BT-5
Ⅲ-50	1	48-1	J15	Ⅱ	2	骨角器	鹿角片?	鹿角	24.9	16.3	2.6	73.8	接合	BT-15
Ⅲ-50	2	48-1	K15	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿角	15.8	2.7	2.9	32.1		BT-42
Ⅲ-50	3	48-1	K18	Ⅱ	1	骨角器等	残片	鹿角	15.1	3.4	2.5	42.6		BT-43

表Ⅲ-9 フローテーション結果

試料番号	遺構/発掘区	層位	体積 (m ³)	乾燥重量 (g)	残渣 (g)	浮遊物 (g)					回収遺物					備考
						2mm	0.425mm	石器 (点)	メノウ (g)	鉄片 (g)	種 (g)	骨片 (g)	貝 (g)	炭化物 (g)	質化種子 (粒)	
カネ-1	H-191F-1	焼土	8,900	10,650	37.9	18.2	7.5			0.0	9.9	0.0	28.5	18		
カネ-2	H-191F-2	焼土	4,150	5,520	6.0	0.2	0.8				2.9	0.1	0.5			
カネ-3	H-211F-1	焼土	850	1,070	4.4	0.9	0.0				0.9	0.1	3.9			
カネ-4	H-221F-1	焼土	6,550	8,710	15.9	3.7	1.2				11.9	0.1	4.9	9		
カネ-5	K88	焼土	750	980	1.1	0.0	0.0				1.1				一括土器内	
カネ-6	F-56	焼土	6,200	7,470	16.9	0.1	0.7	1			16.3	0.0	0.0	1.0	0	
カネ-7	F-57	焼土	5,850	7,750	4.8	0.4	0.5	6			3.1	0.0	0.7			
カネ-8	F-58	焼土	7,150	9,540	9.7	0.0	0.2	5			0.5	0.0	0.0			
カネ-9	F-59	焼土上面	1,700	2,300	1.6	0.2	0.1				1.3	0.1	0.4			
カネ-10	F-60	焼土	3,900	4,950	14.9	5.3	1.3				5.4		11.9	0		
カネ-11	F-61	焼土上面	2,300	2,970	3.5	0.1	0.1	2	0.0		1.5	0.0	1.7	0		
カネ-12	F-62	焼土上面	3,100	3,630	3.8	0.1	0.5	13			2.3	0.0	0.8			
カネ-13	F-62	焼土中	1,250	1,490	0.6	0.0	0.0				0.2	0.6	0.0			
カネ-14	F-63	焼土上面	1,200	1,600	0.5	0.0	0.0				0.5	0.0	0.0			
カネ-15	F-64	焼土	13,600	16,430	19.2	3.1	0.6	29			8.6	0.0	0.0	7.0	5	
カネ-16	F-65	焼土	6,200	7,090	23.5	0.0	0.1	5			13.1		0.6	0.6		
カネ-17	F-66	焼土	1,700	2,300	1.1	0.6	0.1				0.9		1.4			
カネ-18	F-67	焼土上位	150	250	0.4	0.0	0.0				0.4	0.2	0.2			
カネ-19	F-67	焼土	41,300	51,040	38.6	8.0	5.1	94			26.3	0.1	9.1	3		
カネ-20	F-68	焼土上位	5,100	6,810	28.8	5.1	0.5	3	0.0		8.6	0.0	6.3			
カネ-21	F-68	焼土	10,000	12,240	7.1	1.6	0.6	13			5.7		3.7			
カネ-22	F-69	焼土	34,900	43,530	13.8	8.4	3.2	560			2.7	0.0	0.0	12.6		
カネ-23	F-70	焼土	7,500	9,570	6.6	0.1	0.0	11			3.4	0.0	3.2			
カネ-24	F-71	焼土上面	150	200	0.3	0.0	0.0				2.0		0.1			
カネ-25	SP-29	覆土	250	270	2.8	0.0	0.0				0.6	0.0	0.2			
カネ-26	SP-30	覆土下位	50	60	0.0	0.0	-				0.2	0.0	0.3			
合計			175,300	218,420	253.9	56.1	23.1	742	0.0	0.2	128.3	0.4	0.7	99.0	35	

表Ⅲ-10 動物遺存体ほか水選別結果

試料番号	採取位置等			動物遺存体			他の自然遺物			その他	残	計(g)
	遺構/発掘区	層位		貝	魚骨	獣骨	炭	根	礫			
kob-1	SB-1	Ⅱ		1,339.3	1.8	0.1						1,341.2
kob-2	SB-2	Ⅱ		579.3	1.3	3.8			0.1		1.5	586.0
kob-3	SB-3/J21a	Ⅱ		41.6		18.0						59.6
kob-4	SB-3/J21b	Ⅱ		12.6								12.6
kob-5	SB-3/J21c	Ⅱ		116.8		3.2						120.0
kob-6	SB-3/J21d	Ⅱ		545.8	1.7							547.5
kob-7	SB-3/J22a	Ⅱ		435.5	6.2	269.7				18.2		729.6
kob-8	SB-3/J22b	Ⅱ		157.3	1.3	15.3				10.5		184.4
kob-9	SB-3/J22c	Ⅱ		290.1	0.7	52.8						343.6
kob-10	SB-3/J22d	Ⅱ		495.1	0.9	8.8				10.7		515.5
kob-11	SB-3/J23a	Ⅱ		970.4	0.7	99.5				17.8		1,088.4
kob-12	SB-3/J23b	Ⅱ		1,561.8	16.6	157.2				88.6		1,824.2
kob-13	SB-3/J23c	Ⅱ		530.7	4.2	46.0						580.9
kob-14	SB-3/J23d	Ⅱ		873.3		194.5				13.4		1,081.2
kob-15	SB-3/トレンチ	下位灰		152.9	15.0	14.1	3.5		31.4		86.8	303.7
kob-16	SB-3	下位灰		213.1	56.8	95.3	13.2		145.0	18.9	158.8	701.1
kob-17	SB-4/トレンチ1	Ⅱ		93.3	202.0	3.2	16.5		75.5		87.6	478.1
kob-18	SB-4/トレンチ2	Ⅱ		1.3	26.3	4.4	8.9			5.3		46.2
kob-19	SB-4	Ⅱ		4,800.6	692.0	725.0	171.8		270.8	46.4	495.0	7,201.6
kob-20	SB-4	獣骨範囲				150.0						150.0
kob-21	SB-4	灰		1,607.7	1,826.5	75.6	284.6	69.5	1,152.8	4.4	1,335.0	6,356.1
kob-22	SB-4	魚骨・貝範囲1		147.8	882.3	14.2	67.8	21.0	200.3	4.6	435.0	1,773.0
kob-23	SB-4	魚骨・貝範囲2		14.9	155.4	36.1	29.1	3.3	22.6	0.1	171.4	432.9
kob-24	SB-5	Ⅱ		2,007.3	270.3	360.3	36.7	7.9	142.4	174.5	223.6	3,223.0
kob-25	SB-5貝集中①	Ⅱ		8,482.9	58.4	103.5	9.8	6.3	10.9			8,776.4
kob-26	SB-5貝集中②	Ⅱ		1,743.6	22.3	72.0	1.0			0.2	21.5	1,860.6
kob-27	SB-5貝集中③	Ⅱ		856.6	689.4	133.4	49.1	8.7	38.5	3.2		1,778.9
kob-28	SB-5魚骨集中②	Ⅱ		333.1	726.9	7.1	157.8	8.5	99.5	2.2	361.7	1,696.8
kob-29	SB-5魚骨集中③	Ⅱ		32.6	873.7	44.0	119.4	24.3	82.6	4.8	490.0	1,671.4
kob-30	SB-6	Ⅱ		1,754.7	590.2	125.5	137.4	25.5	209.5	5.8	450.0	3,296.6
kob-31	SB-6	灰		556.7	428.1	53.9	103.7		113.4		238.9	1,494.7
kob-32	SB-7	Ⅱ		79.0	15.4	10.3	12.2		4.9		19.3	141.1
kob-33	SB-8	灰		800.5	387.7	41.7	93.3	171.9	16.6	389.0		1,900.7
kob-34	SB-9	Ⅱ		616.9	180.0	22.2	77.9		63.9	2.2	228.6	1,191.7
kob-35	SB-9	灰			6.7		1.9		4.2		5.8	18.6
kob-36	SB-10	Ⅱ		150.7	200.0	12.2	47.3		41.7	5.0	135.0	591.9
kob-37	SB-10	灰1		2.3	31.8	0.3	17.9		23.9		40.5	116.7
kob-38	SB-10	灰2		19.2	63.6	5.4	50.6		118.6		106.9	364.3
kob-39	J13	Ⅱ		5.7		0.9						6.6
kob-40	J14	Ⅱ		7.3		40.2						47.5
kob-41	J15	Ⅱ		922.6	1.0	38.3	0.3			73.8	5.1	1,041.1
kob-42	J16	Ⅱ		464.1	8.4	43.5	0.8				14.0	530.8
kob-43	J18	Ⅱ		1.4								1.4
kob-44	J20	Ⅱ		7.5								7.5
kob-45	J21	Ⅱ		21.1		13.7						34.8
kob-46	J23	Ⅱ		44.5								44.5
kob-47	J24	Ⅱ		46.4								46.4
kob-48	J25	Ⅱ		3.3		0.2						3.5
kob-49	J26	撥乱		110.0						0.3		110.3
kob-50	J26	Ⅱ		16.9								16.9
kob-51	J27	撥乱		17.3								17.3
kob-52	J28	Ⅱ		3.4								3.4
kob-53	J29	Ⅱ		11.1								11.1
kob-54	J35	Ⅱ		3.1								3.1
kob-55	K13	Ⅱ		1.5								1.5
kob-56	K14	Ⅱ		35.1								35.1
kob-57	K15	Ⅱ		25.0	1.0	52.8	0.1			32.1	0.2	111.2
kob-58	K18	Ⅱ								49.9		49.9
kob-59	K19	Ⅱ		7.1								7.1
kob-60	K21	Ⅱ		6.7						2.4		9.1
kob-61	K22	Ⅱ		46.5							0.1	46.6
kob-62	K23	Ⅱ		1,051.4	9.4	59.0					6.2	1,126.0
kob-63	K24	Ⅱ		31.7								31.7
kob-64	K25	1下		9.0								9.0
kob-65	K34	Ⅱ		45.7								45.7
kob-66	K35	Ⅱ		69.7	0.0	0.2					1.8	71.7
kob-67	K37	Ⅱ		31.1								31.1
kob-68	K38	Ⅱ		6.5								6.5
kob-69	K39	Ⅱ		8.5								8.5
合計(g)				35,478.5	8,456.0	3,227.4	1,512.6	175.0	3,029.7	606.3	5,614.2	58,099.7

IV章 2008年の調査と出土遺物

1 調査の概要

(1) 調査の方法と経過

調査区は国道334号の南側に沿う範囲で、北側は海岸砂丘が東西にのびており、南東側は低湿地が広がる。調査区内の標高は4.5～5.5mである。調査範囲は延長689.3mと長い一方、幅は西部を除き0.3～3mの狭い部分が続く。幅0.3mでは調査が困難なため、掘削最小幅を1mとした。また堆積土が砂であり崩落防止のため用地境界から50cm離して調査区を設定した。さらに電柱や用地杭などの構造物や埋設物の周囲は掘削を行っていない。なお調査範囲が細長いため、便宜的に町道や構造物を境に東側からA地点（1～27ライン）・B地点（33～94ライン）・C地点（96～139ライン）と呼称した。

表土除去および埋め戻しは、当初計画では重機で行う予定であったが、幅や段差、構造物や仮置き場といった制約から、C地点低位箇所（117～139ライン）を除き人力作業で行ったところが多い。調査中に北海道教育委員会による試掘調査の位置を3か所確認した（33f・67e・108c区）。うち67e区では、オホーツク文化期の竪穴住居跡の貼床以下に達している。

調査は東側のA地点から行った。同地区では遺構・遺物とも皆無であった。一方B地点では、当初予想よりも多数の遺構・遺物が検出された。中央部（60～76ライン）では、竪穴住居跡をはじめ遺構が密に検出され道路側にも広がることから、協議の上、道路法面中まで拡張した範囲がある。またC地点東部でも遺構が密に検出され、当初予定の範囲を延長した部分がある（96～101ライン）。C地点西部では旧河道ないし海浜の礫層が広がり、この面までを調査対象とし終了した。

遺構名は検出順に「〇〇号址」を付した（2018年調査の際に統一を図るため、共通の遺構種別記号への変換を行った。概要報告書や図面類などをもとに担当者（阿部）の認識で判断した。そのため、遺構種別の変更が生じたものがある）。

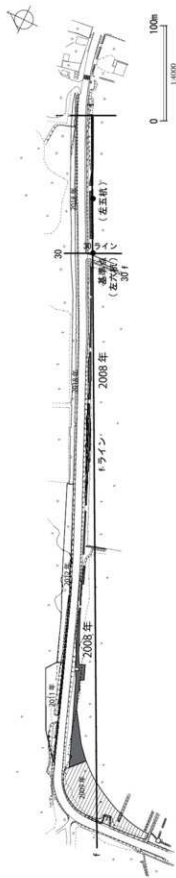
記録類について、調査範囲図・遺構平面図などは平板測量により作図した。また土層断面図・詳細遺物分布図などを作成した。遺物の取り上げは、表土・攪乱等を除いてNo1から連続で通し番号を付し、台帳を作成した。写真撮影はリバーサル35mm・ネガカラー35mmフィルムを使用した。

(2) 発掘区の設定

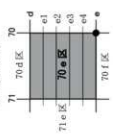
発掘区の基準点は、国道334号と林野庁との用地境界杭のうち「左六」(→L6)と「左五」(→L5)とし、それを結んだ東西方向ラインを基準線の「fライン」とした。基準点L6に直交する線を「30ライン」とし、交点を「30f」とした。これを基準として5m間隔でグリッド杭を設定し、北から南へアルファベット、東から西へ算用数字を付し、これらの組み合わせで交点を呼称した。5mごとに方形区画された範囲の南東側（山側、ウトロ側）の杭を発掘区の呼称とした（他の調査年と南北方向の呼称が反対であり注意が必要）。また調査区が細長いため、南北方向はさらに1m間隔に細分した。例えば基準点のL6から南方向にg1・g2、北方向にf4・f3・f2・f1・eといったように補助的に細分している（30f4、30f3など、細分の数字は北から付されているので注意が必要）。

基準点の座標は、以下のとおりである。座標系は、世界測地系平面直角座標系第XⅢ系である。

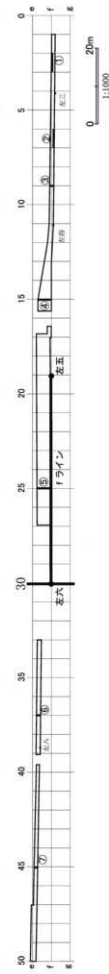
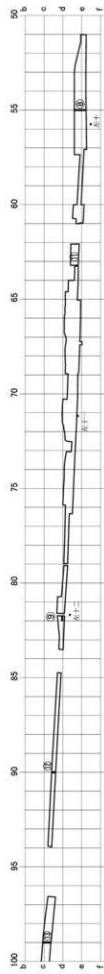
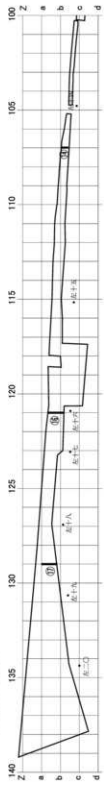
〔調査区基準点〕	左六 L 6 (30 f)	X = -7,730.592	Y = 43,360.198
	左五 L 5	X = -7,705.971	Y = 43,409.113



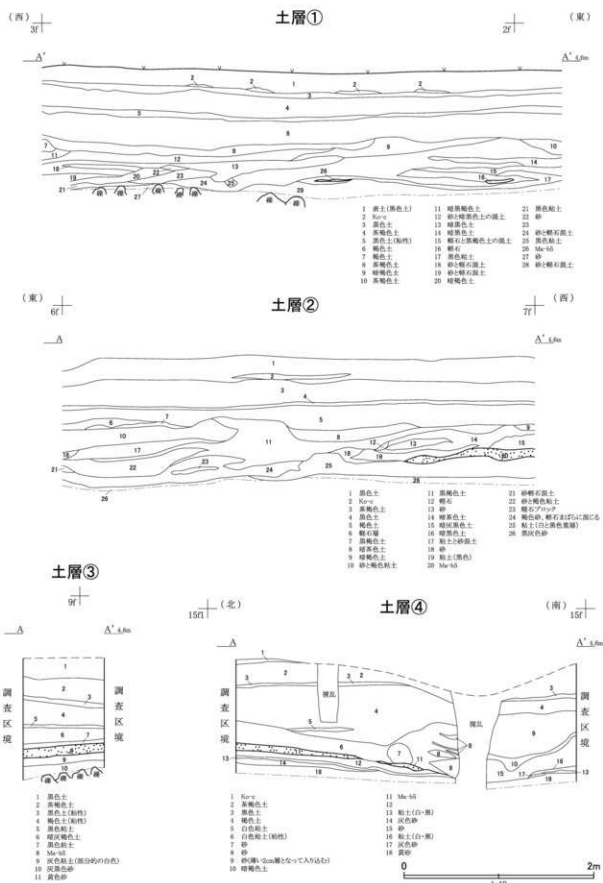
発掘区呼称



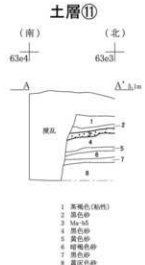
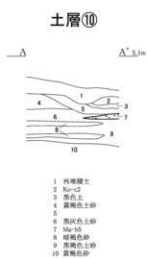
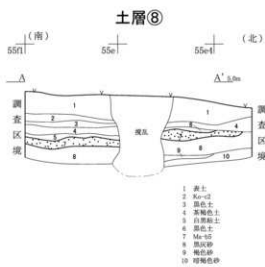
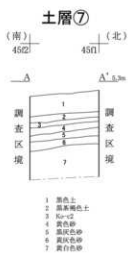
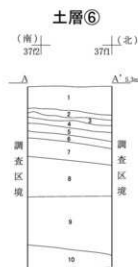
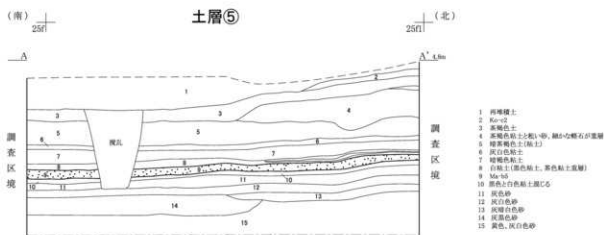
発掘区設定図



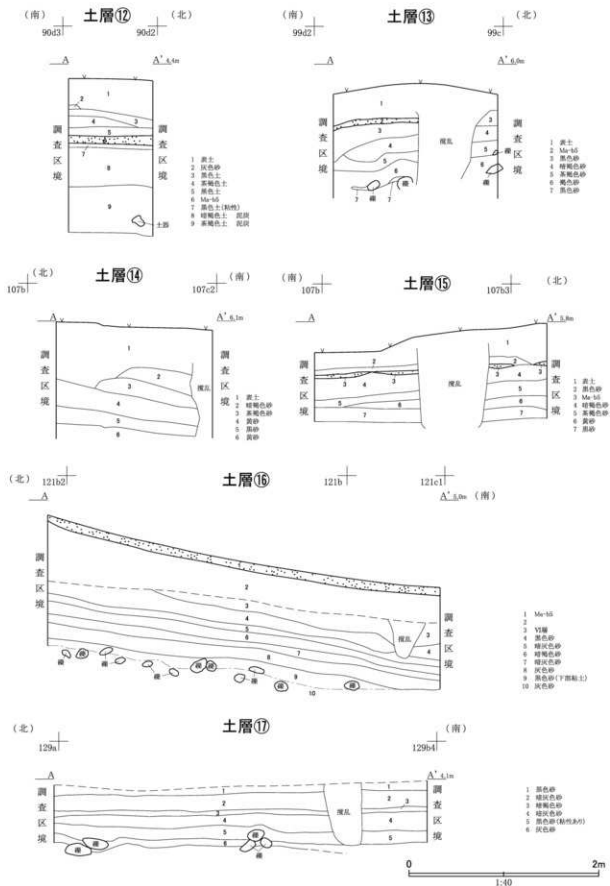
図N-1 2008年発掘区設定図・土層断面位置



図IV-2 調査区土層断面(1)



図N-3 調査区土層断面(2)



図N-4 調査区土層断面(3)

(3) 土層

II章2で記載した通り、土層の堆積が地点により異なっている。鍵層となる摩周b5火山灰の層名も地点により異なる点に注意が必要である(表II-1参照)。各地点の土層断面図を図IV-2~4に示した(A地点:土層①~⑤、B地点:土層⑥~⑫、C地点:土層⑬~⑰)。

【A地点】	【B地点】	【B地点(81付近)】	【C地点】
I層:表土	I層:表土	I層:表土	I層:表土
II層:茶褐色土	II層:樽前a火山灰	II層:樽前a火山灰	II層:黒色砂
III層:茶褐色土(砂含む)	III層:茶褐色粘質土	III層:灰色砂	III層:Ma-b5
IV層:灰褐色粘質土	IV層:黒色砂	IV層:黒色土	IV層:暗褐色砂
V層:粘土	V層:Ma-b5	V層:茶褐色土	V層:茶褐色砂
VI層:樽前a火山灰	VI層:黒灰砂	VI層:黒色砂	VI層:黄色砂
VII層:粘土(白・黒互層)	VII層:黒色土	VIII層:Ma-b5	VII層:黒色砂
VIII層:灰黒砂	VIII層:黒白砂	VIII層:泥炭	VIII層:黄色砂
IX層:灰色砂	IX層:黒色砂	IX層:礫層	IX層:礫層
X層:灰黒砂	X層:黄色砂		
XI層:灰白色砂			
XII層:礫層			

(4) 調査結果の概要

調査の結果、統縄文時代宇津内II式期の墓や集石土坑を含む遺構・遺物群、オホーツク文化刻文期の集落跡を確認した。遺構を60基以上検出し、遺物は約12,800点が出土した。

【縄文時代】

調査区中央西部(C地点)で晩期緑ヶ岡式期の堅穴住居跡2軒を検出した。調査区西部の礫群では、手稲式と晩期の土器片が出土した。

【統縄文時代】

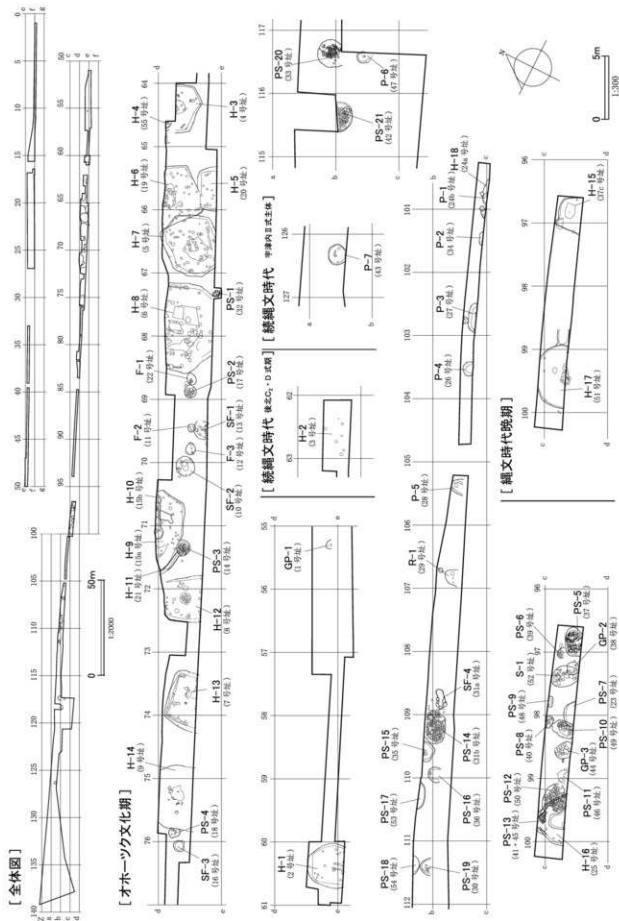
調査区中央~西部(C地点)に遺構が主体的に分布する。堅穴住居跡2軒、柱穴列1か所、土坑墓2基、土坑7基、集石土坑17基、石組炉1基、集石1か所、ベンガラ製作址1か所を検出した。土坑墓はベンガラが撒かれ棚状の骨格が残存するものや、大型土器が倒立するものがある。

出土土器は、点数では宇津内IIb式、後北C₂・D式が多いが、完形・復元個体では宇津内IIa式が目立つ。

【オホーツク文化期】

調査区中央部(B地点)に遺構が集中する。堅穴住居跡13軒(建て替え等の重複含む)、土坑墓1基、集石土坑4基、石組炉3基、焼土3か所を検出した。堅穴住居跡は、大型(7m以上)で五・六角形を呈し貼床・溝などの構造がある典型的なものがある一方、やや小型(4~5m)で多角形のほか方形に近い形状とみられるものもある。前者には石組炉があるのに対し、後者には床面中央付近に集石土坑があるものが目立つ。また、炉からはサケ科を主体とした魚骨が多く検出されており、海獣類のみに依拠しない生業の一端を示す好資料となっている。

遺物は、堅穴住居跡および周辺からの出土が多い。土器は刻文土器が大部分であるが、擬縄貼付文土器も含まれている。



図IV-5 2008年調査区遺構位置図

2 遺構の調査とその遺物

遺構の記載内容は、概要報告書(斜里町教育委員会2009)をもとに、図・写真等から加筆した。

a 縄文時代の遺構

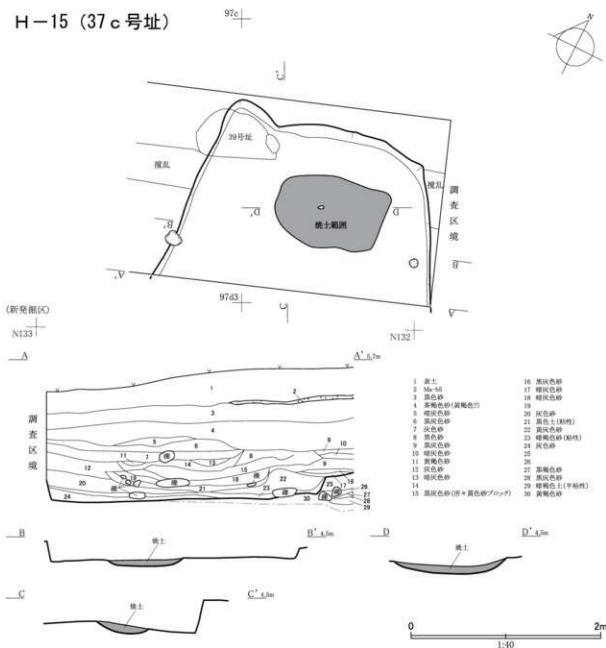
(1) 竪穴住居跡

2軒(H-15・17)を検出した。時期は、構築面や出土遺物から縄文時代晩期後葉～続縄文時代初頭である。

H-15 (37c号址) (図IV-6・7 表IV-1・2 図版50)

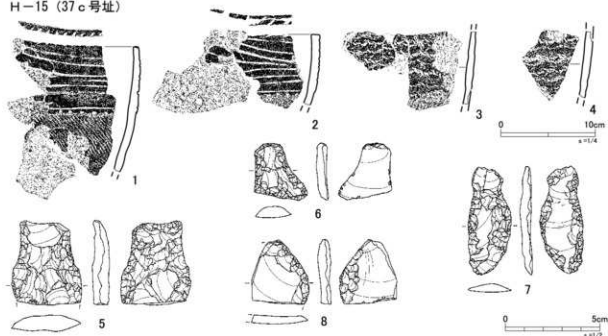
不整形を呈すると推測される。床面の下は礫層で、砂で覆って床面を構築している。柱穴は検出できなかった。床面北寄りに1.2×0.7m、厚さ0.08mの楕円形の焼土を検出した。当遺構の北西にP S-6 (39号址)、中央にP S-5 (37号址)が上位に重複する。

H-15 (37c号址)



図IV-6 H-15 (37c号址)

H-15 (37c号址)



図IV-7 H-15 (37c号址) 出土の遺物

掲載遺物：1～4は縄文時代晩期後葉～続縄文時代初頭の緑ヶ岡式併行。1・2は口縁部が無文地で、波頂部に向かう弧線と横走沈線が多条に施されている。縄端による刺突列以下にRL縄文が施文されている。3・4は口縁部文様帯に縦線文が間隔をあけて施され、弱い段以下にLR縄文がみられる。

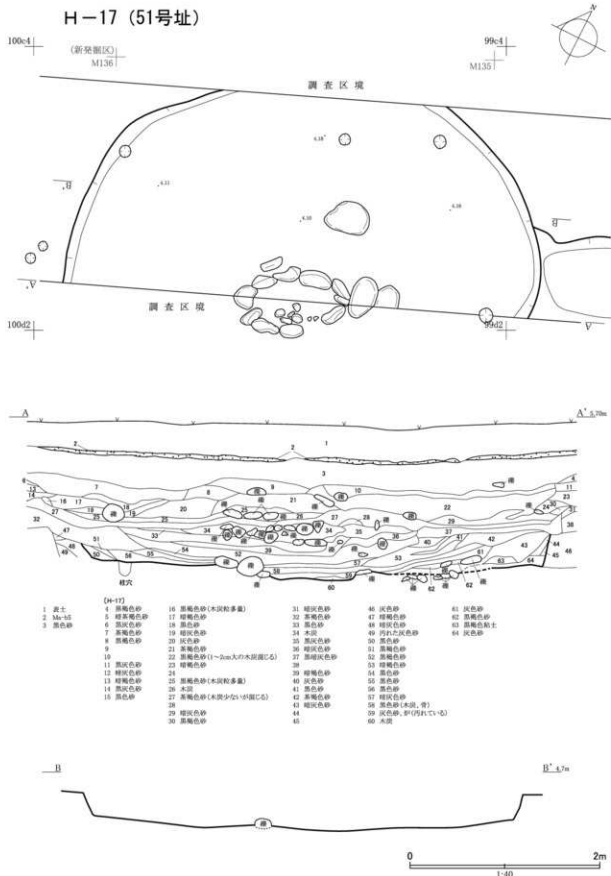
5～8はナイフ。5は両面全体に加工が施されるもので、矩形の柄部が作出されている。6は側縁からのやや平坦な加工により靴形に成形されている。7はつまみ付きナイフで、半両面加工が施され素材面を大きく残している。8は破損品で、右側縁で短い平坦加工が両面に施されている。

H-17 (51号址) (図IV-8・9 表IV-1・2 図版4・21・50)

隅丸方形を呈すると考えられる。住居址中央付近で、1.7×0.9mの石組炉を検出した。縄文晩期の緑ヶ岡式土器が出土している。柱穴は4基確認された。東側の一部はNTTのケーブルの埋設によって攪乱している。上部にH-16 (25c号址)、PS-12 (50号址) が検出されている。

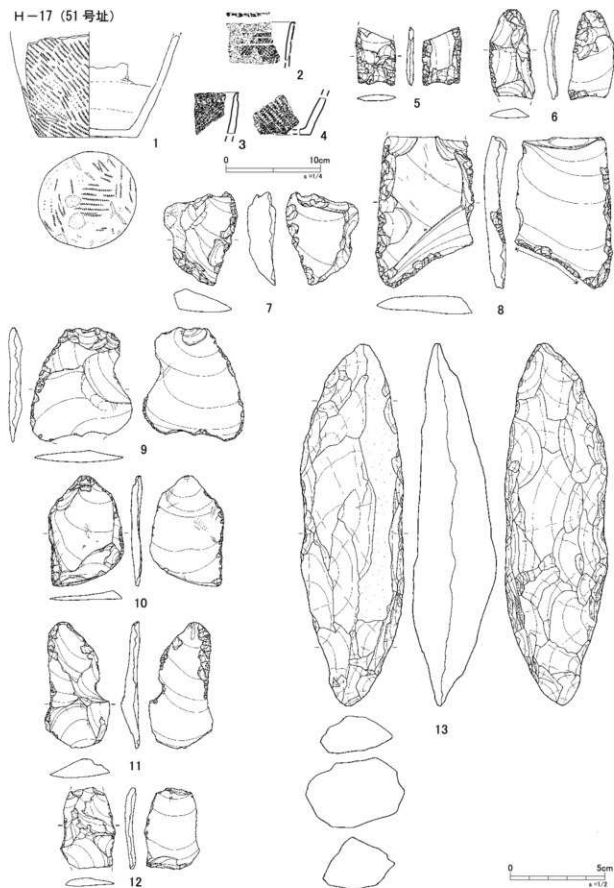
掲載遺物：1～4は晩期後葉の土器。1は平底で、底面にも縄文が施文されている。2は口唇上に刻み、口縁部に横走沈線がみられる。3は(縄端)刺突列がみられる。4は底部片。

5は石鏃。凹基で縁辺を中心とした加工が施されている。6はナイフ。左側縁に刃部加工がなされ、素材のバルブの高まりを除去するような平坦剝離が裏面上部に施されている。7～9はスクレイパー。7・8は両側縁の加工により下端が尖る形状となっている。9は縁辺全体に短い加工が見られ、下縁は裏面側に加工が施されている。10～12はRフレイク。いずれも縁辺の一部に細かな加工が施されている。13は石槍。柳葉形を呈するが、厚みが非常に大きい。正面に原石面を残す。両側縁の加工で中央の稜を超えるものは少ない。そのため加工の度に厚みが減少せず、最終的な加工は縁辺が鈍角化するほど執拗に行われ、激しい摩耗がみられる。



図M-8 H-17 (51号址)

H-17 (51号址)



図IV-9 H-17 (51号址) 出土の遺物

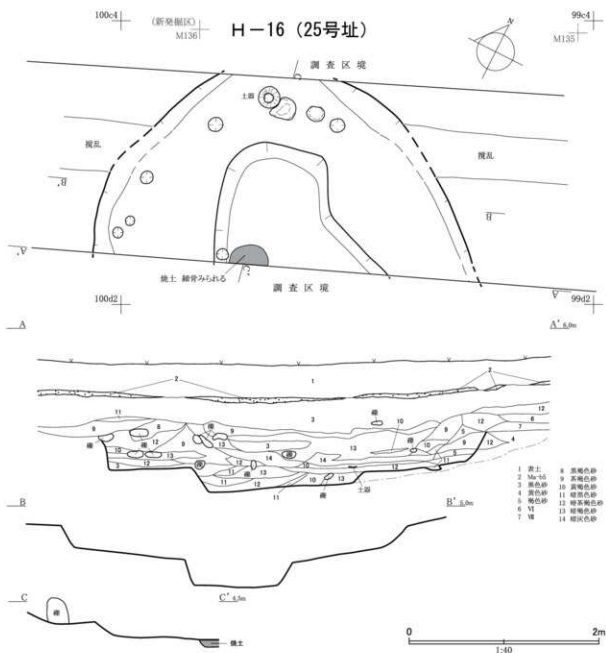
b 続縄文時代の遺構

(1) 竪穴住居跡

2軒(H-16・18)を検出した。時期は、構築面や出土遺物から字津内Ⅱa式期である。

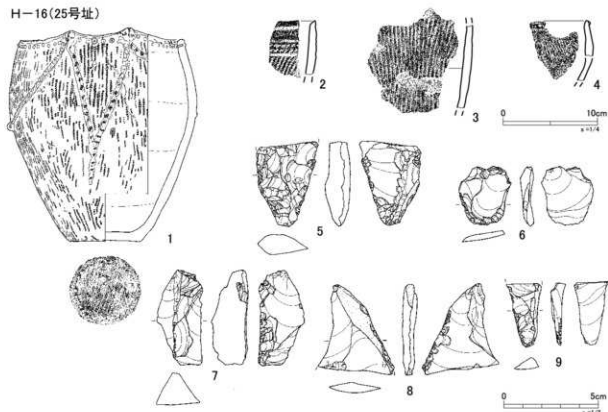
H-16 (25号址) (図Ⅳ-10・11 表Ⅳ-1・2 図版21・50)

不整形形を呈すると考えられ、南・北方向に延びる。中央部が不整形に窪み、周囲がテラス状の構造になっている。中央部のやや西側に0.4×0.3mの焼土を検出し、骨片が数点出土している。また北西側のテラス状の床面から、大型の礫に隣接して字津内Ⅱa式土器が倒立した状態で出土した。上位のP S-12 (50号址)、下位のH-17 (51号址)とは西側で切り合う。また北側の上部にはP S-13 (45号址)が検出されている。柱穴は東側が不明であるが、西・北側では壁に沿って巡っている。



図Ⅳ-10 H-16 (25号址)

H-16(25号址)



図IV-11 H-16(25号址) 出土の遺物

掲載遺物：1は上記の倒立出土の宇津内Ⅱa式。亀裂入りだが完形である。2個一対の貼瘤状の突起が対面する。突起を起点に擬縄貼付文がV字をえがく。口縁部に径の小さな突瘤文がめぐる。底面にも自縄自巻の縄文が施文されている。内面上半部に黒色物質が多量附着している。2～3は純縄文時代前半の土器。2は3本の凹線が横走し、一部地文にかかる。4は擬縄貼付文がみられる。

5はナイフ。上半部が欠損している。半両面加工が施され、裏面に大きく素材面を残す。6はスクレイパー。下端部に円弧状の加工がある。7～9はRフレイク。7は裏面にやや長い平坦加工が施されている。8は右側縁に細かな両面加工が施されている。9は下端部付近の両側縁に加工がある。

H-18 (24a号址) (図IV-12 表IV-1・2 図版21・50)

調査区内では北側の0.4m幅しか検出しておらず、主体部は南側の調査区外とみられる。住居址としたが、用途は異なるかもしれない。また円形の土抗が重複し、別の遺構とした(P-1・24b号址)。

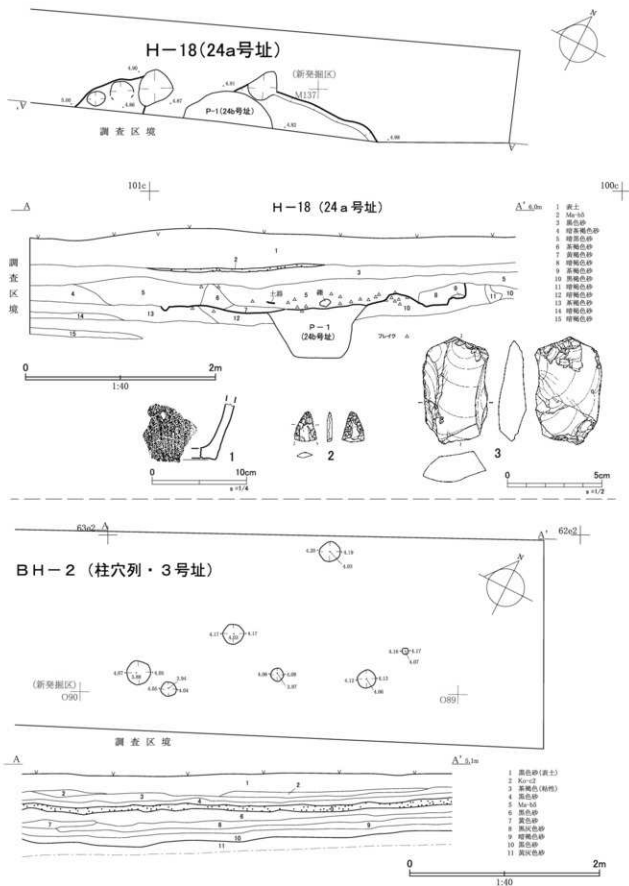
掲載遺物：1は宇津内Ⅱ式の底部。上げ底で、文様は異方向の燃糸が組み合わされている。

2は石鏃。下半部が欠損している。縁辺を中心に細かな加工が施されている。3は石核。正面で縦長薄片が剥離されている。裏面は横方向の石核調整により平坦化している。

(2) 柱穴列

BH-2 (3号址) (図IV-12 表IV-1・2 図版21)

3×1.8m範囲に、7個の柱穴が検出された。柱穴は3基ずつ直列するがやや不規則な並びで、用途は不明である。柱穴の確認面で後北C₂・D式土器が出土している。



図IV-12 H-18 (24a号址)・BH-2 (3号址)

(3) 土坑墓

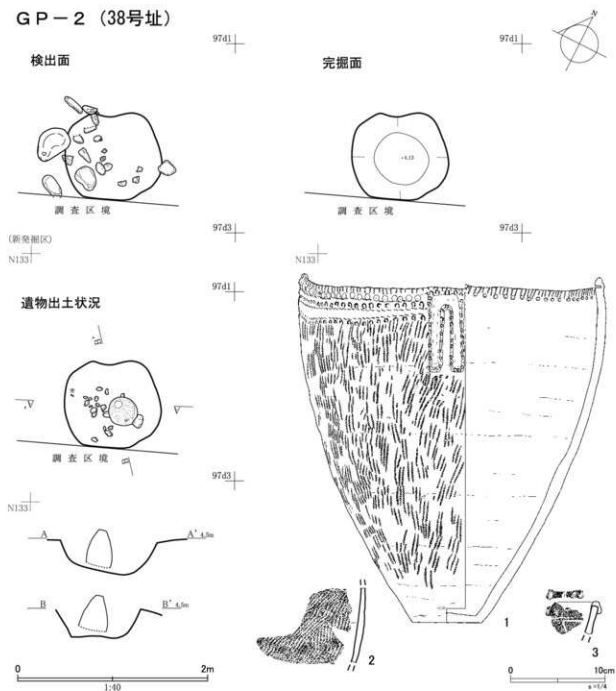
2基（GP-2・3）を検出した。時期は、構築面や出土遺物から宇津内Ⅱa式期である。

GP-2 (38号址) (図IV-13 表IV-1・2 図版22・50)

おおむね円形を呈している。上位にはやや大型の礫がままとっていた。坑底付近からは、東側に完形の宇津内式土器が倒立して出土し、西側隅で骨片を検出した（取り上げ困難）。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱa式の大型深鉢。亀裂入りだが完形である。大2+小2単位で、逆U字状の縄縄貼付文のある面と波頂部だけの面がある。縄刻文・突縮文・縄端刺突がめぐる。2は胴部片。3は縄文晩期のものか。

GP-2 (38号址)



図IV-13 GP-2 (38号址)

GP-3 (44号址)

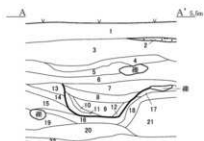
9941

検出面①



調査区境

9942



(GP-3)

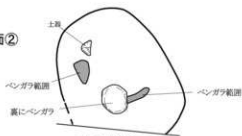
- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1 黄土 | 13 暗褐色砂 | 7 暗灰色砂 |
| 2 Ma-s | 14 暗灰色砂 | 8 黒色砂 |
| 3 黒色砂 | 15 黄褐色砂 | 9 黒褐色砂 |
| 4 暗茶褐色砂 | 16 黒灰色砂 | 10 暗灰色砂 |
| 5 茶褐色砂 | 17 暗褐色砂 | 11 黒灰色砂 |
| 6 黒灰色砂 | 18 赤色砂 | 12 暗灰色砂 |
| | 19 暗灰色砂 | |
| | 20 茶灰色砂 | |
| | 21 茶褐色砂 | |
| | 22 黒色砂 | |

(新発掘区)

N135

9941

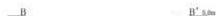
検出面②



調査区境

9942

N134



N134



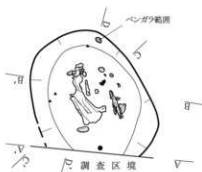
N134



N135

9941

発掘面



調査区境

9942

拡大図 1/20



N135

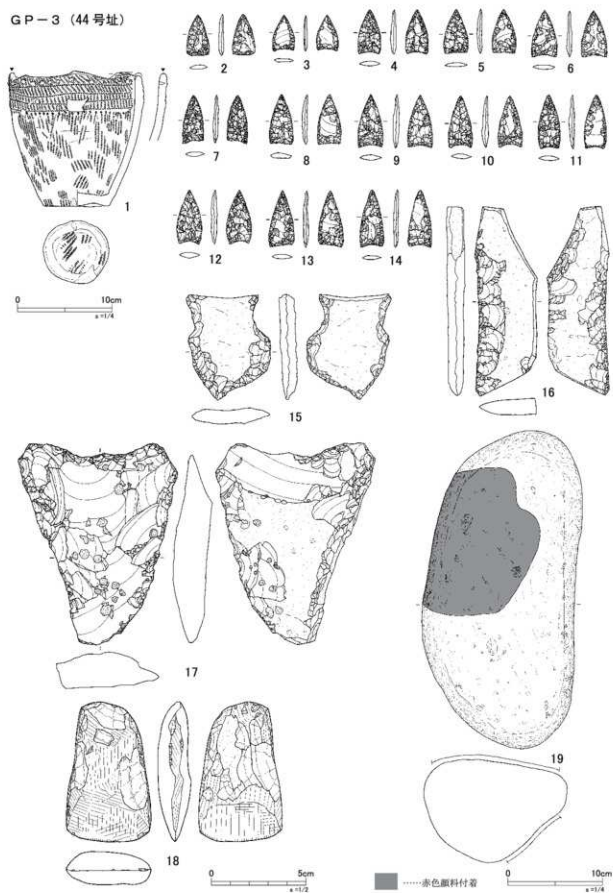


N134



図IV-14 GP-3 (44号址)

GP-3 (44号址)



図IV-15 GP-3 (44号址) 出土の遺物

GP-3 (44号址) (図Ⅳ-14・15 表Ⅳ-1・2 口絵3、図版22・51)

楕円形の暗灰色のまとまりを検出した。掘り下げたところ、掘込み面の下部から大型礫の集石が出土した。これを取り上げたところ、西側隅からベンガラのまとまりを検出した。この面で宇津内式土器片が出土した。土器を取り上げた段階で人骨(棚状主体)が検出され、東側から石鏃、珪藻土のかたまり、剥片が出土した。また坑底面からサメ類の歯が1点出土した(Ⅷ章3)。ベンガラは、ほぼ全面に散布されている。長軸は北西-南東方向で、頭位は北西である。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱa式のやや小型の深鉢形土器。口縁の一部を欠くものの、完形に近い。大4+小4の波頂部がある。突窟文・縄線文・縄端刺突がめぐる。やや上げ底の底面にも縄文が施文されている。内外面上部に炭化物が多量に付着し、突窟の刺突が被覆する部分がある。

2~14は石鏃。2は平基で、それ以外はいずれも凹基。縁辺はやや湾曲するものが大半である。素材面が残存するものが多く、加工が全面に及ぶものは7・9・12のみである。15・16はナイフ。いずれも薄手の原石の縁辺のみを加工したものである。15は上部の両側縁にノッチ状の加工が施され、つまみ部を作出している。16は左側縁に両面加工が施され、鋭い縁辺となっている。17は石核。剥片素材で、素材腹面を主要剥離面として横長剥片を剥離している。18は石斧。剥離による粗い成形の後、全面的な研磨により成形し両刃の刃部が作出されている。19はすり石。正面全体と裏面の一部に擦り面が見られる。正面左側にベンガラが付着している。

(4) 土坑

7基(P-1~7)検出した。時期は、構築面や出土遺物から宇津内Ⅱa~Ⅱb式期とみられるが、一部後北C₂・D式期が含まれているかもしれない。

P-1 (24b号址) (図Ⅳ-16 表Ⅳ-1)

H-18(24a号址)において、推定0.8mほどで深さ0.6mの円形(約半分は調査区外)の掘込みが検出されている。住居址とは別な遺構の可能性があるので、土坑とした。

P-2 (34号址) (図Ⅳ-16 表Ⅳ-1)

楕円形と推測される土坑の一部を検出した。深さは0.3mである。

P-3 (27号址) (図Ⅳ-17 表Ⅳ-1・2 図版51)

楕円形と推測される土坑の一部を検出した。深さは0.5m。また北側に落ち込みを検出した。遺物は主に覆土から出土しており、土器が3点、石器等が11点ある。

掲載遺物：1は楔形石器。原石面を大きく残す剥片を素材としている。上下端の他に横方向の対向する剥離も見られる。2はたたき石。下部端に敲打痕が見られる。

P-4 (26号址) (図Ⅳ-17 表Ⅳ-1・2 図版22・51)

円形と推測される。深さは0.20mで、炭化物が検出されている。遺物は主に覆土から出土しており、土器が2点(宇津内Ⅱb式)、石器等が9点ある。

掲載遺物：3は石鏃。凹基で細身の三角形、両側縁が直線的な形状である。表面に素材面が残る。4・5はRフレイク。2点とも両面の一部に細かな加工が施されている。

P-5 (28号址) (図Ⅳ-18 表Ⅳ-1・3 図版22・51)

楕円形と推測され、深さは0.25mである。253点の遺物が出土しており、特に坑底から黒曜石の細片が233点出土した。また遺構の西側からベンガラが付着した長さ25cm、幅15cmほどの長楕円形の礫が出土している。土器は坑底付近に縄文晩期のものがあるが、埋土からは宇津内Ⅱ式も少数出土している。

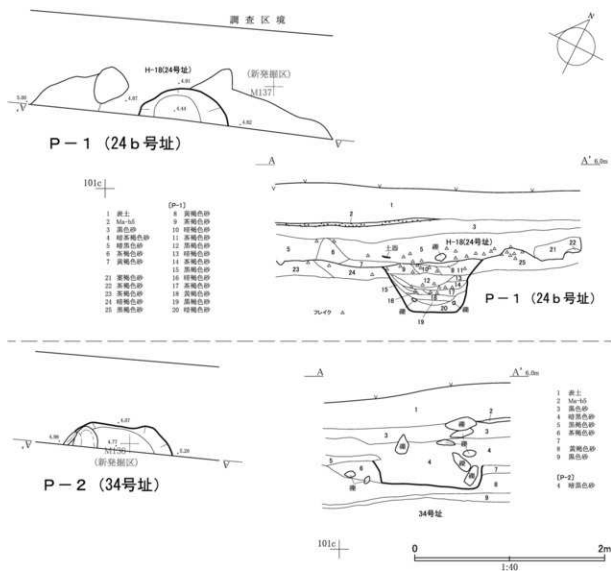
掲載遺物：1・2は字津内Ⅱb式とみられる。1は口唇直下に擬縦貼付文、口縁部に貼瘤状の貼付文がある。2は上げ底。3はナイフ。両端が尖るように両面加工が施されているが、形状のバランスが整っていない。4・5はRフレイク。4は両面の一部に細かな加工が施されている。5は左側縁の下半部に細かな加工が施されている。6はベンガラ付着礫。表裏面とも多量のベンガラが付着している。

P-6 (47号址) (図IV-18 表IV-1・3 図版22)

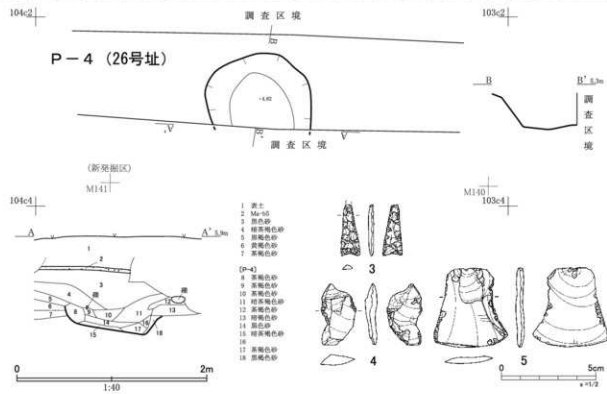
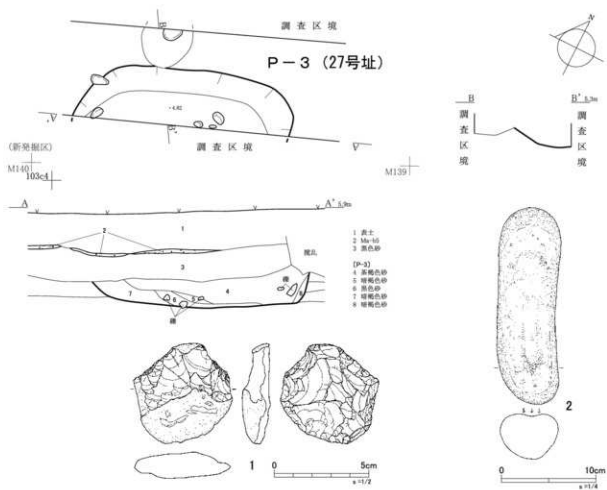
楕円形を呈すると推測され、深さは0.2mほどである。中央部の覆土中から、やや大型の礫が2個出土し、周囲は炭化物が密に詰まっている。

P-7 (43号址) (図IV-19 表IV-1・3 図版22)

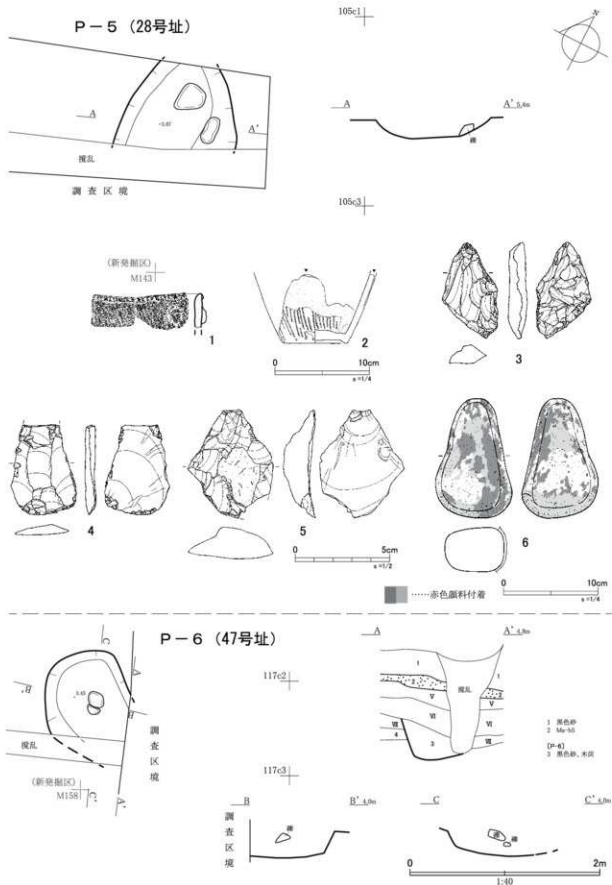
ほぼ円形を呈し、深さは0.2m。土抗中から礫6点、黒曜石の細片が3点出土している。また炭化物も検出した。



図IV-16 P-1・2 (24b・34号址)

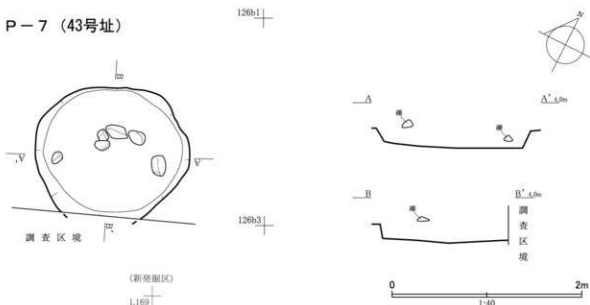


図M-17 P-3・4 (27・26号址)



図M-18 P-5・6 (28・47号址)

P-7 (43号址)



図IV-19 P-7 (43号址)

(5) 集石を伴う土坑

礫集中を含む土坑・集石土坑・集石炉とみられる土坑を17基 (P S-5~21) 検出した。時期は、構築面や出土遺物から宇津内Ⅱ a~Ⅱ b 式期が主体で、一部後北 C₂・D 式期が含まれるかもしれない。**P S-5 (37 a・b 号址)** (図IV-20 表IV-1・3 図版23・51)

不整形円形を呈している。上位は37 a 号址、下位は37 b 号址として調査した。集石の表面には、炭化物がタール状に付着している。また、被熱によって亀裂が入っている礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土している。遺物は主に集石下から出土しており、土器が10点 (宇津内Ⅱ a・Ⅱ b 式)、石器等が7点ある。

掲載遺物：1 はナイフ。両面全体に加工が施されるもので、尖頭形に成形されている。

P S-6 (39号址) (図IV-20 表IV-1・3)

P S-5 (37 a・b 号址)、H-15 (37 c 号址) の北西で検出された遺構である。円形を呈していると推測される。集石の表面には、炭化物がタール状に付着していた。また、被熱によって亀裂の入った礫も見られ、集石中からは炭化物が多量に出土した。南側は攪乱により不明である。

P S-7 (23号址) (図IV-21 表IV-1・3 図版23)

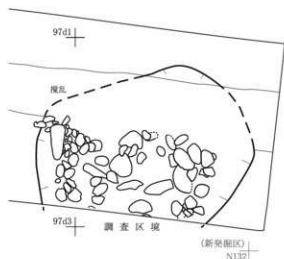
土坑の上位に集石を検出した。土坑は東西2 m、南北0.85 m の円形を呈すると考えられる。集石は調査区外となる南側にも延びていることから、南北2 m 程と推測される。東側で検出した集石は表面がきれいな状態であったが、土坑上面や土坑中の石は、表面に炭化物がタール状に付着し、煤けた状態である。また被熱によって亀裂の入った礫も見られ、集石中からは炭化物が多量に出土している。なお、東側の集石は西側の土坑内の集石とは連続していない。東側の集石は使用された痕跡がないことから、調査担当者は西側の集石土坑を使用する際の予備的な石と判断している。

遺物は主に集石中から出土しており、土器が10点 (宇津内Ⅱ b 式)、石器等が3点ある。

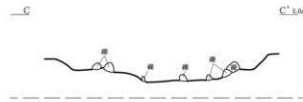
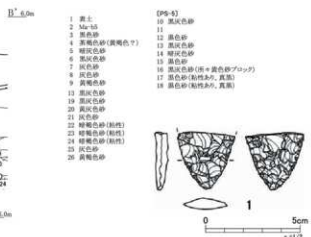
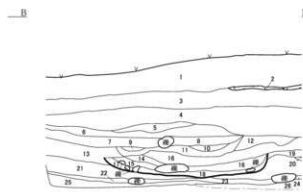
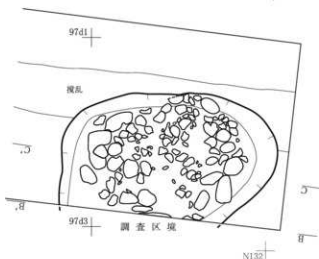
掲載遺物：1 は宇津内Ⅱ 式の大型深鉢片。2 列の擬縄貼付文がV 字状に配されているとみられる。2 は石鏃。上半部が欠損している。凹基で両側縁がほぼ平行する形状である。両面に平坦加工が施されている。3 はナイフ。両面全体に加工が施されている。裏面には表面に一部が見られる。

PS-5 (37a・b号址)

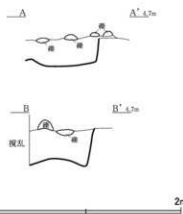
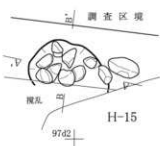
検出面(上位・37a号址)



完掘面(下位・37b号址)



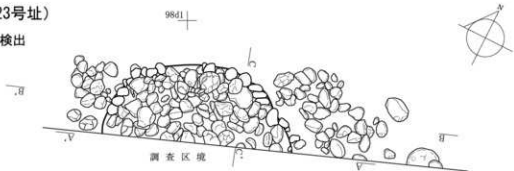
PS-6 (39号址)



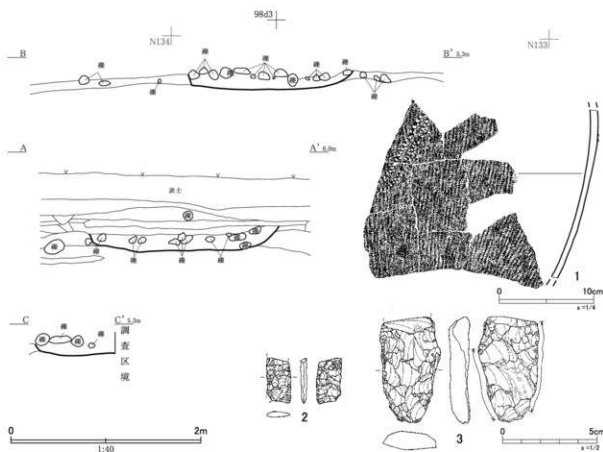
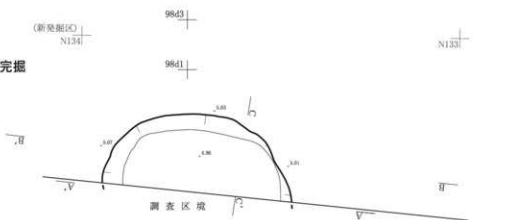
図IV-20 PS-5・6 (37a b・39号址)

PS-7 (23号址)

検出

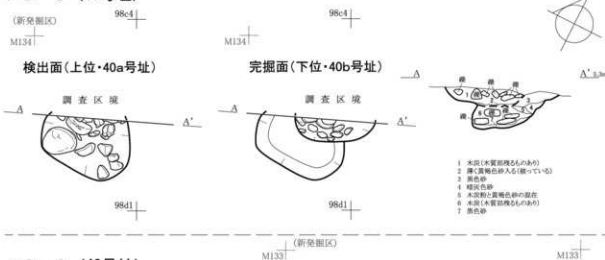


完掘

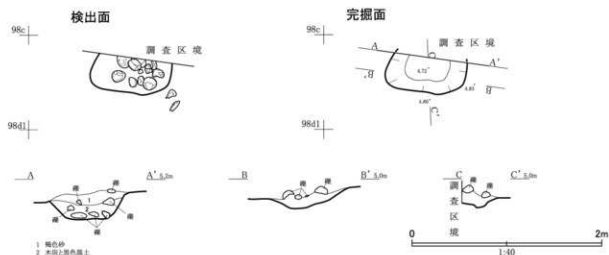


図IV-21 PS-7 (23号址)

PS-8 (40号址)



PS-9 (48号址)



図IV-22 PS-8・9 (40・48号址)

PS-8 (40号址) (図IV-22 表IV-1 図版23)

不整形を呈すると考えられる。上位を40a号址、下位を40b号址として調査を行った。上位・下位とも集石の表面には、炭化物がタール状に付着していた。また被熱によって亀裂の入った礫も見られ、集石中からは炭化物が多量に出土した。

PS-9 (48号址) (図IV-22 表IV-1 図版23)

不整形を呈すると考えられる。集石の表面には、炭化物がタール状に付着していた。また、被熱によって亀裂の入った礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土した。

PS-10 (49号址) (図IV-23 表IV-1 図版23)

長楕円形を呈すると考えられる。焼けた礫や炭化物が多量みられる。遺物は土器が23点(縄文晩期～統縄文初頭18点、宇津内Ⅱ a式5点)、石器等が27点出土した。

掲載遺物: 1～3は緑ヶ岡式併行。口唇は刻まれ、口縁部は無文地に2本組の平行沈線が上下に配され、以下LR縄文が施文されている。4はナイフ。下半部が欠損している。柄部とみられ、わずかに内湾する縁辺が成形されている。5はスクレイパー。右側縁に円弧状の刃部が形成されている。

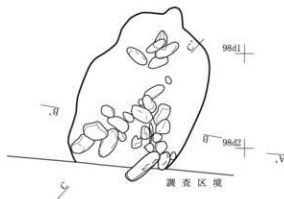
(新築地区)
M134

M134

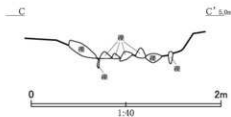
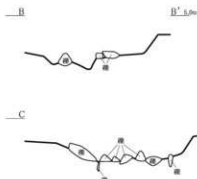
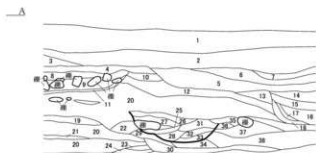
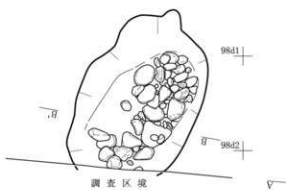


P S - 10 (49号址)

検出面

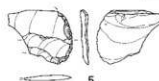
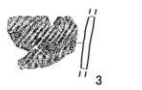


坑底面



- | | | |
|--------------------|---------|---------|
| 1 黒色土 | 11 暗褐色 | 21 黒色砂 |
| 2 黒色砂 | 12 暗灰色砂 | 22 黒灰色砂 |
| 3 茶褐色砂 | 13 暗褐色砂 | 23 灰色砂 |
| 4 茶褐色砂 (木炭混じり) | 14 暗灰色砂 | 24 黒褐色砂 |
| 5 黒灰色砂 | 15 黒色砂 | 25 暗灰色砂 |
| 6 茶褐色砂 | 16 茶褐色砂 | 26 黒色砂 |
| 7 暗茶褐色砂 | 17 暗灰色砂 | 27 黒灰色砂 |
| 8 木炭 (散在、木質混在している) | 18 黒灰色砂 | 28 褐色砂 |
| 9 木炭 (散在、木質混在している) | 19 灰色砂 | 29 暗褐色砂 |
| 10 黒色砂 | 20 黄褐色砂 | 30 黒色砂 |
| | | 31 暗褐色砂 |
| | | 32 黒灰色砂 |
| | | 33 黒灰色砂 |
| | | 34 黒褐色砂 |
| | | 35 黒色砂 |
| | | 36 灰色砂 |
| | | 37 暗褐色砂 |
| | | 38 茶灰色砂 |

[PS-10]



0 10cm
a=1/4

0 5cm
a=1/2

図IV-23 P S - 10 (49号址)

PS-11 (46号址) (図IV-24 表IV-1・3 図版23・51)

東西1.5m、南北1.5mで円形を呈する。掘込み面の下部から集石が検出されたことから土坑墓の可能性も考えられたが、最終的には土坑(集石土坑)とした。遺物は土器4点(宇津内Ⅱb式4点)、石器等8点が出土した。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱ式の胴部片。擬縄貼付文がある。2は石鏃。両端が尖る柳葉形の形状で両面全体に加工が見られる。3はスクレイパー。左側縁に直線的な急角度の加工が施されている。

PS-12 (50号址) (図IV-24・25 表IV-1・3 図版23)

楕円形を呈すると考えられる。覆土下位から坑底付近にかけて大小の礫が密集して検出された。集石の表面には、炭化物がタール状に付着している。また、被熱によって亀裂の入る礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土した。坑底に径70cmほどの楕円形の落ち込みがある。下位にH-16(25号址)を検出した。遺物は土器が3点、石器等が11点出た。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱb式の口縁部片。内面口縁部にも縄線が施されている。2は石鏃。凹基で両側縁がやや湾曲する形状である。両面全体に加工が施されている。3はRフレイク。左側縁下半に細かな加工が施されている。

PS-13 (41号址・45号址) (図IV-25 表IV-1・3 図版24)

上位を41号址、下部を45号址として調査した。楕円形を呈すると考えられる。上部は中程度の大きさの礫が密集し、下位は比較的大型の礫が多く、坑底付近まで充填されていた。集石の表面には、炭化物がタール状に付着している。また被熱により亀裂の入る礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土している。下位にH-16(25号址)、さらにPS-12(50号址)が重複している。またPS-12(50号址)とは西側で一部切り合っている。遺物は土器5点(宇津内Ⅱb式4点)、石鏃1点、フレイク1点が出土した。

掲載遺物：4は石鏃。下半部が欠損している。両面全体に加工が施され側縁が湾曲する形状である。

PS-14 (31b号址) (図IV-26 表IV-1・3 図版24・52)

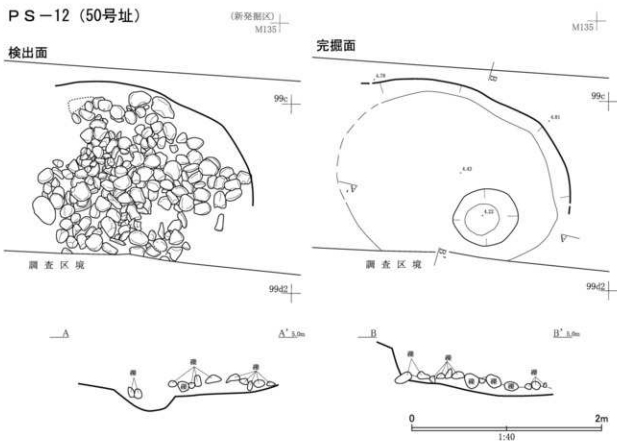
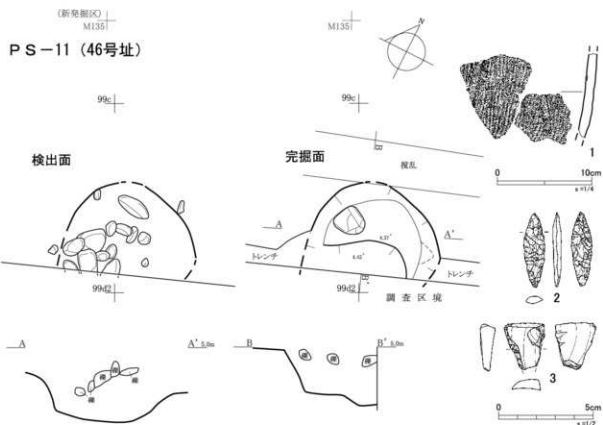
SF-4(31a号址)の西側に隣接して検出した。掘込みは20cmほどで、長楕円形を呈している。北側は調査区外に広がる。集石の表面には炭化物がタール状に付着し、被熱によってひび割れている礫も見られる。炭化物は集石内から多量に出土している。また調査区北壁から集石までの約0.8mは、土器も含めて酸化鉄が厚く付着している。遺物は土器が17点、石器等が89点出た。北東隅付近の集石中から、宇津内Ⅱa式土器が出土している。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱa式。約半分ほどが残存する。大2+小2の単位と思われる。波頂部下に貼瘤状の貼付文があり、貫通孔が横方向に穿たれている。突瘤文・縄線・縄端刺突がめぐり、波頂部下には擬縄貼付文が3本垂下する。2は埋土中から出土した緑ヶ岡式併行。口縁部は無文地に鋸歯状・横位の沈線がえがかれている。弱い段以下にLR縄文が施文されている。3はスクレイパー。縦長剥片を素材として正面の両側縁に平坦剥離が施されている。また、素材打面側にあたる上端にも加工が施され打面とバルブの高まりを除去している。4は石核。剥片素材で、主に素材裏面で横長剥片を剥離している。

PS-15 (35号址) (図IV-26 表IV-1・3 図版24・52)

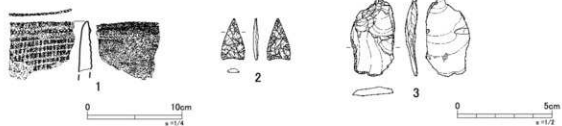
おおむね円形をなす。0.13mほど掘り込まれており、坑底中央部分に東西0.5m、深さ0.2mの炉とみられる落ち込みを検出した。炭化物が多量に含まれている。北側の調査区外に続いている。遺物は石器等3点が出土した。

掲載遺物：5はスクレイパー。左側縁を中心に加工が施され、端部に円弧状の刃部を作出している。



図N-24 PS-11・12 (46・50号址)

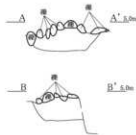
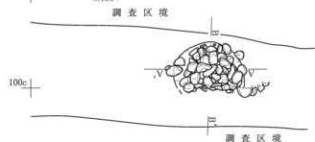
PS-12 (50号址)



PS-13 (41・45号址)

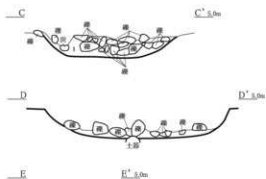
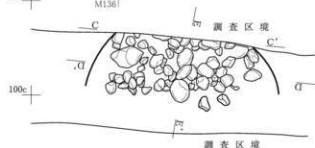
上部(41号址)検出面

(新発掘区)
M136



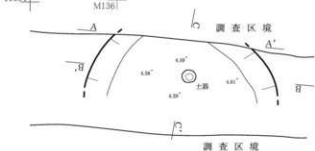
下部(45号址)検出面

M136



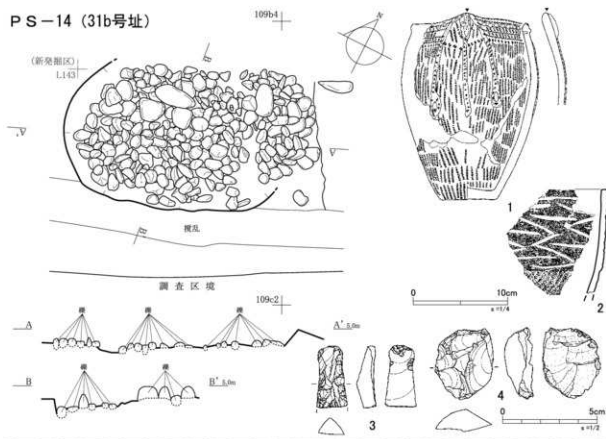
完掘面

M136

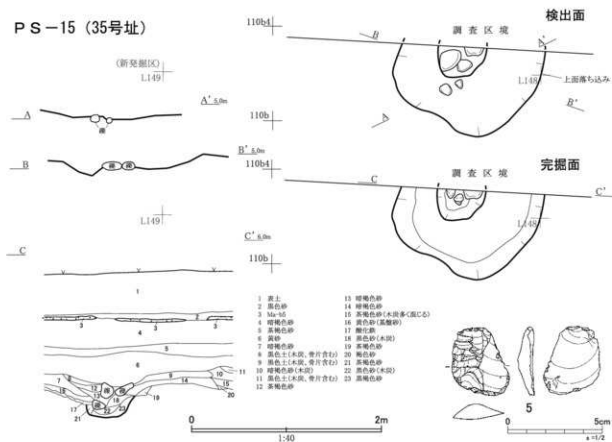


図IV-25 PS-12出土の遺物・PS-13 (41・45号址)

PS-14 (31b号址)

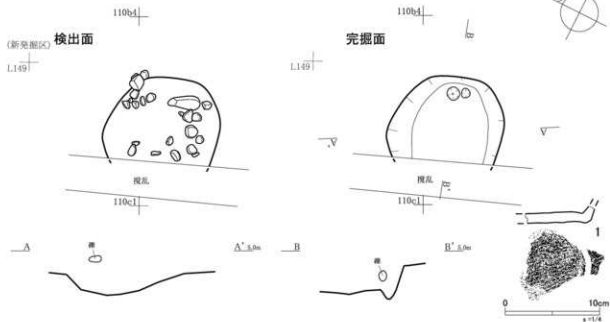


PS-15 (35号址)

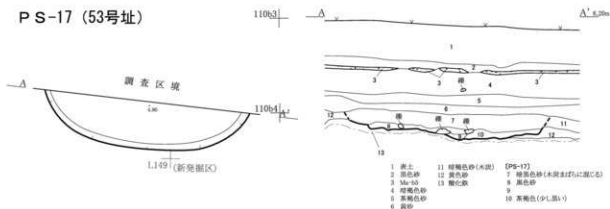


図IV-26 PS-14・15 (31b・35号址)

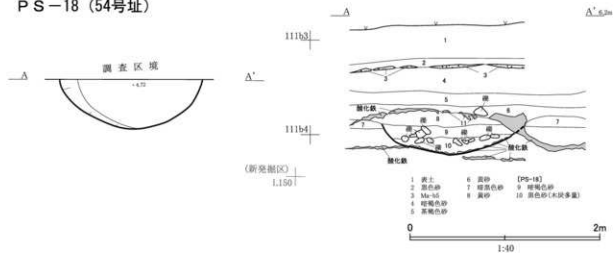
PS-16 (36号址)



PS-17 (53号址)



PS-18 (54号址)



図IV-27 PS-16・17・18 (36・53・54号址)

PS-19 (30号址)

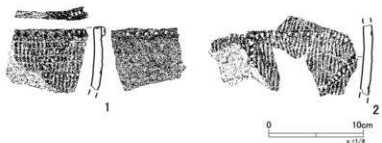
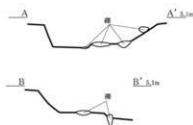
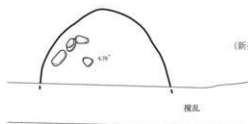


調査区境

調査区境

検出状況

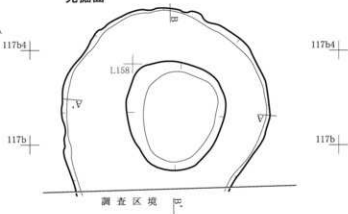
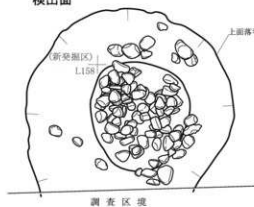
完掘状況



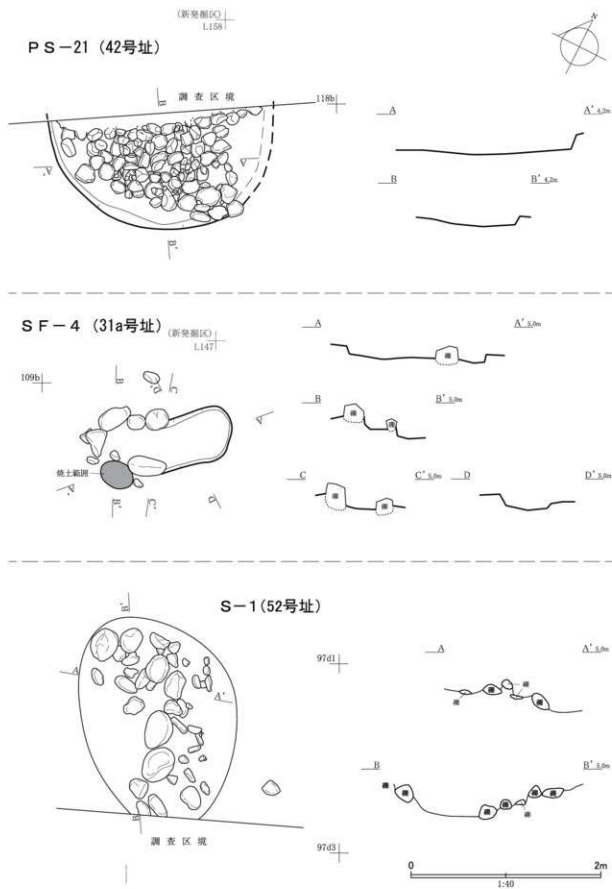
PS-20 (33号址)

検出面

完掘面



図N-28 PS-19・20 (30・33号址)



図IV-29 PS-21 (42号址)・SF-4 (31a号址)・S-1 (52号址)

PS-16 (36号址) (図Ⅳ-27 表Ⅳ-1・3 図版52)

不整形を呈する。上面に集石があり、下面には炭化物が堆積している。掘込みの深さは0.2mである。南側は擾乱により不明である。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱ式の底部。上げ底で、底面全面に縄文が施文されている。

PS-17 (53号址) (図Ⅳ-27 表Ⅳ-1 図版24)

全形は楕円形と思われる。調査区内では東西2.1m、南北0.5m、掘込みの深さは0.2mである。都合により集石の平面図は作成できなかった。集石は坑底付近に分布し、表面は炭化物がタール状に付着していた。また被熱によってひび割れしている礫も見られ、集石下部から炭化物が多量に出土した。

PS-18 (54号址) (図Ⅳ-27 表Ⅳ-1)

全形は楕円形と思われる。都合により集石の平面図は作成できなかった。集石は埋土中位～下位に分布し、集石の表面は、炭化物がタール状に付着している。また被熱によってひび割れしている礫も見られる。集石下部から坑底まで、炭化物が多量に出土した。

PS-19 (30号址) (図Ⅳ-28 表Ⅳ-1・3 図版52)

楕円形を呈すると考えられる。深さ0.3mの掘込みで、中央から西側に礫がまとまって検出された。南側はN T Tのケーブル埋設によって擾乱している。炭化物が多量に出土している。遺物は宇津内Ⅱa式土器が1点出土した。

掲載遺物：1・2は宇津内Ⅱa式で同一個体と思われる。口唇上の文様は、擬縄貼付文を伴う台形状の突起上に刺突、それ以外は縄文が押捺されている。

PS-20 (33号址) (図Ⅳ-28 表Ⅳ-1 図版24)

径約2mの浅い落ち込みの中央に、ほぼ円形の深さ0.2mほどの掘り込みがある。集石は土坑埋土中に密集し、一部上面の浅い落ち込みに広がる。集石の表面には炭化物がタール状に付着していた。また被熱によってひび割れしている礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土した。

PS-21 (42号址) (図Ⅳ-29 表Ⅳ-1 図版24)

楕円形を呈すると考えられ、径2mを超え、深さは0.25m掘り込まれている。土坑中に礫が密集して検出された。集石の表面には、炭化物がタール状に付着していた。また被熱によってひび割れしている礫も見られ、集石中から炭化物が多量に出土した。北側には電柱が設けられておりアース線が露呈し、拡張することができなかった。

(6) 石組炉

1基(SF-4)検出した。時期は出土遺物から宇津内Ⅱb式期とみられる。

SF-4 (31a号址) (図Ⅳ-29 表Ⅳ-1・3 図版5・24)

浅い長楕円形を呈する土坑の周囲に大型礫が配されていた。南西に隣接して径約0.3mの焼土も検出されている。炉の中からは、炭化物のほかに燃焼しきれない木質部が出土している。遺物は宇津内Ⅱb式土器が1点、石器剥片等が23点出土した。

(7) 礫集中

1か所(S-1)検出した。時期は構築面から宇津内Ⅱa～Ⅱb式期とみられる。

S-1 (52号址) (図Ⅳ-29 表Ⅳ-1 図版24)

97d区において、北西部から傾斜しながらGP-2(38号址)近くまで連なっている集石である。比較的大型の礫が多い。

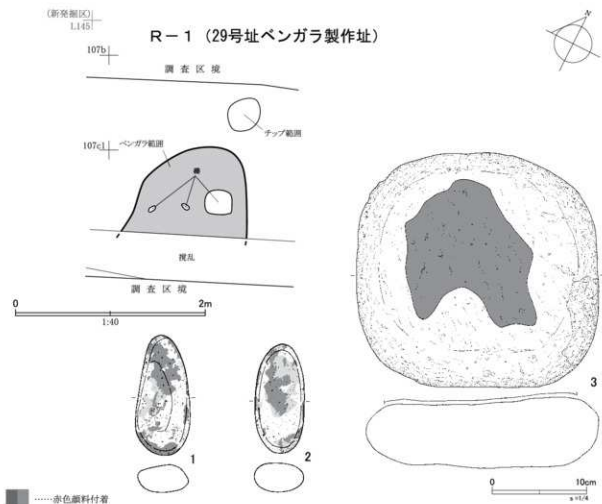
(8) ベンガラ製作址

1か所（R-1）検出した。時期は構築面や周辺出土遺物から宇津内Ⅱa式期とみられる。

R-1（29号址）（図Ⅳ-30 表Ⅳ-1・3 図版8・52）

東西2.2m、南北3m前後（推定）の範囲にベンガラが分布している。東側において、ベンガラが厚く付着した礫が出土した。礫は30cm程の大きさで、隅丸方形を呈し上面が平坦である。この礫から0.2mほど西側に離れた位置から、片面にベンガラが付着した礫が2か所で出土している。これらのことから、ベンガラ製作址と判断した。また0.3m北側に、0.3mの範囲で細片（黒曜石）の集中箇所が検出されている。

掲載遺物：1・2はベンガラ付着礫。3はすり石。正面にすり面があり、中央部にベンガラが付着している。

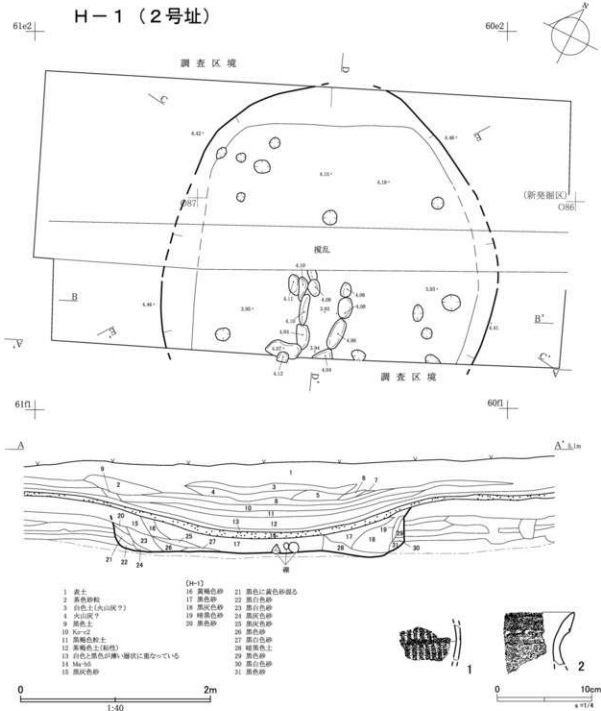


図Ⅳ-30 R-1（29号址）

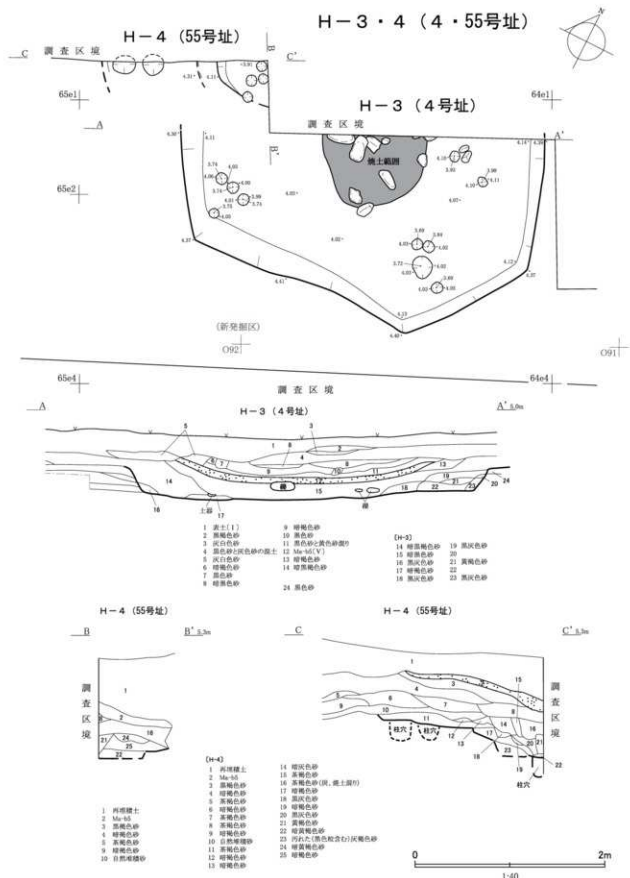
c オホーツク文化期の遺構

(1) 竪穴住居跡

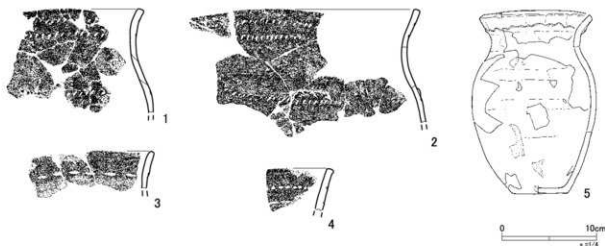
調査区中央部（B地点）の60～76ラインの間で、13軒（H-1・3～14）を検出した。ただし同一地点で検出された、建て替えを想定できるものを含んでいる（H-9・10・11など）。時期は刻文期を主体とし、一部擬縄貼付文土器の時期に差し加わるものがある（H-8）。



図N-31 H-1 (2号址)



図M-32 H-3・4 (4・55号址)



図Ⅳ-33 H-3 (4号址) 出土の遺物

H-1 (2号址) (図Ⅳ-31 表Ⅳ-1・2 図版4・25・52)

M a - b 5 テフラの面が落ち込み、くぼみとして確認できる。中央部東西方向にNTTケーブル埋設による攪乱がある。南側は調査区外に広がるが、堅穴の全形は多角形を呈すると考えられる。床面中央南側で石組炉を検出した。炉石は2列平行またはコの字状に配されている。炉の焼土からは魚骨(サケ科主体)が多数出土した。柱穴状小土坑は13か所検出されている。遺物は埋土・「盛土」・床・炉からそれぞれ少数出土した。

掲載遺物: 1・2は刻文期の土器。1は縦位の楕圓文が2段列する。2は爪形文に近い斜位の刻文が肥厚帯下端に連続する。

H-3 (4号址) (図Ⅳ-32・33 表Ⅳ-1・2 図版25・52)

M a - b 5 テフラの面が落ち込み、くぼみとして確認できる。北側は調査区外に広がる。堅穴の全形は五角形を呈すると推測される。床面中央付近と思われる位置に炉址が検出された。焼土は径約1mの範囲に分布し、大型礫が複数出土しており、石組炉をなしていた可能性がある。焼土からは多量の魚骨(サケ科主体)が出土している。柱穴状小土坑は不規則な配置で10か所検出された。遺物は埋土・床から167点出土し、そのほとんどが刻文土器である。

掲載遺物: 1～5は刻文期の土器。1・2は同一個体と思われる。大型の甕で、口縁部は肥厚しない。口縁部に2列の刻文、肩部には幅広の薄い貼付帯に2列の刻文が施されている。3は薄い肥厚帯下端に舟形刻文が連続する。4は刺突文と横走沈線がみられる。5は小型の壺形で、肥厚帯下部にハの字形刻文が連続する。

H-4 (55号址) (図Ⅳ-32 表Ⅳ-1)

H-3 (4号址) 北西側で検出した。国道法面の途中となっているために崩落が夥しく、一部の検出にとどまった。テラス状の段構造をなしているとみられる。柱穴状小土坑は6か所検出されている。H-3 (4号址) と重複すると考えられるが、道路側溝による攪乱のため切り合い関係は掌握できなかった。H-4 (55号址) がH-3 (4号址) を切って構築していると推測される。

H-5 (20号址) (図IV-34・35 表IV-1・2 図版25・52)

H-7 (5号)の東側で竪穴住居跡を連続して検出し、南側を20号址とした。さらに南側の調査区外に広がる。竪穴の全形は方形または多角形を呈する。柱穴状小土坑は不規則な配置で14か所検出された。北西側のH-5 (19号址)と重複し、当遺構が新しい。遺物は埋土・床から50点出土し、そのほとんどが刻文土器である。

掲載遺物: 1・2は刻文期の土器。1は弱い肥厚帯下端に刻文が施されている。

H-6 (19号址) (図IV-34・35 表IV-1 図版25)

H-7 (5号)の東側で竪穴住居跡を連続して検出し、北側を19号址とした。さらに北側の調査区外に広がる。竪穴の全形は多角形を呈すると推測される。床面中央付近で石組炉が検出され、焼土からは多量の魚骨(サケ科ほか)が出土している。また炉の下位において、2基の土坑を検出した。うち1基は、東西1m、南北0.9mのやや不整形な落ち込みで、焼土が検出されている。この焼土からもサケ科と思われる魚骨が出土している。もう1基からは多量の木炭が出土した。表面が焼け、中は生木の状態のものがみられる。柱穴状小土坑は26か所検出されており、東・東南側では壁に沿っているが、他では不規則な状態である。南西隅に周溝がある。竪穴南側にはH-5 (20号址)、西側にはH-7 (5号址)がそれぞれ一部重複し、いずれも当遺構の方が古い。遺物は埋土・床・炉下から100点出土し、そのほとんどが刻文土器である。

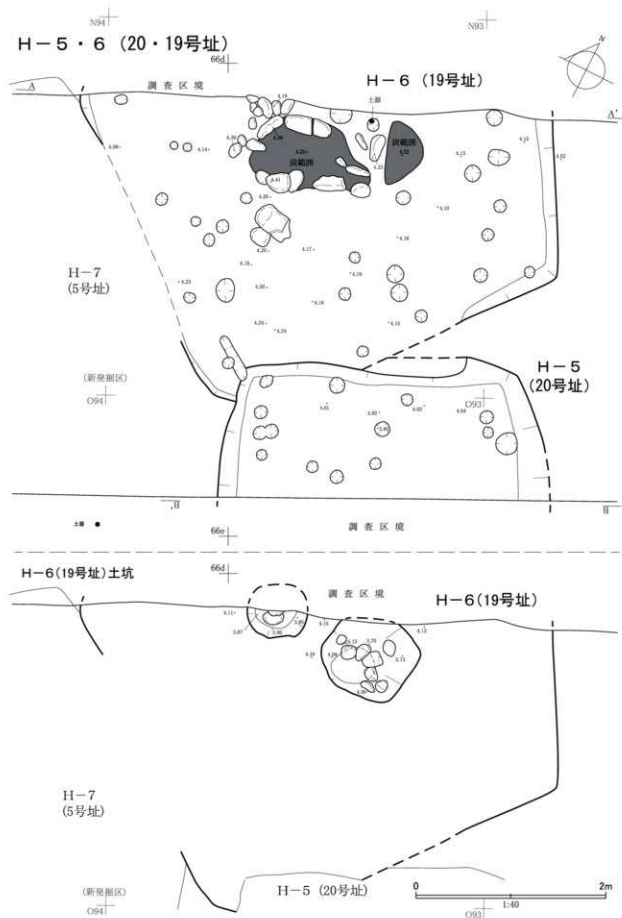
掲載遺物: 3～8は刻文期の土器。3は弱い肥厚帯下端に刻文(爪形文)が、4は横位の刻文が施されている。5は横位と斜位の刻文が平行する。6は頸部に貼瘤状の貼付文がある。7は小型の甕で、頸部に横位の刻文が列し、胴部に貼瘤が貼付されている。

H-7 (5号址) (図IV-36～39 表IV-1・2 図録3 図版26・53)

Ma-b 5テフラの面が落ち込み、くぼみとして確認できる。南側の一部は調査区外に広がる。竪穴の全形は六角形を呈する。ほぼ中央に石組炉が構築され、周囲の広い範囲で木炭を検出した。焼土からは、多量の魚骨(サケ科主体)が出土している。柱穴状小土坑は35か所ほどが検出され、壁に沿うものもみられるが不規則な配列である。床面の下部からは、柱穴や小規模な焼土が検出されたが、いずれも0.1mほどの砂で覆われている。南西隅で周溝が検出された。竪穴東側にはH-6 (19号址)が一部重複し、当遺構の方が新しい。遺物は埋土・床・炉下から497点出土した。その大部分が刻文土器で、石器等はフレイク類を主体に30点出土した。

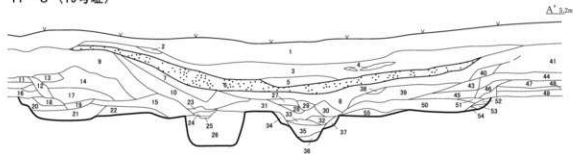
掲載遺物: 1は後北C₂-D式。埋土に含まれていた。2～17・23～25は刻文期・沈線文期の土器。2はやや小型の甕で、胴部に櫛歯文がある。3～8は肥厚する口縁下部に、9は胴部に斜位の刻文が施されている(8は爪形文)。10～12は口縁部の弱い肥厚帯に横位の刻文が施されている。12はハの字形刻文が連続する。13は横位の短い貼付文上に刻文が施されている。14は口縁上部に2列の横位の刻文があり、スズ状の炭化物で覆われている。15は沈線文土器で、梯子状の文様が施されている。斜里町ウトロ遺跡PIT108出土土器(斜里町教育委員会2011、第208図12)に類似する。16は肥厚する口縁部が凹線で段状になっている。17は口唇・口縁に指頭押捺が連続する。23は口縁部に斜位(爪形文)、胴部に横位の刻文がめぐる。24・25はやや小型の甕で、24は胴部に列点に近い刻文が連続する。25は口縁部に刻文のほか、胴部に2列縦位の貼付文が4か所付され、横位の貼付文もみられる。

18～21、26～30は無文の口縁・底部で、20・21は小型甕である。22は擬縄貼付文土器。口縁部・胴部に擬縄貼付文が施されている。



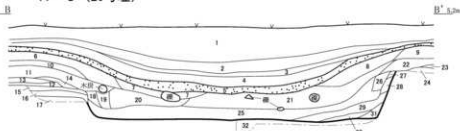
図IV-34 H-5・6 (20・19号址) (1)

H-6 (19号址)



- | | | | | | | |
|--------------|---------|------------------|------------------|--------------------|--------------------|---------|
| 1 表上[1] | 41 暗褐色砂 | [H-4] | 11 暗褐色砂 | 21 黒緑系褐色砂 | 31 暗褐色砂 | 42 黄褐色砂 |
| 2 暗褐色土 | 44 黒灰色砂 | 7 暗褐色砂 | 12 暗褐色砂 | 22 黄褐色砂(黒色土混じり) | 32 黄褐色砂 | 43 黒色砂 |
| 3 暗褐色土(粘性あり) | 45 黄褐色砂 | 8 暗褐色砂(木炭含む) | 13 暗褐色砂 | 23 黒褐色砂 | 33 黄褐色砂(内側に黒色土混じり) | 44 黄灰色砂 |
| 4 灰白色砂 | 46 暗褐色砂 | 9 暗褐色砂 | 14 暗褐色砂 | 24 木炭(石の裏上は砂) | 34 赤灰色土 | 45 暗褐色砂 |
| 5 反褐色砂(粘性あり) | 47 暗褐色砂 | 10 暗褐色砂(木炭含む) | 15 暗褐色砂 | 25 木炭(表面掘けて内は生木の炭) | 35 暗褐色土(木炭) | 46 暗褐色砂 |
| 6 Ma-si[V] | 48 黒色砂 | 16 暗褐色砂に黒色の土が混じる | 16 暗褐色砂に黒色の土が混じる | 26 木炭(表面掘けて内は生木の炭) | 36 赤灰色土(赤灰色砂) | 47 黒色砂 |
| 9 暗褐色砂 | 49 黄褐色砂 | 17 暗褐色砂(木炭) | 17 暗褐色砂(木炭) | 27 黄褐色砂 | 37 赤灰色土 | 48 暗褐色砂 |
| | | 18 暗褐色砂 | 18 暗褐色砂 | 28 木炭 | 38 黄灰色土(木炭含む) | 53 黒色砂 |
| | | 19 黄褐色砂 | 19 黄褐色砂 | 29 木炭 | 39 暗褐色砂 | |
| | | 20 暗褐色砂 | 20 暗褐色砂 | 30 黄褐色砂 | 40 暗褐色砂 | |

H-5 (20号址)



- | | | |
|----------------|---------|---------------|
| 1 表上[1] | 11 褐色砂 | 19 黄褐色砂 |
| 2 Ter-s[B] | 12 褐色砂 | 19 黄褐色砂 |
| 3 灰白色砂 | 13 褐色砂 | 20 暗褐色砂、木炭 |
| 4 粘土 | 14 黄褐色砂 | 21 黄灰色土 |
| 5 Ma-si[V] | 15 赤褐色砂 | 22 暗褐色砂 |
| 6 赤褐色砂 | 16 暗褐色砂 | 23 暗褐色砂 |
| 7 暗褐色砂 | 17 黄褐色砂 | 27 黄褐色砂 |
| 8 暗褐色砂に灰白色土混じり | 18 暗褐色砂 | 27 黄褐色砂 |
| 9 褐色砂(表上) | 18 暗褐色砂 | 28 黄褐色砂(粘性あり) |
| | 19 黄褐色砂 | 22 暗褐色砂 |
| | | 24 黒色砂 |
| | | 24 黒色砂 |
| | | 31 黄褐色砂 |

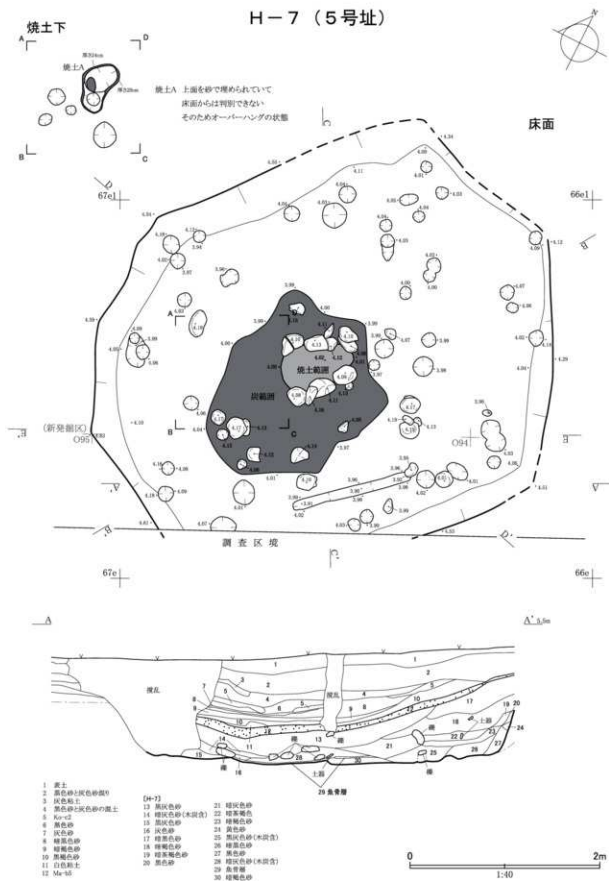
H-5 (20号址)



H-6 (19号址)



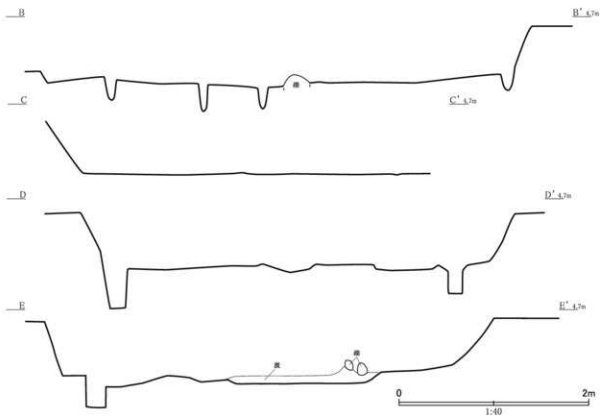
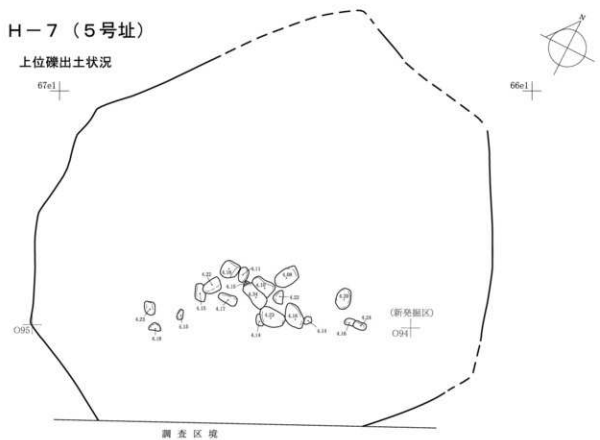
図IV-35 H-5・6 (20・19号址) (2)



図N-36 H-7 (5号址) (1)

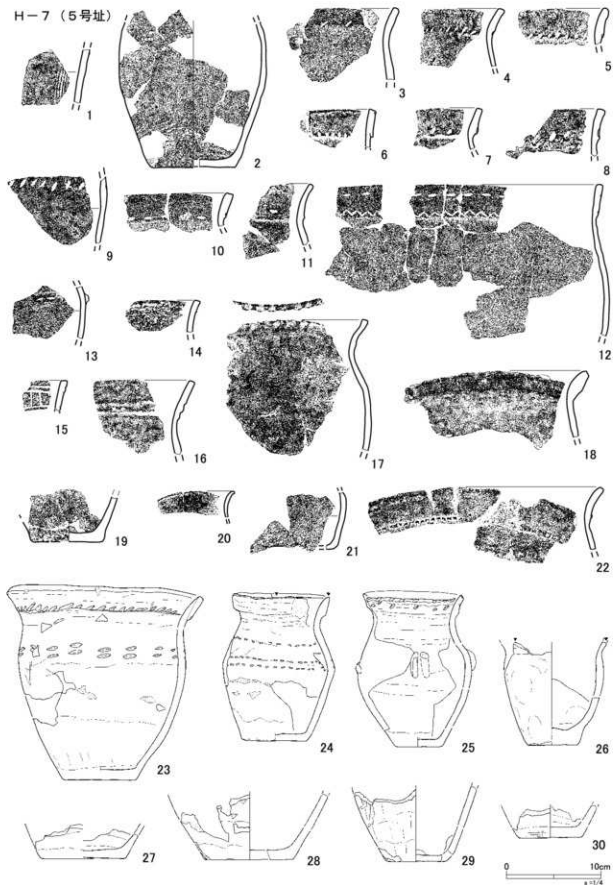
H-7 (5号址)

上位礫出土状況



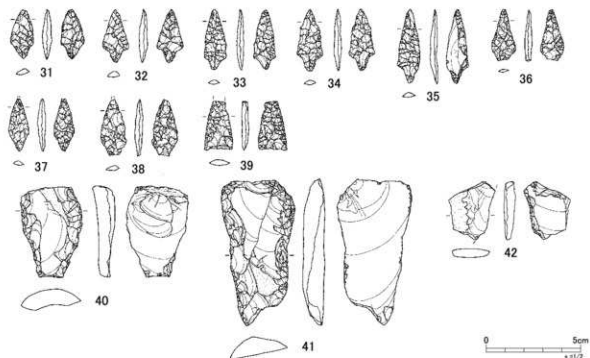
図IV-37 H-7 (5号址) (2)

H-7 (5号址)



図Ⅳ-38 H-7 (5号址) 出土の遺物 (1)

H-7 (5号址)



図IV-39 H-7 (5号址) 出土の遺物 (2)

31~39は石鏃。31~38は有茎、39は平基である。有茎のものはいずれも茎部が収斂する形状で、明瞭なカエシがあるものは32・34・35のみである。側縁はほぼ直線的で、さらに34のみ上部に明瞭な屈曲部が見られる。両面全体を覆う加工が施されるものが大半だが、35のみ素材面を大きく残している。40・41はスクレイパー。いずれも両側縁からやや平坦な加工が縁辺全体に施されている。42はRフレイク。裏面の左側縁に細かな加工が施されている。

H-8 (6号址) (図IV-40~43 表IV-1・2 図版4・26・54)

Ma-b 5テフラの面が落ち込み、くぼみとして確認できる。南北とも調査区外に広がり全形は不明ながら多角形を呈し、確認できた最大幅は7mを超える。中央部に南北を長軸とする石組炉があり、焼土からは多量の魚骨(サケ科主体)が出土した。炉の東西に厚さ4~5cmの貼床が構築されている(東側の一部は試掘調査により欠落)。周溝は東西の壁際の一部で検出された。主柱穴は壁際で検出し、その内側からも柱穴状土坑が数多く見られる。さらに貼床下から柱穴状小土坑が多数検出され遺物が出土したことから、調査担当者は、床面を再構築し貼床を施した可能性が高いとみている。

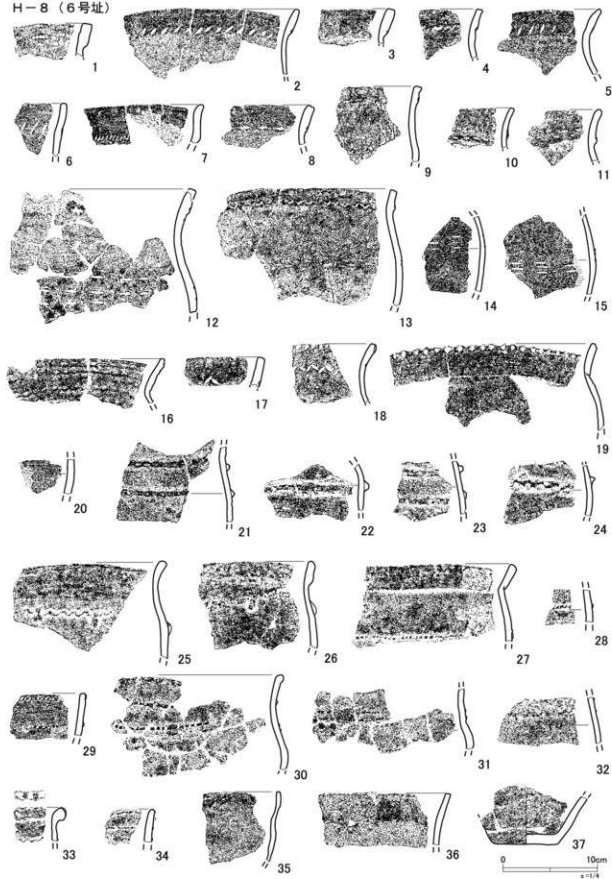
遺物は「盛土」・埋土・床(貼床含む)・炉・柱穴から650点余り出土した。土器は刻文土器のほか擬縄貼付文土器も多く出土し、石器等はフレイク類を主体に石鏃や搔器など計69点出土した。また埋土中から礫がまとめて出土し、西側の広い範囲から魚骨(サケ科主体)・小獣骨が出土した。

掲載遺物：1~26は刻文期の土器。1は口縁部に歯歯文がある。2~7は斜位の刻文、8~16は横位の刻文が施されている。13・17・18は肥厚する口縁下部にハの字形刻文が連続する。16は口縁部に弱い段が3段あり、それぞれ横位の刻文が施されている。18・19は口唇直下に刻み列がある。20は細沈線による文様がえがかれている。21~24は肩部に隆帯が1・2本貼付され、24は弱い波状をなす。25・26は波状の貼付文に付随して貼瘤文が付されている。27~34・38は擬縄貼付文土器。27・30・31



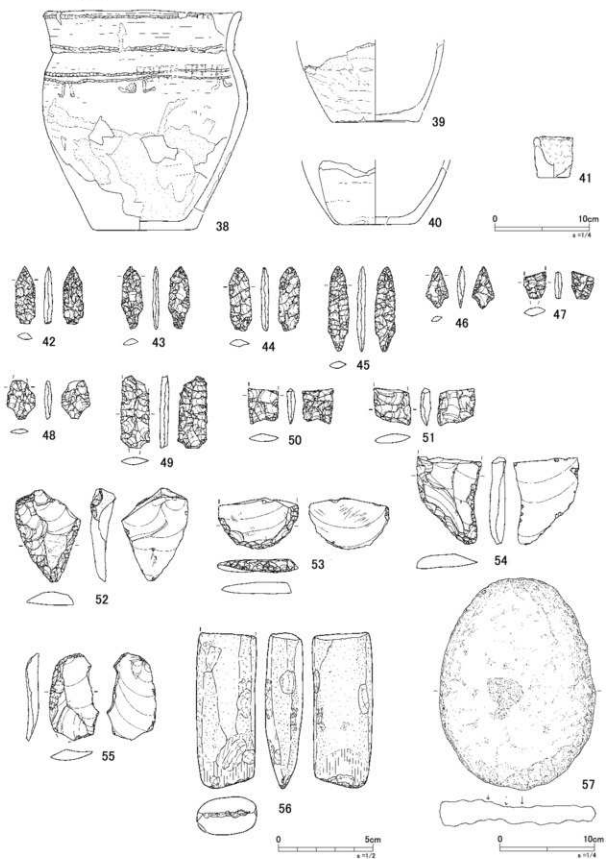
図IV-41 H-8 (6号址) (2)

H-8 (6号址)



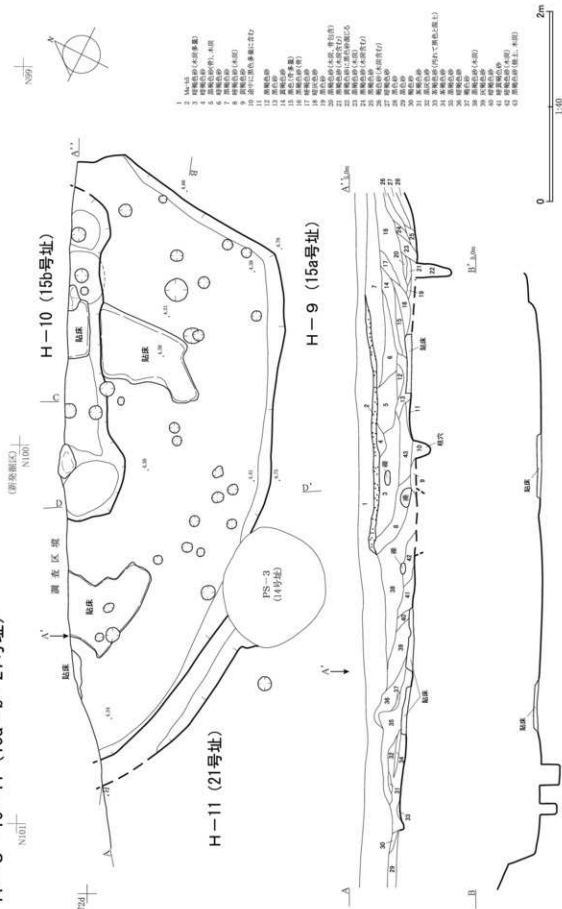
図N-42 H-8 (6号址) 出土の遺物 (1)

H-8 (6号址)

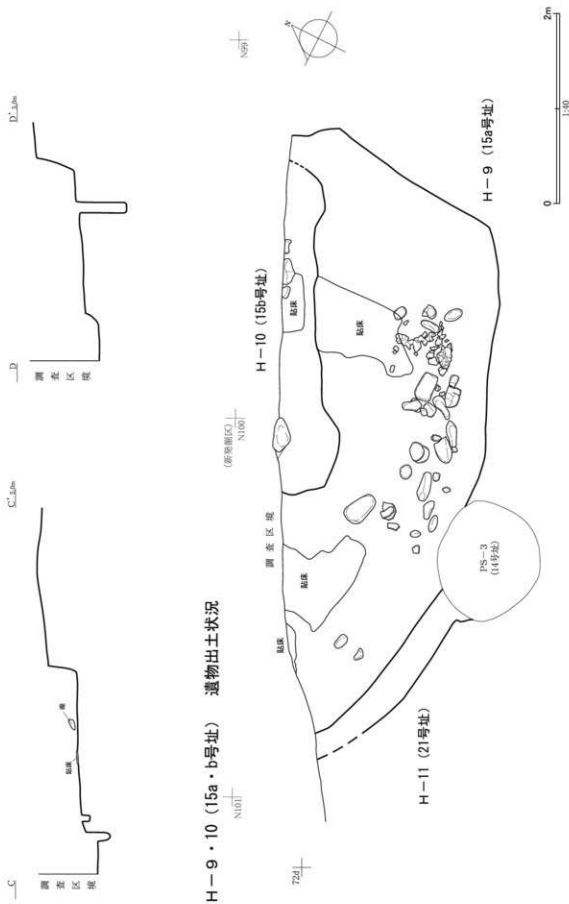


図IV-43 H-8 (6号址) 出土の遺物 (2)

H-9・10・11 (15a・b・21号址)



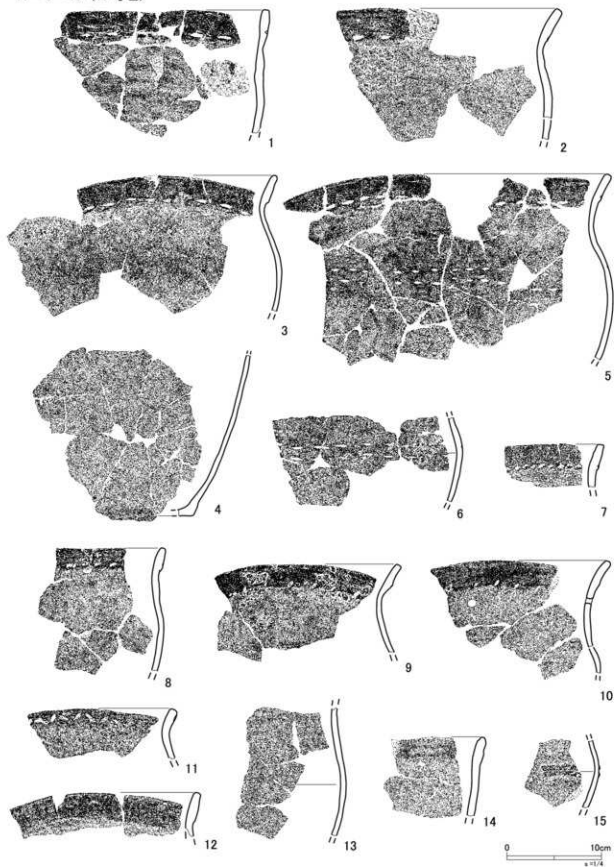
図IV-44 H-9・10・11 (15a・b・21号址) (1)



H-9・10 (15a・b号址) 遺物出土状況

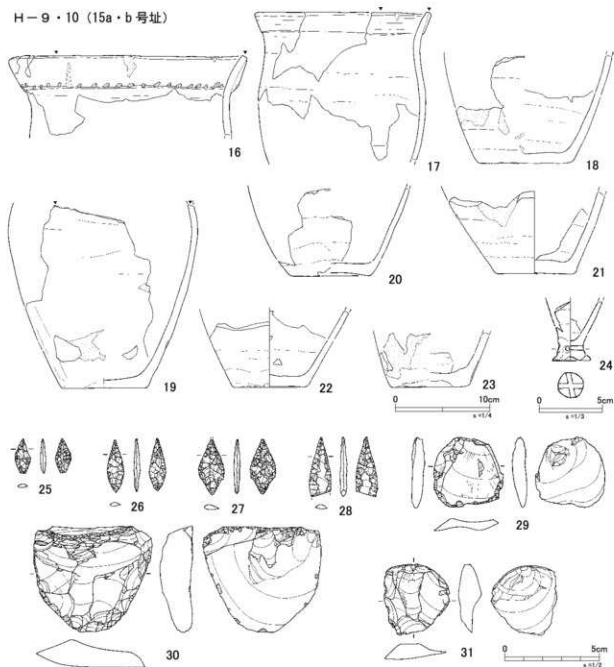
図IV-45 H-9・10・11 (15a・b・21号址) (2)

H-9・10 (15号址)

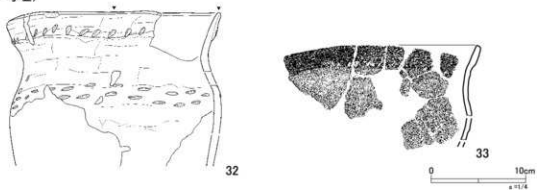


図N-46 H-9・10・11 (15a・15b・21号址) 出土の遺物 (1)

H-9・10 (15a・b号址)



H-11 (21号址)



図IV-47 H-9・10・11 (15a・15b・21号址) 出土の遺物(2)

には擬縄貼付文下に小型のボタン状貼付文が付されている。32~34はソーマン文に類似する細い波状の貼付文が施され、33には口唇上に小型のボタン状貼付文が付されている。38は口縁~底部まで復元できた。肥厚する口縁部の上下端、および肩部に2列の擬縄貼付文がめぐり、肩部にはし字状に屈曲する貼付文が垂下し縫(かすがい)文をなす。35~37・39・40は無文の口縁・底部。36は角形口唇で、口縁部は肥厚しない。41はミニチュア土器。指頭および爪の押捺痕が残る。

42~51は石鏃。42~49は有茎、50は凹基、51は平基である。有茎のものはいずれも茎部が収斂する形状で、明瞭なカエシがあるのは48・49のみである。側縁はほぼ直線的で、特に42~45・49~51は両側縁が平行する部分が高い。さらに、42~44は上部に明瞭な屈曲部が見られる。両面全体を覆う加工が施されるものが大半だが、43・46・47には素材面が残存している。52はナイフ。両側縁全体の平坦な加工により端部が尖るように成形されている。53・54はスクレイパー。53は下部部に円弧状の刃部が作出されている。54は両側縁全体に短い平坦加工が施されている。55はRフレイク。左側縁に加工が見られる。56は石斧。刃部のみ研磨されている。57はくほみ石。正面中央に凹みが見られる。

H-9・10・11 (15a・15b・21号址) (図IV-44~47 表IV-1・2 図版26・55・56)

70~72ラインで大型の竪穴住居跡を検出した。北側は調査区外に広がる。調査途中までは1軒の住居址(15a号址)としてとらえていたが、北側の道路法面下場の側溝まで拡張した際に、竪穴住居跡H-10(15b号址)に切られていることが判明した。このため切り合いが確認できるまでは、出土遺物のすべてを「15号址」として取り上げた。さらに南西側にもう1軒の竪穴住居跡H-11(21号址)の立ち上がりを検出した。さらに集石土坑PS-3(14号址)と重複し、H-11→H-9→H-10・PS-3の順に新しくなる。

H-9(15a号址)は多角形を呈すると推測される。東西に貼床、南側に周溝を検出した。柱穴状小土坑は25か所ほど検出しており、配列は不規則である。H-10(15b号址)は、H-9(15a号址)の貼床を切って落ち込みとなり、床を形成している。貼床と柱穴状小土坑を検出した。H-11はわずかに0.3m幅しか確認できなかったことから、詳細については不明である。

遺物は、H-9・10では埋土・床(貼床含む)・柱穴から465点出土した。特に埋土からは、周辺包含層に連続して多量の遺物が出土した。土器は刻文土器主体で後北C₂・D式が少数ある。石器等はフレイク類を主体に石鏃など計59点出土した。H-11では19点出土し、ほとんどが刻文土器である。

掲載遺物 1~31はH-9またはH-10から出土したもので、大部分はH-9に属する。

1~24は刻文期の土器。大型の甕が目立つ。1~6は横位の刻文が施されているもの。1~5は薄く肥厚する口縁下部に、5・6は胴部に刻文が2列みられる。3・4は同一個体。7・8は口縁部肥厚帯下部に爪形文が、9・10・16は斜位の刻文が連続する。11は口縁部にやや太いハの字形刻文が施されている。12~14・17~23は無文および無文部の口縁・胴・底部。15は胴部の一部に刻み入りの貼付帯があり、擬縄貼付文に類似する。24は小型の台付鉢と思われる。上げ底で、台部に十字に貫通孔が穿たれている。

25~28は石鏃。25・26は両端が尖る形状で、27は有茎、28は下半部が欠損している。25は正面に素材面を残す。26は平坦で精緻な加工が両面全体に施されている。27の基部は収斂する形状で、カエシの突出はわずかである。28は正裏面とも素材面を大きく残している。29・30はスクレイパー。両者とも湾曲する縁辺に加工されている。30は素材打面とバルブの厚みを除去する加工も行われている。31はRフレイク。左側縁の一部に細かな加工が施されている。

32・33はH-11(21号址)から出土した刻文土器。肥厚する口縁下部に斜位の刻文が連続し、32は

胴部に横位の刻文が2列施されている。33は表面が剥落し、文様が不鮮明である。

H-12 (8号址) (図IV-48・49 表IV-1・2 図版4・27・56)

H-9 (15号址) の西側、72ライン付近で検出した。Ma-b 5テフラの面が落ち込み、くはみとして確認できる。覆土から礫がまとまって出土した (図IV-48上段)。堅穴は南北とも調査区外に広がり、また南側に幅0.6mほどの攪乱があり、全形は不明だが多角形を呈すると推測される。堅穴中央部付近から円形の炉址を検出した。主柱穴は炉址を囲むように設けられている。ほかに柱穴状小土坑を多数検出した。炉址の下部には1.3m×1m、深さ0.6mの不整形の土坑が掘込まれ、集石が詰まっている。土坑中には炭化物が多量に残され、炭化していない木質部も残されている。集石には炭化物がタール状に付着し、煤けた状態を呈している。また被熱によってひび割れしている礫も見られる。

調査担当者はこのことから、堅穴底面下部に集石土坑が掘り込まれ、その後にこれを砂で覆って炉を設けていると考えている。したがって堅穴の構築時は住居としての用途ではなく別の目的であったが、その後に集石土坑を廃棄し住居あるいは小屋として使用した、と推測している。

遺物は「盛土」・埋土・床・炉・柱穴から270点余り出土した。土器は刻文土器を主体とし擬縄貼付文土器が少数出土し、石器等はフリイク類を主体に石鏃や搔器など計30点出土した。

掲載遺物：1～17は刻文期の土器。1は肥厚する口縁下端に斜位の刻文、1・2は胴部に縦位の櫛歯文が連続する。3は肥厚する口縁の上下部に横位の刻文が施されている。4～6は肥厚する口縁下部に斜位の刻文があるが、5は肥厚帯から下にはみ出している。7～9は肩部に刻みのある貼付文が施されており、擬縄貼付文に近い。いずれも口縁部は肥厚しない。7は口縁部に刻み列に近い刻文と刺突列が施されている。8は籬文^{かすがい}。9もそれに近い。10は無文の口縁部。11は小型の甕で、肥厚する口縁下端に斜位の刻文のほか、口縁部と胴部に横位の刻文がめぐる。12～17は無文部の胴～底部。13はやや丸みのある立ち上がりである。

18は石鏃。有茎で基部が収斂する形状である。カエシの突出はわずかで、裏面に素材面を残す。19はスクレイパー。下端にかけて錯交状の加工が施されている。20・21はすり石。正面にすり面が見られる。22はくはみ石。正面に二か所の凹みが見られる。

H-13 (7号址) (図IV-50・51 表IV-1・2 図版27・57)

Ma-b 5テフラの面が落ち込み、上位には白色火山灰が堆積する。堅穴の南側は調査区外に広がり、また南側に幅0.6mほどの攪乱がある。平面形は隅丸方形を呈しているが、全形は不明である。堅穴の中央部東寄りには炉址が検出されている。攪乱部分を除いて壁際に0.04～0.08mの深さの周溝が確認できる。柱穴は壁際の要所にあり、それ以外は不規則に見られる。

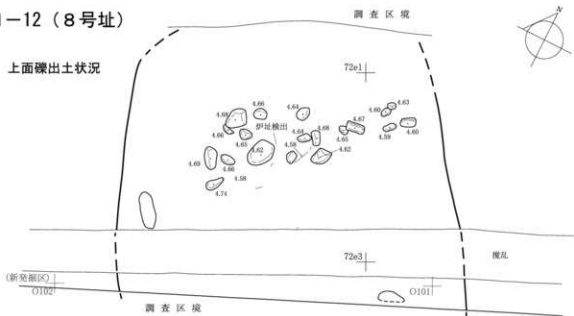
遺物は「盛土」・埋土・床・炉・柱穴から228点出土した。土器は刻文土器を主体とし擬縄貼付文土器が少数出土し、石器等は石鏃とフリイク類が計36点出土した。

掲載遺物：1～12は刻文期の土器。1は横位の刻文と縦位の櫛歯文が間隔をあけて施文されている。2～4は肥厚する口縁に横位の刻文が施されるが、3・4はやや斜位である。5は1列、6は2列の斜位の刻文が肥厚する口縁に施されている。7は小型の甕で、口縁部の断面が湾曲する。頸部に細い貼付文がめぐり刻みが施されている。8・9は同一個体で、肥厚する口縁部の上下端、胴部に擬縄貼付文に近い貼付帯がめぐる。10も胴部に同様の文様がある。11・12は底部。

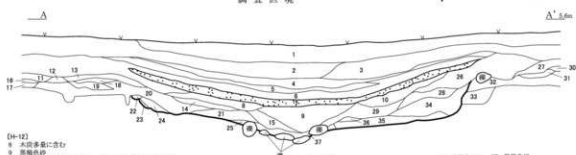
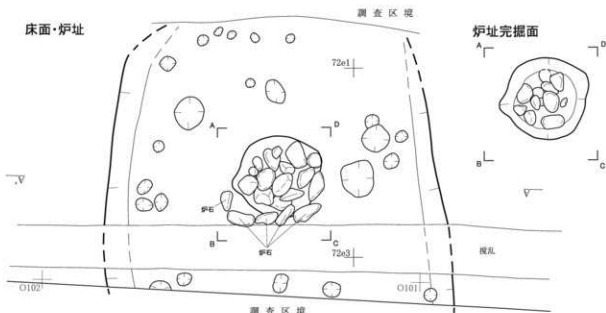
13～16は石鏃。13・14が凹基、15が平基、16が有茎である。15は加工が不安定で、不均一な形状となっている。

H-12 (8号址)

上面様出土状況



床面・炉址



[H-12]

- 8 木炭多量を含む
- 9 黄褐色砂
- 10 黒色砂と黄褐色砂の混土
- 14 黄褐色砂
- 15 暗褐色砂
- 20 暗褐色砂
- 21 暗褐色砂
- 23 黄褐色砂
- 24 黄褐色砂
- 25 黄褐色砂
- 26 黄褐色砂

- 28 黄褐色砂に木炭含有
- 29 黄褐色砂に木炭多量
- 34 暗褐色砂
- 35 暗褐色砂(黒色砂少量混色の混土)
- 36 黄褐色砂に木炭多量
- 37 黒色砂と黄褐色砂の混土 木炭多量

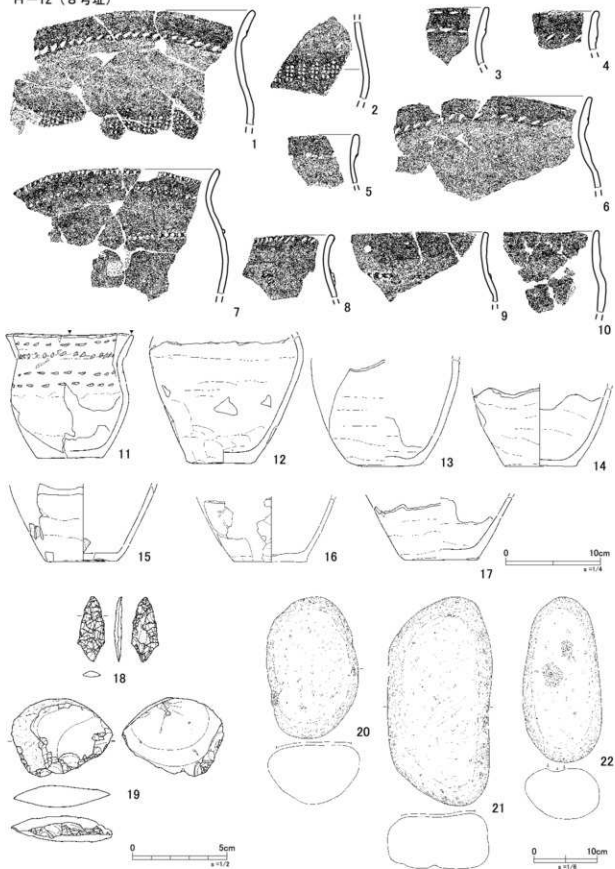
- 1 黄土
- 2 黒色土(砂混じり)
- 3 暗褐色砂に黒色砂がゾーン状に混じる
- 4 黒色砂
- 5 黄褐色砂
- 6 黄褐色砂(+)
- 7 Mar 土

- 11 暗褐色砂
- 12 黄褐色砂
- 13 黄褐色砂
- 14 黄褐色砂
- 16 黄褐色砂
- 17 暗褐色砂
- 18
- 19 黄褐色砂
- 27 黄褐色砂
- 28 黄褐色砂
- 29 黄褐色砂
- 30 黄褐色砂
- 31 暗褐色砂
- 32 暗褐色砂
- 33 暗褐色砂



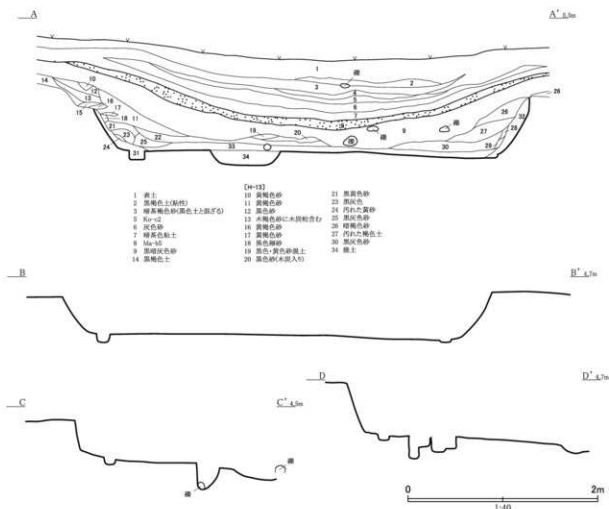
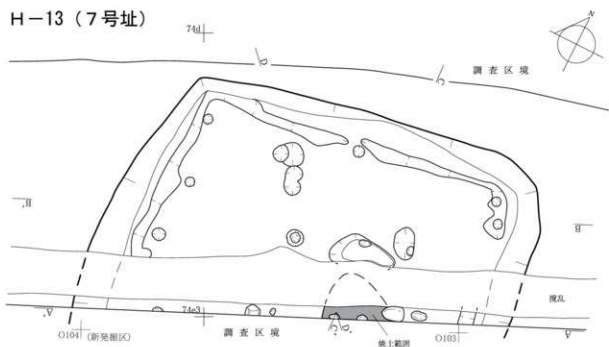
図M-48 H-12 (8号址)

H-12 (8号址)



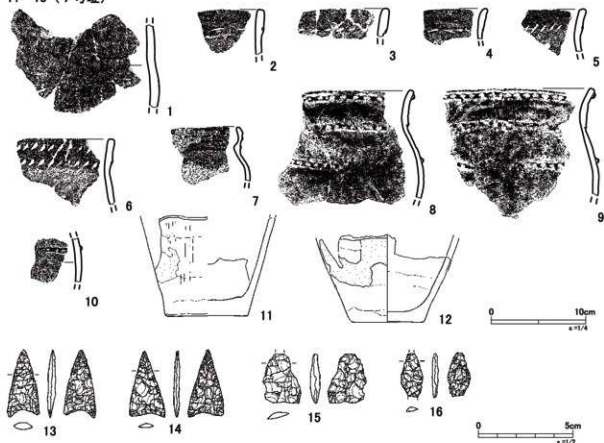
図IV-49 H-12 (8号址) 出土の遺物

H-13 (7号址)



図M-50 H-13 (7号址)

H-13 (7号址)

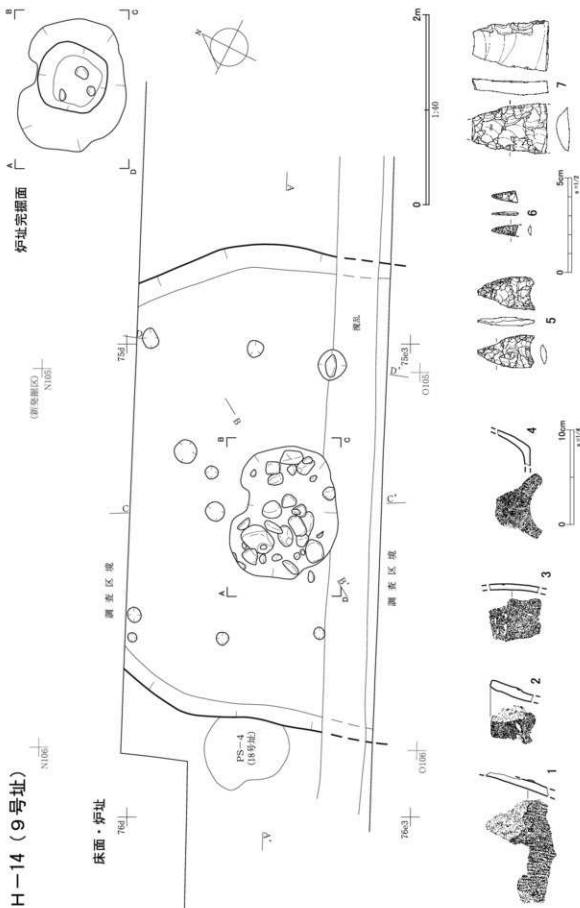


図N-51 H-13 (7号址) 出土の遺物

Ma-b 5 テフラの面が落ち込み、上位には白色火山灰が堆積する。堅穴は南北とも調査区外に広がり、また南側に幅0.6mほどの擾乱があり、全形は不明だが五～六角形を呈すると推測される。堅穴中央からやや東側の位置で炉を検出した。炉は1m前後の大きさで不整形であり、石囲いの礫は北側で2個残存するのみである。柱穴は、東側では壁から1m、西側では0.85m壁から離れて南北にはほぼ直線状に並んでいる。炉の下部には、中央部から西側に延びる落ち込みがある。東西1.35m、南北1.1mで、深さ0.5mの集石土坑である。土坑中には礫が詰め込まれ、炭化物が多量に残されている。また炭化していない水質部も残されている。この土坑の下部は、下位に堆積している礫浜の層（表面に筋状に鉄分が付着している）まで掘り込まれている。土坑の礫は一部を除いて持ち込まれたと考えられるが、下位の礫も使用されていると思われる。

調査担当者はこのことから、堅穴下部で集石土坑が掘り込まれ、その後これを砂で覆って焼土を設けている、と理解している。当初の目的はH-12 (8号址)と同様に住居以外として構築され、その後に住居あるいは小屋などに転用されたものと推測している。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱb式。擬縄貼付文の一部が残る。2～4は刻文土器。2は肥厚する口縁部に斜位の、3は胴部に2列の横位の刻文が施されている。5・6は石鏃。5は凹基、6は下半部が欠損している。7はナイフ。上下端が欠損している。両側からの平坦加工が施されている。



図IV-53 H-14 (9号址) (2)

(2) 土坑墓

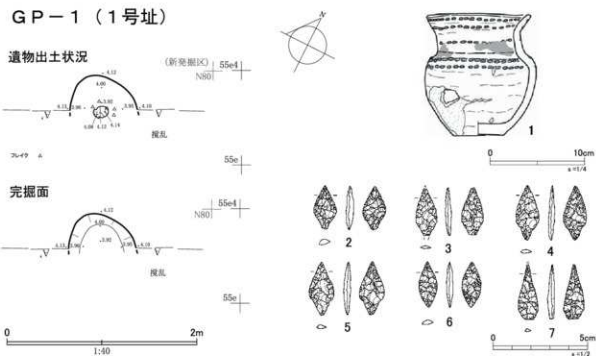
墓とみられる土坑1基（GP-1）を検出した。時期は、出土土器から刻文期である。

GP-1（1号址）（図IV-54 表IV-1・2 図版28・57）

堅穴住居跡群から25m以上東側に離れて土坑を検出した。周囲は遺構・遺物とも希薄である。土坑の南側半分ほどは、ケーブル埋設による攪乱を受けている。長軸方向は北北西-南南東で、規模は推定1m×0.7m、深さは検出面から0.2mほどである。完形のオホホツク土器が横倒して出土し、その周囲から石鏃が5点出土した。

掲載遺物：1は刻文土器。小型の甕で、頸部はすほまり口縁は肥厚しない。文様は横位の刻文が口縁～頸部に3列、肩部に2列めぐる。炭化物が内外面とも多量に付着している。ほぼ完形であるが、胴下部に2×1.5cmほどの欠損部があり周囲が剥落しひび割れが走っている。意図的な破壊行為の可能性もある。

2～7は石鏃。2～5は有茎、6は両端が尖る木葉形、7は凸基である。茎部は収斂する形状で、4・5のみにわずかなカエシが見られる。6は平坦で精緻な加工が全面的に施されている。7は先端部が非常に細身に成形されている。石鏃の可能性もある。



図IV-54 GP-1（1号址）

(3) 集石を伴う土坑

集石土坑・集石炉を含む、礫集中を伴う土坑を4基（PS-1～4）検出した。時期は、検出面や出土遺物から刻文期とみられる。

PS-1（32号址）（図IV-55 表IV-1・3）

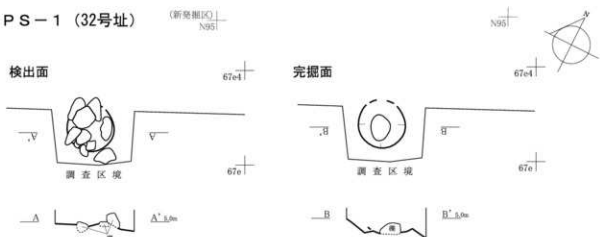
H-8（6号址）の南東側に隣接して検出した。覆土下位と推定できる位置には0.7m×0.5mの範囲に集石があり、坑底中央部にやや大型の礫が1個出土した。炭化物が多量に含まれている。小規模な集石土坑とみられる。

PS-2 (17号址) (図IV-55 表IV-1・3 図版28・57)

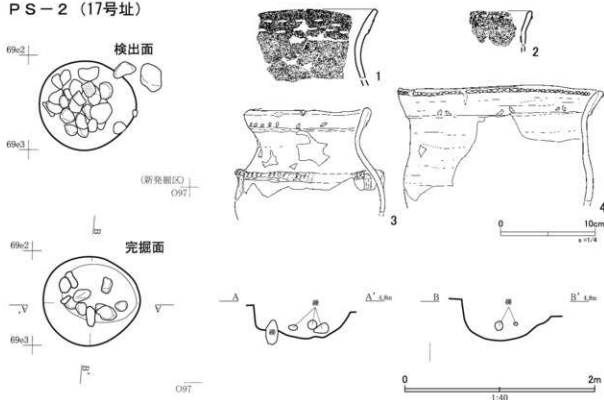
H-8 (6号址)の西側、F-1 (22号址)に隣接して検出した集石土坑である。土坑はほぼ円形を呈し、深さは検出面から0.36mである。土坑中央部を中心に礫が積み重なっている。集石中には炭化物が密集し、板状の材も出土している。集石は炭化物がタール状に付着し煤けた状態を呈している。また被熱によってひび割れている礫も見られる。遺物は刻文土器を主体に73点出土した。

掲載遺物：1・3・4は刻文期の土器。1はやや肥厚する口縁に横位の刻文が2列施されている。3は壺形に近い。肥厚する口縁下部に爪形状の刻文、肩部には太い隆帯がめぐり刻みが施されている。

PS-1 (32号址)



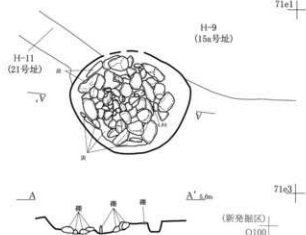
PS-2 (17号址)



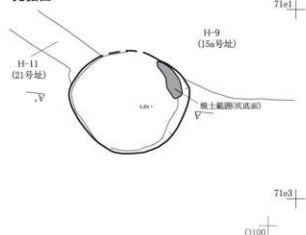
図IV-55 PS-1・2 (32・17号址)

PS-3 (14号址)

上面礫出土状況



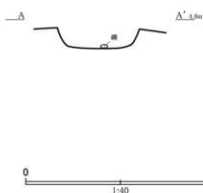
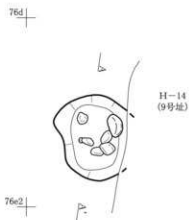
完掘面



PS-4 (18号址)



(新発掘区)
N106



図IV-56 PS-3・4 (14・18号址)

隆帯から垂下する貼付文があるが、剥落して不明である。4は口唇直下に刻みの施された貼付文がめぐり、口縁下部にハの字状の刻文が間隔を空けて施文されている。2は擬縄貼付文土器。器面がふい黄褐色を呈する。

PS-3 (14号址) (図IV-56 表IV-1 図版28)

H-9 (15a号址) と H-11 (21号址) を切って構築された集石土坑である。おおむね楕円形を呈している。坑底付近から大小の礫が平面的に密集して出土した。集石には炭化物がタール状に附着し、煤けた状態である。また被熱によってひび割れている礫も見られ、集石中から炭化物や燃え切っていない木質部が多量に出土した。坑底面に焼土ブロックがみられる。

PS-4 (18号址) (図IV-56 表IV-1 図版28)

H-14 (9号址) の西側に隣接して検出した。同遺構によって切られている。土坑は不整形を呈する。坑底付近から礫がややまとまって出土した。炭化物が多量に含まれていた。

(4) 石組炉

3か所（SF-1～3）検出した。H-8（6号址）とH-9（15号址）との間が約10m離れており、その間で2か所（SF-1・2）を検出し、竪穴住居跡群の西縁で1か所（SF-3）を検出した。時期は、検出面や出土遺物から刻文期である。

SF-1（13号址）（図IV-57・58 表IV-1・3 図版5・57）

長楕円形とみられる浅いくほみに炭化物混じりの砂が堆積しており、その周囲に礫が並んでいる。南側では灰のブロックを数か所検出した。さらに南側は調査区外へ続く。刻文土器が2点出土した。

掲載遺物：1は刻文期の土器。口縁は肥厚せず、胴部に2列の刺突列が2段施されている。2は底部。

SF-2（10号址）（図IV-57 表IV-1・3 図版5）

不整楕円形を呈する皿状のくほみの中央部に焼土、周囲には木炭が多量に含まれていた。焼土からは魚骨（サケ科主体）や炭化物、小陸獣の骨片が出土している。焼土・木炭範囲の周囲を取り巻くように礫が配されている。遺物は刻文土器を主体に24点出土した。

SF-3（16号址）（図IV-57 表IV-1）

おおむね円形を呈するが、南側の一部に攪乱がある。浅い落ち込み中には炭化物が堆積し、ブロック状の焼土も見られる。炭化物範囲の周囲から、やや不規則な配列の礫群を検出した。礫は炭化物がタール状に付着し煤けた状態である。また被熱によってひび割れている礫も見られた。

(5) 焼土

前述のH-8（6号址）とH-9（15号址）との間で3か所（F-1～3）検出した。時期は、検出面や出土遺物から刻文期である。

F-1（22号址）（図IV-57・58 表IV-1・3 図版6・57）

H-8（6号址）の西、PS-2（17号址）に隣接して検出した。楕円形を呈している。焼土の北西側から焼けた礫が出土した。魚骨（サケ科主体）が出土している。焼土および周辺から計123点の遺物が出土している。土器は刻文土器がほとんどであるが、宇津内Ⅱb式が少数混じる。石器等はフレイク類5点が出土した。

掲載遺物：3～6は刻文期の土器。3は肥厚する口縁下端に粘土がめくれ上がる爪形文が連続する（指圧式浮文）。4～6は肩部に貼付帯がありその上に刻みが施されるもの。4にはさらに短い横位の貼付帯、5・6には貼瘤状の縦位の貼付文が付されている。7は底部で、底面が厚い。

F-2（11号址）（図IV-57・58 表IV-1・3 図版57）

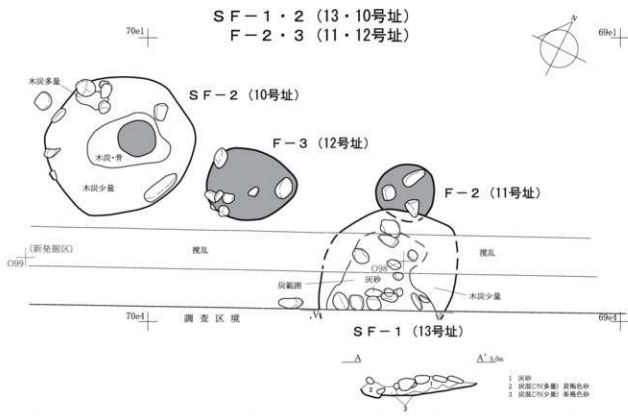
SF-1（13号址）の北側に隣接している。0.6mの範囲に焼土が分布する。やや大型の被熱礫が3点出土した。

掲載遺物：8・9は刻文期の土器。8は薄く肥厚する口縁の上端に刻み状、下端に横位の刻文（爪形状）が施されている。9は波状の貼付文に近い貼付帯が付されている。

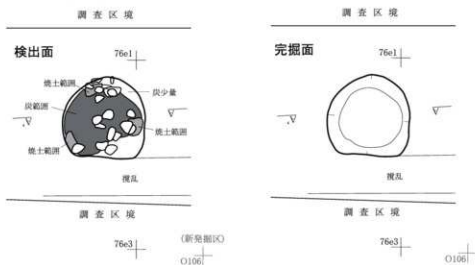
F-3（12号址）（図IV-57・58 表IV-1・3 図版57）

SF-1（13号址）とSF-2（10号址）の間にある。東西0.95m、南北0.75mの範囲に焼土が分布する。被熱礫が出土している。

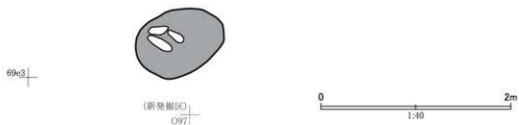
掲載遺物：10・11は刻文期の土器。10は幅の狭い口縁部肥厚帯に斜位の刻文が施されている。11は胴部に刻み入りの貼付帯が付されている。12は石核。円礫を素材として、上面からの剥離のみ行われている。



SF-3 (16号址)

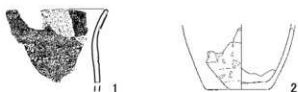


69e2 | SF-1 (22号址)

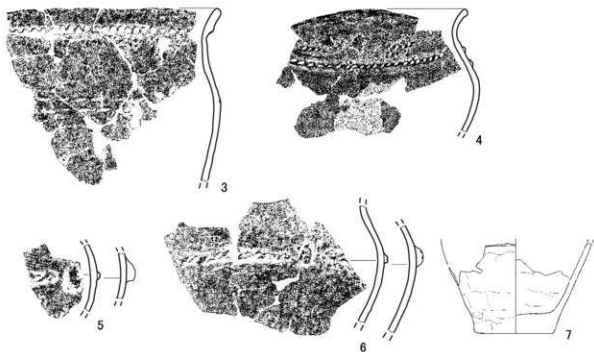


図IV-57 SF-1~3・F-1~3 (10~13・16・22号址)

S F-1 (13号址)



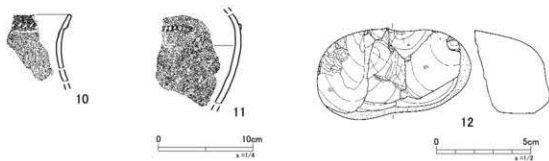
F-1 (22号址)



F-2 (11号址)



F-3 (12号址)



図IV-58 S F・F出土の遺物

3 包含層出土の遺物

(1) 土器

縄文時代の土器 (1~7)

後期~晩期の土器が12点出土した。このうち後期の土器は、調査区西部 (C地区)、Ⅴ層に広がる礫層の上から出土した。

手桶式 (1)

1は口径約35cmの大型深鉢。LR縄文の地文を太沈線で区画し、口縁部無文帯を設けている。ていねいに磨かれている。

觥調式 (2~4)

2~4は大型深鉢の口縁・胴部で、同一個体。緩やかな波状口縁で外反し、胴部は強く屈曲する。口唇直下と胴屈曲部に太い刻み列がそれぞれ1列施され、太沈線による幅広の曲線帯状文を組み合わせた文様がえがかれている。透明・白色鈳物を多量含み、器面がザラついている。該期の道央部の土器にも類似する胎土がある。

堂林式 (5~7)

5・6は器壁が薄く、小型の鉢と思われる。口唇直下に細沈線による痕跡的な刻み列とその下に突瘤文が施され、胴部に2本組の曲沈線がえがかれている。7は切出形口唇。羽状縄文地に突瘤文が施されている。

続縄文時代の土器 (8~49)

590点出土した。初頭の土器は調査区中央西部 (C地区)、H-15 (37c号址) 付近から出土した。宇津内Ⅱ a式は、C地区の98~111ラインを主体に、116ライン付近、137ラインの礫層からも出土した。宇津内Ⅱ b式はC地区の97~112ラインを主体に、115ライン付近のほかB地区からもわずかに出土した。後北C₂・Dは全体数が少ないが、C地区の99~115ラインを主体に、128ライン付近のほかB地区の54・59ライン付近からもややまとまって出土した。

(栄浦第二・第一遺跡の土器群相当) (8)

8は無文地の口縁部に変形工字文が施されている。

宇津内Ⅱ a式 (9~20)

9~17は深鉢で、胴部がふくらみ口縁がやや内湾する。縦走する縄文を地文とし、口縁部に突瘤文 (9・12~17)、5~6本の縄線 (9・11~17)、その下に縄端刺突列 (9・11~14・16・17) がめぐる。また擬縄貼付文が施され (9~14)、9は台形状の突起下、12は波頂部下に縦位の文様が配されている。口唇はやや丸みをもって内傾し、口唇上にも縄文が施文される (9・12~16)。17の口唇は外・内両側から交互に刻みが施されている。18は上記のうち、縄線・縄端刺突列を欠く。19は口縁波頂部にある環状の把手。上面に5本の縄線文が施文されている。20は完形に近い小型の鉢。R-1 (29号址) 付近から出土した。大2+小2の単位で構成され、口縁部に波頂部と環状の把手がそれぞれ対向する。口縁部には突瘤文・5本の縄線文・縄端刺突列がめぐり、擬縄貼付文が波頂部下で縦位に下り、斜行して把手下まで続き連絡する。また底面縁辺部に縄端刺突が周回する。

宇津内Ⅱ b式 (21~35)

21~28は細い貼付文による文様があるもの。21は楕円の細い貼付文付きの波頂部。22は5本の縄線・縄端刺突列など宇津内Ⅱ a式の要素が残る。波頂部突起下以外の貼付文上に、細かい刻みが施されている。23は突起下に細い貼付文が垂下する。24・25は同心円文に近い二重楕円文と連絡する貼付文が

ある。26は地文のRL縄文→突起下の栴円文→口縁部の縄線→そのほかの縦位・横位・栴円の細い貼付文、の順に施文されている。27は波頂部付近がやや外に張り出す。28はV字状の貼付文上に細かい縄端刺突が施されている。29～31は底部。29・31は上げ底。32～35はミニチュア土器。32・34は同一個体と思われる、33も近似する。地文のRL縄文および縄線施文後、細い貼付文による文様が施されている。底面に縄端刺突列が周回する。35は突起に貫通孔がある。

後北C₂・D式 (36～49)

36～40は微隆起線による文様のあるもの。36は注口付きの深鉢。注口は比較的大型である。器面が明褐色を呈し、その上に微隆起線およびそれに沿って灰白色粘土（化粧粘土）を用いて文様が配されており、彩色が行われているような視覚的効果がある。37は大型の深鉢。口縁に2本の擬縄貼付文、突起下に縦位と胴下部に横位の区画帯縄文を配し、弧線を主体とした帯縄文・微隆起線・三角列点による文様を密に充填している。38・39も弧線を主体とした文様がみられる。40は帯縄文に沿う擬縄貼付文から斜位に微隆起線が施されている。41～43は擬縄貼付文、帯縄文、三角列点がみられ、44は三角列点を欠く。45は大型の深鉢。当遺跡の該期の土器では数少ない無文地で、口縁部に2本の擬縄貼付文がめぐる。46～48は底部。46・47は縦走する帯縄文が底面付近まで施されている。49はミニチュア土器。弧線の帯縄文による文様が施文されている。

オホーツク文化期の土器 (50～75)

824点出土した。刻文土器を主体に、擬縄貼付文土器が少数ある。刻文土器は調査区中央部(B地区)の堅穴住居跡群のある62～72ラインを主体に、調査区中央部～西部(B地区西部・C地区)からわずかに出土した。擬縄貼付文土器は、H-8(6号址)付近の68～69ラインで出土した。

刻文期の土器 (50～70)

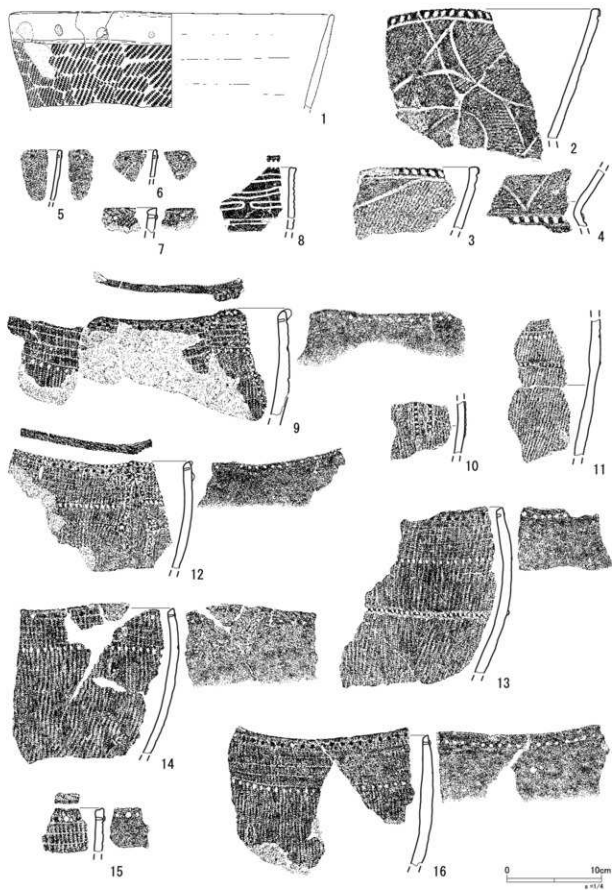
50・70は櫛歯文のあるもの。縦位の櫛歯文の上下に沿って横位の刻文が施されている。70は口唇部付近がやや丸みをもって肥厚する。50～54・67はやや弱く肥厚する口縁部下端に斜位の刻文、55～58は同じく爪形文、59～64は横位の刻文が施されている。52には多量の炭化物が付着している。62は口縁部の上下部に刻文がみられる。61・63・64は胴部に2または3列の横位の刻文が列する。65は沈線土器。H-7(5号址)出土の土器(図IV-8-15)に類似する。梯子状の沈線による区画文内に刺突がある。66は肥厚する口縁部に刻み列とハの字形刻文が付されている。67～69は肩部に刻み入りの太い貼付帯があるもの(67は剥落)。

擬縄貼付文土器 (71)

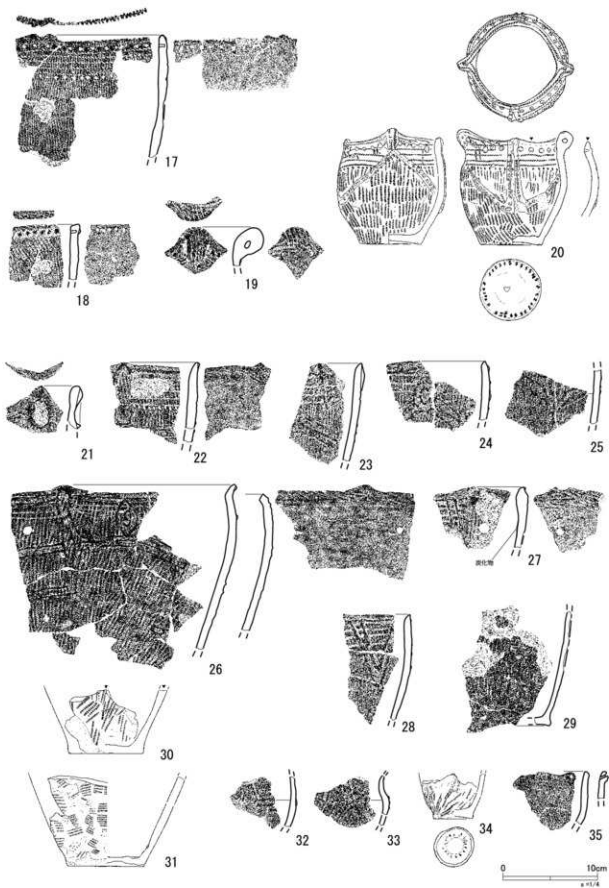
71は口縁部が肥厚せず、肩部に擬縄貼付文がめぐる。

無文の土器 (72～75)

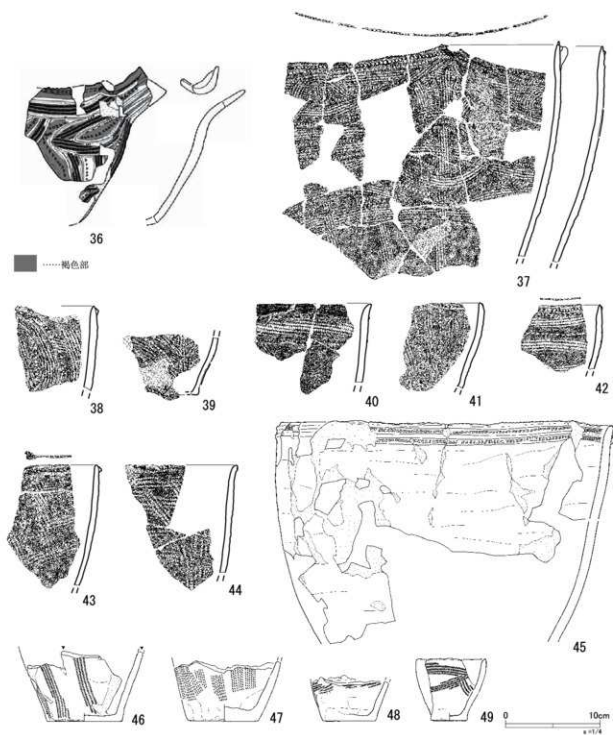
出土地点や形状から、刻文期のものが多いと思われる。72は口縁がわずかに肥厚する。口縁～肩部にかけて炭化物が多量に付着している。73～75は底部。73は上げ底きみである。75は胎土に砂粒を多く含む。(阿部)



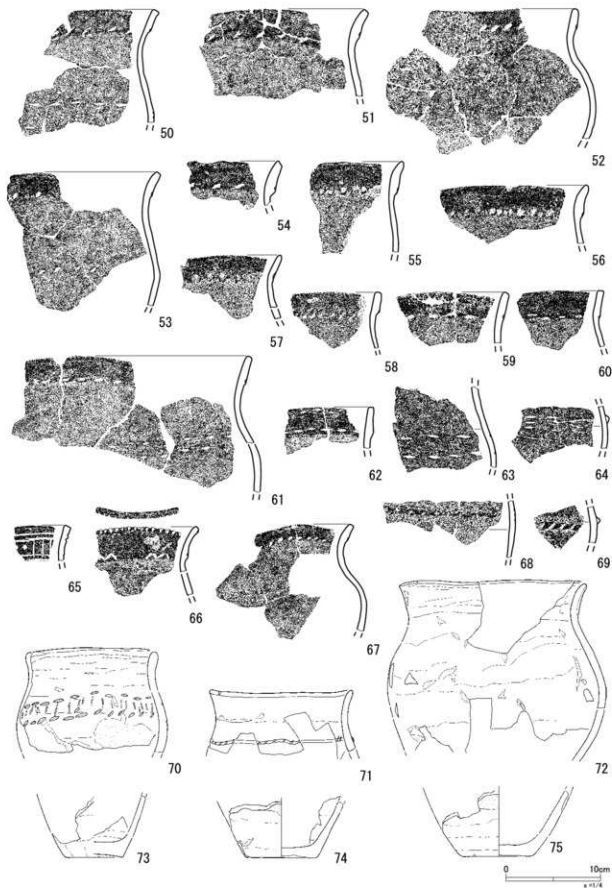
図IV-59 包含層出土の土器(1)



図IV-60 包含層出土の土器(2)



図IV-61 包含層出土の土器（3）



図IV-62 包含層出土の土器(4)

(2) 石器等 (図Ⅳ-63~65 表Ⅳ-11・12 図版60)

地区によって遺構の種類がだまかに分かれるため、二つの地区に分離して報告する。

旧96ライン以西 (C地点) 出土の遺物 (1~50)

1~50は周辺の検出遺構から主に統縄文時代前半期の宇津内式期のものが主体と考えられる。

石鏃 (1~12)

1~3は凹基のもの。2は先端部付近に錯交状の加工が施されるのみで、未成品とみられる。4・5は平基のもので、先端部が欠損している。6~10は有茎のもの。6・10の茎部は端部まで太い形状となっている。11は両端が尖る木葉形のもので、縁辺中央部にわずかにカエシがみられる。12は下半部が欠損している。

石槍またはナイフ (13~31)

13~15は上端が尖り、茎部のある石槍で、下半部は茎端部まで太い形状となっている。いずれも右側のみやや明瞭なカエシが見られる。16~20は柄部のあるナイフで、反対端部は尖らず、半両面加工の16・19、両面加工の17、縁辺加工の18・20が見られる。21・22はその他の完形品である。いずれも縁辺を中心とした両面加工が施されているが、整った形状ではない。22の表面には対向する剥離が見られる。23~31は折損品である。この内、端部が尖るように成形されているものは23・26・28、柄部とみられる矩形に成形されているものは29・30である。

スクレイパー (32~43)

32~39は縁辺ないし端部に円弧状の刃部が作出されている。40~43は側縁を中心にやや直線的な加工が施されているものである。

Rフレイク (44~47)

44~47はいずれも縁辺の一部に細かな加工が施されている。

原石 (48)

48は黒曜石製の棒状原石である。

砥石 (49)

49は安山岩製で、各面に擦り痕が見られる。

石錘 (50)

50は安山岩製で、正面中央から背面中央上部に帯状の凹みを巡らせている。攪乱から出土した。

旧49~80ライン (B地点) 出土の遺物 (51~63)

51~63は、周辺の検出遺構から主にオホーツク文化刻文期のもものが主体と考えられる。

石鏃 (51~58)

51~53が平基のもの。51には上端からの衝撃剥離が見られる。54・55が凹基のもの。55は細身で両側縁の平行する部位が長い。56~58が有茎のもの。56には明瞭なカエシが見られる。57の加工には鋸歯状の部分が見られる。58は未成品で、先端部とカエシの一部が作出されている。

ナイフ (59)

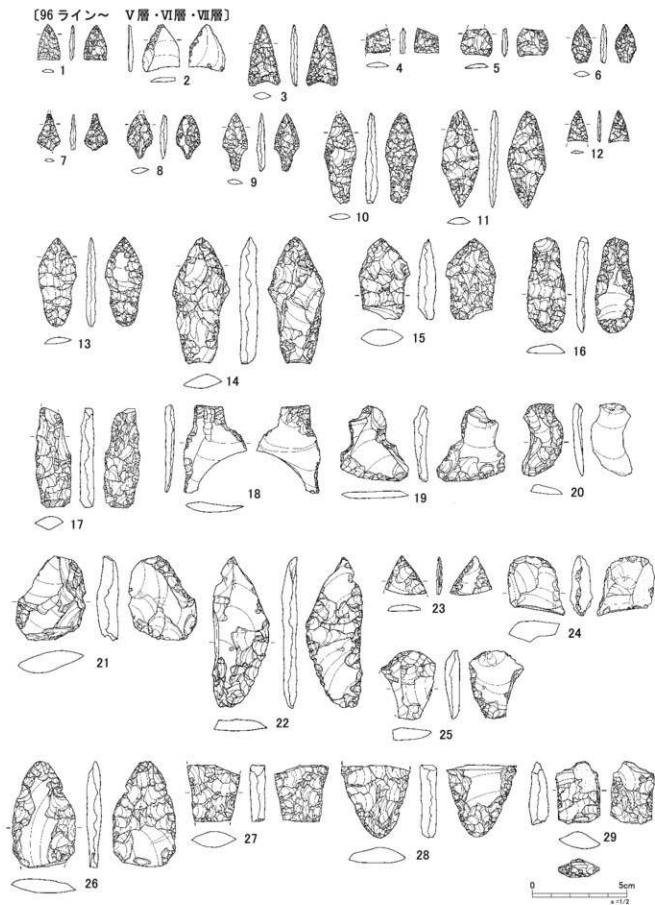
59は正面を中心とした半両面加工が施されている。

スクレイパー (60~62)

60は縦長剥片を素材として、左側縁にやや平坦な加工が施されている。61・62はいずれも端部に加工が施され、61が円弧状、62が直線的な刃部が作出されている。

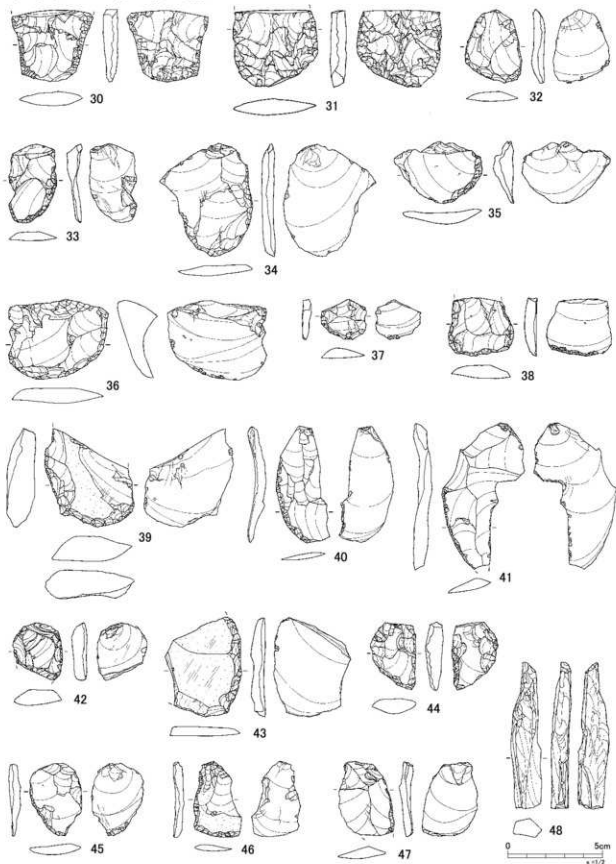
Rフレイク (63)

63は上端部の両側縁を中心に細かな加工が施されている。 (直江)



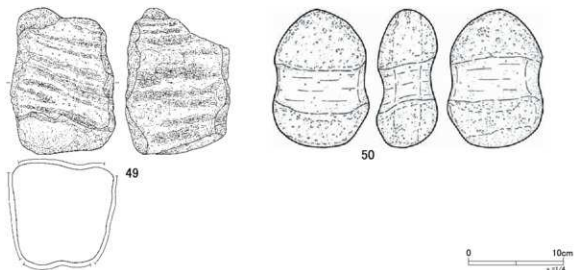
図IV-63 包含層出土の石器(1)

[96ライン～ V層・VI層・VII層]

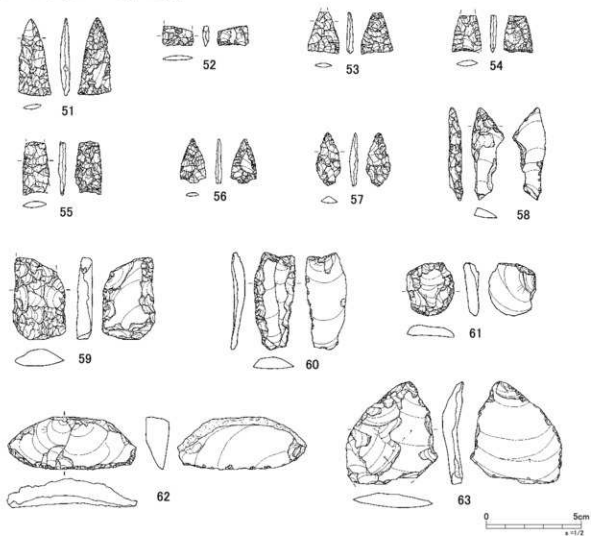


図IV-64 包含層出土の石器(2)

[96ライン～ V層・VI層・VII層]



[61～80ライン～ VI層・VII層]



図IV-65 包含層出土の石器(3)

表M-1 2008年調査遺構一覧

遺構名	新遺構名	旧遺構名	階数		掘出位置			平面形	規模(m)			時期	備考	
			棟深	写真 図版	新発見区	旧発見区	掘位		掘出面		深さ			
									長径	短径				長径
壁式瓦葺屋根	H-1	2号址	IV-31	47	N.086.87	60e.f	多角形?	(3.60)	(2.86)	(3.0)	(2.4)	0.30	オホーツク文化期末期	
	H-2	4号址	IV-32	25	N91.92	64e	五角形?	(3.88)	(2.88)	(2.56)	(2.34)	0.36	オホーツク文化期末期	
	H-4	55号址	IV-33		N91.92	64e	—	(1.76)	(0.60)	(1.72)	(0.60)	(0.60)	オホーツク文化期末期	
	H-5	20号址	IV-34+35	25	N.092.93	65e	楕円方形?	(3.52)	(1.52)	(0.90)	(1.21)	(0.56)	オホーツク文化期末期	
	H-6	19号址			N.092.93	65.66e	多角形?	(4.56)	(3.92)	(4.32)	(3.76)	(0.64)	オホーツク文化期末期	
	H-7	5号址	IV-36~39		N.093.94	66.67e	不整六角形	4.88	4.40	(4.40)	(3.92)	0.70	オホーツク文化期末期	
	H-8	8号址	IV-40~43	6・26	N.095.96	67.68e	六角形?	7.16	(3.84)	6.48	—	0.52	オホーツク文化期末期	塩床あり
	H-9	15a号址	IV-44~47	26	N99.100	70.71e	多角形?	(6.40)	(2.36)	(6.14)	(2.12)	(0.30)	オホーツク文化期末期	
	H-10	15b号址			N99.100	70.71d.e	—	(3.52)	(0.68)	(3.48)	(0.36)	(0.32)	オホーツク文化期末期	
	H-11	21号址			N100	71e	—	(2.3)	(1.8)	(1.8)	(1.4)	(0.12)	オホーツク文化期末期	
	H-12	8号址	IV-48+49	4・27	N.0100.101	71.72e	多角形?	(3.72)	(3.04)	(3.24)	—	(0.56)	オホーツク文化期末期	
	H-13	7号址	IV-50+51	27	N102.103	73.74e	楕円方形?	(5.0)	(2.06)	(4.36)	(2.28)	(0.64)	オホーツク文化期末期	
	H-14	9号址	IV-52+53		N104.105	74.75e	多角形?	(5.24)	(2.84)	(4.76)	—	(0.68)	オホーツク文化期末期	
	H-15	37a号址	IV-6+7		M.N131.132	96.97d	不整形?	(2.96)	(2.00)	(2.88)	(1.94)	(0.56)	縄文晩期~縄文	
	H-16	25号址	IV-10+11	21	M135.136	99.100c.d	不整形?	(4.12)	(2.20)	(3.80)	(2.10)	(0.64)	縄文時代前期	
	H-17	51号址	IV-8+9	4・21	M135.136	98.99c.d	楕円方形?	(5.00)	(2.16)	(4.92)	(2.36)	(0.72)	縄文晩期後葉	楕円形?
	H-18	24号址	IV-12	21	M.136.137	100.101e	—	(3.24)	(0.60)	(3.12)	(0.40)	(0.35)	縄文時代前期	
	土版	GP-2	1号址	IV-54	28	55e	080	円形?	(0.70)	(0.36)	(0.44)	(0.22)	(0.20)	オホーツク文化期末期
GP-3		38号址	IV-13	22	97d	M132	お討社円形	1.04	0.92	1.56	0.56	0.30	縄文時代前期	
GP-3		44号址	IV-14+15	口縁3, 22	98d	M134	楕円形	(1.48)	(1.24)	(1.24)	(0.97)	(0.32)	縄文時代前期	
土坑	P-1	24b号址	IV-16		M.136.137	100e	円形?	(0.96)	(0.33)	(0.52)	(0.26)	(0.60)	縄文時代前期	
	P-2	34号址			M.137.138	101c	楕円形?	(1.20)	(0.28)	(0.96)	(0.22)	(0.24)	縄文時代	
	P-3	27号址	IV-17		L139	102e	楕円形?	(2.32)	(0.60)	(1.94)	(0.38)	(0.30)	縄文時代	
	P-4	26号址		22	L140	103c	円形?	(1.12)	(0.80)	(0.64)	(0.58)	(0.39)	縄文時代前期	
	P-5	28号址	IV-18		L142.143	105e	楕円形?	(1.22)	(0.96)	(0.64)	(0.96)	(0.21)	縄文時代前期	
	P-6	43号址			L157.158	117c	楕円形?	(1.04)	(0.96)	(0.96)	(0.70)	(0.44)	縄文時代	
	P-7	43号址	IV-19		K168.169	120b	ほぼ円形	1.64	(1.36)	1.48	(1.28)	(0.20)	縄文時代	
壁式土版	PS-1	32号址	IV-55	28	095	67e	円形	(0.52)	0.27	0.52	0.20	(0.12)	オホーツク文化期末期	
	PS-2	17号址	IV-55		N97	68e	不整形?	1.04	0.80	0.92	0.60	0.40	オホーツク文化期末期	
	PS-3	14号址	IV-56		N100	71e	ほぼ正方形	1.30	(1.20)	1.28	(1.08)	0.16	オホーツク文化期末期	
	PS-4	18号址	IV-56		N105.106	75e	不整形?	0.92	(0.76)	0.70	(0.52)	0.28	オホーツク文化期末期	
	PS-5	37a・b号址	IV-20	23	M.N132	96.97d	不整形?	(2.32)	(1.48)	(2.00)	(1.21)	(0.32)	縄文時代前期	
	PS-6	39号址	IV-20		M132	96.97d	円形?	(0.88)	(0.48)	—	—	(0.40)	縄文時代前期	
	PS-7	23号址	IV-21	23	M133	97.98d	円形?	(2.07)	(0.80)	(1.68)	(0.64)	(0.26)	縄文時代前期	
	PS-8	40号址	IV-22		M133	98d	不整形?	(1.00)	(0.60)	(0.80)	(0.48)	(0.48)	縄文時代	
	PS-9	48号址	IV-22		M133	97d	不整形?	(0.87)	(0.68)	(0.36)	(0.24)	(0.30)	縄文時代	
	PS-10	49号址	IV-23		M133.134	98d	長楕円形?	(1.92)	(1.28)	(1.29)	(0.52)	(0.32)	縄文時代前期	縄文晩期?
	PS-11	46号址	IV-24		M134	98.99d	円形?	(1.36)	(1.19)	(1.08)	(1.12)	(0.96)	縄文時代前期	
	PS-12	50号址	IV-24+25		M134.135	99d	楕円形?	(2.48)	(2.00)	(2.00)	(1.84)	(0.56)	縄文時代前期	
	PS-13	41・45号址	IV-25	24	M135	99d	楕円形?	(0.80)	(0.62)	(0.60)	(0.49)	(0.24)	縄文時代前期	
	PS-14	31b号址	IV-26		L147	108.109b,c	長楕円形?	(2.72)	(1.56)	—	—	(0.20)	縄文時代前期	
	PS-15	35号址	IV-26		K.L147.148	109b	不整形?	(1.60)	(0.96)	(1.24)	(0.80)	(0.30)	縄文時代	(印)
	PS-16	36号址	IV-27		L148	109.110b,c	不整形?	(1.24)	(0.96)	(0.80)	(0.84)	(0.32)	縄文時代前期	
	PS-17	53号址	IV-27	24	K.148.149	110b	楕円形?	(2.19)	(1.48)	(2.08)	(0.43)	(0.28)	縄文時代	
	PS-18	54号址	IV-27		K150	111b	楕円形?	(1.52)	(0.52)	(1.32)	(0.52)	(1.40)	縄文時代	
PS-19	30号址	IV-28		K.L150	111b	楕円形?	(1.40)	(0.80)	(1.08)	(0.67)	0.28	縄文時代前期		
PS-20	33号址	IV-28	24	K.L157.158	117b,c	ほぼ円形?	2.20	(2.00)	2.14	(1.96)	0.24	縄文時代		
PS-21	42号址	IV-29		L158.159	118c	楕円形?	(2.40)	(1.24)	(2.24)	(1.16)	(0.20)	縄文時代		
石版	SF-1	13号址	IV-57+58	5	N.097.98	69e	楕円形?	1.40	(1.08)	—	—	0.20	オホーツク文化期末期	浅い土坑
	SF-2	10号址	IV-57		N98	69e	不整形?	1.52	1.46	—	—	—	オホーツク文化期末期	浅い土坑
	SF-3	16号址	IV-57		N106	75.76e	不整形?	0.88	0.68	0.88	0.64	0.20	オホーツク文化期末期	
	SF-4	31a号址	IV-29	5	L146.147	108c	不整形?	(1.48)	(0.56)	(1.45)	(0.44)	(0.18)	縄文時代前期	
土版	F-1	22号址	IV-57+58	6	N96.97	68e	楕円形	0.96	0.68	—	—	—	オホーツク文化期末期	
	F-2	11号址	IV-57+58		N97.98	69e	円形	(0.6)	(0.6)	—	—	—	オホーツク文化期末期	
	F-3	12号址	IV-57+58		N98	69e	不整形?	0.96	0.76	—	—	—	オホーツク文化期末期	
礎	S-1	52号址	IV-29		M132	97d	楕円形?	(2.24)	(1.64)	—	—	0.34	縄文時代	
	R-1	29号址	IV-30	8	L144	106c	楕円形?	(1.35)	(0.96)	—	—	—	縄文時代前期	ベンガラ製石

表M-4 2008年調査掘載土器一覽(1)

神岡 番号	掲載 番号	記録 番号	前遺構名	旧遺構名/ (発掘区)	層位	遺物%	点数		分類	器種	部位	文様等	備考	図体番号	
							破片	計							
ⅢV-7	1	00-1	H-15	37c号址	床	2962	6	9	Vc	深鉢	口～胴	口唇削み、横走沈線、縄編刺突、 紅縄文		08-146① 08-310	
ⅢV-7	2	00-1	H-15	37c号址	敷石下	2964	3	5	10	Vc	深鉢	口	口唇削み、横走沈線、縄編刺突、 紅縄文、線刻文		08-146②
ⅢV-7	3	00-1	H-15	37c号址	床	2967	7	8	Vc	深鉢	胴	縄編文、LR縄文		08-167①	
ⅢV-7	4	00-1	GP-2	38号址	埋土	2796	1	1	Vc	深鉢	胴	被線文		08-167②	
ⅢV-9	1	00-2	H-17	51号址	床	3141・3267・ 3301・3421	7	18	Vc	深鉢	胴～底	紅縄文(外・底面) /底径10.3cm、器高10.8cm		08-86	
ⅢV-9	2	00-2	H-17	51号址	埋土	3297・3298	11								
ⅢV-9	3	00-2	H-17	51号址	床	3268	1	1	Vc	深鉢	口	口唇上削み、横走沈線、LR縄文		08-281	
ⅢV-9	4	00-2	H-17	51号址	床	3304	1	1	Vc	壺	口	刺突列、紅縄文		08-282	
ⅢV-9	5	00-2	H-17	51号址	床	3428	1	1	Vc	深鉢	底	紅縄文		08-283	
ⅢV-11	1	00-3	H-16	25号址	床	3182	1	1	Vlb1	深鉢	全	2×4単位突起、突脚、縄編刺付文 (V字状)、縄編刺突(底面付立・ 底面)、縄文(外・底面)/口径 17.3cm、底径7.5cm、器高22.5cm	約100%残存	08-21	
ⅢV-11	2	00-3	H-16	25号址	床	3110	1	1	Vlb	深鉢	口	LR縄文		08-271	
ⅢV-11	3	00-3	H-16	25号址	床	3140	1	1	Vlb	深鉢	胴	縄文		08-272	
ⅢV-11	4	00-3	H-16	25号址	床	2290	1	1	Vlb	小型深鉢	口	縄編刺付文、縄文		08-273	
ⅢV-12	1	00-4	H-18	24号址	埋土	2898	1	1	Vlb	深鉢	底	赤木文		08-270	
ⅢV-13	1	00-5	GP-2	38号址/97d	坑底	3137	1	1	Vlb1	深鉢	全	4単位突起、口唇削付文(外・内)、 突起下二重縄編刺付文(並V字状)、 突脚、縄編刺突、縄文(外・内面 口唇)/口径31.5cm、底径7.4cm、 器高36.8cm	約100%残存	08-22	
ⅢV-13	2	00-5	GP-2	38号址	埋土	3047・3165・ 3166	5	5	Vlb	深鉢	胴	縄文		08-277	
ⅢV-13	3	00-5	GP-2	38号址	坑底	3125・3126	4	4	Vlb	深鉢	口	突起、口唇削み、筋帯、沈線		08-278	
ⅢV-15	1	00-1	GP-3	44号址/98d	坑底	3057	9	9	Vlb1	小型深鉢	全	突脚、縄編、縄編刺突、縄文(外・ 底面)、内外面凹凸物多数付着 (口径14.0cm)、底径6.9cm、器高 14.3cm	約95%残存	08-23	
ⅢV-18	1	00-3	P-5	28号址	埋土	2483	1	2	Vlb	深鉢	口	縄編刺付文、貼附、縄文		08-274	
ⅢV-18	2	00-3	P-5	28号址	埋土	2168	1	1							
ⅢV-18	3	00-3	P-5	28号址	埋土	2478	1	3	Vlb	深鉢	底	縄文、上子底 /底径6.8cm、器高7.3cm		08-78	
ⅢV-21	1	00-4	PS-7	23号址	敷石下	2069・2070	5	8	Vlb1	深鉢	胴	縄編刺付文、縄文		08-144	
ⅢV-21	2	00-4	F-17	22号址?	砂?	2109	3								
ⅢV-23	1	00-4	PS-10	49号址	埋土	3229	1	5	Vc	深鉢	口	口唇削み、横走沈線、LR縄文、 縹刺孔		08-168①	
ⅢV-23	2	00-4	PS-10	49号址	坑底	3248	4								
ⅢV-23	3	00-4	PS-10	49号址	坑底	3195	1	1	Vc	深鉢	胴	横走沈線、LR縄文		08-168②	
ⅢV-23	4	00-4	PS-10	49号址	坑底	3303	2	3	Vc	深鉢	胴	LR縄文		08-279	
ⅢV-23	5	00-4	PS-10	49号址	坑底	3255	1								
ⅢV-24	1	00-4	PS-11	46号址	埋土	3040	2	3	Vlb	深鉢	胴	縄編刺付文、縄文		08-159	
ⅢV-24	2	00-4	PS-11	46号址/99d	埋土	3052	1								
ⅢV-25	1	00-4	PS-12	50号址	埋土	3186	1	1	Vlb	深鉢	口	口唇削み、縄編刺付文、縄編、縄文		08-280	
ⅢV-26	1	00-1	PS-14	31b号址/ 108c	敷石下	2752	5	5	Vlb1	深鉢(実)	口～底	突起下隆帯、突脚、縄編刺付文、 縄編(口唇上も削り)、縄編刺突、 縄文/口径12.5cm、底径5.8cm、 器高19.8cm		08-25	
ⅢV-26	2	00-1	PS-14	31号址	埋土	2539	3	3	Vc	深鉢	口	縹刺孔		08-275	
ⅢV-27	1	00-2	PS-16	36号址	埋土	1761	2	3	VI	深鉢	底	縄文(外・底面)		08-276	
ⅢV-27	2	00-2	PS-16	36号址	埋土	2762	1								
ⅢV-28	1	00-2	PS-19	30号址/ 111c	埋土	2533	1	1	Vlb1	深鉢	口	口唇削付文・刺突、突脚、縄編刺付 文、縄編、縄編刺突、縄文		08-145①	
ⅢV-28	2	00-2	PS-19	30号址/ 111c	埋土	2524・2529	5	5	Vlb1	深鉢	口～胴	縄編刺付文、縄編、縄編刺突、 縄文		08-145②	
ⅢV-31	1	00-3	H-1	2号址	埋土	1368	1	1	Vlb	壺	胴	縹刺文		08-202	
ⅢV-31	2	00-3	H-1	2号址	埋土	1267	1	1	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文		08-201	
ⅢV-33	1	00-5	H-3	4号址	埋土	481	21	21	Vlb	壺	口～胴	筋文		08-101	
ⅢV-33	2	00-5	H-3	4号址/64e	床	624	7	11	Vlb	壺	口～胴	筋文、縄編刺付文		08-102	
ⅢV-33	3	00-5	H-3	4号址/64e	埋土	333	4								
ⅢV-33	4	00-5	H-3	4号址	埋土	332・542	2	3	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文		08-122	
ⅢV-33	5	00-5	H-3	4号址	埋土	29	1								
ⅢV-33	6	00-5	H-3	4号址	埋土	2419	1	1	Vlb	壺	口	筋文(刺点)、沈線		08-203	
ⅢV-33	7	00-5	H-3	4号址	埋土	119・781	53	53	Vlb	壺	口～底	口縁部肥厚部、筋帯状沈線/口径 11.8cm、底径5.9cm、器高19.4cm	約70%残存	08-2	
ⅢV-35	1	00-4	H-5	20号址	埋土	1913	3	3	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文		08-207	
ⅢV-35	2	00-4	H-5	20号址/65e	埋土	1915	10	10	Vlb	壺	底	無文 /底径7.3cm、器高5.0cm		08-73	
ⅢV-35	3	00-4	H-6	19号址	埋土	1855	1	1	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文(舟型状)		08-208	
ⅢV-35	4	00-4	H-6	19号址	埋土	1861・1903	3	4	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文		08-139	
ⅢV-35	5	00-4	H-6	19号址	埋土	1868	1								
ⅢV-35	6	00-4	H-6	19号址	埋土	1921	1	1	Vlb	壺	口	口縁部肥厚部、筋文		08-209	
ⅢV-35	7	00-4	H-6	19号址	埋土	1804・1821・ 1837・1856・ 1857	7	7	Vlb	壺	口～胴	貼附? 筋文?		08-103②	
ⅢV-35	7	00-4	H-6	19号址	埋土	—	1	1	Vlb	壺	口	筋文、貼附		08-260	
ⅢV-35	8	00-4	H-6	19号址	埋土	1860	24	24	Vlb	壺	底	無文 /底径8.2cm、器高7.3cm		08-72	

表M-5 2008年調査掲載土器一覧(2)

神楽 番号	掲載 番号	注目 番号	前遺構名 (発掘区)	旧遺構名/ (発掘区)	層位	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号	
IV-38	1	53-1	II-7	5号址	埋土	478	1	VIc	酒杯	胴	無文, 素面文		08-215	
IV-38	2	53-1	II-7	5号址/66e	埋土	153・1069・ 1108・1112	5	6	VIb	甕	胴	樹文文 /底径9.0cm, 器高15.6cm	08-105	
				5号址	灰	1892	1							
				II-8 6号址	埋土	307	1							
IV-38	3	53-1	II-7	5号址	灰	1181	3	3	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-208	
IV-38	4	53-1	II-7	5号址	埋土	316	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-205	
IV-38	5	53-1	II-7	5号址	埋土	1693	2	2	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-211	
IV-38	6	53-1	II-7	5号址	埋土	1118	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-216	
IV-38	7	53-1	II-7	5号址	灰	1941	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-219	
IV-38	8	53-1	II-7	5号址	埋土	1750	2	2	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文(爪形文)	08-206	
IV-38	9	53-1	II-7	5号址	埋土	455	1	1	VIb	甕	胴	刻文	08-219	
IV-38	10	53-1	II-7	5号址/66e	埋土	1789	1	2	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-1215	
				5号址/66e	灰	1791	1							
IV-38	11	53-1	II-7	5号址	埋土	1262	2	2	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-207	
IV-38	12	53-1	II-7	5号址/66e	灰	1129・1792	5	12	VIb	甕	口~胴	口縁部肥厚部, 刻文, /への字形刻文	08-1031	
				5号址/66e	埋土	164・480・ 1232・1234	7							
IV-38	13	53-1	II-7	5号址	埋土	1184	1	1	VIb	甕	胴	私付帯上刻文	08-217	
IV-38	14	53-1	II-7	5号址	埋土	1114	1	1	VIb	甕	口	刻文	08-209	
IV-38	15	53-1	II-7	5号址	埋土	295	1	1	VIb	甕	口	沈線(縦位・縦位)	08-218	
IV-38	16	53-1	II-7	5号址	埋土	1025	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部(段)	08-214	
IV-38	17	53-1	II-7	5号址/66e	埋土	153	1	1	VIb	甕	口~胴	口唇縁部押印跡, 刻文	08-218	
IV-38	18	53-1	II-7	5号址/66f	埋土	1237	1	1	VIb	甕	口~胴	口縁部肥厚部	08-107	
IV-38	19	53-1	II-7	5号址	埋土	1742	6	6	VIb	甕	底	無文 /底径7.4cm, 器高5.0cm	08-1092	
IV-38	20	53-1	II-7	5号址	埋土	608	1	2	VIb	小型甕	口	無文	08-213	
IV-38	21	53-1	II-7	5号址/66e	灰	1811	1	2	VIb	小型甕	胴~底	無文	08-1062	
				5号址/66e	埋土	456	1							
IV-38	22	53-1	II-7	5号址/66e	埋土	984・987・ 1047・1069	4	4	VIc	甕	口縁	口縁部肥厚部, 縦溝貼付文	08-104	
IV-38	23	53-1	II-7	5号址/66e	灰	1727・1740・ 1743	22	24	VIb	甕	口~底	口縁部肥厚部, 刻文 /口径(20.7)cm, 底径7.7cm, 器高 20.6cm	約90%残存	08-6
				5号址/66e	覆土	1747	2							
IV-38	24	53-1	II-7	5号址/66e	埋土	1183・1239・ 1264	10	10	VIb	甕	口~底	口縁部肥厚部, 刻文 /口径(10.3)cm, 底径(6.8)cm, 器 高5.5cm	約30%残存	08-4
IV-38	25	53-1	II-7	5号址	埋土	1135・1148・ 1238・1294・ 1266・1752・ 1772	8	8	VIb	甕	口~底	口縁部肥厚部, 口唇刻み, 刻文, 縦位の2本貼付文 /口径(10.8)cm, 底径5.0cm, 器高	約70%残存	08-3
IV-38	26	53-1	II-7	5号址	埋土	926	1	2	VIb	甕	胴~底	無文 /底径5.1cm, 器高(10.9)cm	約50%残存	08-5
				6号址	埋土	893	1							
IV-38	27	53-1	II-7	5号址	灰	1075	1	1	VIb	甕	底	無文 /底径(8.8)cm, 器高(3.7)cm	08-53	
IV-38	28	53-1	II-7	5号址/66e	灰	1092	12	12	VIb	甕	底	無文 /底径(9.3)cm, 器高(6.8)cm	08-52	
IV-38	29	53-1	II-7	5号址/6e	灰	611	19	19	VIb	甕	底	無文 /底径(6.2)cm, 器高(7.8)cm	08-51	
IV-38	30	53-1	II-7	5号址	灰	973	1	1	VIb	甕	底	無文 /底径(6.7)cm, 器高(3.4)cm	08-54	
IV-42	1	54-1	II-8	6号址	埋土	952	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 樹文文	08-222	
IV-42	2	54-1	II-8	6号址	埋土	96・369	2	3	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-113	
				68e	埋土	159	1							
IV-42	3	54-1	II-8	6号址	埋土	95	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-224	
IV-42	4	54-1	II-8	6号址	埋土	591	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-223	
IV-42	5	54-1	II-8	6号址	埋土	620	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-212	
IV-42	6	54-1	II-8	6号址	柱穴	2005	1	1	VIb	甕	口	刻文	08-232	
IV-42	7	54-1	II-8	6号址	埋土	366・494	4	4	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-111	
IV-42	8	54-1	II-8	6号址	埋土	1709	3	3	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-1212	
IV-42	9	54-1	II-8	6号址	埋土	2564	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-220	
IV-42	10	54-1	II-8	6号址	灰	1249	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-225	
IV-42	11	54-1	II-8	6号址	埋土	1806	1	1	VIb	甕	口	口縁部肥厚部, 刻文	08-221	
IV-42	12	54-1	II-8	6号址/67e	埋土	1056	18	18	VIb	甕	口~胴	口縁部肥厚部, 刻文	08-1091	
IV-42	13	54-1	II-8	6号址	蓋土	994	3	3	VIb	甕	口~胴	口縁部肥厚部, 刻文, /への字形刻文	08-117	
IV-42	14	54-1	II-8	6号址	灰	1963	1	1	VIb	甕	胴	刻文	08-233	
IV-42	15	54-1	II-8	6号址	埋土	1128	1	1	VIb	甕	胴	刻文	08-234	
IV-42	16	54-1	II-8	6号址	埋土	107・157	3	3	VIb	甕	口	口縁部肥厚部(段), 刻文	08-114	
IV-42	17	54-1	II-8	6号址	埋土	296	1	1	VIb	甕	口	樹文文	08-226	
IV-42	18	54-1	II-8	6号址	埋土	373	1	1	VIb	甕	口	刻文, 樹文文	08-227	
IV-42	19	54-1	II-8	6号址/67f	埋土	965	3	4	VIb	甕	口~胴	口縁部肥厚部, 刻文	08-116	
				6号址/67f	灰	971	1							
IV-42	20	54-1	II-8	6号址	埋土	882	1	1	VIb	甕	胴	樹文文	08-238	
IV-42	21	54-1	II-8	6号址/67e	埋土	1101・1072	3	3	VIc	甕	胴	私付帯上刻文	08-115	
IV-42	22	54-1	II-8	6号址	埋土	1052	1	2	VIb	甕	胴	私付帯	08-228	
IV-42	23	54-1	II-8	6号址	埋土	1053	1	1	VIb	甕	胴	私付帯	08-230	
IV-42	24	54-1	II-8	6号址	埋土	1384	1	1	VIb	甕	胴	私付帯	08-229	
IV-42	25	54-1	II-8	6号址/68e	灰・柱穴	1854	1	1	VIc	甕	口~胴	貼付文(鹿状), 貼輪	08-119	

表M-6 2008年調査発掘土器一覧(3)

神岡 番号	掲載 番号	調査 番号	前遺構名	旧遺構名/ (発掘区)	層位	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	図録番号	
														破片
ⅨV-42	26	54-1	Ⅱ-8	6号址/67e	埋土	262	5	VbC	甕	口~胴	白線部肥厚帯、縦溝貼付文、貼瘤		08-120	
ⅨV-42	27	54-1	Ⅱ-8	6号址/68e	埋土	530	1	VbC	甕	口~胴	白線部肥厚帯、縦溝貼付文、貼瘤		08-118	
ⅨV-42	28	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	1841	2	VbC	甕	胴	縦溝貼付文		08-231	
ⅨV-42	29	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	3908	1	VbC	甕	口	縦溝貼付文		08-204	
ⅨV-42	30	54-1	Ⅱ-8	6号址	床	623	11	VbC	甕	口	白線部肥厚帯、縦溝貼付文、貼瘤		08-110(1)	
ⅨV-42	31	54-1	Ⅱ-8	6号址	床	823	14	VbC	甕	胴	白線部肥厚帯、縦溝貼付文、貼瘤		08-110(2)	
ⅨV-42	32	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	506	1	VbC	甕	胴	貼付文(虎斑)		08-237	
ⅨV-42	33	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	1652	1	VbC	甕	口	貼付文(虎斑)		08-235	
ⅨV-42	34	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	408	1	VbC	甕	口	貼付文		08-236	
ⅨV-42	35	54-1	Ⅱ-8	6号址	盛土	1038	1	VbB	小甕	口~胴	無文		08-106(1)	
ⅨV-42	36	54-1	Ⅱ-8	6号址/68f	埋土	95・749	3	VbC	甕	口	無文		08-112	
ⅨV-42	37	54-1	Ⅱ-8	6号址	床	623	8	VbC	甕	底	無文		08-110(3)	
ⅨV-43	38	54-1	Ⅱ-8	6号址/67e	床	612・614・ 619・620・ 1158	39	43	VbC	甕	口~底	縦溝貼付文 胴部に5.2列、上字部に垂下(縦文) 口径29.8cm、底径(10.9)cm、器 高23.3cm		08-7
				Ⅱ-8	6号址/67e	埋土	920	4						
ⅨV-43	39	54-1	Ⅱ-8	6号址/68e	埋土	634・666	5	6	VbB	甕	胴~底	無文、シガク /底径(9.2)cm、器高(8.3)cm		08-55
				69e	VII	2411	1							
ⅨV-43	40	54-1	Ⅱ-8	6号址	埋土	953・954	3	3	VbB	甕	底	無文 /底径(8.6)cm、器高(6.8)cm		08-56
ⅨV-43	41	54-1	Ⅱ-8	6号址/68e	柱穴	1958	1	1	VbB	ニョウブ	口~底	無文 /口径(4.1)cm、底径(3.1)cm、器高 約73%残存		08-8
ⅨV-46	1	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	床	1593	25	25	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文		08-136
ⅨV-46	2	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/71e	床	1834・1847	7	8	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯		08-137
				15号址/71e	埋土	2101	1							
ⅨV-46	3	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	床	1592・1976・ 1978	7	7	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文		08-131(3)
ⅨV-46	4	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	床	19021593	17	17	VbB	甕	胴~底	無文		08-131(2)
ⅨV-46	5	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/71e	床	1599・1636・	27	27	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文		08-133
ⅨV-46	6	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	床	1414・1735	8	8	VbB	甕	胴	刻文		08-138
ⅨV-46	7	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	1475	1	2	VbB	甕	口	白線部肥厚帯、刻文(爪形文)		08-265
				15号址	埋土	1476	1							
ⅨV-46	8	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	1701	4	4	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文(爪形文)		08-130
ⅨV-46	9	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	2088・2114	3	3	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文、炭化物多量 付着		08-135
ⅨV-46	10	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1735	5	5	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文		08-134
ⅨV-46	11	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1622	1	1	VbB	甕	口	への字形刻文		08-266
ⅨV-46	12	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1412	3	3	VbB	甕	口	白線部肥厚帯		08-132(1)
ⅨV-46	13	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	1478・1500	2							
				15号址	埋土	1499	1	5	VbB	甕	胴	無文		08-132(2)
				15号址	床	1570・1699・ 1817	4							
ⅨV-46	14	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1618	3	3	VbB	甕	口	白線部肥厚帯		08-264
ⅨV-46	15	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	2098	1	1	VbB	甕	胴	貼付帯上積み		08-263
ⅨV-47	16	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1621・1707・ 1720	12	14	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文 /口径(25.2)cm、器高(8.4)cm		08-11
				15号址	埋土	1492	2							
ⅨV-47	17	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	埋土	1700	2	10	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯 /口径18.6cm、器高(5.6)cm		08-27
				15号址/71e	床	1730・1897	6							
				15号址	床	不明	1							
				70e	VII	1395	1							
ⅨV-47	18	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	埋土	1590	6	7	VbB	甕	底	無文 /底径(9.9)cm、器高(11.2)cm		08-67
				15号址	埋土	1705	1							
ⅨV-47	19	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1418・1559	2	12	VbB	甕	胴~底	無文 /底径9.0cm、器高(14.3)cm		08-18
				15号址	埋土	1406	1							
				70e	VII	1398	9							
ⅨV-47	20	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1640・1735・ 1819	5	5	VbB	甕	底	無文 /底径(8.4)cm、器高(9.2)cm		08-68
ⅨV-47	21	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/71e	床	1847	3	3	VbB	甕	胴~底	無文 /底径8.3cm、器高(8.7)cm		08-69
ⅨV-47	22	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	埋土	1591	6	6	VbB	甕	胴~底	無文 /底径7.7cm、器高(8.1)cm		08-70
ⅨV-47	23	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址/70e	床	1598	15	15	VbB	甕	胴~底	無文 /底径8.3cm、器高(5.7)cm		08-71
ⅨV-47	24	55-1	Ⅱ-9(、10)	15号址	床	1568・1571	2	2	VbB	台付鉢?	台	胴部に十字の貫孔、上り底 /底径10cm、器高(16.2)cm		08-66
ⅨV-47	32	56-2	Ⅱ-11	21号址	埋土	1900	16	16	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文 /口径(22.8)cm、器高(16.2)cm		08-13
ⅨV-47	33	56-2	Ⅱ-11	21号址/71e	埋土	1900	15	15	VbB	甕	口~胴	への字形刻文		08-140
ⅨV-49	1	56-3	Ⅱ-12	70e	VII	360・231	15	15	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文、樹皮文		08-126(1)
ⅨV-49	2	56-3	Ⅱ-12	8号址	埋土	649	1	1	VbB	甕	口	樹皮文		08-126(2)
ⅨV-49	3	56-3	Ⅱ-12	8号址	盛土	1588	1	1	VbB	甕	口	白線部肥厚帯、刻文		08-250
ⅨV-49	4	56-3	Ⅱ-12	8号址	埋土	1338	1	1	VbB	甕	口	白線部肥厚帯、刻文		08-249
ⅨV-49	5	56-3	Ⅱ-12	8号址	埋土	755	1	1	VbB	甕	口	白線部肥厚帯		08-248
ⅨV-49	6	56-3	Ⅱ-12	8号址/72e	埋土	1344・1374	3	6	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文		08-127
				71e	攪乱	—	3							
ⅨV-49	7	56-3	Ⅱ-12	8号址/72e	埋土	219	9	9	VbB	甕	口~胴	白線部肥厚帯、刻文、縦溝貼付文		08-128
ⅨV-49	8	56-3	Ⅱ-12	8号址	埋土	344	1	1	VbB	甕	口	刻文、貼付帯(刻文)上積み		08-246
ⅨV-49	9	56-3	Ⅱ-12	8号址	埋土	1314	2	3	VbC	甕	口	縦溝貼付文、樹皮文		08-247
				Ⅱ-12	8号址	埋土	1315	1						

表M-7 2008年調査掲載土器一覧(4)

神岡 番号	掲載 番号	調査 番号	前遺構名	旧遺構名/ (発掘区)	層位	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号
ⅨV-49	10	06-3	H-12	8号址	埋土	570	12	12	Ⅷb	甕	口		08-245
ⅨV-49	11	06-3	H-12	8号址	埋土	215・445・ 508・651	6	7	Ⅷb	甕	口～底		08-9
				8号址	砂	1410	1						
ⅨV-49	12	06-3	H-12	8号址	埋土	397	8	8	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径7.4cm、器高12.8cm	08-10
ⅨV-49	13	06-3	H-12	8号址/71e	埋土	417	2	2	Ⅷb	甕	底	無文 /底径7.5cm、器高11.2cm	08-59
ⅨV-49	14	06-3	H-12	8号址	埋土	510	1	1	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径7.6cm、器高8.3cm	08-60
ⅨV-49	15	06-3	H-12	8号址/71e	盛土	1346・1355	16	16	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径7.5cm、器高8.9cm	08-61
ⅨV-49	16	06-3	H-12	8号址/72e	埋土	341	15	15	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径10.3cm、器高9.0cm	08-61
ⅨV-49	17	06-3	H-12	8号址/72e	埋土	206	6	6	Ⅷb	甕	底	無文 /底径7.7cm、器高6.0cm	08-62
ⅨV-51	1	07-1	H-13	7号址	盛土	641	10	10	Ⅷb	甕	胴	無文、朝南文	08-124
ⅨV-51	2	07-1	H-13	7号址	埋土	1600	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-236
ⅨV-51	3	07-1	H-13	7号址	壘	1848	4	4	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-242
ⅨV-51	4	07-1	H-13	7号址	床	1423	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-243
ⅨV-51	5	07-1	H-13	7号址	床	1465	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-241
ⅨV-51	6	07-1	H-13	7号址	埋土	325	2	3	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-125
				7号址	葦土埋土	—	—						
ⅨV-51	7	07-1	H-13	7号址	埋土	1601	1	1	Ⅷc	小型甕	口	口縁部肥厚部(段)、肩文、編織貼付文	08-240
ⅨV-51	8	07-1	H-13	7号址/73e	床	1426	3	3	Ⅷc	甕	口～胴	口縁部肥厚部、貼付帯上連続指頭押捺	08-1233
ⅨV-51	9	07-1	H-13	7号址/73e	床	1512・1513	4	4	Ⅷc	甕	口～胴	口縁部肥厚部、貼付帯上連続指頭押捺	08-1232a
ⅨV-51	10	07-1	H-13	7号址	床	1515	1	1	Ⅷb	甕	胴	貼付帯上連続指頭押捺	08-244
ⅨV-51	11	07-1	H-13	7号址	埋土	455・461・ 600	3	3	Ⅷb	甕	底	無文 /底径8.7cm、器高10.6cm	08-58
ⅨV-51	12	07-1	H-13	7号址	埋土	1580	12	12	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径7.6cm、器高13cm	08-57
ⅨV-53	1	07-2	H-14	9号址	宇織上	2007	3	3	Ⅷb	小型甕	胴	編織貼付文、縄文	08-254
ⅨV-53	2	07-2	H-14	9号址	床	939	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-251
ⅨV-53	3	07-2	H-14	9号址	床	1152	2	2	Ⅷb	甕	胴	無文	08-252
ⅨV-53	4	07-2	H-14	9号址	埋土	1667	1	1	Ⅷb	甕	底	無文	08-253
ⅨV-54	1	07-3	GP-1	1号址/55e	覆土	39	1	1	Ⅷb	甕	口～底	口縁部肥厚部、無文、灰化物多量 /口径11.0cm、底径5.3cm、器高12.9cm	約95%残存
ⅨV-55	1	07-3	PS-2	17号址	盛土	2347	6	6	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-262
ⅨV-55	2	07-3	PS-2	17号址	K	—	2	2	Ⅷc	甕	口	編織貼付文	08-261
ⅨV-55	3	07-3	PS-2	17号址	盛土	2340・2349・ 2354・2355	16	22	Ⅷb	甕	口～胴	貼付帯肥厚部、無文、貼付帯上筋 み、灰化物多量付着 /口径13.5cm、器高11.2cm	08-14
				22号址	埋土	2280	5						
				69e	Ⅷ	2360	1						
ⅨV-55	4	07-3	PS-2	17号址	埋土	1688	4	8	Ⅷb	甕	口～胴	口縁部肥厚部、編織貼付文、への 字状無文 /口径22.0cm、器高12.3cm	08-12
				17号址	覆土	—	2						
ⅨV-58	1	07-3	SP-1	13号址	砂	1321	1	1	Ⅷb	甕	口	朝突列	08-267
ⅨV-58	2	07-3	SP-1	13号址	砂	1321	1	8	Ⅷb	甕	底	無文	08-65
ⅨV-58	3	07-3	SP-1	13号址	埋土	—	7	7	Ⅷb	甕	口～胴	底径6.7cm、器高6.5cm	08-143
ⅨV-58	4	07-3	F-1	22号址	埋土	2283	43	43	Ⅷb3	甕	口～胴	口縁部肥厚部、無文	08-142
ⅨV-58	5	07-3	F-1	22号址	砂	1991	14	14	Ⅷb3	甕	胴	貼付帯上筋み	08-141c
ⅨV-58	6	07-3	F-1	22号址	砂	1128	1	1	Ⅷb3	甕	胴	貼付帯上筋み	08-141d
ⅨV-58	7	07-3	F-1	22号址	砂	1989・2000	8	8	Ⅷb3	甕	胴	貼付帯上筋み	08-14111
ⅨV-58	8	07-3	F-1	22号址	砂	1995	8	8	Ⅷb	甕	胴～底	無文 /底径3.3cm、器高9.5cm	08-74
ⅨV-58	9	07-3	F-2	11号址	砂	843	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-255
ⅨV-58	9	07-3	F-2	11号址	砂	843	6	6	Ⅷb	甕	胴	貼付帯(皮状押捺)	08-256
ⅨV-58	10	07-3	F-3	12号址	砂	912	1	1	Ⅷb	甕	口	口縁部肥厚部、無文	08-269
ⅨV-58	11	07-3	F-3	12号址	砂	1301	1	1	Ⅷb	甕	胴	貼付帯上筋み	08-268
ⅨV-59	1	08-1		130～135 ツイン村近	Ⅷ埋 礎上	3220・3221・ 3446	5	5	Ⅳb	西鉢	口	口縁部無文部、横走区両隅、L状 縄文、編織付	08-26
ⅨV-59	2	08-1		(137付近)	Ⅷ埋礎上	3384・3385・ 3386・3441	4	4	Ⅳb	西鉢	口～胴	縄文、曲線帯状文(磨消縄文)、 乱縄文	08-1691c
ⅨV-59	3	08-1		(137付近)	Ⅷ埋礎上	3439	1	1	Ⅳb	西鉢	口	縄文、曲線帯状文(磨消縄文)、 乱縄文	08-1692a
ⅨV-59	4	08-1		137c	Ⅷ埋	3086	1	1	Ⅳb	西鉢	胴	縄文、曲線帯状文(磨消縄文)、 乱縄文	08-1693c
ⅨV-59	5	08-1		136c	Ⅷ埋	3065	1	1	Ⅳb	小型鉢	口	縄文、突輪、細文縄、L状縄文	08-313
ⅨV-59	6	08-1		136c	Ⅷ埋	3065	1	1	Ⅳb	小型鉢	口	縄文、突輪、細文縄、L状縄文	08-314
ⅨV-59	7	08-1		136c	Ⅷ埋	3154	1	1	Ⅳc	西鉢	口	突輪、斜状縄文	08-312
ⅨV-59	8	08-1		98d	Ⅷ埋	3249	2	2	Vc	西鉢	口	口唇筋み、沈線	08-311
ⅨV-59	9	08-1		107c	Ⅷ埋	2903	7	7	V1b	西鉢	口～胴	突起、突輪、編織貼付文、編織刷 文、縄文	08-161
ⅨV-59	10	08-1		107c	Ⅷ埋	2902	1	1	V1b	西鉢	胴	編織貼付文、縄文	08-307
ⅨV-59	11	08-1		105c	Ⅷ埋	2743	2	3	V1b	西鉢	胴	編織貼付文、縄文	08-306
				105c	Ⅷ埋	2873	1						

表M-8 2008年調査掘載土器一覽(5)

神岡 番号	掲載 番号	写真 番号	新遺構名	旧遺構名/ (発掘区)	層位	遺物%	点数 破片計	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号
ⅢV-59	12	58-1		101c?	V	2301	1 2	Vb1	深鉢	口~胴	突起、突起、編織貼付文(横位・横位・横位)、編織刺突、編織、縄文(外・口唇)		08-160
				111c	擾乱	—	1						
ⅢV-59	13	58-1		106c	Ⅲ上	2380	4 4	Vb1	深鉢	口~胴	突起、編織貼付文、縄織刺突、縄織、縄文(外・口唇)		08-162a
ⅢV-59	14	58-1		108c	Ⅲ	2312	6 6	Vb2	深鉢	口~胴	突起、貼刺、縄織刺突、縄織、縄織刺突、縄文(外・口唇)		08-163
ⅢV-59	15	58-1		116b	V上	2664	1 1	Vb1	深鉢	口	突起、縄織、縄文(外・口唇)		08-309
ⅢV-59	16	58-1		106d	擾乱	—	1 3	Vb1	深鉢	口~胴	突起、貼刺、縄織、縄織刺突、縄文(外・口唇)		08-164
				107c	擾乱	—	2						
ⅢV-60	17	58-1		108c	Ⅲ	2312	7 7	Vb1	深鉢	口~胴	突起、口唇縄織文、突起、縄織、縄織刺突、縄文		08-165
ⅢV-60	18	58-1		107c	Ⅲ	2903	2 2	Vb1	深鉢	口	突起、縄文(外・口唇)		08-308
ⅢV-60	19	58-1		106c	Ⅲ	2983	1 1	Vb1	深鉢	突起	突起、突起、編織貼付文、縄織(把手上・外)、縄文(外・内面)		08-315
ⅢV-60	20	58-1		106c	Ⅲ	2722	15 15	Vb1	小型壺	全	2×2単位突起、把手、突起、編織貼付文(横位・斜位)、縄織(口唇・把手上・外)、縄織刺突(或は面付)及び口唇(両縁・外)、縄文(口唇/口径12.3cm、底径6.4cm、器高12.3cm)	約100%残存	08-24
ⅢV-60	21	58-1		106c	V	2186	1 1	Vb2	深鉢	突起	突起、縄織起線、縄織		08-316
ⅢV-60	22	58-1		103c	V	2062	1 1	Vb2	深鉢	口	突起、編織貼付文(横位・横位)、縄織、縄織刺突、縄文(外・内面口唇)		08-317
ⅢV-60	23	58-1		97d	V	2076	1 1	Vb2	深鉢	口	突起、編織貼付文、縄織、縄文		08-305
ⅢV-60	24	58-1		97d	擾乱	—	2 2	Vb2	深鉢	口	突起、縄織起線、編織貼付文、縄織、縄文	08-158d	
ⅢV-60	25	58-1		97d	V	2081	2 2	Vb2	深鉢	胴	縄織起線、編織貼付文、縄織、縄文	08-158e	
ⅢV-60	26	58-1		115c	V	2400	10 10	Vb2	深鉢	口~胴	突起、縄織起線(横位・横位・横位・横位)、縄織、縄文(外・内面口唇)、横刺孔		08-157
ⅢV-60	27	58-1		115c	V	2599	1 1	Vb2	深鉢	口	縄織起線、縄織、縄文(外・内面口唇)、横刺孔		08-304
ⅢV-60	28	58-1		108c	擾乱	—	3 3	Vb2	深鉢	口	編織貼付文、縄織、縄文、内面図化物多量付着		08-303
ⅢV-60	29	58-1		41f	Ⅲ	1935	6 6	Vc	深鉢	胴~底	縄文		08-154
ⅢV-60	30	58-1		33f	Ⅲ	5	1 1	Vc	深鉢	胴~底	縄文(底径7.8cm、器高6.7cm)		08-81
ⅢV-60	31	58-1		107c	Ⅲ	2943	8 8	Vc	深鉢	底	縄文(底径8.0cm、器高9.9cm)		08-83
ⅢV-60	32	58-1		112c	Ⅲ	2454	1 1	Vb	小型壺	胴~底	編織貼付文、縄文		08-802a
ⅢV-60	33	58-1		112c	V	2195	2 2	Vc	小型壺	胴~底	編織貼付文、縄織、縄文		08-802b
ⅢV-60	34	58-1		112c	V	2396	1 1	Vb	小型壺	胴~底	編織貼付文、縄文、底面縄織刺突(底径13.3cm、器高14.7cm)		08-80
ⅢV-60	35	58-1		103c	Ⅲ	2954	4 4	Vc	小型深鉢	口~胴	突起・貫通孔、縄織(口唇上・外)、縄文		08-166
ⅢV-61	36	59-1		59e	Ⅲ	15・17・18・19・20・47	12 12	Vc	注口	注口	注口、口唇上・外、編織貼付文、縄織、三角列点、帯縄文	縄織起線・口唇化粧粘土	08-19
ⅢV-61	37	59-1		54e	擾乱	—	21 24	Vc	深鉢	口~胴	突起、口唇加ふ、編織貼付文、縄織起線(帯文あり)、三角列点、帯縄文		08-153
				54f	Ⅲ	1202・1203・1304	3						
ⅢV-61	38	59-1		113c	Ⅲ	2476	1 1	Vc	深鉢	口~胴	編織貼付文、縄織起線、三角列点、帯縄文		08-299
ⅢV-61	39	59-1		54e	Ⅲ	1207	1 1	Vc	深鉢	胴~底	縄織起線、三角列点、帯縄文		08-301
ⅢV-61	40	59-1		128b	V	3071	3 3	Vc	深鉢	口	編織貼付文、縄織起線、帯縄文		08-155
ⅢV-61	41	59-1		115c	V	2327	1 1	Vc	深鉢	口~胴	編織貼付文、縄織起線、列点、帯縄文、図化物多量付着		08-302
ⅢV-61	42	59-1		107c	擾乱	—	1 1	Vc	深鉢	口	口唇加ふ、編織貼付文、三角列点、帯縄文		08-300
ⅢV-61	43	59-1		114c	Ⅲ	2398	2 2	Vc	深鉢	口~胴	編織貼付文、三角列点、帯縄文		08-298
ⅢV-61	44	59-1		99d	V	2028・2030	3 3	Vc	深鉢	口~胴	編織貼付文、三角列点、帯縄文		08-136
ⅢV-61	45	59-1		102c	V	2042・2044・2046・2049・2052・2053・2054・2055・2059	38 54	Vc	壺	口~胴	口唇加ふ、編織貼付文(口径13.2cm、器高23.6cm)		08-20
				102c	V	2044・2046	8						
				102c	V	2046・2228	2						
				102c	V	2046・2840	2						
ⅢV-61	46	59-1		112c	Ⅲ	2391	7 7	Vc	深鉢	底	帯縄文(底径17.9cm、器高7.4cm)		08-85
ⅢV-61	47	59-1		116c	Ⅲ	2729	4 4	Vc	深鉢	底	帯外帯縄文(底径7.3cm、器高6.3cm)		08-84
ⅢV-61	48	59-1		49f	Ⅲ	10	5 5	Vc	小型深鉢	底	底径5.5cm、器高4.8cm)		08-82
ⅢV-61	49	59-1		107c	V	2249	1 1	Vc	小型深鉢	胴~底	帯縄文(底径3.7cm、器高6.5cm)		08-79
ⅢV-62	50	59-1		70e	Ⅲ	715	4 4	Vb	壺	口~胴	口縁部肥厚部、刻文、帯縄文		08-150
ⅢV-62	51	59-1		63e	Ⅲ	29	11 11	Vb	壺	口~胴	口縁部肥厚部、刻文		08-147
ⅢV-62	52	59-1		89d	泥炭	1541	9 9	Vb	壺	口~胴	口縁部肥厚部、刻文、図化物多量付着		08-151
ⅢV-62	53	59-1		68e	Ⅲ	2344	5 5	Vb	壺	口~胴	口縁部肥厚部、刻文		08-148
ⅢV-62	54	59-1		64e	Ⅲ	2365	1 1	Vb	壺	口	口縁部肥厚部、刻文		08-284
ⅢV-62	55	59-1		70e	Ⅲ	1283	1 1	Vb	壺	口	口縁部肥厚部、刻文(爪形文)		08-297
ⅢV-62	56	59-1		71e	Ⅲ	1371	1 1	Vb	壺	口	口縁部肥厚部、刻文(爪形文)		08-296

表M-9 2008年調査掲載土器一覧(6)

検出番号	掲載番号	写真掲載番号	新遺構名	旧遺構名(発掘区)	層位	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	図体番号
ⅨV-62	57	59-1	71e	ⅨV	1802	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文(爪形文)		08-265
ⅨV-62	58	59-1	80e	ⅨV	1311	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文(爪形文)		08-292
ⅨV-62	59	59-1	70e	ⅨV	514	3	3	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文		08-293
ⅨV-62	60	59-1	71e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文		08-294
ⅨV-62	61	59-1	69e	ⅨV	519	4	4	ⅨVb	甕	口~胴	口縁部肥厚帯、刻文		08-149
			70e	ⅨV	566	4	4	ⅨVb	甕	口~胴	口縁部肥厚帯、刻文		
ⅨV-62	62	59-1	69e	ⅨV	1170	1	2	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文		08-291
			69e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文		
ⅨV-62	63	59-1	67e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	胴	刻文		08-287
ⅨV-62	64	59-1	68e	ⅨV	66	4	4	ⅨVb	甕	胴	刻文		08-288
ⅨV-62	65	59-1	67e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文、ハの字形刻文		08-285
ⅨV-62	66	59-1	67e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	口	口縁部肥厚帯、刻文、ハの字形刻文		08-286
ⅨV-62	67	59-1	71e	ⅨV	1391	4	4	ⅨVb	甕	口~胴	口縁部肥厚帯、刻文、貼付文		08-152
ⅨV-62	68	59-1	69e	ⅨV	81	1	3	ⅨVb	甕	胴	貼付帯上刻み		08-290
			69e	ⅨV	160	2	2	ⅨVb	甕	胴	貼付帯上刻み		
ⅨV-62	69	59-1	69e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	胴	貼付帯上刻み		08-288
ⅨV-62	70	60-1	70e	ⅨV	184+411+1227+1261	6	6	ⅨVb	甕	口~胴	刻文、筋溝文 口径(14.0)cm、器高(12.4)cm		08-17
ⅨV-62	71	60-1	69e	ⅨV	768+810+875	8	8	ⅨVc	甕	口~胴	縦溝、貼付文/口径15.2cm、器高(7.3)cm		08-16
ⅨV-62	72	60-1	69e	ⅨV	82+812	38	38	ⅨVb	甕	口~胴	口縁部肥厚帯、刻文 口径19.8cm、器高(18.5)cm		08-15
ⅨV-62	73	60-1	70e	ⅨV	1393	2	2	ⅨVb	甕	底	無文 底径18.0cm、器高(6.4)cm		08-77
ⅨV-62	74	60-1	69e	ⅨV	245+721+722	3	4	ⅨVb	甕	底	無文 底径(7.4)cm、器高(6.5)cm		08-76
			69e	ⅨV	—	1	1	ⅨVb	甕	底	無文 底径7.4cm、器高(6.5)cm		
ⅨV-62	75	60-1	70e	ⅨV	171+184+225	10	10	ⅨVb	甕	底	無文 底径7.4cm、器高(6.9)cm		08-63

表M-10 2008年調査掲載石器一覧(1)

検出番号	掲載番号	写真掲載番号	新遺構名	旧遺構名(発掘区)	層位	遺物%	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	発掘区分	備考	図体番号
ⅨV-7	5	50-1	11-15	37号址/97d	ⅨV	2963	ナイフ	黒曜石	(4.5)	(3.7)	(0.9)	(11.7)	20		71
ⅨV-7	6	50-1	11-15	37号址/97d	ⅨV	2965	ナイフ	黒曜石	3.0	2.8	0.6	3.9	08		72
ⅨV-7	7	50-1	11-15	37号址/97d	ⅨV	2968	ナイフ	黒曜石	5.7	2.3	0.6	6.8	05		73
ⅨV-7	8	50-1	11-15	37号址/96d	ⅨV	2936	ナイフ	黒曜石	(3.4)	(3.1)	0.7	(6.2)	10		70
ⅨV-9	5	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	3252	石鏃	黒曜石	(3.0)	2.2	0.3	(2.7)	14		81
ⅨV-9	6	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	3430	ナイフ	黒曜石	(4.7)	2.5	0.8	(5.6)	13		84
ⅨV-9	7	50-2	11-17	51号址	—	—	スクレイパー	黒曜石	4.9	3.9	1.5	20.9	10		87
ⅨV-9	8	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	—	スクレイパー	黒曜石	(8.0)	5.1	1.2	(46.7)			86
ⅨV-9	9	50-2	11-17	51号址	—	—	スクレイパー	黒曜石	6.0	5.4	0.7	17.9			88
ⅨV-9	10	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	3300	石フレイク	黒曜石	5.8	3.9	0.6	9.9	15		82
ⅨV-9	11	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	3337	石フレイク	黒曜石	6.7	3.4	1.0	13.3	15		83
ⅨV-9	12	50-2	11-17	51号址/99d	ⅨV	—	石フレイク	黒曜石	(4.3)	2.9	0.6	(5.6)			85
ⅨV-9	13	50-2	11-17	51号址	ⅨV	3416	石鏃	安山岩	19.1	5.5	4.5	448.0			80
ⅨV-11	5	50-3	11-16	25号址/99d	ⅨV	2914	ナイフ	黒曜石	(4.5)	(3.3)	1.3	17.2	20		54
ⅨV-11	6	50-3	11-16	25号址/99d	ⅨV	3206	スクレイパー	黒曜石	3.1	2.8	0.7	4.3	04		58
ⅨV-11	7	50-3	11-16	25号址/99d	ⅨV	3109	石フレイク	黒曜石	5.1	2.3	1.9	16.3			57
ⅨV-11	8	50-3	11-16	25号址/99d	ⅨV	3009	石フレイク	黒曜石	(4.8)	(4.0)	0.8	(8.1)			56
ⅨV-11	9	50-3	11-16	25号址/99d	ⅨV	3008	石フレイク	黒曜石	(3.3)	(1.8)	(0.7)	(2.6)			55
ⅨV-12	2	50-4	11-18	24号址/100c	ⅨV	2216	石鏃	黒曜石	(1.6)	(1.2)	(0.3)	(0.5)	20		52
ⅨV-12	3	50-4	11-18	24号址/100c	ⅨV	2218	石鏃	黒曜石	5.7	3.5	1.5	28.7	20		53
ⅨV-15	2	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.1	1.2	0.2	0.6	0	石鏃群5	171
ⅨV-15	3	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	1.9	1.2	0.2	0.3	0	石鏃群11	172
ⅨV-15	4	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.3	1.2	0.3	0.6	0	石鏃群2	168
ⅨV-15	5	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.4	1.3	0.2	0.6	0	石鏃群8	174
ⅨV-15	6	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.4	1.4	0.3	0.7	0	石鏃群7	175
ⅨV-15	7	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.5	1.1	0.2	0.6	0	石鏃群10	176
ⅨV-15	8	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.6	1.3	0.3	0.8	0	石鏃群3	169
ⅨV-15	9	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.8	1.3	0.3	0.9	0	石鏃群7	173
ⅨV-15	10	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.7	1.3	0.3	0.8	0	石鏃群6	172
ⅨV-15	11	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.9	1.2	0.3	0.7	0	石鏃群13	179
ⅨV-15	12	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	2.9	1.3	0.3	1.0	0	石鏃群1	167
ⅨV-15	13	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	3.0	1.3	0.3	0.9	0	石鏃群10	170
ⅨV-15	14	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3286	石鏃	黒曜石	3.0	1.3	0.2	0.8	0	石鏃群12	178
ⅨV-15	15	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3289	ナイフ	メノウ	5.6	4.5	0.9	23.5			180
ⅨV-15	16	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3280	ナイフ	黒曜石	10.0	3.3	0.9	35.1			181
ⅨV-15	17	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3272	石鏃	黒曜石	10.6	8.5	1.9	151.8			183
ⅨV-15	18	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3287	石鏃	青灰色片岩	7.4	4.5	1.8	85.4			182
ⅨV-15	19	51-1	GP-3	44号址/98d	ⅨV	3658	鏃	安山岩	33.7	17.1	11.3	9000		ペン・ガラス付着	160
ⅨV-17	1	51-2	P-3	27号址/102c	ⅨV	2962	縦形石器	メノウ	5.3	5.2	1.5	46.8			62
ⅨV-17	2	51-2	P-3	27号址/102c	ⅨV	2637	縦石	安山岩	20.9	6.8	5.7	1300			159
ⅨV-17	3	51-2	P-4	26号址/103c	ⅨV	2638	石鏃	黒曜石	(2.7)	1.0	0.3	(0.6)	20		61

表M-11 2008年調査掲載石器一覧(2)

神岡番号	掲載番号	写真図版番号	新調構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	産地 分析	備考	実測 番号
ⅢV-17	4	51-2	P-4	26号址/103c	床	2316	石フレイク	黒曜石	3.2	1.9	0.7	2.9	⑤		60
ⅢV-17	5	51-2	P-4	26号址/103c	埋土	2297	石フレイク	黒曜石	4.2	3.9	0.4	6.6			59
ⅢV-18	3	51-3	P-5	28号址/105c	床	2721	ナイフ	黒曜石	5.1	3.0	1.0	12.3	⑥		65
ⅢV-18	4	51-3	P-5	28号址/105c	床	2673	石フレイク	安山岩	(4.8)	3.5	0.6	(9.7)			63
ⅢV-18	5	51-3	P-5	28号址/105c	床	2691	石フレイク	黒曜石	3.7	4.5	1.7	25.7	⑦		64
ⅢV-18	6	51-3	P-5	28号址	床	2623	鏃	安山岩	12.6	8.1	4.7	674.9		ベンガラ付着	63
ⅢV-20	1	51-4	PS-5	37号址/96d	敷石下	2844	ナイフ	黒曜石	(3.1)	(3.0)	(0.7)	(5.8)	⑧		69
ⅢV-20	2	51-4	PS-7	23号址/97d	床	2932	石鏃	黒曜石	(2.4)	(1.3)	(0.3)	(1.1)	⑨		51
ⅢV-21	3	51-4	PS-7	23号址/98d	敷石中	2866	ナイフ	黒曜石	(5.5)	(3.0)	(1.1)	(22.8)			50
ⅢV-23	4	51-4	PS-10	49号址/98d	埋土	3138	ナイフ	黒曜石	(2.8)	(3.1)	(0.8)	(7.1)	⑩		77
ⅢV-23	5	51-4	PS-10	49号址/98d	埋土	3231	スクレイパー	黒曜石	(2.9)	(3.4)	0.4	(3.0)	⑪		78
ⅢV-24	2	51-4	PS-11	46号址/99d	床	3200	石鏃	黒曜石	3.9	1.1	0.4	1.7	⑫		76
ⅢV-24	3	51-4	PS-11	46号址/99d	埋土	3054	スクレイパー	黒曜石	(2.5)	2.2	0.7	(3.6)			75
ⅢV-25	2	51-4	PS-12	50号址/99d	埋土	3187	石鏃	黒曜石	2.2	1.2	0.3	0.5	⑬		79
ⅢV-25	3	51-4	PS-12	50号址/99d	埋土	3207	石フレイク	黒曜石	4.2	2.3	0.7	5.1	⑭		80
ⅢV-25	4	51-4	PS-13	45号址/66c	埋土	193	石鏃	続貫貫路	(2.2)	1.0	0.4	(0.8)			74
ⅢV-26	3	52-1	PS-14	31号址/108c	埋土	2566	スクレイパー	続貫貫路	(3.3)	(1.6)	1.0	(4.7)			66
ⅢV-26	4	52-1	PS-14	31号址/109c	敷石内	2706	石核	黒曜石	3.7	3.1	1.5	16.2	⑮		67
ⅢV-26	5	52-2	PS-15	35号址/109c	床	2713	スクレイパー	黒曜石	3.6	3.1	0.9	7.1	⑯		68
ⅢV-30	1	52-2	R-1	29号址/106c	Ⅷ	3055	鏃	安山岩	12.7	5.8	2.9	288.1		ベンガラ付着	63
ⅢV-30	2	52-2	R-1	29号址/106c	Ⅷ	3056	鏃	安山岩	11.5	5.2	3.1	281.9		ベンガラ付着	63
ⅢV-30	3	52-2	R-1	29号址/106c	Ⅷ	2982	サリ石	安山岩	25.0	25.7	9.1	9200		ベンガラ付着	162
ⅢV-39	31	53-1	H-7	5号址	層乱		石鏃	続貫貫路	2.6	1.3	0.5	0.8			18
ⅢV-39	32	53-1	H-7	5号址/66c	埋土	195	石鏃	安山岩	2.7	1.4	0.5	1.1			8
ⅢV-39	33	53-1	H-7	5号址/66c	床	1073	石鏃	続貫貫路	3.1	1.1	0.4	1.2			15
ⅢV-39	34	53-1	H-7	5号址/66c	床	1018	石鏃	続貫貫路	3.2	1.4	0.4	1.3			14
ⅢV-39	35	53-1	H-7	5号址/66c	床	975	石鏃	安山岩	3.9	1.2	0.5	1.3			12
ⅢV-39	36	53-1	H-7	5号址/66c	床	1810	石鏃	黒曜石	2.7	1.3	0.4	1.0	⑰		11
ⅢV-39	37	53-1	H-7	5号址/66c	床	974	石鏃	続貫貫路	(2.7)	1.1	0.4	(0.8)			11
ⅢV-39	38	53-1	H-7	5号址/66c	床	1716	石鏃	黒曜石	(3.0)	1.4	0.4	(1.4)	⑱		16
ⅢV-39	39	53-1	H-7	5号址/66c	埋土	629	石鏃	黒曜石	(2.6)	1.5	0.4	(1.1)			10
ⅢV-39	40	53-1	H-7	5号址/66c	埋土	982	スクレイパー	黒曜石	4.8	3.3	1.2	16.2			13
ⅢV-39	41	53-1	H-7	5号址	層乱		スクレイパー	黒曜石	7.7	4.0	1.2	20.0			19
ⅢV-39	42	53-1	H-7	5号址/66c	埋土	384	石フレイク	黒曜石	(3.1)	(2.5)	(0.6)	(4.6)			9
ⅢV-43	42	54-1	H-8	6号址/68c	埋土	100	石鏃	黒曜石	3.0	1.1	0.4	1.3			21
ⅢV-43	43	54-1	H-8	6号址/68c	埋土	430	石鏃	黒曜石	33	1.1	0.3	1.1			24
ⅢV-43	44	54-1	H-8	6号址/68c	床	1658	石鏃	黒曜石	3.4	1.2	0.4	1.6	⑲		30
ⅢV-43	45	54-1	H-8	6号址/67e	埋土	305	石鏃	黒曜石	4.5	1.1	0.4	1.9			23
ⅢV-43	46	54-1	H-8	6号址/68c	床	1843	石鏃	黒曜石	2.2	1.2	0.4	0.7	⑳		33
ⅢV-43	47	54-1	H-8	6号址/68c	埋土	106	石鏃	黒曜石	(1.4)	(1.2)	(0.4)	(0.8)			20
ⅢV-43	48	54-1	H-8	6号址/67e	埋土	1711	石鏃	黒曜石	(2.0)	1.5	0.4	(0.9)	㉑		31
ⅢV-43	49	54-1	H-8	6号址/68c	埋土	534	石鏃	黒曜石	(3.8)	1.5	(0.4)	(2.2)			25
ⅢV-43	50	54-1	H-8	6号址/68c	露土	1035	石鏃	黒曜石	(1.9)	(1.6)	(0.4)	(1.7)			27
ⅢV-43	51	54-1	H-8	6号址/67e	埋土	111	石鏃	黒曜石	(2.0)	2.0	0.5	(2.0)			22
ⅢV-43	52	54-1	H-8	6号址/67e	床	1123	ナイフ	黒曜石	4.9	3.5	1.3	13.6	㉒		29
ⅢV-43	53	54-1	H-8	6号址/67e	柱穴	1833	スクレイパー	黒曜石	(2.8)	(4.2)	(0.7)	(6.7)	㉓		32
ⅢV-43	54	54-1	H-8	6号址/677	埋土	965	スクレイパー	黒曜石	(4.6)	3.5	0.8	(11.3)			26
ⅢV-43	55	54-1	H-8	6号址/67e	埋土	1122	石フレイク	黒曜石	(4.6)	2.6	0.7	5.8	㉔		28
ⅢV-43	56	54-1	H-8	6号址	埋土	1726	石斧	砂岩	(16.4)	6.3	4.0	963.5			165
ⅢV-43	57	54-1	H-8	6号址/68c	床	1888	くぼみ石	安山岩	22.5	16.4	3.9	1116.9			149
ⅢV-47	25	56-1	H-9	15号址/71e	柱穴	1895	石鏃	続貫貫路	1.8	0.8	0.3	0.4			49
ⅢV-47	26	56-1	H-9	15号址/71e	床	1617	石鏃	続貫貫路	2.7	0.9	0.3	0.5			44
ⅢV-47	27	56-1	H-9	15号址/71e	床	1758	石鏃	黒曜石	(2.9)	1.3	0.3	(0.8)	㉕		46
ⅢV-47	28	56-1	H-9	15号址/71e	床	1561	石鏃	続貫貫路	(3.1)	1.1	0.3	(1.0)			43
ⅢV-47	29	56-1	H-9	15号址/71e	床	1818	スクレイパー	黒曜石	3.7	3.7	1.7	6.5	㉖		48
ⅢV-47	30	56-1	H-9	15号址/70e	床	1767	スクレイパー	黒曜石	5.6	6.3	1.7	49.3	㉗		47
ⅢV-47	31	56-1	H-9	15号址/70e	床	1635	石フレイク	黒曜石	3.7	3.5	1.2	13.1	㉘		45
ⅢV-49	18	56-3	H-12	8号址/72e	卵	1382	石鏃	黒曜石	3.4	1.4	0.4	1.3	㉙		39
ⅢV-49	19	56-3	H-12	8号址/71e	露土	1318	スクレイパー	黒曜石	4.2	5.4	1.4	27.7			38
ⅢV-49	20	56-3	H-12	8号址/72e	床	763	磨石	安山岩	22.5	14.7	10.7	4400			166
ⅢV-49	21	56-3	H-12	8号址/72e	床	764	磨石	安山岩	33.2	16.7	10.3	9300			164
ⅢV-49	22	56-3	H-12	8号址/72e	床	762	くぼみ石	安山岩	26.3	12.6	9.1	4400			163
ⅢV-51	13	57-1	H-13	7号址/73e	床	745	石鏃	黒曜石	3.5	1.7	0.4	1.6	㉚		34
ⅢV-51	14	57-1	H-13	7号址/74e	壁	1676	石鏃	黒曜石	3.5	1.9	0.3	1.5			37
ⅢV-51	15	57-1	H-13	7号址/73e	埋土	1605	石鏃	黒曜石	(2.6)	2.0	0.5	(2.3)			36
ⅢV-51	16	57-1	H-13	7号址/73e	埋土	792	石鏃	黒曜石	(2.3)	1.1	0.3	(0.7)	㉛		35
ⅢV-53	5	57-2	H-14	9号址/75e	床	1865	石鏃	黒曜石	3.0	1.8	0.4	1.7	㉜		42
ⅢV-53	6	57-2	H-14	9号址/75e	埋土	789	石鏃	黒曜石	(1.4)	(0.6)	(0.1)	(0.1)			40
ⅢV-53	7	57-2	H-14	9号址/75e	床	824	ナイフ	黒曜石	(4.0)	(2.6)	(0.8)	(9.0)	㉝		41
ⅢV-54	2	57-3	GP-1	1号址/55e	露土	37	石鏃	続貫貫路	2.3	1.2	0.4	0.9			5
ⅢV-54	3	57-3	GP-1	1号址/55e	露土	34	石鏃	続貫貫路	(2.4)	1.1	0.3	(0.7)			2
ⅢV-54	4	57-3	GP-1	1号址/55e	露土	33	石鏃	黒曜石	2.8	1.2	0.3	0.8	㉞		1

表N-12 2008年調査掲載石器一覧(3)

検出番号	掲載番号	写真図版番号	新遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	産地分析	備考	実測番号
ⅢV-54	5	57-3	GP-1	1号址/50e	覆土	35	石鏃	黒曜石	2.8	1.3	0.3	0.8	(1)		3
ⅢV-54	6	57-3	GP-1	1号址/50e	覆土	36	石鏃	経質頁岩	2.3	0.9	0.3	0.5			4
ⅢV-54	7	57-3	GP-1	1号址/35e	覆土	38	石鏃	経質頁岩	(2.9)	1.1	0.4	0.30			6
ⅢV-58	12	32-3	GP-1	1号址/35e	砂	915	石鏃	黒曜石	4.9	8.3	4.4	178.5			
ⅢV-63	1	60-2	F-3	12号址	Ⅷ	3008	石鏃	黒曜石	1.8	1.5	0.3	0.5			132
ⅢV-63	2	60-2		98d	Ⅷ	2968	石鏃	黒曜石	2.5	1.9	0.3	1.0			121
ⅢV-63	3	60-2		97d	V	2990	石鏃	黒曜石	3.2	1.7	0.4	1.6			90
ⅢV-63	4	60-2		98d	V	3357	石鏃	黒曜石	(1.3)	(1.3)	(0.3)	(0.5)			138
ⅢV-63	5	60-2		105c	V	2783	石鏃	黒曜石	(1.5)	1.7	0.3	(0.7)			127
ⅢV-63	6	60-2		99d	V	2023	石鏃	黒曜石	2.0	1.1	0.3	0.5			89
ⅢV-63	7	60-2		137c	V	3087	石鏃	黒曜石	(1.9)	1.2	0.3	(0.5)	硝		155
ⅢV-63	8	60-2		111c	V	2304	石鏃	黒曜石	(2.3)	1.4	0.4	(0.9)			95
ⅢV-63	9	60-2		98d	V	3313	石鏃	黒曜石	3.0	1.3	0.4	1.1			136
ⅢV-63	10	60-2		110c	V	2631	石鏃	黒曜石	(4.8)	1.7	0.7	(4.0)			119
ⅢV-63	11	60-2		101c	V	2148	石鏃	黒曜石	(5.1)	2.0	0.5	(4.0)			91
ⅢV-63	12	60-2		103c	V	2423	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.1)	(0.2)	(0.3)			97
ⅢV-63	13	60-2		98d	V	3015	石鏃	黒曜石	4.7	2.0	0.5	3.9			123
ⅢV-63	14	60-2		110c	V	2322	石鏃	黒曜石	6.7	3.0	1.0	19.3			96
ⅢV-63	15	60-2		112c	V	2393	石鏃	黒曜石	4.3	2.7	1.0	9.2			114
ⅢV-63	16	60-2		96d	Ⅵ	2083	ナイフ	黒曜石	5.0	2.1	0.6	5.9			103
ⅢV-63	17	60-2		102c	V	2789	ナイフ	黒曜石	(5.3)	1.9	0.8	(8.2)			128
ⅢV-63	18	60-2		97d	V	3092	ナイフ	黒曜石	(4.6)	(3.0)	0.6	(4.6)			134
ⅢV-63	19	60-2		100d	V	3191	ナイフ	黒曜石	3.9	3.7	0.8	7.6			135
ⅢV-63	20	60-2		98d	V	3391	ナイフ	黒曜石	3.8	2.1	0.6	3.9			140
ⅢV-63	21	60-2		104c	V	2167	ナイフ	黒曜石	4.5	3.7	1.2	16.7			92
ⅢV-63	22	60-2		107c	Ⅵ	2318	ナイフ	黒曜石	7.9	3.0	0.9	17.1			105
ⅢV-63	23	60-2		98d	V	3356	ナイフ	黒曜石	(2.0)	(2.2)	(0.3)	(1.0)			157
ⅢV-63	24	60-2		105c	V	2790	ナイフ	チャート	3.1	3.0	1.2	11.0		墓部?	138
ⅢV-63	25	60-2		106c	V	2977	ナイフ	黒曜石	5.6	(2.9)	0.8	(6.3)			139
ⅢV-63	26	60-2		98d	表土・覆土	3482	ナイフ	メノウ	(5.6)	3.4	0.8	(11.1)			147
ⅢV-63	27	60-2		108c	V	3521	ナイフ	黒曜石	(3.0)	(2.8)	(0.9)	(8.0)			117
ⅢV-63	28	60-2		103c	V	2548	ナイフ	黒曜石	(3.8)	(3.7)	(0.9)	(11.5)			118
ⅢV-63	29	60-2		97d	V	3177	ナイフ	黒曜石	3.3	2.3	1.0	7.3			101
ⅢV-64	30	60-2		105c	V	2739	ナイフ	黒曜石	(3.8)	(4.3)	(0.8)	(13.3)			125
ⅢV-64	31	60-2		96d	V	2086	ナイフ	黒曜石	(4.1)	4.5	0.9	(18.6)			104
ⅢV-64	32	60-2		100d	V	3404	スクレイパー	黒曜石	3.9	3.0	0.7	6.8			141
ⅢV-64	33	60-2		99d	V	2198	スクレイパー	黒曜石	4.2	2.5	0.8	5.0			93
ⅢV-64	34	60-2		98d	V	2990	スクレイパー	黒曜石	5.9	4.9	0.7	15.3			131
ⅢV-64	35	60-2		117d	表土・覆土	3486	スクレイパー	メノウ	3.3	4.7	1.1	8.9			151
ⅢV-64	36	60-2		116b	V	2696	スクレイパー	黒曜石	4.2	5.2	2.0	31.8			122
ⅢV-64	37	60-2		98d	V	3390	スクレイパー	黒曜石	2.1	2.4	0.5	2.4			139
ⅢV-64	38	60-2		97d	表土・覆土	3484	スクレイパー	メノウ	(3.1)	3.5	0.7	8.3			149
ⅢV-64	39	60-2		108c	V	2599	スクレイパー	黒曜石	(5.2)	4.7	1.5	31.4			116
ⅢV-64	40	60-2		110c	V	2751	スクレイパー	黒曜石	6.1	2.8	1.0	7.4			124
ⅢV-64	41	60-2		98d	V	3444	スクレイパー	黒曜石	(7.7)	4.3	1.0	14.8			142
ⅢV-64	42	60-2		100c	V	2223	スクレイパー	黒曜石	(3.0)	2.6	0.8	(7.0)			94
ⅢV-64	43	60-2		128b	V	3072	スクレイパー	黒曜石	(5.2)	(4.1)	0.8	(16.8)			100
ⅢV-64	44	60-2		117b	V	2667	石フレイク	黒曜石	3.5	2.4	1.0	7.0			120
ⅢV-64	45	60-2		107c	V	2919	石フレイク	黒曜石	3.8	2.8	0.6	4.2			129
ⅢV-64	46	60-2		110c	V	2739	石フレイク	黒曜石	4.0	2.5	0.6	3.6			123
ⅢV-64	47	60-2		109c	V	2624	石フレイク	黒曜石	(3.9)	2.9	0.8	(5.1)			98
ⅢV-64	48	60-2		132b	V	3061	石フレイク	黒曜石	7.7	1.6	1.1	12.8			99
ⅢV-65	49	60-2		132b	埋藏上	3073	砥石	安山岩	15.4	11.0	11.0	2900			161
ⅢV-65	50	60-2		119c	表土・覆土	3510	石鏃	安山岩	14.5	10.0	6.4	1220			200
ⅢV-65	51	60-2		69c	V	1136	石鏃	黒曜石	4.1	1.7	0.5	2.8		旧地点	111
ⅢV-65	52	60-2		87c	V	3478	石鏃	黒曜石	(1.1)	1.7	(0.3)	(0.6)			143
ⅢV-65	53	60-2		83c	V	27	石鏃	黒曜石	(2.2)	1.6	0.3	(1.0)			102
ⅢV-65	54	60-2		89c	表土・覆土	3479	石鏃	黒曜石	(1.9)	(1.5)	(0.3)	(1.0)			144
ⅢV-65	55	60-2		70c	V	1194	石鏃	黒曜石	(2.8)	(1.4)	(0.4)	(1.3)		旧地点	113
ⅢV-65	56	60-2		63c	V	122	石鏃	黒曜石	2.3	1.4	0.3	0.8		旧地点	110
ⅢV-65	57	60-2		68c	V	2417	石鏃	黒曜石	2.8	1.3	0.4	1.1		旧地点	115
ⅢV-65	58	60-2		53c	V	13	石鏃	黒曜石	4.9	1.6	0.7	4.4		旧地点	106
ⅢV-65	59	60-2		49f	V	45	ナイフ	黒曜石	(4.3)	(2.8)	(0.8)	(12.2)		旧地点	109
ⅢV-65	60	60-2		55f	V	40	スクレイパー	黒曜石	5.1	2.2	0.7	6.3		旧地点	107
ⅢV-65	61	60-2		67c	覆土	3485	スクレイパー	メノウ	2.8	2.5	0.8	4.3			150
ⅢV-65	62	60-2		55f	V	41	スクレイパー	黒曜石	2.8	6.8	1.5	22.6		旧地点	108
ⅢV-65	63	60-2		69c	V	1191	石フレイク	黒曜石	(5.4)	4.8	1.1	17.6		旧地点	112

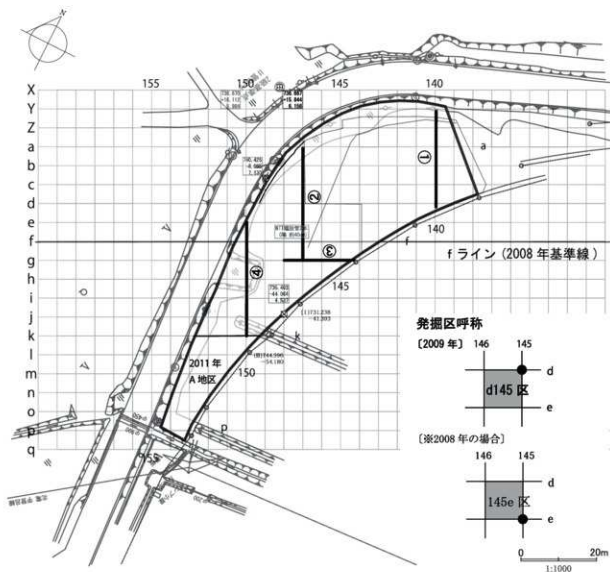
V章 2009年の調査と出土遺物

1 調査の概要

(1) 調査の方法と経過

調査区は国道334号の南東側で、急カーブを緩やかにし中央帯を設置するための道路用地にあたる。そのため、他の調査区よりも幅が広い（最大約35m）。調査以前は植林地で、樹木による攪乱が一部にみられる。北側は国道をはさみ海岸砂丘が伸びており、南～南東側は低地が広がる。調査区内の標高は、4～6mである。

調査は、草木類を重機で除去した後、表土から人力により掘削した。まず調査区を縦断するトレンチ調査を行い、土層堆積や遺構・遺物の出土状況を把握することに努めた。その後、各発掘区・層位ごとに掘削を進めた。発掘区境において土層断面図を多数作成した。なお河川堆積層の一部は重機を使用した。Ⅷ層とした礫層上面（およびそれに相当する面）を完掘面とした。なお調査区南部のクラ



図V-1 2009年発掘区設定図・土層断面位置

イン以南は、調査の都合上トレンチ調査にとどめ、次年度以降に全面掘削を行うこととなった。

遺構名は検出順に「PIT」を冠し1から番号を付した(2018年調査の際に、概要報告書や図面類などをもとに共通の遺構種別記号への変換を行った)。遺物の出土位置は、トータルステーションを用いて点記録を行った。そのほか遺構断面の測量基準点や調査範囲の設定などにもトータルステーションを使用した。写真撮影は、デジタルカメラを使用した。

(2) 発掘区の設定 (図V-1)

グリッドラインは、2008年調査時の5m単位を延長して設定し、ラインの名称も同様に使用した(137~155ライン、X~Z・a~qライン)。ただし発掘区名は、「数字-アルファベット」から「アルファベット-数字」とした上に、「発掘区の南東交点名」から「発掘区の北東交点名」に変更している(例:2008年「145e区」→2009年「d145区」、図V-1右下参照)。

なおトータルステーションを使用する際に、基準点(X=0.000 Y=0.000)を「a1」とし、東西(数字)をX軸(西が正方向)、南北(アルファベット)をY軸(北が正)とする座標値を使用した(例:d145杭 X=720.000 Y=-15.000)。

(3) 土層 (図V-2~4)

基本土層は以下の通り分層した。調査区の土層断面について、南北方向(土層①・②・④)・東西方向(土層③)の一部を図示した。

I層:表土

II層:白色火山灰層〔樽前a火山灰〕

III層:黒色土c層 最大厚1cm程度。調査区南部では泥炭化。

IV層:白色火山灰層〔駒ヶ岳c₂火山灰〕

V層:黒色土層等 最大厚20cm程度。調査区南部では泥炭化。

VI層:灰白色軽石層〔摩周b5軽石〕 粒径数mm程度。

VII層:砂層等

Ⅶa層:黒色砂質層 統縄文時代の遺物を含む。

Ⅶb層:砂層

※層中で3~4層の黒色帯を確認。縄文時代中期~統縄文時代の遺物を含む。

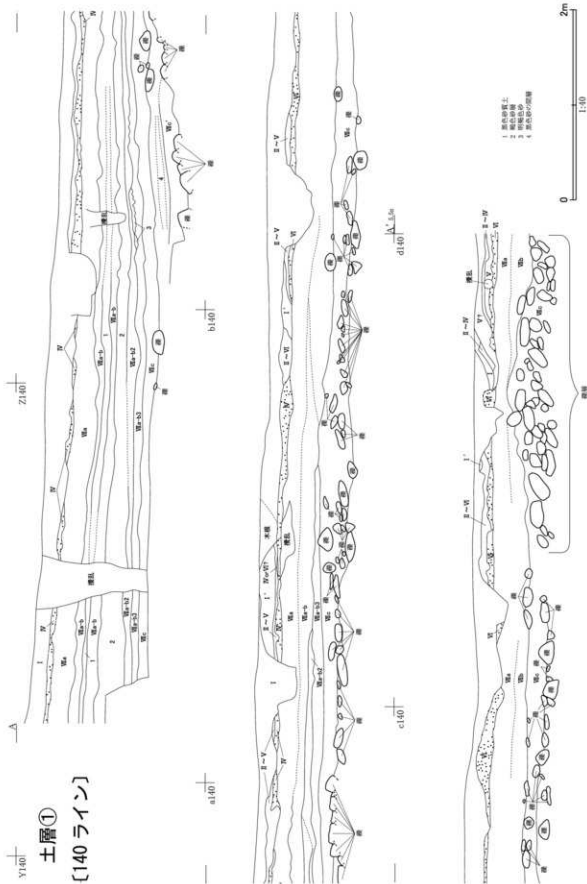
Ⅶc層:砂礫~礫層。

VIII層:礫層 拳大~人頭大の礫。

(4) 調査結果の概要 (図V-5 表V-1・2)

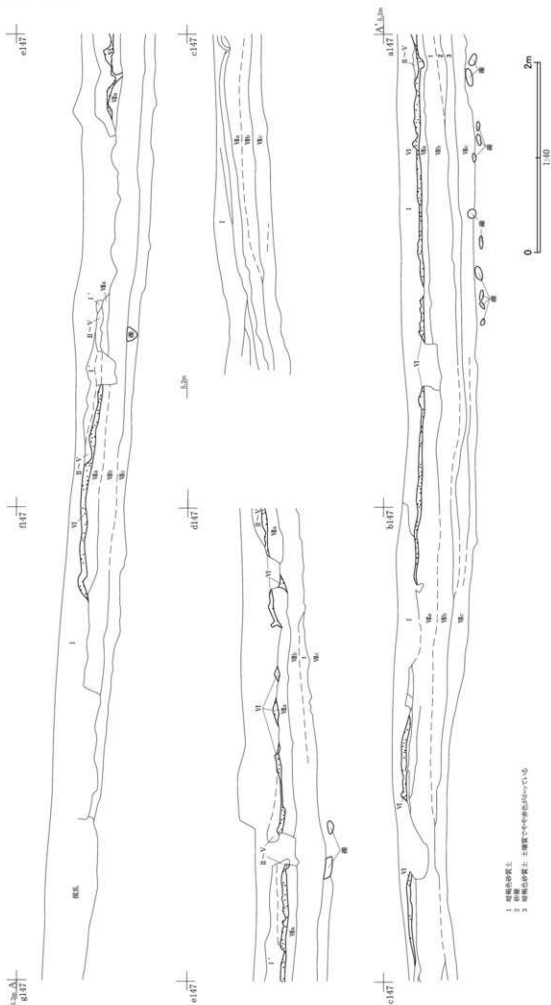
石組炉1基と焼土2か所を検出した。このほかにトレンチ調査で焼土を検出した。検出層位や出土遺物から、石組炉は統縄文時代宇津内II式期、2か所の焼土は縄文時代中期末~後期前葉とみられる。遺物は計3,118点で、土器1,977点・石器等1,134点を数えた。土器は縄文時代後期前葉・晩期と統縄文時代宇津内II a式が多い。石器はフレイクチップを主体に、石鏃・石槍・ナイフ(削器)・スクレイパー(搔器)・すり石などが出土している。また骨片のほか、ベンガラ粒・木炭・樹皮がわずかに出土している。

また地形について、調査区内で3つの微高地を確認した。後に周辺地形を考察するうえで、南から「砂丘1」・「砂丘2」・「砂丘3」の名称を付した(図II-2、斜里町教育委員会2013第9図)。

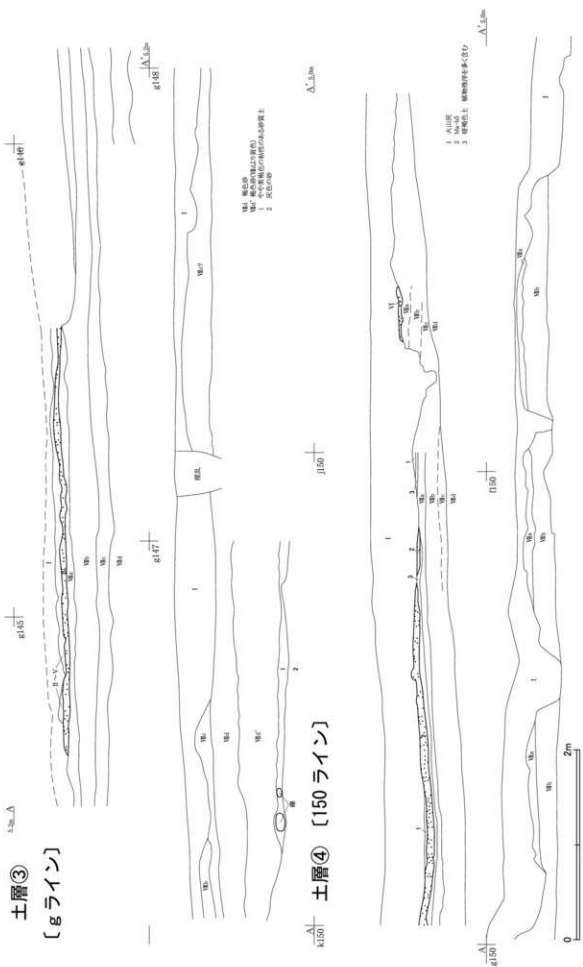


図V-2 調査区土層断面 (1)

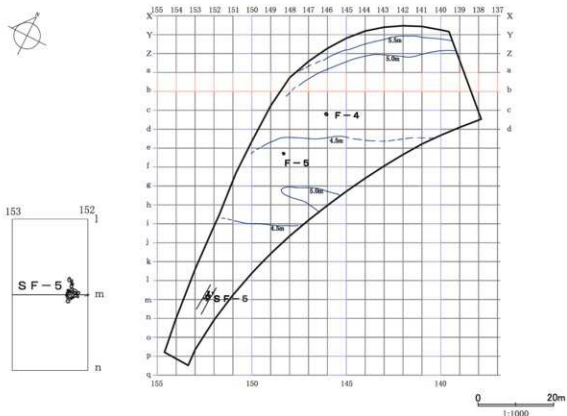
土層② [147ライン]



図V-3 調査区土層断面 (2)



図V-4 調査区土層断面 (3)



図V-5 2009年調査区遺構位置図

2 遺構の調査とその遺物

遺構の記載内容は、概要報告書（斜里町教育委員会2010）をもとに、図・写真等から編者（阿部）が記述した。

a 縄文時代の遺構

(1) 焼土

F-4 (PIT 1) (図V-6 表V-1 図版6)

調査区中央北部のⅦb層で検出した。縄文時代中期～後期のものと考えられる。被熱層とみられる褐色の砂質土が小規模にみられる。

F-5 (PIT 2) (図V-6 表V-1 図版29)

Ⅶ調査区中央部のⅦb層で検出した。縄文時代中期～後期のものと考えられる。

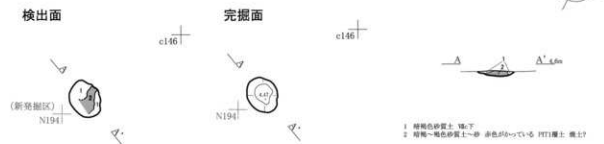
b 続縄文時代の遺構

(1) 石組炉

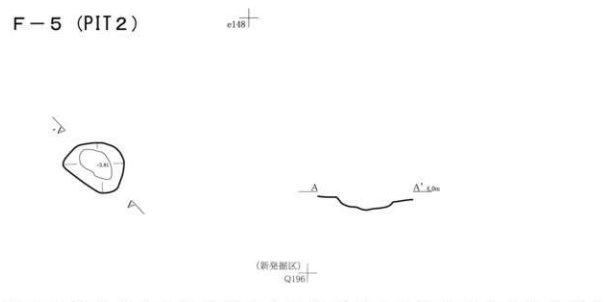
SF-5 (石囲い炉) (図V-6 表V-1・2 図版5・29)

トレンチ調査中、Ⅶa層で検出した。2011年に全体を検出した。火床面は約50×40cmの楕円形でややくぼみ、周囲にやや大型の礎が楕円形～隅丸長方形に配置されている。さらに北西側に80cmほど礎が列している。時期は検出面や周辺出土遺物から、宇津内Ⅱa～Ⅱb式期とみられる。

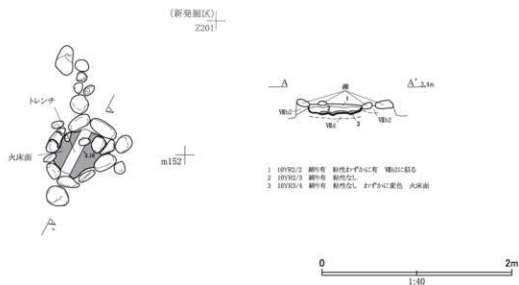
F-4 (PIT 1)



F-5 (PIT 2)



S F-5 (石囲い炉)



図V-6 F-4・5 (PIT 1・2)・S F-5 (石囲い炉)

3 包含層出土の遺物

(1) 土器 (図V-7 表V-3 図版61)

縄文時代の土器 (1~21)

中期末~晩期の土器1,393点が出土した。このうち後期前葉の土器は、主にⅦc下層に分布していた。後期中葉~後葉は2008年調査区寄りのⅦc層からわずかに出土した。晩期は、調査区北東部のほか中央南部からもまとまって出土した。

後期の土器 (1~15)

1~10は北筒式の後半期に相当する。1は複節縄文が施文され、胎土に透明鉱物・砂粒を多く含み、羅臼式にある特徴がみられる。2~4は同一個体と思われる。口縁部に隆帯、その上から地文のRL縄文が施文されている。「ウトロ型」(斜里町教育委員会1980)の特徴を有する。5~9は「シャリ型」(同)の特徴があるもの。全面に斜行縄文を施し(5・7~9)、多段の帯状構成とみられるもの(6)もある。7は出土例の少ない、斜格子状の沈線が施されたもの。10は胴部がふくらみ口縁部がわずかに外反する。口唇直下および頸部下端に縄線が施され、口縁部に円形刺突が連続する。

11~14は後期中葉。11は器壁が厚い無文の鉢。12~14は手稲式。口縁無文部はみがかれている。

15はエリモB式または堂林式。全面縄文地で、口縁部に刻み列と突瘤文が施されている。

晩期後葉の土器 (16~21)

16・17は大型の鉢とみられる。内面上部にも縄文が施文されている。18は口縁部に縄線が多条平行する。19~21は同一個体で、内面および底面に縄線による文様がえがかれている。

続縄文時代の土器 (22~25)

577点出土した。調査区北部のⅦa層~Ⅶc上層に分布する。

前半期の土器 (22・23)

22は口縁部に斜行縄文、胴部に帯縄文の一部がみられる。23は宇津内Ⅱa式。平底で、底面付近に縄刺突列がめぐり、底面に十字の縄線が押捺されている。

北大Ⅰ式 (24・25)

24・25は同一個体と思われる。多条の微隆起線が横位・縦位に平行し、口縁部に円形刺突文(O→Iの突瘤文)が施されている。胴部の区画内に縄文が充填されている部分がある。(阿部)

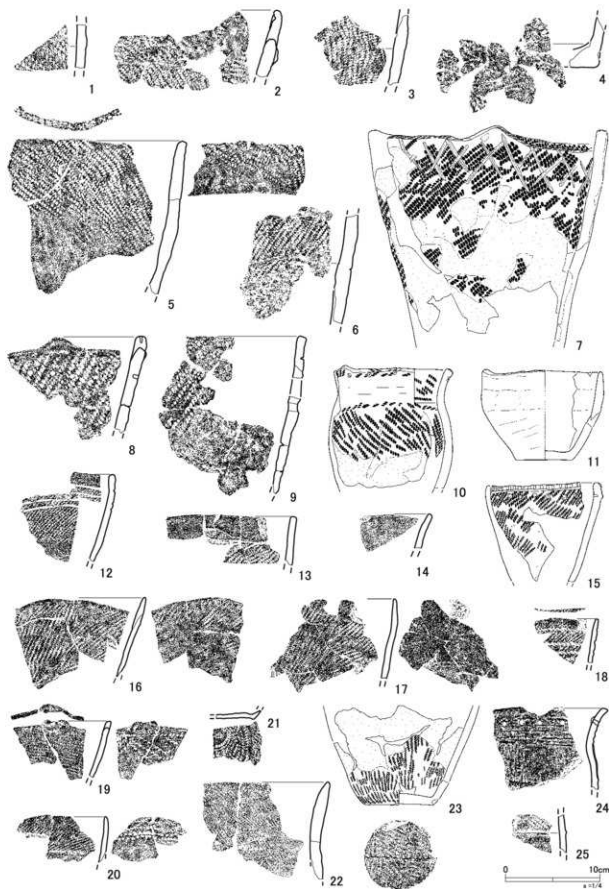
(2) 石器等 (図V-8~10 表V-4 図版61・62)

石畿 (1~6)

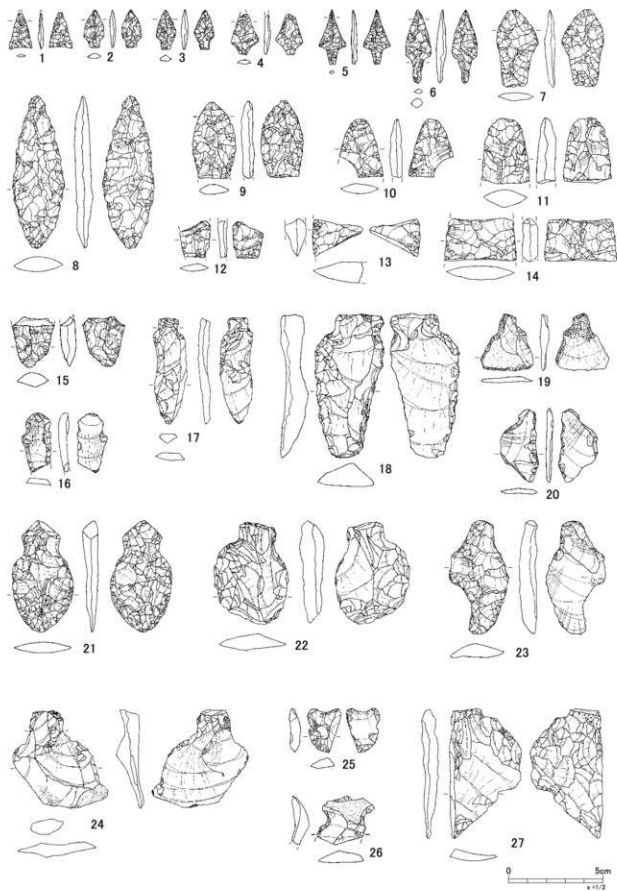
1は凹基のもの。2~6は有茎のもの。茎部は2・3が端部まで太い形状、4・5が収斂する形状、6が細長い形状となっている。カエシは4・5・6が非常に明瞭に作出されている。

石槍・ナイフ (7~34)

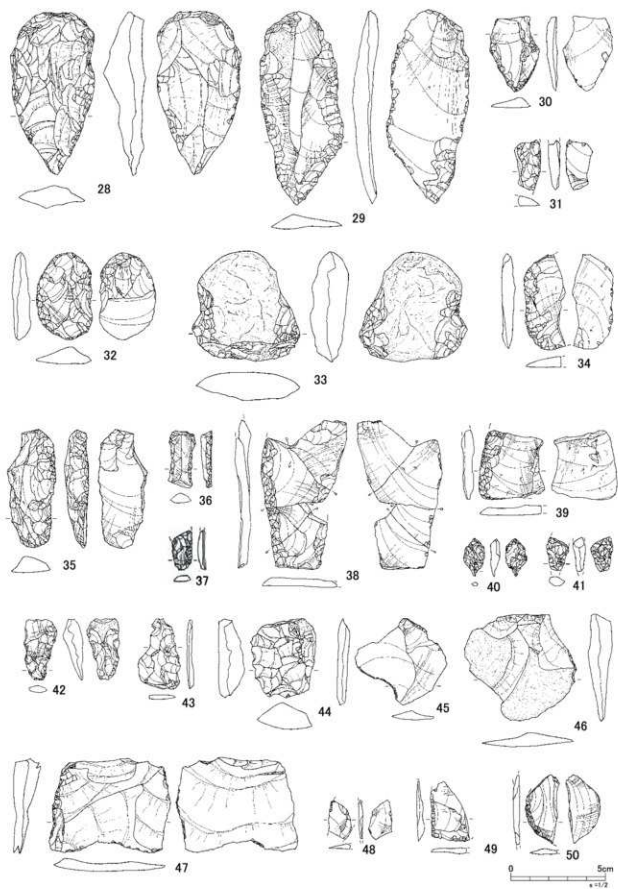
7~15は両面加工が器面全体に及ぶもので、7は茎部のある石槍で、右側に明瞭なカエシが見られる。8は両端が尖る木葉形の石槍である。9~15は破損品である。この内、端部が尖る形状に成形されているものは9・10・15、柄部とみられる矩形に成形されているものは11である。16~26はつまみ付きナイフないし柄部をもつナイフで、縦長剥片素材の16・17、両面加工の21・22、正面全体を覆う加工が施される23などがある。27~30は端部が尖がる形状のもので、主に片面加工によって調整されている。31・32はその他の完形品、33・34は形状不明な破損品である。



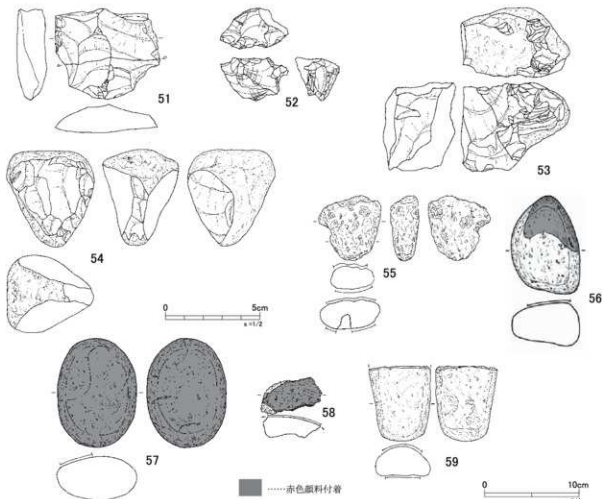
図V-7 包含層出土の土器



図V-8 包含層出土の石器(1)



図V-9 包含層出土の石器(2)



図V-10 包含層出土の石器(3)

スクレイパー (35~39)

35~37は縦長剥片を素材としている。36は両側縁にやや内湾する加工が施されている。38・39は縁辺全体に平坦剥離が施されている。

石錐 (40・41)

40~41は石錐である。いずれも両面加工により突出する刃部が作出されている。

Rフレイク (43~45)

43~51はRフレイクである。43・44は比較的長い平坦剥離が施されている。45~51は縁辺の一部に細かな加工が施されている。

石核 (52~54)

52~54は石核である。52は正面と上面との交互剥離がなされている。53は主に正面上からの剥離が行われている。54は正面で横方向、裏面で上からの剥離が行われている。

すり石 (55~59)

55~59はいずれも正面にすり面があり、55・59には裏面にも存在する。55の裏面にはやや深い穴がみられる。穴の内部には明確な横方向の擦痕がなく、角度もやや斜めなことから、人為的なものではない可能性がある。また、56~58にはベンガラが付着、特に57には全面的な付着が認められる。

(直江)

表V-4 2009年調査掲載石器一覧

調査番号	掲載番号	写真図版番号	発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	産地分析	備考	実測番号
図V-8	1	61-2	c140	Ⅴc	10	石鏃	黒曜石	(1.9)	1.2	0.3	(9.4)			1
図V-8	2	61-2	a143	Ⅴc下	11	石鏃	黒曜石	2.0	1.1	0.3	0.5			2
図V-8	3	61-2	c144	Ⅴc下	12	石鏃	黒曜石	2.1	1.0	0.4	0.6			3
図V-8	4	61-2	b145	Ⅴc下	5	石鏃	黒曜石	(2.2)	1.5	0.3	(9.7)			4
図V-8	5	61-2	c143	表土	3	石鏃	黒曜石	2.9	1.5	0.3	0.7			5
図V-8	6	61-2	e145	Ⅴc下	6	石鏃	黒曜石	3.9	1.4	0.5	1.7			6
図V-8	7	61-2	o153	Ⅴc下	81	石鏃	黒曜石	4.1	2.2	0.5	4.1			7
図V-8	8	61-2	a145	Ⅴc下	10	石鏃	黒曜石	8.0	2.8	1.0	17.3			8
図V-8	9	61-2	i148	Ⅴc下	5	石鏃	黒曜石	4.1	2.3	0.7	6.1			9
図V-8	10	61-2	a145	Ⅴc下	8	ナイフ	黒曜石	(3.1)	2.3	0.7	(3.9)			10
図V-8	11	61-2	c141	Ⅴc下	6	ナイフ	黒曜石	(3.5)	2.6	1.1	(9.1)			11
図V-8	12	61-2	o153	Ⅴc	100	ナイフ	黒曜石	(1.9)	1.6	0.5	(1.2)	トレンチ内		12
図V-8	13	61-2	g145	Ⅴc	5	ナイフ	黒曜石	(2.0)	(2.7)	1.1	(3.1)			13
図V-8	14	61-2	k151	Ⅴc下	10	ナイフ	黒曜石	(2.2)	3.8	0.9	(8.2)			14
図V-8	15	61-2	表採	表採	ナイフ	黒曜石	(2.6)	2.2	0.8	4.0			15	
図V-8	16	61-2	d145	Ⅴc下	28	ナイフ	黒曜石	(3.1)	1.6	0.6	(2.3)			16
図V-8	17	61-2	b143	Ⅴc下	5	ナイフ	メノウ	5.6	1.7	0.7	5.7			17
図V-8	18	61-2	b143	Ⅴc下	10	ナイフ	純質頁岩	7.6	3.6	1.4	36.9			18
図V-8	19	61-2	a146	Ⅴc下	10	ナイフ	安山岩	3.0	2.8	0.5	2.8			19
図V-8	20	61-2	0147	Ⅴc	14	ナイフ	黒曜石	3.9	2.0	0.4	2.6			20
図V-8	21	61-2	Z140	Ⅴc	5	ナイフ	メノウ	5.9	3.2	0.8	13.1			21
図V-8	22	61-2	a145	Ⅴc下	7	ナイフ	メノウ	5.4	3.9	1.3	21.1			22
図V-8	23	61-2	c144	Ⅴc下	30	ナイフ	黒曜石	6.0	3.1	0.9	10.8			23
図V-8	24	61-2	b146	Ⅴc下	17	ナイフ	純質頁岩	5.2	5.0	0.9	16.5			24
図V-8	25	62-1	Z141	Ⅴc下	7	ナイフ	黒曜石	2.3	1.8	0.6	1.9			25
図V-8	26	62-1	c145	Ⅴc下	19	ナイフ	黒曜石	(2.6)	3.0	0.9	(4.6)			26
図V-8	27	62-1	c145	Ⅴc下	20	ナイフ	メノウ	6.9	3.8	0.9	18.1			27
図V-9	28	62-1	o153	Ⅴc下	79	ナイフ	頁岩	8.6	4.5	2.2	38.5	トレンチ内		28
図V-9	29	62-1	o153	Ⅴc下	88	ナイフ	黒曜石	10.2	4.4	1.4	40.2	トレンチ内		29
図V-9	30	62-1	c140	Ⅴc	7	ナイフ	黒曜石	4.0	2.6	0.6	4.4			30
図V-9	31	62-1	k151	Ⅴc下	6	ナイフ	黒曜石	(2.6)	(0.9)	0.7	(2.2)	トレンチ内		31
図V-9	32	62-1	o153	Ⅴc下	76	ナイフ	黒曜石	4.6	3.0	1.0	12.6			32
図V-9	33	62-1	Z142	Ⅴc下	6	ナイフ	メノウ	5.8	5.7	2.0	69.0			33
図V-9	34	62-1	a138	Ⅴc	6	ナイフ	黒曜石	5.0	(2.2)	0.7	(6.3)			34
図V-9	35	62-1	a143	Ⅴc	5	スプレイバー	黒曜石	6.3	2.6	1.3	18.4			35
図V-9	36	62-1	g146	Ⅴc下	11	スプレイバー	黒曜石	(3.0)	1.3	0.6	(2.5)			36
図V-9	37	62-1	d145	Ⅴc下	27	スプレイバー	黒曜石	(2.1)	3.1	0.4	(9.9)			37
図V-9	38	62-1	Y141	Ⅴc	5	スプレイバー	黒曜石	(7.9)	(4.3)	0.9	(20.5)			38
図V-9	39	62-1	a138	Ⅴc下	11	スプレイバー	黒曜石	(3.6)	(4.0)	0.6	(8.5)			39
図V-9	40	62-1	Y140	Ⅴc下	9	石鏃	メノウ	2.0	1.1	0.5	1.0			40
図V-9	41	62-1	Y140	Ⅴc下	8	石鏃	メノウ	(1.8)	1.2	0.7	1.2			41
図V-9	42	62-1	m152	Ⅴc下	39	石鏃	黒曜石	3.2	1.7	1.0	4.2	トレンチ内		42
図V-9	43	62-1	o153	Ⅴc下	73	Rフレイク	黒曜石	3.7	2.2	0.4	1.9	トレンチ内		43
図V-9	44	62-1	a140	Ⅴc	5	Rフレイク	純質頁岩	4.2	3.5	1.4	19.4			44
図V-9	45	62-1	m152	Ⅴc下	38	Rフレイク	黒曜石	5.1	4.8	0.7	6.7	トレンチ内		45
図V-9	46	62-1	c146	Ⅴc下	34	Rフレイク	安山岩	5.6	5.9	1.3	28.4			46
図V-9	47	62-1	a141	Ⅴc下	6	Rフレイク	純質頁岩	5.0	6.4	0.9	28.3			47
図V-9	48	62-1	b142	Ⅴc下	7	Rフレイク	黒曜石	(2.1)	(1.2)	0.2	(9.3)			48
図V-9	49	62-1	e144	Ⅴc下	5	Rフレイク	黒曜石	3.2	(2.1)	0.4	(2.2)			49
図V-9	50	62-1	a141	Ⅴc下	7	Rフレイク	黒曜石	(3.7)	(1.8)	0.3	1.9			50
図V-10	51	62-1	b146	Ⅴc上	5	Rフレイク	純質頁岩	4.9	5.6	1.6	41.2			51
図V-10	52	62-1	d148	Ⅴc下	5	石鏃	黒曜石	2.3	3.6	2.3	12.8			52
図V-10	53	62-1	0149	Ⅴc下	8	石鏃	メノウ	4.7	5.7	3.8	112.4			53
図V-10	54	62-1	Z143	Ⅴc	7	石鏃	メノウ	5.1	4.6	4.0	98.9			54
図V-10	55	62-1	0146	Ⅴc	6	矛石	軽石	6.8	6.6	3.0	17.5			55
図V-10	56	62-1	表採	表採	矛石	安山岩	10.2	7.3	5.5	515.5	ペンガラ付着		56	
図V-10	57	62-1	Y140	Ⅴc下	27	矛石	安山岩	11.6	8.4	4.6	688.6	ペンガラ付着		57
図V-10	58	62-1	表採	表採	矛石	安山岩	(3.9)	(6.4)	(2.2)	(56.8)	ペンガラ付着		58	
図V-10	59	62-1	m152	Ⅴc下	42	矛石	安山岩	(8.0)	6.5	3.1	(253.5)	トレンチ内		59

VI章 2011年の調査と出土遺物

1 A地区の調査の概要

(1) 調査の方法と経過

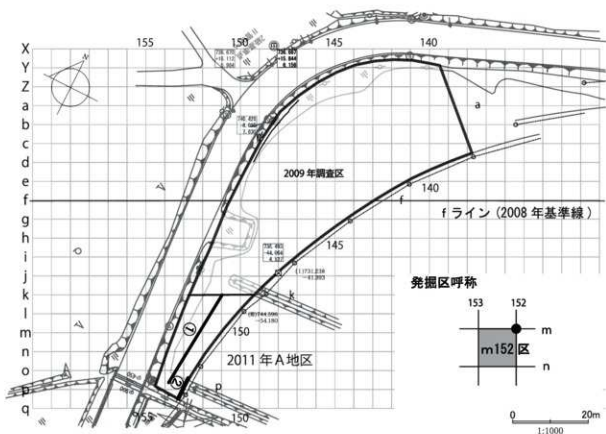
調査区は2009年(図V-1)のkライン以南の範囲で、全調査範囲の南端部にあたる。標高は、4～5mである。9月初頭に調査を開始し、途中B地区と併行し、10月中旬に調査を終了した。

調査は、草本類を除去し、表土から人力により各発掘区・層位ごとに掘削を進めた。なお2009年に調査区を縦断するトレンチ調査を行っているが、当年度さらに精査し断面図を編集している(図VI-2・3)。Ⅶ層とした礫層上面(およびそれに相当する面)を完掘面とした。

遺構名は検出順に「PIT」を冠し、「11」から番号を付した(2018年調査の際に、概要報告書や図面類などをもとに共通の遺構種別記号への変換を行った)。遺物の出土位置は、トータルステーションを用いて点記録を行った。そのほか遺構断面の測量基準点や調査範囲の設定などにもトータルステーションを使用した。写真撮影は、2009年を踏襲しデジタルカメラのみを使用した。

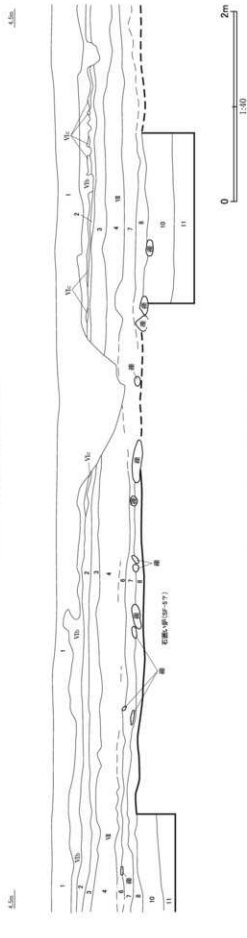
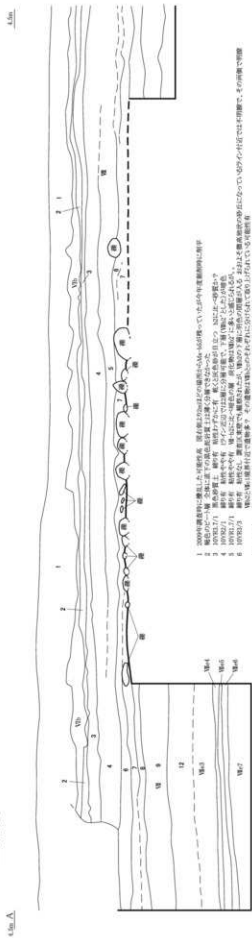
(2) 発掘区の設定

2009年調査区の5m単位の設定(図V-1、VI-1)のとおりである(149～155ライン、k～qライン)。発掘区の北東交点名をその発掘区名としている。

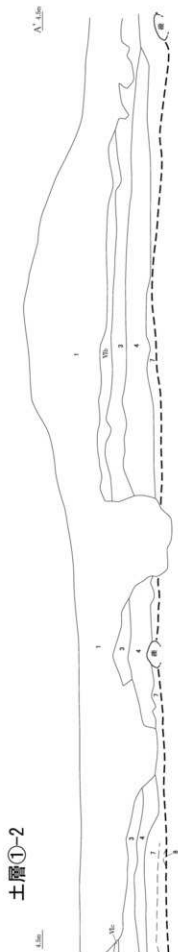


図VI-1 2011年A地区発掘区設定図・土層断面位置

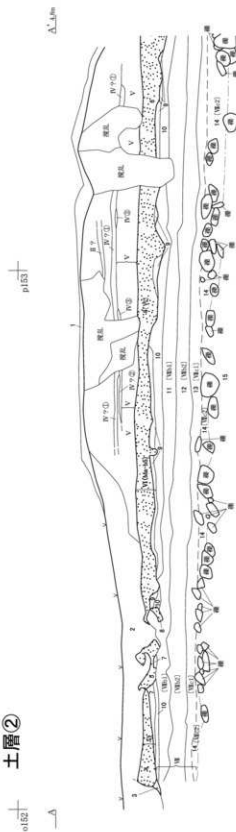
土層①-1



図V-2 A地区土層断面(1)



土層②



- | | |
|---|-------|
| 1 黄砂の層(シラ) | 9 砂質土 |
| 2 黄土 | 10 赤土 |
| 3 赤土 | 11 赤土 |
| 4 M ₁ -M ₁₅ (L ₁ L ₂) | 12 赤土 |
| 5 M ₁ -M ₁₅ (L ₁ L ₂)の埋藏品が散見している | 13 赤土 |
| (M ₁ 7 A ₁ 土) | 14 赤土 |
| | 15 赤土 |
- 10 赤土
 (M₁) 12 赤土
 (M₂) 13 赤土
 (M₃) 14 赤土
 (M₄) 15 赤土
- 1 黄砂の層(シラ)
 2 黄土
 3 赤土
 4 M₁-M₁₅(L₁L₂)
 5 M₁-M₁₅(L₁L₂)の埋藏品が散見している
 (M₁ 7 A₁土)
 6 A₁土
- 9 砂質土
 10 赤土
 11 赤土
 12 赤土
 13 赤土
 14 赤土
 15 赤土
- 10 赤土
 (M₁) 12 赤土
 (M₂) 13 赤土
 (M₃) 14 赤土
 (M₄) 15 赤土

図V-3 A地区土層断面(2)

(3) 土層

基本土層は2009年のとおりである。ただしⅦ層の細分層を追加し、Ⅶa～Ⅶe層としている。また土層断面では、Ⅶb層・Ⅶc層・Ⅶe層をさらに細分している。

Ⅶ層：砂層等

Ⅶa層：黒色砂質土

Ⅶb層：砂層

縄文時代晩期の遺物を含む。

Ⅶc層：黒褐色砂質土

縄文時代中期～晩期の遺物を含む。

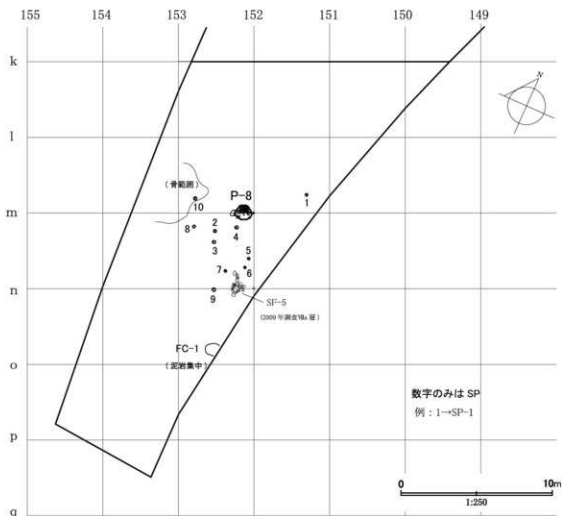
Ⅶd層：明色の砂層

縄文時代中期～後期の遺物を含む。

Ⅶe層：黒褐色砂質土

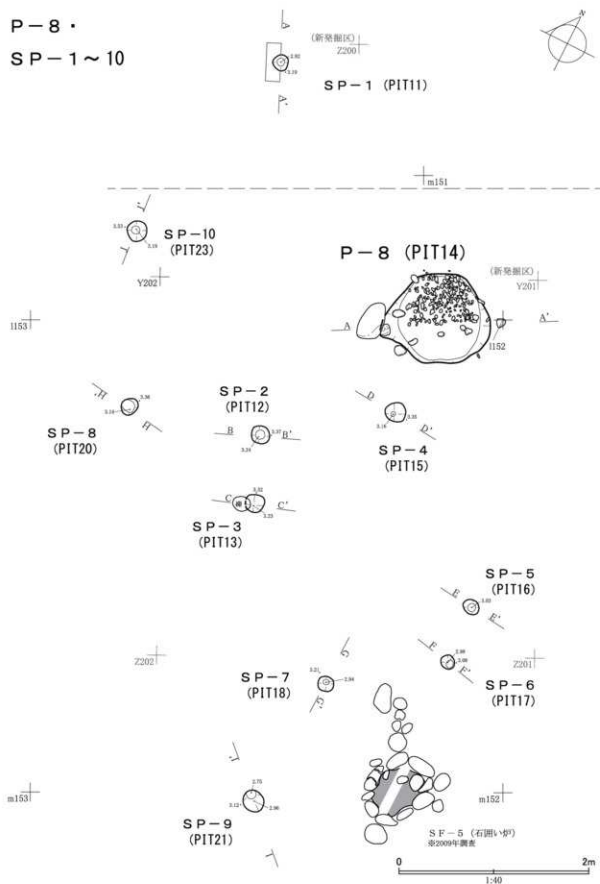
(4) 調査結果の概要

調査範囲の中央付近のⅦc層で土坑1基と柱穴状小土坑10基を検出した。また南部で泥岩フレイクの集中域1か所、西部で骨片の広がる範囲を1か所検出した。いずれも縄文時代後期～晩期のものとみられる。なお今回の調査区南東部には、2009年調査で検出した石組炉（SF-5）がある。

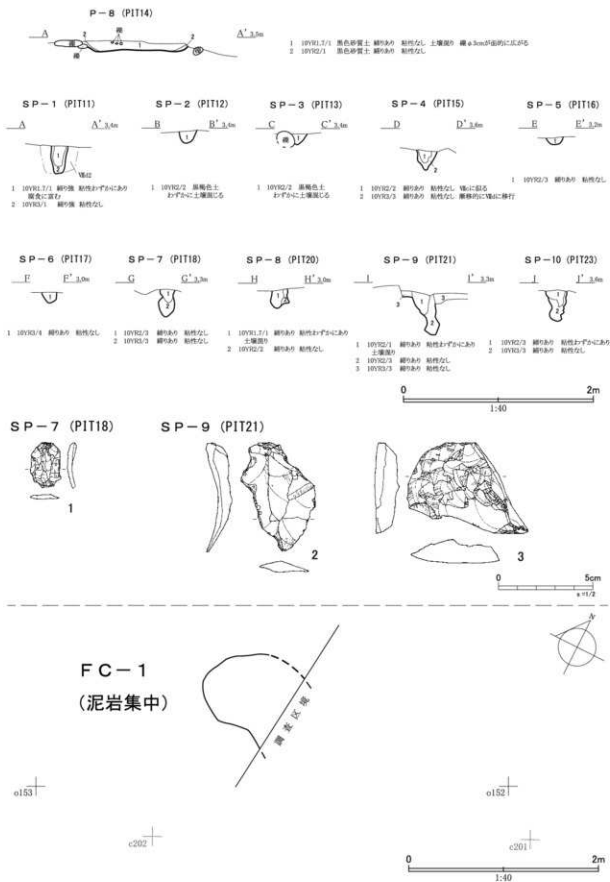


図Ⅵ-4 2011年A地区遺構位置図

P-8・
SP-1~10



図Ⅵ-5 P-8・SP-1~10 (1)



図Ⅴ-6 P-8・SP-1~10(2)・FC-1

2 A地区の遺構の調査

遺構の記載内容は、図・写真等から編者が記述した。

a 縄文時代の遺構

(1) 土坑

1基(P-8)を検出した。時期は、検出層位や周辺出土遺物から縄文時代後期～晩期とみられる。

P-8 (PIT14) (図VI-5・6 表VI-1・2 図版29)

おおむね楕円形を呈し、坑底はほぼ平坦である。覆土中に径3cm前後の小礫が面的に広がっていた。遺物は、覆土中からフレイクチップが42点出土した。

(2) 柱穴状小土坑 (図VI-5・6 表VI-1・2 図版29・62)

P-8 (PIT14) の南～西側から10基 (SP-1～10) を検出した。配置は不規則で、2基近接するものもある。径はいずれも20cm前後で、深さは10～50cm程度と差がある。時期は、検出層位や周辺出土遺物から縄文時代後期～晩期とみられる。他に、根穴など自然と思われる小穴を多数検出した。

掲載遺物

SP-7 (PIT18) : 1はUフレイク。右側縁に微細な剥離が見られる。

SP-9 (PIT21) : 2はRフレイク。左側縁に細かな加工が施されている。3はフレイク。正面に横方向の剥離痕が見られることから打面転移を行ったものと思われる。

(3) フレイクチップ集中

FC-1 (泥岩集中) (図VI-6 表VI-1 図版29)

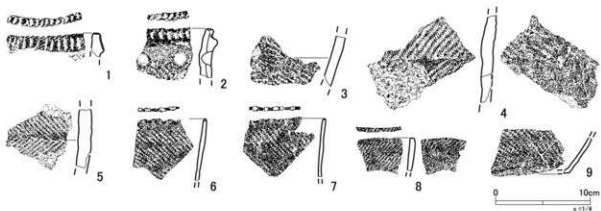
調査区南部で、泥岩の小片約500gがまとまって出土した。

3 A地区の包含層出土の遺物

(1) 土器 (図VI-7 表VI-3 図版62)

縄文時代の土器 (1～9)

中期末～晩期の土器が137点出土した。このうち中期末～後期前葉の土器は、k～nラインのⅦc層に分布していた。晩期は、主にk・mラインのⅦb層から出土した。



図VI-7 A地区包含層出土の土器

1～5は縄文中期末～後期初頭の土器。1・2は北筒Ⅱ式(トコロ6類)。口唇上および断面三角形をなす口縁部肥厚帯上に、ヘラ状工具(1)または半截管状工具(2)により刻みが施されている。肥厚帯下には大型の円形刺突がある。3はほどけた逆燃りの縄が用いられていると思われる。4・5は多段の帯状構成で、うち5は結束羽状縄文が施文されている。6～9は晩期後葉の土器。6・7は口唇上に刻む。8は口唇上・内面口縁部にも縄文が施されている。9は浅鉢の底部付近。(阿部)

(2) 石器等 (図VI-8～10 表VI-5 図版63)

石鎌 (1～7)

1～4は有茎のもの。1・2の茎部は収斂する形状で特に2は下端部が尖る。3・4の茎部は逆台形で、カエシはやや明瞭である。5～7は下半部が欠損する。7は両端が尖る木葉形の可能性がある。

ナイフ (8～28)

8～21は両面全体に加工が施されるもの。8は有茎の石槍で、茎部は逆台形、わずかにカエシが見られる。9は細身の柳葉形。10は細身で中央付近に屈曲部があり、茎部と刃部に分かれる。11～21は破損品である。端部の形状が丸みのあるものは11・12・16、矩形ないし逆台形で角のあるものは13～15である。17～21は両端部が欠損している。21は細身の柳葉形である。22～25はつまみ付きナイフ。いずれも縁辺の一部に刃部の加工が施されている。つまみ部は23以外太く、わずかなノッチ状の加工により作出されている。26～28はそれ以外の部分的な加工が施されるもの。

スクレイパー (29～34)

29は矩形の柄部があり、縁辺が急角度加工で、下端部が尖る形状である。ナイフを再加工して、縮小したものと思われる。30～34は下端部に円弧状の刃部を作出するものである。

Rフレイク (35～40)

35～40は、縁辺の一部に細かな加工が施されている。35は直線的、36は屈曲部、37・38は鋸歯状、39は内湾する縁辺に連続する加工が見られる。

フレイク (41・42)

41・42はいずれもポイントフレイクとみられ、下端に本体部の反対側縁を取り込むウートラッセスとなっている。

石核 (43)

43は頁岩製で、主に正面で粗い剥離が行われている。

石斧 (44)

44は刃部側が欠損している。全面的な研磨により側面が多面的に成形されている。

たたき石 (45)

45は上下端に敲打痕が見られる。

すり石 (46～48)

46は棒状の原石を素材とし、上下端にもわずかに敲打痕が見られる。47は正面にすり面が見られる。48は破損品で、正裏面にすり面があり、正面にはベンガラも付着している。

砥石 (49)

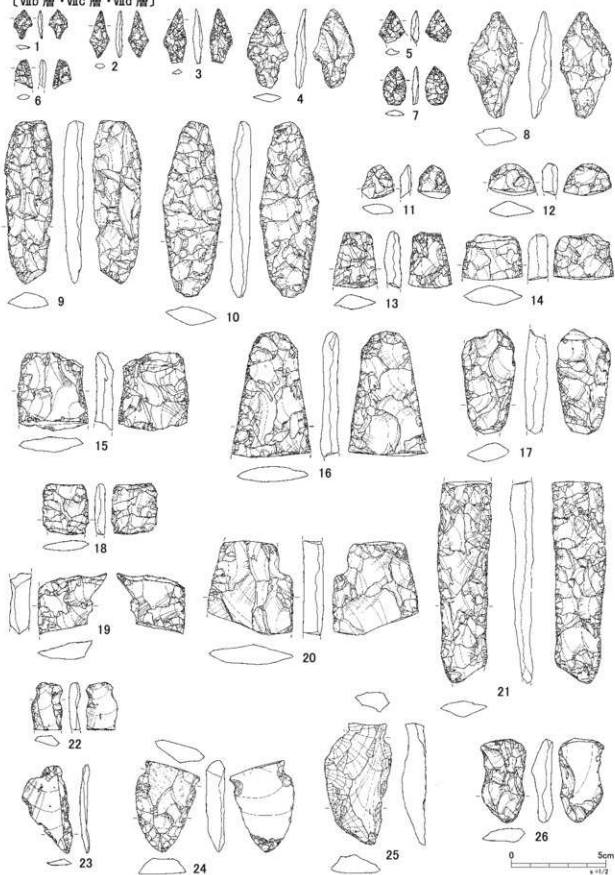
49は正面と右側面にすり痕が見られる。

台石 (50～53)

50～52が完形、53が破損品である。平滑面は50・52が正面のみ、51・53が両面に観察される。

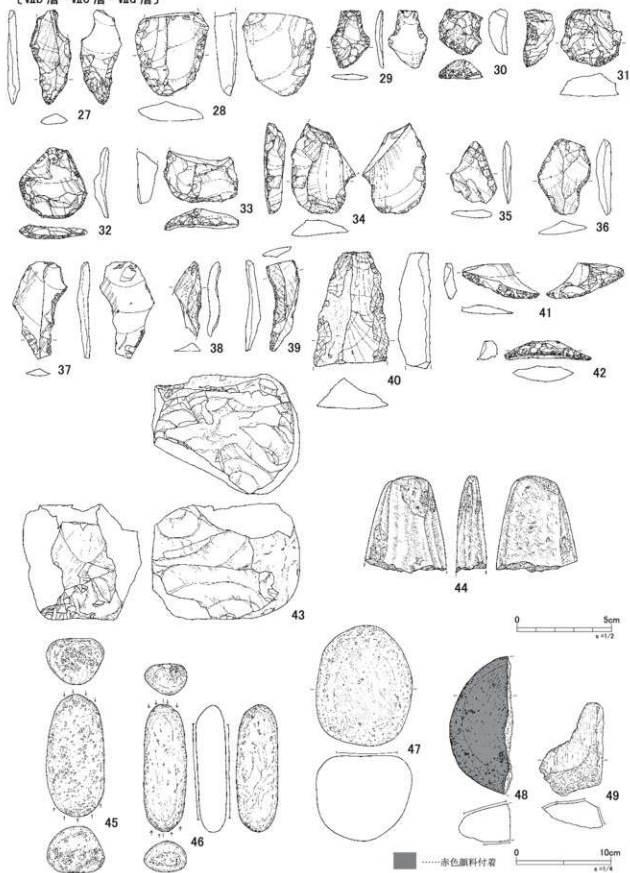
(直江)

〔Ⅶb層・Ⅶc層・Ⅶd層〕



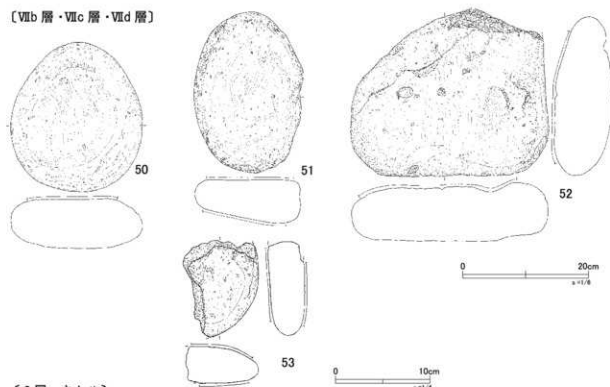
図Ⅵ-8 A地区包含層出土の石器(1)

〔VIIb層・VIIc層・VIId層〕

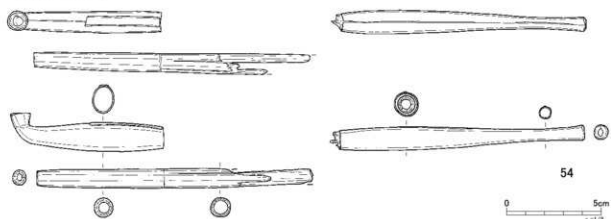


図VI-9 A地区包含層出土の石器(2)

〔VIIb層・VIIc層・VIId層〕



〔I層 キセル〕



図VI-10 A地区包含層出土の石器(3)・キセル

(3) 金属製品・木製品 (図VI-10 図版80)

キセル(54)

54は調査区南部の表土から出土したキセル。羅字の吸い口側で折損しており、羅字が挿入されたままの雁首および吸口が残存していた。このうち雁首側の羅字は引き抜くことができた。吸い口、雁首とも「肩」がなく、雁首は脂返しと羅字挿入部が一体となっている。雁首の羅字挿入部上部には、補修の跡がある。形状から、古泉弘氏の分類で「V」(第5段階)または「VI」(第6段階)にあたり、18世紀後半～19世紀前半に製造されたものとみられる(古泉1983)。(阿部)

4 B地区の調査の概要

(1) 調査の方法と経過

B地区は全調査範囲の西部、国道334号の北側で、延長105m・最大幅約18mの範囲である。調査区内は砂丘の頂部～裾部にあたり、標高は3.6～6.8mである。調査以前は旧国道の建設や以前の開拓活動による攪乱が多く、砂丘の上位の一部と下位において遺構がよく残っていた。

調査は、草木類を重機で除去した後、表土から人力により掘削した。まずテストピット調査（TP-1～10）、続いて調査区西部においてトレンチ調査を行い（図VI-13下段）、土層堆積状況を把握することに努めた。その結果、各層を把握するとともに砂丘列が不整合に重なる様子が観察された（D140区、図VI-12）。その後、各発掘区・層位ごとに掘削を進めた。調査区境や発掘区境において土層断面図を多数作成した。攪乱および土層の堆積状況により、Ⅶ層の面で終了した範囲とⅧ層下の礫層上面を完掘面とした範囲がある（図VI-13）。

遺構名は検出順に「PIT」を冠し、新たに1から番号を付した（2018年調査の際に、概要報告書や図面類などをもとに共通の遺構種別記号への変換を行った）。遺物の出土位置は、トータルステーションを用いて点記録を行った。そのほか遺構断面の測量基準点や調査範囲の設定などにもトータルステーションを使用した。写真撮影は、リバーサルおよびネガカラー35mm判、ネガカラー6×7判、デジタルカメラを使用した。

(2) 発掘区の設定（図VI-11）

国道北側の次年度以降（2012・2018年）を含む全調査範囲を対象とする発掘区を新たに設定した。北海道開発局網走開発建設部から提供された設計図に基づき、道路センターラインに平行する一辺5mの発掘区を設定した。基準点は、林野庁との用地境界杭のうち「右二〇」（E145）とし、「右十九」・「右十八」・「右十七」などの杭の座標値から原点（A0）を与えた。発掘区の名称は、北から南へアルファベット（A～J）、東から西へ算用数字（0～145）を付した。2011年の範囲は、B～F、124～144である。各方形区画の北東交点（杭）名が発掘区名である。

基準点の座標値は、以下のとおりである。座標系は、世界測地系平面直角座標系第XⅢ系である。

〔調査区基準点〕

原点（A0） X = -7,614.560 Y = 43,515.840（計算値）

「右二〇」（E145） X = -7,930.435 Y = 42,856.926

なおトータルステーションを使用する際に、基準点（X = 0.000 Y = 0.000）を「A・-1」とし、東西（数字）をX軸（西が正方向）、南北（アルファベット）をY軸（北が正）とする座標値を使用した（例：E130杭 X = 655.000 Y = -20.000）

(3) 土層（図VI-12）

基本土層について、これまでの層位を見直し、降下火山灰層（樽前a、駒ヶ岳c₂、摩周b5）を指標に新たに設定した。

Ⅰ層：表土層 近代～現代の盛土・整地層。

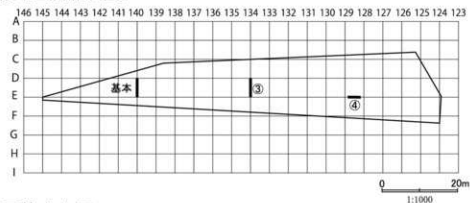
Ⅱ層：灰白色火山灰層〔樽前a（1739年降下）〕 調査区東部に斑状に確認。

Ⅲ層：（Ⅱ層とⅣ層の間層）

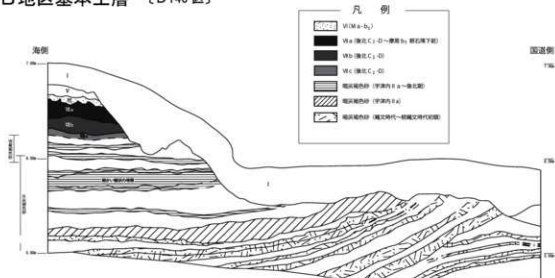
Ⅳ層：白色火山灰層〔駒ヶ岳c₂（1694年降下）〕

Ⅴ層：黒色砂層 土壌質に富む。

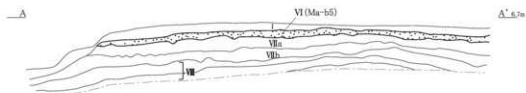
調査区土層断面図位置



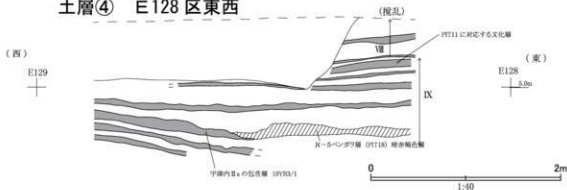
B地区基本土層 (D140区)



(南) 土層③ 134ライン (北)



土層④ E128区東西



図VI-12 B地区土層断面

- VI層：黄白色軽石層〔摩周b5降下軽石層（10世紀降下）〕
- VII層：黒色～暗褐色砂層 砂丘の頂部で確認した。攪乱の著しい国道沿いや砂丘の北側斜面では確認できない。VII a・VII b・VII cに細分した。統縄文時代後期の遺構・遺物を含む。
- VII a層：黒褐色砂層 土壌質に富む。後北C₂・D式期を主体に、オホーツク文化期の遺物を含む。
- VII b層：暗褐色砂層 後北C₂・D式期の遺物を含む。
- VII c層：にぶい黄褐色砂層 後北C₂・D式期の遺物を含む。砂丘頂部付近では層厚10cm程度で遺物は少数だが、調査区南東部のくほみ（「廃棄場」）では層が厚く多量の遺物が出土した。
- VIII層：黄褐色砂層 調査区南東部のくほみ（「廃棄場」）で遺物が多く、周辺で遺構を検出した。
- IX層：灰褐色砂層 層厚1～5cmの薄層が幾重にも堆積する。そのため薄層のすべてに番号を付して調査を行うことは困難であり、大きく2枚の遺物包含層と3枚の無遺物層に分けた。統縄文時代前期～後期の遺物を含む。また統縄文時代前期の確認面から遺構が検出された。
- IX a層：黄褐色～灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。
- IX b層：灰褐色砂層と暗褐色砂層の互層 ごく少数の遺物を含む。R-2（PIT11）を検出した。
- IX c層：灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。
- IX d層：暗褐色砂層 宇津内II a式期の遺物包含層。同期の遺構検出面である。
- IX e層：灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。

調査区内の一部の土層断面図を図VI-12に示した。このうち基本土層（D140区）では、砂丘列の重複が観察され、調査区の南側に形成された砂丘の上に、より新しい時代の砂丘が形成されている。どちらの砂丘も南側から北側に緩やかに傾斜して堆積しており、海に近づくほど新しい砂丘であることが想定できる。「土層③」は調査区中央部のもので、主にVII層の堆積状況を示したものである。「土層④」は調査区西部、主にIX層の堆積状況を示したものである。

（4）調査結果の概要（図VI-13）

統縄文時代前期～後期およびアイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。遺物は土器・石器等約10,300点を数えた。土器は宇津内II a式・II b式、後北C₂・D式のほか、鈴谷式、オホーツク刻文土器が少数出土した。石器等は各種剥片石器・礫石器のほか、石製品（平玉）がある。ほかにガラス玉、ペンガラ、褐鉄鉱、樹皮、炭化木片、骨片が出土した。

【統縄文時代前期】

IX層～VIII層で検出した。このうちVIII層宇津内II b式期では、石組炉1基を検出した。IX層宇津内II a式期では、土坑3基、集石を伴う土坑（集石土坑）3基、石組炉1基、焼土2か所、集石4か所、土器埋設遺構1か所、ペンガラ範囲4か所を検出した。特にE129区付近では集石土坑や焼土、ペンガラ範囲などが近接しており、関連があるものとみられる。

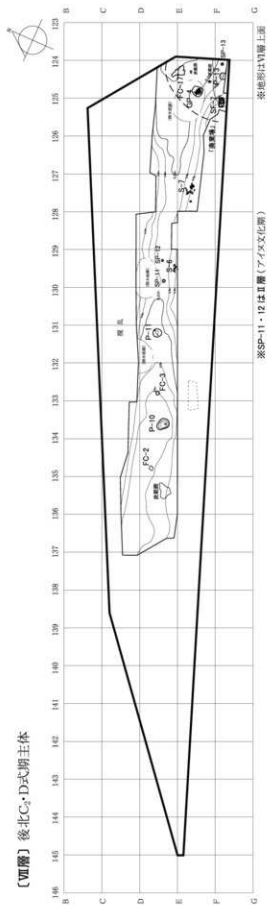
【統縄文時代後期】

VII層で検出した。遺構は後北C₂・D式期で、土坑墓1基、土坑3基、柱穴状小土坑1基、集石2か所、フレイクチップ集中3か所、「廃棄場」1か所を検出した。土坑墓は検出状況から再葬または追葬と考えられるもので、ガラス玉が副葬されていた。

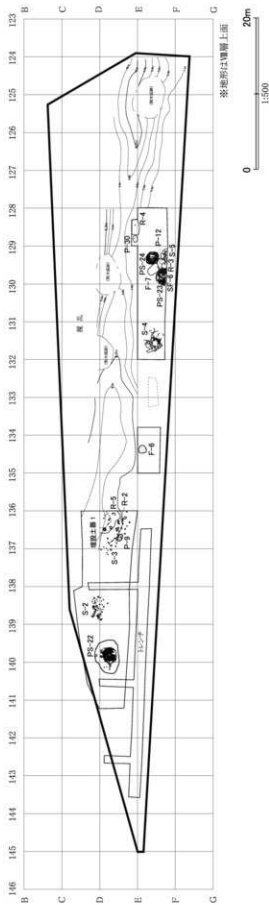
【アイヌ文化期】

遺構は柱穴状小土坑2基を検出した。伴う遺物はないが、A地区表土からキセルを回収した。

【Ⅳ層】 後北C₂-D式期主体



【Ⅲ層】 宇津内Ⅱa式期主体



図Ⅵ-13 2011年B地区遺構位置図

5 B地区の遺構の調査とその遺物

遺構の記載内容は、概要報告書（斜里町教育委員会2012）や図・写真から編者が記述した。

a 続縄文時代の遺構

(1) 土坑墓

1基（GP-4）を検出した。時期は、検出層位や出土遺物から後北C₂・D式期である。

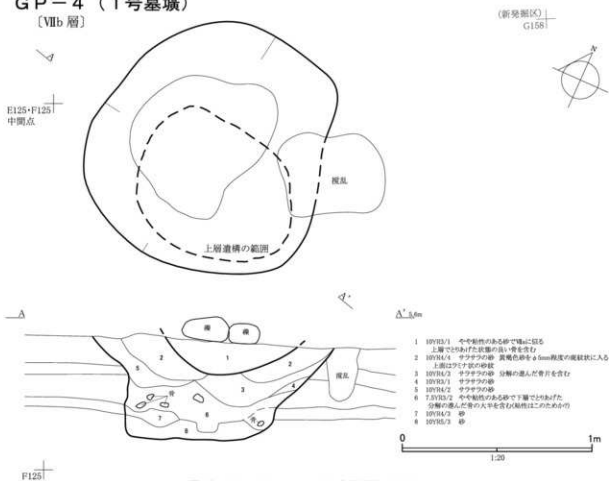
GP-4（1号墓坑）（図VI-14・15 表VI-1・2 口絵3・4、図版30）

調査区南東部のくほみ（「廃棄場」）で検出した。掘り込み面はVIIb層である。樹木による攪乱が一部深部にまで及んでいる。土層断面の観察の結果、一度埋めた土坑の上位を再度掘り込み改めて埋葬を行った、再葬または追葬と考えられる痕跡を確認した（調査担当者は「再葬墓」と考えている）。

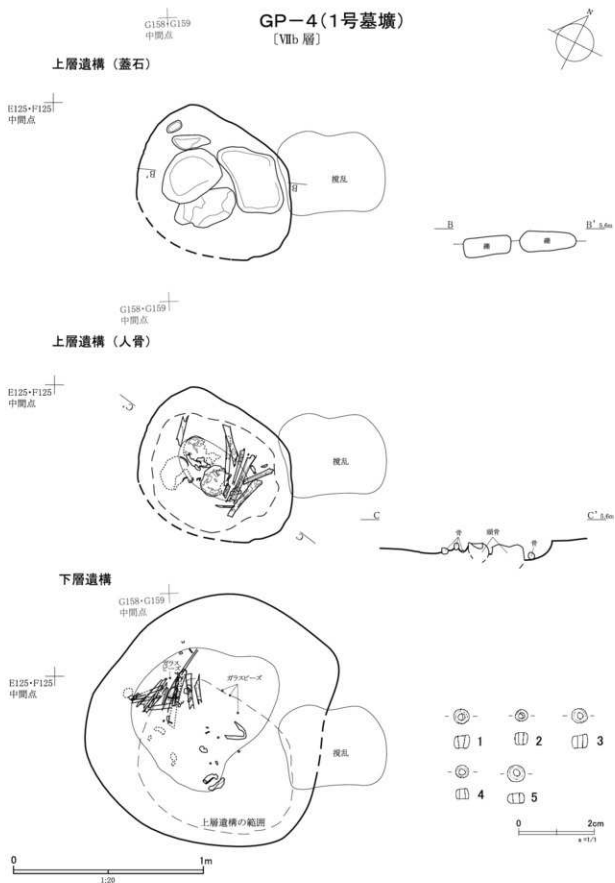
「下層遺構」は、ろうと状の掘り込みである。覆土中層に不均質な粘性の強い砂層があり、その中から多数の人骨片とガラス玉5個が散逸した状態で出土した。人骨は土中への分解が進み、腰骨・脊椎の一部、四肢骨の一部、下顎骨2個体、歯などが確認できるが、体位を復元できる状態ではなかった。覆土中から後北C₂・D式土器の小片がわずかに出土した。「上層遺構」は浅く掘り込んだくほみで、頭蓋骨3個体と四肢骨が集約して検出された。人骨は土中への分解が進み、非常に脆弱である。頭蓋骨は正面を向き合って横置きされていたようである。いずれも下顎骨が失われた状態で、1個体は上顎のみ残存していた。四肢骨はいずれも端部が失われている。なお、土坑上面には30cm大の安山岩の礫が並べられており、「蓋石」に相当する。

GP-4（1号墓坑）

〔VIIb層〕



図VI-14 GP-4（1号墓坑）（1）



図Ⅳ-15 GP-4(1号墓塚)(2)

掲載遺物：1～5はガラス玉。いずれもやや透明性をもつ青色を基調としている。ガラス中の気泡が同方向に延びていることから引き延ばし法によって製作されたものと考えられる。上下の面がほぼ平行する1・2と片側が傾斜する3～5が見られる。後者の傾斜面にも他と同様の光沢が見られることから、玉ずれによる傾斜ではないと考えられる（Ⅷ章2）。

(2) 土坑

6基（P-9～13・30）を検出した。時期は、Ⅸ層のP-9・12が宇津内Ⅱa式期、P-30が宇津内ⅡaまたはⅡb式期、Ⅶ層のP-10・11・13が後北C₂・D式期である。

P-9 (PIT13) (図Ⅵ-16 表Ⅵ-1 図版31)

調査区西部のⅨ層で検出した。不整楕円形の浅い土坑で、覆土の下位にしまりの強い黒色土が堆積していた。

P-10 (PIT2) (図Ⅵ-16 表Ⅵ-1・2 図版31・64)

調査区中央部のⅦb層で検出した。深さは40cmほどあり、坑底はやや丸みをおびる。中位に段があり上位が広がる。覆土中から後北C₂・D式2点、石鏝1点、フレイクチップ10点が出土した。また坑底付近からやや大型の礫が出土した。

掲載遺物：1は石鏝。平基で、側縁はわずかに湾曲する形状である。先端部が欠損している。

P-11 (PIT5) (図Ⅵ-16 表Ⅵ-1・2 図版31)

調査区中央東部のⅦb層で検出した。おおむね円形で、湾状にくぼむ。礫が少数出土した。

P-12 (PIT25) (図Ⅵ-16 表Ⅵ-1・2 図版31)

調査区東部のⅨ層で検出した。おおむね楕円形で、坑底の立ち上がりは丸みをおびる。F-7 (PIT22)・S-5 (PIT14)・R-3 (PIT24)と重複し、いずれも当遺構が古い、大きな時間差はないものと思われる。覆土中からフレイク4点が出土した。

P-13 (PIT8) (図Ⅵ-17 表Ⅵ-1・2 図版31・64)

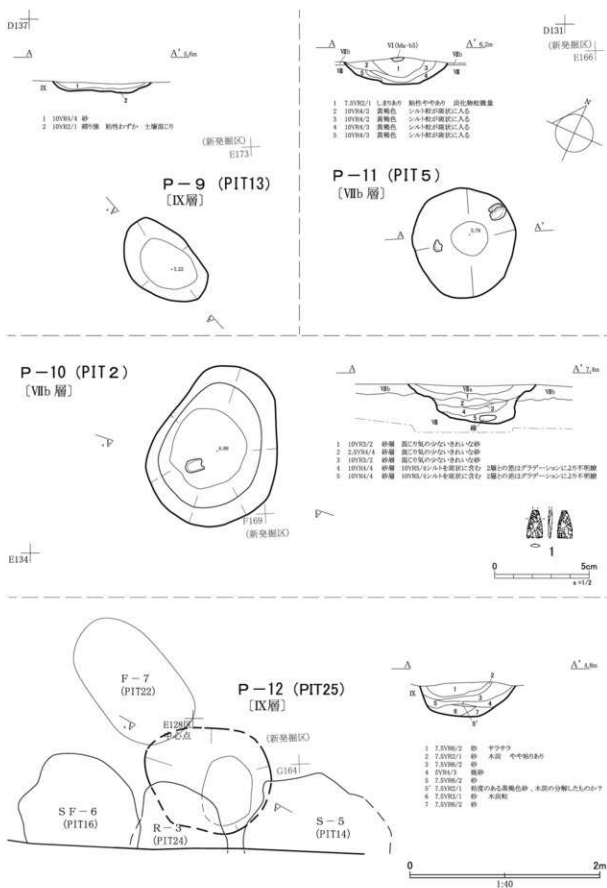
調査区南東端のⅦb層で確認した。おおむね円形で、坑底は丸みをおびる。覆土中から後北C₂・D式11点、石鏝・搔器・Rフレイク各1点、フレイクチップ13点、台石2点が出土した。また覆土の最下層から焼骨片を回収した。

掲載遺物：1は後北C₂・D式。弧状の帯縄文に沿う微隆起線と三角列点が施文されている。2は石鏝。わずかに凹基となっており、正面を中心に加工が施され、裏面には素材面が大きく残っている。3はスクレイパー。下端部を中心にやや平坦な加工が施されている。4はRフレイク。左側縁に加工が施されている。5・6は台石。両者とも正裏面に平滑面があり、5は全面的にベンガラが付着している。

P-30 (PIT21) (図Ⅵ-17 表Ⅵ-1・2 図版32・64)

調査区中央南部のⅨ層を掘削中、一個体の大型土器片がまとまって出土した。周囲を精査したところ、Ⅸd層上面で黒褐色砂層の楕円形まとまりを検出した。黒褐色砂層を掘り下げたところ、平坦面と壁の立ち上がりを検出し、土坑とした。掘り込み面はⅨb層またはⅦ層と推測され、大型深鉢は覆土中からの出土とみられる。また覆土下位からベンガラが少量検出された。

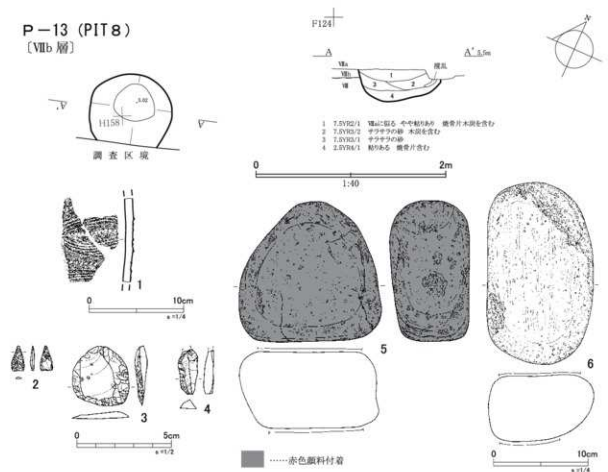
掲載遺物：7は宇津内Ⅱ式の大型深鉢。大2+小2個一組の突起を起点に擬縄貼付文などにより文様が割り付けられている。地文縄文→細沈線による割り付けの下書き→突起部の貼瘤→擬縄貼付文→7～8条の縄線→縄端刺突列、の順に施文されたものと観察できる。宇津内Ⅱa式とⅡb式の過渡期の様相を呈している。8は後北C₂・D式。何らかの影響による混入と考えられる。



図Ⅴ-16 P-9・10・11・12 (PIT13・2・5・25)

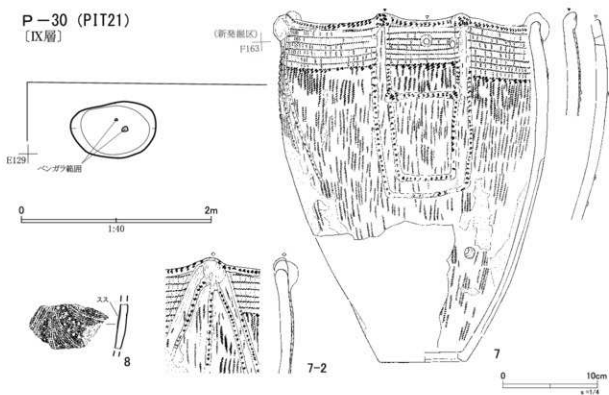
P-13 (PIT8)

〔Ⅷb層〕



P-30 (PIT21)

〔IX層〕



図Ⅵ-17 P-13・30 (PIT 8・21)

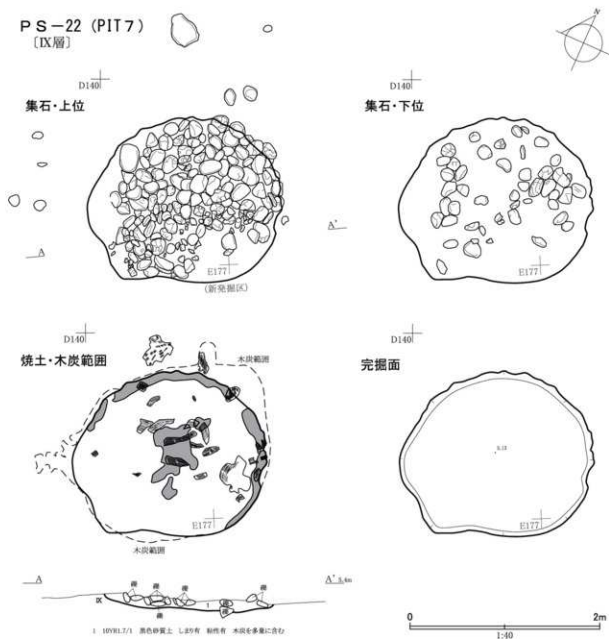
(3) 集石土坑

3基 (P-9~13) をいずれもⅨ層で検出した。時期は、検出層位から宇津内Ⅱa 式期である。

PS-22 (PIT7) (図Ⅵ-18・19 表Ⅵ-1・2 図版31・64)

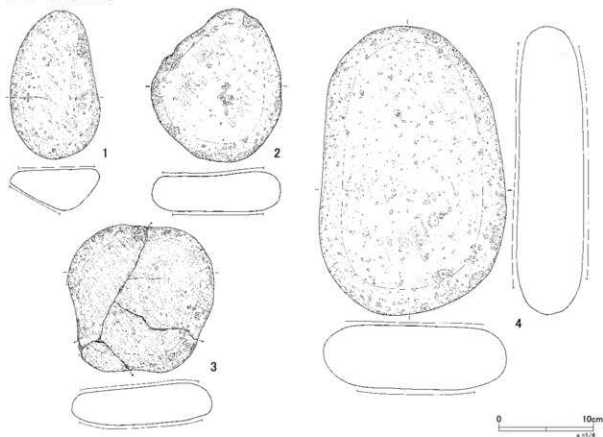
調査区西部のⅨ層で検出した。不整楕円形の浅い土坑に、礫が平面的に密集して出土した。覆土はしまりのある黑色砂層で、礫の下位から炭化材や炭化木片が多量に出土した。また坑底中央付近や周縁部に、褐色に被熱した跡がみられた。遺物は、覆土中からフレイクチップ45点のほか、台石が出土した。

掲載遺物：1はすり石。正面全体と裏面右側にすり面が見られる。2~4は台石。いずれも正裏面に平滑面が見られる。



図Ⅵ-18 PS-22 (PIT7)

PS-22 (PIT7)



図VI-19 PS-22 (PIT7) 出土の遺物

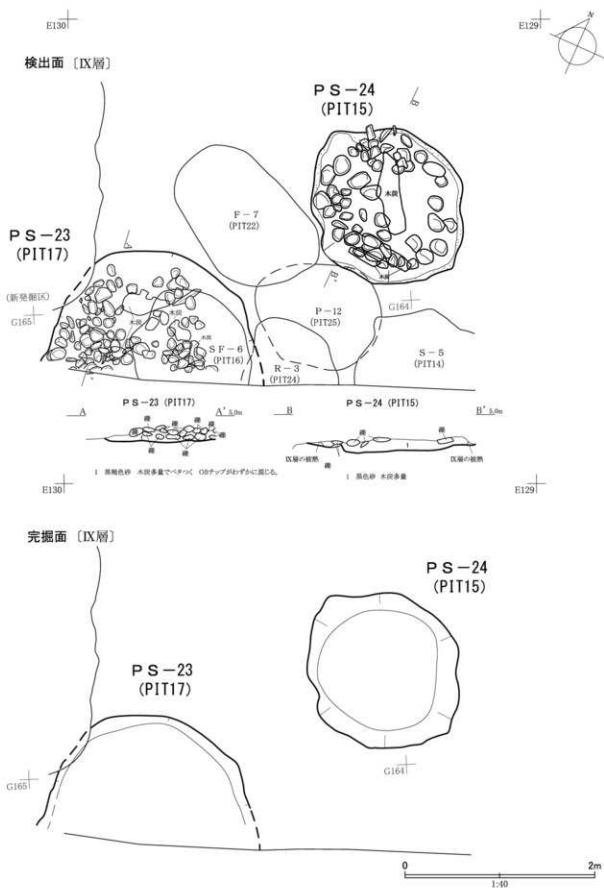
PS-23 (PIT17) (図VI-20・21 表VI-1・2 図版31・64)

調査区中央南部のⅩ層で検出した。南側は調査区外に広がる。楕円形と推定する浅い土坑に、礫が平面的に密集して出土したが、ややすき間がある。覆土は黒色砂層で、礫の下位から炭化木片が多量に出土した。遺物は、覆土中から石器等12点が出土した。削器、フレイクチップ、石斧、砥石、すり石、台石がある。SF-6 (PIT16)・R-3 (PIT24) と重複し、当遺構が古いものの大きな時期差はないとみられる。またPS-24 (PIT15)・P-12 (PIT25)・F-7 (PIT22)・S-5 (PIT14) が近接し、関連があるものと思われる。

掲載遺物：1はナイフ。左側縁全体に加工が施されている。2は石斧。上半部が欠損している。左側縁に粗い両面加工を施した後、全面的な研磨により両刃の刃部が作出されている。3～5はすり石。いずれも扁平な原石が利用され、正面の他に3は側面、4・5は裏面にすり面が見られる。5はベンガラが付着している。6は台石。正裏面に平滑面が見られる。

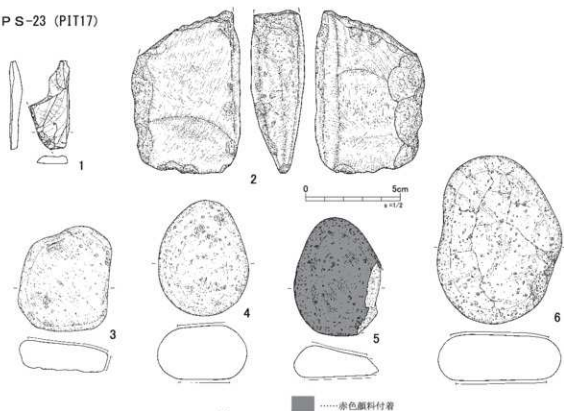
PS-24 (PIT15) (図VI-20・21 表VI-1・2 図版31・64)

調査区中央南部のⅩ層で、上記のPS-23付近で検出した。不整楕円形の浅い土坑に、礫が平面的に密集して出土した。中央部にすき間がある。覆土は黒色砂層で、礫の下位から炭化木片が多量に出土した。大型の炭化材が複数残されている。また土坑周縁部に一部被熱した跡がみられる。遺物は、覆土中から石器等がわずかに出土し、フレイクチップ、すり石、台石がある。またPS-23記載の遺構群との関連があるものと思われる。

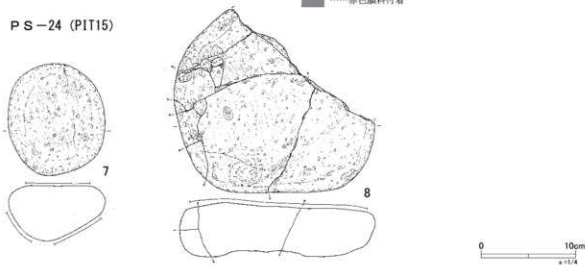


図Ⅴ-20 PS-23・24 (PIT17・15)

PS-23 (PIT17)

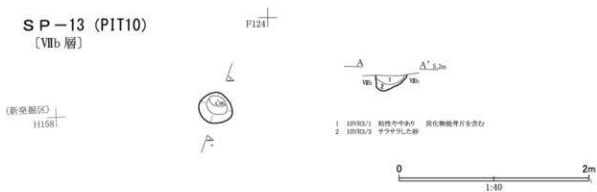


PS-24 (PIT15)



SP-13 (PIT10)

(Ⅶb層)



図Ⅵ-21 PS-23・24出土の遺物・SP-13 (PIT10)

掲載遺物：7はすり石。裏面が山形に盛り上がる原石が利用され、稜付近を除く全面にすり面が見られる。8は台石。扁平な原石の正面に平滑面が見られる。

(4) 小土坑

1基（SP-13）を検出した。時期は、検出層位から後北C₂・D式期である。

SP-13 (PIT10) (図VI-21 表VI-1・2)

調査区南東隅のⅧ層で検出した。覆土に炭化物や焼骨を含む。周辺は「廃棄場」にあたる。

(5) 石組炉

3基（SF-6・7）を検出した。時期は、Ⅸ層のSF-6が宇津内Ⅱa式期で、Ⅷ層のSF-7が宇津内Ⅱb式期である。

SF-6 (PIT16) (図VI-22 表VI-1・2 図版5・65)

調査区中央南部のⅨ層で検出した。火床面（焼土）はおおむね楕円形で明褐色を呈し、強く被熱している。その周囲の北～東に大型礫が残るが、やや不規則な配置で検出された。さらに周囲には焼骨片が分布する。PS-23 (PIT17) と重複し、当遺構が新しい。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱa式。口唇直下に小型の突瘤文が連続する。内面に炭化物が付着する。2・3は石鏃。2は凹基、3は平基でいずれも先端部が欠損している。3の裏面には素材面が残存する。

SF-7 (PIT12) (図VI-22 表VI-1・2 図版5・65)

調査区南東部で検出した。調査時はⅧ層としていたが、2012年調査区の土層確認により、Ⅷ層に訂正している。石組みの平面形はおおむね長方形で、安山岩製の亜円礫で囲み、その内側を窪ませている。石組内の中央から東寄りに被熱層があり、火床面から魚類・鳥類・小動物の焼骨を回収した。特に魚骨は多く、サケなどの歯・顎・椎骨などが確認できた。ほかに覆土から宇津内Ⅱb式土器片とチップがわずかに出土した。

掲載遺物：4・5は台石。いずれも正面の平坦面が平滑となっている。

(6) 焼土

2か所（F-6・7）検出した。時期は、検出層位からいずれも宇津内Ⅱa式期である。

F-6 (PIT23) (図VI-23 表VI-1)

調査区中央南部のⅨ層で、単独検出した「焼砂」範囲である。おおむね円形を呈する。

F-7 (PIT22) (図VI-23 表VI-1・2 図版6・65)

調査区中央南部のⅨ層で検出した。木炭粒を少量含む。またメノウチップのほか、赤色顔料の付着したすり石やベンガラ・褐鉄鉱が出土した。ベンガラ製作にかかわる焼土の可能性がある。P-12 (PIT25) と重複し、当遺構が新しい。またPS-23 (PIT17)・PS-24 (PIT15)、SF-6 (PIT16)、R-3 (PIT14) が近接し、関連があるものと思われる。

掲載遺物：1は赤色顔料が付着したすり石。棒状の原石が利用され、両側面の稜線を除く全体的にすり面が見られる。

(7) 礫集中

6か所（S-2～7）を検出した。時期は、Ⅸ層のS-2～5が宇津内Ⅱa式期で、Ⅷ層のS-6・7が後北C₂・D式期である。

S F-6 (PIT16)

[Ⅸ層]

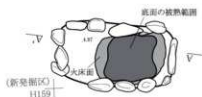


- 1 明褐色砂 魚骨 粘性あり
- 2 明褐色砂 魚骨 木炭 粘性あり
- 3 F-10(PIT22)焼土層
- 4 Ⅸ層砂

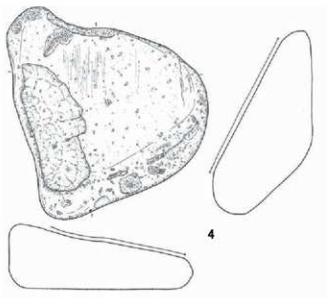
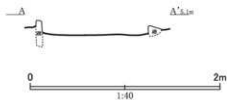
F130

S F-7 (PIT12)

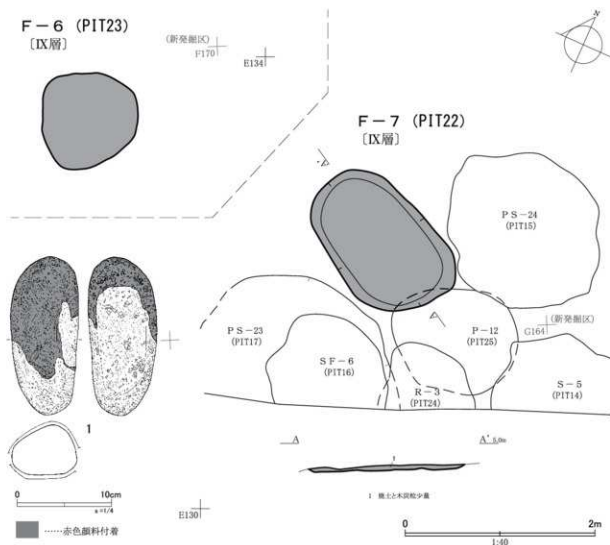
[Ⅷ層]



F125



図Ⅵ-22 S F-6・7 (PIT16・12)



図VI-23 F-6・7 (PIT23・22)

S-2 (PIT9) (図VI-24 表VI-1)

調査区北西部のIX層で検出した。大小の礫が3.4mほどの範囲からややまとまって出土した。

S-3 (集石) (図VI-24・26 表VI-1・2 図版65)

調査区中央西部のIX層で検出した。約6mにわたり帯状に礫が分布する。大型礫が多く、やや間隔があき分布密度は小さい。北側にベンガラ範囲R-5が広がり、赤色顔料が付着した台石などが当集石にも含まれている。

掲載遺物：1～3は台石である。いずれも扁平な原石が利用され、正面に平滑面が見られる。1は裏面にも平滑面が存在する。

S-4 (PIT20) (図VI-25・26 表VI-1・2 図版65)

調査区中央南部のIX層で検出した。約1.1mの範囲に礫が密集して出土した。周辺は攪乱が多く、当遺構も東側及び西側の一部を欠く。集石の西側にはブロック状の焼土が複数あり、周囲にベンガラや木炭が広がっている。これらを含めてS-4とした(2018年)。遺物はフレイクチップ類5点のほか、字津内Ⅱa式3点、台石1点が出土した。またベンガラや骨片も多く出土している。

掲載遺物：4・5は宇津内Ⅱa式土器。4は地文のR L斜行縄文と突窟文のみが施されている。一方5は縄線や縄端刺突が施されている。6はRフレイク。両側縁に部分的に細かな加工が施されている。7は台石。扁平な原石の正面に平滑面が見られる。

S-5 (PIT14) (図VI-25・26 表VI-1・2 図版32・65)

調査区中央南部のⅨ層で検出した。台石を含む大型礫が平面的にまとまって出土した。P-12 (PIT25)と重複し、当遺構が新しい。またPS-23 (PIT17)・PS-24 (PIT15)、SF-6 (PIT16)、F-7 (PIT22)、R-3 (PIT14)が近接し、関連があるものと思われる。

掲載遺物：8～11は台石。大きさにばらつきが見られるが、いずれも正面に平滑面が見られる。

S-6 (集石遺構1) (図VI-27 表VI-1・2 図版32・65)

調査区中央部のⅦ層で単独で検出した。礫石器を含む亜円礫が不整形なまとまりで検出された。

掲載遺物：1はたたき石。やや扁平な楕円形の原石の広い小口面に敲打痕が見られる。2は台石。正裏面に平滑面が見られ、正面から側面にかけてベンガラが付着している。

S-7 (PIT6) (図VI-27 表VI-1・2 図版32・66)

調査区中央東部のⅦ層で単独で検出した。礫石器を含む亜円礫が不整形なまとまりで検出された。遺物は後北C₂・D式13点、フレイクチップ類21点のほか、刮器、搔器、台石が出土した。

掲載遺物：3～6は後北C₂・D式。3～5は同一個体の大型深鉢。弧状の帯縄文を主体とする文様が配されている。微隆起線は見られない。5は平底。底部付近まで帯縄文が施されている。6は胴下部で、帯縄文ではなく条痕文が施され、以下は底部まで無文である。7・8はナイフ。いずれも両面全体に平坦加工が施されている。7の下端は尖るように成形されている。8は上下端が欠損している。9はスクレイパー。下部部に円弧状の刃部が作出されている。10はRフレイク。左側縁にやや平坦な加工が施されている。11は台石。扁平な原石の正裏面に平滑面が見られる。

(8) フレイクチップ集中 (図VI-28 表VI-1・2)

3か所 (FC-2・3・17)をⅦ層で検出した。FC-2・3は調査区中央部の砂丘上、FC-17は調査区東部の斜面上にある。各発掘区の「石器集中」として調査を行っていた。黒曜石のチップを主体とする。時期は、いずれも後北C₂・D式期である。

(9) 土器埋設遺構 (図VI-28 表VI-1 図版66)

1か所 (埋設土器1)を調査区中央西部のⅨ層で検出した。土器は口縁部～胴部が倒立した状態で出土した。ベンガラ範囲R-3の薄層を切っている。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱa式の深鉢。胴下部は剥落が多い。2+2単位の文様構成で、突起を起点に擬縄貼付文などによりH状や山形の文様が割り付けられている。各突起内側にも縄線が施され、口唇は縄端刺突が連続する。

(10) ベンガラ集中

4か所 (R-2～5)を検出した。時期は、検出層位から宇津内ⅡaまたはⅡb式期、R-3～5が宇津内Ⅱa式期である。

R-2 (PIT11) (図VI-29 表VI-1・2 図版8)

調査区西部のⅨb層中で検出した。小規模な範囲ながら、最大12cmの厚さでベンガラが濃集していた。採取した土壌は、2mm・1mm・0.425mm目のふるいをかけて褐鉄鉱や粒径の大きいベンガラ等を

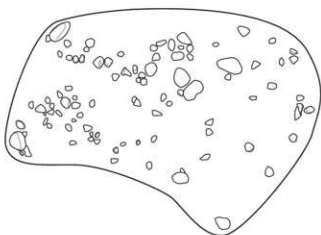
(新発掘区)
D176

D175



S-2 (PIT9)
[IX層]

D139



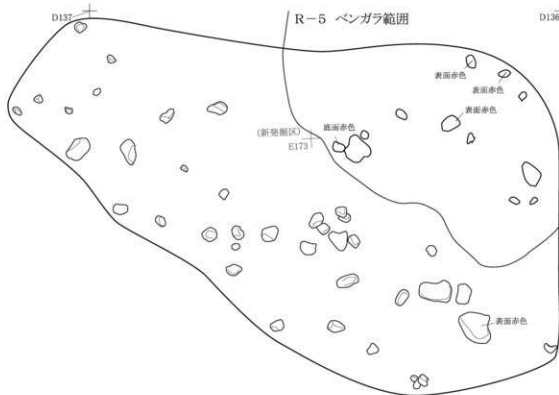
D138

S-3 (集石)
[IX層]

D137

R-5 ベンガラ範囲

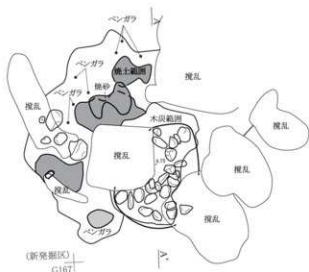
D136



0 1:40 2m

図VI-24 S-2・3 (PIT9・集石)

S-4 (PIT20)
〔IX層〕

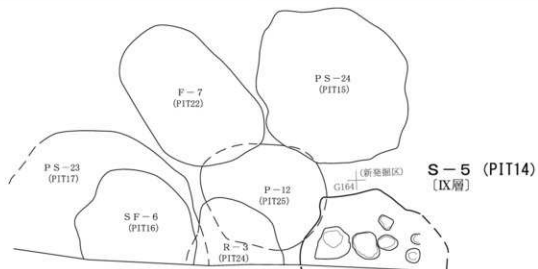


E131



- 1 木炭層
- 2 機砂
- 3 1912/3 砂

G166



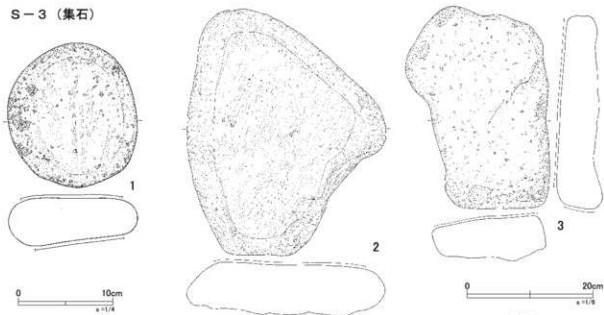
S-5 (PIT14)
〔IX層〕



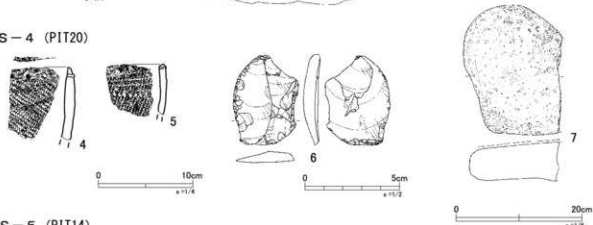
F129

図Ⅵ-25 S-4・5 (PIT20・14)

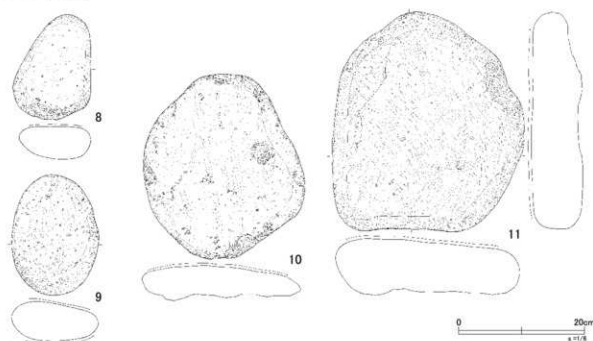
S-3 (集石)



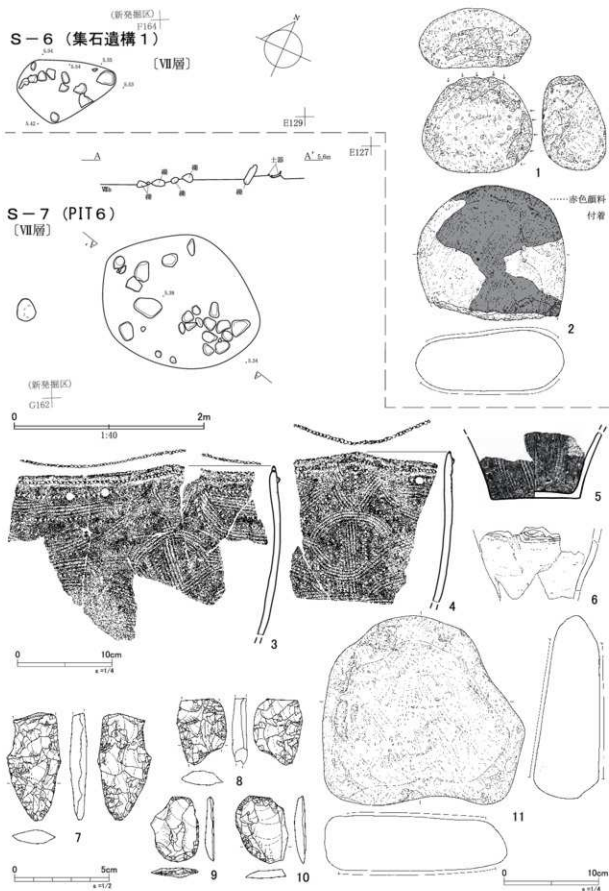
S-4 (PIT20)



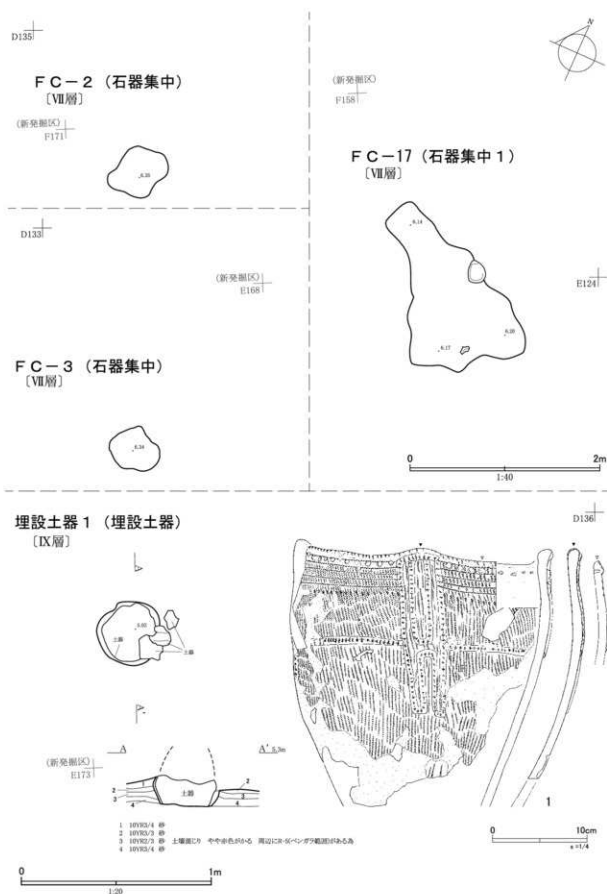
S-5 (PIT14)



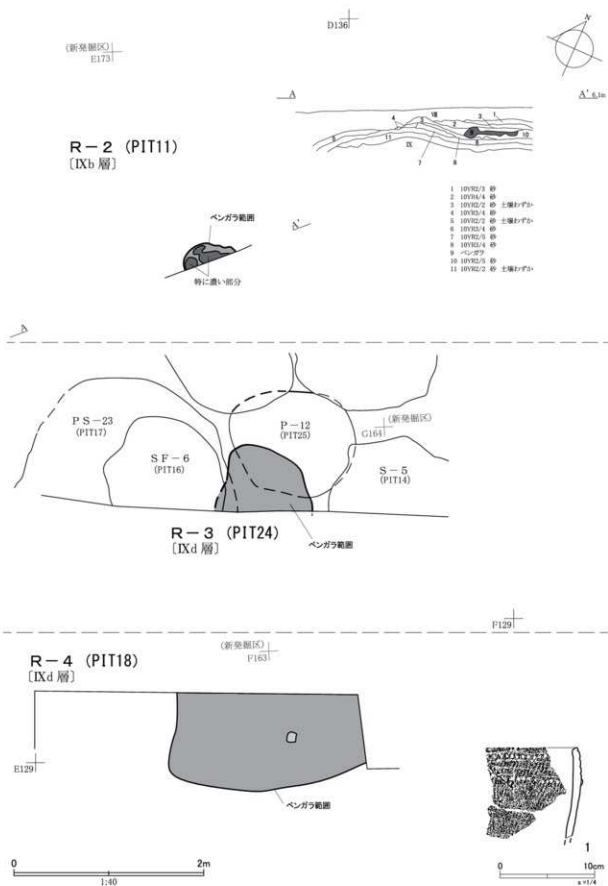
図M-26 S-3・4・5出土の遺物



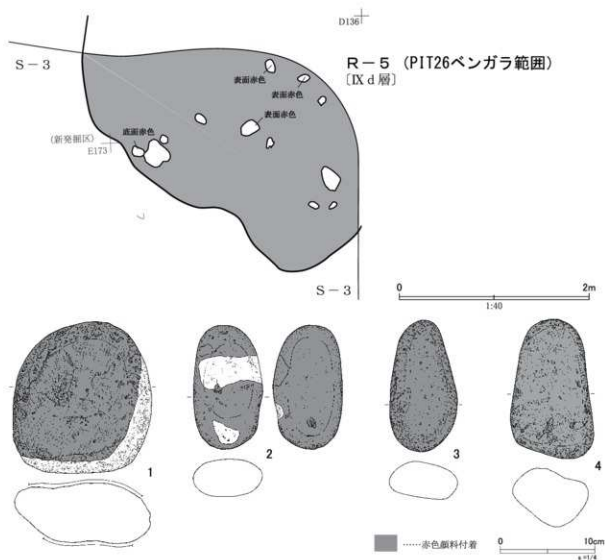
図Ⅵ-27 S-6・7 (集石1・PIT6)



図VI-28 FC-2・3・17(石器集中)・埋設土器1



図Ⅵ-29 R-2・3・4 (PIT11・24・18)



図VI-30 R-5 (PIT26)

回収した。

R-3 (PIT24) (図VI-29 表VI-1)

調査区中央南部のIX層で検出した。一定範囲に分布するが、周辺にもベンガラがみられる。P S-23 (PIT17)・P-12 (PIT25) と重複し、当遺構が新しいものの、大きな時間差はないと思われる。S F-6 (PIT16)・S-5 (PIT14) はかが隣接し、関連する。

R-4 (PIT18) (図VI-29 表VI-1・2)

調査区中央部、R-3の北西のIX層で検出した。約2×1mの範囲に赤みを帯びた砂層が広がっていた。土嚢袋9袋の土壌を採取し、2mm・1mm・0.425mm目のふるいをかけて褐鉄鉱や粒径の大きいベンガラ等を回収した。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱ式。斜行する擬縄貼付文、縄線、縄端刺突列が施されている。さらに宇津内Ⅱa式では突宿文が施される位置に、縄端刺突が連続する。宇津内Ⅱa式とⅡb式の要素があり、過渡期の様相を呈している。内面に炭化物が多量に付着している。

R-5 (PIT26ベンガラ範囲) (図VI-30 表VI-1 図版8・66)

調査区中央西部のⅧ層で検出した。S-3 (集石) の北側に約3mの範囲に分布する。北側はど赤色がかっている。赤色顔料の付着した礫石器や礫が多く出土した。

掲載遺物: 1はすり石。正表面にすり面が見られる。また正面にはベンガラが付着している。2～4はベンガラの付着する礫である。いずれもやや細長い原石である。

(11)「廃棄場」 (図VI-31～33 表VI-1・2 図版30・32・66・67)

調査区南東部の表土において、径5m以上の隅丸方形のくぼみが確認できた。当初竪穴住居跡を想定してトレンチ調査などを行ったが、調査の結果、大型の倒木痕や攪乱であることがわかった。しかし周辺のⅧ層からは個体土器を含む遺物が多量に出土しており、砂丘の斜面を利用した「廃棄場遺構」と判断している。範囲は約8mで、北側の砂丘肩部から南・南西側の裾部におよび、標高差は約1mである。なお範囲内のくぼみで検出したGP-4 (1号墓壙) は、一部倒木痕・攪乱が及ぶ。

遺物は土器540点、石器等476点、礫107点のほか、褐鉄鉱、木炭、樹皮、堅果類、骨片などが出土した。土器は後北C₂-D式が大部分で、ほかに宇津内Ⅱb式が22点、オホーツク刻文土器が1点ある。石器はフレイクチップ類が多く、石鏃、石錐、削器、搔器、砥石、たたき石、くぼみ石、すり石、台石のほか、石製品がある。

掲載遺物:**土器** (図VI-32)

1～4は宇津内Ⅱb式。1～3は同一個体と思われる。刻みの付された細い貼付文により、同心円文と連携する3本組の直線文様が配されている。4は上げ底で、底部付近の外面に繩端刺突列がめぐり、底面に刺突列が並列する。

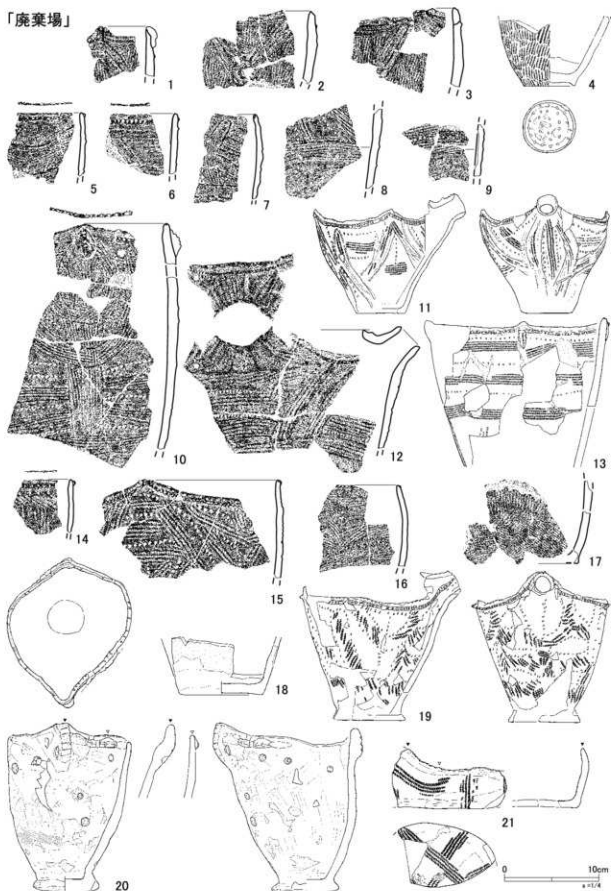
5～21は後北C₂-D式。5～12は帯縄文に沿う微隆起線が施されているもの。5は帯縄文のかわりに条痕文が施文されている。7は口縁部がやや湾曲し、注口または片口付きと思われる。9は帯縄文最下部の微隆起線がみられない。10は大型深鉢で、突起下に貼瘤状の貼付文があり、楕円の帯縄文などが配されている。11・12は注口付き鉢。ともに、注口上部にも擬縄貼付文が施されている。11は帯縄文による変形した2+2単位の文様が配されている。12は大型で、胎土に砂粒を多量含む。13～21は帯縄文に沿う微隆起線がみられない。13は併行する3段の帯縄文で区画されている。14～16は帯縄文がやや不規則に施文されている。17は底部付近で、細かい燃りの縄文が短く多方向に施文されている。18は平底。19は注口付きの小型深鉢。帯縄文による文様がやや間隔があいており、鋭角の三角列点が目立つ。底部は張り出し、底面にも帯縄文が施文されている。20は片口付きの小型深鉢。全体的に歪んでいる。指頭押捺痕が多く残るなど成形がいねいに行われておらず、ケズリ調整痕が残る。底部は張り出し、底面は丸みがある。無文で、片口付近や対面する突起側の口縁部に擬縄貼付文が部分的にみられる。片口には楕円形の貫通孔のある把手状の隆帯があり、刻みが施されている。補修孔が4組あり、破損後も用いられたことがわかる。内面上部に炭化物が多量に付着している。21は浅鉢。平底で急に立ち上がる。口縁は突起部で大きく波状をなす。帯縄文により、外面から底面に連続する文様が施されている。

(阿部)

石器等 (図VI-33)

1～6は石鏃。1～4は平底で両側縁が湾曲・屈曲する形状である。5は有茎で下端部が収斂し、明瞭なカエシがある。6は下半部が欠損している。7・8はナイフ。7は両面全体に加工が施されている。下半部が欠損する。8はつまみ部があり両面に入念な加工が施されている。刃部の加工は微弱

「廃棄場」



図VI-32 「廃棄場」出土の土器

「廃棄場」



図VI-33 「廃棄場」出土の石器・石製品

である。9～19はスクレイパー。9～12は側縁を中心に湾曲するように加工が施されている。13～16は下端部に円弧状の刃部が作出されている。17～19は下端部に直線状の刃部が作出されている。20は石錐。正面を中心に半両面加工が施され、表面に素材面が残存する。21はRフレイク。裏面の右側縁に連続する加工が施されている。22・23はUフレイク。縁辺の一部に微細な加工が見られる。24～26はたたき石。24・25は楕円形、26は棒状の原石を利用し、下端部に敲打痕が見られる。27・28はすり石。正裏面とも丸みのある原石を利用し、前者の正面、後者の正裏面にすり痕が見られる。29はくぼみ石。安山岩製で正面中央にくぼみがみられる。30・31は砥石。いずれも扁平な砂岩製で、30には浅い溝状の擦痕が見られる。31にはすり痕により一部に段差が生じている。32は台石。扁平な原石の正裏面に平滑面が見られる。

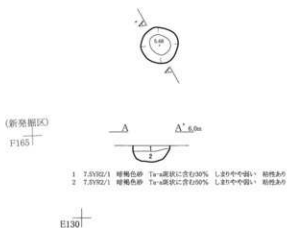
33は環状石製品である。全面的な研磨により円形で薄手の扁平に成形され、中央に1.5cmほどの穿孔がある。穿孔の周縁は両面からの面取りが行われている。(直江)

b アイヌ文化期の遺構

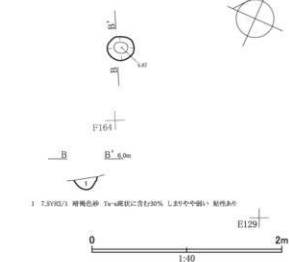
(1) 柱穴状小土坑 (図VI-34 表VI-1 図版32)

2基 (SP-11・12) を調査区中央東部のⅣ層で検出した。小土坑で、底面は丸みがある。さらに上位からの掘り込みであり、時期はアイヌ文化期とみられる。

SP-11 (PIT3)



SP-12 (PIT4)



図VI-34 SP-11・12 (PIT3・4)

6 B地区の包含層出土の遺物

(1) 土器 (図VI-35・36 表VI-3・4 図版68)

縄文時代の土器 (1~32)

初期を除いた前半期～後半期の土器が731点出土した。宇津内Ⅱ a式はⅨ層から、宇津内Ⅱ b式は調査区南東部のⅦ～Ⅷ層から少数出土した。後北C₂・DはⅦ層を主体に、調査区の広範囲に分布する。

宇津内Ⅱ a式 (1~3)

1・2は小型の突縮文が連続する。3は縄線下の縄端刺突列がみられる。

後北C₂・D式 (4~31)

4~16は微隆起線による文様のあるもの。4は大型の深鉢。縦4単位横2段のやや乱れた線対称の文様構成をとり、弧線や楕円、斜位の帯縄文などが施されている。4・7は口縁部に擬縄貼付文が2列貼付されている。9~11は微隆起線とその裾部に沿って赤彩が施されている。胎土が黒褐色だが表面がにぶい黄褐色であることから、化粧粘土が施されていたとみられる。12は弧線文主体、13は5段の平行する帯縄文をハの字状に横断する文様が配されている。15・16は注口付きの鉢。15は双口注口で、希少な例である。16は把手付きの注口部。把手上に上方から穿たれた貫通孔がある。

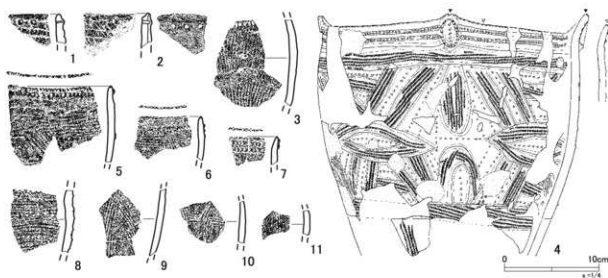
17~31は帯縄文に沿う微隆起線がみられない。17~20は口縁部に擬縄貼付文が2列施されている。17は4段の平行する帯縄文を基本とし、突起下に縦位と弧線の帯縄文が配されている。20は帯縄文の代わりに条痕文が施されている。24は口唇角に刻みが施されている。25~27は口縁部に擬縄貼付文がみられない。29・30は底部で、29は底部付近まで帯縄文がある。31は把手付きの注口部。把手上に縦長の貫通孔がある。

鈴谷式 (32)

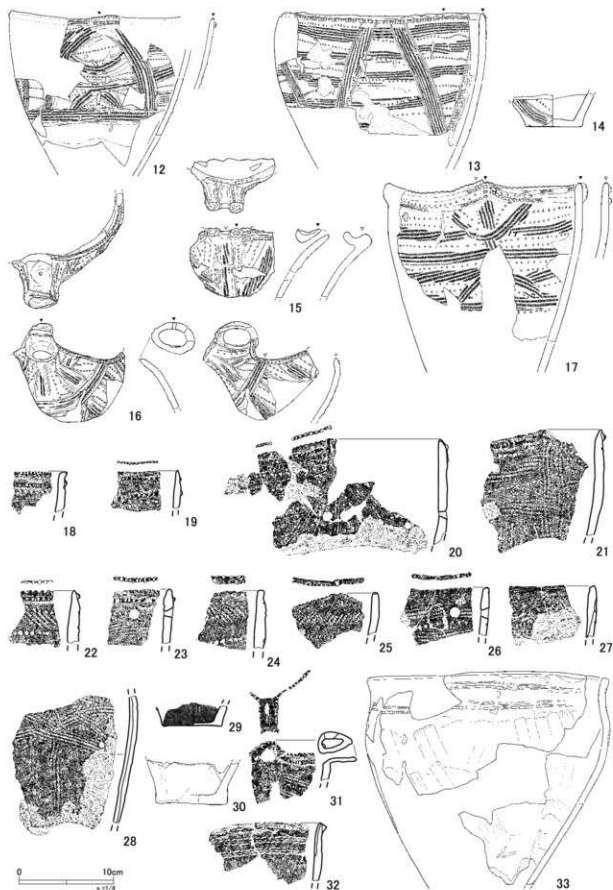
32は調査区中央部のⅦ層で出土した数少ない鈴谷式で、交互異方向の3本組撚糸による縄線が2条施されている。

オホーツク文化期の土器 (33)

調査区南東部のⅦ層に少数分布する。33はやや大型の甕で、口縁部および頸部に2本組沈線に近い刻文が浅く施されている。 (阿部)



図VI-35 B地区包含層出土の土器 (1)



図Ⅵ-36 B地区包含層出土の土器(2)

(2) 石器等 (図VI-37~39 表VI-5~7 図版69)

層位によっておおよその時期に区分できるため、いくつかの層位ごとに二つに分けて報告する。

Ⅵ・Ⅹ層出土の遺物 (1~21)

1~21は統縄文時代前半期に属し、主に宇津内Ⅱ式期のものが主体と考えられる。

石鎌 (1)

1は凹基で側縁がやや湾曲している。両面全体に平坦加工が施されている。

ナイフ (2)

2は上半部に太い柄部があり、下端部が尖る形状である。器体中央部にやや明瞭なカエシが見られる。両面全体にやや粗い加工が施されている。

スクレイパー (3~7)

3は矩形の柄部があり、縁辺に急角度加工を施して下端部がゆるやかに尖る形状である。ナイフを再加工して大きさが縮小したものと思われる。4~6は縁辺全体に加工が施され、下端部に円弧状の刃部が作出されている。7は下端部に急角度の加工が施され、直線状の刃部が作出されている。

石錐 (8)

8は両面加工により細く突出する刃部が作出されている。

Rフレイク (9)

9は両側縁に細かな加工が施されている。

石核 (10)

10は主に正面と右側面との交互剥離が行われている。

すり石 (11~15)

12・13・14は正面、11・15は正裏面にすり面が見られる。

砥石 (16~18)

16・17は軽石製で、前者には一部に溝状の擦痕、後者には全面的に擦痕が見られ丸い形状となっている。18は扁平な砂岩製で、擦痕により一部に段差が生じている。

台石 (19~21)

19~21はいずれも扁平な原石が利用され、正面に平滑面が見られる。21は裏面にも平滑面がある。

Ⅶ・Ⅶa・Ⅶb層出土の遺物 (22~71)

22~71は統縄文時代後半期に属し、主に後北C₂・D式期のものが主体と考えられる。

石鎌 (22~28)

22~25が平基のもの。側縁は22・23が屈曲、24・25がほぼ直線の形状である。素材面は23・25の裏面に残存している。26は有茎で、下端部が収斂する形状である。27・28は下半部が欠損している。

ナイフ (29~36)

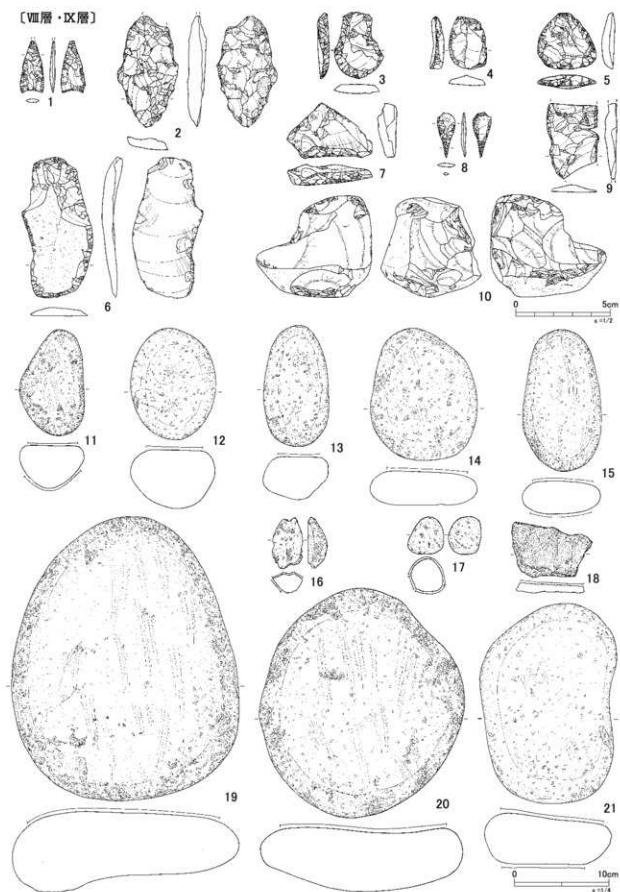
29~33は下端部が尖る形状のもの。29・30は完形でいずれも縁辺全体に半両面加工が施されている。31~33は上半部が欠損している。31は片面加工、32・33は両面加工により非常に細長い形状に成形されている。34~36は下半部が欠損している。いずれもやや粗い両面加工が全面的に施されている。

スクレイパー (37~49)

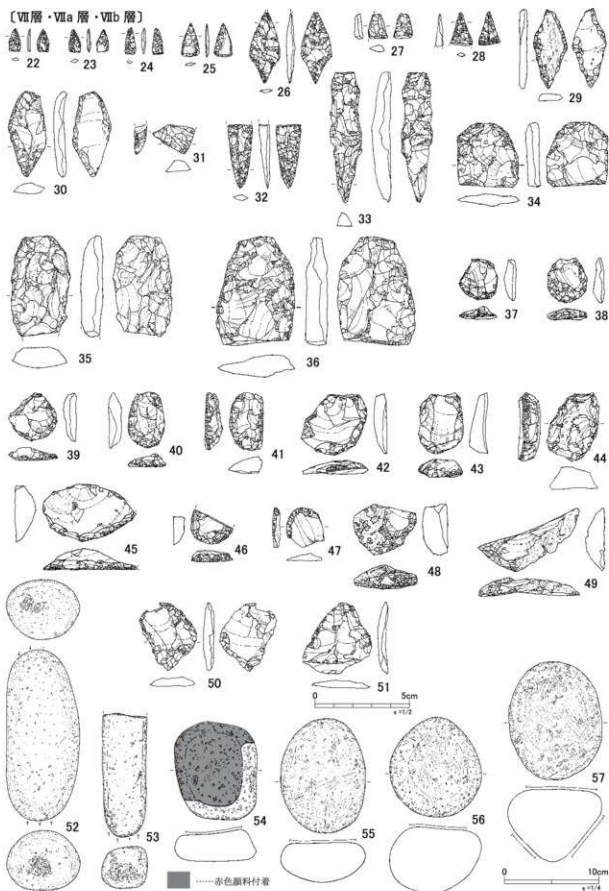
37~47は端部に円弧状の刃部が作出されている。38・40・41・43~47の加工は縁辺全体に及んでいる。48・49は側縁に湾曲する刃部が作出されている。いずれも正面に原石面が残存している。

Rフレイク (50・51)

50は正裏面にやや不規則な加工が連続的に施され、51は両側縁に細かな加工が施されている。

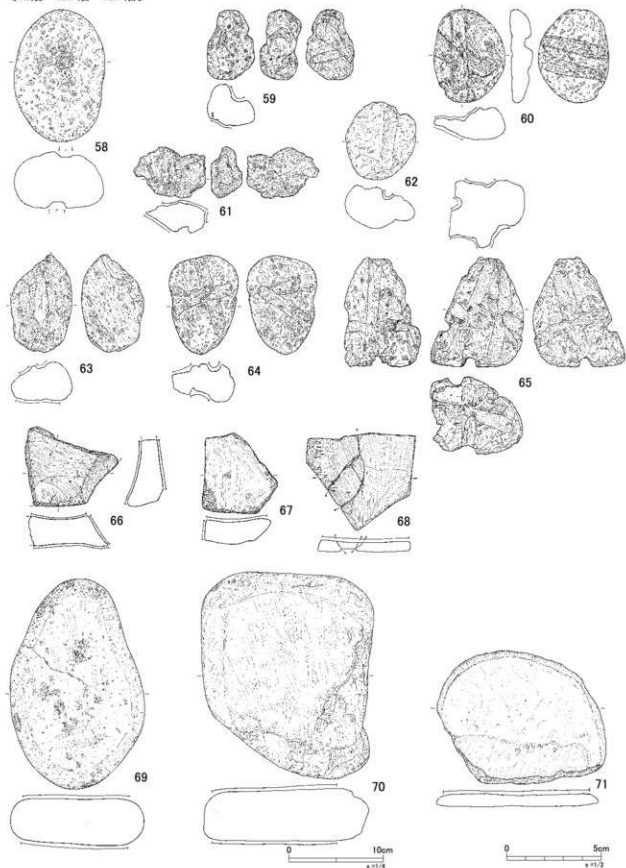


図Ⅵ-37 B地区包含層出土の石器(1)



図VI-38 B地区包含層出土の石器(2)

〔VII層・VIIa層・VIIb層〕



図VI-39 B地区包含層出土の石器(3)

たたき石 (52・53)

52・53はいずれも棒状の原石が利用され、52は両端に敲打痕が見られる。53の上半部は欠損する。

すり石 (54~57)

54・55は扁平な原石、56・57は厚みのある原石が利用されている。57のみ正表面にすり面がある。

くぼみ石 (58)

58はやや厚みのある扁平な原石が利用され、正面中央部と裏面にくぼみが見られる。

砥石 (59~68)

59~65は軽石製で、器面に溝状の擦痕が残る有溝砥石。正面に一条擦痕がある59・62・63、他の面にわたって複数条の擦痕がある61、交差する擦痕がある60・64・65が見られる。特に65は交差する擦痕が5か所存在する。66~68は扁平な砂岩製で、66は正面と右側面に擦痕が見られる。

台石 (69・70)

69・70はいずれも扁平な原石が利用され、正表面に平滑面が見られる。

板状加工礫 (71)

71は表面に分割面があり、正面は原石面に覆われている。正面全体に平滑面が見られる。(直江)

表Ⅴ-1 2011年調査遺構一覧

地区	種別	新遺構名	旧遺構名	掲載	検出位置			平面形	規模(m)				時期	備考				
					掘削	写真調査	新発掘区		旧発掘区	層位	長さ	幅			高さ	厚		
A地区	柱穴小土坑	P-8	PT14	VI-5・6	29	X.Y201	I152	楕円形	1.19	0.95	0.86	0.90	0.12	縄文時代後期~晩期				
		SP-1	PT11	VI-5・6	29	Z200	I152	楕円形	0.19	0.18	0.09	0.09	0.20	縄文時代後期~晩期				
		SP-2	PT12			Y201	m151	楕円形	0.22	0.20	0.11	0.10	0.12	縄文時代後期~晩期				
		SP-3	PT13			Y201	I152	楕円形	0.20	0.19	—	—	—	縄文時代後期~晩期				
		SP-4	PT15			Y201	I152	楕円形	0.22	0.21	0.04	0.04	0.23	縄文時代後期~晩期				
		SP-5	PT16			Y201	I152	楕円形	0.19	0.13	0.12	0.12	0.09	縄文時代後期~晩期				
		SP-6	PT17			Z201	I152	楕円形	0.17	0.16	0.10	0.07	0.11	縄文時代後期~晩期				
		SP-7	PT18			Z201	I152	楕円形	0.18	0.16	0.07	0.06	0.30	縄文時代後期~晩期				
		SP-8	PT20			Y202	I152	楕円形	0.20	0.19	0.14	0.13	0.21	縄文時代後期~晩期				
		SP-9	PT21			Z201	I152	楕円形	0.23	0.22	0.10	0.10	0.46	縄文時代後期~晩期				
SP-10	PT23			X202	k152	楕円形	0.21	0.21	0.10	0.09	0.35	縄文時代後期~晩期						
	FC-1	葦葦集	VI-6	29	m201	n152	楕円形	0.96	0.93	—	—	—	縄文時代後期					
B地区	土坑	GP-4	1号墓壇	VI-14・15	口径3.30	G.I58	E124	楕円形	1.28	1.26	0.89	0.72	0.56	縄文時代後期	後北C・D			
		P-9	PT13	VI-16	31	E173	D136	IX	不整形円形	1.07	0.79	0.67	0.44	0.10	縄文時代前期	浅い		
		P-10	PT12			E169	D133	楕円形	1.75	1.36	0.84	0.76	0.40	縄文時代前期	後北C・D			
		P-11	PT15			E166	D131	楕円形	1.16	0.36	1.14	0.40	0.28	縄文時代前期				
		P-12	PT25			F.G164	E129	IX	不整形円形	1.39	1.15	0.50	0.73	0.40	縄文時代前期	宇津内B		
		P-13	PT18	VI-17		G.H157.158	F124	楕円形	0.88	0.80	0.44	0.39	0.32	縄文時代前期				
		P-30	PT21			F163	D128	IX	不整形円形	0.92	0.63	0.73	0.52	—	縄文時代前期	「土坑」		
		PS-2	PT17	VI-18・19	31	D.E176.177	C.D139.140	IX	不整形円形	2.04	1.80	1.92	1.61	0.20	縄文時代前期	傍砂、木炭		
		PS-23	PT17	VI-20		F.G164	E129.130	IX	不整形円形	0.40	0.23	0.11	0.11	0.20	縄文時代前期	宇津内B式土器		
		PS-24	PT15			F163.164	F129	IX	不整形円形	1.91	1.63	1.32	1.30	0.17	縄文時代前期	木炭、宇津内B		
C地区	小土坑	SP-11	PT14	VI-34	32	E164	D129	楕円形	0.40	0.37	0.24	0.18	0.18	アイヌ文化期				
		SP-12	PT14			E163.164	D129	楕円形	0.27	0.24	0.16	0.12	0.13	アイヌ文化期				
		SP-13	PT10	VI-21		G.H157	F124	楕円形	0.40	0.32	0.25	0.18	0.18	縄文時代後期				
		石版	SP-6	PT16	VI-22	5・	G164	E129	IX	不整形円形	1.30	0.90	—	—	0.68	縄文時代前期	傍砂、魚骨	
D地区	土坑	SP-7	PT12		口径3.5	G.H158	F125	楕円形	1.36	0.90	—	—	0.16	縄文時代前期	宇津内B式土器			
		F-6	PT23	VI-23		F170	E134	IX	不整形円形	1.04	1.04	—	—	—	縄文時代前期	傍砂跡		
		F-7	PT22			F164	E129	IX	楕円形	1.74	1.10	1.32	0.89	0.67	縄文時代前期	「土坑」、傍砂、魚骨		
		S-2	PT19	VI-24		D175	C.D138	IX	不定形	3.40	2.40	—	—	—	縄文時代前期			
		S-3	墓石	VI-24・26		D.E173.174	E136・137	IX	不定形	3.87	4.00	—	—	—	縄文時代前期			
		S-4	PT20	VI-25・26		F166.167	F131	IX	不定形	0.42	0.25	—	—	—	0.40	縄文時代前期	傍砂、木炭、ベニ砂	
		S-5	PT14			G163.164	E129	IX	不定形	0.53	0.83	—	—	—	—	縄文時代前期	浅い土坑?	
		S-6	墓石遺構1	VI-27		F164	D129	楕円形	1.06	0.72	—	—	—	—	—	縄文時代後期		
		S-7	PT16			F164	E127	楕円形	1.76	1.40	—	—	—	—	—	縄文時代後期		
		E地区	FC	FC-2	右器集	VI-28		E170	D134	楕円形	0.69	0.57	—	—	—	—	—	縄文時代後期
FC-3	右器集					E168	D132	楕円形	0.52	0.46	—	—	—	—	—	縄文時代後期		
FC-17	右器集			CP1		F157	D134	楕円形	2.01	1.26	—	—	—	—	—	縄文時代後期		
埋没遺構	埋没土器遺構			VI-28		D172	D136	IX	不整形円形	0.36	0.40	0.32	0.27	0.17	縄文時代前期			
R-2	PT11			VI-29	8	E172	D136	IX	不定形	0.58	0.21	—	—	—	—	0.12	縄文時代前期	
F地区	R	R-3	PT24			G164	E129	IX	不定形	0.07	0.07	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
		R-4	PT18			F162.163	D128	IX	不定形	0.22	0.00	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
		R-5	PT26	VI-30		D.E172.173	D136	IX	不定形	0.64	0.90	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	(埋没遺構)	PT1	VI-31~33	30	F.G158.159	D.E124.125	楕円形	不明	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期		

表V-3 2011年調査掲載土器一覧(1)

地区	採掘 番号	発見 番号	新番号	器種/ (装飾)	形状	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号	
														破片 計
A区	関V-7	1	62-4	k19	甕2	68・70	3	3	甕B	深鉢	口 口縁部肥厚上唇引文、 口縁部肥厚上唇引文、内折刺突、 肥厚文		11-201	
	関V-7	2	62-4	m52	甕	53	1	1	甕B	深鉢	口		11-202	
	関V-7	3	62-4	m52	甕	34	1	1	甕B	深鉢	胴	付加木燻文字	11-203	
	関V-7	4	62-4	p153	甕	1	1	1	Va	深鉢	胴	土燻文(外・内)	11-205	
	関V-7	5	62-4	n152	甕4	26	1	1	Va	深鉢	胴	結末部刺突文	11-204	
	関V-7	6	62-4	k150	甕B	83	1	1	Vc	深鉢	口	口縁部、口唇部	11-208	
	関V-7	7	62-4	l151	甕	57・56	6	6	Vc	深鉢	口	土燻文、口唇部	11-207	
	関V-7	8	62-4	k151	甕2	6	1	1	Vc	鉢	口	溝部、口縁部(外・内・口唇)	11-206	
関V-7	9	62-4	k151	甕	11	3	4	Vc	鉢	胴～底		09-103		
B区	関V-17	1	64-1	P-13 PT16/P124	甕土1	325・322	2	3	Vc	深鉢	口～底	散佈片、三角刺点、普通文	11-1022	
	関V-17	7	64-1	P-20 PT21/D128	甕土	28	20	31	Vb	深鉢	口～底	4単位突起、編織印付文、 山形文、溝部、縁部刺突、 織文、口唇18.2cm、 底径9.2cm、 器高37.2cm	980%	11-12
				P-30 PT21/D128	甕土	30	1							
				R-4 PT16/D128	甕土	24	4							
				D128	底	29	2							
				D128	甕	8	2							
				E128	底	100・101	2							
	関V-17	8	64-1	P-30 PT21/D128	甕土	27	1	1	Vc	深鉢	胴	条痕文、三角刺点	11-220	
	関V-22	1	65-1	SP-6 PT16/E129	甕土	35・113	2	2	Vb1	深鉢	口	突起、溝部、縁部刺突、 織文	11-215	
	関V-26	4	65-1	S-4 PT20/E121	甕土	71	1	1	Vb1	深鉢	口	突起、土燻文(外・口唇)	11-218	
	関V-26	5	65-1	S-4 PT20/E121	甕土	90	1	1	Vb1	深鉢	口	突起、溝部、縁部刺突、 織文	11-219	
	関V-20	3	66-1	S-7 PT16/E127	甕土	88・84・85・133・127	7	12	Vc	深鉢	口～底	口唇部、編織印付文、 三角刺点、 普通文	11-1013	
				E127	甕	54・52・60・83・88	5							
	関V-27	4	66-1	S-7 PT16/E127	甕土	119・119	2	2	Vc	深鉢	口～底	口唇部、編織印付文、 三角刺点、 普通文、 縁部孔	11-1012	
	関V-27	5	66-1	S-7 PT16/E127	甕土	148	2	2	Vc	深鉢	底	普通文	11-1013	
	関V-27	6	66-1	S-2 E127	甕土	131・125	2	6	Vc	深鉢	胴	条痕文 器高7.6cm	11-55	
				E127	甕	16・43・41・74	4							
	関V-28	1	66-1	埋込土器1	D136	底	160・200・223	37	37	Vb1	深鉢	口～底	4単位突起、口唇部刺突、 突起、編織印付文、 山形文、 溝部、縁部刺突、 織文、口唇17.0cm、 器高7.0cm	11-13
	関V-29	1	66-1	R-4 PT16/D128	甕土	20・22	3	3	Vb2	深鉢	口	編織印付文、 溝部、縁部刺突、 織文	11-217	
	関V-32	1	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	80・126	2	2	Vb2	深鉢	口～底	突起、編織印付文、 縁部刺突、 織文	11-1003
	関V-32	2	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	21・129・130	4	4	Vb2	深鉢	口～底	編織印付文、 縁部刺突、 織文	11-1002
	関V-32	3	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	70・87・127・149	4	4	Vb2	深鉢	口～底	編織印付文、 縁部刺突、 織文	11-1001
	関V-32	4	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	210	8	8	Vb	深鉢	胴～底	織文、 底面突起、 縁部刺突、 器高5.6cm、 器高7.0cm	11-54
	関V-32	5	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	161	1	2	Vc	深鉢	口	編織印付文、 散佈片、 三角刺点、 条痕文	11-210
				E129	甕	219	1							
	関V-32	6	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	85	1	1	Vc	深鉢	口	編織印付文、 散佈片、 三角刺点、 普通文	11-213
	関V-32	7	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	49・60	2	2	Vc	深鉢	口	散佈片、 三角刺点、 普通文	11-209
関V-32	8	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	477	2	2	Vc	深鉢	口	散佈片、 三角刺点、 普通文	11-214	
関V-32	9	67-1	(原案) 埋	PT1/D124	甕	1	3	3	Vc	深鉢	胴	散佈片、 三角刺点、 普通文	11-211	
関V-32	10	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	175・371	4	8	Vc	深鉢	口～底	口唇部、 突起下部付文、 編織印付文、 散佈片、 三角刺点、 普通文	11-1023	
			E126	甕	24・89	4								
関V-32	11	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	197・300・307・309・ 400・422・424・430	12	19	Vc	深鉢	口～底	4単位突起、 口唇部、 編織印付文、 散佈片、 三角刺点、 普通文 口唇13.8cm、 底径5.1cm、 器高12.6cm	995%	11-9
			(原案) 埋	PT1/E125	甕	185・186	7							
関V-32	12	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	455	4	5	Vc	深鉢	口～底	口唇部、 編織印付文、 散佈片、 三角刺点、 普通文	11-104	
			GP-4 1号墓/E124	甕土1	503	1								
関V-32	13	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	10・13・67・101・ 106・108・121・128・ 169・222・240・269・ 不明	16	23	Vc	深鉢	口～底	確定部位突起、 口唇部、 編織印付文、 三角刺点、 普通文、 縁部孔、 器高19.6cm、 器高15.3cm	11-4	
			(原案) 埋	PT1/E124	甕	207・378・447	5							
			E125	甕土	1	2								
関V-32	14	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	258	1	1	Vc	深鉢	口	口唇部、 編織印付文、 三角刺点、 普通文	11-212	
関V-32	15	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	85・256・286	4	4	Vc	深鉢	口～底	編織印付文、 三角刺点、 普通文	11-102	
関V-32	16	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	38	3	3	Vc	深鉢	口	口唇部、 編織印付文、 三角刺点、 普通文	11-216	
関V-32	17	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	77	2	3	Vc	深鉢	胴	織文	11-103	
			(原案) 埋	PT1/E126	甕	75	1							
関V-32	18	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	212・224	3	4	Vc	深鉢	底	織文 器高8.9cm、 器高6.1cm	11-51	
			GP-4 1号墓	甕土	500	1								
関V-32	19	67-1	(原案) 埋	PT1/E125	甕	245	124		Vc	深鉢	口～底	注口・突起、 口唇部、 編織印付文、 三角刺点、 普通文、 此器高 口唇16.6cm、 底径7.6cm、 器高15.9cm	11-6	
関V-32	20	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	108	40	80	Vc	片口深鉢	口～底	片口・突起、 片口部肥厚上唇、 普通文、 編織印付文、 縁部孔、 器高13.1cm、 底径7.0cm、 器高18.9cm	995%	11-2
関V-32	21	67-1	(原案) 埋	PT1/E124	甕	224・280・309・351	4	4	Vc	深鉢	口～底	口唇部、 普通文(外・内) 口唇18.2cm、 底径18.0cm、 器高15.2cm	11-11	

表VI-4 2011年調査掘載土器一覧(2)

地区	種別 番号	発掘 番号	調査 番号	新遺構名	遺構/ (発掘ID)	層位	遺物%	点数	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号
長 尾 区	遺VI-20	1	68-1		D136	IX	248	1	1	Vb1	深鉢	口	突帯、渦線、縄文	11-242
	遺VI-20	2	68-1		D136	IX	177	1	1	Vb1	深鉢	口	突帯、渦線、縄文	11-241
	遺VI-20	3	68-1		PTT26/F121	層土	9・52	2	2	Vb1	深鉢	胴	渦線・刺突、縄文	11-223
	遺VI-20	4	68-1		D135	VII	11	15	15	Vlc	深鉢	口～胴	口唇部、編織印付文、散珠配飾、三角列点、垂縄文 口径28.0cm、器高25.03cm	11-4
	遺VI-20	5	68-1		F121	VII	6	7	7	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-237
	遺VI-20	6	68-1		E130	IX	12	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-240
	遺VI-20	7	68-1		F126	VII	30・86	2	2	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、散珠配飾、垂縄文	11-234
	遺VI-20	8	68-1		F124	VII	393	3	3	Vlc	深鉢	胴	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-244
	遺VI-20	9	68-1		F124	表土	1	1	1	Vlc	深鉢	胴	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-225
	遺VI-20	10	68-1		F124	表土	1	1	1	Vlc	深鉢	胴	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-226
	遺VI-20	11	68-1		F124	表土	1・160	2	2	Vlc	深鉢	胴	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-224
	遺VI-20	12	68-1		D136	VIIa	9・10・11・29	10	30	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、散珠配飾、三角列点、垂縄文 器高16.9cm	11-7
	遺VI-20	13	68-1		D136	VIIa	40・44・50・56・60・63・65・67・69・78・89・90・不明	4	27	Vlc	深鉢	口～胴	口唇部、編織印付文、散珠配飾、三角列点、垂縄文(山形) /口径21.7cm、器高16.5cm	11-3
							13・17・21	4						
							18・30・33・60・61・64・76・93・95・116・119	19						
							D135	VII	200	4				
	遺VI-20	14	68-1		D135	VII	62・97	6	6	Vlc	深鉢	底	散珠配飾、三角列点、垂縄文 口径5.8cm、器高3.6cm	11-53
	遺VI-20	15	68-1		E134	表土	1	6	6	Vlc	注口	口	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-305
	遺VI-20	16	68-1		D132	表土	46・50・51	4	7	Vlc	注口	口	散珠配飾、三角列点、垂縄文 器高10.0cm	11-48
							1	1						
							D134	VII	47・62	2				
	遺VI-20	17	68-1		D129	VII	49・105・149・151・163	5	15	Vlc	深鉢	口～胴	突帯、口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文 口径21.3cm、器高20.40cm	11-5
							D130	VII	22・27・30	10				
	遺VI-20	18	68-1		D136	VIIb	56	1	1	Vlc	深鉢	口	編織印付文、三角列点	11-223
	遺VI-20	19	68-1		D129	VII	169	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文	11-227
	遺VI-20	20	68-1		D134	VII	39	12	12	Vlc	深鉢	口～胴	口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文	11-106
	遺VI-20	21	68-1		D129	VII	231	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文	11-228
	遺VI-20	22	68-1		D134	VII	50	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文	11-228
	遺VI-20	23	68-1		D131	VII	47	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、編織印付文、三角列点、垂縄文、刺突	11-229
	遺VI-20	24	68-1		C135	VII	21	1	1	Vlc	深鉢	口	編織印付文、三角列点、垂縄文	11-230
	遺VI-20	25	68-1		D136	VII	48	1	1	Vlc	深鉢	口	口唇部、三角列点、垂縄文	11-231
	遺VI-20	26	68-1		D135	VIIa	163	1	1	Vlc	深鉢	口	三角列点、垂縄文、刺突	11-232
	遺VI-20	27	68-1		F134	表土	1	3	3	Vlc	深鉢	口	三角列点、垂縄文、刺突	11-243
	遺VI-20	28	68-1		D135	VII	29	1	1	Vlc	深鉢	胴	垂縄文、刺突	11-233
	遺VI-20	29	68-1		D135	表土	1	1	1	Vlc	小型深鉢	底	垂縄文	11-236
	遺VI-20	30	68-1		D130	VII	30・50	2	4	Vlc	深鉢	底	刺突 口径7.5cm、器高4.6cm	11-52
							D136	VII	21	1				
	遺VI-20	31	68-1		F136	VII	54・55	2	2	Vlc	注口	注口	散珠配飾、三角列点、垂縄文	11-222
	遺VI-20	32	68-1		D130	VII	11・60	2	2	部欠	深鉢	口	縦行渦線	11-222
	遺VI-20	33	68-1			PTT13/F124	VII	35・39・103・212・251・312・347・353・357・378・430・444・463	29	30	VIIb	甕	口～胴	横線に255段文 口径25.0cm、器高22.5cm
PTT13/F125								VII	184	1				
GP-4								1号墓	層土	501	1			
GP-4								1号墓	層土下	530	1			
E123								VII	38	2				
E126								VII	19・85・94	3				
	不明	--	--	--	--	--	2							

表V-5 2011年調査掲載石器等一覧(1)

地区	種別番号	掲載番号	写真採取番号	新造構名	旧遺構名/層位	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
A地区	BEV-6	1	67-2	SP-7	PT18/1152	覆土	261	Rフレイク	黒曜石	2.4	1.6	0.4	1.3		ア
	BEV-6	2	67-3	SP-9	PT121/m152	覆土	125	Rフレイク	黒曜石	5.8	3.9	1.4	12.6		ア
	BEV-6	3	67-3	SP-9	PT121/m152	覆土	126	フレイク	黒曜石	4.8	6.4	1.3	29.2		イ
	BEV-8	1	63-1		k152	VM2	27	石鏃	黒曜石	1.5	1.0	0.2	0.2		1
	BEV-8	2	63-1		1152	VM	27	石鏃	黒曜石	2.3	1.1	0.3	0.8		2
	BEV-8	3	63-1		k152	VMd	26	石鏃	黒曜石	2.9	1.2	0.5	1.1		3
	BEV-8	4	63-1		1152	VM	143	石鏃	黒曜石	4.2	2.2	0.6	2.8		4
	BEV-8	5	63-1		k151	VM2	69	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.0)	0.4	(0.7)		5
	BEV-8	6	63-1		表掘	表掘	石鏃	黒曜石	(1.0)	0.9	0.4	(0.4)		6	
	BEV-8	7	63-1		EX-1	VM	159	石鏃	黒曜石	(2.0)	1.2	0.3	(0.7)		7
	BEV-8	8	63-1		m153	VM	36	石鏃	黒曜石	5.7	2.8	1.2	12.6		8
	BEV-8	9	63-1		1153	VM2	27	ナイフ	黒曜石	8.6	2.5	1.1	23.8		9
	BEV-8	10	63-1		EX-1	VM	40	ナイフ	黒曜石	9.2	3.1	1.0	25.9		10
	BEV-8	11	63-1		m153	VM	75	ナイフ	黒曜石	(1.7)	1.7	0.6	(1.4)		11
	BEV-8	12	63-1		m153	VM	82	ナイフ	黒曜石	(1.7)	2.5	0.8	(3.0)		12
	BEV-8	13	63-1		k150	VMd	28	ナイフ	黒曜石	(3.0)	2.3	0.9	(6.2)		13
	BEV-8	14	63-1		m152	VM	133	ナイフ	黒曜石	(2.0)	3.2	1.1	(9.7)		14
	BEV-8	15	63-1		o153	表土		ナイフ	黒曜石	(4.1)	3.7	1.0	(16.5)		15
	BEV-8	16	63-1		EX-1	VM	28	ナイフ	黒曜石	(6.0)	4.2	1.0	(25.2)		16
	BEV-8	17	63-1		m152	VM	60	ナイフ	黒曜石	(5.0)	2.8	1.2	(18.3)		17
	BEV-8	18	63-1		o153	VM	70	ナイフ	黒曜石	(2.7)	2.5	0.6	(4.8)		18
	BEV-8	19	63-1		k151	VM2	16	ナイフ	黒曜石	(3.2)	(3.0)	1.1	(11.8)		19
	BEV-8	20	63-1		1152	VM	43	ナイフ	黒曜石	(5.0)	4.5	1.1	(26.6)		20
	BEV-8	21	63-1		EX-1	VM	243	ナイフ	黒曜石	(11.0)	3.0	1.3	(36.5)		21
	BEV-8	22	63-1		1152	VM	63	ナイフ	黒曜石	(2.0)	1.7	0.6	(2.4)		22
	BEV-8	23	63-1		k152	VM2	176	ナイフ	黒曜石	4.7	2.7	0.5	3.4		23
	BEV-8	24	63-1		1152	VM	234	ナイフ	メウ	4.8	3.4	1.0	15.3		24
	BEV-8	25	63-1		1151	VMd	6	ナイフ	安山岩	6.5	3.5	1.3	29.2		25
	BEV-8	26	63-1		1152	VM	217	ナイフ	黒曜石	4.4	2.4	1.1	9.3		26
	BEV-9	27	63-1		m153	VM	42	ナイフ	黒曜石	(5.0)	2.2	0.6	(1.7)		27
	BEV-9	28	63-1		EX-1	VM	146	ナイフ	メウ	(4.0)	4.0	1.2	(21.8)		28
	BEV-9	29	63-1		m152	VM	134	スクレイパー	黒曜石	3.1	2.0	0.4	1.5		29
	BEV-9	30	63-1		1151	VM	65	スクレイパー	黒曜石	2.4	2.3	1.0	4.5		30
	BEV-9	31	63-1		1151	VMd	80	スクレイパー	黒曜石	3.1	3.3	1.7	14.4		31
	BEV-9	32	63-1		m153	VM	38	スクレイパー	黒曜石	3.8	3.6	0.8	6.3		32
	BEV-9	33	63-1		m153	VM	51	スクレイパー	黒曜石	(2.0)	3.9	1.1	(8.7)		33
	BEV-9	34	63-1		m152	VM	20	スクレイパー	黒曜石	(4.0)	(3.0)	1.1	(16.1)		34
	BEV-9	35	63-1		EX-1	VM	147	Rフレイク	黒曜石	3.3	2.5	0.5	2.2		35
	BEV-9	36	63-1		m151	VM	139	Rフレイク	黒曜石	4.0	2.8	0.8	6.1		36
	BEV-9	37	63-1		o153	表土		Rフレイク	黒曜石	5.1	2.9	0.7	5.7		37
	BEV-9	38	63-1		m151	VM	159	Rフレイク	黒曜石	(4.0)	(1.5)	0.6	(2.1)		38
	BEV-9	39	63-1		k152	VM	104	Rフレイク	黒曜石	4.8	1.7	0.8	3.3		39
	BEV-9	40	63-1		m151	VMd	7	Rフレイク	安山岩	(6.2)	4.0	1.7	(45.1)		40
	BEV-9	41	63-1		1151	VMd	16	フレイク	黒曜石	1.9	4.1	0.7	2.5		41
	BEV-9	42	63-1		k152	VM2	122	フレイク	黒曜石	1.0	4.6	1.1	3.1		42
	BEV-9	43	63-1		1151	VMd	88	石核	緑泥石片岩	6.1	7.9	6.3	306.2		43
	BEV-9	44	63-1		1151	VMd	98	石核	緑泥石片岩	(5.1)	4.3	1.6	(45.7)		44
	BEV-9	45	63-1		m152	VM	116	たたき石	安山岩	13.0	6.2	5.0	962.1		45
	BEV-9	46	63-1		o154	表土		すり石	安山岩	13.6	4.5	3.3	332.7		46
BEV-9	47	63-1		k151	VM2	154	すり石	安山岩	12.6	10.1	8.9	1800.0		47	
BEV-9	48	63-1		o154	VM	8	すり石	安山岩	(14.5)	(6.0)	4.9	(398.8)	ペンガラ付着	48	
BEV-9	49	63-1		k150	VM2	223	砥石	砂岩	9.8	6.7	3.1	121.8		49	
BEV-10	50	63-1		o154	VM		台石	安山岩	23.7	20.7	7.0	5700.0	トレンチ内	50	
BEV-10	51	63-1		m153	VM	70	台石	安山岩	26.0	17.2	6.9	4000.0		51	
BEV-10	52	63-1		o154	VM		台石	安山岩	(26.7)	31.6	9.1	11900.0	トレンチ内	52	
BEV-10	53	63-1		o154	VM	11	台石	安山岩	(10.4)	(8.1)	4.0	(42.2)		53	
B地区	BEV-16	1	64-1	P-10	PT12/D133	覆土	57	石鏃	黒曜石	(1.0)	0.8	0.2	(0.2)		ア
	BEV-17	2	64-1	P-13	PT8/F124	覆土	242	石鏃	黒曜石	1.3	0.7	0.2	0.1		ア
	BEV-17	3	64-1	P-13	PT8/F124	覆土	282	スクレイパー	黒曜石	3.2	3.0	0.5	4.9		イ
	BEV-17	4	64-1	P-13	PT8/F124	覆土	236	Rフレイク	黒曜石	(2.0)	1.0	0.5	1.1		ウ
	BEV-17	5	64-1	P-13	PT8/F124	覆土	283	台石	安山岩	14.8	15.1	8.4	3100.0	ペンガラ付着	エ
	BEV-17	6	64-1	P-13	PT8/F124	覆土	320	台石	安山岩	19.2	11.2	7.6	2400.0	オ	オ
	BEV-19	1	64-1	PS-22	PT7/D139	覆土	324	すり石	安山岩	15.7			46	907.6	ア
	BEV-19	2	64-1	PS-22	PT7/D139	覆土	136	台石	安山岩	16.2	13.9	4.3	1400.0	イ	イ
	BEV-19	3	64-1	PS-22	PT7/D139	覆土	54	台石	安山岩	15.5	(15.5)	5.2	(1900)	エ	エ
	BEV-19	4	64-1	PS-22	PT7/D139	覆土	52	台石	安山岩	30.6	19.7	7.1	3700.0	ウ	ウ
	BEV-21	1	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	325	ナイフ	黒曜石	(4.7)	(2.2)	0.7	(4.3)		ア
	BEV-21	2	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	249	石矛	安山岩	(6.8)	5.8	2.8	(21.4)		イ
	BEV-21	3	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	313	すり石	安山岩	11.1	9.8	3.4	57.3		ウ
BEV-21	4	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	316	すり石	安山岩	12.1	9.6	6.6	1049.8		エ	
BEV-21	5	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	306	すり石	安山岩	12.4	9.2	3.6	609.7	ペンガラ付着	オ	
BEV-21	6	64-1	PS-23	PT17/E129	覆土	287	台石	安山岩	17.4	13.1	5.4	1800.0	カ	カ	
BEV-21	7	64-1	PS-24	PT15/E129	覆土	171	すり石	安山岩	11.8	10.2	6.0	1025.9		ア	

表V-6 2011年調査掲載石器等一覧(2)

地区	種別	掲載番号	写真掲載番号	取遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
貝塚区	BEVI-21	8	64-1	P5-24	PT115/E129	覆土	84	台石	安山岩	19.0	21.1	5.8	3000		イ
	BEVI-22	2	64-1	SP-6	PT116/E129	覆土	117	石鏃	黒曜石	12.9	1.3	0.3	0.6		ア
	BEVI-22	3	64-1	SP-6	PT116/E129	覆土	129	石鏃	黒曜石	12.1	1.1	0.2	0.5		イ
	BEVI-22	4	64-1	SP-7	PT112/E125		260	台石	安山岩	33.5	31.9	15.3	16200.0		ウ
	BEVI-22	5	64-1	SP-7	PT112/E125		230	台石	安山岩	40.1	30.4	10.8	18000.0		ウ
	BEVI-23	1	65-1	F-7	PT122/E129	覆土	277	ナマリ石	安山岩	16.7	7.2	5.6	917.4		ア
	BEVI-26	1	65-1	S-3	D136	IX	188	台石	安山岩	15.2	13.8	5.1	1000.0		22
	BEVI-26	2	65-1	S-3	D136	IX	194	台石	安山岩	38.7	31.5	8.3	14100.0		23
	BEVI-26	3	65-1	S-3	D136	IX	195	台石	安山岩	31.7	22.9	8.6	8100.0		24
	BEVI-26	6	65-1	S-4	PT120/E131	覆土	89	Rフレイク	黒曜石	4.8	3.5	0.8	10.7		ア
BEVI-26	7	65-1	S-4	PT120/E131	覆土	37	台石	安山岩	20.4	15.7	6.2	2300.0		イ	
BEVI-26	8	65-1	S-5	PT114/E129	覆土	64	台石	安山岩	16.7	12.3	6.1	1600.0		ア	
BEVI-26	9	65-1	S-5	PT114/E129	覆土	76	台石	安山岩	19.1	13.7	6.4	2600.0		イ	
BEVI-26	10	65-1	S-5	PT114/E129	覆土	75	台石	安山岩	29.3	25.6	5.9	4000.0		ウ	
BEVI-26	11	65-1	S-5	PT114/E129	覆土	74	台石	安山岩	34.9	30.3	9.1	14500.0		ウ	
BEVI-27	1	65-1	S-6	D126区集61	VI	192	たたく石	安山岩	10.1	11.6	6.8	953.7		ア	
BEVI-27	2	65-1	S-6	D126区集61	VI	184	台石	安山岩	14.2	15.7	6.1	2300.0		ペンガラ付着	
BEVI-27	7	66-1	S-7	PT16/E127	覆土	138	ナイフ	黒曜石	5.7	2.9	0.9	13.5		ア	
BEVI-27	8	66-1	S-7	PT16/E127	覆土	122	ナイフ	黒曜石	3.0	2.6	0.8	7.5		イ	
BEVI-27	9	66-1	S-7	PT16/E127	覆土	116	スクレイパー	黒曜石	3.4	2.5	0.5	3.1		ウ	
BEVI-27	10	66-1	S-7	PT16/E127	覆土	129	Rフレイク	黒曜石	3.6	2.8	0.6	5.5		イ	
BEVI-27	11	66-1	S-7	PT16/E127	覆土	150	台石	安山岩	20.0	21.4	6.9	4300.0		オ	
BEVI-30	1	66-1	R-5	D136	IX	234	ナマリ石	安山岩	15.9	14.7	7.0	2400.0		ペンガラ付着	
BEVI-30	2	66-1	R-5	D136	IX	220	鏃	安山岩	13.1	7.5	4.0	636.9		ペンガラ付着	
BEVI-30	3	66-1	R-5	D136	IX	232	鏃	安山岩	13.9	7.3	4.8	606.3		ペンガラ付着	
BEVI-30	4	66-1	R-5	D136	IX	233	鏃	安山岩	14.6	8.7	6.5	1068.8		ペンガラ付着	
BEVI-33	1	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	487	石鏃	黒曜石	1.4	0.7	0.2	0.1		ア	
BEVI-33	2	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	285	石鏃	黒曜石	1.7	0.7	0.2	0.2		イ	
BEVI-33	3	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	109	石鏃	黒曜石	1.7	0.7	0.2	0.1		ウ	
BEVI-33	4	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	226	石鏃	黒曜石	1.9	0.9	0.3	0.5		エ	
BEVI-33	5	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	403	石鏃	黒曜石	1.9	1.2	0.3	0.6		オ	
BEVI-33	6	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	146	石鏃	黒曜石	1.2	0.6	0.2	0.1		カ	
BEVI-33	7	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	243	ナイフ	黒曜石	2.0	3.0	0.7	4.7		キ	
BEVI-33	8	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	481	ナイフ	黒曜石	5.4	3.7	0.8	9.6		ク	
BEVI-33	9	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	138	スクレイパー	黒曜石	2.1	2.2	0.6	2.0		ケ	
BEVI-33	10	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	599	スクレイパー	黒曜石	3.0	2.6	0.7	4.3		コ	
BEVI-33	11	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	168	スクレイパー	黒曜石	3.6	2.5	0.7	3.7		サ	
BEVI-33	12	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	307	スクレイパー	黒曜石	3.0	2.6	0.5	4.3		シ	
BEVI-33	13	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	127	スクレイパー	黒曜石	2.7	3.0	0.8	6.0		ス	
BEVI-33	14	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	225	スクレイパー	黒曜石	3.0	3.0	0.7	5.9		セ	
BEVI-33	15	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	235	スクレイパー	黒曜石	3.7	2.9	0.8	5.7		ソ	
BEVI-33	16	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	29	スクレイパー	黒曜石	2.0	3.2	0.7	4.9		タ	
BEVI-33	17	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	254	スクレイパー	黒曜石	2.6	1.6	0.4	1.7		チ	
BEVI-33	18	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	304	スクレイパー	黒曜石	3.1	3.8	1.0	10.4		ツ	
BEVI-33	19	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	7	スクレイパー	黒曜石	5.0	2.7	0.7	6.6		テ	
BEVI-33	20	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	10	石鏃	黒曜石	4.2	1.4	0.6	3.0		ト	
BEVI-33	21	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	135	Rフレイク	黒曜石	3.7	2.9	0.6	5.4		ナ	
BEVI-33	22	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	233	Uフレイク	硬質頁岩	4.7	6.3	1.2	19.8		ニ	
BEVI-33	23	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	74	Uフレイク	硬質頁岩	7.4	5.8	1.1	24.5		ヌ	
BEVI-33	24	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	142	たたく石	安山岩	7.5	6.7	5.8	435.4		ネ	
BEVI-33	25	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	279	たたく石	安山岩	11.6	9.6	4.8	799.9		ノ	
BEVI-33	26	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	484	たたく石	安山岩	13.3	5.9	5.5	645.3		ハ	
BEVI-33	27	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	157	ナマリ石	安山岩	9.1	8.3	5.9	675.5		ヒ	
BEVI-33	28	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	487	ナマリ石	安山岩	10.3	6.2	3.5	241.1		フ	
BEVI-33	29	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	48	文江み石	安山岩	10.5	8.5	4.4	673.9		ヘ	
BEVI-33	30	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	204	礫石	砂岩	6.4	11.2	2.0	180.3		ホ	
BEVI-33	31	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	300	礫石	砂岩	6.2	8.0	2.0	97.9		ニ	
BEVI-33	32	67-1	塚東場	PT11/E125	VI	256	台石	安山岩	14.0	13.1	5.3	1500.0		ミ	
BEVI-33	33	67-1	塚東場	PT11/E124	VI	41.79	石製品	不明	4.4	4.4	0.4			ム	
BEVI-37	1	69-1	D136	IX	142	石鏃	黒曜石	2.7	1.2	0.3	0.7	宇津内Ⅱ	1		
BEVI-37	2	69-1	D136	IX	126	ナイフ	黒曜石	0.9	3.2	1.0	(0.1)	宇津内Ⅱ	2		
BEVI-37	3	69-1	E131	IX	5	スクレイパー	黒曜石	3.5	2.6	0.6	5.4	宇津内Ⅱ	3		
BEVI-37	4	69-1	E129	IX	9	スクレイパー	黒曜石	2.8	2.0	0.7	3.3	宇津内Ⅱ	4		
BEVI-37	5	69-1	E130	IX	16	スクレイパー	黒曜石	3.0	3.1	0.7	5.8	宇津内Ⅱ	5		
BEVI-37	6	69-1	E128	IX	9	スクレイパー	黒曜石	7.4	3.7	1.1	16.9	宇津内Ⅱ	6		
BEVI-37	7	69-1	E129	IX	51	スクレイパー	黒曜石	2.9	4.5	1.1	11.6	宇津内Ⅱ	7		
BEVI-37	8	69-1	F125	IX	263	石鏃	黒曜石	2.4	0.9	0.3	0.4	宇津内Ⅱ	8		
BEVI-37	9	69-1	E129	IX	39	Rフレイク	黒曜石	4.0	2.7	0.6	(5.4)	宇津内Ⅱ	9		
BEVI-37	10	69-1	D136	IX	239	石鏃	硬質頁岩	5.4	6.1	5.3	860.2	宇津内Ⅱ	10		
BEVI-37	11	69-1	E128	IX	40	ナマリ石	安山岩	11.2	6.9	4.2	424.2	宇津内Ⅱ	11		
BEVI-37	12	69-1	E128	IX	48	ナマリ石	安山岩	11.7	9.0	6.3	999.1	宇津内Ⅱ	12		
BEVI-37	13	69-1	E128	IX	12	ナマリ石	安山岩	12.7	7.0	5.4	653.9	宇津内Ⅱ	13		
BEVI-37	14	69-1	E128	IX	24	ナマリ石	安山岩	14.0	11.4	4.0	1013.8	宇津内Ⅱ	14		

表V-7 2011年調査掲載石器等一覧(3)

種別	採掘番号	掲載番号	写真戻取番号	新遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
旧石器区	DEVI-37	15	69-1		E131	IX	103	ナマリ	安山岩	15.0	8.3	3.5	676.2		15
	DEVI-37	16	69-1		E129	IX	162	砥石	軽石	5.4	3.3	2.1	6.1	有溝砥石	17
	DEVI-37	17	69-1		E130	IX	314	砥石	軽石	3.9	3.8	3.5	9.1		18
	DEVI-37	18	69-1		E129	IX	32	砥石	砂岩	5.8	6.6	1.3	59.3		19
	DEVI-37	19	69-1		E128	IX	91	台石	安山岩	29.8	24.1	8.3	8300.0		20
	DEVI-37	20	69-1		E128	IX	92	台石	安山岩	24.3	21.6	7.5	4760.0		21
	DEVI-37	21	69-1		C137	IX	10	台石	安山岩	21.2	14.4	5.9	2800.0		23
	DEVI-38	22	69-1		D135	VE	140	石楯	黒曜石	1.2	0.6	0.2	0.1		29
	DEVI-38	23	69-1		D135	VE	135	石楯	黒曜石	1.2	0.7	0.2	0.1		30
	DEVI-38	24	69-1		D129	VE	179	石楯	黒曜石	1.4	0.6	0.2	0.2		31
	DEVI-38	25	69-1		D136	VE	23	石楯	黒曜石	1.8	0.9	0.2	0.2		32
	DEVI-38	26	69-1		D132	VE	5	石楯	黒曜石	3.7	1.6	0.5	1.8		33
	DEVI-38	27	69-1		D135	VE	212	石楯	黒曜石	(1.3)	(1.0)	0.4	(0.6)		34
	DEVI-38	28	69-1		E126	VE	7	石楯	黒曜石	(1.8)	(1.1)	0.4	(0.3)		35
	DEVI-38	29	69-1		D135	VE	185	ナイフ	黒曜石	4.2	1.8	0.4	2.7		36
	DEVI-38	30	69-1		C136	VE	13	ナイフ	黒曜石	4.5	2.1	0.7	4.4		37
	DEVI-38	31	69-1		D129	VE	61	ナイフ	黒曜石	(1.5)	2.2	0.7	(1.7)		38
	DEVI-38	32	69-1		D131	VE	22	ナイフ	黒曜石	(3.4)	1.3	0.6	1.7		39
	DEVI-38	33	69-1		E127	VE	28	ナイフ	黒曜石	(6.9)	1.7	1.0	10.3		40
	DEVI-38	34	69-1		D136	VE	123	ナイフ	黒曜石	3.9	3.2	0.8	10.0		41
	DEVI-38	35	69-1		D136	VE	25	ナイフ	黒曜石	(5.3)	3.2	1.2	22.2		42
	DEVI-38	36	69-1		E127	VE	29	ナイフ	黒曜石	5.7	4.2	1.2	30.3		43
	DEVI-38	37	69-1		D135	VE	158	スクレイパー	黒曜石	2.2	1.0	0.7	2.3		44
	DEVI-38	38	69-1		D135	VE	197	スクレイパー	黒曜石	2.4	2.1	0.6	2.4		45
	DEVI-38	39	69-1		E126	VE	62	スクレイパー	黒曜石	2.6	2.6	0.7	3.8		46
	DEVI-38	40	69-1		C133	VE	20	スクレイパー	黒曜石	3.0	2.0	0.7	4.0		47
	DEVI-38	41	69-1		D133	VE	66	スクレイパー	黒曜石	3.0	1.8	0.9	4.8		48
	DEVI-38	42	69-1		D132	VE	62	スクレイパー	黒曜石	3.2	3.5	0.7	7.8		49
	DEVI-38	43	69-1		D135	VE	181	スクレイパー	黒曜石	3.2	2.4	1.0	5.0		50
	DEVI-38	44	69-1		D131	VE	11	スクレイパー	黒曜石	3.6	2.8	1.2	13.1		51
	DEVI-38	45	69-1		D132	VE	26	スクレイパー	黒曜石	2.0	(4.9)	1.1	13.2		52
	DEVI-38	46	69-1		E126	VE	102	スクレイパー	黒曜石	(1.9)	(2.2)	0.5	2.5		53
	DEVI-38	47	69-1		E126	VE	69	スクレイパー	黒曜石	2.1	2.9	0.4	1.6		54
	DEVI-38	48	69-1		D132	VE	23	スクレイパー	黒曜石	(2.7)	3.3	1.3	(11.0)		55
	DEVI-38	49	69-1		D135	VE	160	スクレイパー	黒曜石	3.3	5.4	1.0	8.8		56
	DEVI-38	50	69-1		D131	VE	35	Rフレイク	黒曜石	3.6	3.1	0.6	5.2		57
	DEVI-38	51	69-1		D134	VE	60	Rフレイク	黒曜石	3.8	3.7	0.6	5.6		58
	DEVI-38	52	69-1		E126	VE	59	たたき石	安山岩	18.3	7.7	6.3	1800.0		59
	DEVI-38	53	69-1		D127	VE	21	たたき石	安山岩	(13.0)	4.9	4.5	403.2		60
	DEVI-38	54	69-1		E127	VE	142	ナマリ	安山岩	10.3	8.8	3.5	557.1	ペンガラ付着	61
	DEVI-38	55	69-1		D135	VE	177	ナマリ	安山岩	12.1	9.0	4.0	683.3		62
	DEVI-38	56	69-1		D131	VE	66	ナマリ	安山岩	10.5	9.7	6.9	1015.8		63
	DEVI-38	57	69-1		E126	VE	99	ナマリ	安山岩	12.4	9.9	7.8	1182.9		64
	DEVI-38	58	69-1		D133	VE	38	くぼみ石	安山岩	13.9	9.7	6.3	1085.7		65
	DEVI-39	59	69-1		D133	VE	6	砥石	軽石	7.4	5.0	4.4	21.6	有溝砥石	66
	DEVI-39	60	69-1		D133	VE	8	砥石	軽石	9.8	7.5	3.9	50.2	有溝砥石	67
	DEVI-39	61	69-1		D133	VE	35	砥石	軽石	5.4	7.6	3.3	16.0	有溝砥石	68
	DEVI-39	62	69-1		C134	VE	10	砥石	軽石	8.2	7.5	4.7	43.6	有溝砥石	69
	DEVI-39	63	69-1		D133	VE	40	砥石	軽石	(10.2)	6.6	4.0	41.9	有溝砥石	70
	DEVI-39	64	69-1		D133	VE	5	砥石	軽石	10.4	7.3	4.1	51.1	有溝砥石	71
	DEVI-39	65	69-1		D135	VE	21	砥石	軽石	11.5	9.8	8.1	130.2	有溝砥石	72
	DEVI-39	66	69-1		E126	VE	112	砥石	安山岩	(8.4)	(9.7)	3.7	(272.6)		73
	DEVI-39	67	69-1		D132	VE	36	砥石	砂岩	8.5	7.9	2.9	173.3		74
	DEVI-39	68	69-1		D133	VE	81	砥石	砂岩	10.2	11.4	0.3	183.3		75
	DEVI-39	69	69-1		D135	VE	174	台石	安山岩	25.2	14.1	4.8	2300.0		76
	DEVI-39	70	69-1		D134	VE	56	台石	安山岩	22.0	18.2	5.9	4100.0		77
	DEVI-39	71	69-1		D132	VE	69	板状加工塊	安山岩	7.1	8.9	0.8	57.3		78

表V-8 2011年調査掲載ガラス製品一覧

種別	採掘番号	掲載番号	写真戻取番号	新遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測番号
旧石器区	DEVI-15	1	11給4	GP-4	1号集塊/124	掘土下層	530	ガラス玉	ガラス	0.4	0.5	0.3			ア
	DEVI-15	2	11給4	GP-4	1号集塊/124	掘土下層	547	ガラス玉	ガラス	0.3	0.3	0.3			イ
	DEVI-15	3	11給4	GP-4	1号集塊/124	掘土下層	548	ガラス玉	ガラス	0.4	0.4	0.3			ウ
	DEVI-15	4	11給4	GP-4	1号集塊/124	掘土下層	559	ガラス玉	ガラス	0.3	0.3	0.3			エ
	DEVI-15	5	11給4	GP-4	1号集塊/124	掘土下層			ガラス玉	ガラス	0.4	0.4	0.4		

Ⅶ章 2012年の調査と出土遺物

1 調査の概要

(1) 調査の方法と経過

調査区は全調査範囲の中央西部、国道334号の北側で、延長190m・最大幅約8mの範囲である。海岸砂丘列とその内側の海岸低地の一部に立地し、中央部（105～109ライン）に砂丘を開析する旧河道があり、それを境に西側は2011年B地区から続く「砂丘部」、東側は「低地部」として調査を行った。「砂丘部」が砂丘列4、「低地部」が砂丘列5にあたる（図Ⅱ-3）。標高は、砂丘部Ⅵ層で4.5～6.0m、旧河道河床で2～2.5m、低地部Ⅵ層で3.0～3.8mである。調査以前は植林地で、砂採取や道路建設時などの擾乱が多い。

調査は、草木類を重機で除去した後、表土から人力により掘削した。トレンチ調査等を行い土層堆積状況を把握することに努めた。その後、各発掘区・層位ごとに掘削を進めた。調査区境や発掘区境において土層断面図を多数作成した。なお90ライン以東は、「拡張区」として調査終盤の8月下旬に調査を行っている。遺構名は検出順に「PIT」を冠し、2011年に続き「27」から番号を付した（2018年調査の際に、概要報告書や図面類などをもとに共通の遺構種別記号への変換を行った）。遺物の出土位置は、トータルステーションを用いて点記録を行った。そのほか遺構断面の測量基準点や調査範囲の設定などにもトータルステーションを使用した。写真撮影は、リバーサルおよびネガカラー35mm判、ネガカラー6×7判、デジタルカメラを使用した。

(2) 発掘区の設定（図Ⅶ-1）

2011年の設定に接続する一辺5mの発掘区を設定した。今回の調査区はD～F、86～124の範囲である。なおトータルステーションを使用する際に、基準点（ $X=0.000$ $Y=0.000$ ）を「A・-1」とし、東西（数字）をX軸（西が正方向）、南北（アルファベット）をY軸（北が正）とする座標値を使用した（例：F120枕 $X=605.000$ $Y=-25.000$ ）

(3) 土層（図Ⅶ-2・3）

調査区中央部の旧河道を境に、様相が異なる。

【砂丘部】（2011年におおむね準ずる）

I層：表土層 II層：灰白色火山灰層〔樽前a〕 III層：（間層）IV層：白色火山灰層〔駒ヶ岳 c_2 〕

V層：黒色砂層 土壌質に富む。

Ⅵ層：黄～白色軽石層〔摩周b5降下軽石層（10世紀降下）〕 径1～2mmの軽石主体。

Ⅶ層：黒色～暗褐色砂層 オホーツク文化期と縄文時代後期の遺構・遺物を含む。

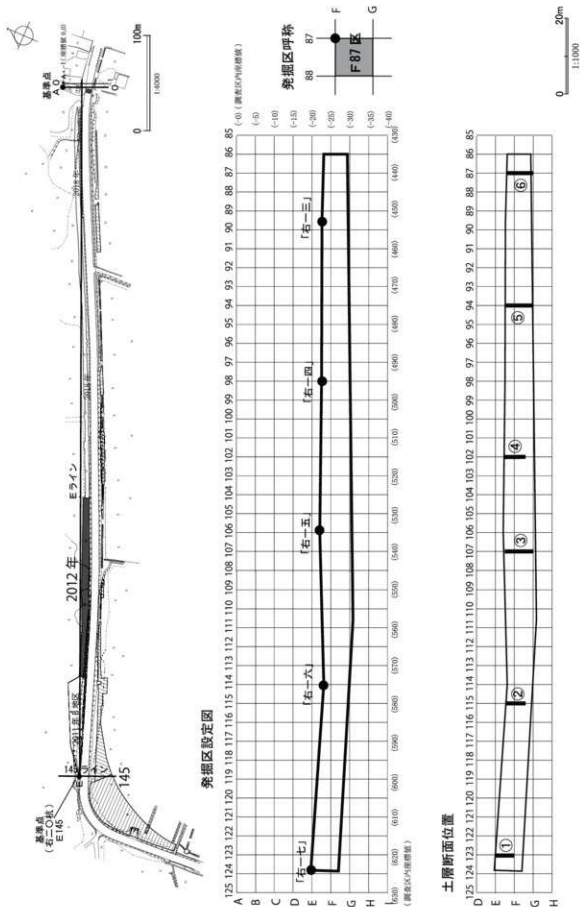
Ⅶs層：暗灰～灰色砂 旧河道の両肩部～低地部に分布する。オホーツク文化期の遺物を含む。

Ⅶa層：黒褐色砂層 土壌質に富む。後北 C_2 ・D式期を主体に、オホーツク文化期の遺物を含む。

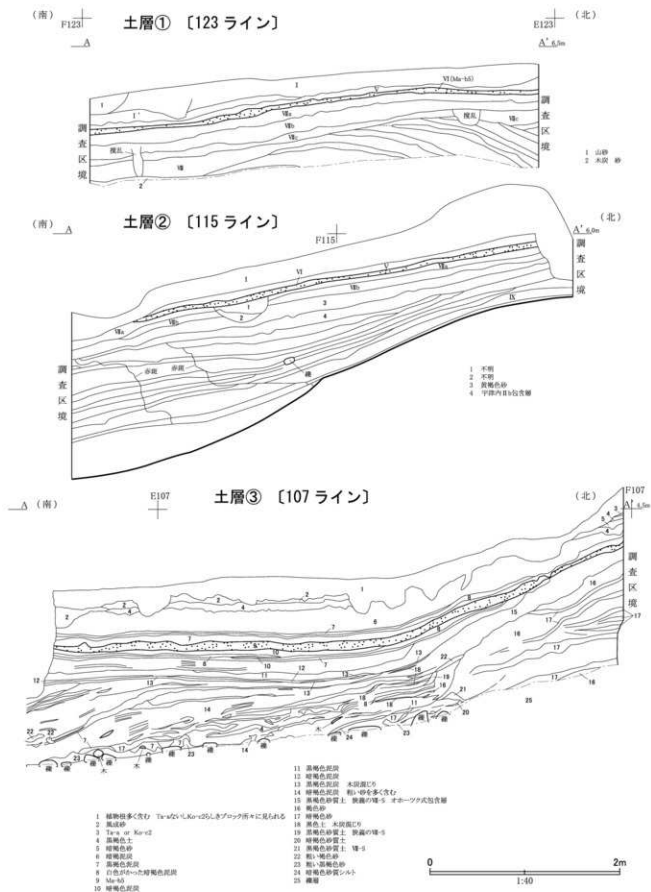
Ⅶb層：暗褐色砂層 後北 C_2 ・D式期の遺物を含み、該期の主な遺構確認面である。

Ⅶc層：にぶい黄褐色砂層 後北 C_2 ・D式期の遺物を含むものの、遺構は検出されなかった。

Ⅶ層：黄褐色砂層 層中に縞状の薄層が複数堆積する。宇津内Ⅱb式土器が出土し、該期の主な遺構確認面である。

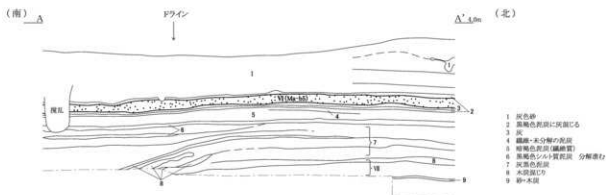


図Ⅴ-1 2012年発掘区設定図・土層断面位置

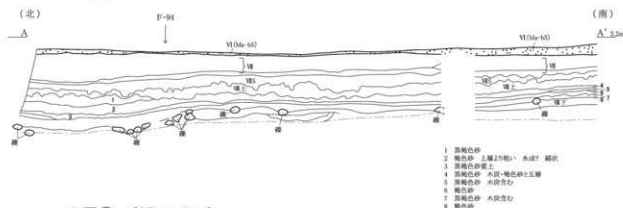


図Ⅴ-2 調査区土層断面 (1)

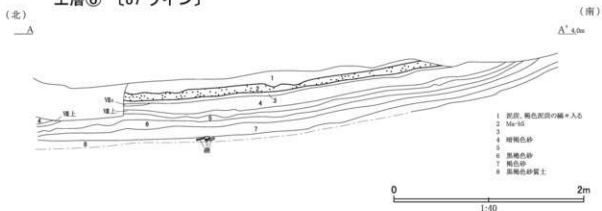
土層④ [102ライン]



土層⑤ [94ライン]



土層⑥ [87ライン]



図Ⅶ-3 調査区土層断面 (2)

Ⅹ層：灰褐色砂層 層厚1～5cmの薄層が幾重にも堆積する。そのため大きく2枚の遺物包含層と3枚の無遺物層に分けた。縄文時代前期の遺物を含む。

Ⅹa層：灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。

Ⅹb層：灰褐色砂層と暗褐色砂層の互層 宇津内Ⅱb式土器を含む。

Ⅹc層：灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。

Ⅹd層：暗褐色砂層 宇津内Ⅱa式期の遺物包含層。同期の遺構検出面である。

Ⅹe層：灰褐色砂層と黒褐色砂層の互層 無遺物層。

【低地部】

I層：腐植土層 一部で泥炭を含む。層厚10cm程度。

Ⅱ層：灰白色火山灰層〔樽前a〕 **Ⅲ層**：(間層) **Ⅳ層**：白色火山灰層〔駒ヶ岳c₂〕

V層：泥炭層 黒色土層や未同定の火山灰を含む。また部分的に粗砂層があり、小河川の堆積物の可能性がある。Ⅱ～V層全体の層厚は1m程度ある。

Ⅵ層：黄～白色軽石層〔摩周b5降下軽石層(10世紀降下)〕 火山灰と軽石に分離している。層厚10～15cm。

Ⅶ層：黒色～暗褐色砂層または砂質土 砂丘部Ⅶs層に比定。オホーツク文化期の遺物を含む。

Ⅷ層：黒色～暗褐色砂層または砂質土 砂丘部Ⅶa・Ⅶb層に比定。後北C₂・D式期の遺物を含む。Ⅶ層との間層である灰褐色砂層と、黒色～暗褐色砂の複数の砂層〔Ⅶ層中間層〕など)と間層から成る。下層ほど砂は粗く、下位の砂礫層へ至る。

(4) 調査結果の概要 (図Ⅶ-4)

縄文時代およびオホーツク文化期の遺構・遺物を検出した。遺物は土器・石器等約25,000点を数えた。土器は宇津内Ⅱa式・Ⅱb式、後北C₂・D式、オホーツク刻文土器が出土した。石器等はフレイク類が多くを占め、定形的な石器では、すり石(161)、石鏃(93)、台石(68)、削器(58)、搔器(56)が多い。ほかに骨角器、ベンガラ、褐鉄鉞、木柱、樹皮、炭化木片、堅果類、骨片が出土した。

【宇津内Ⅱa式期】

砂丘部Ⅹ層で検出した。遺構は土坑3基、集石を伴う土坑(集石土坑)3基、フレイクチップ集中3か所、ベンガラ範囲7か所を検出した。特にF120区付近ではベンガラ範囲が連続と続き、集石土坑などが近接しており、ベンガラ製作に関連がある遺構群とみられる。

【宇津内Ⅱb式期】

砂丘部Ⅹb層～Ⅶ層で検出した。遺構は土坑5基、石組炉2基、焼土18か所、フレイクチップ集中1か所、土器埋設遺構1か所を検出した。石組炉は単独で検出し、火床面から焼骨片が検出された。

【後北C₂・D式期】

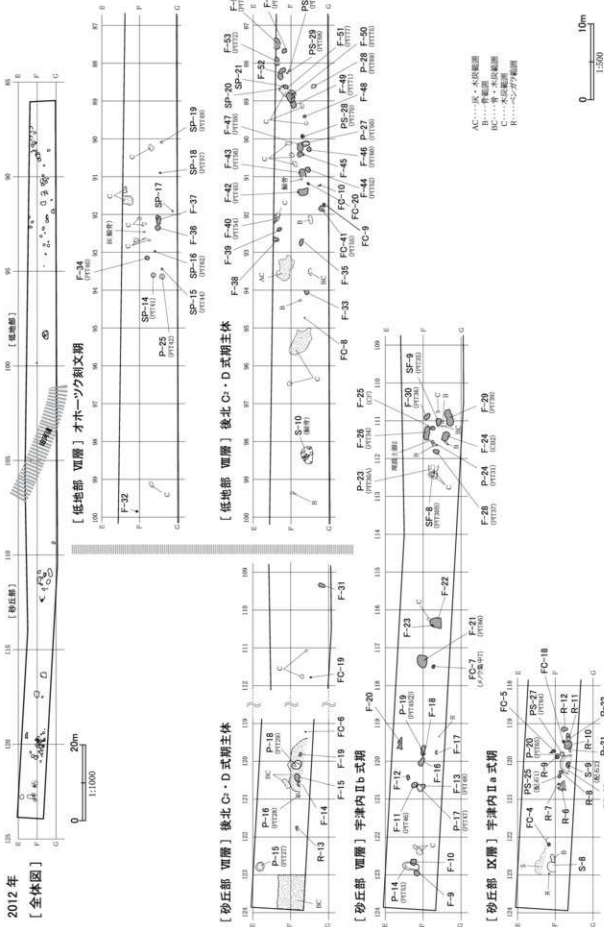
砂丘部Ⅶ層、低地部Ⅶ層で検出した。遺構は土坑5基、集石を伴う土坑3基、柱穴状小土坑2基、集石3か所、フレイクチップ集中6か所、ベンガラ範囲1か所を検出した。調査区全体の広い範囲から遺構・遺物が出土した。

【オホーツク文化期】

砂丘部Ⅶs層、低地部Ⅶ層で検出した。遺構は土坑2基、柱穴状土坑6基、焼土4か所を検出した。柱穴状土坑の組み合わせは不明瞭で、うち1基で加工痕のある木柱が残存していた。旧河道が砂丘を開析し、流木などが残存していた。

2012年

【全体図】



図Ⅴ-4 2012年調査区遺構位置図

2 遺構の調査とその遺物

遺構の記載内容は、概要報告書（斜里町教育委員会2013）や図・写真から編者（阿部）が記述した。

a 統縄文時代の遺構

(1) 土坑

13基（P-14～24・27・28）を検出した。時期は、宇津内Ⅱ a 式期3基（P-20～22）、宇津内Ⅱ b 式期5基（P-14・17・19・23・24）、後北C₂・D 式期5基（P-15・16・18・27・28）である。

P-14 (PIT53) (図Ⅶ-5 表Ⅶ-1・3 図版33・70)

Ⅶ層で検出した。F-9・10に隣接する。覆土は3層に分層し、いずれも炭化物を少量含む。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱ b 式。口唇は尖り、楕円文の突起がある。縄線の施文後、横位・縦位区画の微隆起線が付されている。

P-15 (PIT27) (図Ⅶ-5 表Ⅶ-1・3 図版33)

Ⅶ b 層で検出した楕円形土坑。

P-16 (PIT28) (図Ⅶ-5 表Ⅶ-1・3 図版33・70)

Ⅶ b 層から掘り込まれている。東半は炭化物層があり、一部攪乱を受けている。覆土下位から、土器が倒立状態で出土した。土器の内面にも炭化物が多量に付着している。

掲載遺物：2は後北C₂・D 式の注口付き鉢形土器。注口部など一部を欠くが、約80%が破損なく残存している。文様は主2+副2の単位で、注口部と対面側に弧線文や斜行する区画文があり、側面側は横位多段の区画文を配している。

P-17 (PIT47) (図Ⅶ-6 表Ⅶ-1・3 図版33)

Ⅶ層中間層で検出した。覆土は暗赤褐色を呈し、炭化物や焼骨片が出土し、焼土の可能性がある。

P-18 (PIT29) (図Ⅶ-6 表Ⅶ-1・3 図版33・70)

Ⅶ b 層で検出した。複数の段がある。遺物は覆土から土器・石器等44点のほか、炭化木片、骨片などが出土した。

掲載遺物：1は後北C₂・D 式の深鉢形土器の胴～底部。2本組の微隆起線区画内には、帯縄文ではなく条痕文が充填されている。2は無文のミニチュア土器。指頭による成形痕が残る。3はナイフ。正面左側縁と裏面の下縁にやや短い平坦加工が施されている。4は石斧。全面的な研磨により成形される。両刃で器体中央に最大厚があり、太型蛤刃石斧に類似する。

P-19 (PIT45②) (図Ⅶ-7 表Ⅶ-1・3 図版34)

Ⅶ層上位で検出した小型土坑。宇津内Ⅱ式とみられる土器小片3点が出土した。

P-20 (PIT65) (図Ⅶ-7 表Ⅶ-1・3 図版34)

Ⅹ層で検出した小型の円形土坑。覆土は炭化木片がやや多量含まれ、坑底に「焼砂」層がある。

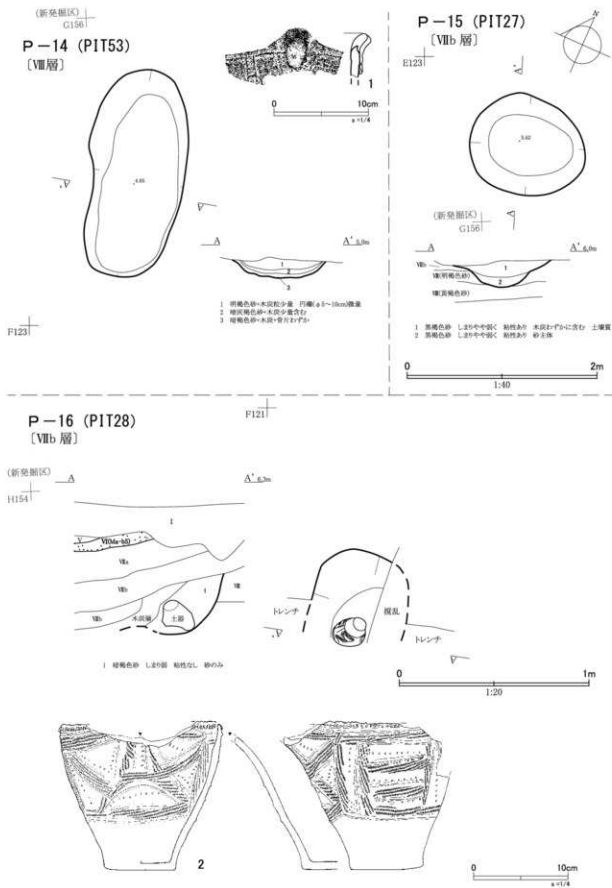
P-21 (PIT63) (図Ⅶ-7 表Ⅶ-1・3 図版34・70)

Ⅹ層で検出したやや小型の楕円形土坑。覆土は炭化木片とベンガラを多く含み、下位からベンガラが付着した大型の台石が出土した。ベンガラ範囲R-10に隣接し、関連する。

掲載遺物：1は台石。扁平な原石が利用され、正裏面に平滑面が見られる。全体的にベンガラが付着している。

P-22 (PIT61) (図Ⅶ-7 表Ⅶ-1・3 図版34)

Ⅹ層で検出した、やや小型で浅い円形土坑。ベンガラ・炭化木片を少量含む。ベンガラ範囲R-9に一部重複し、関連がある。

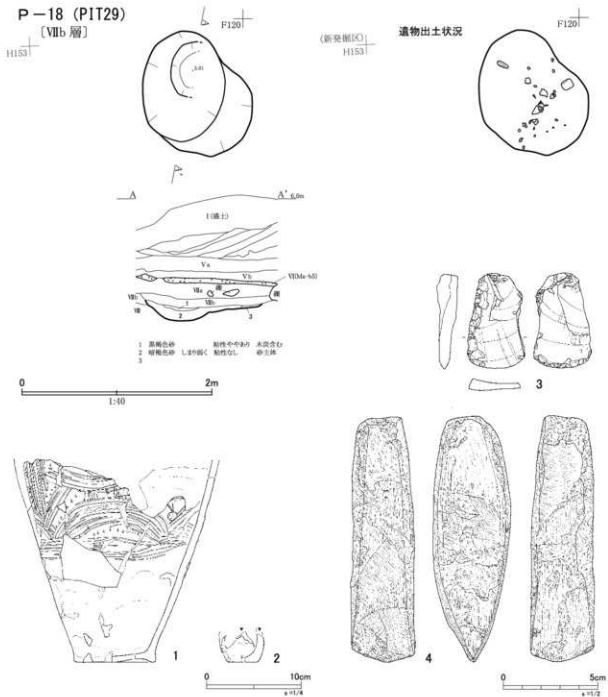


図VII-5 P-14・15・16 (PIT53・27・28)

P-17 (PIT47)
〔Ⅶ層中間層〕



P-18 (PIT29)
〔Ⅶb層〕



図Ⅶ-6 P-17・18 (PIT47・29)

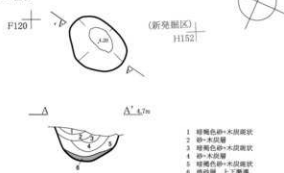
P-19 (PIT45②)

〔Ⅷ層中間層〕



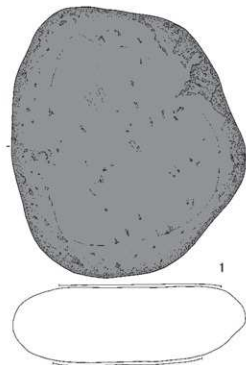
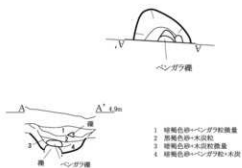
P-20 (PIT65)

〔IX層〕



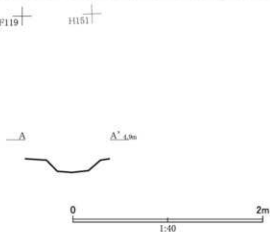
P-21 (PIT63)

〔IX層〕



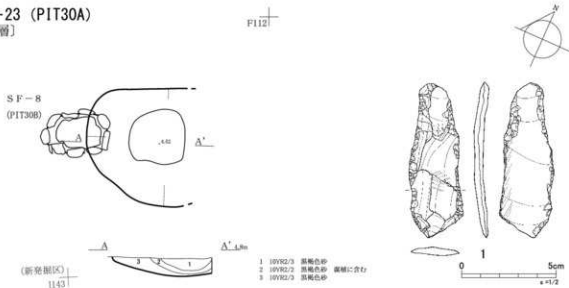
P-22 (PIT61)

〔IX層〕

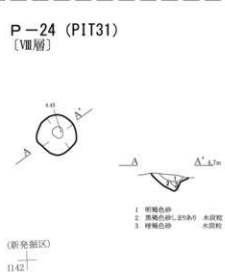


図Ⅶ-7 P-19・20・21・22 (PIT45・65・63・61)

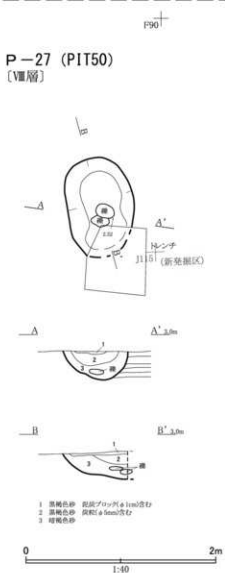
P-23 (PIT30A)
〔Ⅷ層〕



P-24 (PIT31)
〔Ⅷ層〕



P-27 (PIT50)
〔Ⅷ層〕



P-28 (PIT69)
〔Ⅷ層中間層〕



図Ⅷ-8 P-23・24・27・28 (PIT30A・31・50・69)

P-23 (PIT30A) (図Ⅶ-8 表Ⅶ-1・3 図版34・70)

Ⅶ層で検出した、やや浅い大型楕円形土坑。下位には石組炉SF-8がある。覆土には統縄文土器4点、ナイフ1点、フレイク10点のほか、炭化物、焼骨片などが含まれていた。

掲載遺物：1はナイフ。縦長剥片を素材として、縁辺全体に半両面加工が施されている。上部はわずかに柄部状に成形されている。

P-24 (PIT31) (図Ⅶ-8 表Ⅶ-1 図版34)

Ⅶ層で検出した、小型円形土坑。

P-27 (PIT50) (図Ⅶ-8 表Ⅶ-1・3 図版34)

Ⅶ層で検出した、楕円形土坑。

P-28 (PIT69) (図Ⅶ-8 表Ⅶ-1・3 図版34)

Ⅶ層中間層で検出した、浅い楕円形土坑。

PS-25 (配石1)

[IX層]

(新発掘区)

H153



F120



1 黒褐色砂・木炭粒



PS-26 (配石3)

[IX層]

F120

(新発掘区)

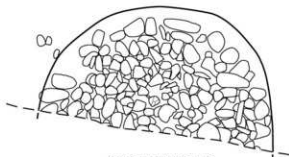
H152

F120

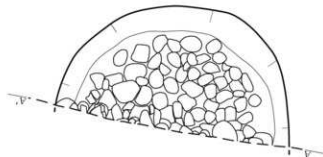
H153

上位

下位

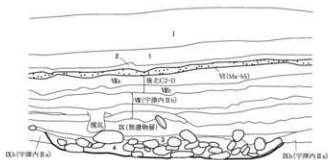


被熱して表面赤化見えるもの多し



△

△



- 1 土壌質の黒褐色砂
- 2 浮動した竹筒石を状況に分類 黒褐色砂
- (PS-26)
- 3 黒褐色砂・木炭粒
- 4 黒褐色砂・木炭・縄

0 2m
1:50

図Ⅶ-9 PS-25・26 (配石1・3)

(2) 集石を伴う土坑

6基 (PS-25~30) を検出した。時期は検出層位から、宇津内Ⅱa式期3基 (PS-25~27)、後北C₂・D式期3基 (PS-28~30) である。

PS-25 (配石1) (図Ⅶ-9 表Ⅶ-1 図版35)

Ⅸ層で検出した。小型円形土坑の坑底に20cm大の礫を配置し、その周囲にやや小型の礫を並べている。覆土に木炭粒を含む。

PS-26 (配石3) (図Ⅶ-9 表Ⅶ-1 口絵3、図版35)

Ⅸ層でS-9 (配石2) の下位から検出した。大型の浅い円形 (推定) 土坑に礫が敷き詰められていた。やや大型の丸みを帯びた扁平礫が多く、大きさ・形状が比較的整っている。表面が赤変しているものが多く、被熱したとみられる。集石のすき間の土壌には、炭化木片がやや多く含まれている。

PS-27 (PIT64) (図Ⅶ-10 表Ⅶ-1・3 図版35・70)

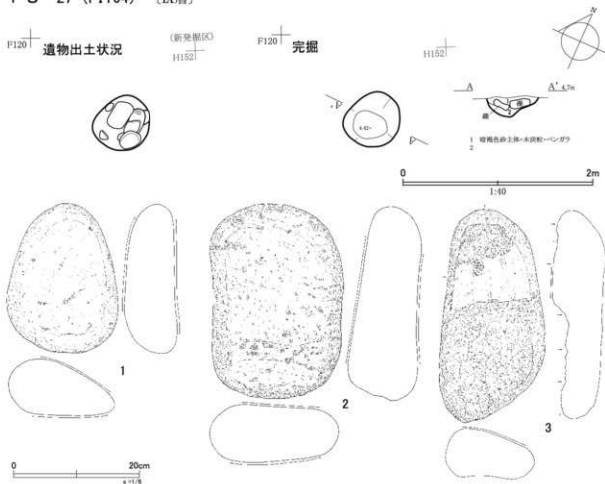
Ⅸ層で検出した。小型円形土坑に台石を含む礫が詰められていた。

掲載遺物: 1~3は台石。1・2は正裏面に平滑面が見られる。3は正面が大きく剥落している。

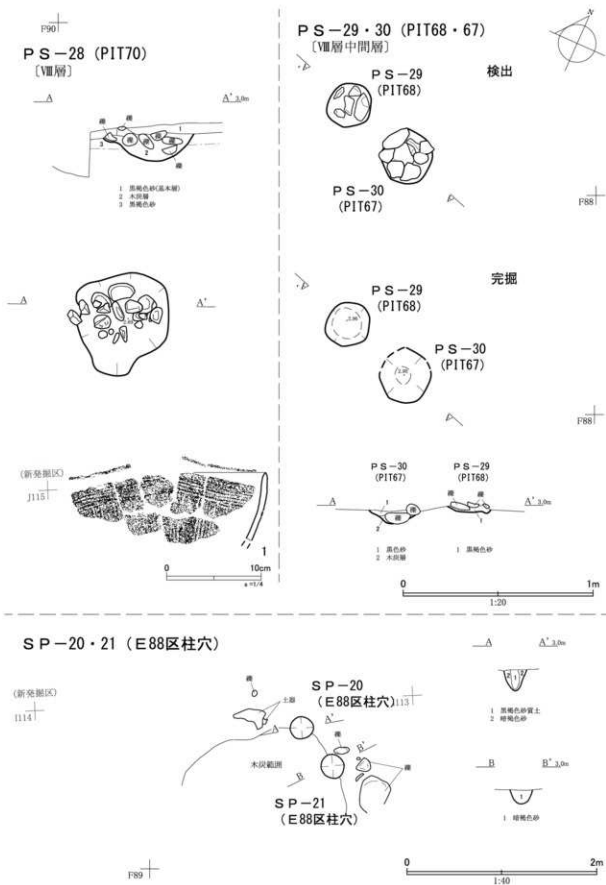
PS-28 (PIT70) (図Ⅶ-11 表Ⅶ-1・3 図版35・70)

Ⅷ層で検出した。不整楕円形の土坑中に礫20点の集石がある。覆土から黒曜石チップ59点が出土した。

PS-27 (PIT64) [Ⅸ層]



図Ⅶ-10 PS-27 (PIT64)



図Ⅶ-11 PS-28・29・30 (PIT70・68・67) SP-20・21 (柱穴)

掲載遺物：1は後北C₂・D式。帯縄文に沿う微隆起線により口縁部に横位、胴部に縦位の区画を配し、三角列点を施している。口唇部が磨滅しており、擬口縁の可能性もある。

P S - 29・30 (PIT68・67) (図Ⅶ-11 表Ⅶ-1 図版35)

Ⅷ層中間層で2基隣接して検出した。小型円形土坑から20cm前後の礫が密に検出された。P S - 30は覆土下位に木炭層がある。

(3) 柱穴状小土坑 (図Ⅶ-11 表Ⅶ-1)

2基(S P - 20・21、調査時は「柱穴」が近接して検出された。時期は検出層位から、後北C₂・D式期とみられるが、さらに上位からの掘り込みの可能性もある。周囲からは大型土器片・礫が出土し、木炭が分布する。

(4) 石組炉

2基(S F - 8・9)を検出した。時期はいずれも検出層位から、宇津内Ⅱb式期である。

S F - 8 (PIT30B) (図Ⅶ-12 表Ⅶ-1・3 図版5・71)

Ⅷ層で土坑P - 23 (PIT30A) の下位から検出した。火床面を安山岩製の亜円礫で囲んでおり、楕円形に近い方形を呈する。火床面(7層)は赤褐色を呈し強く被熱している。その上面(6層)には灰が分布し焼骨片がみられる。さらに上位には炭化木片が多く含まれる。

掲載遺物：1はナイフ。下半部が欠損している。上部は柄部と見られ、半両面加工により矩形に成形されている。2は台石。扁平な原石が利用され、正裏面に平滑面が見られる。

S F - 9 (PIT35) (図Ⅶ-12 表Ⅶ-1・3 図版5・71)

Ⅷ層で、S F - 8の東約6mの位置で検出した。安山岩製の亜円礫で囲んでおり、隅丸三角形(涙形、卵形)を呈する。礫はタール状の炭化物が付着しているものが多い。火床面は暗褐色を呈し、その上位から多量の炭化木片のほか獣骨片が検出された。

掲載遺物：3～5は台石。3・5は扁平、4は裏面に厚みのある原石が利用されている。3・4は正面、5は破損品で、正裏面に平滑面が見られる。

(5) 焼土 (図Ⅶ-13～20 表Ⅶ-1～3 図版6・36・37・71)

42か所を検出した。検出層位から、宇津内Ⅱb式期18か所(F - 9・13・16・18・20・26・28・30)、後北C₂・D式期24か所(F - 14・15・19・31・33・35・38～55)と推察される。

調査時に「PIT」番号を付した焼土は、落ち込み中として検出したもので、F - 11・13・21・26～30・34・40～44・46・47・49～51・53～55がこれにあたる。明瞭な被熱層のあるもの以外にも、「焼砂」が分布するものや「火床面」が観察されるものなど、積極的に焼土に含めた。これ以外は平面で検出し、発掘区ごとに焼土番号を付した(例：F120区焼土2)。F - 9・10・12・14～20・22・23・25・26・31・33・35・38・39・45・48・52がこれにあたる。また「木炭範囲」「骨範囲」とした中に「焼砂」があるものも焼土とした(例：F - 24、「炭・骨範囲2」)。

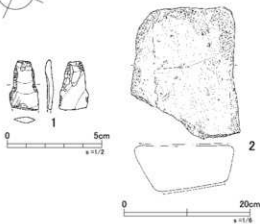
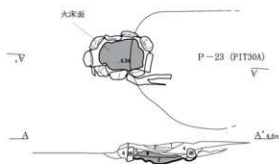
なおF - 29 (PIT39) の周辺(F110・111区、Ⅷ層)はベンガラを含む赤褐色の土壌が広がり、F - 29とともにベンガラ製作にかかわる範囲と考えられる。

掲載遺物

F - 26 (PIT34)：1は宇津内Ⅱb式。突起部に菱形に近い楕円文、3本単位の微隆起線による横位区画、同心円文、山形文を配している。内外面の口縁部に炭化物がやや多量に付着している。

S F - 8 (PIT30B)

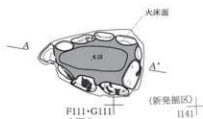
〔Ⅷ層〕



- 1 10V32/2 黒褐色砂 木炭による着色?
- 2 10V32/2 黒褐色砂
- 3 10V32/2 黒褐色砂 木炭による着色?
- 4 10V32/4 黒褐色砂 環壁の一部ないしPIT30壁土 底面はPIT30底面近く環壁中の黒色砂で、木炭が1cm3% やや赤色化
- 5 10V32/2 黒褐色砂 木炭による着色
- 6 10V32/3 黒褐色砂 赤い砂(φ1cm)塊状焼骨片(φ1cm)10% 使用中の増積土か 腐性や赤い 灰ないし米分解の有機物を含む?
- 7 赤褐色砂 焼熱した砂層 遺物含まない 上面が大床面
- 8 10V32/2 黒褐色砂 赤いV字溝を設置したごみ内の充填土

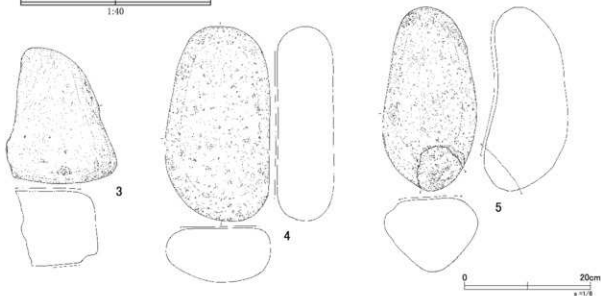
S F - 9 (PIT35)

〔Ⅷ層〕



- 1 暗褐色砂のみ
- 2 鉄骨多量に混入した暗褐色砂 鉄骨が沈着して硬い
- 3 鉄骨多量に混入した暗褐色砂
- 4 暗褐色砂・鉄骨多量・木炭
- 5 鉄骨多量に混入した暗褐色砂 裏込めの砂で硬い
- 6 暗褐色砂・鉄骨片(環壁)

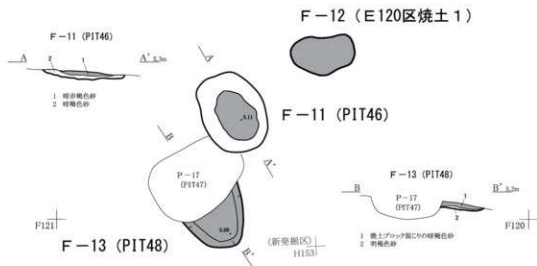
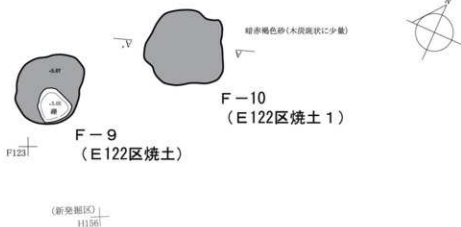
■ : タール付着 トーン 60%



図Ⅷ-12 S F - 8 ・ 9 (PIT30B ・ 35)

F-9 ~ 13

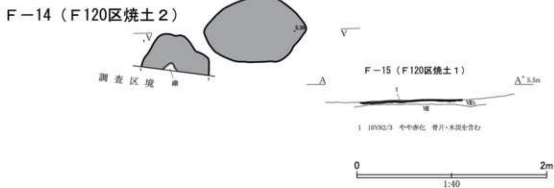
〔Ⅶ層〕



F-14・15

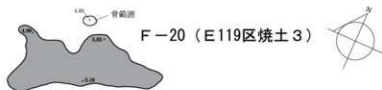
〔Ⅶb層〕

F-14 (F120区焼土2) F-15 (F120区焼土1)



図Ⅶ-13 F-9 ~ 15 (PIT46・48ほか)

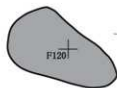
F-16 ~ 18・20
〔Ⅶ上層〕



F-20 (E119区焼土3)

暗赤褐色砂+粘骨少量(鳥骨コブ)、粘性あり。

F-16 (E119区焼土1)



F-18 (F119区焼土1)



F119

F-17 (F119区焼土2)



F-17 (F119区焼土2)

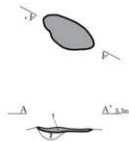


1 焼土 赤褐色砂+木炭屑種子含む少量

F120

(新発掘区)
H152

F-19 (F119区焼土1)
〔Ⅶb層〕



1 赤褐色砂 ヤブタバコ 炭化物微量含む
2 Ⅶb

F-21 (PIT66)
〔Ⅶ上層〕



F117



1 黄褐色砂+木炭粒
2 木炭層 暗褐色砂+木炭粒

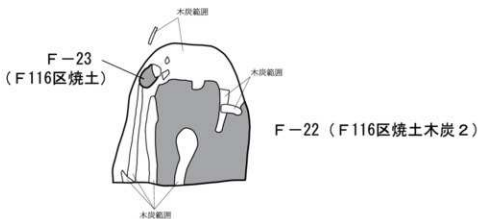
0 2m
1:40

図Ⅶ-14 F-16~21 (PIT66ほか)

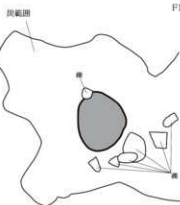
F-22 ~ 25
〔Ⅶ層〕

H148 (新発掘区)

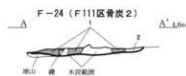
F116



F-25
(F111 zone fired earth · wood charcoal)



F-24 (F111 zone bone charcoal 2)



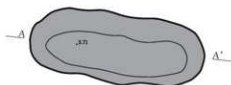
- 1 暗赤褐色砂 粘性あり 炭骨が少量・木炭 炭燻が中心
- 2 褐色砂 粘性あり 炭骨が少量



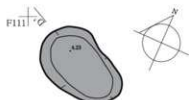
図Ⅵ-15 F-22~25 (焼土・木炭)

F-26・28～30

〔Ⅷ層〕



F-26 (PIT34)



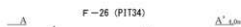
F-30 (PIT36)

〔Ⅷ下層〕



F-28 (PIT37)

(新発掘区)
1142



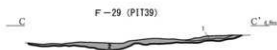
F-26 (PIT34)

- 1 表分の沈んだ赤褐色砂 木炭を含む
- 2 灰褐色砂 炭骨片が少量混在 土質均一
- 3 灰褐色砂 木炭の混在



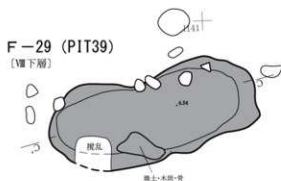
F-28 (PIT37)

- 1 褐色砂 木炭少量 炭骨微量
- 2 灰褐色砂 粘りあり 炭骨少量 (2層と3層の境が大床面(考え))
- 3 灰褐色砂 粘りあり 砂
- 4 灰色砂



F-29 (PIT39)

- 1 緑赤褐色砂 粘りあり 炭骨片・木炭
- 2 褐色砂 粘り強 土質均一 炭骨微量



F-29 (PIT39)

〔Ⅷ下層〕

視孔

粘土・木炭・骨

G111

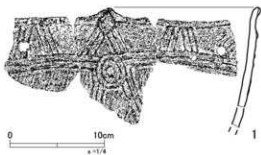


F-30 (PIT36)

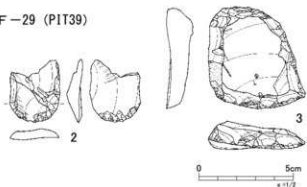
- 1 緑赤褐色砂の灰褐色砂 粘りあり
- 2 褐色片層状の褐色砂
- 3 礫山



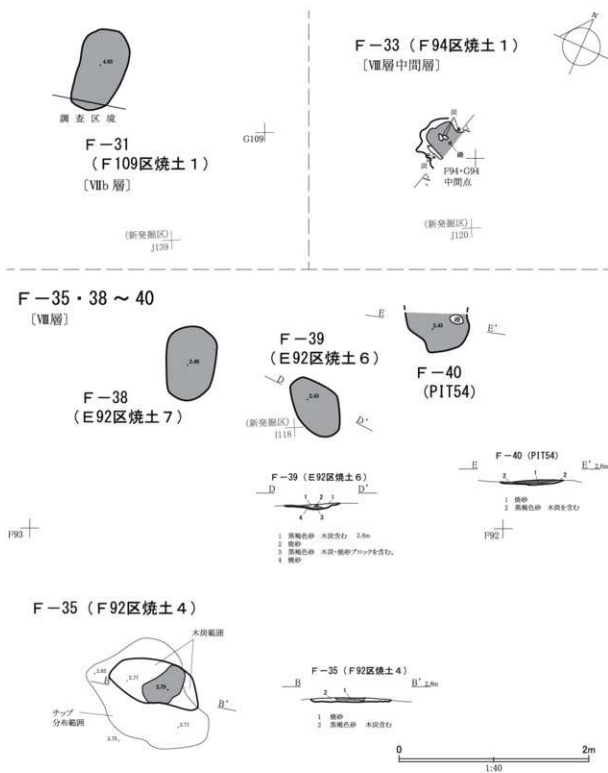
F-26 (PIT34)



F-29 (PIT39)

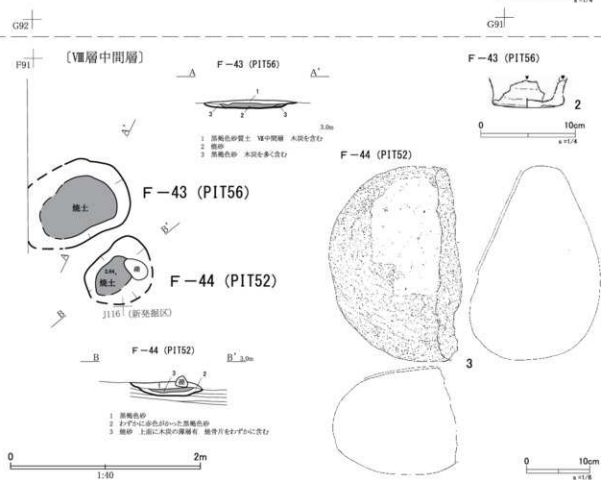
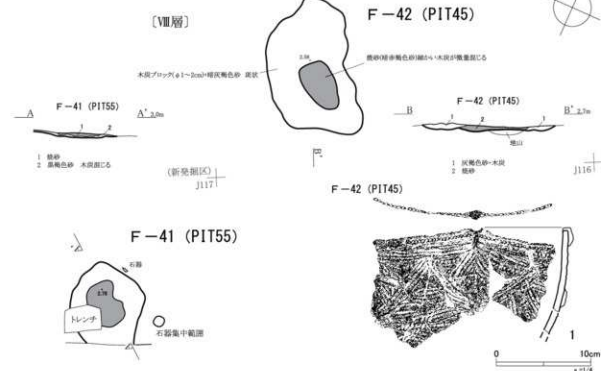


図Ⅶ-16 F-26・28～30 (PIT34・36・37・39)

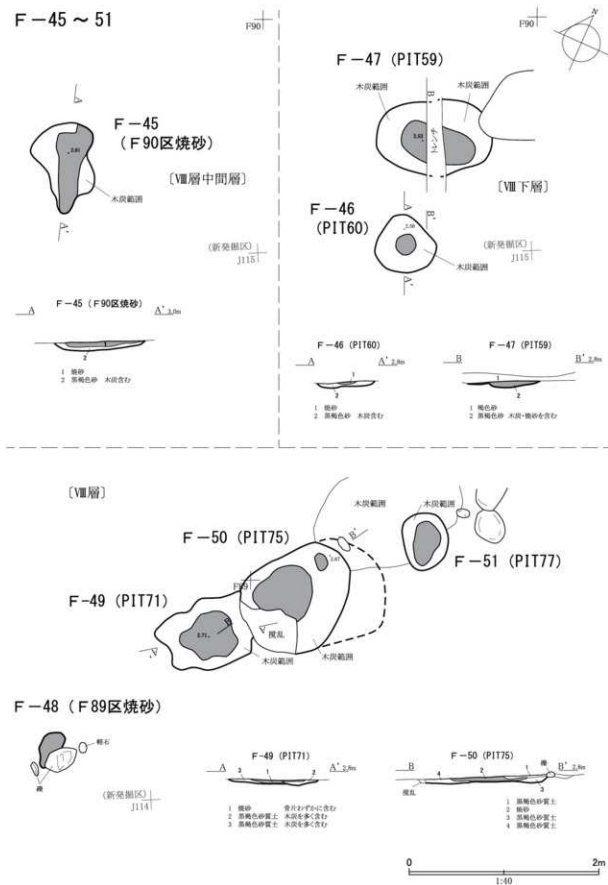


図Ⅶ-17 F-31・33・35・38~40 (PIT40ほか)

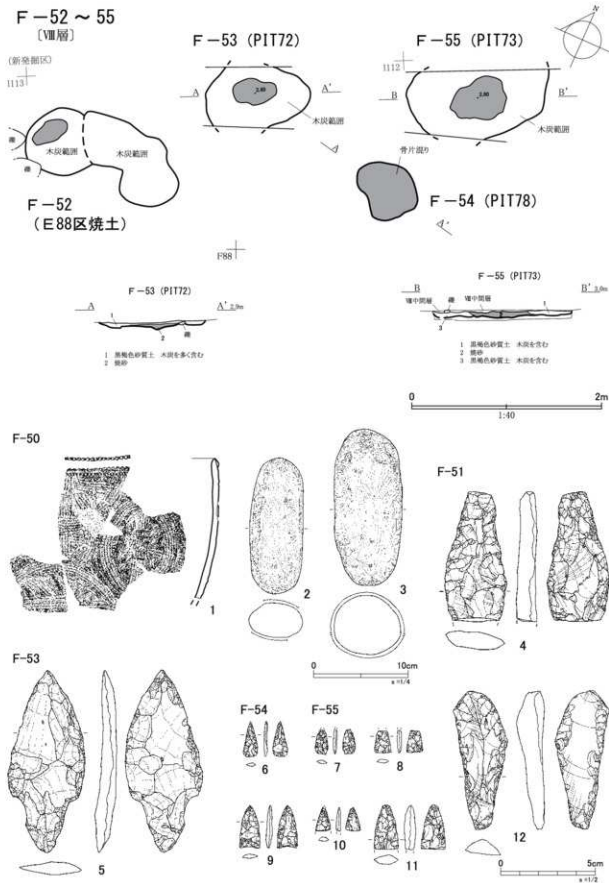
F-41 ~ 44



図Ⅷ-18 F-41~44 (PIT55・45・56・52)



図Ⅶ-19 F-45~51 (PIT75ほか)



図VII-20 F-50~55 (PIT73ほか)

F-29 (PIT39)：2はナイフ。上半部が欠損している。下端に平坦な半両面加工が施され、円弧状の刃部が作出されている。3はスクレイパー。急角度加工により主に下端に円弧状の刃部が作出されている。

F-42 (PIT45)：1は後北C₂・D式。口縁突起と胴部の貼瘤を縦軸に、山形の帯縄文など4単位の文様が配置されているとみられる。

F-43 (PIT56)：2は後北C₂・D式の底部。底面はやや丸みを帯びる。

F-44 (PIT52)：3は台石。厚みのある原石が利用され、正面の一部に平滑面が見られる。

F-50 (PIT75)：1は後北C₂・D式。湾曲から大型深鉢とみられる。楕円文・弧線文の組み合わせによる文様が配置されている。2・3はすり石。いずれも棒状の原石が利用され、2は正裏面、3は全面的に擦痕が見られる。

F-51 (PIT77)：4はナイフ。下半部が欠損している。やや粗い両面加工が全面的に施されている。上部は矩形の柄部が作出され、器体中央の縁辺部は緩やかに湾曲している。

F-53 (PIT72)：5は石槍。安山岩製で粗い両面加工が全面的に施されている。基部は緩やかに取斂し、明瞭なカエシが見られる。刃部は右側縁のみ湾曲する形状である。

F-54 (PIT78)：6は石鏃。平基で両側縁は基部付近でややすはまる。裏面にはわずかに素材面が残存している。

F-55 (PIT73)：7～11は石鏃。7・8は平基、9は凹基、10・11は下半部が欠損している。両側縁は7が基部付近でややすはまり、8・10が直線的、9・11がやや湾曲する形状である。素材面は9・10の裏面に残存している。12はナイフ。縦長剥片を素材として、縁辺全体に半両面加工が施されている。

(6) 礫集中

3か所(S-8-10)を検出した。時期は検出層位から、S-8・9は宇津内Ⅱa式期、S-10は後北C₂・D式期とみられる。ただしS-10は「Ⅶ層」においても周辺からオホホック式土器が出土しており、刻文期の可能性がある。

S-8 (E122区集石) (図Ⅶ-21 表Ⅶ-2 図版37)

Ⅸ層で検出した。浅くくぼんだ楕円形とみられる範囲の中央部に礫がまとまって出土した。

S-9 (配石2) (図Ⅶ-21 表Ⅶ-2・3 図版37)

Ⅸ層でP S-26(配石3)より上位から検出した。10～20cmほどの礫群を囲むように30cm前後の大型の亜円礫が配置されている。

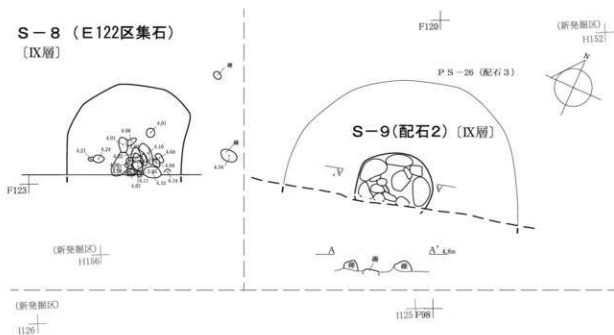
S-10 (鯨骨・集石) (図Ⅶ-21 表Ⅶ-2 図版37)

Ⅸ層で検出した。クジラの椎骨とみられる骨片が検出され、その周囲から30～40cmの大型扁平礫や小型の礫が出土した。鯨骨は痕跡的に糊状に残存している部分が多く、主体部を下層の砂ごと取りあげた。

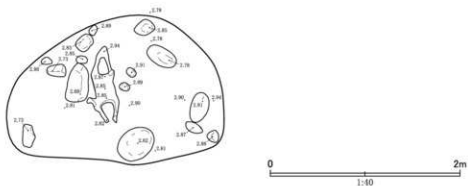
(7) フレイクチップ集中 (図Ⅶ-22・23 表Ⅶ-2・3 図版38・71)

10か所(FC-4-10・18-20)を検出した。時期は検出層位から、宇津内Ⅱa式期3か所(FC-4・5・18)、宇津内Ⅱb式期1か所(FC-7)、後北C₂・D式期6か所(FC-6・8-10・19・20)とみられる。

調査時は、各発掘区の「石器集中」(例：E122区石器集中1)とし、FC-7は「F117区メノウ



S-10 (F98区鯨骨・集石)
〔VII層〕



図VI-21 S-8～10 (集石・配石)

集中」として取り上げている。FC-7以外は黒曜石のフレイクチップを主体とする集中域で、石鏃などの剥片石器類が少数含まれている。

出土点数は、土壌水洗により回収した微細なチップ類を含め、FC-5が2,636点（うち石鏃2点）、FC-7が1,301点（メノウチップが主体）が数えられている。これ以外は「包含層」としてとりあげたものが多い。また「炭範囲」・「骨範囲」とした中にも多数のフレイクチップが含まれている。

掲載遺物

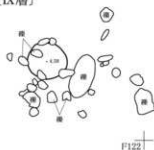
FC-5 (E119区石器集中)：1・2は石鏃。1は平基、2は上下端が欠損している。1の両側縁は大きく湾曲する形状である。いずれも素材面が表面に残存している。

FC-4~10

FC-4

(E122区石器集中1)

[IX層]



F122

(新発掘区)
H155

FC-5

(E119区石器集中1)

[IX層]



F120

(新発掘区)
H152



1



2

0 5cm
1:2

(新発掘区)
F119

(新発掘区)
H151

(新発掘区)
H149

F117

FC-6

(F119区石器集中)

[VIIb層]



(新発掘区)
H121

FC-7

(F117区メノウ集中)

[VIII層]



(新発掘区)
J117

F95

FC-10

(F91区石器集中)

[VII層]



3.34

3.34

3.37

FC-8

(F94区石器集中)

[VIII層中間層]



C92



FC-9

(F91区石器集中)

0 2m
1:40

図Ⅶ-22 FC-4~10 (石器集中)

FC-18 ~ 20

(新発掘区)
H152

FC-18 (F119区石器集中)
[IX層]



F119

F112



FC-19
(F111区石器集中)
[VII層]



F91

F112-F111
中間点

埋設土器 2
[VII層]



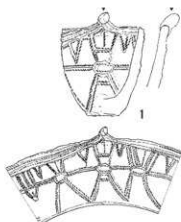
1 灰褐色砂 胎色なし、しまりあり 砂のみ



FC-20 [VII層中間層]



(新発掘区)
J116



F122

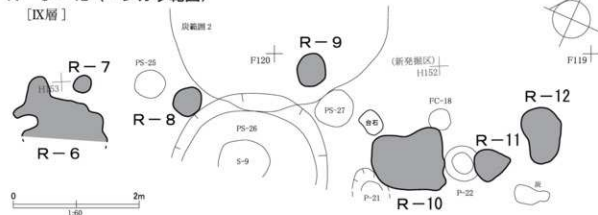
R-13 [VIIb層]

(新発掘区)
H155



図VII-23 FC-18~20 (石器集中)・埋設土器2・R-13 (ベンガラ範囲)

R-6～12 (ベンガラ範囲)



図Ⅶ-24 R-6～12 (ベンガラ範囲)

(8) 土器埋設遺構

1か所(埋設土器2)検出した。

埋設土器2 (図Ⅶ-23 表Ⅶ-2 図版38・71)

Ⅷ層で検出した。長軸約60cmの浅い土坑に小型土器が正立して出土した。土器の周囲は灰褐色砂で充填され、しまりがある。周辺には石組炉(SF-8)や焼土(F-26・28・29)のほか炭化物や骨片の分布域もみられ、関連があると考えられる。

掲載遺物：1は宇津内Ⅱb式の小型鉢。ほぼ完形で破損がない。突起は1か所で、対面側はわずかな波頂部がある。上げ底で、胴下部～底部は器壁が厚い。無文地で、文様は微隆起線により楕円文とV字状文などを組み合わせ4単位の割り付けとなっているが、それぞれ単位内の文様が若干異なる。

(9) ベンガラ集中

ベンガラとみられる赤褐色の粒子を多く含む土壌を検出し、特に濃密に分布する範囲8か所を「R」(ベンガラ集中、ベンガラ範囲)とした。Ⅸ層宇津内Ⅱa式期で7か所(R-6～12)、Ⅶ層後北C₂・D式期で1か所(R-13)を数えた。これら以外でも、Ⅷ層F119区・F121区、Ⅸ層122区からベンガラや褐鉄鉍が多数出土した。

R-6～12 (ベンガラ範囲) (図Ⅶ-24 表Ⅶ-2 図版8)

Ⅸ層F119・120区の2発掘区において、集石土坑PS-25～27や土坑P-20・21の周囲から連続的に検出した。またR-6～12の周囲から、ベンガラが付着したすり石や台石が出土した(「包含層出土の石器」、図Ⅶ-40・41の93～96・98・100)。これら一連の遺構(集石土坑や土坑の一部も含む)・遺物は、ベンガラ製作にかかわるものと考えられる。

R-13 (ベンガラ範囲) (図Ⅶ-23 表Ⅶ-2)

Ⅶb層で検出した。周囲からは、褐鉄鉍やベンガラ粒子が出土した。

b オホーツク文化期の遺構

(1) 土坑

2基(P-25・26)を検出した。時期はいずれも刻文期である。

P-25 (PIT42) (図Ⅶ-25 Ⅶ-1・3 図版39)

円形土坑の上位が広がり、浅い不整形円形土坑となっている。木片と礫が出土した。やや太い柱痕の可能性はある。

P-26 (PIT43) (図Ⅶ-25 表Ⅶ-1・3 図版39・71)

浅い楕円形の土坑の西側に円形の落ち込みがあり、炭化木片を多く含む。

掲載遺物：1は刻文土器で甕の肩部。隆帯上に斜位の細い刻文が連続する。

(2) 柱穴・小土坑 (図Ⅶ-26・27 表Ⅶ-1・3 図版39・40・71・80)

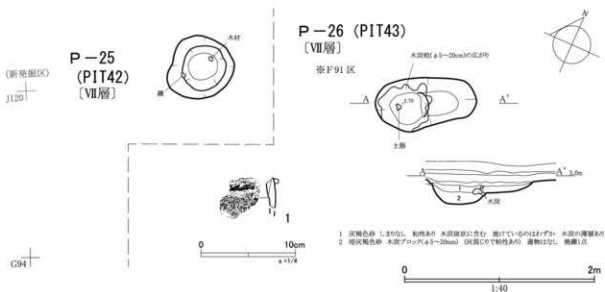
6基(SP-14~19)を検出した。時期はいずれも刻文期とみられる。SP-16・18・19はⅦ層で検出したが、覆土や形状からⅧ層中から掘り込まれたとみられる。柱穴の配列に規則性は確認できなかった。特記事項として、SP-15(PIT44)に柱が残存していた点が挙げられる。掘り方の中央に柱が埋め込まれ、周囲をシルトで固めたと観察され、掘立柱構造を呈する。SP-19にも小型の木片が残存していた。またSP-15のほかSP-14・18・19にも掘り方の構造が観察できる。

掲載遺物

SP-15：1は木柱。長さ約63cm、径約14cmが残る。丸棒状を呈するが、これは腐食が進んだためとみられる。下端部は斧などの工具により山形に加工されている。側面は面取りしてあるように見受けられるが、腐食により不明瞭である。炭化部位は見られない。樹種はコナラ属である。

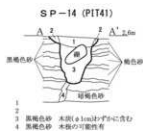
SP-18：1はスクレイパー。左側縁から下端にかけて直線的に急角度の加工が施されている。

SP-19：2は石鏃。有茎で基部は収斂し、やや明瞭なカエシが見られる。やや粗い両面加工が施され正面に原石面、裏面に素材面が残存している。



図Ⅶ-25 P-25・26 (PIT42・43)

P94 SP-14~17
〔Ⅶ層〕



SP-14 (PIT41)



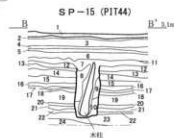
- 1 黒褐色砂
- 2 黒褐色砂 木質(φ1cm)碎片を含む
- 3 黒褐色砂 木質(φ1cm)碎片を含む
- 4 黒褐色砂

SP-15 (PIT44)



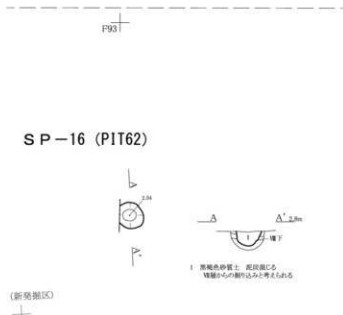
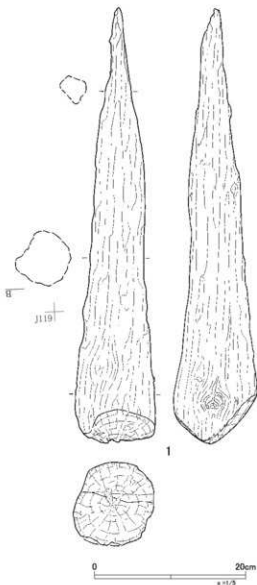
(新発掘区)

J120



- [SP-15]
- 7 黒褐色砂
 - 8 黒褐色砂
 - 9 褐色砂
 - 10 黒褐色砂
- ブロック含む

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1 Ma-6II | 13 褐色砂 |
| 2 灰土段の互層 | 14 黒褐色砂 木質(φ1cm)含む |
| 3 灰土段の互層 | 15 褐色砂 |
| 4 灰土段の互層 | 16 黒褐色砂 木質(φ1cm)含む |
| 5 灰土段の互層 | 17 黒褐色砂 木質(φ1cm)碎片を含む |
| 6 黒褐色泥炭 | 18 褐色砂 |
| 7 黒褐色砂 | 19 黒褐色砂 木質(φ1cm)含む |
| | 20 褐色砂 |
| 11 灰 | 21 褐色砂 |
| 12 黒褐色砂 | 22 黒褐色砂 木質(φ1cm)含む |
| 13 黒褐色砂 | 23 褐色砂 |
| 14 中炭層 | 24 黒褐色砂 中々粗い |



(新発掘区)

J119

SP-17
(F91区柱穴)



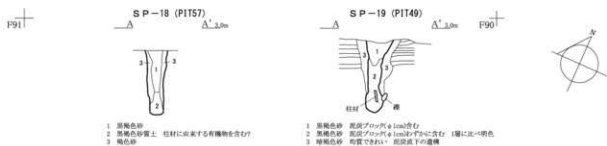
G92



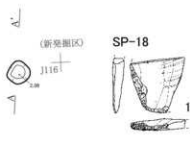
(新発掘区)

J117

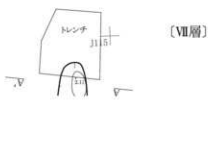
図Ⅶ-26 SP-14~17 (PIT41・44・62)



SP-18 (PIT57)



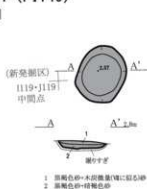
SP-19 (PIT49)



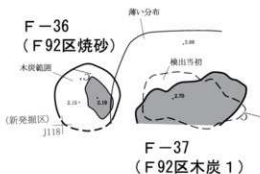
F-32 (E99区焼土1)



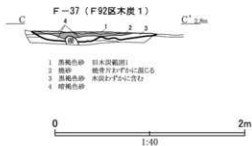
F-34 (PIT40)



F-36
(F92区焼砂)



F-37
(F92区木炭1)



図Ⅶ-27 SP-18・19 (PIT57・49)・F-32・34・36・37 (PIT40ほか)

(3) 焼土 (図Ⅶ-27 表Ⅶ-1 図版40)

低地部Ⅶ層で4か所(F-32・34・36・37)を検出した。時期はいずれも刻文期とみられる。落ち込みとして検出したF-34(PIT40)のほかは平面で検出し、調査時は発掘区ごとに焼土番号を付した。「焼砂」や炭化木片が分布する。

3 包含層出土の遺物**(1) 土器等** (図Ⅶ-28~34 表Ⅶ-4~7 図版70~75)**縄文時代の土器** (1~73)

初期を除いた前半期~後半期の土器が2,426点出土した。宇津内Ⅱa式は調査区西部の「砂丘部」Ⅹ層から少数、宇津内Ⅱb式は「砂丘部」Ⅶ層から約300点が出土した。後北C₂・Dは「砂丘部」Ⅶ層および低地部Ⅶ層を主体に、調査区の広範囲から約1,800点が出土した。

宇津内Ⅱa式 (1~4)

1は口縁波頂部下に逆U字状の擬縄貼付文が貼付されている。2は地文と突瘤のみが施されている。3・4は上げ底。3は底面にも縄文が施文されている。

宇津内Ⅱb式 (5~37)

5~14は復元した土器。5~8は擬縄貼付文または細い貼付文、多条の縄線が施されているもの。なお図は「側面」にあたる大型突起側を正面に示している。5・6は大2+小4個の突起がある。5は突起下に楕円文と多重の楕円文が縦列し、上下とも左右斜方向に帯状の文様が連繋し、人体文を想起させる。6は屈曲する擬縄貼付文が組み合わされた文様が配され、それらを連繋する多条の擬縄貼付文が施されている。7は口縁~胴部が倒立状態で出土した。表面が剥離しその隙間に砂が入り込み浮いた状態の剥離片が多かったため、砂ごとバインダーで固めて取り上げている。突起部の楕円文が前方に張り出す。8は弁状の突起下に擬縄貼付文が垂下する。9は大2+小2個の突起があり、縄線に加えて微隆起線が横位に2条貼付されている。10は4単位の突起下に瘤状の貼付文があり、その上から縄線が施文されている。11は突起部の瘤状の貼付文から微隆起線が斜位に延びる。地文の熱りが細かい。上げ底の底面に縄文押捺が平行する。12~14は底部で、いずれも上げ底。

15~37は拓影により示した。15は口縁部に擬縄貼付文と多条の縄線が施されている。16・17は把手付きの突起部。16は把手に縄端刺突を伴う微隆起線が施され、頂部に小さな突出部がある。17は頂部だけに施文がある。18~22は擬縄貼付文・縄線による文様がみられるもの。突起下の楕円文(18)、胴部の同心円文とそれらを連繋する放射状の直線(19~21)が配されている。22は上げ底で、底部付近に横位に多条の縄線がめぐる。23~35は主に細い貼付文または微隆起線による文様がみられるもの。突起下の楕円文(23・24・32・34)、胴部の同心円文とそれらを連繋する直線(23・25・26・29・31~33)などが配される。胴部の細い貼付文または微隆起線は2本一組が多いが、3本以上もみられる(23・32~34)。23・24・27~29は口縁部に多条の縄線も施文されている。25は貼付文裾部に沿う縄端刺突、26は貼付文上の縄端刺突が顕著である。30は11に類似する地文・文様が施されている。32は大型の深鉢で、大2+小2単位の突起を有するが、文様の単位はやや乱れている。地文が帯縄文に近く、貼付文の頂部がとがる。文様等を含め、後北C₁式の影響を受けたものと考えられる。33は微隆起線による横位区画内に斜位の微隆起線を配する。把手付きの突起は16に近似する。36は地文主体で、口唇下に1条、2個突起下にV字状に隆起線を配している。37は縄文のみがやや不規則方向に密に施文されている。

後北 C₂・D式 (38~72)

38~47・72は復元土器。38~41は口唇上刻み、帯縄文に沿う微隆起線、三角列点を伴うもの。38は4単位構成で、突起下に縦位の2組の帯状文で区画し、区画内に山形の帯状文が配されている。補修孔が多い。39は弧線や縦横の文様が配されている。文様帯下端の横位区画帯縄文に微隆起線が伴わない。40・41は注口付きの鉢。ともに注口部が上方に突き出している。40は平底で、周縁部が張り出す。40は楕円文と斜位の帯縄文、41は縦位・横位の帯縄文区画内に弧線文などがやや不規則に施されている。42~47は微隆起線がみられない。42は口縁部に2条の擬縄貼付文がめぐり、突起下に眼鏡状の楕円文が付されている。43・44は4単位構成で、43は弧線や曲線、44は縦横の区画が行われている。45・46は底部で、45は底面近くまで帯縄文が施文されている。47は注口付きの鉢。弧線文主体の文様が施されている。

48~71は拓影により示した。48~58は帯縄文に沿う微隆起線、三角列点を伴うもの。48~50は円文・弧線文を主体とする。52は微隆起線がきわめて細い。53は擬縄貼付文がほぼ口唇に接している。55~57は同一個体。縦横の区画文が密に施されている。58は頂部付近が外反し、片口部と思われる。焼成前の貫通孔が2個近接している。59~70は微隆起線がみられない。59~65は口縁部に擬縄貼付文が施されるもの。59・60は同一個体で、弧線文を主体にやや複雑な文様構成になっている。一方62~64・66は横位と縦位・斜位の直線による文様が組み合わされている。63は2条の擬縄貼付文が口縁部に施されている。65・67は条痕文により弧線文などがえがかれている。70は注口部。上方に大きく屈曲し、中央部は器壁が厚く内径が小さい。71・72はミニチュア土器。

鈴谷式 (73)

73はわずかに出土した鈴谷式。異方向2本組の摺糸文が施文されている。

オホーツク文化期の土器 (74~114)

調査区中央部~東部のⅦs・Ⅶa層を主体に約1,250点出土した。ほぼ刻文期に限られるが、わずかに十和田式とみられる土器が出土している。

円形刺突文土器 (74)

74は口唇直下が外反する。小型の円形刺突がみられる。

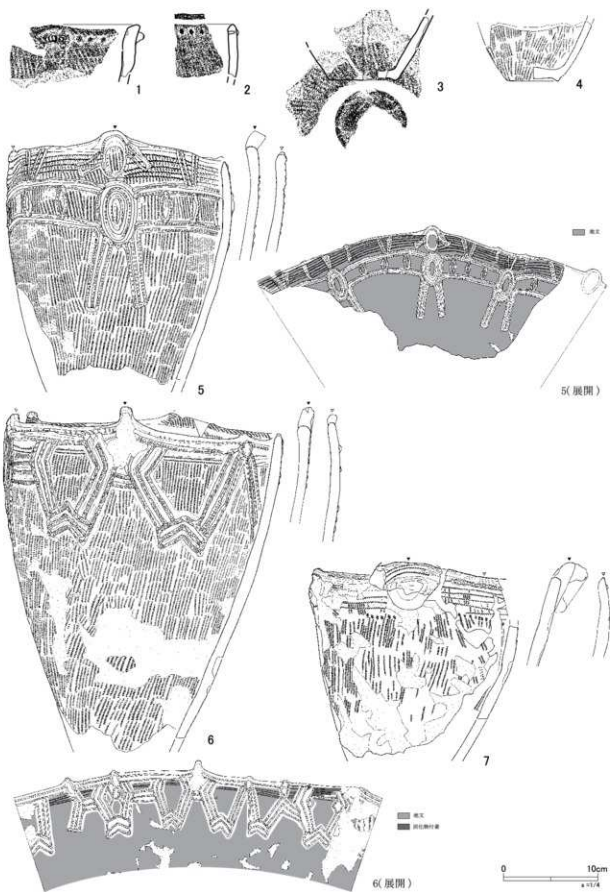
刻文土器 (75~114)

75~91は櫛歯文が施されているもの。75は幅の狭い肥厚帯下に沈線、その下に横位の櫛歯文が付されている。78は櫛歯文を羽状に配置している。80は肥厚する口縁部に刻文(爪形文)、79・81~84は櫛歯文の上下端に刻文が施されている。85~88・90・91は櫛歯文の上下に沈線文も施され、86~89はさらに刻文もみられる。また86~88のハの字文は、86が沈線に近い刻文、87が刻文、88が櫛歯文で表されている。89~91は櫛歯文がやや不明瞭で沈線状になっている。92・93は胎土に金雲母とみられる鉱物が含まれ、うち92はハの字形刻文が縦位に施文されている。94~109は刻文が施されているもの。94は肥厚する口縁部が複段になっており、上下端にハの字形刻文が連続する。96は刻みが深い。97~101は爪形文による。104・106・107は肥厚する口縁部断面が台形をなし、上下端に刻文が施されている。108は肥厚する口縁部の幅が狭い。109は斜位の刻文が多段みられる。110~114は無文の土器あるいは無文部。111は顔料が塗布されているようにみられる。112は小型の甕。113・114は平底。

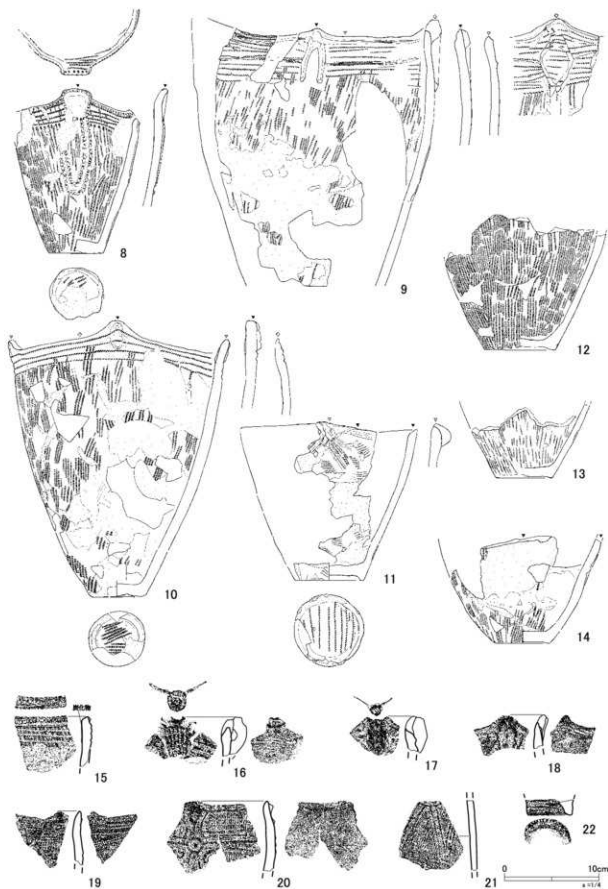
土製品 (115)

円盤状土製品 (115)

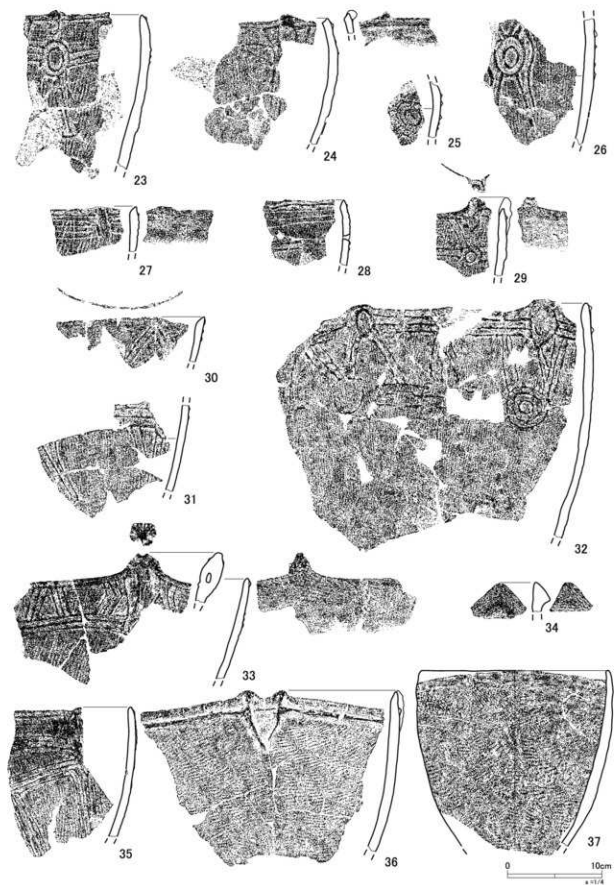
115は表土から出土した、宇津内Ⅱb式の土器片を加工した土製品。楕円形に近い形状で、横断面が湾曲する。側面はいいいみがかれ、平滑な面になっている。(阿部)



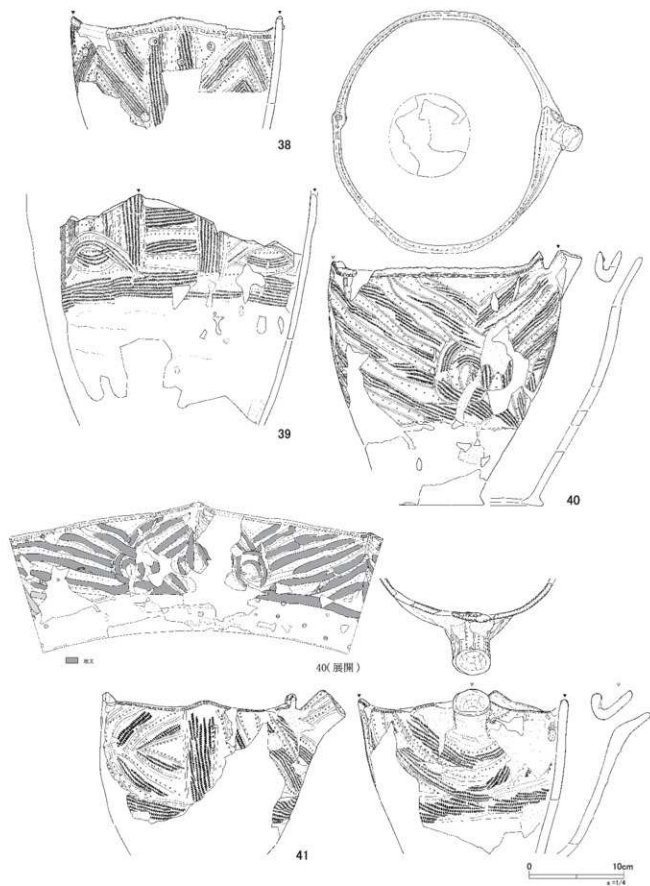
図Ⅶ-28 包含層出土の土器（1）



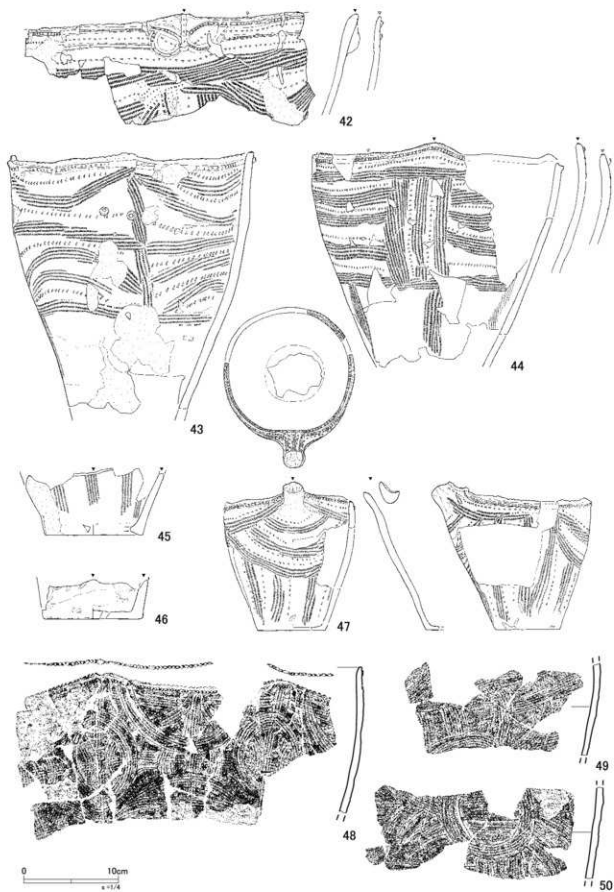
図Ⅶ-29 包含層出土の土器(2)



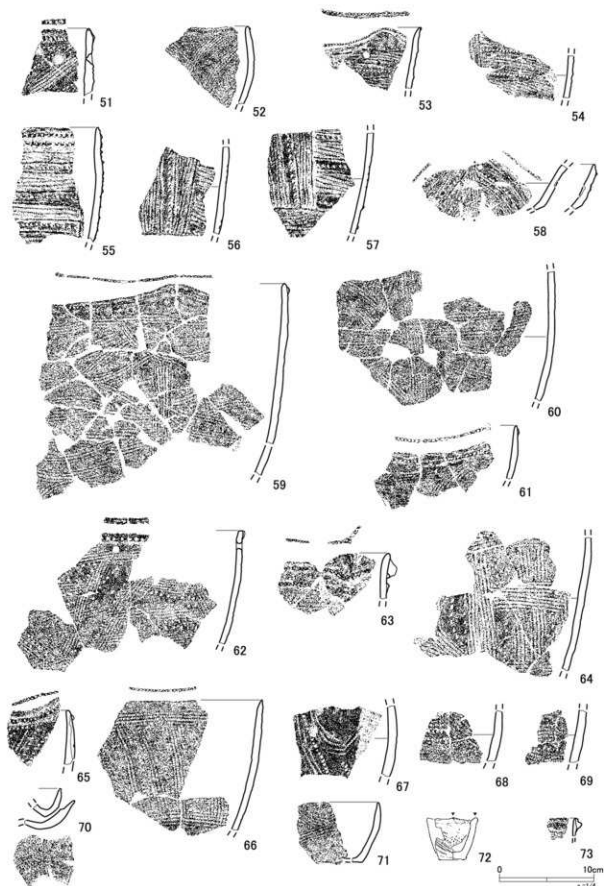
図Ⅶ-30 包含層出土の土器(3)



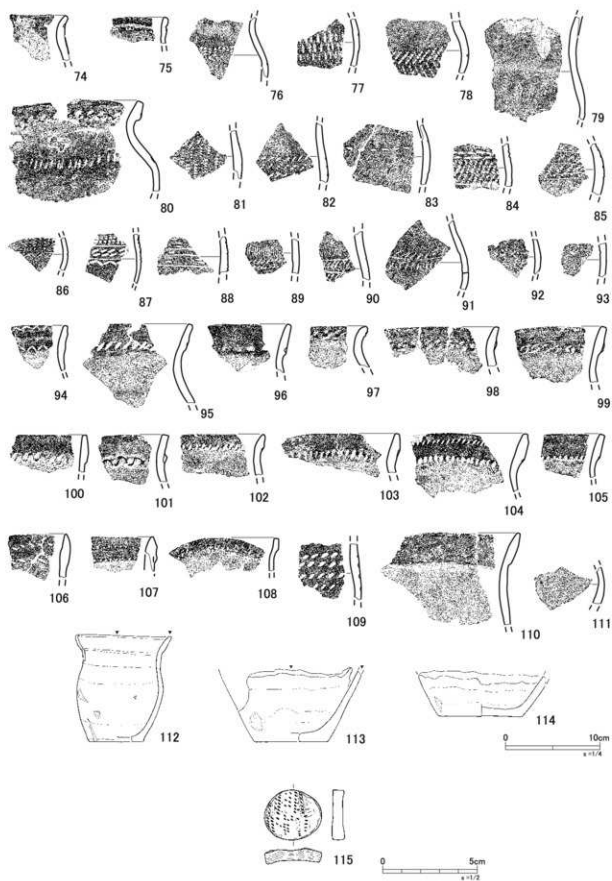
図VII-31 包含層出土の土器(4)



図Ⅶ-32 包含層出土の土器（5）



図VII-33 包含層出土の土器(6)



図Ⅶ-34 包含層出土の土器（7）・土製品

(2) 石器等 (図Ⅶ-35~46 表Ⅶ-8~11 図版75~79)

地区と層位によっておおよその時期に区分できるため、三つの地区・層位に分離して報告する。

「砂丘部」(砂丘列4)のⅧ・Ⅸ層出土の遺物(1~104)

1~104は統縄文時代前半期に属し、主に宇津内Ⅱ式期のものが主体と考えられる。2011年調査B地区と同様のまとまりである。

石鎌(1~22)

1~4は平基で、1・2が完形、3・4が先端部欠損品である。両側縁は1がやや湾曲し、2~4が直線的である。1は正裏面に素材面が大きく残存している。2の先端部には上からの衝撃剥離が見られる。5~18は凹基で、5~9が完形、10~18が先端部欠損品である。両側縁は直線的なものが大半だが、5・6・13は湾曲している。また、9は器体中央で緩やかに屈曲する形状である。19・20は細身の凸基で、いずれも片側縁の屈曲が強い。21は両端が尖る柳葉形、22は下半部欠損品である。

ナイフ(23~39)

23~27は柄部が作出されるもので、下端部は丸みがある。加工は23~25が半両面加工、26・27は平坦剥離による両面加工が施されている。28・29は撥型の形状のもので、いずれも縁辺を中心とした加工が施されている。30~39は下端が尖がる形状のもので、30~34完形品、35~39が破損品である。加工は31・32・38・39が平坦剥離による両面加工で、それ以外は半両面加工が施されている。

スクレイパー(40~62)

40~45は下端を中心に加工が施されるもの。この内、円弧状の刃部が作出されるものは44・45である。46~62は側縁を中心に加工が施されるもの。48~57・60・62は縦長の剥片を素材としている。加工は片側縁に施されるものが多く、51・52・55・58・61は両側縁への加工が見られる。このうち52・58は加工の種類が異なり、急角度加工と平坦剥離の組み合わせとなっている。また、55では錯交状の加工が施されている。

石鎌(63)

63は両面への内湾する短い加工により突出する刃部が作出されている。

Rフレイク(64~72)

64~72はいずれも縁辺の一部に連続する加工が施されている。64~67は縦長剥片を素材としている。68は平坦加工が施されている。70・71は裏面に加工が施されている。

石核(73)

73は頁岩製で原石に近い状態。角部を中心に剥離されるが、有効な大型の剥片は得られていない。

石斧(74)

74は両側縁の一部に敲打と剥離が行われ、その後全面的に研磨され片刃に近い刃部が形成されている。その後、下端部には破損による刃部再生と見られる正面側への急角度加工が行われているが、刃部の形状や角度が大きく崩れたため、遺棄されたものと思われる。

たたき石(75)

75は断面多角形の原石の左側面と下端に敲打痕が見られる。

すり石(76~85)

すり面は78・81・85が正面のみで、その他は平坦な正裏面に見られる。また、85は正面全体にベンガラが付着している。

くほみ石(86・87)

86は凹面が正面に大きく広がっている。87は正裏面に凹面が見られる。

砥石 (88~91)

88・89は軽石製で、全面的に擦痕が見られる。90は平坦面のある砂岩製で、正裏面の他に左側面にも擦痕が見られる。91は正面を中心に全面的に擦痕が及んでいる。

台石 (92~98)

92~98はいずれも扁平な原石が利用され、正面に平滑面が見られる。また、92~95・98はベンガラが付着するもので、特に93・94は付着量が多い。93~98は、R-6~12周辺から出土した。

礫 (99~104)

99~104はベンガラが付着する礫である。やや細長い原石を主体とし、全面的に付着しているものが多い。

「砂丘部」(砂丘列4)のⅦ・Ⅶa・Ⅶb層及び「低地部」(砂丘列5)Ⅷ層出土の遺物 (105~244)

105~244は縄文時代後半期に属し、主に後北武期のものが主体と考えられる。2018年調査区のⅦb層出土遺物と同様のまとまりである。

石鐮 (105~139)

105~126は平基のもの。小型で1.5~2cm前後、両側縁が緩やかに湾曲するものが大半である。小型で薄手のため、加工はあまり奥までなされず、116・119・125以外は裏面に素材面が大きく残っている。127~129は凹基のもの。両側縁は123が直線的で二辺三角形、128は5.5cmと長大で、下部が平行し中央から湾曲している。130~132は有茎のもの。茎部は130がほぼ平行する矩形、131・132が逆台形状で、いずれもカエシは不明瞭である。133~139は下半部が欠損している。

ナイフ (140~167)

140・141は全面的に両面加工が施されるもの。140は矩形の柄部が作出されている。141は粗い加工で器体中央部に僅かな屈曲部が見られる。142~167は片面加工ないし半両面加工が施されるもの。この内、142~161は縦長の形状となるもので、主に縦長剥片を素材としている。この内、155までは端部が尖頭形に成形されている。

スクレイパー (168~192)

168~177は主に側縁に加工が施されるもの。この内、168~173は完形品で、縦長剥片を素材としている。178~188は主に下端部に円弧状の刃部が作出されるもの。この内、178・179・181・185・187・188は縁辺全体に加工が及んでいる。189~192は破損品で、側縁への加工が施されている。

石錐 (193)

193は厚手の素材に全面的な加工を施し、端部に厚手の突出部を作出している。

Rフレイク (194~218)

194~218はいずれも縁辺の一部に細かな加工が施されている。大半が正面側への加工であるが、207には裏面への加工も見られる。

石核 (219~225)

219・221・222・225は原石に近い状態で、角部を中心に剥離が見られるが、有効な大型の剥片は得られていない。220・223は正面上からの剥離を主体としており、少量の縦長剥片が剥離されている。224は正裏面と右側面で主に横方向の剥離が行われている。

石斧 (226・227)

226は断面形から、板状に分割された礫を素材として全面的に研磨を行い両刃の刃部を作出している。227は上半部が破損している。右側面と裏面に形状を整える剥離を行った後、全面的な研磨を行い、両刃の刃部を作出している。使用によると思われる下端からの剥落が見られる。

たたき石 (228～230)

228～230はいずれも原石長軸上の端部に敲打痕が見られる。229・230は上下両端に敲打痕がある。

すり石 (231～235)

231は厚みのある原石、それ以外は扁平な原石が利用され、いずれも正面にすり面が見られる。なお、234には裏面にもすり面が認められる。

くぼみ石 (236・237)

236・237は扁平な原石が利用され、236は正面に二か所、237は表裏面に凹面が見られる。

砥石 (238～242)

238～240は軽石製で、ほぼ全面的に擦痕が見られ、一部は溝状に内湾する部分が存在する。241・242は砂岩製の板状のもので、241は正面、242は正裏面と下面に擦痕が見られる。

台石 (243・244)

243・244はいずれも細長い形状の原石を利用し、243は正面、244は正裏面に平滑面が見られる。

「低地部」(砂丘列5)のⅦ・Ⅶs層出土の遺物 (245～270)

245～270はオホーツク文化刻文期に属するものが主体と考えられる。2018年調査区のⅦa層出土遺物と同様のまとまりである。

石鏃 (245～262)

245は平基のもの。先端部が破損しており、両側縁は緩やかに湾曲する。両面に平坦加工が施され、裏面の一部に素材面が残存している。246～251は有茎のもの。いずれも下端部に向かって収斂する形状で、特に246・247は下端部が尖頭形となっている。カエシは246～248・250が僅か、249・251が明瞭である。252～262は破損しているもの。252・254・255・260・262は両側縁が湾曲する形状で、元来両端が尖る木葉形であったと考えられる。256～258は幅広の形状で、257・258は粗い加工によって成形されている。259は裏面に素材面が大きく残っている。

スクレイパー (263・264)

263は下端部に円弧状の刃部が作出されている。264は左側縁を中心に急角度加工が施され下端部に角部のある刃部が作出されている。

石核 (265)

265は原石面を打面として正面・下面・右側面で主に横長の剥離が行われている。

すり石 (266)

266は軽石製でほぼ全面的にすり面が見られる。

砥石 (267～269)

267は軽石製で、ほぼ全面的に擦痕が見られ、右側面は内湾する形状となっている。268・269は砂岩製で、扁平な原石が利用され、正裏面に擦痕が見られる。

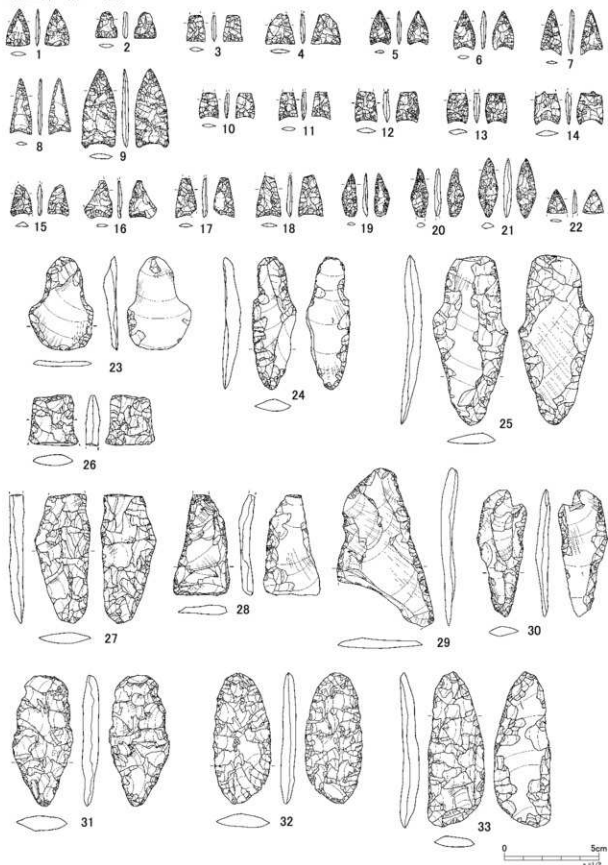
円盤状石製品 (270)

270は正面中央が窪んだ3cm程の円盤状のもので、泥岩を素材としている。裏面は全体的に被熱し、煤状の黒色物が付着している。全体的に平滑面となっている。(直江)

(3) 骨角器 (図Ⅶ-46 表Ⅶ-12 図版79)

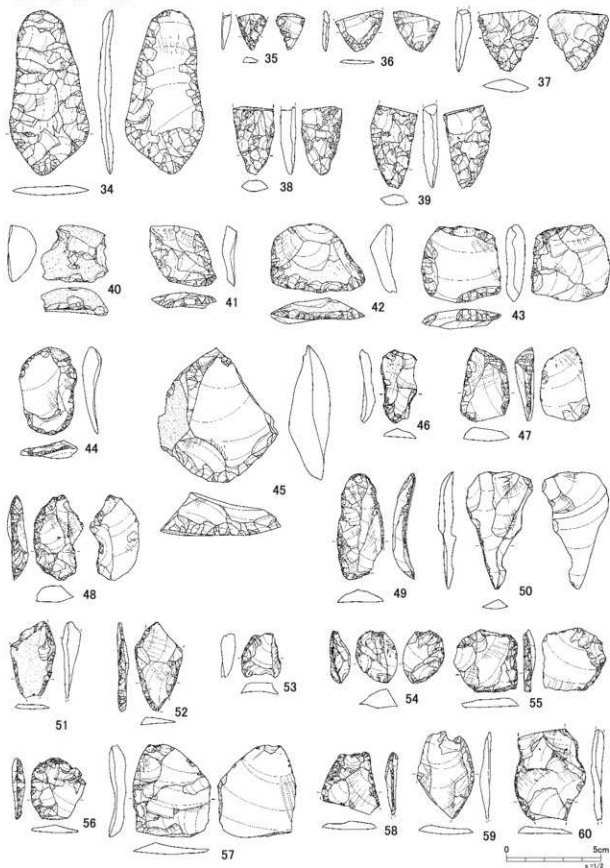
271はⅦ層中間層から出土した。後北C₂・D式期～オホーツク刻文期のもので、形状はアイヌ文化期の骨鏃の基部に類似する。シカの中手中足骨製とみられ、基部底面がいてねいに研磨されている。穿孔途中とみられる円形刺突と貫通孔があり、穿孔位置を変更したと思われる。(阿部)

〔砂丘部Ⅷ層・Ⅸ層〕



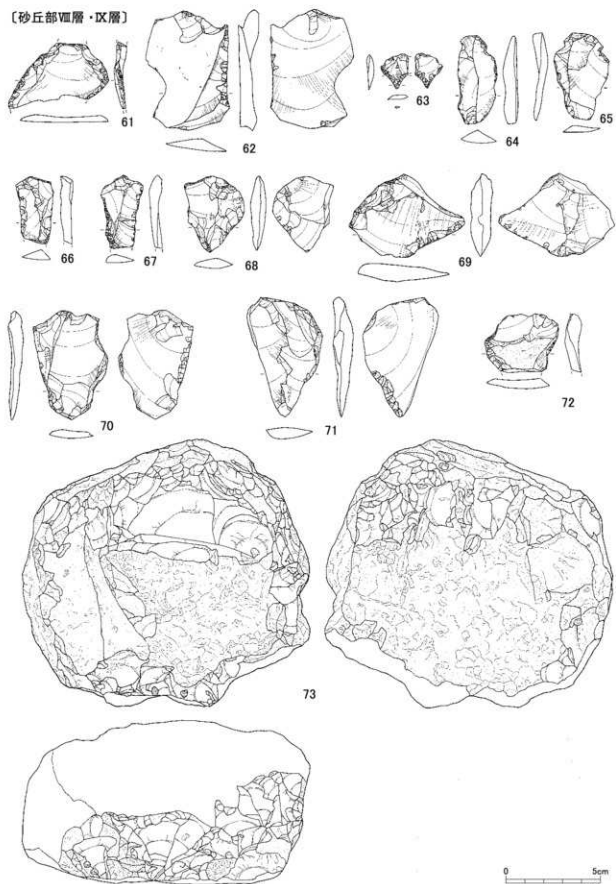
図Ⅶ-35 包含層出土の石器 (1)

〔砂丘部Ⅵ層・Ⅹ層〕



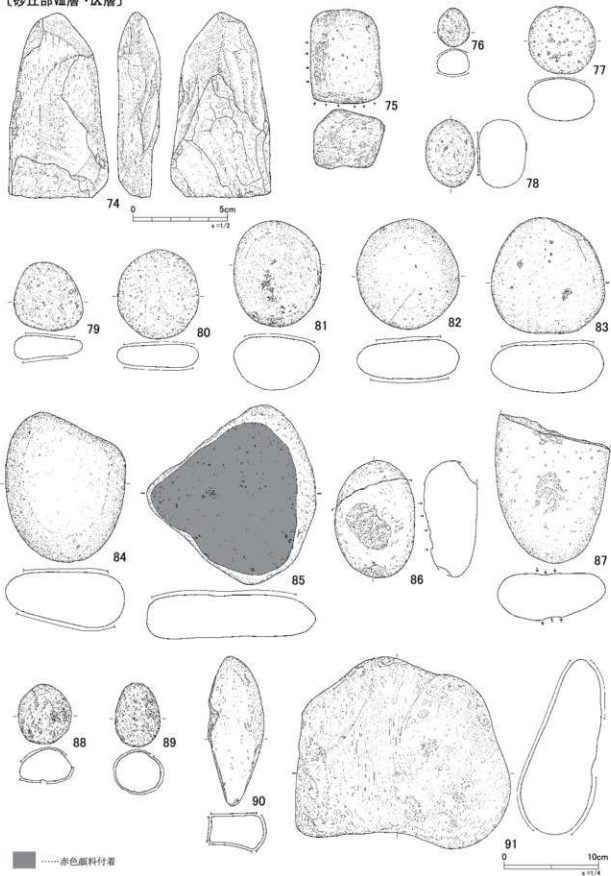
図Ⅶ-36 包含層出土の石器(2)

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅷ層〕



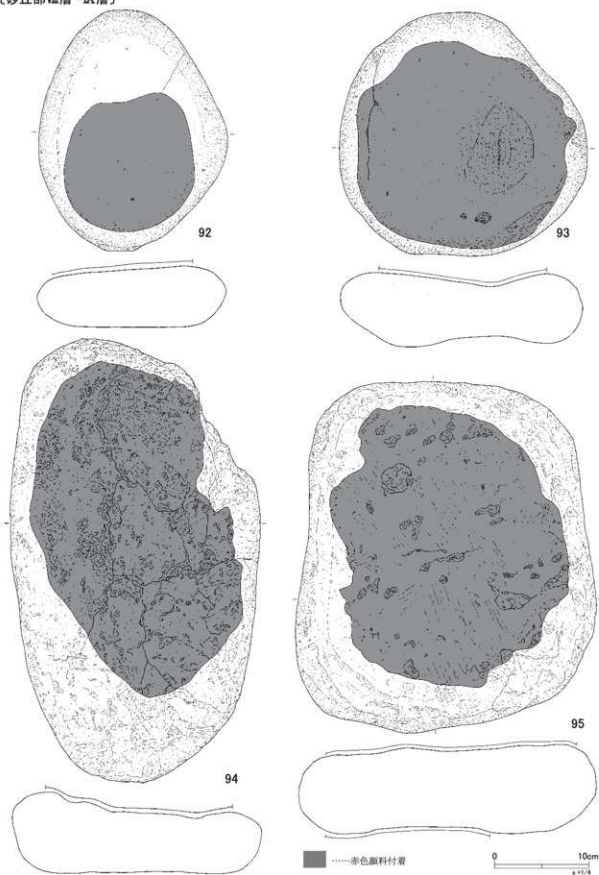
図Ⅵ-37 包含層出土の石器（3）

〔砂丘部Ⅳ層・Ⅹ層〕



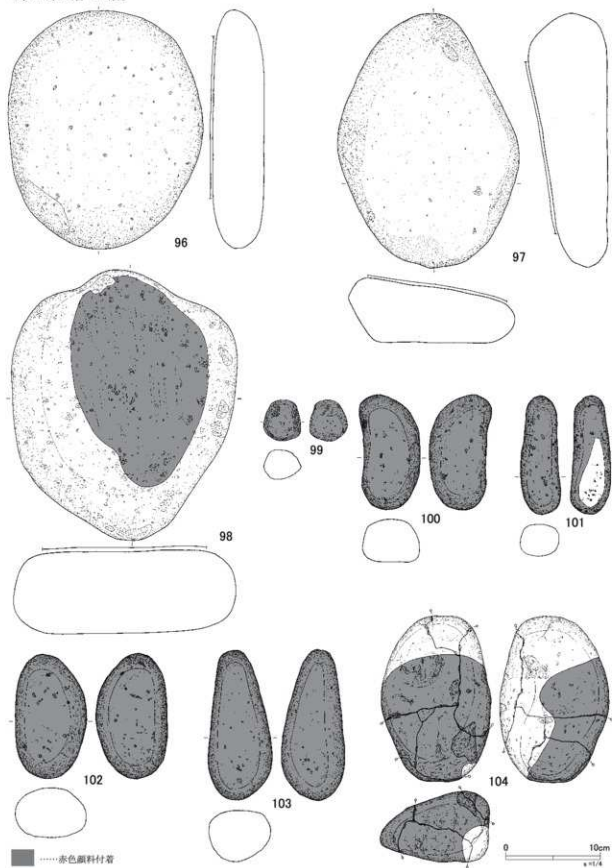
図Ⅶ-38 包含層出土の石器(4)

〔砂丘部Ⅵ層・区層〕



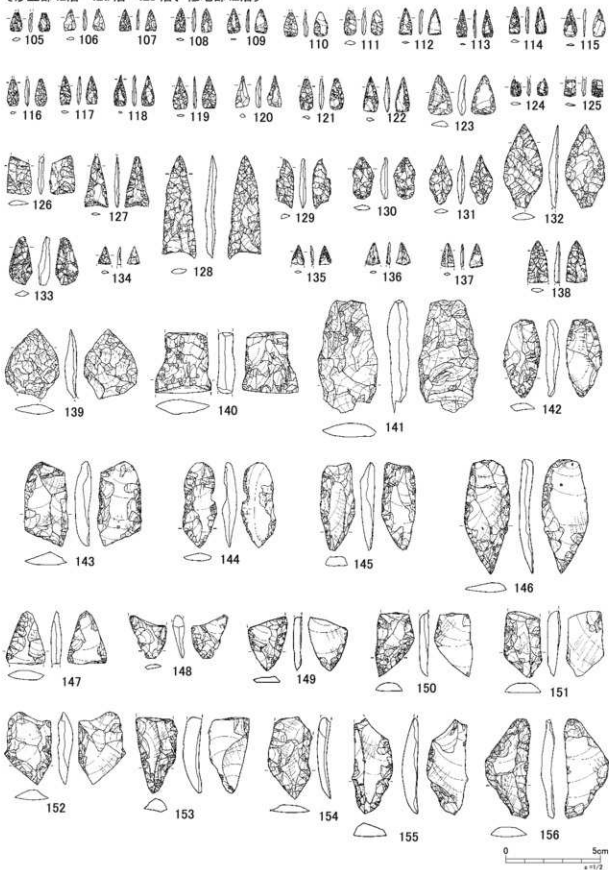
図Ⅵ-39 包含層出土の石器 (5)

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅷ層〕



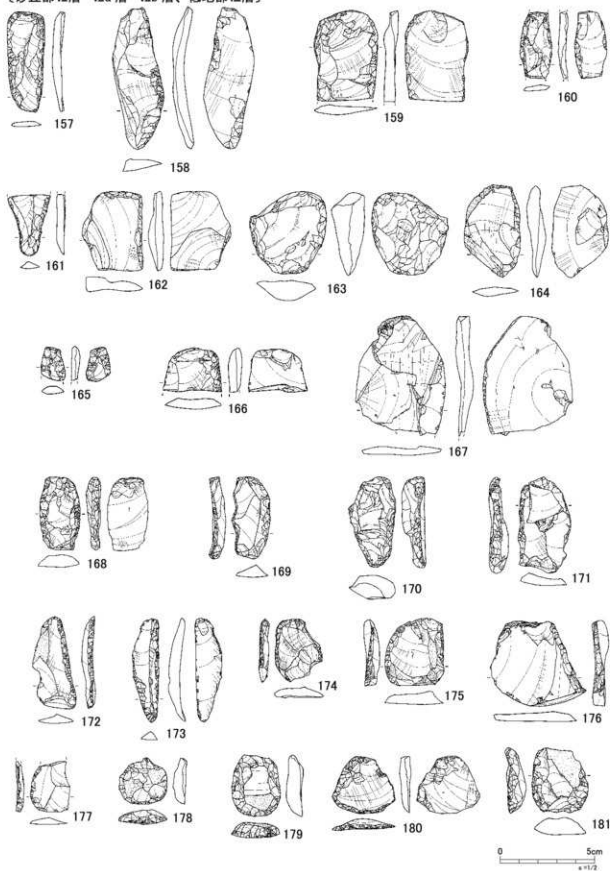
図Ⅶ-40 包含層出土の石器（6）

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅶa層・Ⅶb層、低地部Ⅷ層〕



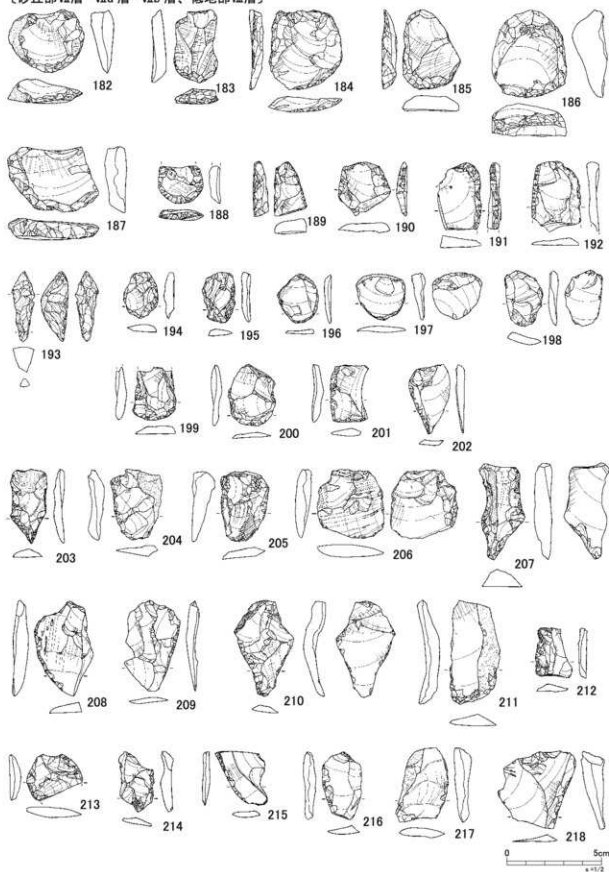
図Ⅶ-41 包含層出土の石器（7）

[砂丘部Ⅶ層・Ⅶa層・Ⅶb層、低地部Ⅷ層]



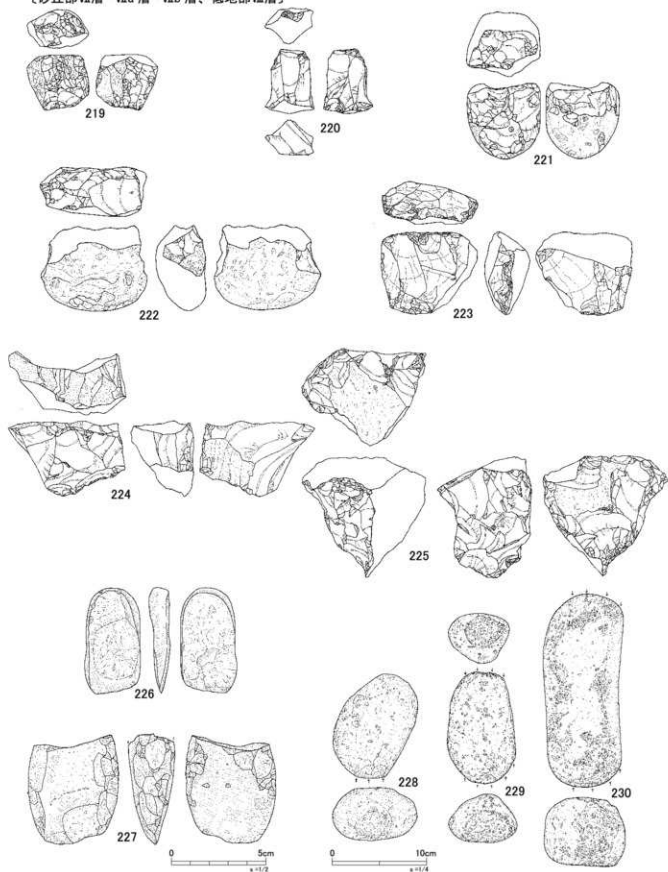
図Ⅶ-42 包含層出土の石器(8)

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅶa層・Ⅶb層、低地部Ⅶ層〕



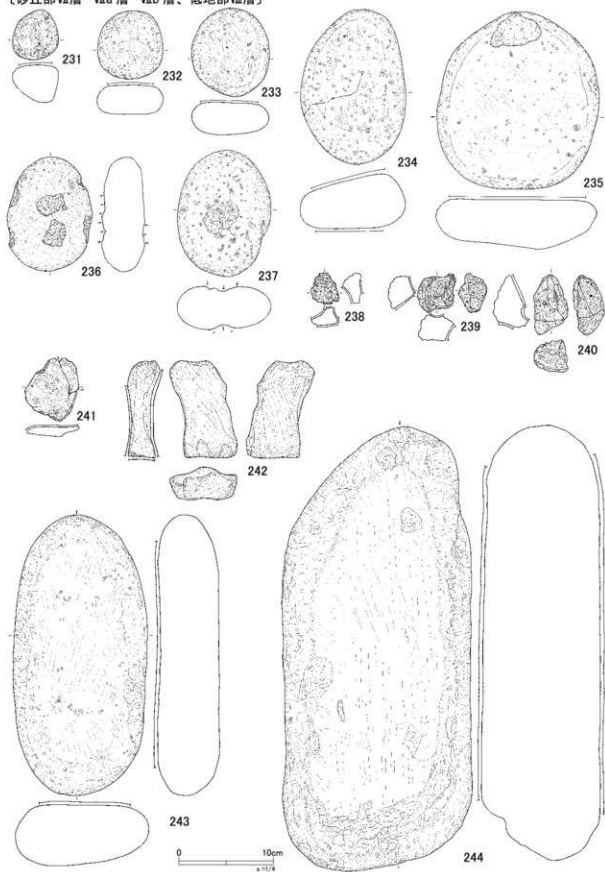
図Ⅶ-43 包含層出土の石器（9）

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅶa層・Ⅶb層、低地部Ⅶ層〕



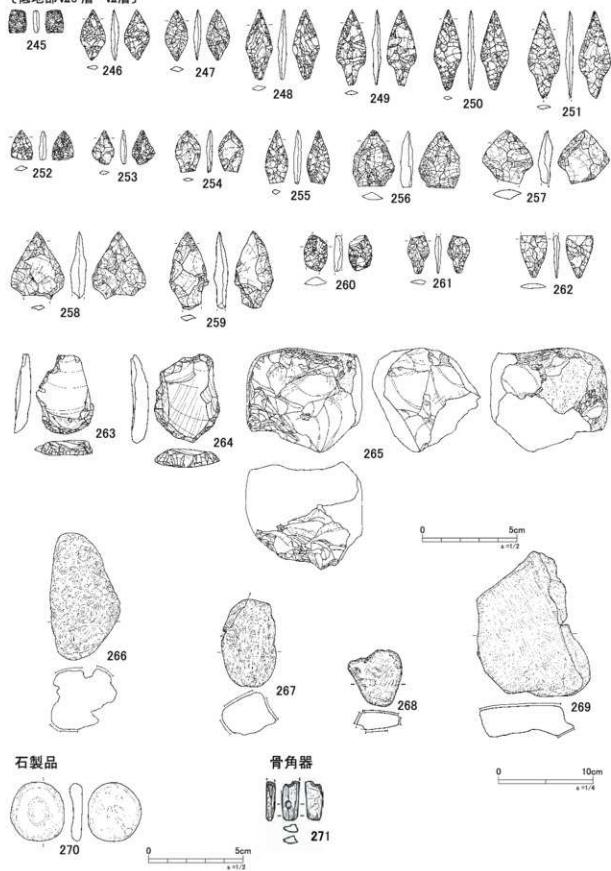
図Ⅶ-44 包含層出土の石器 (10)

〔砂丘部Ⅶ層・Ⅶa層・Ⅶb層、低地部Ⅷ層〕



図Ⅶ-45 包含層出土の石器 (11)

〔低地部Ⅶs層・Ⅶ層〕



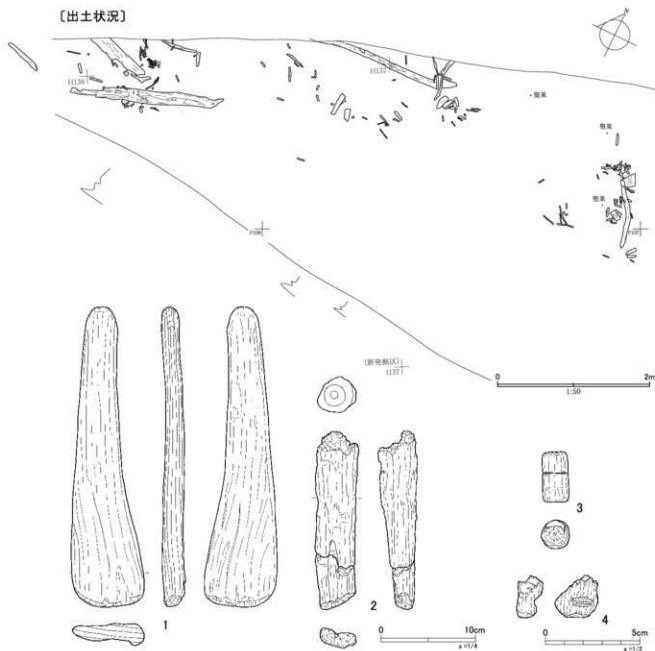
図Ⅶ-46 包含層出土の石器 (12)・骨角器

(4) 旧河道出土の材・木片 (図Ⅶ-47 図版40・80)

調査区中央部、Ⅶ層を閘析する旧河道の河床付近から、大小の木片が出土した。取り上げ点数は202点である。大型の板状や棒状のもの、小型で枝状のもの、堅果類などがある。ほとんどが流木など自然のものとみられるが、一部伐採痕や加工痕と思われる面がみられる木片がある。材・木片は通常より簡素にした保存処理を行っている。

掲載遺物：1はへら状の材。明瞭な加工痕は観察できないが、上下端部や背面など形状を整えた可能性がある。2は枝状の木片で、下端部に傾斜した平坦面があり、伐採痕とみられる。3も下端部に平坦面があり、伐採痕の可能性がある。4は側面に刻みがみられる。虫食い穴の可能性もあるが、刻み目が面をなしているように観察され、切込み跡と思われる。(阿部)

【出土状況】



図Ⅶ-47 旧河道出土の材・木片

表Ⅴ-1 2012年調査遺構一覧(1)

種別	新遺構名	旧遺構名	掘削	写真実尺	発掘状況			平面形	規模(m)				時期	備考	
					新発掘区	旧発掘区	層位		検出面		深さ	深さ			
									長径	短径					長径
土坑	P-14 PIT53	Ⅴ-5	33	G155.156	F122	ⅤB	不整形円形	2.20	1.09	1.91	0.82	0.22	縄文時代前期	宇津内目式	
	P-15 PIT27			F155.156	E122	ⅤB	楕円形	1.25	1.03	0.90	0.62	0.29	縄文時代後期		
	P-16 PIT28			H153	F120	ⅤB	—	(0.52)	(0.54)	(0.34)	(0.20)	(0.33)	縄文時代後期	後記・99年度土器	
	P-17 PIT47	Ⅴ-6		G153	E120	ⅤB中	楕円形	1.03	0.77	0.81	0.46	0.23	縄文時代前期		
	P-18 PIT29			G.H152	F120	ⅤB	不整形円形	1.24	1.20	(0.39)	(0.13)	0.23	縄文時代後期		
	P-19 PIT45②	Ⅴ-7	34	G.H152	E119	ⅤB上	円形	0.32	0.28	—	—	—	0.12	縄文時代前期	
	P-20 PIT65			G.H152	F119	ⅤX	不整形円形	0.69	0.48	0.30	0.18	0.39	0.20	縄文時代前期	底面に土器
	P-21 PIT63			H152	F119	ⅤX	—	(0.60)	(0.33)	(0.40)	(0.17)	(0.30)	—	縄文時代前期	ベンガラ付着層
	P-22 PIT61			H151	F119	ⅤX	円形	0.60	0.58	0.32	0.32	0.14	—	縄文時代前期	
	P-23 PIT30A	Ⅴ-8		H142	F112	ⅤB	—	(1.10)	1.26	0.60	0.58	0.19	—	縄文時代前期	浅い土坑
	P-24 PIT31			H141	F111	ⅤB	円形	0.40	0.40	0.12	0.10	0.18	—	縄文時代前期	
	P-25 PIT42	Ⅴ-25	39	H119	F93	ⅤB	不整形円形	0.72	0.69	0.32	0.29	—	—	オホツツ文化瓦葺	
	P-26 PIT43			H17	F91	ⅤB	不整形円形	1.08	0.98	0.72	0.28	0.27	—	オホツツ文化瓦葺	底面に木炭
	P-27 PIT50	Ⅴ-8	34	H15	F90	ⅤB	楕円形	1.08	0.76	0.80	0.52	0.30	—	縄文時代後期	
P-28 PIT69			H113	F88	ⅤB中	不整形円形	0.72	0.55	0.48	0.32	0.15	—	縄文時代後期		
集石土坑	PS-26 配石	Ⅴ-9	35	H152	F120	ⅤX	円形	0.52	0.46	—	—	—	0.19	縄文時代前期	
	PS-26 配石			H152	F120	ⅤD	円形?	(2.54)	(1.32)	(2.15)	(1.09)	(0.32)	—	縄文時代前期	
	PS-27 PIT64	Ⅴ-10	35	H152	F119	ⅤX	円形	0.59	0.56	0.30	0.38	0.22	—	縄文時代前期	
	PS-28 PIT70	Ⅴ-11		H15	F89	ⅤB	不定形	0.55	0.49	—	—	—	0.17	縄文時代後期	(雑込み)
	PS-29 PIT68			H12	F88	ⅤB中	不整形円形	0.25	0.25	0.16	0.16	0.04	—	縄文時代後期	
PS-30 PIT67			H12	F88	ⅤB中	不整形円形	0.27	0.26	0.10	0.09	—	0.07	縄文時代後期	(雑込み)	
柱穴・小土坑	SP-14 PIT41	Ⅴ-26	39	H19	F93	ⅤB	円形	0.59	0.59	0.35	0.29	0.51	—	オホツツ文化瓦葺	
	SP-15 PIT44			H19	F93	ⅤB	円形	0.28	0.28	0.08	0.08	—	0.56	オホツツ文化瓦葺	柱材残存
	SP-16 PIT62			H18	F92	ⅤB	円形	0.29	(0.26)	0.14	0.15	0.14	—	オホツツ文化瓦葺	
	SP-17 柱穴			H17	F91	ⅤB	楕円形	0.28	0.26	—	—	—	—	オホツツ文化瓦葺	
	SP-18 PIT31	Ⅴ-27		H116	F90	ⅤB(ⅤD)	不整形円形	0.25	0.24	0.14	0.14	0.69	—	オホツツ文化瓦葺	
	SP-19 PIT49		40	H15	F90	ⅤB(ⅤD)	楕円形?	(0.30)	(0.31)	(0.17)	(0.14)	(0.29)	—	オホツツ文化瓦葺	
	SP-20 柱穴	Ⅴ-11		H12	F88	ⅤB	円形	0.24	0.22	—	—	—	0.22	縄文時代後期?	
SP-21 柱穴			H13	F88	ⅤB	円形	0.29	0.22	—	—	—	0.15	縄文時代後期?		
石堀	SF-8 PIT30B	Ⅴ-12	5	H162.143	F112	ⅤB	楕円形	0.74	0.57	0.46	0.39	0.11	—	縄文時代前期	宇津内目式、 Fに木炭
	SF-9 PIT35			H140.141	F110, 111	ⅤB	腰丸三角形	1.12	0.76	0.90	0.52	0.14	0.21	—	縄文時代前期
焼土	F-9 焼土	Ⅴ-13		G156	E122	ⅤB	不整形円形	0.79	0.70	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-10 焼土			E156.157	E122	ⅤB	不整形円形?	0.84	0.81	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-11 PIT46			G153	E120	ⅤB	楕円形	0.90	0.68	0.60	0.40	0.12	—	縄文時代前期	
	F-12 焼土			G152.153	E120	ⅤB	不整形円形?	1.38	0.90	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-13 PIT48			G153	E120	ⅤB	楕円形?	(0.70)	(0.58)	(0.53)	(0.42)	(0.12)	—	縄文時代前期	
	F-14 焼土①			H153	F120	ⅤB	—	(0.72)	(0.36)	—	—	—	—	縄文時代後期	
	F-15 焼土②			H152.153	F120	ⅤB	不整形円形	1.09	0.73	—	—	—	0.02	縄文時代後期	
	F-16 焼土①	Ⅴ-14		G.H152	E・F119・ 120	ⅤB上	不整形円形	1.20	0.70	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-17 焼土②			H152	F119	ⅤB上	—	(0.50)	(0.30)	—	—	—	(0.13)	縄文時代前期	
	F-18 焼土①			G.H151. 152	F119	ⅤB上	不定形	1.49	0.63	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-19 焼土①			H152	F119	ⅤB	不整形円形	0.60	0.31	—	—	—	—	縄文時代後期	
	F-20 焼土③		36	G151.152	E119	ⅤB上	不定形	1.68	0.72	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-21 PIT66			G.H148. 149	F117	ⅤB上	不定形	1.63	1.40	—	—	—	0.17	縄文時代前期	木炭層
	F-22 焼土木炭②	Ⅴ-16	36	H147.148	F116	ⅤB	半楕円形	1.52	1.41	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-23 焼土			H147	F116	ⅤB	楕円形	0.28	0.18	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-24 炭灰②			H1141	F111	ⅤB	不定形	1.30	0.88	—	—	—	0.11	縄文時代前期	
	F-25 焼土・木炭			H141	F111	ⅤB	不整形円形	0.62	0.53	—	—	—	—	縄文時代前期	
	F-26 PIT34	Ⅴ-16	6	H141	F111	ⅤB下	不整形円形	1.87	0.77	—	—	—	0.16	縄文時代後期	土坑?
	F-28 PIT37			H142	F111	ⅤB	不整形円形	0.83	0.62	0.48	0.32	0.16	—	縄文時代前期	土坑?
	F-29 PIT39		6	H140.141	F110	ⅤB下	不整形円形	2.25	0.99	1.95	0.75	0.17	—	縄文時代前期	周囲にベンガラ 焼着面見り上
	F-30 PIT36			H140.141	F110	ⅤB下	不整形円形	0.97	0.65	0.82	0.42	0.11	—	縄文時代後期	
	F-31 焼土①	Ⅴ-17		H139	F109	ⅤB	楕円形	0.88	0.56	—	—	—	—	縄文時代後期	
	F-32 焼土①	Ⅴ-27		H127	F99	ⅤB	不整形円形?	0.26	0.19	—	—	—	0.05	オホツツ文化瓦葺	
F-33 焼土①	Ⅴ-17	6	H129	F94	ⅤB中	不定形	(0.54)	(0.35)	—	—	—	—	縄文時代後期		
F-34 PIT40	Ⅴ-27	40	H18	F93	ⅤB	楕円形	0.60	0.50	0.43	0.39	0.09	—	オホツツ文化瓦葺		
F-35 焼土④	Ⅴ-17	36	H18	F92	ⅤB	不整形円形	1.01	0.50	—	—	—	0.04	縄文時代後期		
F-36 炭粉	Ⅴ-27		LJ117.118	F92	ⅤB	円形	0.70	0.70	—	—	—	—	オホツツ文化瓦葺		
F-37 木炭①			LJ117	F92	ⅤB	不定形	1.18	0.60	—	—	—	0.10	オホツツ文化瓦葺		
F-38 焼土⑦	Ⅴ-17		H18	F92	ⅤB	楕円形	0.80	0.54	—	—	—	—	縄文時代後期		

表Ⅴ-2 2012年調査遺構一覧(2)

種別	新遺構名	目遺構名	記載		検出位置			平面形	規模(m)						時期	備考										
			補注	写真図録	新発掘区	引見掘区	層位		検出面		底面		深さ													
									長径	短径	長径	短径														
	F-39	焼土6	ⅤE-17	6	H117, I1K H17	E92	ⅤE	不整形楕円形	0.70	0.49	—	—	0.06	—	—	—	—	縄文時代後期								
	F-40	PI754		36	H117	E92	ⅤE	—	(0.69)	(0.42)	—	—	(0.07)	—	—	—	—	縄文時代後期								
	F-41	PI755	ⅤE-18	6	H117	F91	ⅤE上	不定形	0.85	(0.80)	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期							
	F-42	PI745		6	H116	F91	ⅤE上	不定形	1.54	0.96	0.55	0.34	0.10	—	—	—	—	—	縄文時代後期							
	F-43	PI756		36	H115, I16	F90	ⅤE中	楕円形?	(1.19)	(0.86)	(0.83)	(0.56)	(0.09)	—	—	—	—	—	縄文時代後期							
	F-44	PI752		36	H115, I16	F90	ⅤE中	楕円形?	(0.80)	(0.60)	(0.45)	(0.31)	(0.16)	—	—	—	—	—	縄文時代後期							
	F-45	焼砂	ⅤE-19	6	H115	F90	ⅤE中	不定形	0.96	0.72	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-46	PI760		36	LJ115	F90	ⅤE下	不整形円形	0.69	0.60	0.22	0.22	0.09	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-47	PI759		36	H115	F90	ⅤE下	楕円形?	1.23	0.82	0.80	0.48	0.09	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-48	焼砂			H114	F89	ⅤE	不整形楕円形?	0.42	0.42 (縦込み)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-49	PI771			H113	F89	ⅤE	不定形	1.06	0.76	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-50	PI775	ⅤE-19 ・20	37	H113	E・F88	ⅤE	楕円形?	(1.69)	(1.12)	(1.38)	(1.06)	(0.10) (0.14) (縦込み)	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期						
	F-51	PI777				H113	E・F88	ⅤE	楕円形	0.60	0.48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期					
	F-52	焼土	ⅤE-20		H112	E88	ⅤE	不定形	1.72	0.79	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期					
	F-53	PI772				HJ112	E87	ⅤE	不整形楕円形?	1.10	(0.83)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	本図			
	F-54	PI776				H11, I12	E87	ⅤE	不定形	0.71	0.61	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期				
	F-55	PI773			6	H11	E87	ⅤE	—	(1.55)	(0.73)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期				
	S-8	集石		ⅤE-21	37	G155, I56	E122	IX	楕円形?	0.96	(1.30)	(0.69)	(0.70)	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期				
	S-9	配石2				H152	F120	IX	円形?	0.82	(0.57)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期				
	S-10	船身・船底			G125	F89	ⅤE	楕円形?	2.30	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期				
縄文時代後期	FC-4	石器集中	ⅤE-22		G155	E122	IX	—	1.58	1.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期				
	FC-5	石器集中		38	G152	E・F119	IX	不定形	0.96	0.59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期			
	FC-6	石器集中				H151	F119	ⅤE中	楕円形	0.18	0.11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期		
	FC-7	メノウ集中				H149	F117	ⅤE	半円形	0.50	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期		
	FC-8	石器集中		38		I120	F94	ⅤE中	—	0.12	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	
	FC-9	石器集中					H117	F91	ⅤE	—	(0.49)	(0.34)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	
	FC-10	石器集中					H116	F91	ⅤE	—	0.50	0.19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	
	FC-18	石器集中		ⅤE-23			H151	F119	IX	不整形円形	0.34	0.32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	FC-19	石器集中					H142	F111	ⅤE	—	0.11	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	
	FC-20	石器集中					H117	F91	ⅤE中	—	(0.19)	(0.09)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	
掘土器	埋没土器	ⅤE-23	38	F111	H141	ⅤE	楕円形	0.30	0.22	0.24	0.16	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期	後北C・D式		
縄文時代前期	R-6	ベンガ壺器	ⅤE-24		H153	F120	IX	不整形	(1.50)	(1.10)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期			
	R-7	ベンガ壺器				H153	F120	IX	楕円形	0.30	0.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期		
	R-8	ベンガ壺器				H152	F120	IX	楕円形	0.50	0.43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	R-9	ベンガ壺器				H152	F119	IX	楕円形	0.52	0.46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	R-10	ベンガ壺器		6		H151	F119	IX	不整形楕円形	1.05	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	R-11	ベンガ壺器				H151	F119	IX	不整形楕円形	0.58	0.51	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
	R-12	ベンガ壺器				H151	F119	IX	不整形楕円形	0.88	0.64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代前期	
R-13	ベンガ壺器	ⅤE-23			G155	F121	ⅤE	不整形楕円形	0.65	0.43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縄文時代後期		

表Ⅴ-4 2012年調査掲載土器一覧(1)

探区番号	掲載番号	採取番号	調査場所	遺物/ (発掘区)	層位	遺物%	点数 破片数	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号	
探区-5	1	70-1	P-14	PT53/F122	覆土	991	1	2	Vb2	深鉢	口	突起、編織痕付文、散粒起線、 編織、縄文		12-238
				E122	Vb	316	1							
探区-5	2	70-1	P-16	PT28/F120	覆土	273	1	2	Vb	口	口縁	口唇部、編織痕付文、散粒起線、 三角列点、華織文、内面灰化物多量	約90%残存	12-6
				P-16	PT28/F120	Vb	218	1						
探区-6	1	70-1	P-18	PT29/F120	覆土	267・309・271・337・ 365・306・376・377・ 380・381・384・387・ 389・391	22	37	Vc	深鉢	胴~底	散粒起線、三角列点、華織文、編織、 口唇部、内面灰化物多量		12-10
				F119	Vb	180	1							
				E120	Vb	25・307	3							
				E120	Vb	230・214	2							
				F120	Vb	123・157	3							
				F120	Vb	230・214	2							
				F121		22	1							
				不明			3							
探区-6	2	70-1	P-18	PT29/F120	覆土	385・403・408	3	3	Vc	コシチヤフ	底	縄文 /直径3.1cm、器高0.3cm		12-53
探区-11	1	70-1	P5-28	PT70	覆土	286	1	7	Vc	深鉢	口	散粒起線、三角列点、華織文(縦文・ 縦位)		12-113
				P-49	PT71	覆土	350	1						
				P-53	PT72	覆土	258	1						
				P-53	PT72	覆土	280	1						
				総掘区	Vb	268・269・379	3							
探区-14	1	71-1	P-26	PT31/F111	Vb	497	1	4	Vb2	深鉢	口~胴	突起、散粒起線(内文・山形文赤印)、 熱点線跡、縄文、編織、	12-1083	
				F109	Vb	79	2							
				F111	Vb	561・561	3							
探区-18	1	71-1	P-42	PT35/F91	使土	103	1	11	Vb	深鉢	口~胴	突起、口唇部、編織痕付文、散粒 起線、三角列点、華織文、捺印	12-1003	
				P-43	PT36/F90	使土	153	1						
				F90	Vb	16	1							
				F91	Vb	89・94・113・118	6							
				F92	Vb	76	1							
				F92骨組跡	Vb	121	1							
探区-18	2	71-1	P-43	PT36/F90	使土	153	5	5	Vc	深鉢	底	縄文 /直径7.6cm、器高2.90cm	12-52	
探区-20	1	71-1	P-50	PT75	覆土	419・450	2	10	Vb	深鉢	口~胴	口唇部、編織痕付文、散粒起線(内 文赤印)、三角列点、華織文	12-1052	
				総掘区	Vb	322・380・383・ 385・387	8							
探区-23	1	71-1	埋設土器?	F111	Vb	337	1	1	Vb2	小型深鉢	全	突起、散粒起線(内文・山形文赤印)、 縄跡 /口径8.6cm、直径3.3cm、器高10.9cm	約98%残存	12-13
探区-25	1	71-1	P-20	PT43/F91	覆土	81	1	1	Vb	壺	胴	散粒上部分	12-204	
探区-28	1	72-1		E120	Vb	194	3	5	Vb1	深鉢	口	突起、編織痕付文、縄跡、縄文	12-123	
				F120	Vb	194	2							
探区-28	2	72-1		F120	Vb	600	1	1	Vb1	深鉢	口	突起、縄文(外・口唇)	12-256	
探区-28	3	72-1		F120	Vb	531・624	2	2	Vb	深鉢	胴~底	縄文	12-124	
探区-28	4	72-1		E123	Vb	1	1	1	Vb	深鉢	胴~底	縄文 /直径5.9cm、器高0.6cm	12-59	
探区-28	5	72-1		E122	Vb	352・378・399	3	10	Vb2	深鉢	口~胴	6印位突起、編織痕付文(内文赤印)、 縄跡、縄文 /口径23.1cm、器高26.6cm	12-15	
探区-28	6	72-1		E122	Vb	190・279・293	26	48	Vb2	深鉢	口~胴	6印位突起、編織痕付文(W字印赤印)、 縄跡、縄文(外・内面口唇) /口径28.2cm、器高9.7cm	12-16	
				不明	不明	不明	22							
探区-28	7	72-1		F118	Vb	72・73	不明	不明	Vb2	深鉢	口~胴	口唇突起、編織痕付文、縄跡、縄文 /口径22.0cm、器高20.6cm	器具多岐、 砂土埋め	12-20
探区-28	8	72-1		E122	Vb	300	22	22	Vb2	小型深鉢	口~底	突起、散粒、 編織、縄文(外・底面) /口径13.1cm、直径5.7cm、器高 11.4cm 確定1印位突起、散粒起線、縄跡、 縄文 /口径26.4cm、器高28.2cm	12-17	
探区-29	9	72-1	E166	Vb	41・50・53・53・55・ 61・68・69・80・82・ 84	15	15	Vb2	深鉢	口~胴	突起、散粒、 編織、縄文(外・底面) /口径23.4cm、直径6.0cm、器高 29.3cm	12-14		
探区-29	10	72-1	F110	Vb	313・350・351・397・ 412・411・456・473・ 476・479・482・486・ 509	30	48	Vb2	深鉢	口~胴	6印位突起、編織痕付文、縄跡、 編織、縄文(外・底面) /口径23.4cm、直径6.0cm、器高 29.3cm	12-19		
				F111	Vb	91・98・210・244・ 247・253・255・257・ 279・281・297・299	14							
				不明	不明	不明	1							
探区-29	11	72-1		F111	Vb	63・65・68・70・72・ 75・83・87・89・107・ 152・160・183・196・ 215・218・227・265・ 268・269	27	31	Vb2	深鉢	口~底	突出部口唇、突起下部付文、散粒起線、 編織(底面)、縄文 /口径18.7cm、直径7.4cm、器高 8.5cm	12-42	
				F112	Vb	104・110	2							
				P-23	PT30	底面	112・125	2						
探区-29	12	72-1		E120	Vb	172・174・180	4	23	Vb	深鉢	胴~底	底面付逆編織突起、縄文 /直径7.5cm、器高14.8cm	12-19	
				F120	Vb	496・498・553・555・ 557・563・471	18							
				F120	Vb	64	1							
探区-29	13	72-1		F120	Vb	173・157	4	4	Vb	深鉢	胴~底	縄文 /直径6.8cm、器高7.6cm	12-58	
探区-29	14	72-1		F112	Vb	47	1	14	Vb2	深鉢	胴~底	縄文 /直径5.8cm、器高11.5cm	12-57	
				F115	Vb	43・47・53・54・59・ 66・73・78・79・81・ 85・92	12							
				F116	Vb	54	1							

表Ⅴ-5 2012年調査掲載土器一覧(2)

邦文 番号	掲載 番号	年代 番号	調査 番号	遺物 番号(発掘区)	層位	遺物 番号	点数 破片計	分類	器種	部位	文様等	備考	個体 番号
DEVB-29	15	73-1		F118	Ⅴb	158	1	1	Ⅴb	深鉢	口	編織器付文、渦溝、縄文 山面灰化物多量付着	12-254
DEVB-29	16	73-1		F120	Ⅴb	918	1	1	Ⅴb	深鉢	突起	把手、編織器付文、渦溝、縄文 山面灰化物多量付着	12-243
DEVB-29	17	73-1		F119	Ⅴb	420	2	2	Ⅴb	深鉢	突起	把手、縄文圧痕	12-244
DEVB-29	18	73-1		F122	Ⅴb	177	1	1	Ⅴb	深鉢	突起	突起、渦溝、縄文	12-245
DEVB-29	19	73-1		F120	Ⅴb	170	1	1	Ⅴb	深鉢	口	編織器付文、巻縁起縁、渦溝外・内 面	12-250
DEVB-29	20	73-1		F122	Ⅴb	351	1	2	Ⅴb	深鉢	口	突起、編織器付文内文あり、渦溝、 縄文	12-251
				E123	Ⅴb	305	1						
DEVB-29	21	73-1		F118	Ⅴb	51	1	1	Ⅴb	深鉢	側	渦溝起縁、縄文	12-249
DEVB-29	22	73-1		F118	Ⅴb	98	1	1	Ⅴb	付録? 付?	渦溝		12-255
DEVB-30	23	73-1		F108	Ⅴb	22	2	4	Ⅴb	深鉢	口~縁	突起、編織器付文内文あり、渦溝、 縄文	12-122
				F108	Ⅴb	22	2						
DEVB-30	24	73-1		E122	Ⅴb	185・235	2	10	Ⅴb	深鉢	口~縁	突起、編織器付文、渦溝起縁、渦溝、 縄文	12-121
				E122	Ⅴb	307・454	7						
				E123	Ⅴb	522	1						
DEVB-30	25	73-1		F120	Ⅴa	120	1	1	Ⅴb	深鉢	側	渦溝起縁内弧文あり、渦溝突起	12-246
DEVB-30	26	73-1		E123	Ⅴb	531	1	1	Ⅴb	深鉢	側	編織器付文内弧文あり、縄文	12-260
DEVB-30	27	73-1		F120	Ⅴb	410	1	1	Ⅴb	深鉢	口	突起、渦溝起縁内弧文あり、渦溝、 縄文	12-253
DEVB-30	28	73-1		F116	Ⅴb	73・79・80	3	3	Ⅴb	深鉢	口	渦溝起縁、渦溝、縄文、穂形孔	12-252
DEVB-30	29	73-1		F115	Ⅴb	71~73	3	3	Ⅴb	深鉢	口	突起、渦溝起縁内弧文あり、渦溝、 縄文	12-248
DEVB-30	30	73-1		F110	Ⅴb	200・337	5	5	Ⅴb	深鉢	口	突起、渦溝起縁、縄文	12-1171
DEVB-30	31	73-1		F110	Ⅴb	343・345・352・392・ 303・599	6	6	Ⅴb	深鉢	側	渦溝起縁内弧文あり、縄文	12-1172
DEVB-30	32	73-1		F111	Ⅴb	297・298・300・323・ 336	31	31	Ⅴb	深鉢	口~縁	突起、渦溝起縁内弧文・山形文あり、 突起	12-120
DEVB-30	33	73-1		F110	Ⅴb	412・401・614・639	5	5	Ⅴb	深鉢	口~縁	突起、把手、渦溝起縁内弧文・山形 文あり、渦溝、縄文、内面灰化物多 量付着	12-1182
DEVB-30	34	73-1		F110	Ⅴb	449	1	1	Ⅴb	深鉢	突起	渦溝起縁、縄文内面付着	12-247
DEVB-30	35	73-1		F110	Ⅴb	497	2	2	Ⅴb	深鉢	口~縁	突起、渦溝起縁内弧文・縦文・縦文・ 突起、縄文	12-116
DEVB-30	36	73-1		F110	Ⅴb	351・356・401・406・ 423・436・468	7	9	Ⅴb	深鉢	口~縁	2突起、渦溝起縁、縄文	12-115
				F109	Ⅴb	78	1						
				F111	Ⅴb	491	1						
DEVB-30	37	73-1		F111	Ⅴb	130・169・193	9	9	Ⅴb	深鉢	口~縁	1口編文	12-119
DEVB-31	28	73-1		E19	Ⅴb	15・17・35・48・59・ 72・73・89・174・178	10	19	Ⅴb	深鉢	口~縁	口唇折込、編織器付文、渦溝起縁、 三角列点、穂形孔 /口径22.3cm、器高11.9cm	12-11
				F118	Ⅴb	27・28・38	1						
				F118	Ⅴb	27	1						
				F119	Ⅴb	302・309	3						
				F119	Ⅴb	470	1						
DEVB-31	29	73-1		F120	Ⅴb	146・167・169・190・ 197・201・211	34	37	Ⅴb	深鉢	側	渦溝起縁、三角列点、華縄文 /器高24.9cm	12-9
				F120	Ⅴb	不明	3						
DEVB-31	40	74-1		総掘区	Ⅴb	149	1	1	Ⅴb	注口	口~縁	注口・突起、口唇折込、編織器付文、 渦溝起縁内弧文あり、三角列点、華縄文、 穂形孔、内面灰化物多量付着 /口径26.3cm、器高11.6cm、器底27.0cm	12-7
				総掘区	Ⅴb	79・195・196・201・ 204・206・208・405・ 410・411・413・430・ 432・435・461・471・ 472・474・475	25						
				総掘区	Ⅴb	477・513・515・517・ 518・545・551	10						
				総掘区	Ⅴb	不明	4						
				P-49	PT71	埴土	304	1					
				P-53	PT72	埴土	282・283	2					
				P-54	PT78	埴土	565・566	2					
				S90	Ⅴb	135	1						
DEVB-31	41	74-1		F118	Ⅴb	15・19	12	36	Ⅴb	注口	口~縁	注口、口唇折込、編織器付文、渦溝 起縁、三角列点、華縄文、穂形孔 /口径22.3cm、器高17.2cm	12-6
				F119	Ⅴb	343・354・363・370・ 379・409・415	36						
DEVB-32	42	74-1		E118	Ⅴb	22・23・26・27	20	20	Ⅴb	深鉢	口	突起、編織器付文内面有付、三角 列点、華縄文 /器高17.0cm	12-4
DEVB-32	43	74-1		F123	Ⅴb	51・213・525	23	30	Ⅴb	深鉢	口~縁	口唇折込、編織器付文、三角列点、 華縄文、穂形孔 /口径25.7cm、器高28.0cm	12-2
				E122	Ⅴb	5・322	7						
DEVB-32	44	74-1		PT74/388 付文	Ⅴb	346~348・350~359・ 452・511・518	30	33	Ⅴb	深鉢	口~縁	口唇折込、編織器付文、三角列点、 華縄文、 /口径26.0cm、器高22.7cm	12-3
				397	Ⅴb	不明	3						
DEVB-32	45	74-1		F119	Ⅴb	22	1	8	Ⅴb	深鉢	流付台	華縄文 /底径16.3cm、器高7.0cm	12-55
				F119	Ⅴb	336・437	2						
				F120	Ⅴb	50・67・296	3						
				F120	Ⅴb	352・348	2						
DEVB-32	46	74-1		E123	Ⅴb	243	6	6	Ⅴb	深鉢	底	無文 /口径16.1cm、器高1.1cm	12-54
DEVB-32	47	74-1		F119	Ⅴb	172・173・333・341	4	22	Ⅴb	注口	口~縁	注口、口唇折込、編織器付文、三角 列点、華縄文 /口径13.9cm、底径7.1cm、器高 15.6cm	12-5
				E120	Ⅴb	18・21・22・154	4						
				E120	Ⅴb	74	1						
				F119	Ⅴb	186	1						
				F119	Ⅴb	327・329・330・332	6						
				F119	Ⅴb	不明	1						
				F120	Ⅴb	47・57・62・280・313	5						

表Ⅴ-6 2012年調査掲載土器一覧(3)

科図 番号	掲載 番号	学名 番号	調査坑名	産出層 (発掘区)	層位	遺物%	点数 破片 計	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号
武庫-32	48	74-1	紀東区	Ⅳ	211~213・245・247・ 248・282・301・300・ 383・407・460・470・ 472	22	22	Vr	深鉢	口~脚	突起、口唇折片、編織筋付文、帯縁起筋(内弧文外)、三角列点、華織文		12-1093
武庫-32	49	74-1	紀東区	Ⅳ	276・084・091・097・ 088・不明	7	8	Vr	深鉢	脚	帯縁起筋(内弧文外)、三角列点、華織文		12-1092
					F91	104	1						
武庫-32	50	74-1	紀東区	Ⅳ	852・087・089・091・ 094・095	8	8	Vr	深鉢	脚	帯縁起筋(内弧文外)、三角列点、華織文		12-1091
武庫-33	51	74-1	E19	Ⅳb	58	1	2	Vr	深鉢	口	口唇折片、編織筋付文、帯縁起筋、三角列点、華織文、横唇孔		12-258
					E19	86	1						
武庫-33	52	74-1	E17	Ⅳa	6	1	1	Vr	深鉢	口	編織筋付文、帯縁起筋、三角列点、華織文		12-241
武庫-33	53	74-1	F91	Ⅳ	166	2	2	Vr	深鉢	口	口唇折片、編織筋付文、帯縁起筋、三角列点、華織文、横唇孔		12-1103
武庫-33	54	74-1	F91	Ⅳ	166	4	4	Vr	深鉢	脚	帯縁起筋、三角列点、華織文		12-1102
武庫-33	55	74-1	E123	Ⅳa	8・9	2	2	Vr	深鉢	口	編織筋付文、帯縁起筋、三角列点、華織文		12-1043
武庫-33	56	74-1	E124	Ⅳ	120	1	1	Vr	深鉢	脚	帯縁起筋、三角列点、華織文		12-1042
武庫-33	57	74-1	F11/F12/F124	Ⅳ	114	1	1	Vr	深鉢	脚	帯縁起筋、三角列点、華織文		12-1043
武庫-33	58	74-1	E19	Ⅳ	900	5	5	Vr	注口	口	口唇折片、編織筋付文、三角列点、華織文、貫通孔		12-1043
武庫-33	59	75-1	E121	Ⅳb	53・96・97・100・不明	26	26	Vr	深鉢	口~脚	口唇折片、編織筋付文、華織文		12-1062
武庫-33	60	75-1	E121	Ⅳb	53・96・不明	15	15	Vr	深鉢	口~脚	華織文		12-1062
武庫-33	61	74-1	E122	Ⅳ	122・124・129・149	4	4	Vr	深鉢	口	口唇折片、編織筋付文、華織文		12-114
武庫-33	62	74-1	F122	Ⅳb	82・88・93・91・110・ 111・131・189・190	9	10	Vr	深鉢	口~脚	編織筋付文、三角列点、華織文、横唇孔		12-107
					F19	表土	1	1					
武庫-33	63	75-1	E18	Ⅳa	27	4	4	Vr	深鉢	口~脚	突起、編織筋付文、三角列点、華織文		12-1021
武庫-33	64	75-1	E18	Ⅳa	27	10	10	Vr	深鉢	脚	三角列点、華織文		12-1022
武庫-33	65	75-1	E123	Ⅳb	947	1	1	Vr	深鉢	口	口唇折片、編織筋付文、三角列点、華織文		12-242
武庫-33	66	75-1	紀東区	Ⅳ	251・272・286	3	3	Vr	深鉢	脚	口唇折片、三角列点、華織文		12-212
武庫-33	67	75-1	E123	Ⅳa	195	1	1	Vr	深鉢	脚	三角列点、華織文		12-259
武庫-33	68	75-1	E19	Ⅳ	80	4	4	Vr	深鉢	脚	三角列点、華織文		12-1092
武庫-33	69	75-1	E19	Ⅳ	80	3	3	Vr	深鉢	脚	三角列点、華織文		12-1092
武庫-33	70	75-1	紀東区	Ⅳ	263	1	1	Vr	注口	注口	三角列点、華織文		12-280
武庫-33	71	75-1	F90	Ⅳ	58	1	1	Vr	小形深鉢	脚~底	三角列点、華織文		12-257
武庫-33	72	75-1	F132/F111	Ⅳb土	372	1	1	Vr	コシヤツ	口~底	突起、筋織文		12-21
					F10	145・196・302	3	3			口唇折片、筋織文		12-286
					F109	130	1						
武庫-33	73	75-1	E17	Ⅳa	35	1	1	ⅡR	深鉢	口	帯縁起筋		12-239
武庫-34	74	75-1	F11	Ⅳ	39	1	1	Vr	甕	口	内凹和突文		12-237
武庫-34	75	75-1	F97	Ⅳ	7	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(帯縁)		12-214
武庫-34	76	75-1	F10	Ⅳ	7	2	2	Vr	甕	脚	華織文		12-236
武庫-34	77	75-1	F91	Ⅳ	113	1	1	Vr	甕	脚	華織文		12-239
武庫-34	78	75-1	F89	Ⅳ	5	1	1	Vr	甕	脚	華織文		12-222
武庫-34	79	75-1	F99	Ⅳ	12	1	1	Vr	甕	脚	華織文		12-263
武庫-34	80	75-1	F92	Ⅳ	12・14・21	3	3	Vr	甕	口~脚	口縁部肥厚部、肩文、華織文		12-161
武庫-34	81	75-1	F107	Ⅳb	9	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文		12-238
武庫-34	82	75-1	F94	Ⅳ	50	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文		12-214
武庫-34	83	75-1	F94	Ⅳ	43・50	3	3	Vr	甕	脚	肩文、華織文		12-225
武庫-34	84	75-1	F97	Ⅳ	43	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文		12-223
武庫-34	85	75-1	F107	Ⅳb	15	1	1	Vr	甕	脚	華織文、沈線		12-227
武庫-34	86	75-1	F92	Ⅳ	114	1	1	Vr	甕	脚	華織文、ハの字形筋文		12-220
武庫-34	87	75-1	F91	Ⅳ	33	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文、ハの字形筋文		12-217
武庫-34	88	75-1	F98	Ⅳ	12	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文(ハの字)、沈線		12-216
武庫-34	89	75-1	F92	Ⅳ	54	1	1	Vr	甕	脚	肩文、華織文		12-218
武庫-34	90	75-1	F107	Ⅳb	6	1	1	Vr	甕	脚	華織文、沈線		12-229
武庫-34	91	75-1	F92	Ⅳ	113	1	1	Vr	甕	脚	華織文、沈線		12-221
武庫-34	92	75-1	F90	Ⅳ	8	1	1	Vr	甕	脚	ハの字形筋文(縦文)	金貫母入り	12-286
武庫-34	93	75-1	F90	Ⅳ	95	1	1	Vr	甕	脚	肩文	金貫母入り	12-286
武庫-34	94	75-1	F95	Ⅳ	35	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、ハの字形筋文		12-212
武庫-34	95	75-1	F94	Ⅳ	28・29	4	4	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-254
武庫-34	96	75-1	F106	Ⅳ	19	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-230
武庫-34	97	75-1	F111	Ⅳ	42	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(瓜形文)		12-219
武庫-34	98	75-1	F91	Ⅳ	6・8	3	4	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(瓜形文)		12-208
					F93	32	1						
武庫-34	99	75-1	F97	Ⅳ	21	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(瓜形文)		12-207
武庫-34	100	75-1	F112	Ⅳ	17	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(瓜形文)		12-210
武庫-34	101	75-1	F94	Ⅳ	69	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(瓜形文)		12-233
武庫-34	102	75-1	F93	Ⅳ	41	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-209
武庫-34	103	75-1	E110	Ⅳ	6・9	2	2	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-235
武庫-34	104	75-1	E101	Ⅳ	9・9	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(内)		12-205
武庫-34	105	75-1	F94	Ⅳ	64	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-232
武庫-34	106	75-1	F95	Ⅳ	52	3	3	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(内)		12-213
武庫-34	107	75-1	F93	Ⅳ	43	1	1	Vr	甕	口	口縁部肥厚部、肩文(内)		12-211
武庫-34	108	75-1	F91	Ⅳ	5	1	3	Vr	小形甕	口	口縁部肥厚部、肩文		12-208
					F92	130・133	2						

表Ⅵ-7 2012年調査掲載土器一覧(4)

発見 番号	発掘 番号	調査区 番号	遺物名 (発掘区)	層位	遺物%	点数 鏡片 計	分類	器種	部位	文様等	備考	個体番号	
図Ⅵ-31	109	75-1	F93	Ⅳ	00	1	1	Ⅳa	甕	胴	刷文(点)		12-224
図Ⅵ-31	110	75-1	F100	Ⅳ	5・11	2	2	Ⅳa	甕	口	口縁部肥厚帯		12-202
図Ⅵ-31	111	75-1	F94	Ⅳ	16	1	1	Ⅳa	甕	胴	刷文	赤彩	12-215
図Ⅵ-31	112	75-1	F98	Ⅳ	8	10	10	Ⅳa	小型甕	口～底	刷文 口径10.2cm、底径5.7cm、器高約80%残存 H.3cm		12-1
図Ⅵ-31	113	75-1	肥後区	Ⅳ	01	1	1	Ⅳ	深鉢	胴～底	刷文 口径17.2cm、器高17.9cm		12-60
図Ⅵ-31	114	75-1	肥後区	Ⅳ	5	3	3	Ⅳ	深鉢	底	刷文 口径18.8cm、器高14.8cm		12-51
図Ⅵ-31	115	75-1	F120	I		1	1		円蓋状土製品	全	刷文 刷文	宇津内Ⅱb	12-100

表Ⅵ-5 2012年調査掲載石器一覧(1)

種別 番号	掲載 番号	写真 掲載 番号	新遺構名	旧遺構名 /築込区	層位	遺物 番号	分類	石材	長さ (cm)	幅(㎜)	厚さ (㎜)	重量(g)	時期	備考	写真 番号
遺構-6	3	70-1	P-18	PT29-F120	フタ土	335	ナイフ	黒曜石	5.1	3.0	1.1	13.0	後北C・D		ア
遺構-6	4	70-1	P-18	PT29-F120	フタ土	404	石斧	角閃岩	13.0	3.4	4.1	312.4	後北C・D		イ
遺構-7	1	70-1	P-21	PT63-F119	フタ土	1128	台石	安山岩	28.7	24.7	8.1	9300.0	縄文前期	ヒンガリ付着	ア
遺構-8	1	70-1	P-23	PT30-F112	底面	93	ナイフ	黒曜石	8.2	2.8	0.8	12.6	縄文前期		ア
遺構-10	1	70-1	PS-27	PT64-F119	フタ土	1102	台石	安山岩	23.8	17.6	9.0	5200.0	縄文前期		ア
遺構-10	2	70-1	PS-27	PT64-F119	フタ土	1104	台石	安山岩	30.6	21.5	10.6	10200.0	縄文前期		イ
遺構-12	1	71-1	SP-8	PT305-F112	石割り	363	ナイフ	黒曜石	02.0	1.3	0.5	1.4	縄文前期		ウ
遺構-12	2	71-1	SP-8	PT305-F112	石割り	179	台石	安山岩	21.0	17.2	7.5	4180.0	平野内B	伊石	イ
遺構-12	3	71-1	SP-9	PT35-F111		512	台石	安山岩	21.6	17.5	14.5	6500.0	平野内B	伊石	ア
遺構-12	4	71-1	SP-9	PT35-F111		518	台石	安山岩	31.0	16.6	9.1	8200.0	平野内B	伊石	イ
遺構-12	5	71-1	SP-9	PT35-F111		619	台石	安山岩	29.2	14.9	13.2	6800.0	平野内B	伊石	ウ
遺構-16	2	71-1	F-29	PT39-F110	徳土	563	ナイフ	黒曜石	3.3	2.7	0.9	5.2	縄文前期		ア
遺構-16	3	71-1	F-29	PT39-F110	フタ土	558	スクレイパー	黒曜石	5.3	5.2	1.5	32.5	縄文前期		イ
遺構-18	3	71-1	F-44	PT52-F90	フタ土	113	台石	安山岩	31.0	02.0	19.9	17800.0	後北C・D		ア
遺構-20	2	71-1	F-50	PT32A区GO	フタ土	461	平石	安山岩	14.2	5.7	3.7	484.4	後北C・D		ア
遺構-20	3	71-1	F-50	PT32A区GO	フタ土	462	平石	安山岩	16.4	7.2	6.5	1184.3	後北C・D		イ
遺構-20	4	71-1	F-51	PT32B区GO	フタ土	444	ナイフ	黒曜石	6.90	3.3	1.1	02.13	後北C・D		ア
遺構-20	5	71-1	F-51	PT32B区GO	徳土	281	石楯	安山岩	9.6	4.1	1.1	27.1	後北C・D	オホノツタ	ア
遺構-20	6	71-1	F-54	PT32C区GO	フタ土	562	石楯	黒曜石	1.9	0.8	0.2	0.2	後北C・D		ア
遺構-20	7	71-1	F-54	PT32C区GO	フタ土	587	石楯	黒曜石	(1.3)	0.7	0.2	0.1	後北C・D		ア
遺構-20	8	71-1	F-55	PT32D区GO	フタ土	587	石楯	黒曜石	(1.2)	0.9	0.2	0.2	後北C・D		イ
遺構-20	9	71-1	F-55	PT32D区GO	フタ土	587	石楯	黒曜石	(1.1)	0.3	0.4	0.4	後北C・D		イ
遺構-20	10	71-1	F-55	PT32E区GO	フタ土	587	石楯	黒曜石	(1.3)	0.8	0.2	0.2	後北C・D		エ
遺構-20	11	71-1	F-55	PT32E区GO	フタ土	587	ナイフ	黒曜石	(2.3)	1.3	0.6	1.6	後北C・D		オ
遺構-20	12	71-1	F-55	PT32E区GO	フタ土	587	ナイフ	黒曜石	7.3	2.9	1.5	18.8	後北C・D		カ
遺構-22	1	71-1	FC-5	F119 石路集約2	IX	1157	石楯	黒曜石	(1.4)	0.9	0.3	0.2	平野内B		ア
遺構-22	2	71-1	FC-5	F119 石路集約2	IX	1157	石楯	黒曜石	(1.3)	0.9	0.2	0.2	平野内B		イ
遺構-27	1	71-1	SP-18	PT57-F90	フタ土	125	スクレイパー	黒曜石	(2.9)	(2.9)	0.6	4.7	オホノツタ類文		ア
遺構-27	2	71-1	SP-19	PT48-F90	フタ土	43	石楯	安山岩	3.1	1.8	0.6	2.3	オホノツタ類文		イ
遺構-25	1	76-1	E122	日立朝日・ヒノツケ	IX	916	石楯	黒曜石	2.0	0.8	0.4	0.4	平野内B		1
遺構-25	2	76-1	E120	F119ヒノツケ字集約4	IX	855	石楯	黒曜石	1.4	1.2	0.3	0.4	平野内B		2
遺構-25	3	76-1	F112		IX	86	石楯	黒曜石	(1.4)	1.0	0.2	0.4	平野内B		3
遺構-25	4	76-1	F109		IX	125	石楯	黒曜石	(1.6)	1.6	0.2	0.6	平野内B		4
遺構-25	5	76-1	F120		IX	584	石楯	黒曜石	1.8	1.1	0.2	0.4	平野内B		5
遺構-25	6	76-1	日立朝日・ヒノツケ	IX	916	石楯	黒曜石	2.0	1.1	0.3	0.5	平野内B		6	
遺構-25	7	76-1	F110		IX	248	石楯	黒曜石	2.4	1.1	0.3	0.5	平野内B		7
遺構-25	8	76-1	大	PT32-F111	フタ土	303	石楯	黒曜石	2.9	1.2	0.6	0.6	平野内B		8
遺構-25	9	76-1	F119		IX	512	石楯	黒曜石	4.1	1.8	0.4	2.3	平野内B		9
遺構-25	10	76-1	E123		IX	529	石楯	黒曜石	(1.4)	1.0	0.2	0.3	平野内B		10
遺構-25	11	76-1	E120		IX	177	石楯	黒曜石	(1.5)	1.0	0.3	0.4	平野内B		11
遺構-25	12	76-1	0x-11	F119ヒノツケ字集約3	IX	849	石楯	黒曜石	(1.6)	1.2	0.4	0.7	平野内B		12
遺構-25	13	76-1	F119		IX	624	石楯	黒曜石	(1.6)	1.2	0.3	0.5	平野内B		13
遺構-25	14	76-1	日立朝日・ヒノツケ	IX	916	石楯	黒曜石	(1.7)	1.4	0.3	0.6	平野内B		14	
遺構-25	15	76-1	F110		IX	279	石楯	黒曜石	(1.7)	1.1	0.3	0.4	平野内B		15
遺構-25	16	76-1	日立朝日・ヒノツケ	IX	916	石楯	黒曜石	(2.0)	1.4	0.2	0.4	平野内B		16	
遺構-25	17	76-1	E122		IX	384	石楯	黒曜石	(2.1)	1.1	0.3	0.6	平野内B		17
遺構-25	18	76-1	F110		IX	543	石楯	黒曜石	(2.2)	1.3	0.3	0.8	平野内B		18
遺構-25	19	76-1	F119		IX	467	石楯	黒曜石	2.3	0.8	0.3	0.4	平野内B		19
遺構-25	20	76-1	F119		IX	936	石楯	黒曜石	(2.5)	0.9	0.3	0.7	平野内B		20
遺構-25	21	76-1	E122		IX	470	石楯	黒曜石	3.1	1.0	0.4	1.1	平野内B		21
遺構-25	22	76-1	日立朝日・ヒノツケ	IX	916	石楯	黒曜石	(3.0)	1.1	0.2	0.5	平野内B		22	
遺構-25	23	76-1	F112		IX	238	ナイフ	黒曜石	4.9	3.4	0.7	8.2	平野内B		23
遺構-25	24	76-1	F111		IX	497	ナイフ	黒曜石	7.8	2.3	1.0	10.3	平野内B		24
遺構-25	25	76-1	F111		IX	350	ナイフ	黒曜石	9.0	4.0	1.1	23.6	平野内B		25
遺構-25	26	76-1	F110		IX	130	ナイフ	黒曜石	(2.7)	2.6	0.8	(5.7)	平野内B		26
遺構-25	27	76-1	F111		IX	445	ナイフ	黒曜石	(6.8)	3.0	0.8	(15.4)	平野内B		27
遺構-25	28	76-1	E122		IX	733	ナイフ	黒曜石	(5.3)	3.0	0.8	(9.3)	平野内B		28
遺構-25	29	76-1	F115		IX	93	ナイフ	黒曜石	(8.4)	5.1	0.9	(22.3)	平野内B		29
遺構-25	30	76-1	F111		IX	421	ナイフ	黒曜石	6.7	2.6	0.8	8.0	平野内B		30
遺構-25	31	76-1	F120		IX	473	ナイフ	黒曜石	(2.9)	1.4	0.2	1.8	平野内B		31
遺構-25	32	76-1	E122		IX	765	ナイフ	黒曜石	6.9	3.1	0.8	15.2	平野内B		32
遺構-25	33	76-1	F111		IX	511	ナイフ	黒曜石	8.2	3.0	1.0	24.6	平野内B		33
遺構-25	34	76-1	E123		IX	528	ナイフ	黒曜石	8.7	4.2	0.8	20.3	平野内B		34
遺構-25	35	76-1	F119木炭集約2	IX	1140	ナイフ	黒曜石	(1.9)	1.6	0.5	(1.7)	平野内B		35	
遺構-25	36	76-1	F110		IX	490	ナイフ	黒曜石	(1.2)	2.5	0.3	(1.3)	平野内B		36
遺構-25	37	76-1	F110		IX	480	ナイフ	黒曜石	(3.3)	3.2	0.8	(7.3)	平野内B		37
遺構-25	38	76-1	E122集約1	IX	671	ナイフ	黒曜石	(3.7)	6.4	2.3	8.4	平野内B		38	
遺構-25	39	76-1	日立朝日・本層	IX	911	ナイフ	黒曜石	(4.4)	2.3	0.8	(8.2)	平野内B		39	
遺構-25	40	76-1	F110		IX	556	スクレイパー	黒曜石	3.6	3.5	1.5	16.7	平野内B		40
遺構-25	41	76-1	F111		IX	175	スクレイパー	黒曜石	3.2	3.5	0.8	6.8	平野内B		41
遺構-25	42	76-1	F119		IX	818	スクレイパー	黒曜石	3.6	4.9	1.3	16.0	平野内B		42
遺構-25	43	76-1	E122集約2	IX	911	スクレイパー	黒曜石	4.1	4.2	1.0	18.5	平野内B		43	
遺構-25	44	76-1	F119木炭集約2	IX	1140	スクレイパー	黒曜石	4.6	3.0	1.0	9.0	平野内B		44	
遺構-25	45	76-1	F111		IX	250	スクレイパー	黒曜石	7.2	6.4	2.3	64.1	平野内B		45
遺構-25	46	76-1	E122ヒノツケ字集約1	IX	673	スクレイパー	黒曜石	3.9	1.9	0.8	3.4	平野内B		46	
遺構-25	47	76-1	E121		IX	102	スクレイパー	黒曜石	3.9	2.6	1.0	8.1	平野内B		47
遺構-25	48	76-1	F119		IX	481	スクレイパー	黒曜石	4.5	2.6	1.1	8.9	平野内B		48
遺構-25	49	76-1	F120		IX	470	スクレイパー	黒曜石	5.6	2.4	1.2	10.0	平野内B		49
遺構-25	50	76-1	F110		IX	616	スクレイパー	黒曜石	6.2	3.5	1.0	11.1	平野内B		50

表Ⅷ-10 2012年調査掲載石器一覧(3)

検出 番号	掲載 番号	写真 添付	新遺構名	遺構番号/ 築込区	層位	遺物 番号	分類	石材	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	重量(g)	時期	備考	実測 番号
原Ⅷ-41	131	78-1		F119	Ⅷa	51	石鏡	鍔貫直刃	2.6	1.2	0.4	0.9	後北C・D主体		131
原Ⅷ-41	132	78-1		E117	Ⅷa	34	石鏡	黒曜石	(4.4)	2.1	0.5	0.3	後北C・D主体		132
原Ⅷ-41	133	78-1		F119	Ⅷb	294	石鏡	黒曜石	2.5	1.2	0.6	1.5	後北C・D		133
原Ⅷ-41	134	78-1		F120中・炭納周	Ⅷb	911	石鏡	黒曜石	(0.9)	0.7	0.2	0.1	後北C・D	斜面	134
原Ⅷ-41	135	78-1		F120中・炭納周	Ⅷb	911	石鏡	黒曜石	(1.0)	0.7	0.2	0.1	後北C・D	斜面	135
原Ⅷ-41	136	78-1		F120中・炭納周	Ⅷb	911	石鏡	黒曜石	(1.2)	0.8	0.2	0.1	後北C・D	斜面	136
原Ⅷ-41	137	78-1		F120	Ⅷb	184	石鏡	黒曜石	(1.3)	0.7	0.2	0.1	後北C・D		137
原Ⅷ-41	138	78-1		F120	Ⅷa	103	石鏡	黒曜石	(2.2)	1.1	0.3	0.7	後北C・D主体		138
原Ⅷ-41	139	78-1		F111	Ⅷa	5	石鏡	安山岩	(3.7)	2.8	0.7	1.5	後北C・D主体		139
原Ⅷ-41	140	78-1	(築込区)	F90	Ⅷb	317	ナイフ	黒曜石	(3.2)	2.0	0.9	9.3	後北C・D		140
原Ⅷ-41	141	78-1		E119	Ⅷb	136	ナイフ	安山岩	(6.0)	3.2	1.2	21.1	後北C・D		141
原Ⅷ-41	142	78-1		F90	Ⅷb	70	ナイフ	黒曜石	4.1	2.0	0.7	4.6	後北C・D		142
原Ⅷ-41	143	78-1		F90	Ⅷb	102	ナイフ	黒曜石	4.5	2.4	0.9	8.4	後北C・D		143
原Ⅷ-41	144	78-1		F92	Ⅷb	90	ナイフ	黒曜石	4.5	1.8	0.7	4.1	後北C・D		144
原Ⅷ-41	145	78-1		F91	Ⅷb	159	ナイフ	黒曜石	4.6	1.8	0.8	6.4	後北C・D		145
原Ⅷ-41	146	78-1		F90	Ⅷb	43	ナイフ	黒曜石	0.9	2.4	0.7	8.2	後北C・D		146
原Ⅷ-41	147	78-1		F90	Ⅷb	67	ナイフ	黒曜石	(2.8)	2.0	0.6	(2.7)	後北C・D		147
原Ⅷ-41	148	78-1		F94	Ⅷb	55	ナイフ	黒曜石	(2.3)	2.0	0.6	(1.6)	後北C・D		148
原Ⅷ-41	149	78-1		F91	Ⅷb	158	ナイフ	黒曜石	(2.9)	2.1	0.4	(1.9)	後北C・D		149
原Ⅷ-41	150	78-1		F92	Ⅷb	94	ナイフ	黒曜石	(3.4)	2.1	0.5	3.2	後北C・D		150
原Ⅷ-41	151	78-1		F90	Ⅷb	146	ナイフ	黒曜石	(3.5)	2.0	0.7	(4.0)	後北C・D		151
原Ⅷ-41	152	78-1		F90	Ⅷb	62	ナイフ	黒曜石	3.8	2.5	0.8	6.1	後北C・D		152
原Ⅷ-41	153	78-1		F90	Ⅷb	189	ナイフ	黒曜石	(4.0)	2.1	1.0	16.0	後北C・D		153
原Ⅷ-41	154	78-1		F90	Ⅷb	104	ナイフ	黒曜石	(4.3)	2.3	0.7	5.6	後北C・D		154
原Ⅷ-41	155	78-1		F90	Ⅷb	64	ナイフ	黒曜石	(5.1)	2.2	0.8	(6.9)	後北C・D		155
原Ⅷ-41	156	78-1		E122	Ⅷa	72	ナイフ	黒曜石	5.2	2.4	0.7	6.9	後北C・D主体		156
原Ⅷ-42	157	78-1		F120	Ⅷa	279	ナイフ	黒曜石	5.3	2.0	0.7	6.4	後北C・D主体		157
原Ⅷ-42	158	78-1		F91	Ⅷb	88	ナイフ	黒曜石	7.5	2.7	1.1	13.6	後北C・D		158
原Ⅷ-42	159	78-1		E119	Ⅷa	99	ナイフ	黒曜石	(4.8)	3.4	0.8	(11.9)	後北C・D主体		159
原Ⅷ-42	160	78-1		E120	Ⅷb	76	ナイフ	黒曜石	(3.5)	1.7	0.6	(2.9)	後北C・D		160
原Ⅷ-42	161	78-1		F111	Ⅷb	21	ナイフ	黒曜石	(2.3)	1.6	0.8	(2.5)	後北C・D主体		161
原Ⅷ-42	162	78-1		F109	Ⅷa	58	ナイフ	黒曜石	4.2	3.2	0.8	9.5	後北C・D主体		162
原Ⅷ-42	163	78-1		F117	Ⅷa	6	ナイフ	鍔貫直刃	4.3	4.1	1.8	27.6	後北C・D主体		163
原Ⅷ-42	164	78-1		E119	Ⅷb	38	ナイフ	黒曜石	4.9	3.0	1.0	11.1	後北C・D		164
原Ⅷ-42	165	78-1		F92	Ⅷb	118	ナイフ	黒曜石	(1.8)	1.3	0.5	(1.0)	後北C・D		165
原Ⅷ-42	166	78-1		F94	Ⅷb	45	ナイフ	黒曜石	(2.2)	3.1	0.8	5.4	後北C・D		166
原Ⅷ-42	167	78-1		F121	Ⅷb	12	ナイフ	黒曜石	(6.2)	4.8	1.0	(25.3)	後北C・D、正文		167
原Ⅷ-42	168	78-1		F111	Ⅷb	29	スクレイパー	黒曜石	2.9	2.8	0.6	7.5	後北C・D	D主体	168
原Ⅷ-42	169	78-1		E122	Ⅷb	283	スクレイパー	黒曜石	4.3	2.0	0.9	6.8	後北C・D	D主体	169
原Ⅷ-42	170	78-1		E123	Ⅷb	283	スクレイパー	鍔貫直刃	4.8	2.5	1.3	12.4	後北C・D主体		170
原Ⅷ-42	171	78-1		F120	Ⅷb	405	スクレイパー	黒曜石	5.1	2.8	1.0	11.7	後北C・D		171
原Ⅷ-42	172	78-1		F90	Ⅷb	151	スクレイパー	黒曜石	4.9	2.3	0.7	5.1	後北C・D		172
原Ⅷ-42	173	78-1		F91	Ⅷb	90	スクレイパー	黒曜石	5.4	1.4	0.9	3.8	後北C・D		173
原Ⅷ-42	174	78-1		E123	Ⅷb	296	スクレイパー	黒曜石	3.4	2.5	0.6	4.1	後北C・D主体		174
原Ⅷ-42	175	78-1	(築込区)	Ⅷb	286	スクレイパー	黒曜石	3.5	3.1	0.8	5.9	後北C・D		175	
原Ⅷ-42	176	78-1		F90	Ⅷb	57	スクレイパー	黒曜石	4.5	5.0	0.9	16.6	後北C・D		176
原Ⅷ-42	177	78-1		F90	Ⅷb	66	スクレイパー	黒曜石	(2.7)	2.1	0.4	(2.1)	後北C・D		177
原Ⅷ-42	178	78-1		F121	Ⅷb	13	スクレイパー	黒曜石	2.4	2.6	0.8	4.2	後北C・D、正文		178
原Ⅷ-42	179	78-1		F109	Ⅷb	32	スクレイパー	黒曜石	3.3	2.6	0.9	7.4	後北C・D		179
原Ⅷ-42	180	78-1		E123	Ⅷa	132	スクレイパー	黒曜石	3.0	3.3	0.6	4.5	後北C・D主体		180
原Ⅷ-42	181	78-1		F119	Ⅷb	198	スクレイパー	黒曜石	3.5	3.0	1.2	9.6	後北C・D主体		181
原Ⅷ-43	182	78-1		E123	Ⅷb	363	スクレイパー	黒曜石	3.3	4.0	1.3	15.1	後北C・D		182
原Ⅷ-43	183	78-1		E120	Ⅷb	90	スクレイパー	黒曜石	3.8	2.1	0.8	3.4	後北C・D		183
原Ⅷ-43	184	78-1		E123	Ⅷa	46	スクレイパー	黒曜石	4.3	3.9	0.8	10.5	後北C・D主体		184
原Ⅷ-43	185	78-1		E122	Ⅷa	70	スクレイパー	黒曜石	4.2	3.0	0.8	10.3	後北C・D主体		185
原Ⅷ-43	186	78-1		F121	Ⅷb	10	スクレイパー	黒曜石	4.6	4.0	1.8	31.2	後北C・D、正文		186
原Ⅷ-43	187	78-1		F120	Ⅷb	339	スクレイパー	黒曜石	3.5	4.8	1.2	18.3	後北C・D		187
原Ⅷ-43	188	78-1	(築込区)	Ⅷb	438	スクレイパー	黒曜石	(2.0)	2.4	0.6	(2.0)	後北C・D		188	
原Ⅷ-43	189	78-1		E123	Ⅷa	270	スクレイパー	黒曜石	2.9	1.7	0.8	3.8	後北C・D主体		189
原Ⅷ-43	190	78-1		E122	Ⅷb	116	スクレイパー	黒曜石	2.9	2.8	0.6	3.5	後北C・D		190
原Ⅷ-43	191	78-1		F94	Ⅷb	172	スクレイパー	黒曜石	(3.5)	2.9	0.7	(5.0)	後北C・D		191
原Ⅷ-43	192	78-1		F90	Ⅷb	122	スクレイパー	黒曜石	(3.7)	2.6	0.7	(5.1)	後北C・D		192
原Ⅷ-43	193	78-1		F119	Ⅷa	11	石鏡	メノウ	3.7	1.3	1.2	4.8	後北C・D主体		193
原Ⅷ-43	194	78-1		E117	Ⅷb	38	片刃	黒曜石	2.4	1.8	0.5	2.5	後北C・D主体		194
原Ⅷ-43	195	78-1		E123	Ⅷa	62	片刃	黒曜石	2.7	1.8	0.5	2.0	後北C・D主体		195
原Ⅷ-43	196	78-1		F116	Ⅷa	34	片刃	黒曜石	2.6	2.2	0.4	1.8	後北C・D主体		196
原Ⅷ-43	197	78-1		F120	Ⅷb	200	片刃	黒曜石	2.5	2.6	0.8	3.4	後北C・D		197
原Ⅷ-43	198	78-1		F120	Ⅷb	221	片刃	黒曜石	4.5	2.0	0.9	7.9	後北C・D		198
原Ⅷ-43	199	78-1		E120	Ⅷb	27	片刃	黒曜石	(2.8)	2.3	0.6	(3.1)	後北C・D主体		199
原Ⅷ-43	200	78-1		E118	Ⅷb	15	片刃	黒曜石	3.3	2.5	0.6	3.4	後北C・D、正文		200
原Ⅷ-43	201	78-1		E117	Ⅷb	47	片刃	黒曜石	3.0	2.0	0.6	3.2	後北C・D		201
原Ⅷ-43	202	78-1		F111	Ⅷb	19	片刃	黒曜石	3.6	2.2	0.5	2.8	後北C・D主体		202
原Ⅷ-43	203	78-1		F90	Ⅷb	111	片刃	黒曜石	(6.2)	2.0	0.6	3.3	後北C・D		203
原Ⅷ-43	204	78-1		F117	Ⅷa	97	片刃	黒曜石	3.8	2.8	0.9	6.3	後北C・D主体		204
原Ⅷ-43	205	78-1		F119	Ⅷb	443	片刃	黒曜石	3.7	2.5	1.2	7.9	後北C・D		205
原Ⅷ-43	206	78-1		F90a柱組周	Ⅷ中周	425	片刃	黒曜石	3.7	3.5	0.9	10.8	後北C・D		206
原Ⅷ-43	207	78-1		F90	Ⅷb	60	片刃	黒曜石	(5.1)	2.4	0.9	8.6	後北C・D		207
原Ⅷ-43	208	78-1		F112	Ⅷb	19	片刃	黒曜石	5.0	3.1	0.8	10.2	正文・後北		208
原Ⅷ-43	209	78-1		E112	Ⅷb	4	片刃	黒曜石	4.8	3.0	0.7	4.8	正文・後北		209
原Ⅷ-43	210	78-1	(築込区)	Ⅷb	367	片刃	黒曜石	5.1	3.2	1.1	8.5	後北C・D		210	

表Ⅴ-11 2012年調査掲載石器一覧(4)

種別番号	掲載番号	写真掲載番号	新遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	時期	備考	実測番号
原Ⅴ-43	211	78-1		E118	ⅤB	30	片ノレイク	黒曜石	5.5	2.7	1.2	12.8	後北C・D	原文	211
原Ⅴ-43	212	78-1		F119	ⅤBb	454	片ノレイク	黒曜石	(2.7)	2.0	0.5	0.2	後北C・D		212
原Ⅴ-43	213	78-1		F117	ⅤBa	50	片ノレイク	黒曜石	(2.5)	3.0	0.6	4.1	後北C・D	主体	213
原Ⅴ-43	214	78-1		E123	ⅤBa	247	片ノレイク	黒曜石	(3.2)	1.9	0.7	0.2	後北C・D	主体	214
原Ⅴ-43	215	78-1		F119	ⅤBa	104	片ノレイク	黒曜石	(2.9)	2.8	0.4	0.2	後北C・D	主体	215
原Ⅴ-43	216	79-1		E118	ⅤB	19	片ノレイク	黒曜石	3.6	2.1	0.7	4.3	後北C・D	原文	216
原Ⅴ-43	217	79-1		F116	ⅤBa	19	片ノレイク	緑頁頁岩	(3.9)	2.8	0.9	18.0	後北C・D	主体	217
原Ⅴ-43	218	79-1		F120	ⅤBa	127	片ノレイク	黒曜石	(6.1)	4.1	3.3	13.5	後北C・D	主体	218
原Ⅴ-44	219	79-1		E116	ⅤBa	30	石核	メノウ	3.9	3.3	2.1	21.0	後北C・D	主体	219
原Ⅴ-44	220	79-1		F119	ⅤBa	191	石核	緑頁頁岩	3.4	2.6	1.9	15.7	後北C・D	主体	220
原Ⅴ-44	221	79-1		E119	ⅤBb	33	石核	メノウ	4.0	3.9	3.4	62.2	後北C・D		221
原Ⅴ-44	222	79-1		E117	ⅤBb	28	石核	メノウ	4.5	5.6	2.6	82.6	後北C・D		222
原Ⅴ-44	223	79-1		F119	ⅤBa	164	石核	安山岩	4.4	5.1	2.3	52.1	後北C・D	主体	223
原Ⅴ-44	224	79-1		F111	ⅤBa	33	石核	緑頁頁岩	4.0	6.2	3.3	70.9	後北C・D	主体	224
原Ⅴ-44	225	79-1		F119	ⅤBb	290	石核	緑頁頁岩	6.4	6.5	5.0	149.7	後北C・D		225
原Ⅴ-44	226	79-1		E123	ⅤBa	242	石核	頁岩	5.8	3.0	1.1	16.0	後北C・D	主体	226
原Ⅴ-44	227	79-1		F119	ⅤBb	120	石核	安山岩	(5.8)	4.8	2.5	(78.5)	後北C・D		227
原Ⅴ-44	228	79-1	(紀要区)	ⅤB	639	たたま石	安山岩	10.9	8.9	5.5	658.3	後北C・D		228	
原Ⅴ-44	229	79-1		E123	ⅤBa	163	たたま石	安山岩	11.8	7.2	5.2	553.8	後北C・D	主体	229
原Ⅴ-44	230	79-1		F120	ⅤBb	157	たたま石	安山岩	20.5	8.6	7.3	2300.0	後北C・D		230
原Ⅴ-45	231	79-1		E122	ⅤBa	182	すり石	輝石	5.3	4.9	4.0	10.7	後北C・D		231
原Ⅴ-45	232	79-1		F120	ⅤBa	164	すり石	安山岩	7.2	7.0	3.1	258.0	後北C・D		232
原Ⅴ-45	233	79-1		F119	ⅤBa	29	すり石	安山岩	(9.4)	8.3	3.3	21.8	後北C・D	主体	233
原Ⅴ-45	234	79-1		F120	ⅤBa	121	すり石	安山岩	16.6	11.2	5.8	1600.0	後北C・D	主体	234
原Ⅴ-45	235	79-1		F120	ⅤBa	153	すり石	安山岩	18.7	17.2	5.3	2700.0	後北C・D	主体	235
原Ⅴ-45	236	79-1		F120	ⅤBa	329	くばみ石	安山岩	12.0	9.1	4.5	761.3	後北C・D	主体	236
原Ⅴ-45	237	79-1		F119	ⅤBa	93	くばみ石	安山岩	13.2	9.9	4.9	873.3	後北C・D	主体	237
原Ⅴ-45	238	79-1		F90	ⅤB	119	砥石	輝石	3.3	3.0	2.7	3.9	後北C・D		238
原Ⅴ-45	239	79-1		F94	ⅤB	50	砥石	輝石	4.1	4.1	3.1	6.7	後北C・D		239
原Ⅴ-45	240	79-1		F94	ⅤB	40	砥石	輝石	6.3	3.7	3.4	11.4	後北C・D	有漢砥石	240
原Ⅴ-45	241	79-1		F119	ⅤBa	192	砥石	砂岩	6.8	5.2	1.2	43.8	後北C・D	主体	241
原Ⅴ-45	242	79-1	(紀要区)	ⅤB	361	砥石	砂岩	10.4	7.1	3.5	179.7	後北C・D		242	
原Ⅴ-45	243	79-1	(紀要区)	ⅤB	536	台石	安山岩	29.7	14.2	6.5	4900.0	後北C・D		243	
原Ⅴ-45	244	79-1		F90	ⅤB	60	台石	安山岩	46.4	20.3	12.5	22300.0	後北C・D		244
原Ⅴ-46	245	79-1	(紀要区)	ⅤB	133	石鏃	石鏃	1.2	1.0	0.3	0.5	オホーヅク類文		245	
原Ⅴ-46	246	79-1		F102	ⅤB	5	石鏃	安山岩	2.7	1.3	0.4	1.2	オホーヅク類文		246
原Ⅴ-46	247	79-1		F94	ⅤB	64	石鏃	安山岩	2.7	1.2	0.4	1.0	オホーヅク類文		247
原Ⅴ-46	248	79-1		F92	ⅤB	56	石鏃	緑頁頁岩	3.7	1.4	0.5	1.5	オホーヅク類文		248
原Ⅴ-46	249	79-1		H-7	ⅤB	7	石鏃	黒曜石	4.0	1.6	0.5	1.8	縄文・鉄器文		249
原Ⅴ-46	250	79-1		F99	ⅤB	44	石鏃	メノウ	4.2	1.5	0.4	1.7	オホーヅク類文		250
原Ⅴ-46	251	79-1		F99	ⅤB	15	石鏃	黒曜石	4.6	1.7	0.4	2.1	オホーヅク類文		251
原Ⅴ-46	252	79-1		F90	ⅤB	107	石鏃	緑頁頁岩	1.5	1.2	0.4	0.6	オホーヅク類文		252
原Ⅴ-46	253	79-1		F90	ⅤB	105	石鏃	黒曜石	1.8	1.2	0.3	0.6	オホーヅク類文		253
原Ⅴ-46	254	79-1		E100	ⅤB	33	石鏃	緑頁頁岩	(2.3)	1.3	0.3	(0.8)	オホーヅク類文		254
原Ⅴ-46	255	79-1		F101	ⅤB	17	石鏃	緑頁頁岩	(2.8)	1.2	0.4	(1.3)	オホーヅク類文		255
原Ⅴ-46	256	79-1		F92	ⅤB	35	石鏃	安山岩	3.0	2.2	0.6	4.8	オホーヅク類文		256
原Ⅴ-46	257	79-1		F92	ⅤB	59	石鏃	安山岩	(2.9)	2.7	0.7	(4.8)	オホーヅク類文		257
原Ⅴ-46	258	79-1		F92	ⅤB	42	石鏃	安山岩	(3.6)	2.8	0.8	(6.4)	オホーヅク類文		258
原Ⅴ-46	259	79-1		F93	ⅤB	21	石鏃	安山岩	(4.1)	2.1	0.7	4.9	オホーヅク類文		259
原Ⅴ-46	260	79-1	(紀要区)	ⅤB	176	石鏃	黒曜石	(1.9)	1.2	0.5	(1.1)	オホーヅク類文		260	
原Ⅴ-46	261	79-1		F98	ⅤB	8	石鏃	緑頁頁岩	(2.0)	1.2	0.3	(0.7)	オホーヅク類文		261
原Ⅴ-46	262	79-1		F101	ⅤB	30	石鏃	黒曜石	(2.2)	1.4	0.3	(1.0)	オホーヅク類文		262
原Ⅴ-46	263	79-1		F107	ⅤBa	13	スクレイパー	黒曜石	4.2	3.1	0.8	8.1	オホーヅク		263
原Ⅴ-46	264	79-1		E108	ⅤB	12	スクレイパー	黒曜石	4.7	3.5	0.9	14.8	オホーヅク		264
原Ⅴ-46	265	79-1		F93	ⅤB	61	石核	緑頁頁岩	5.5	6.1	5.7	307.0	オホーヅク類文		265
原Ⅴ-46	266	79-1		F92骨組跡1	ⅤB中間	123	すり石	輝石	13.3	7.4	6.3	126.7	オホーヅク類文		266
原Ⅴ-46	267	79-1		F99	ⅤB	20	砥石	輝石	9.2	5.8	4.5	39.0	オホーヅク類文		267
原Ⅴ-46	268	79-1		F92	ⅤB	12	砥石	頁岩	6.0	5.7	2.2	77.5	オホーヅク類文		268
原Ⅴ-46	269	79-1		F109	ⅤB	6	砥石	砂岩	15.2	11.8	4.9	627.2	オホーヅク		269
原Ⅴ-46	270	79-1		F92	ⅤB	90	円盤状石製品	頁岩	3.1	2.8	0.7	8.4	オホーヅク類文		270

表Ⅴ-12 2012年調査掲載骨角器一覧

種別番号	掲載番号	写真掲載番号	新遺構名	旧遺構名/発掘区	層位	遺物番号	分類	材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	時期	備考	実測番号
原Ⅴ-46	271	79-1		F92骨組跡1	ⅤB中間	164	鉤頭	シヤウ散骨片	62.1	0.9	0.5	1.1	オホーヅク類文		271

Ⅷ章 自然科学的分析・鑑定

1 カモイバツ遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

株式会社 バレオ・ラボ

1 はじめに

斜里町字峰浜に所在するカモイバツ遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2 試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器19点である(表1)。時期は、試料番号KM-1~5、10~19が統縄文時代後北C₂-D期、試料番号KM-6~9がオホーツク文化刻文期とみられている。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps: count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

表1 分析対象

試料番号	器種	遺構/発掘区	層位	重量(g)	時期	
KM-1	石槍・ナイフ	K74	VIIb	9.1	統縄文時代 後北C ₂ -D期	
KM-2	石槍・ナイフ	K69	VIIb	9.1		
KM-3	石槍・ナイフ	I109	VIIb	4.7		
KM-4	石槍・ナイフ	K65	VIIb	33.0		
KM-5	スクレイパー	J69	VIIb	29.4		
KM-6	石槍・ナイフ	J102	VIIa	39.1		
KM-7	石鏃	J66	VIIa1	2.4		オホーツク文化 刻文期
KM-8	石鏃	J38	VIIa1	1.8		
KM-9	楔形石器	J107	VIIa	21.3		
KM-10	スクレイパー	K65	VIIb	5.5	統縄文時代 後北C ₂ -D期	
KM-11	スクレイパー	K69	VIIb	7.8		
KM-12	スクレイパー	J82	VIIb	4.2		
KM-13	スクレイパー	K68	VIIb	6.4		
KM-14	スクレイパー	J107	VIIb	2.2		
KM-15	スクレイパー	K71	VIIb	2.3		
KM-16	スクレイパー	K73	VIIb	2.2		
KM-17	スクレイパー	K69	VIIb	13.8		
KM-18	楔形石器	J73	VIIb	27.7		
KM-19	Rフレイク	K67	VIIb	2.4		

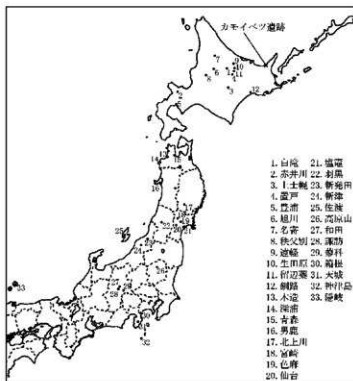


図1 黒曜石産地分布図(東日本)

- 1) $Rb \text{ 分率} = Rb \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 2) $Sr \text{ 分率} = Sr \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$
- 3) $Mn \text{ 強度} \times 100 / Fe \text{ 強度}$
- 4) $\log (Fe \text{ 強度} / K \text{ 強度})$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせることで指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図1に各原石の採取地の分布図を示す。

3 分析結果

表3に石器の測定値および算出した指標値を、図2と図3に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくなるため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、4点が白滝2群(北海道、白滝エリア)、1点が上土幌群(北海道、上土幌エリア)、11点が所山群(北海道、置戸エリア)、1点が生田原群(北海道、生田原エリア)の範囲にプロットされた。KM-9は、図2では白滝2群の範囲にプロットされたが、図3では白滝2群の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月, 1999)、白滝2群に属する可能性が高い。KM-19は、合致する判別群がなく、産地不明であった。

赤井川群と上土幌群の図2、3の判別図では、一部に重複があるため、区別が困難な場合がある。そこで、以下に示すY分率を算出した。

$$Y \text{ 分率} = Y \text{ 強度} \times 100 / (Rb \text{ 強度} + Sr \text{ 強度} + Y \text{ 強度} + Zr \text{ 強度})$$

表2 東日本黒曜石産地の判別群

都道府県エリア判別群名	原石採取地		
北海道	白滝1	赤石山山頂(43)、八号武蔵頭(15)	
	白滝2	7の沢川支流(2)、1K露頭(10)、10勝石武蔵頭下河床(11)、アジサイの露頭(10)	
	赤井川	曲川-土木川(24)	
	上土幌	十勝三股(4)、タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十二ノ沢(32)	
	置戸	置戸山(5)	
	所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦(10)	
	旭川	近文台(8)、雨宿台(2)	
	名寄	名寄 志原布川(19)	
		秩父別1 秩父別 秩父別 秩父別2 秩父別3	中山(65)
	遠軽	社名瀧川河床(2)	
	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘂	留辺蘂1 留辺蘂2	ケンヨマップ川河床(9)
	網走	網走 網走 網走市宮スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)	
青森	本志	出来島南岸(15)、鶴ヶ丘(10)	
	深淵	八森山 岡崎(7)、八森山公園(8)	
	青森	青森 天田内川(6)	
秋田	男鹿	金ヶ崎 金ヶ崎温泉(10) 脇本 脇本南岸(4)	
	岩手	北上川 北上川(9)、真城(33)	
宮城	宮崎	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸(40)	
	仙台	秋保1 秋保2	土蔵(18)
	塩竈	塩竈 塩竈(10)	
	山形	羽黒 月山 月山荘前(24)、大蔵沢(10) 鶴川 たちのき枝(19)	
新潟	新発田	坂山 坂山牧場(10)	
	新津	金津 金津(7)	
	佐渡	真光寺 道分(4)	
栃木	高原山	甘藷沢 甘藷沢(22) 七尋沢 七尋沢(30)、宮川(3)、枝持沢(3)	
		西郷屋 芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
		嵐山 嵐山(14)、東郷屋(54)	
		小深沢 小深沢(42)	
		土屋橋1 土屋橋西(10)	
	長野	和田	土屋橋2 新和田トンネル北(20)、土屋橋北西(38)、土屋橋西(1)
			吉師 新和田トンネル上(20)、吉師(38)、新和田スキー場(28)
			ブドウ沢 ブドウ沢(20)
			牧ヶ沢 牧ヶ沢下(20)
			高松沢 高松沢(19)
		諏訪 屋ヶ台 屋ヶ台(35)、屋ヶ塔(20)	
神奈川	荻科	冷山(20)、麦草峠(20)、麦草峠東(20)	
		戸ノ湯 戸ノ湯(3)	
	箱根	畑原 畑原(51) 鎌倉屋 鎌倉屋(20)	
		土多賀 土多賀(20)	
静岡	天城	相峠(20)	
	神津島	恩賜島(27) 砂輪崎(20)	
鳥取	隠岐	久見 久見パーライト中(6)、久見探検現場(5)	
		宍道 宍道南岸(3)、加茂(4)、岸倉(3)	

赤井川群および土上幌群の原石および石器について、横軸Y分率、縦軸Mn強度×100/Fe強度をプロットした判別図を図4に示す。図4において、KM-17は土上幌群と判断できる。

表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。また、表4に、時期別および器種別の産地を示す。

表3 測定値および産地推定結果

試料番号	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn×100/Fe	Sr分率	log $\frac{Fe}{K}$	Y分率	判別群	エリア	試料番号
KM-1	240.9	71.5	1692.1	643.7	364.2	304.5	754.5	31.14	4.22	17.62	0.85	14.73	所山	置戸	KM-1
KM-2	249.3	74.1	1751.5	679.2	373.0	318.9	788.2	31.45	4.23	17.28	0.85	14.77	所山	置戸	KM-2
KM-3	283.0	86.8	1988.8	798.6	448.5	383.0	957.7	30.86	4.37	17.33	0.85	14.80	所山	置戸	KM-3
KM-4	314.9	94.6	2184.3	859.4	480.0	399.5	1005.3	31.32	4.33	17.49	0.84	14.56	所山	置戸	KM-4
KM-5	313.3	104.9	1996.8	983.3	115.3	466.3	639.6	44.60	5.26	5.23	0.80	21.15	白滝2	白滝	KM-5
KM-6	261.9	78.1	1835.5	712.3	402.4	343.0	851.1	30.85	4.26	17.43	0.85	14.86	所山	置戸	KM-6
KM-7	311.0	73.9	2834.2	841.7	318.5	474.6	1645.1	25.66	2.61	9.71	0.96	14.47	生田原	生田原	KM-7
KM-8	275.5	92.2	1806.0	922.8	102.5	438.9	577.7	45.19	5.10	5.02	0.82	21.49	白滝2	白滝	KM-8
KM-9	287.7	89.9	1626.3	872.5	98.2	417.0	528.4	45.54	5.53	5.12	0.75	21.76	白滝2?	白滝?	KM-9
KM-10	280.0	83.9	1963.9	729.8	412.1	339.1	851.0	31.29	4.27	17.67	0.85	14.54	所山	置戸	KM-10
KM-11	331.0	110.2	2155.0	1033.4	112.5	481.7	610.4	46.18	5.11	5.03	0.81	21.52	白滝2	白滝	KM-11
KM-12	286.2	85.3	2012.1	811.2	456.4	376.6	982.4	30.88	4.24	17.38	0.85	14.34	所山	置戸	KM-12
KM-13	273.6	82.3	1946.7	747.9	425.5	358.0	904.2	30.71	4.23	17.47	0.85	14.70	所山	置戸	KM-13
KM-14	285.7	92.2	1792.7	937.6	108.1	438.6	574.2	45.55	5.14	5.25	0.80	21.31	白滝2	白滝	KM-14
KM-15	268.1	80.6	1875.1	751.2	424.5	354.5	892.2	31.01	4.30	17.53	0.84	14.64	所山	置戸	KM-15
KM-16	179.9	55.6	1285.7	499.9	286.0	239.0	602.1	30.72	4.32	17.58	0.85	14.69	所山	置戸	KM-16
KM-17	242.5	78.3	1609.8	688.1	300.0	366.0	678.4	33.86	4.86	14.76	0.82	18.01	土上幌	土上幌	KM-17
KM-18	285.8	84.8	2032.6	721.4	403.9	338.4	844.8	31.25	4.17	17.50	0.85	14.66	所山	置戸	KM-18
KM-19	183.4	57.7	1242.4	538.3	77.7	249.7	372.9	43.46	4.64	6.28	0.83	20.16	?	不明	KM-19

表4 時期および器種別の産地

時期	層位	器種	白滝	置戸	生田原	土上幌	不明	計
縄文時代 後北C2-D期	VIIb	石槍・ナイフ		4				4
		スクレイパー	3	5		1		9
		楔形石器		1				1
		Rフレイク					1	1
		計	3	10	0	1	1	15
オホーツク文化 刻文期	VIIa1	石鏃		1				2
		計	1	0	1	0	0	2
	VIIa	石槍・ナイフ		1				1
		楔形石器	1					1
		計	1	1	0	0	0	2
		計	2	1	1	0	0	4
		計	5	11	1	1	1	19

4 おわりに

カモイベツ遺跡より出土した黒曜石石器19点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、1点は産地不明だったものの、5点が白滝、11点が置戸、1点が生田原、1点が土上幌エリア産と推定された。

(竹原弘展)

引用文献

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書 2—上和田城山遺跡編—」: 172-179. 大和市教育委員会.

2 斜里町カモイベツ遺跡ガラス玉・石製品分析

函館工業高等専門学校 竹内 孝・小林淳哉・中村和之
筑波大学 人文社会系 村串まどか

2-1 ガラス玉の分析

1 はじめに

斜里町カモイベツ遺跡より2011年に出土したガラス玉を分析走査電子顕微鏡により半定量分析（酸化物定量）を行ってその化学成分を調べた。

2 分析資料

ガラス玉資料は、GP-4（1号墓壙）の覆土下層より出土した。色はブルー色系（水色・透明）で、形状は管玉形もしくは白玉形である。図版1にガラス玉を示す。



図版1 ガラス玉資料

3 分析方法

分析は、日本電子製JSM-6360LA分析走査電子顕微鏡装置（JED-2300エネルギー分散型X線分析装置 付属）を使用した。本装置は、低真空で使用できるため試料に導電処理膜を施すことなく分析が可能である。測定条件は（20KV、1.1~1.3nA、100sec）で行った。元素分析は、酸化物による簡易定量分析（ZAF補正）である。

4 半定量分析

（質量 %）

No.	試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	P ₂ O ₅	Cl	K ₂ O	CaO	TiO ₂	FeO	CuO	BaO	PbO	Total	備考
1	536	0.70	0.32	7.27	81.79	0.03		0.22	4.76	0.50	0.26	1.15	1.87		1.13	100.00	GP-4(1号墓壙)
2	547	0.34	0.38	7.86	81.12	0.20		0.07	5.24	0.62	0.35	0.83	1.88		1.12	100.01	GP-4(1号墓壙)
3	548	0.76	0.37	7.17	81.28	0.20		0.18	4.15	0.91	0.25	0.83	2.02	0.42	1.45	99.99	GP-4(1号墓壙)
4	559	0.93	0.38	7.23	81.10	0.15	0.45	0.13	4.33	0.99	0.29	1.09	1.94	0.14	0.84	99.99	GP-4(1号墓壙)
5	番号なし	0.79	0.29	7.59	80.71	0.18	0.08	0.13	5.74	0.48	0.22	1.08	1.48	0.14	1.10	100.01	GP-4(1号墓壙)

5 成分比率

古代ガラスは化学組成によって数種類に分類できることが知られており、5点のガラス玉は上記の分析の結果から、カリウムを含むカリガラスと呼ばれるガラスタイプであることがわかった。さらにカリガラスは酸化アルミニウムAl₂O₃と酸化カルシウムCaOによって細分類できることが知られており、いずれも酸化アルミニウムAl₂O₃を多く含み、酸化カルシウムCaOが少ないタイプと考えられる。このタイプは銅を着色剤に用いることで水色を呈するガラスが多く、本資料もその特徴が一致した。

6 分析結果

ガラス玉試料の色・形状は、既分析の常呂川河口遺跡のビット709（2個）、ビット994（17個）、ビット998（1個）、ビット1074（1個）出土の管玉形状のガラス玉群に酷似しており、ガラス種別や分析されたCu元素、Fe元素およびそれらの含有比率も同程度である。

2-2 環状石製品の分析

1 分析資料

斜里町カモイベツ遺跡より2011年に出土した環状石製品（「廃棄場」PIT 1、F-124区・Ⅵ層）

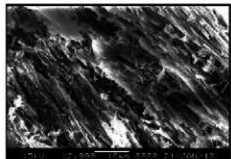
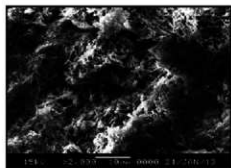
2 分析方法

資料の破面部（砕片）の高倍率2次電子像の観察と成分分析（20KV、1.22nA、100sec、×400）

3 資料写真と破面の観察像



資料写真



破面のSEM像

4 破面の成分分析

(質量%)

No	試料名	C	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₂	Cl	CaO	FeO	HgO	Total	備考
6	41-79	14.04	0.26	2.36	74.35	0.51	0.11	0.82	0.46	7.19	100.00	PIT 1 平玉 F-124

5 分析結果

試料破面のSEM画像（上）は細胞壁による導管の特徴である短縦方向に長い構造（繊維状の構造）を有し、（下）ではその繊維状の構造に対し、切削ややすりがけなどの機械的な力が加わったことが原因と推定される破壊が見える。元素組成から、木質の主要成分のセルロースに由来する炭素が検出され、他の元素も木質中に存在する成分である。ただしアルミニウムとケイ素がそれぞれ高濃度で検出されたのは、出土遺物であるため、例えば破断面の隙間などに土質が残存・付着しているためであろう。

なお、破面の成分分析においてHg元素が検出されているが、資料の埋納時に朱顔料（Hg組成系）が入り込んだ可能性が考えられる。

3 カモイベツ遺跡（2008年調査）出土の魚類・哺乳類遺体

国立歴史民俗博物館 上 奈徳美

1 はじめに

北海道斜里町カモイベツ遺跡は、海岸砂丘列に並行するかつての旧河川や後背湿地に面して、標高4.5～5.5mの砂丘上に立地している。平成20（2008）年度実施の発掘調査によって、縄文時代晩期、統縄文時代（後北C₂・D式期）、オホーツク文化期（刻文期）の竪穴住居跡や屋外炉の他、土坑墓などが検出され、17基の遺構から魚類、鳥類、哺乳類を中心とする多量の動物遺体が出土している（図1）。このうち、オホーツク文化刻文期出土分は点数で全体の98%を占める。

本節で報告する資料は、縄文晩期2基、統縄文（後北C₂・D式）期3基、オホーツク文化（刻文）期12基の遺構から出土した合計4,084点の魚類・哺乳類遺体である。鳥類遺体については第Ⅶ章4節で別途報告している。動物遺体は竪穴住居内の炉や床面、屋外炉、集石遺構、これらの遺構に隣接する焼土や炭化物集中に混在し（図1）、骨集中が認められた箇所に対して3mmメッシュのフルイを用い資料回収が図られた。これらは人工遺物などと同様に遺物番号が振られた「点上げ資料」のほか、小グリッド単位で取上げられた「一括資料」である。いずれも資料台帳のほか、図面作成や写真撮影などによって出土位置等が記録されている。各遺構の詳細な出土位置は、第Ⅳ章と概報（豊原・坂井2009）を参照されたい。

種同定にあたり、千葉県教育振興財団や国立歴史民俗博物館所蔵の現生標本、遺跡出土の比較標本を使用させて頂いた。また、同定作業と併せて加工痕や病変等の骨の損傷に関する観察を行っている。集計にあたっては、出土遺構ごとに最小個体数（MNI）を算出した。

2 魚類・哺乳類遺体の内容

2008年調査区では2綱4目4科1種の魚類（サケ科、ニシン、コイ科（ウグイ類）、カジカ科、軟骨魚綱（サメ類））のほかに、4目5科8種の哺乳類（ユキウサギ、タヌキ、キツネ、クロテン、カワウソ、ゴマフアザラシ、ワモンアザラシ、オットセイ、クジラ目）を確認した（表1）。総点数4,084点中、目科属種及び部位の同定に至ったもの（NISP）は1,627点、未同定資料は40点である。この他に、脊椎動物・哺乳類・陸獣（中・小型）・海獣へ分類した肢端部や胴部骨などが2,447点あり、このうち破損が著しく部位同定が不可能な破片資料は1,802点に上る。本地点の資料には、1点を除きすべての資料に被熱による収縮やひび割れ、破碎、色調変化などを確認した。打撃痕や切断痕を含む人為的損傷を示す資料も僅かであるが含まれているが、食肉類やげっ歯類などによる咬・噛痕を明瞭に示す資料は見つからなかった。

表2、3には遺構ごとの内訳を示し、表4には集計結果を出土点数・NISP・MNI別にまとめた。発掘調査中の所見によると、資料の大部分が魚類遺体で占めるとみられていたものの、図2・3に示すように、種構成比や出土点数自体は遺構ごとに大きく異なることがわかった。哺乳類が魚類を上回る遺構も4基みられ、いずれも出土点数の多い遺構である。魚類遺体の9割をサケ科が占め、哺乳類は図4のように、NISPとMNI比はどちらもアザラシ類を主体とする海獣が哺乳類遺体全体の4割程度に止まり、タヌキとキツネを中心とする陸獣が6割を占める。以下分類群ごとに述べる。

（1）魚類

統縄文期の墓址出土のサメ類の歯を除き、他の魚類は全てオホーツク文化刻文期の遺構出土である。サメ類以外の魚類遺体には全て被熱痕が認められ、激しく収縮し破損している。

サケ科は魚類遺体の9割を占め、ニシンは1割未満、これにウグイ類やカジカ類が続く。各遺構で

種構成比は大きく異なるものの、サケ類は出現頻度も高い(表2・4・図2)。道東のオホーツク文化期の遺跡で頻繁に出土するカレイ類やタラ類等が含まれていない。

サケ類 オホーツク文化刻文期の遺構12基でのみ出土し、その他の時期には見られなかった。計686点に上り、椎骨と歯が大半を占め、若干の頭部骨も含まれる。シロザケの現生標本とほぼ同程度の大きさの椎骨が主体的に見られ、イトウは含まれていない。これらの前上顎骨や歯骨、歯の形状には、産卵期の雄の特徴とされる吻部が鉤状に曲がった状態(加藤1985)のものが多く認められている。中小型の資料についても、屋内炉(H-6/19号址)で左側歯骨を確認した。

ニシン 本種もオホーツク文化刻文期の遺構でのみ出土している。住居址(H-3・7・8・12・14/4・5・6・8・9号址)や屋外炉(SF-2・F-1/10・22号址)から、計51点の椎骨を確認した。被熱による破損の程度、3mmメッシュの篩から落ち資料が未回収となった等の点を考慮すると、頭骨などの椎骨以外の骨が含まれていた可能性が残る。

ウグイ類・カジカ類 ウグイ類もまたオホーツク文化刻文期の住居址(H-3/4号址)と屋外炉(SF-2・F-1/10・22号址)でのみ出土し、計14点の椎骨を確認した。カジカ類も同様に住居址(H-3/4号址)で口蓋骨を1点確認した。

サメ類 続縄文期の遺構でのみ出土している。墓址(GP-3/44号址)底面より、歯が1点出土した。副葬品の一部と考えられており(豊原・坂井2009)、本資料には唯一、被熱の痕跡が認められていない。アオザメ属かシロワニ属、メジロザメのいずれかである可能性が高い。

(2) 哺乳類

オホーツク文化期の遺構分が主体となるものの、縄文晩期の住居址の焼土や炉、続縄文期の住居址の焼土及び墓址覆土からも僅かながら出土している。いずれの時期の資料にも被熱痕が認められ、取縮し破損しているものが多く、完存資料は殆ど無い。

クロテン、タヌキ、キツネ、ユキウサギ、カワウソ等の陸獣と、ワモンアザラシ、ゴマフアザラシ、オットセイ、クジラ目等の海獣で構成され、骨端の癒合が未了の若獣はごく僅かであった。各遺構で構成比は異なるが、遺跡全体では、タヌキとキツネを中心とした陸獣が哺乳類遺体の6割を、アザラシ科を主体とした海獣が4割を占める内容となっている(図4)。

部位別の出土傾向は動物ごとに異なる。テン等の小型陸獣は、頭部を欠き肢端部の中手・足骨より先端部の出土が少なく、傾向は各遺構で概ね一致する。ユキウサギ・タヌキ・キツネを中心とした中型陸獣については全身が見られるものの、頭部と肢端部の指・趾骨の出土が少なく、後肢より前肢が多い。アザラシ類は、他の区分の骨格に比べ頭部が多い。利用しない廃棄部位が動物によってある程度揃っていたことが推測される。

クロテン・小型陸獣 クロテンは、屋内炉(H-7・9・14/5・9・15a号址)や屋外炉(F-1/22号址)、集石遺構(PS-2/17号址)で、頭部を欠き四肢骨を中心に42点確認した。小型陸獣と分類した資料は胴部骨や肢端部が大半を占めている。クロテンの出土遺構とほぼ一致し出土状況も同様であるため、これらの骨はクロテンに由来する可能性が高い。

ユキウサギ・タヌキ・キツネ・カワウソ・中型陸獣 ユキウサギは、屋内炉(H-7・8・9・13/5・6・7・15a号址)や屋外炉(SF-2・F-1/10・22号址)で、四肢骨及び肢端部等28点が出土している。タヌキも、屋内炉(H-6・7・8・9・13/5・6・7・15a・19号址)や屋外炉(F-1/22号址)、集石遺構(PS-2/17号址)で、頭部、四肢、肢端部を中心に、陸獣の中では最多の39点を確認している。キツネは陸獣の中ではタヌキと並んで多く見られた。前述のタヌキと同一の遺構で頭部、四肢、肢端部を34点確認した。この他に、キツネまたはタヌキとした資料がある。

被熱により収縮と破損が激しく、判別が困難だったため種同定を保留した。出土遺構も同2種とほぼ一致し、頭部や四肢骨の破片資料を中心に71点を確認した。カワウソは屋内炉（H-9・13/7・15a号址）から、四肢骨等8点が出土している。

中型陸獣と分類した資料は、頭蓋骨や四肢骨片、胴部骨や肢端部が大半を占めており、上記4種に由来する可能性が高い。各種の骨の強度などもある程度影響すると思われるが、ユキウサギとカワウソについては、部位の偏りが考えられ、前2種についてはほぼ全身骨格が揃い、後2種については頭骨を欠いていた可能性がある。

この他、中型陸獣は、縄文晩期の住居址（H-15・17/37c・51号址）の炉や焼土から四肢骨骨幹部破片と指趾骨、統縄文期の墓址（GP-2/38号址）の覆土からも尾椎が各1点出土している。墓址については、隣接する集石遺構など他からの流れ込みである可能性が高いとの所見を得ている。いずれの時期の資料も強く焼け、収縮と破砕が認められる。

オットセイ・アシカ科 オットセイの雌サイズとみられる左側上顎骨と上腕骨が、屋内炉（H-8/6号址）から各1点出土した。歯槽部分や骨端部癒合の観察からどちらも成獣と判断した。また、アシカ科の指ないし趾骨5点も同住居址から出土しており、同一個体の可能性が高い。

ワモンアザラシ・ゴマファアザラシ・その他鯨脚類 ワモンアザラシは、屋内炉（H-6・7・8・9・13/5・6・7・9・15a号址）や屋外炉（SF-2・F-1/10・22号址）、集石（PS-2/17号址）で、哺乳類遺体の中では最も多く、66点を確認した。下顎骨の他に関節節部分と岩椽部、鼓室部周辺部分等の頭骨の破片が確認され、四肢も若干加わる。また、乳歯から永久歯への交換が明らかに中途と判別できた歯槽は無かったものの、標本と比べやや小さめの資料が確認されている。

ゴマファアザラシは屋内炉（H-7・8/5・6号址）で、下顎骨の他、関節節部分と岩椽部、鼓室部周辺部分等の頭骨21点を確認した。形態と大きさからはゼニガタアザラシも含まれる可能性があるものの、同種は根室水道から道東部の太平洋岸にかけて分布し（伊藤・宿野1986）、ゴマファアザラシの可能性が高い。

また、鯨脚目で止めた資料もあり、頭蓋骨破片及び胴部骨や肢端部が大半を占める。上記2種のアザラシの出土傾向と一致し、オホーツク文化期の屋内ないし屋外炉、集石から主に出土している。縄文晩期の住居址（H-17/51号址）焼土からも頭蓋骨破片2点がみつかった。オホーツク文化期出土分と同様に強く火を受けており、収縮と破砕が認められた。鯨脚目もまた、胴部骨や肢端部、四肢骨破片を中心とし、出土傾向はアザラシとはほぼ一致する。サイズや出土数比からは、ワモンアザラシに由来する資料が多く含まれると考えている。縄文晩期の住居址（H-15・17/37c・51号址）の炉や焼土からも、肋骨破片4点、椎骨破片5点、末節骨1点が出土している。末節骨以外は、他の資料と同様に強く焼けていた。

クジラ目・海獣 クジラ目の椎間板が屋外炉（F-1/22号址）から1点出土している。また、海獣骨とみられる、海綿質が観察された骨片を189点確認した。サイズと形状からクジラ目に含まれるものも数点は認められたが、多くは小破片であり不明である。これらの資料も被熱により収縮、破損している。

(3) 被熱・加工痕

副葬品の一部と考えられるサメの歯を除きほぼ全ての資料に火を受けた痕跡を確認した。かなり強く焼け、色調の変化は骨の表面に留まらず内部にまで観察でき、灰白色化した資料が殆どであった。また、収縮も著しく、現生標本の約2/3程度の大きさに焼け縮み、ひび割れや破砕が進み資料の大半が小破片になっている。

の中で、2点の資料に加工痕を認めた。1点はオホーツク文化期の住居址（H-7/5号址）焼土からの出土で、鯨脚目の四肢骨幹部破片に解体時に付けられたとみられる切痕を観察した。もう1点は同時期の集石遺構（PS-2/17号址）からの種及び部位不明の資料で、切断痕の他に、製作時の研磨痕が使用痕とみられる一定方向に往復させたような擦れ痕を表面に観察した。これらの資料についても前述と同様に強く焼けている。

3 カモイベツ遺跡の狩猟漁労活動とその特徴

(1) 漁労活動と遺跡の性格

本地点のサケ類遺体には、産卵期の雄の特徴である吻部が鉤状に曲がった状態が多く認められた。サケ類の出土数が目立つ遺構としては、住居址（H-3・8・14/4・6・9号址）が挙げられる（図2）。H-14（9号址）は、炉の下面から集石遺構が検出されており、遺構の使用後に同じ場所に上屋を建てたとする屋外炉から屋内炉への転用例（豊原・坂井2009）あるいは、小型住居の建替え（第四章）が指摘されている。この転用例ないし建替えとみられるものは、サケ類加工のための季節的な作業小屋と考えられ、遺跡内で数多く検出された炉や集石遺構についても、これらの加工に関連することが指摘されている。

また、シマトツカリ川のかつての流路が遺跡のすぐそばであった可能性についても触れられている（同掲）。椎骨や歯の大きさと形状、吻部の形態、上記の特殊な遺構の存在、遺跡の立地等を考慮すると、本遺跡のサケ類遺体の主体は晩夏～晩秋の産卵期に河川を遡上するカラフトマスやシロザケであった可能性が高い。この時季の遺跡が同2種の大量捕獲を前提とした加工場的な性格を持っていた可能性は動物遺体からも支持される。

(2) 狩猟漁労活動の季節性と動物儀礼の可能性

本地点のオホーツク文化期動物遺体について、季節性や漁・猟場に焦点を絞って狩猟漁労活動の復元を試み、動物儀礼の可能性について考えたい。

魚類遺体については、サケ類とニシン以外にまとまった資料が無い点、道東部のオホーツク文化期の遺跡で出土例の多いカレイ類やタラ類が殆ど見られなかった点が本地点の特徴として挙げられる。晩夏～晩秋の産卵期に河川を遡上するカラフトマスやシロザケのほかに、春先に産卵のため沿岸に寄るニシンの群れが主な漁の対象であった可能性が高い。これらの漁は秋から春先にかけて沿岸域から河口付近を中心に集約的に行われていたことが推測される。

陸獣はタヌキとキツネが主体を占め、ユキウサギ、カワウソ、テンが加わる。いずれも遺跡周辺の河畔林に見られる中小型の毛皮獣であり、冬毛への換毛完了後、夏毛に変わり始めるまでの期間が主な猟期であった可能性が考えられる。ところで、当地域の現在の動物相や分布密度と比較すると、ヒグマとエゾシカが全く見られないことは特筆に値する。道東部のオホーツク文化期の遺跡では、同2種は住居内の骨塚や住居址覆土の魚骨層等からの出土が主であるのに対し、本遺跡ではそれらが検出されず、炉に由来した焼土や炭化物集中からの出土のみであった。検出されないのは、本地点の調査範囲が細長く、住居全面の発掘例がないことに起因するのかも知れない。しかしながら、いずれの住居でも同様の出土状況である点や、内容についても動物種や部位、漁や猟の場所や時季などが限定的である点などを考慮すると、本遺跡では骨塚とは異なる形で、狩猟儀礼に関わる痕跡が炉の周辺に残されていた可能性が考えられる。火を受けた住居に由来する被熱・破碎資料を扱った論考でも、動物儀礼との関連を検討する上で資料の被熱痕の有無が注目されている（大井1986、内山2006）。本資料も生活残渣を示すだけでなく、狩猟儀礼にも関わるものとして扱うべきかも知れない。いずれにして

も、本遺跡で同2種が全く利用されなかったと結論付けるには、議論の余地が残される。

海獣はほぼアザラシ類で占められており、クジラ類やオットセイ等の出土がごく僅かであり、トドも見られなかった。アザラシ類はワモンアザラシが最多であり、ゴマフアザラシがこれに次ぐ。現在の知床周辺海域での冬季分布によると、食性の違いに基づきゴマフアザラシが流水縁に、クラカケアザラシはやや沖合に位置する(小林2008)。本調査区でクラカケアザラシが確認されなかったのは、この分布域の違いが反映し、より沿岸に近い種が猟の対象になっていた可能性が高い。ワモンアザラシも同じく流水縁に分布する種であるが、現在では確認数が少ない。犬飼(1942)の報告に基づき、1940年以前の千島から根室水道と道東の太平洋沿岸ではゴマフアザラシとワモンアザラシ2種の生息数が卓越していたことが指摘(伊藤・宿野1986)されていることから、恐らく当海域でも同2種の生息数は現在とは異なっていたものと思われる。毛皮や肉質が斜里アイヌに最も好まれ、アザラシ猟の主な対象種と指摘されていたのも同2種である(更科1955)。2018年調査区のアイス期の貝層(第三章)やフレイトイ(西本1989)やアオシマナイ(諸留2003)等の本遺跡および周辺のアイヌ期の遺跡でも多く認められ、同2種が継続して利用されていたことは出土例からも明らかである。

アザラシの猟法についても検討したい。以前より指摘されるように、出産・授乳期の個体も対象とする水上での鉛猟や、来遊直後や離乳後の繁殖期等の上陸個体を対象とする撲殺等(金子1974)が積極的に行われていた可能性がある。本地点ではアザラシ捕獲用と推測できる骨角器が見つかっていない。以下に、興味深い狩猟法を2例挙げる。今から50-60年ほど前の斜里町の浜では、小学生が晩秋に上陸するアザラシの後頭部を力いっぱい蹴って昏倒させた上で、脚部を担いで毛皮加工業者の所へ売りに行き、お小遣い稼ぎをしていたそうである。上陸時のアザラシ捕獲についての同様の話は礼文島でのトド猟調査²¹⁾の際にも聞くことができた。海際の岩場で寝ているアザラシにそっと近づき、頭頂部に拳を振り下ろして撲殺し、トド猟の不振の代替としてアザラシを捕獲していたそうである。アザラシ科の頭頂骨周辺はアシカ科と違って薄いため、上陸個体であれば、特に捕獲道具がなくとも子供の脚力や大人の腕力でもって比較的容易に昏倒ないし絶命させることが可能であったようである。

上記の様な陸上での捕獲方法の手軽さを考慮すると、沿岸に近いアザラシが主体を占める点、離岸性の強いオットセイの出土が殆ど無かった点から猟期は冬季を中心とし、沖合での猟についてはそれほど積極的に行われなかったことが推測される。

以上、出土内容からみると、漁や猟の場所や時季が非常に限定的であることが明らかとなった。漁・猟場については、河口域を中心としたサケ漁、河畔林や沿岸域での陸・海獣狩猟が主体的に行われたことが考えられ、沖合での漁や猟を示唆されるものは認められていない。鳥類遺体の分析結果からも、沿岸域や海岸域に生息する種が主体を成し、海上での狩猟が積極的には行われなかった可能性が指摘されている(第Ⅷ章4節)。また、狩猟漁労の時季についても概ね秋から春先に集中していたものと推測され、鳥類の結果とも一致する。また、動物遺体から見る限り、捕獲時季が偏っていた、あるいは遺跡の使用期間に限られたものであった可能性も示唆される。

4 まとめ

2008年調査区の動物遺体の出土状況および内容は、典型的なオホーツク文化期のものとは以下の3点で大きく異なっていた。1) オホーツク文化期の遺跡で通常見られる骨塚や魚骨層はなく、埴に由来する焼土や炭化物集中に混在した住居床面出土分が殆どであった。2) いずれの資料も被熱による灰白色化や収縮が甚だしく、細かく破砕している。3) 内容は、サケ類主体の魚骨の他、タスキヤキツネ主体の中型陸獣骨、アザラシ類主体の海獣骨から成り、同時期に報告例の多いカレイ類やタラ類、

ヒグマやエゾシカが本遺跡では出土していない。

これらの特徴は、他のオホーツク文化期とは顕著な相違が認められる一方で、道東のオホーツク文化との融合期（トビニタイ文化）や、道央の縄文時代後中期、縄文文化期の遺跡の出土傾向に近似する。また、この傾向は斜里町周辺のアイヌ文化期の出土例とも共通点が多く認められ、同地域の生業活動には強い継続性が見出される。

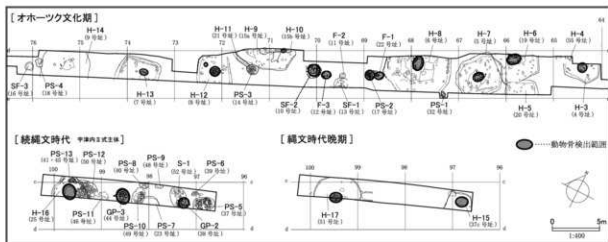
末筆となりましたが、豊原照司先生（文化財サポート（当時））並びに松田功氏（斜里町教育委員会（当時））、阿部明義氏（（公財）北海道埋蔵文化財センター）には分析と報告の機会や遺跡についてのご教示を賜りました。また、現生標本使用のご承諾や魚類骨同定のご教示、アザラシ捕獲方法のご教示、サケ科現生標本のご提供など、様々なご厚意に深く感謝申し上げます、お名前を記して謝意を表します。

西本豊弘先生（国立歴史民俗博物館（当時））、樋泉岳二先生（早稲田大学）、坂井通子氏（文化財サポート（当時））、涌坂周一氏（羅臼町教育委員会（当時））、白井久美子氏・山口典子氏・小高春雄氏・田島新氏（千葉県教育振興財団（当時））、高橋 健氏（横浜市歴史財団）、俵 静夫氏（礼文町在住）、本間さと子氏・平田陽子氏・石川哲丸氏・畠山一美氏・川村氏（斜里町在住）

【参考文献】

- 伊藤徹也・宿野部猛 1986 「2.ゼニガタアザラシの生息数と生息状況」「ゼニガタアザラシの生態と保護」東海大学出版会.18-58
- 内山幸子 2006 「オホーツク文化の動物儀礼」『北海道考古学』42: 75-92
- 大井晴男 1986 「環太平洋北部地域における狩猟獣の捕獲配分儀礼」北海道大学文学部
- 大場利夫・大井晴男 1976・1981 「香深井遺跡 上・下」東京大学出版会
- 金子浩昌 1974 「付編 1 オンネモト遺跡出土の動物遺存体および未製骨角器」『オンネモト遺跡』, 117-161
- 加藤晩生 1985 「前田耕地遺跡出土の魚類顎歯について」『東京の遺跡』7: 84-85
- 小林万里 2008 「3 世界遺産知床半島の海獣類 アザラシ類の実態」『日本の哺乳類学 3 - 水生哺乳類』, 75-98
- 更科源蔵 1955 「第二編 第四章 第二節 二、狩猟」『斜里町史』, 202-213
- 高橋 健 2003 「礼文島における現代のトド猟」『動物考古学』20: 65-83
- 豊原照司・坂井通子 2009 「カモイベツ遺跡 発掘調査概要報告書」斜里町教育委員会
- 西本豊弘 1989 「第2節 自然遺物」『フレイトイ貝塚—北海道オホーツク海沿岸におけるアイヌ貝塚の発掘調査報告書』, 43-47
- 諸留佐織 2003 「第4章 1 2）貝塚—小貝塚（貝ブロック）と獣骨集中」『小清水町アオシマナイ遺跡発掘調査報告書』, 63-95

¹ トド猟の聞き取り調査（高橋 2003）で、2008年度調査に参加した際に伺った



第1図 動物遺体の出土位置

表1 種名一覧（魚類・哺乳類）

魚綱	軟骨魚綱			サメ類	Chondrichthyes sp.
	硬骨魚綱	ニシン目	ニシン科	ニシン	<i>Clupea pallasii</i>
		サケ目	サケ科	サケ類	Salmonidae sp.
		コイ目	コイ科	ウグイ類	Tribolodon sp.
		カサゴ目	カシカ科	カシカ類	Cottidae sp.
計	4目	4科	1種		
哺乳綱	ウサギ目	ウサギ科	エゾユキウサギ		<i>Lepus timidus (ainu)</i>
	食肉目	イヌ科	エノクヌキ		<i>Nyctereutes procyonoides (albus)</i>
			キタキツネ		<i>Vulpes vulpes (shrencki)</i>
			エゾクロテン		<i>Martes sibirica (brachyura)</i>
			カワウソ		<i>Lutra lutra</i>
	鯨目	アザラシ科	ゴマフアザラシ		<i>Phoca largha</i>
			ワモンアザラシ		<i>Phoca hispida (ochtensis)</i>
		アシカ科	オットセイ		<i>Callorhinus ursinus</i>
			クジラ類		Cetacea sp.
計	4目	5科	8種		

表2 出土内容（魚類）

分類群	部位	左右	各遺構の出土数														
			オホーツク文化期														
			GP-3 (44号址)	H-3 (4号址)	H-6 (19号址)	H-7 (5号址)	H-8 (8号址)	H-10 (15号址)	H-12 (8号址)	H-13 (17号址)	H-14 (9号址)	PS-2 (17号址)	GP-2 (10号址)	F-1 (22号址)	F-3 (12号址)		
サケ科	前上顎骨	左		1					1			1					
		右															
	主上顎骨	左					1			1						1	
		右		1		1	1										
	歯骨	左				1	2	1									
		右		1				1									
	前/主上顎骨/歯骨	左		20		3	2					3	1	4	2		
		右		50		13	11		2		20	1	1	5			
	方骨	左						1									
		右															
主上顎骨	左							1									
	右							1									
第一椎骨	左																
	右		192	4	58	147	12	6	2	24	7	12	22	1			
鱈科(中小型)	歯骨	左			3												
	種骨	左		39		2	1		2		1		3	1			
ウグイ類	種骨	左		10													
	口蓋骨	左		1													
カシカ類	口蓋骨	左															
	遊離歯	左		1													
サメ類	遊離歯	左															
	種骨	左		8		1	8				3		2				
未同定魚類	歯骨	左															
	歯骨	右															
部位不明	左							1									
	右																
総計			1	328	5	81	179	13	13	2	54	30	28	35	1		

表 3-1 出土内容 (哺乳類)

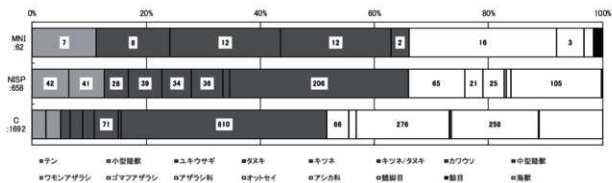
分類群	部位	左右	種名/形状	各遺構の出土点数														
				縄文地層		縄縄文層			オホーツク文土層									
				H-15 (37c号址)	H-17 (51号址)	H-18 (29号址)	GP-2 (38号址)	H-3 (14号址)	H-6 (19号址)	H-7 (5号址)	H-8 (6号址)	H-10 (18号址)	H-12 (8号址)	H-13 (7号址)	H-14 (9号址)	P5-2 (17号址)	GP-2 (10号址)	F-1 (22号址)
アワン	上層骨	左	鹿角筭							1		2						
		右	鹿角筭						2									
	尺骨	左	鹿角筭							4		1						1
		右	鹿角筭															1
	腕骨	左	鹿角筭															2
		右	鹿角筭								1		1					
	掌骨	左	鹿角筭														1	
		右	鹿角筭															1
	大腸骨	左	鹿角筭								2							
		右	鹿角筭															1
	趾骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭								1		1					
踵骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
イワシ	上顎骨	左	猪歯頭級片														1	
		右	猪歯頭級片														1	
	下顎骨	左	猪歯頭級片							10								
		右	猪歯頭級片							10								
	腕骨	左	猪歯頭級片															2
		右	猪歯頭級片															1
	趾骨	左	猪歯頭級片															
		右	猪歯頭級片															
	趾骨	左	猪歯頭級片															
		右	猪歯頭級片															
	趾骨	左	猪歯頭級片															
右		猪歯頭級片																
タヌキ	上顎骨	左	鹿角筭										1					
		右	鹿角筭															
	尺骨	左	鹿角筭								3							
		右	鹿角筭															
	腕骨	左	鹿角筭									1		2				
		右	鹿角筭															
	尺骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	腕骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	掌骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
踵骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
キツネ	上顎骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	尺骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	腕骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	掌骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	趾骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	踵骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
キツネ/タヌキ	上顎骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	尺骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	腕骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	掌骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	趾骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	踵骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																
ユキウサギ	上顎骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	尺骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	腕骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	掌骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	趾骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
	踵骨	左	鹿角筭															
		右	鹿角筭															
趾骨	左	鹿角筭																
	右	鹿角筭																

表 3-2 出土内容 (哺乳類)

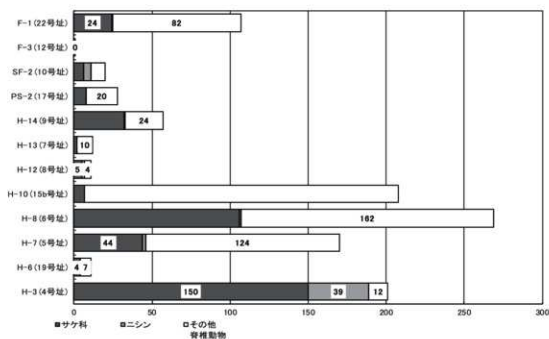
分類群	部位	左右	種名・形状	各遺種の出土点数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
				縄文前期			縄文中期			オホーツク文化期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
				H-15 (37c号址)	H-17 (51号址)	H-18 (29号址)	GP-2 (38号址)	H-3 (4号址)	H-6 (19号址)	H-7 (5号址)	H-8 (6号址)	H-10 (18号址)	H-12 (9号址)	H-13 (7号址)	H-14 (9号址)	P5-2 (17号址)	GP-2 (10号址)	F-1 (52号址)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
アライグマ	股骨	左	近位部																	踵骨	左	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																
	踵骨	左	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																												
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																								
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																				
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																												
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左		近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																								
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左		近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																				
	尾椎	右	近位部																	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左		近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯		右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																
	尾椎	右	近位部																	クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右		近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左		近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																												
クマ	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右		近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯		左	近位部																	歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左		近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																																				
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右		近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																	歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																																																								
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																												
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯		右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																			歯	右	近位部																		歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯		左	近位部																	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																			歯	左	近位部																	歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																				
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																								
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	尾椎	左	近位部																		尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	尾椎	左	近位部																	ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ウシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																	ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ヒツジ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																	イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
イノシシ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																	イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
イヌ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																	ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
ウサギ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																	ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
ムジナ	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	歯	右	近位部																		歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	歯	左	近位部																		歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	歯	右	近位部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

表4 選構別集計

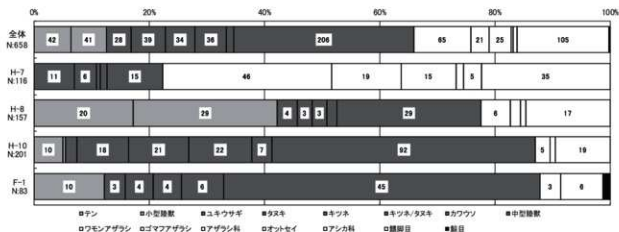
専攻科 選科 その他 その他	講義文庫				読書文庫				ネット文化				その他									
	17(10)		15(8)		14(7)		14(7)		14(7)		14(7)		14(7)		14(7)		14(7)					
	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI	部員数	MINI				
専攻科	13	7	11	5	1	2	2	1	30	32	1	10	8	1	18	6	1	18	6			
選科	10	10	1	2	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	8	7	1	10	10			
その他	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	7	1	10	10			
その他	21	18	3	1	1	1	1	1	5	5	1	5	5	1	1	1	3	3	1			
その他	22	22	1	8	1	2	2	1	3	3	1	3	3	1	4	4	4	4	3			
その他	223	92	1	1	10	3	1	10	3	24	8	1	1	1	1	1	1	10	6			
その他	5	5	2	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	3			
その他	12	2	2	2	13	3	6	2	6	2	6	2	6	2	10	10	10	10	10			
その他	26	19	29	15	29	15	10	10	27	6	27	6	27	6	27	6	27	6	27			
その他	45	1	12	1	12	1	10	10	2	2	10	10	10	10	10	10	10	10	10			
その他	110	31	19	98	30	30	45	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50			
その他	2	2	3	3	1	1	1	6	1	1	1	1	6	1	6	1	6	1	6			
その他	529	208	12	60	11	2	38	12	6	223	57	4	91	28	5	94	23	4	1	237	107	11



第2図 遺跡全体の種構成

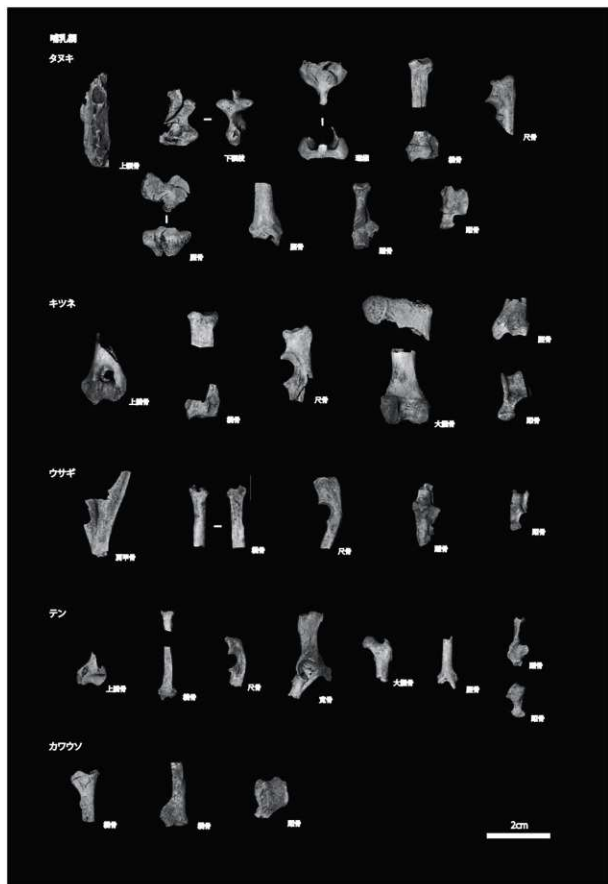


第3図 遺構別種構成 (魚類・鳥獣類)

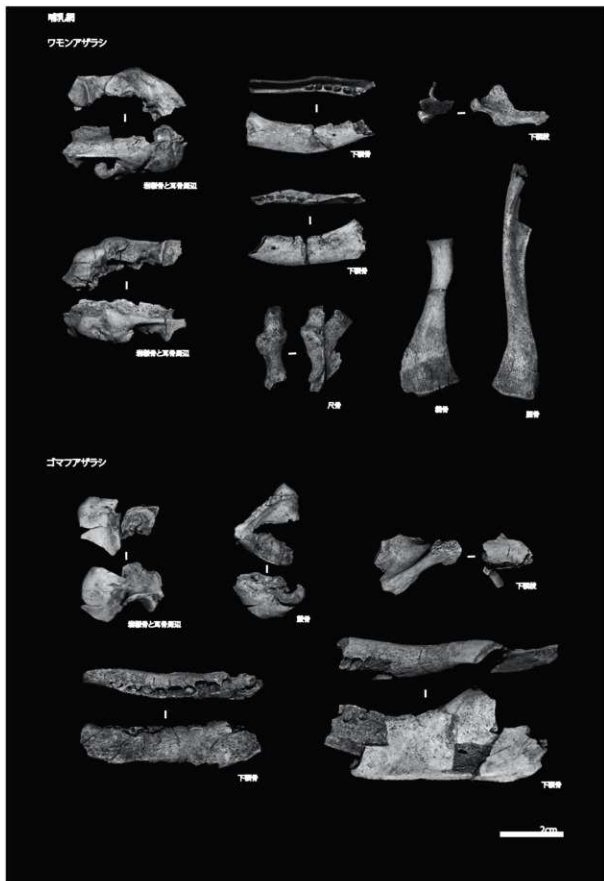


第4図 遺構別種構成 (哺乳類)

図版 2 哺乳類 (陸獣)



図版3 哺乳類（海獣）



4 カモイベツ遺跡（2008年調査）出土の鳥類遺体について

北海道大学総合博物館 江田 真毅

1 はじめに

カモイベツ遺跡は斜里郡斜里町字峰浜地先に所在する縄文時代晩期からオホーツク文化期までの複合遺跡である。動物遺体は住居址を中心に集石や石囲い炉、墓址などの16遺構で確認されている。時期はオホーツク文化期を中心とし、縄文晩期～統縄文期の遺構も若干含まれる。本稿では2008年調査地点から出土した鳥類遺体について報告する。

2 資料と方法

出土した鳥類遺体は計85点であった。資料は基本的に発掘調査時に採り上げられたものである。骨が集中的に検出された地点では土壌ごと採取され、3mm目の篩で選別されている。時代別にみると、縄文晩期の住居址H-15（37c号址）に伴う資料が1点、オホーツク文化期に比定される資料が7遺構から計84点である。資料は現生骨標本との肉眼比較で同定した。現生標本として筆者（EP）および川上和人氏（森林総合研究所）の所蔵標本（KP）を利用した。骨の部位の名称はBaumel et al (1993) および日本獣医解剖学会（1998）に、分類群名は基本的に日本鳥学会（2012）に従い、同書で言及されていないカモ科の亜科や族の分類についてはAmerican Ornithologist' Union (1983) に従った。椎骨、肋骨、趾骨以外の骨を同定対象とし、現生標本の不足などから鳥綱以下の同定ができなかった資料は種不明とした。また椎骨、肋骨、趾骨は種不明として数を記載した。一方、資料の破損が著しいために同定できなかった資料は同定不能とした。資料の残存状態は、資料にほとんど損傷がないものは完存、近位端や遠位端の関節が半分以上残っているものはそれぞれ近位端、遠位端とした。また、主要四肢骨では骨幹のほぼ中央にある栄養孔が残存している骨は骨体部として記載し、以上の条件に合わない資料は骨体部破片とした。各資料について骨の表面の粗さと骨端の癒合状態に基づく成長段階、同定時に目に付いた解体痕と加工痕を記載した。また、破損して髓腔を観察できた資料について骨髓骨の有無を記載した。

3 結果

出土した85点中40点で目以下を単位とした同定ができた。資料はすべて火を受けて白色を呈し、またほとんどが収縮し、断片化していた。確認された分類群はカモ亜科、アイサ族、アビ科、ミズナギドリ科、ウ科、カモメ科、ウミスズメ科、チドリ目、スズメ目で6目6科以上であった（表1）。趾骨を中心とした種不明は23点、同定不能は22点であった。火を受けた痕跡を除き、明確な解体痕や加工痕は認められなかった。H-9（15号址）から検出されたチドリ目の足根中足骨は骨表面の粗い若鳥の骨であった。骨髓骨を含む骨は認められなかった。以下、時代ごとおよび分類群ごとに記載する。

3.1 時代ごとの記載

縄文晩期 同期の住居址であるH-15（37c号址）からウ科の左手根中手骨が1点検出された。

オホーツク文化期 6遺構からカモ亜科、アイサ族、アビ科、ミズナギドリ科、ウ科、カモメ科、ウミスズメ科、チドリ目、スズメ目が検出された。各遺構の科を単位とした最少個体数は、H-8（6号址）のカモ亜科が3個体、H-14（9号址）のウミスズメ科が2個体であったほかはすべて1個体であった。

3. 2. 分類群ごとの記載

カモ亜科 (アイサ族を含む) 計14点が出土した。オナガガモ (EP-4) 程度からコガモ (EP-2) 程度の大きさの資料が認められ、とくにキンクロハジロ (EP-5) 程度の大きさの資料が多かった。複数の種に由来すると考えられる。H-8 (6号址) で検出された右上腕骨の近位端は、三頭筋気孔窩が髓腔に貫通せず、骨体が上腕骨頭の下方に潜り込むものの、knochenlippeは破損しており観察できなかった。江田 (2005) の基準に従って、アイサ族と同定した。H-8 (6号址) からは他にも三頭筋気孔窩が髓腔に貫通しない右上腕骨が出土しているが、上腕骨頭とknochenlippeの両方が破損していたことから、カモ亜科と同定した。出土した資料のうち13点は上肢の骨であり、とくに鳥口骨と肩甲骨からなる上肢帯の骨が10点と多かった。他の骨としては脛足根骨が1点出土したに過ぎない。

ウミスズメ科 計13点が出土した。ウミオウム (EP-24) より小さいものからハシブトウミガラス (EP-158) 程度の大きさの資料が認められ、とくにウミオウム (EP-24) より小さい資料が多かった。複数の種に由来すると考えられる。上腕骨 (7点) を中心とした上肢の骨が9点、大腿骨や脛足根骨など下肢の骨が4点検出されている。

その他の鳥類 科はヒメウ (EP-95) 程度からそれよりも小さい資料が4点、アビ科はアビ (EP-82) 程度からそれよりも小さい資料が2点検出されている。ミズナギドリ科の2資料はオオミズナギドリ (EP-92) とハイイロミズナギドリ (EP-132) の中間程度の大きさ、カモメ科の2資料はオオセグロカモメ (EP-11) とほぼ同大の資料であった。チドリ目とした1資料はヤマシギ (EP-243-09) とほぼ同じ大きさである。形態上の特徴から、ウミスズメ科とカモメ科以外の同目の科に由来すると考えられる。スズメ目とした資料はセグロセキレイ (EP-377-1) とほぼ同じ大きさであった。

4 考察

本遺跡ではカモ亜科、アイサ族、アビ科、ミズナギドリ科、ウ科、カモメ科、ウミスズメ科、チドリ目、スズメ目が確認された。このうちアビ科の各種は冬季にのみ同地域を訪れることから (日本鳥学会2012)、遺跡の形成時期に冬季が含まれることは確実である。他の分類群には周年同地域に生息する種が含まれ、周年採集の対象となった可能性がある。確認された鳥類遺体の主体はカモ亜科とウミスズメ科で、それぞれ約35%を占めた。ウミスズメ科の各種は沿岸域から海洋域に生息する。また、カモ亜科には上腕骨の形態から沿岸域から海岸域に主に生息するアイサ族が含まれており、主に淡水域から汽水域に生息するマガモ属やオシドリ属と同定できる資料は認められていない。他の分類群についてもスズメ目を除いてほとんどの種が沿岸域から海洋域に生息することから、本遺跡の鳥類遺体群は沿岸域や海洋域での遺跡形成者の活動を示すものといえる。一方で、本遺跡の鳥類遺体の特徴のひとつは、アホウドリ科の遺体が認められなかったことである。一般に、浜中2遺跡や目梨泊遺跡、弁天島遺跡など、道北から道東地域のオホーツク土器を伴う遺跡ではアホウドリ科の資料はもともとよく検出されるものの、重衛兵沢2遺跡やオタフク岩遺跡など、擦文土器を伴う遺跡では出土量が少ない (Eda & Higuchi 2004)。これを、海洋狩猟民であるオホーツク文化人と、河川漁労と農耕を主たる生業とする擦文文化人 (大井1970) の海上での狩猟の積極性の違いとして解釈するならば、本遺跡の形成者はオホーツク土器を利用していた人々でありながら、鳥類遺体から見出される傾向は擦文文化人に類似する、海上での狩猟を積極的にはおこなわなかった人々と考えられることができる。オ

ホーク文化よりむしろ樺文文化の遺体群に近い傾向は、沿岸性のアザラシや小動物に偏る哺乳類遺体、および過河性のサケ科を主体とする魚類遺体でも一貫して認められる。遺跡形成者の生業を考えるうえで非常に興味深いデータといえる。

末筆ながら資料を分析する機会をいただいた豊原照司氏（文化財サポート）および骨格標本を閲覧させていただいた川上和人氏（森林総合研究所）に厚く御礼申し上げる次第である。

引用文献

- American Ornithologist' Union 1983 *The A.O.U. Check List of North American Birds*. American Ornithologist' Union.
- Baumel, J.J., King, A.S., Breazile, J.E., Evans, H.E., & Berge, J.C.V., 1993 *Handbook of Avian Anatomy: Nomina Anatomica Avium*. Nuttall Ornithological Club.
- Eda, M. & Higuchi, H. 2004. Distribution of albatross remains in the Far East regions during the Holocene, based on zooarchaeological remains. *Zoological Science* 21: 771-783.
- 江田真毅 2005 「生活復原資料としての鳥類遺体の研究－カモ亜科遺体の同定とその考古学的意義－」海交史研究会 考古学論集刊行会編『海と考古学』、387-406、六一書房
- 日本獣医解剖学会 1998 『家畜解剖学用語』日本中央競馬会
- 日本鳥学会 2012 『日本鳥類目録 改訂第7版』日本鳥学会
- 大井晴男 1970 「樺文文化とオホーク文化の関係について」北方文化研究 4: 21-70.

表1 カモイベツ遺跡から出土した鳥類遺体の一覧

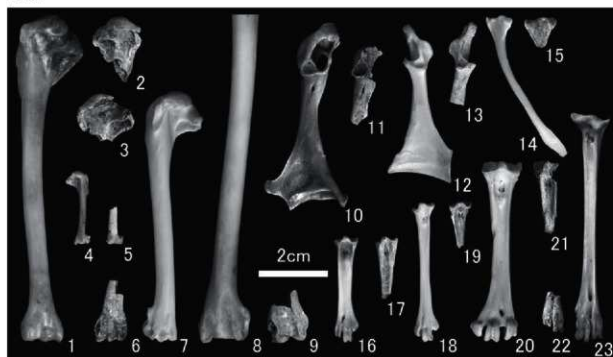
鳥類	カモ目	カモ科	
		アイサ族	Mergini sp.
		カモ亜科	Anatinae spp.
	アビ目	アビ科	Gaviidae sp.
	ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	Procellariidae sp.
	カツオドリ目	ウ科	Phalacrocoracidae sp.
	チドリ目	カモメ科	Laridae sp.
		ウミスズメ科	Alicidae spp.
		科以下不明	Charadriiformes sp.
	スズメ目	科以下不明	Passeriformes sp.
	6目	6科	

表2 カモイベツ遺跡の各遺構から出土した鳥類遺体

時期	遺構種	遺構	出土層位	分類群	部位	残存
縄文晩期 オホーツク 文化期	住居址	H-13(37号址)	床面	ウ科	手根中足骨	Ld1
	右囲い跡	SP-2(16号址)	埋土	ウ科	跗蹠骨	R1; L1
	黒石	FS-2(17号址)	黒石上面	種不明	跗骨	w1, d1
	住居址	H-3(4号址)	が	種不明	跗骨	1
				ミズナギドリ科	足根中足骨	Rp1
				カモ亜科	鳥口骨	Rp1
				ウミスズメ科	跗足根骨	Lp1, Ld1
				種不明	指骨	1
				種不明	跗骨	w1, p3, d3
				同定不能	跗骨	m1
					跗足根骨	m1
					足根中足骨	m1
					四肢骨	m1-3
	住居址	H-7(5号址)	焼土	種不明	跗骨	w3, d2
				同定不能	鳥口骨	p1
					足根中足骨	d1
			が	ウミスズメ科	尺骨	Rd1
				種不明	頭骨	1
			埋土	種不明	指骨	1
	住居址	H-8(6号址)	床面	アビ科	足根中足骨	Ld1
				ミズナギドリ科	肩甲骨	Rp1
				カモ亜科	尺骨	Rp1
				ウミスズメ科	上胸骨	Lm1
					肩甲骨	Lp1
				種不明	上胸骨	Lp1
				種不明	前上頸骨	1
				同定不能	跗骨	w1
					趾骨	1
					跗足根骨	Lm1
					四肢骨	m1
			焼土	ウ科	足根中足骨	Lp1
				カモ亜科	鳥口骨	Rp1
					上胸骨	Rp1
				カモメ科	肩甲骨	L1
				ウミスズメ科	上胸骨	Rp1; Lm1
					足根中足骨	Rp-m1
				スズメ目	上胸骨	Rd1
				種不明	前上頸骨	2
					頭骨	1
					跗骨	1
				同定不能	頭骨	m1
			1号が址	アビ科	上胸骨	Rd1
				アイサ族	上胸骨	Rp1
				カモ亜科	鳥口骨	Rp-m1, Rp1, Rm1; Lm-d1
					肩甲骨	Rp1; Lp-m1
				カモメ科	鳥口骨	Ld1
				ウミスズメ科	上胸骨	Ld1
				種不明	前上頸骨	2
					軸骨	1
					趾骨	1
					跗骨	d1
				同定不能	上胸骨	Rmf1
					四肢骨	m1-3
	住居址	H-14(9号址)	がの上面	カモ亜科	上胸骨	Rd1
					跗足根骨	Ld1
				ウミスズメ科	上胸骨	Ld2
	住居址	H-9(15a号址)	が	カモ亜科	大脚骨	Lp-m1
					鳥口骨	Lm-d1
				ウミスズメ科	上胸骨	Lm1
				チドリ目	足根中足骨	Rp-m1

w: 完存, p: 近位端(鳥口骨では胸端), d: 遠位端(鳥口骨では肘端), m: 骨体部, fr: 破片

図版 1



カモイベツ遺跡出土の鳥類遺体（ほぼ原寸）

1-9 上腕骨、10-13 鳥口骨、14, 15 肩甲骨、16-23 足根中足骨。

1 タロガモ (KP117-01)、2 アイサ族、3, 6, 17 ウミスズメ科、4 セグロセキレイ (KP377-1)、5 スズメ目、7, 16 ウトウ (EP-106)、8, 23 アビ (EP-82)、9, 22 アビ科、10 オオセグロカモメ (EP-11)、11 カモメ科、12 キンクロハジロ (EP-5)、13 カモ亜科、14 オオミズナギドリ (EP-92)、15 ミズナギドリ科、18 ヤマシギ (KP243-09)、19 チドリ目、20 ヒメウ (EP-95)、21 ウ科。

1, 4, 7, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 23 は現生標本、他は遺跡試料。1, 3, 6, 10, 11, 13, 20-23 は左、他は右の資料。

5 カモイベツ遺跡（2018年調査）の動物遺体

東海大学 内山 幸子

はじめに

カモイベツ遺跡では、2018年度の発掘調査により、貝類と魚類を中心とする動物遺体が出土した。本遺跡ではこれまでに複数回にわたって行われた発掘調査によって縄文時代からの利用が確認されているが、2018年度の調査で対象とされた東部地区は近世アイヌ文化期の遺構・包含層が集中する地区であり、動物遺体もこの時期に属する。

動物遺体は、II層中に確認された樽前a火山灰より上位に形成された、「SB」と称される貝・骨ブロックから多く出土している。SBの配置や詳細については、III章を参照されたい。東西に細長く延びる調査区のため、調査区外に広がるSBが多く、ここで示す動物遺体の出土量以上の遺体が実際には遺存していることが明らかである。平面的に見ると、SB-3のように幅10mを超えるような大規模なブロックも存在するが、遺体の密度はあまりなく、厚みもないため、平面形から想像されるよりも遺体の包含量は少ない。

動物遺体のうちサイズが大きく目につく資料は現地では取り上げられたが、それ以外は土ごと採集され、後日、篩（1mm目）による資料の抽出が行われた。

動物種は表1に示した通り、50種ほどが確認されている。科や属レベルまでしか判明しなかった種類も多く、カジカ科やカレイ科のように遺体の形態の多様性から複数種が含まれることが明らかな種類もあるため、実際に利用された動物の種類はより多かったことが分かる。

以下、動物遺体の出土内容を概観し、当時の動物利用について考察する。

1 貝類

貝類は、コンテナで6箱分出土した。表2から明らかなように、主体種はピノスガイとウバガイである。特にピノスガイが目立ち、最小個体数でいえば貝類全体の7割強（註1）を本種が占める。ピノスガイは浅海の細砂底に生息する貝で、殻長2cmほどの小型の個体も含まれるものの、多くは殻長8cm前後の成長した個体であった。現代ではそれほど味の評価が高くなく食べられることは稀だが、当時は主要な食用貝として利用されていたのであろう。

ウバガイは全体の1割ほどとピノスガイに比べると数は少ないが、SB-3のようにまとまって出土した地点もある。殻長8cm台のやや小ぶりの個体も含むが、10cmを超える成長した個体を中心である。ウバガイは潮間帯から水深20mほどの海底で細砂底に潜って生息し、潜る深さは夏に浅く冬に深いという（櫻井2003）。水温や当時の採取具などの用具を考えると、夏を中心に捕獲された可能性が高い。ウバガイも属するバカガイ科のうち、種名が特定できなかった資料が全体で30個体ほど見られた。いずれも小型で薄く、ウバガイの幼貝やその他のバカガイ科の可能性が考えられる。これらは大きさからして食用にされたとはみなし難く、他の貝類などの採取の際に無意識的に採取されるに至ったものとみられる。

サラガイやアラスジサラガイといったサラガイ科は、SB-3、4、6を中心に確認されている。この種類もピノスガイやウバガイと同じく、浅海の海底に分布し、食用にされたと考えられる。その他の二枚貝や巻貝はいずれも少なく、今回のデータから見る限り、積極的に捕獲されてはなかったようである。

2 フジツボ類・カニ類・ウニ類

フジツボ類、カニ類、ウニ類はいずれも出土量のごくわずかである（表2）。このため、利用されていなかったか、利用はごく低調であったと考えられる。

3 魚類

魚類も、貝類と同じくコンテナで6箱分ほどが出土した。動物遺体の分析に係る日数の関係から、魚類ではサメ類とサケ科を除いて椎骨の分析は行えなかった。カジカ科がもっとも多く、これに次いで、タラ科、アイナメ科（アイナメ科?を含む）、カレイ科、サケ科、フサカサゴ科、ヒラメの順に出土が確認されている（表3）。

出土量が魚類全体の3割を超えるカジカ科は、遺跡周辺での生息種数が多く、「オホーツク知床のさかな」（斜里町立博物館1996）には、斜里沿岸で確認されたカジカ科として21種も掲載されている（註2）。出土遺体を見ると、カジカ科のなかでも大型の種・個体が多いようであり、所有する現生標本と比較すると、トゲカジカやギスカジカに似た形態が多く確認できる。しかし、詳細な形態比較は未実施のため、今後、カジカ科の現生標本の収集をより充実させていきながら、種同定の取り組みを進めたい。種が不明なため、捕獲時期などを推測するのは難しいが、例えばトゲカジカは沖合の深み（水深50～300m）に生息し、冬の産卵期に岸寄りするため、現代でも釣期の中心は秋から冬であるという（若林編1997）。これ以外の季節には岸から狙いにくくなり、海に出て深場を狙う漁になる。カジカ科に限ったことではないが、種の特性に応じて、捕獲時期・場所・方法は異なってくるため、当時の漁撈活動についてより具体的に復元するためにも、種の同定に向けた取り組みは欠かせない。なお、カジカ科は、資源量の多さに加えて、美味な種も多いため、食用のために盛んに捕獲されたと考えられる。

カジカ科に次ぐタラ科の出土量は、魚類全体の2割を超える。耳石をはじめとする各骨の形態や大きさからしてマダラが中心とみられるが、スケトウダラの形態に似た資料もわずかに確認されている。マダラとみられる耳石は完形資料や欠損部が僅かな資料については計測し、その値から推定体高（桜井・福田1984、内山2001）を算出した。その結果を示したのが表4である。耳石長の平均値は21.1cm（左）、21.7cm（右）で、推定体長は76.2cm（左の耳石に基づく）、80.5cm（右の耳石に基づく）である。この値からも明らかのように、比較的大きな個体が中心で、成魚を主たる対象とした漁が行われていたことが分かる。タラ科は浅い沿岸域に移動してくる産卵期の冬がもっとも捕獲しやすい時期である。タラ科は体も大きく、味も美味で、出土量の多さからしても当時の重要な食料資源であったことは容易に想像される。

アイナメ科は、断定できずに「アイナメ科?」とした資料を含めれば、1割を超える出土量がある。斜里沿岸に生息するアイナメ科は6種（アイナメ類4種、ホッケ類2種）あり、断定できなかった資料の同定は今後の課題としたい。周辺での資源量の多さや美味な点から、一定程度の利用があったとみられる。

カレイ科も魚類全体の1割を超える出土量がある。斜里沿岸部で確認できるカレイ科はカジカ科と同様に種数も多く、「オホーツク知床のさかな」（斜里町立博物館1996）には、16種が掲載されている。限られた時間内での分析作業となったため、形態による区分はしていないが、例えば主上顎骨ではアサバガレイ、前上顎骨ではマガレイヤクロガレイと別にイシガレイ、歯骨ではソウハチ、角骨ではマガレイと別にヌマガレイ、主聴蓋骨ではクロガレイと別にスナガレイに似た形態が確認されており、形態的多様性から複数の種が含まれることは明らかである。カレイ科では季節を問わず捕れる種類が

あるため、漁期は長い時期にわたっていた可能性がある。

アイヌ文化期に「カムイ・チュブ（神魚）」と呼ばれたサケ科（更光源・更科光1976）は、魚類全体の個体数で見ると1割を割り込むが、大型の種・個体が多く、存在感がある。出土量は地点ごとに偏り、SB-4とSB-8～10で一定程度出土量がある一方で、SB-5～7ではかなり限定的である。SBの配置図を見ると、サケ科遺体が多いSBは調査区内の中央部西寄りにまとまっており、遺棄場所に傾向が見られた点は興味深い。また、椎骨に限ってのことであるが、他の魚種に比べて焼けた遺体が比較的多い点が目を見く。サケ科についても詳細な形態分析をしていないため種の特定には至っていないが、回遊魚であるサケ科の多くは夏から秋に捕獲しやすいため、この時期を中心に沿岸部もしくは河川で捕獲されたとみられる。

フサカザゴ科は、SB-4やSB-5を中心に確認されている。水深の浅いところに生息する種が多く、それほど出土量があるわけではないが利用されていたことが分かる。

ヒラメもあまり出土量は多くないが、70cmを優に超える大型の個体を中心であるため（註3）、出土割合以上に食生活に貢献した魚種であったとみなせる。

加えて本遺跡では、出土量はわずかながら、注目される魚種がいくつか確認されている。まずブリ属の資料である。SB-6で前上顎骨1点が出土したが、ブリの現生標本（体長48cm）に比べて先端部の幅は倍近くもあり、かなり大型の個体だったことが分かる。『オホーツク知床のさかな』（斜里町立博物館1996）には、斜里沿岸で確認できるブリ属としてヒラマサが掲載されている。また、オオカミウオの歯骨や歯がSB-4とSB-8で出土している。これらの資料は体長88cmの現生標本よりはるかに大きく、かなり大型の個体であったことが分かる。フグ科はSB-6で前上顎骨1点が見つかった。マフグの現生標本（体長42cm）と同大の成魚である。斜里でみられるフグ科はマフグとシマフグの2種とされ（斜里町立博物館1996）、このうちより北方種のマフグは、斜里周辺では夏から秋ごろに見られるが、幼魚がほとんどで成魚は稀だという。仮にマフグだとすれば、成魚の少なさから、常にはあまり捕獲されることがなかった可能性が考えられる。これら3種はそれぞれ1、2点ずつしか出土していないが、さまざまな魚種が幅広く利用されたことを示す資料として注目される。

4 鳥類

鳥類の出土量はそれほど多くないが（表5）、そのなかではウミスズメ科が主体を占める。ウミスズメ科についてはウミガラス大、ウトウ大、ウミスズメ大に区分し、表にはそれぞれ（大）、（中）、（小）を記した（註4）。ウミガラス大の資料が中心であるが、ウトウ大、ウミスズメ大の資料も少量見られ、少なくとも3種以上が利用されていたと推測される。斜里周辺で10種ほど見られるウミスズメ科はいずれも海上・海岸部に生息するが、種によって出現する季節は異なるため（斜里町立知床博物館1985）、種が同定できない限り捕獲時期の推定は難しい。

ウミスズメ科以外のアホウドリ科、ウ科、カモ科、カモメ科はいずれも数点ずつの出土である。ウ科はヒメウ大、カモ科はマガモ大の資料である。カモメ科では、ウミネコの現生標本よりやや大きい資料やオオセグロカモメ大の資料、オオセグロカモメよりかなり大きい資料があり、数点の出土ではあるものの、複数種が含まれるようである。

今回分析した鳥類遺体では、加工の痕跡が確認されなかった。骨角器（原材含む）のなかにも鳥類は挙がっておらず、鳥骨が素材として利用された証拠は今のところない。寒冷地であるため羽は利用されたかもしれないが、考古学的な証拠を得ることは難しい。

5 陸獣類

陸獣類はあまり多く出土していないが、そのなかで主体を占めるのはエゾシカである(表6)。出土部位を見ると、頭部と四肢骨が確認できる一方で体幹部の少なさが目を惹く。調査区外に遺存しているのかもしれないが、体躯の大きい動物であるため、猟場で解体され、一部のみが持ち帰られた可能性もある。現生標本と比較したところ、関節が癒合した四肢骨では小型の資料が主体で、雌が多いようである。しかし、関節が未癒合の個体では雌雄が判別できておらず、頭蓋骨(角を含む)では雄の資料も複数見つかったことから、雌雄ともに捕獲されていたことが分かる。

エゾシカでは解体されたり加工されたりした痕跡をとどめた資料が見られる。骨角器(原材含む)として報告された資料のなかにもエゾシカ由来のものがあり、角はもちろんのこと、脛骨や中手骨・中足骨が確認されている(Ⅲ章骨角器の項参照)。このようにエゾシカは食料としてだけでなく、素材としてもよく利用されていたことがうかがえる。

エゾシカに次いで多いのはイヌである。ただし、SB-3などの一部の地点に出土は偏り、ほとんどの地点からほぼ満遍なく見られたエゾシカとは出土の仕方が異なる。また、頭部の出土量に対して四肢骨や体幹骨が少なく、アンバランスである。これが出土量の少なさによるものか、当時の人の意図によるものかは判別し難い。年齢段階が判明している資料は全て成獣であり、なかには歯が咬耗した資料も含まれる。このため、生前に猟犬などとして使役された可能性はあるが、埋葬された様子は見られず、最終的には食用にするために解体されたと考えられる。

キタキツネは下顎骨と遊離歯が僅かに出土しているだけである。良質な毛皮を持つため、実際にはより多く利用されていたかもしれないが、出土資料からはそのような証拠はつかめなかった。

トガリネズミ目やネズミ科は、意図的に利用されたとはみし難く、自然に遺跡内へと入り込んだものとみられる。

なお、本表には含めていないが、ヒグマの出土が骨角器の項(Ⅲ章)で報告されている。SB-5からの出土資料で、左の尺骨に解体痕や切断痕が見られる。大きさからしてきわめて大型の雄の成獣個体である。これ以外にヒグマの遺体は1点も出土しておらず、当時の詳細な利用状況は不明である。

6 海獣類

海獣類の出土量は表6に示した通り、たいへん少ない。この表には骨角器(原材を含む)の素材にされた海獣類を含めていないが、それを含めても、出土量が少なかったという傾向に変わりはない。

注目すべき点は、SB-4(このうちのksb-19・20部分)でアザラシ科の頭蓋骨が最小で3個体分みられたことである。頭蓋骨といっても完形ではない上下顎骨も伴わず、特別に配置したような状況でもないが、他の地点でも四肢骨はまったく見られないため、アザラシ科の頭蓋骨を特別に扱った可能性は否定できない。

斜里はアザラシ科が流水とともに多く訪れる地域として知られ、アイヌ文化期の記録(更科1952)からもアザラシを重視していた様子が見て取れる。このことから、アザラシ科の出土量が限られる理由として、アザラシ科をあまり利用しなかったと直ちに判断することはできず、遺体の多くが調査区外に遺存している可能性や、アイヌ文化期の記録にもあるように、捕獲したアザラシ科を丁寧に扱ったが故に、他の動物と同じ地点ではあまり見つからなかった可能性なども考える必要がある。

まとめ

2018年度の発掘調査によって出土した動物遺体をもとに、動物種ごとの特徴をみてきた。出土内容

からは、貝類の採集と漁撈が生業の核であったことが明らかであり、身近に生息する動物を主体的に利用した暮らしぶりが見て取れる。生息数が多い種に依存した生活を営むことほどの遺跡でも見受けられることであり、本遺跡も同様である。ただし、エゾシカを除いた陸獣類や海獣類の利用は出土量を見る限り低調で、利用された種は、周辺に生息する動物種に比べてかなり少ない印象を受ける。これが実際の状況に近いのか、それとも、調査面積の狭さなどが影響しているのか、判断が難しい。しかし、アイヌ文化期では、前代のオホーツク文化期に比べて海獣狩猟の比重が下がり、エゾシカ類の比重が増すことは常々指摘されており、今回の出土内容を見る限り、本遺跡も海岸沿いに立地しているものの、そのような時代的特性が反映されているとみさせる。

本調査では、遺跡全体からすれば限られた調査面積ではあったものの一定程度の動物遺体が得られ、別項に掲載された斜里町教育委員会による発掘調査分（2008、2009、2011、2012年度）（上氏や江田氏による報告）も含めて、定量分析の結果が公表された点は重要である。もちろん、時間的制約や現生標本の欠如などにより種名の特定に至らなかった資料は多く、全容の解明には至っていないが、空白部分の多い斜里地方の動物利用史を解明していくための一歩になったといえるだろう。

最後に、今回貴重な資料を分析する機会を与えていただいた、(公財)北海道埋蔵文化財センターの阿部明義氏と、同氏のご指導の下、動物遺体の抽出作業に尽力いただいた同センターの作業員の方々に深く感謝申し上げます。

註

- 1) 表2に示したksbのまとめりに最小個体数を求め、その総計を全個体数としておおよその割合を導き出している。他の動物も同様である。
- 2) 斜里町立知床博物館のホームページによれば、知床半島沿岸のオホーツク海、および知床半島の河川や湖沼で確認された魚類として、カジカ科の掲載種数は27種（種名不明種1種を含む）にもなる。
- 3) もっとも多く出土した左の前上顎骨8点を体長66cmの現生標本と比較したところ、かなり大きい資料が2点、やや大きい資料が4点、やや小さい資料が2点となった。
- 4) ksb-22から出土したウミスズメ科の鳥口骨はウトウ大だったが、焼けていたため、取縮した可能性を考慮して(大?)とした。

引用文献

- 内山幸子 2001「推定体長に基づいたマダラ漁の復元的研究」『海と考古学』4号 33～44頁
- 櫻井 泉 2003「76.ウバガイ」『新北のさかなたち』北海道新聞社 304～309頁
- 桜井泰憲・福田慎作 1984「陸奥湾に來遊するマダラの年齢と成長」『青森県水産増殖センター研究報告』3 9～14頁
- 更科源蔵 1952「斜里アイヌのアザラシ狩」『北方研究』1 22～25頁
- 更科源蔵・更科 光 1976「サケ」『コタン生物記Ⅱ』法政大学出版局 431～450頁
- 斜里町立知床博物館 1985「知床の島」
- 斜里町立知床博物館 1996「オホーツク知床のさかな」
- 若林 隆編 1997『北海道海釣り101』つり人社

表1 出土動物一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca	脊椎動物門	Phylum Vertebrata
腹足綱	Class Gastropoda	軟骨魚綱	Class Chondrichthyes
ユキノカサガイ科	Patellidae gen.	ネズミザメ科	Lamnidae gen.
ウミナシ科	Pomatidae gen.	硬骨魚綱	Class Osteichthyes
タマガイ科	Naticidae gen.	ニシン	<i>Clupea pallasii</i>
エノバイ科	Buccinidae gen.	ウグイ属	Tribolodon sp.
マイマイ目	Stylomatophora fam.	サケ科	Salmonidae gen.
斧足綱	Class Pelecyopoda	ブリ属	Seriola sp.
エゾタマキガイ	<i>Glycymeris yessoensis</i>	オオカミウオ	<i>Anarhichas orientalis</i>
ホタテガイ	<i>Mizahopecten yessoensis</i>	タラ科	Gadidae gen.
エゾキンチャクガイ	<i>Chlamys swifti</i>	マダラ	<i>Gadus macrocephalus</i>
エゾインカゲガイ	<i>Clinocardium californiense</i>	スケトウダラ	<i>Theragra chalcogramma</i>
エゾワスレガイ	<i>Callista brevisiphonata</i>	フサカサゴ科	Scorpaenidae gen.
ビノスガイ	<i>Mercenaria stimpsoni</i>	アイナメ科	Hexagrammidae gen.
エゾスノメアサリ	<i>Callithaca adamsi</i>	カジカ科	Cottidae gen.
マルスダレガイ科	Veneridae gen.	ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i>
ハカガイ	<i>Mactra chinensis</i>	カレイ科	Pleuronectidae gen.
ウバガイ	<i>Spisula sachalinensis</i>	フグ科	Tetraodontidae gen.
エゾイソシジミガイ	<i>Nuttallia ezonis</i>	鳥綱	Class Aves
ハカガイ科	Mactridae gen.	アホウドリ科	Diomedidae gen.
サラガイ	<i>Megangulus venulosus</i>	ウ科	Phalacrocoracidae gen.
アラシサラガイ	<i>Megangulus zyoensis</i>	カモ科	Anatinae gen.
サラガイ属	Megangulus sp.	カモメ科	Laridae gen.
オオミノガイ	<i>Siliqua alta</i>	ウミスズメ科	Alcidae gen.
キヌマトイガイ科	Hiattellidae gen.	哺乳綱	Class Mammalia
節足動物門	Phylum Arthropoda	トガリネズミ目	Soricomorpha fam.
顎脚綱	Class Maxillopoda	ネズミ科	Muridae gen.
フシフボ類	Balanomorpha fam.	ヒクマ	Ursus arctos
軟甲綱	Class Malacostraca	キタキツネ	<i>Vulpes fulpes schrencki</i>
カニ類	Brachyura fam.	イヌ	<i>Canis familiaris</i>
棘皮動物門	Phylum Echinodermata	エゾシカ	<i>Cercus nippon yessoensis</i>
ウニ綱	Class Echinoidea	アザラシ科	Phocidae gen.
エゾバファンウニ	<i>Strongylocentrotus intermedius</i>	クジラ目	Cetacea fam.

表3-1 魚綱(1)

遺構 発掘区 層位	SB-1	SB-2	SB-3			SB-4			
			下位灰集中		II	断片範囲	灰		
試料番号	II	II	II	灰			II	断片範囲	灰
	kab-1	kab-2	kab-6・7・ 9・12・13	kab-15・16	kab-17~19	kab-20	kab-21	kab-22	kab-23
ネズミザメ科			椎骨52				椎骨61		
ニンシ							耳骨 L2 R1 主上頸骨 L1	耳骨 L1	
ウダイ属				主總高骨 R1				角骨 L1	
サケ科			歯骨 L1 腹椎骨 9(4) 尾椎骨 3(1) 椎骨 1	主上頸骨 R1 前上頸骨 R1 歯骨 L2 角骨 R2 方骨 L1 R2 主總高骨 L1 R1 腹椎骨 1a 2 腹椎骨 116(19) 尾椎骨 162(15) 椎骨 5			耳骨 L1 歯骨 L1 R3 角骨 L2 R3 方骨 L5 R1 腹椎骨 1a 1 腹椎骨 165(40) 尾椎骨 160(31) 椎骨 9(5)	歯骨 L1 R1 角骨 L3 R2 方骨 L2 R2 主總高骨 L1 腹椎骨 1a 1 腹椎骨 58(2) 尾椎骨 80(4) 椎骨 2	角骨 L1 R1 方骨 L2 R1 腹椎骨 24(7) 尾椎骨 34(4)
ブリ属									
オオカミウオ							歯骨 LR7 歯 R 5(つは歯骨に伴う)		
タウ科		耳石 R1	耳石 L1 R1	耳石 L3 R3 主上頸骨 L1 前上頸骨 L3 R1 歯骨 L3 R1 方骨 R1	耳石 L3 R3 主上頸骨 L1 前上頸骨 L3 R1 歯骨 L3 R1 角骨 L2 R1		耳石 L4 R3 主上頸骨 R2 前上頸骨 L1 R2 歯骨 L4 R4 角骨 L5 R4 方骨 L4 R2 主總高骨 L1 R1	耳石 L2 R1 主上頸骨 L3 前上頸骨 L4 R3 歯骨 L2 R3 方骨 L2 R1	耳骨 R1
タウ科?							主總高骨 R1		
フサカサゴ科							耳石 L2 主上頸骨 L1 R1 前上頸骨 R1 歯骨 L1 R1	前總高骨 L1 主總高骨 L1	方骨 L1 前總高骨 L2
アイナメ科					主上頸骨 R3(1) 角骨 L2 R1 方骨 R3 主總高骨 L1		角骨 L1 R2 方骨 L3 R3	角骨 L1 R1 方骨 R2	角骨 L1 R1 方骨 R1
アイナメ科?			主上頸骨 L1	主上頸骨 R2 前上頸骨 R3 主總高骨 R1	主上頸骨 L5(1) R5 前上頸骨 L7 R5(1) 歯骨 L4 R4 主總高骨 L5 R2		主上頸骨 R1 歯骨 R1 主總高骨 L1 R1	主上頸骨 L1 R1 方骨 R1	主上頸骨 L1 R1 歯骨 R1
カジカ科		前總高骨 L1 歯骨 R1	歯骨 L1 R1 方骨 R1	耳石 R1 主上頸骨 L1 主總高骨 L3 R4 前上頸骨 L1 R5 歯骨 L10 R11 角骨 L3 方骨 L7 R4 前總高骨 L5 R4 主總高骨 L2 R4 方骨 L1	耳石 L3 R2 主上頸骨 L7 R9 前上頸骨 L16(1) R13(1) 歯骨 L23(2) R22(2) 角骨 L5 R3 方骨 L8(1) R3 前總高骨 L17 R17 主總高骨 L5 R6		耳石 L2 主上頸骨 L4 R3 前上頸骨 L4 R3 歯骨 L12 R9(1) 角骨 L4 R2 方骨 L5 R4 前總高骨 L4 R2 主總高骨 L2 R2	前上頸骨 L1 歯骨 L1 R1 角骨 L1 方骨 R1 前總高骨 L1	
カジカ科?							主上頸骨 R2 前上頸骨 L2 R1 歯骨 L2 R3 角骨 L2	主上頸骨 L2 前上頸骨 L1 R1 歯骨 L1 R2 角骨 L1 R2 方骨 L2 R2 主總高骨 L1	
ヒラメ							主上頸骨 R2 前上頸骨 L2 R1 歯骨 L2 R3 角骨 L2	主上頸骨 L2 前上頸骨 L1 R1 歯骨 L1 R2 角骨 L1 R2 方骨 L2 R2 主總高骨 L1	
ヒラメ?									
カレイ科			第一血管間棘 1		主上頸骨 L2 R2 前上頸骨 R3 歯骨 R1 角骨 L1 主總高骨 L1	耳石 L3 R1 主上頸骨 R4 前上頸骨 L2 歯骨 L2 R2 方骨 L1 R2 前總高骨 L1 主總高骨 L1 R3	耳石 L1 R1 主上頸骨 L2 R2 前上頸骨 L1 R4 歯骨 L1 R1	主上頸骨 L1 角骨 R1 方骨 L1	
インシレイ			石状骨質板 1		石状骨質板 4	石状骨質板 3	石状骨質板 1	石状骨質板 1	石状骨質板 1
カレイ科?							主總高骨 L1		
ヒラメ/カレイ科	+	+	方骨 L1	前上頸骨 L1	第一血管間棘 7(1) 方骨 L1	第一血管間棘 8	第一血管間棘 3	第一血管間棘 3	
フグ科									
種不明魚類a									
種不明魚類b					角骨 L1		角骨 R1	角骨 R1	
種不明魚類c									
種不明魚類d					耳石 R1				

凡例 L:左側 R:右側
●:被熱
()内:内数

表3-2 魚網(2)

遺構 発掘区 層位	SB-5						SB-6	
	目集中①	目集中②	目集中③	目集中④	目集中⑤	目集中⑥	Ⅱ	Ⅲ
試料番号	ksb-24	ksb-25	ksb-26	ksb-27	ksb-28	ksb-29	ksb-30	ksb-31
ネズミザシ科 ニンシ						耳骨 L1 R1	性骨 #3 耳骨 L1	
ウグイ属	角骨 R2			咽頭骨 #1 角骨 R1		咽頭骨 L1		
サケ科	腹椎骨 1 尾椎骨 1*	腹椎骨 1	腹椎骨 1 椎骨 1		腹椎骨 2 尾椎骨 1		腹椎骨 2	腹椎骨 2
ブリ属 オオカミウオ							前上顎骨 R1	
タタ科	耳石 R3 主上顎骨 R #2 前上顎骨 L5 R1 歯骨 L4 R4 方骨 R1 主総歯骨 L1		耳石 R1 主上顎骨 L4 R5 前上顎骨 L6 (1) R6 歯骨 L8 R8 角骨 L1 R1	耳石 L5 R2 主上顎骨 L7 R7 前上顎骨 L12 R7 歯骨 L3 R7 方骨 R1 主総歯骨 L1 R1	耳石 L3 R4 主上顎骨 L6 R4 前上顎骨 L11 R13 歯骨 L4 R6 歯骨 L4 R6 角骨 L4 R2 方骨 L3 R1 主総歯骨 L1	耳石 L10 R3 主上顎骨 L2 R3 前上顎骨 L1 R1 歯骨 R1 角骨 L1 方骨 R1 主総歯骨 L1	耳石 L7 R7 主上顎骨 R1 前上顎骨 R2 歯骨 L1 R1 角骨 L1 方骨 L1 主総歯骨 R2	
タタ科? フサカサゴ科		前上顎骨 R1 主上顎骨 L1 前上顎骨 L1 R1 前総歯骨 L1 主総歯骨 L2	前上顎骨 R1	前上顎骨 R1 前総歯骨 R1	主上顎骨 L1 前上顎骨 L1 R1 歯骨 L2 R3 角骨 L2 R1 方骨 R1 前総歯骨 L1 R1 主総歯骨 L1 R1			
アイナメ科	角骨 L1	方骨 L1		方骨 L1 R3		主上顎骨 L1 R2 角骨 R1 方骨 R1	角骨 L1 R1 方骨 L1	主上顎骨 R1 前上顎骨 L1 角骨 L3 R1 方骨 L2 R6
アイナメ科?	前上顎骨 L2 歯骨 R1		主上顎骨 L1	主上顎骨 L4 R4 前上顎骨 L4 R2 歯骨 R3	主上顎骨 L2 R4 前上顎骨 L3 R1 歯骨 L1	前上顎骨 L1 R2 歯骨 L2 R1 主総歯骨 L1	主上顎骨 L1 R1 前上顎骨 L4 R2 歯骨 L5 R1	主上顎骨 L2 (1) R5 前上顎骨 L6 R3 歯骨 R1 主総歯骨 L2 R5
カジ科	耳石 R1 主上顎骨 R1 前上顎骨 L1 歯骨 L6 R2 角骨 L1 R1 方骨 L1	前上顎骨 L1 歯骨 L1 R1 方骨 L1 R1	歯骨 R1 方骨 R1	耳石 L1 主上顎骨 L2 R1 前上顎骨 L3 (1) R4 歯骨 L4 R9 角骨 L1 方骨 L1 R1 主総歯骨 L1	主上顎骨 L3 R2 前上顎骨 L1 R7 歯骨 L4 R3 (1) R7 角骨 L1 方骨 L2 R2 主総歯骨 L1 R1	主上顎骨 L8 R4 前上顎骨 L5 R9 歯骨 L10 R9 角骨 L1 R2 方骨 L9 R8 前総歯骨 L1 主総歯骨 L1 R1	主上顎骨 L1 R1 前上顎骨 L3 R4 歯骨 L3 R3 角骨 L2 方骨 R2 前総歯骨 L1 R1	耳石 L4 R1 前上顎骨 L2 歯骨 L2 R2 角骨 L1 R1 主総歯骨 L1 R1
カジ科? ヒラメ		主上顎骨 L1					角骨 L1 前上顎骨 L1 R1 前上顎骨 L1 歯骨 L1 R1 角骨 L1 方骨 L1 R1	歯骨 R1 角骨 R1
ヒラメ?								耳石 L1
カレイ科	歯骨 L1 角骨 R1 方骨 L1	主上顎骨 L1		主上顎骨 L1 前上顎骨 L2 R1*	主上顎骨 L1 R1 前上顎骨 L1 歯骨 L1 R4 角骨 R3 方骨 L1 R2 主総歯骨 R2	主上顎骨 L4 R3 前上顎骨 L2 R4 歯骨 L1 R4 角骨 R3 方骨 L1 R2 前総歯骨 R1 主総歯骨 L2	耳石 L1 主上顎骨 L3 R5 前上顎骨 L3 R3 角骨 L1 方骨 L1 主総歯骨 R1	主上顎骨 L2 R1 歯骨 R1 角骨 L1 方骨 L1 主総歯骨 R1
インガレイ?							石状骨質板 1 主総歯骨 R1	石状骨質板 1
カレイ科? ヒラメ/カレイ科	主総歯骨 L1 第一血管間線 1	第一血管間線 1		第一血管間線 1	第一血管間線 3	第一血管間線 7	第一血管間線 6	第一血管間線 6 (1)
フダ科							前上顎骨 R1	
種不明魚類a							歯骨 L1 R1	
種不明魚類b	角骨 L1						角骨 R1	
種不明魚類			角骨 #1		耳石 1R?1			

凡例 L:左側 R:右側

*:被熱

()内:内数

表 3-3 魚綱 (3)

遺構 発掘区	SB-7	SB-8	SB-9		SB-10		J16	K23
層位	II		II		II		II	II
試料番号	kab-32	kab-33	kab-34	kab-35	kab-36	kab-37・38	kab-42	kab-62
メスミザメ科			歯骨 L1					椎骨 1
ニシン								
ウグイ属								
サケ科	腹椎骨 3	角骨 R1 方骨 L1 腹椎骨 1a 3 腹椎骨 44 (I) 尾椎骨 56 (I) 椎骨 3 (I)	歯骨 R1 腹椎骨 23 (I5) 尾椎骨 30 (8)	尾椎骨 1 椎骨 6 2	腹椎骨 1a 1' 腹椎骨 6 (2) 尾椎骨 3 (2)	角骨 R2 方骨 L1 R1 腹椎骨 4 (2) 尾椎骨 6 椎骨 1		
ブリ属								
オオカミウオ		歯 3						
タツ科		耳石 L3 R2 主上顎骨 L1 歯骨 L2 R1 角骨 R1	前上顎骨 R1		耳石 L1 R1 前上顎骨 L3 R1	耳石 R2 主上顎骨 L1 前上顎骨 L1 歯骨 L1 R1		歯骨 L1 角骨 L1
タツ科?								
フサカサゴ科		前鰓蓋骨 R1			主上顎骨 L1 R2 前上顎骨 L1 R1 歯骨 L2 R2 角骨 L1 R2 方骨 L1 R2 前鰓蓋骨 R1 主鰓蓋骨 R2			
アイナメ科			主上顎骨 L1 角骨 R1 方骨 L1 R3					
アイナメ科?		主上顎骨 L1 前上顎骨 R1' 歯骨 L1	主上顎骨 R1 前上顎骨 L1 R2 歯骨 L2			歯骨 R1	前上顎骨 R1	
カジカ科	歯骨 R1' 主鰓蓋骨 R1	主上顎骨 L1 R1 前上顎骨 L1 歯骨 R5 (I) 方骨 L1 R2	前上顎骨 L9 R7 歯骨 L9 (I) R3 角骨 L2 R1 方骨 L1 R4 前鰓蓋骨 L3 R4 主鰓蓋骨 L1		前上顎骨 R3	主上顎骨 L1 歯骨 R1 前鰓蓋骨 L1		
カジカ科?								
ヒラメ		主上顎骨 R1 方骨 L2			主上顎骨 L2 前上顎骨 L1 方骨 R2 前鰓蓋骨 R1		角骨 R1	
ヒラメ?								
カレイ科	前鰓蓋骨 6 1		歯骨 L 6 1 角骨 L1 R2 方骨 R3 前鰓蓋骨 R1 主鰓蓋骨 L2		歯骨 R1 方骨 L1	耳石 L1 前鰓蓋骨 R1 歯骨 R1 角骨 L1 主鰓蓋骨 L1		
インシレイ?	右状骨質板 5	右状骨質板 1	右状骨質板 1		右状骨質板 1			
カレイ科?								
ヒラメ/カレイ科	第一血管間棘 2 (I)	第一血管間棘 1			第一血管間棘 1			
ワケ科								
種不明魚類a								
種不明魚類b								
種不明魚類			主鰓蓋骨 R1		耳石 R? 1			

凡例 L: 左側 R: 右側

*: 複製

()内: 内数

表4 マダラとみられるタラ科の耳石と推定体長

遺構	試料番号	L/R	耳石長(mm)	推定体長(cm) ^a
SB-3	ksb-16	L	24.3	98.9
SB-4	ksb-17	L	19.4	64.2
	ksb-19	L	21.7	80.5
	ksb-21	L	19.3+	63.5+
	ksb-21	L	21.5	79.1
SB-5	ksb-28	L	16.8	45.7
	ksb-28	L	18.9	60.6
	ksb-28	L	19.7	66.3
	ksb-28	L	22.3	84.8
	ksb-29	L	18.2+	55.7+
	ksb-29	L	18.9	60.6
SB-6	ksb-30	L	18.2+	55.7+
	ksb-30	L	19.5+	64.9+
	ksb-30	L	19.9+	67.7+
	ksb-30	L	20.1+	69.1+
	ksb-30	L	20.2+	69.9+
	ksb-30	L	21.2	77.0
	ksb-30	L	23.0+	89.7+
	ksb-31	L	20.9+	74.8+
	ksb-31	L	21.5	79.1
	ksb-31	L	21.5	79.1
	ksb-31	L	22.6	86.9
SB-7	ksb-33	L	19.5	64.9
	ksb-33	L	19.8+	67.0+
	ksb-33	L	22.7	87.6
平均			21.1	76.2

* マダラと仮定した場合の推定体長

+ 欠損部が傾斜にある資料

遺構	試料番号	L/R	耳石長(mm)	推定体長(cm) ^a
SB-3	ksb-12	R	20.3	70.6
	ksb-16	R	20.1	69.1
SB-4	ksb-17	R	23.1	90.4
	ksb-19	R	21.7+	80.5+
	ksb-19	R	23.2+	91.1+
	ksb-21	R	20.7	73.4
	ksb-21	R	20.7+	73.4+
	ksb-21	R	25.1	104.6
SB-5	ksb-22	R	21.1	76.2
	ksb-24	R	21.5	79.1
	ksb-24	R	23.0	89.7
	ksb-27	R	21.6+	79.8+
	ksb-29	R	19.7+	66.3+
	ksb-29	R	19.8	67.0
SB-6	ksb-29	R	21.8+	81.2+
	ksb-29	R	22.0	82.6
	ksb-30	R	21.6	79.8
	ksb-31	R	19.1	62.1
SB-8	ksb-31	R	23.0	89.7
	ksb-31	R	25.9	110.3
	ksb-33	R	20.9	74.8
SB-10	ksb-33	R	22.4	85.5
	ksb-37	R	19.3	63.5
平均	ksb-38	R	21.5	79.1
			21.7	80.5

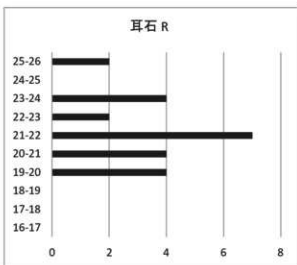
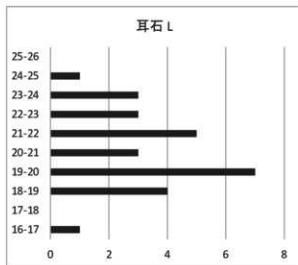


表5 鳥綱

遺構	SB-3		SB-4			
	発掘区	下位灰集中				
層位	Ⅱ	灰	Ⅱ	獣骨範囲	灰	魚骨・貝範囲I
試料番号	ksb-3・7・12・14	ksb-15・16	ksb-17・19	ksb-20	ksb-21	ksb-22
アノトリ科			上腕骨 R p f 1 脛骨 R p 1		鳥口骨 L p-m 1 鳥口骨 L m 1 肩甲骨 R 1	
ウ科					鳥口骨 R p 1*	
カモ科		尺骨 L p 1	上腕骨 L p-m 1			
カモ科	尺骨 R m-d 1 中手骨 p-m 1	指骨 I L 1				
ウミスズメ科		鳥口骨 R p (中) 1 肩甲骨 R (大) 1 脛骨 L d (中) 1	肩甲骨 L (中) 1 R (大) 1 上腕骨 R d (大) 1 橈骨 R (大) 1 橈骨 R p-m (大) 1 ①? 橈骨 R d (大) 1 ①? 尺骨 R p (大) 1 ②? 尺骨 R d (大) 1 ②? 中手骨 L d (大) 1 中手骨 R (大) 1 中手骨 R p-m (大) 1 中手骨 R d (中) 1 指骨 I R (大) 1		鳥口骨 L (大) 1 肩甲骨 L (大) 1 上腕骨 L p (大) 1 上腕骨 R p 1 脛骨 L d (小) 1 中足骨 R (中) 1	鳥口骨 R p (大) 1* 上腕骨 R m-d (大) 1 尺骨 R (大) 1 脛骨 R m-d (小) 1
ウミスズメ科?						
種不明鳥類	尺骨 m f 1 四肢骨 m f 1 f 2	上顎骨 f 1 尺骨 L m 1 脛骨 d f 1 胸峰 f 1 椎骨 2 四肢骨 m 1	鳥口骨 R p-m 1 脛骨 L m 1 f 65 (25)	上腕骨? m 1	方形骨 R 2 鳥口骨 R p 1* 橈骨 R m-d 1 指骨 5 f 49 (3?)	中足骨 R m 1 f 14

遺構	SB-5				SB-8	SB-10	J16	K23	
	貝集中①	貝集中②	魚骨集中②	魚骨集中③					
層位	Ⅱ				灰	Ⅱ	灰2	Ⅱ	Ⅱ
試料番号	ksb-25	ksb-26	ksb-28	ksb-29	ksb-33	ksb-36	ksb-38	ksb-42	ksb-62
アノトリ科								上腕骨 L p f 1	
ウ科									
カモ科									
カモ科							橈骨 L p-m 1 尺骨 L 1		
ウミスズメ科				中足骨 L m-d (大) 1	大腕骨 R d (大) 1 脛骨 L m-d (大) 1				尺骨 R m-d (大) 1
ウミスズメ科?	胸峰 (中) 1								
種不明鳥類	f 1	f 1	方形骨 L 1 胸峰 f 1 f 4	方形骨 L 1' R 1' 指骨 3'	脛骨 L m f 1 椎骨 2 f 3	脛骨 R m 1		胸峰 f 1	

凡例 L:左 R:右
p:近位部 m:中間部 d:遠位部
*:被熱
():内数

6 カモイベツ遺跡出土炭化木片の樹種

(株) 加速器分析研究所

はじめに

北海道斜里郡斜里町峰浜311、312に所在するカモイベツ遺跡から出土した炭化木片について、用材選択や古植生に関する情報を得ることを目的とした樹種同定を実施した。試料が属する層の年代は、II層が近世アイヌ文化期、VII a層がオホーツク文化刻文期、VII b層が統縄文時代後半である。

1 試料

試料は、炭化木片5点(KMO-1、4、5、7、13)である。なお、同一試料を含む計15点の炭化木片について放射性炭素年代測定が実施されており、推定年代とおおむね一致する結果となった(Ⅶ章9 年代測定報告参照)。

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、各試料の木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面について断面を作製し、双眼実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡(低真空)を用いて木材組織の種類や配列を観察する。各試料で観察された特徴を現生標本および森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、鳥地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995、1996、1997、1998、1999)を参考にする。

3 結果

樹種同定結果を表1に示す。5点の炭化木片は針葉樹1分類群(モミ属)と広葉樹3分類群(イヌエンジュ属、ハンノキ属ハンノキ亜属、トネリコ属シオジ節)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・モミ属 *Abies* マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・イヌエンジュ属 *Maackia* マメ科

環孔材。孔圏部は1~3列、孔圏外への移行は緩やか、孔圏外では小径の道管が多数集まって接線・斜方向に帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。孔圏外の小道管は層階状になり、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~5列、1~30細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科

散孔材。道管は単独または2~4個が放射方向に複合して散在する。道管の穿孔板は階段穿孔板、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと集合放射組織とがある。

・トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinaster* モクセイ科

環孔材。孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に径を減じ、孔圏外では小径で厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~2細胞幅、1~20細胞高。

表1 カモイベツ遺跡の樹種同定結果

試料番号	採取場所	遺物番号	層位	種類	備考
KMO-1	H-19HF-1 焼土		VIIa	ハンノキ属ハンノキ亜属	石組炉内
KMO-4	H-21HF-1 焼土上面	16	VIIa	イヌエンジュ属	石組炉内
KMO-5	H-22HF-1 焼土		VIIb	モミ属	地床炉内
KMO-7	PS-31 覆土下層		VIIa	トネリコ属シオジ節	集石土坑
KMO-13	SB-5 魚骨集中②		II	トネリコ属シオジ節	貝・魚骨ブロック

4 考察

各種類の材質等についてみると、針葉樹のモミ属は、北海道には常緑高木のトドマツが分布する。木材は、木理が通直で割裂性が高く、強度と保存性は低い。広葉樹のイヌエンジュ属は、北海道に落葉高木のイヌエンジュが分布する。木材はやや重硬な部類に入り、強度と耐朽性が高い。ハンノキ亜属は、北海道に落葉高木のハンノキとケヤマハンノキが分布する。木材はやや重硬・緻密で比較的強度が高い。シオジ節は、北海道に落葉高木のヤチダモが分布する。木材は重硬で強度が高い。

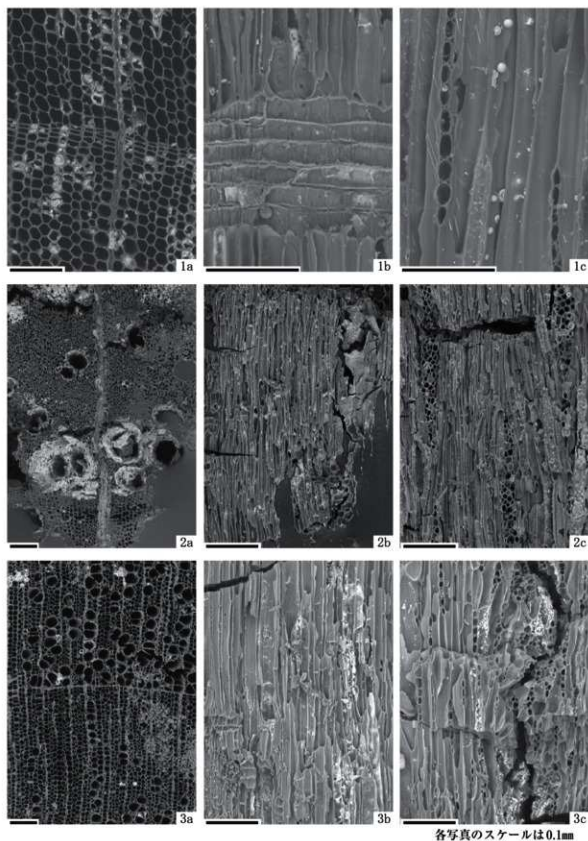
時期別に見ると、近世アイヌ文化期（II層）の貝・魚骨ブロックSB-5の魚骨集中②から出土した試料KMO-13は、炭化している状況から、火を受けたことは明らかであるが、その背景については不明である。シオジ節に同定され、近世においても遺跡周辺の河畔等にシオジ節が生育していたことが推定される。

オホーツク文化刻文期（VII a層）の堅穴の石組炉内から出土した試料KMO-1がハンノキ亜属、試料KMO-4がイヌエンジュ属、集石土坑から出土した試料KMO-7はシオジ節に同定された。樹種は異なるが、いずれも広葉樹で構成される。当時は、遺跡周辺の河畔を中心にハンノキ亜属、シオジ節、イヌエンジュ属が生育し、その木材を燃料などに利用したことが推定される。

縄文時代後半（VII b層）の（平地式）住居の地床炉内から出土した試料KMO-5は燃料材の可能性が高い。樹種はモミ属に同定されたことから、当時の遺跡周辺にはモミ属が生育しており、その木材を燃料に利用したことが推定される。

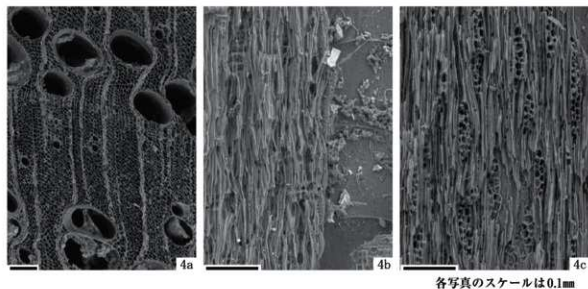
文献

- 林 昭三, 1991. 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31. 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32. 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33. 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34. 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35. 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006. 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].
- 高地 謙・伊東隆夫, 1982. 図説木材組織, 地球社, 176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].



図版1 カモイベツ遺跡の炭化木片(1)

- 1 モミ属 (KMO-5)
 - 2 イスエンジュ属 (KMO-2)
 - 3 ハンノキ属ハンノキ亜属 (KMO-1)
- a : 木口 b : 柃目 c : 板目



図版2 カモイベツ遺跡の炭化木片(2)

4 トネリコ属シオジ節 (KMO-13)
a : 木口 b : 柃目 c : 板目

7 カモイベツ遺跡の炭化種実同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

カモイベツ遺跡は、斜里郡斜里町字峰浜国道敷地内に所在し、オホーツク海に面する海岸砂丘列と、その南側の低湿地の一部に立地し、オホーツク文化期、続縄文文化期、アイヌ文化期に帰属する遺構・遺物が確認されている。

本分析調査では、続縄文時代とオホーツク文化期、アイヌ文化期の各遺構より出土した炭化種実の同定を実施し、植物利用および周辺植生に関する情報を得る。

1 試料

試料は、各遺構覆土および包含層から検出された炭化種実39点288個（試料番号1～39）である。主に遺構覆土の土壤水洗（フローテーション）等により検出され、全て乾燥した状態で容器に収納されている。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実を拾い出す。炭化種実の同定は、現生標本や石川（1994）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2012）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間、ハイフォンで結んで表示する。同定された分類群は、写真を添付する他、主な炭化種実の大きさをデジタルノギスで計測し、結果を一覧表に併記して同定根拠とする。炭化種実以外は、確認される種類の個数を一覧表に併記する。

分析後は、抽出物を容器に入れて返却する。

3 結果

炭化種実同定結果を表1に、写真を図版1に示す。

全39試料を通じて、被子植物10分類群（落葉広葉樹のオニグルミ、カシワ、カシワミズナラ、コブシ、キハダ、ヤマブドウ、ブドウ属、ブドウ科、草本のササ属、ミクリ属）203個の炭化種実が同定された。試料番号23の破片1個は同定ができなかった。炭化種実は、ヤマブドウを含むブドウ属（疑問符含む）、ブドウ科が計93個と最も多く、ササ属が80個、キハダ（疑問符含む）が14個と次いで多い。

炭化種実以外は、被子植物4分類群（スゲ属、イシミカワ近似種、ポントクタデ近似種、アカザ属）の種実8個、不明種実？1個、不明A種実？2個、単子葉類の炭化鱗茎38個、炭化材2個、不明5個、木の芽1個、スギナ類の地下茎4個、菌核5個、菌核？6個、昆虫1個、ミミズ類の卵胞16個、岩片6個、土粒？1個、膠結物質？7個の、計103個が確認された。炭化種実と炭化種実以外の合計は、307個である。

炭化種実以外のうち、スゲ属、イシミカワ近似種、ポントクタデ近似種、アカザ属などの草本種実や、木の芽、スギナ類の地下茎、昆虫、ミミズ類の卵胞は、保存状態が良好で炭化していない。遺跡の立地を考慮すると、低湿地に由来する可能性も含まれるため、試料の履歴を検討する必要がある。ただし、併伴する炭化種実や炭化鱗茎の保存状態と考え合わせると、後代の混入の可能性が高いことから、念のため考察より除外している。

一方、炭化鱗茎については、当時の植物利用および周辺植生に関する情報を有するため、保存状態が良好な一部の写真を図版2に、デジタルノギスで長さや径を計測した結果を表2に示す。

以下、炭化種実・炭化鱗茎の形態的特徴等を記す。なお、学名は佐竹ほか編（1989a, b, 1982）、クマイザサのみ堀田編（1989）に依拠した。

表2 炭化鱗茎の計測値

試料番号	遺構(発掘区)	層位	遺物番号	時期	備考	番号	長さ(mm)	径(mm)	図版番号	備考
14	PT15/E129	礫土	347	縄縄文	(PS-24)	1	9.04	7.19	2	
14	PT15/E129	礫土	347	縄縄文	(PS-24)	2	4.82	4.34	-	
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	1	8.75 *	12.43	-	頂部欠損
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	2	5.94 *	8.75	-	頂部欠損
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	3	4.54 *	6.55	-	頂部欠損
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	4	5.70 *	6.28	-	両端欠損
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	5	3.02 *	4.37	-	頂部欠損
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	6	6.49	7.22	3	破片
15	PT16/E129	礫土	355	縄縄文	(SP-6)	7	5.71 *	5.91	-	破片、頂部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	1	8.98 *	10.74	4	基部着点欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	2	10.73	11.20	-	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	3	11.29	10.71	5	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	4	7.07 *	9.14	-	頂部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	5	7.93	8.21	6	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	6	5.87 *	7.61	-	頂部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	7	8.00	7.05	9	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	8	7.20 *	6.66	-	基部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	9	7.61	6.75	-	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	10	7.37 *	6.41	-	頂部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	11	7.21	6.33	7	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	12	7.02 *	4.84	-	頂部欠損
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	13	6.38	3.87	8	
16	PT20/E131	礫土	126	縄縄文	(S-4)	14	5.04	3.85	-	
27	E123	VIa	538	縄縄文	骨・木炭範囲	-	5.04	4.69	12	
38	E122	IX	914	縄縄文	縄・木炭層	1	5.43	3.63	13	
38	E122	IX	914	縄縄文	縄・木炭層	2	4.29 *	4.34	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	1	8.84	8.02	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	2	8.65	5.94	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	3	6.50	6.22	-	基部着点欠損
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	4	7.28	4.85	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	5	6.04	6.38	10	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	6	6.46	4.67	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	7	5.34	5.35	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	8	6.07	5.43	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	9	4.65	4.25	-	
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	10	5.42 *	5.54	-	破片、頂部欠損
39	E122	IX	919	縄縄文	木炭・ベンガラ層	11	5.96	5.10	11	破片

注) 計測はデジタルノギスを使用し、欠損は残存値に「*」で示す。

<炭化種実>

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura)

クルミ科クルミ属 図版1-4-6

核は全て半分未満の破片である。完形ならば、高さ3~4cm、径25~3cm程度の広卵形で頂部が尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

最大片は、試料番号7で残存幅2.2cmを測り、内部等一部非炭化で灰褐色を呈す。また、縫合線周囲にリス類による食痕と考えられる欠損がみられる。その他、試料番号20(図版1-4)は縫合線に沿わずに割れており、完形の状態で火を受けて炭化した可能性と、人による打撃痕の可能性がある。

・カシワ (*Quercus dentata* Thunb. ex Murray) ブナ科コナラ属 図版1-7、8

子葉は卵状球体、頂部は僅かに尖り、基部は切形。試料番号26は長さ11.54mm、幅9.75mm、厚さ9.93mmを測る。試料番号10は、子葉の合わせ目に沿って割れた半分で、長さ16.31mm、幅12.54mm、半分厚6.88mmを測り、表面に虫類による食痕と考えられる欠損がみられる。

子葉は硬く緻密で、表面には縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線はやや窪み、頂部に長径3mmの小さな孔（主根）がある。なお、試料番号10の破片2個は接合し、計半分未満である（図版1-9）。カシワと考えられるが、ミズナラ（*Q. crispula* Blume）の子葉の可能性もあるため、両種をハイフォンで結んでいる。

・コブシ（*Magnolia kobus* DC.）モクレン科モクレン属 図版1-10

種子は完形ならば径1~1.2cm、厚さ3mm程度の頂部がやや尖る腎状広卵形で、腹面正中線には幅広い縦溝と基部に臍がある。種皮は硬く、表面は粗面。出土種子は基部が残る破片で、残存径5mm程度。

・キハダ（*Phellodendron amurense* Rupr.）ミカン科キハダ属 図版1-11~15

果実は径7~9mmの球体。果皮表面は粗面で一部発泡し、中果皮（果肉）は発泡している。果実内は、5室程度に各1個の種子が入る（図版1-11~14）。なお、試料番号24は果実内を確認していないため、疑問符を付したが、キハダの果実と考えられ、果柄が残る（図版1-16）。種子は長さ2.5mm、幅2mm程度の偏平な半倒卵形。種皮は薄く、表面には浅く微細な縦長の網目模様が配列する（図版1-15）。

・ヤマブドウ（*Vitis coignetiae* Pulliat ex Planch.）ブドウ科ブドウ属 図版1-17

種子は黒色。長さ4.29mm、幅3.03mm、厚さ2.81mm（試料番号27：図版1-17）の広倒卵形で側面観は半倒卵形。基部は鋭尖形で、細く嘴状に尖る核嘴がある。腹面正中線は（鈍）稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、長さ1.7mm、幅0.5mm程度の倒伏針形で深く窪む核窪がある。背面正中線は、頂部から1mm程度に、長さ1.5mm、幅1.0mm程度の卵形の合点があり、細く浅い溝に囲まれて合点中央は窪む。種皮は硬く、表面は粗面、断面は櫛状を呈す。なお、合点の窪みが明瞭ではない種子をブドウ属（図版1-18）、合点を欠損する破片をブドウ科（Vitaceae）までの同定にとどめているが、ヤマブドウに由来する可能性が高い。その他、合点表面に別個体の破片が付着する状態も確認される（図版1-18）。

・ササ属（*Sasa*）イネ科 図版1-1~3

果実（穎果）は長さ5~6mm、径3~3.5mmの楕円体。背面正中線に細く浅い縦溝がある。腹面はやや丸みを帯び、基部正中線に斜切形で長径0.5mm程度の浅い楕円形の胚がある。果皮は薄く平滑で、表面には微細な縦長の網目模様が配列する。

北海道に分布するササ属は、チマキザサ（*S. palmata* (Bean) Nakai）、チシマザサ（*S. kurilensis* (Rupr.) Makino et Shibata）クマイザサ（*S. senanensis* (Fr. et Sav.) Rehd.）の3種とされる（関, 2011）。出土果実は、3種のいずれかに由来すると考えられる。

・ミクリ属（*Sparganium*）ミクリ科 図版1-19

果実は長さ4mm、径2mmの紡錘状楕円体で頂部が伸び、基部を欠損する。果皮は海綿状で表面に数本の縦隆条が配列する。

佐竹ほか編（1982）によれば、本地域には、ミクリ（*S. erectum* L.）、タマミクリ（*S. nium glomeratum* Laest.）、ヒメミクリ（*S. stenophyllum* Maxim.）が分布する。出土果実は、これらのいずれかに由来する可能性がある。なお、チシマミクリ（*S. hyperboreum* Laest.）、ホソバウキミクリ（*S. unguistifolium* Michaux）は、高山に分布するため、遺跡の立地を考慮し、候補から外している。

<炭化鱗茎>

・単子葉類（Monocotyledoneae）表2、図版2-1~13

鱗茎は長さ3.0~11.3mm、径3.6~12.4mmの狭卵形~球形で頂部が尖り、かぶら状を呈す。基部は切形

で、径2mm程度の円形を呈す根がついた跡が確認される(図版2-10c)。鱗茎を構成する多数の薄い葉が中軸から層状に巻いて重なる構造が確認される。鱗茎葉の表面には、微細な横長多角形状網目模様を縦列する他、約1mm間隔の細縦隆条が配列し、上下面観は中軸から隆条が放射状に伸びる。

Werner (2009)によれば、「鱗茎植物は、ほとんど全部といってもよいほど単子葉植物、ことにユリ科に集中しており、ユリ型とネギ型とがある」とされる。今回確認された炭化鱗茎は、ユリ属(*Lilium*)やウバユリ属(*Cardiocrinum*)などにみられる、鱗茎を構成する葉は鱗片状に成長し、細い葉柄で茎に接着して屋根瓦のように重なりある「ユリ型」とは区別され、ネギ属(*Allium*)やヒガンバナ科スイセン属(*Narcissus*)、ヒガンバナ属(*Lycoris*)などにみられる、葉柄が鞘状に閉じた筒になり、横断面では重なり合った葉が同心円を描く「ネギ型」の単生する鱗茎と考えられる。

佐竹ほか編(1982)によれば、本地域には、ネギ属ギョウジャニンニク(*A. victorialis* L. subsp. *platyphyllum* Hulten)、ヒメニラ(*A. monanthum* Maxim.)、ミヤマラッキョウ(*A. splendens* Willden.)、ノビル(*A. grayi* Regel)、アサツキ(*A. schoenoprasum* L. var. *foliosum* Regel)、ヒガンバナ属ヒガンバナ(*L. radiata* Herb.)が分布し、ノビルとヒガンバナは古い時代に中国より渡来した説がある。これらの鱗茎の形状は、ギョウジャニンニクとミヤマラッキョウは披針形、アサツキは狭卵形で、ヒメニラは卵形、ヒガンバナとキツネノカミソリは広卵形、ノビルは球形と記載されている。

出土炭化鱗茎は、いずれの形状にも似ており、実態顕微鏡観察による同定は困難である。近年、鱗茎葉の細胞形態観察により、ネギ属ノビル-ツルボ属型、ヒガンバナ属型、ネギ属アサツキ型等にタイプ分けが可能であることが指摘されている(佐々木・米田, 2014)。

4 考察

炭化種実同定の結果、木本8分類群(オニグルミ、カシワ、カシワーミズナラ、コブシ、キハダ、ヤマブドウ、ブドウ属、ブドウ科)、草本2分類群(ササ属、ミクリ属)から成る炭化種実群が得られ、ヤマブドウを含むブドウ属(科)とササ属を主体とする組成を示した。また、炭化種実以外に、ネギ型と考えられる単子葉類の炭化鱗茎が確認された。

木本は全て落葉広葉樹で、高木になるオニグルミやキハダは、川沿いなどの湿り気の多いところに生育する。カシワは沿海地や丘陵の日当たりの良いやせ地や裸地などに、ミズナラやコブシは丘陵や山地に生育する。籐本のヤマブドウを含むブドウ属(科)は、河畔や林縁などの明るく開けた場所に生育する。

草本のうち、ササ属は広葉樹林の林床や沢地などに広く群生し、チマキササ、チシマザサ、クマイザサのいずれかに由来する可能性がある。ミクリ属は湖沼や河川、水路などに生育する多年生抽水植物で、ミクリ、タマミクリ、ヒメミクリのいずれかに由来する可能性がある。これらの分類群は、本遺跡周辺および斜里川流域の落葉樹林や水湿地に生育していたと考えられる。

植物利用について、縄文時代とされるPIT 8/F124覆土、D135Ⅴb層、アイヌ文化期とされるSB-3より出土したオニグルミは子葉が食用可能で、縄文時代とされるF120Ⅴa層、オホーツク文化期とされる9号址/75e炉より出土したカシワは、灰汁抜きを施すことで子葉が食用可能となる。これらの炭化堅果類は、遺跡周辺の落葉樹林から採取された植物質食料と考えられ、被熱し炭化する。オニグルミは、食用にならない核の破片の状態であることから、可食部の子葉を取り出した後に廃棄された食料残渣と推測される。一方、カシワは可食部である子葉が完形の状態でも出土したことから、保存されたものが食用前の段階で火を受けたと推測される。

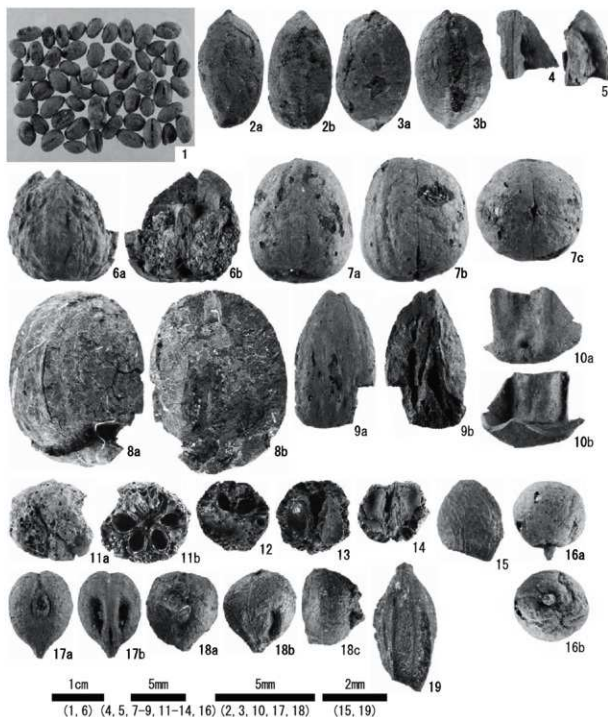
本分析調査において、最も多く確認されたヤマブドウを含むブドウ属(科)は、縄縄文時代とされる各遺構・層位、オホーツク文化期とされるH-19HF-1焼土、アイヌ文化期とされるSB-5魚骨集中③II層より出土し、果実が食料として利用可能である。次いで多いササ属は、縄縄文時代とされるF120VIIb斜面、F120VIIa斜面、F94VII下部より出土し、古くより果実が食用とされる。縄縄文時代とされるPIT12/F125Ib層、D136VII層、E120VIIa層などから果実と種子が出土したキハダは、果実が食用や薬用、儀式等に利用されたアイヌ文化が伝承されている。

この他、縄縄文時代とされるPIT15/E129覆土、PIT16/E129覆土、PIT20/E131覆土、E123VIIa層、E122IX層より出土したネギ型と考えられる炭化鱗茎は、デンプン質に富むため、古くから食用に利用されてきた有用植物である(山本, 2002など)。

引用文献

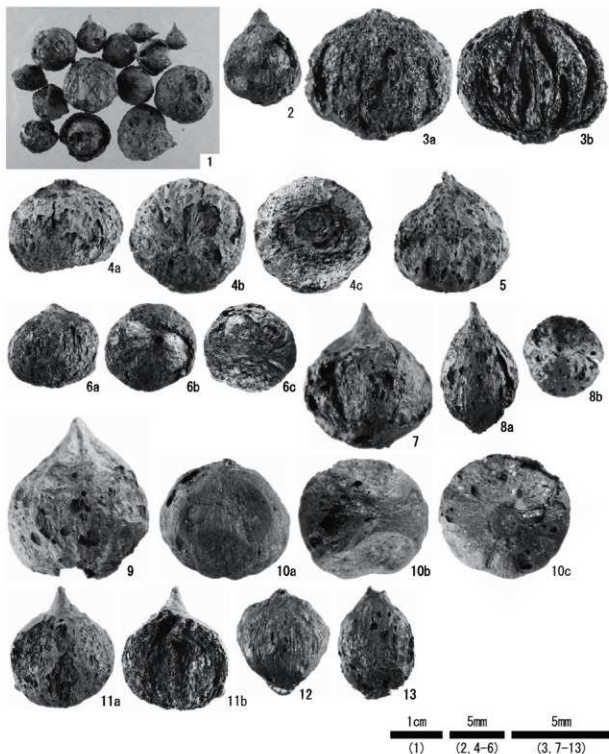
- 堀田 満(代表)編, 1989. 世界有用植物事典, 平凡社, 1499p.
- 石川茂雄, 1994. 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2010. 日本植物種子図鑑(2010年改訂版), 東北大学出版会, 678p.
- Rauh, Werner, 2009. 植物形態の事典(新装版), 中村信一・戸部 博(訳), 朝倉書店, 340p. [Rauh, Werner (1994) Morphologie der Nutzpflanzen].
- 佐々木由香・米田恭子・小林和貴, 2014. 遺跡出土炭化鱗茎同定のための識別方法, 第29回日本植生史学会大会講演要旨集, 43.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編, 1989a. 日本の野生植物 木本I, 平凡社, 321p.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編, 1989b. 日本の野生植物 木本II, 平凡社, 305p.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亙理俊次・富成忠夫, 1982. 日本の野生植物 草本I 単子葉類, 平凡社, 305p.
- 関 一人, 2011. 北海道におけるササ資源とその化学的利用, 林産試だより2011年10月号, 1-3. (<http://www.hro.or.jp/list/forest/research/fpri/dayori/1110/1110-1.pdf>)
- 鈴木庸夫・高橋 冬・安延高文, 2012. ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実-形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実632種-, 誠文堂新光社, 272p.
- 山本直人, 2002. 縄縄文時代の植物採集活動-野生根茎類食料化の民俗考古学的研究-, 淡水社, 250p.

図版 1 炭化種実



- 1.ササ属 果実(試料番号32:F120 Ⅷb斜面)
 2.ササ属 果実(試料番号32:F120 Ⅷb斜面)
 3.ササ属 果実(試料番号32:F120 Ⅷb斜面)
 4.オニグルミ 核(試料番号20:D135 Ⅷb)
 5.オニグルミ 核(試料番号20:D135 Ⅷb)
 6.オニグルミ 核(試料番号20:D135 Ⅷb)
 7.カシワ 子葉(試料番号26:F120 Ⅷa)
 8.カシワ 子葉(試料番号10:9号址/75e 炉)
 9.カシワ・ミズナラ 子葉(試料番号32:F120 Ⅷb斜面)
 11.キハダ 果実(試料番号13:PIT12/F125 炉面)
 12.キハダ 果実(試料番号13:PIT12/F125 炉面)
 13.キハダ 果実(試料番号19:D136 Ⅷ)
 14.キハダ 果実(試料番号13:PIT12/F125 炉面)
 15.キハダ 種子(試料番号13:PIT12/F125 炉面)
 16.キハダ? 果実(試料番号24:焼土1/F120 焼土)
 17.ヤマブドウ 種子(試料番号27:E123 Ⅷa)
 18.ブドウ属 種子(試料番号36:F94 Ⅷ下部)
 19.ミクリ属 果実(試料番号36:F94 Ⅷ下部)

図版 2 炭化鱗茎



1. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
3. 単子葉類 鱗茎 (試料番号15;PIT16/E129 覆土)
5. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
7. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
9. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
11. 単子葉類 鱗茎 (試料番号39;E122 IX)
13. 単子葉類 鱗茎 (試料番号38;E122 IX)

2. 単子葉類 鱗茎 (試料番号14;PIT15/E129 覆土)
4. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
6. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
8. 単子葉類 鱗茎 (試料番号16;PIT20/E131 覆土)
10. 単子葉類 鱗茎 (試料番号39;E122 IX)
12. 単子葉類 鱗茎 (試料番号27;E123 VIIa)

8 放射性炭素年代測定（1）2008～2012年

株式会社 バレオ・ラボ

1 はじめに

北海道斜里郡斜里町に位置するカモイベツ遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表1のとおりである。全てAAA処理済みである。試料は調整後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代（yrBP）の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い（¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.0（較正曲線データ：〔2008年〕INTCAL04、〔2009年～2012年〕INTCAL09）を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。〔2008年〕それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4 考察

〔2008年〕

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

〔2009年〕

以下、結果を整理する。土器編年と¹⁴C年代および暦年較正結果との対応関係については、小林謙一（2008）と小林達雄編（2008）を参照した。

カモイベツ遺跡出土の炭化材（PLD-14950）は、¹⁴C年代が3300 \pm 25、1 σ 暦年代範囲が1611-1531calBC（68.2%）、2 σ 暦年代範囲が1635-1504calBC（95.4%）を示した。これは縄文時代後期中

葉に相当する。同じく炭化材 (PLD-14951) は、 ^{14}C 年代が 4095 ± 30 、 1σ 暦年代範囲が $2837-2815\text{calBC}$ (13.2%)、 $2673-2579\text{calBC}$ (55.0%)、 2σ 暦年代範囲が $2861-2808\text{calBC}$ (20.9%)、 $2756-2719\text{calBC}$ (8.4%)、 $2705-2570\text{calBC}$ (64.3%)、 $2515-2501\text{calBC}$ (1.9%) を示した。これは縄文時代中期末～後期初頭に相当する。

[2011年]

S F-7 (PIT12) 火床面から出土した炭化材は、 ^{14}C 年代が 2070 ± 20 ^{14}C BP、 1σ 暦年代範囲 (確率68.2%) が $144-141\text{ cal BC}$ (1.7%) および $111-46\text{ cal BC}$ (66.5%)、 2σ 暦年代範囲 (確率95.4%) が $167-41\text{ cal BC}$ (95.4%) の範囲を示した。この範囲は、熊本 (2005) を参照すると、縄文時代中期末に相当する。

[2012年]

以下、 2σ 暦年代範囲 (確率95.4%) に着目し、結果を整理する。

Ⅶ b 層から出土した炭化材 (PLD-23121) の 2σ 暦年代範囲は、 $131-254\text{ cal AD}$ (95.4%) で、2世紀前半～3世紀中頃であった。

Ⅷ層 (Ⅸ b 層、種子集中) から出土した炭化種実 (PLD-23122) は、 $42\text{ cal BC}-57\text{ cal AD}$ (95.4%) で、紀元前1世紀中頃～後1世紀中頃であった。

Ⅸ層から出土した炭化材 (PLD-23123) は、 $428-546\text{ cal AD}$ (95.4%) で、5世紀前半～6世紀中頃であった。

F-31 (焼土1) から出土した炭化材 (PLD-23124) は、 $130-245\text{ cal AD}$ (95.4%) で、2世紀前半～3世紀中頃であった。

Ⅶ層 (斜面骨・木炭範囲) から出土した炭化材 (PLD-23125) は、 $262-280\text{ cal AD}$ (6.2%)、 $326-421\text{ cal AD}$ (89.2%) で、3世紀後半～5世紀前半であった。

(AMS年代測定グループ：伊藤茂・丹生越子・尾崎大真・廣田正史・瀬谷薫・小林統一・Zaur Lomtadidze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎)

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1965) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.
- 白杵勲・出徳雅実編 (2005) 科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 平成16年度研究成果報告書, 50p. 札幌学院大学人文学部.
- 熊本俊朗 (2005) 道東北部の炭素14年代集成 (縄文・オホーツク・推古期). 白杵勲・出徳雅実編「科学研究費補助金基盤研究 (B) (2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 平成16年度研究成果報告書」: 12-16. 札幌学院大学人文学部.
- 小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 縄文時代の考古学 2 - 歴史のものさし, 257-269. 同成社.
- 小林達雄編 (2008) 総覧縄文土器. 132p. アム・プロモーション.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代. 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M.,

Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

表1 測定試料及び処理

採取年	測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
2008年	PLD-12368	遺構：H-14(9号址) 試料No.：KM0801	試料の種類：炭化種実(炉種子) ガス化重量：4.10mg 炭素含有量：2.26mg	AAA処理済試料 サルフィックス
	PLD-12369	遺構：H-14(9号址)内集石 試料No.：KM0802	試料の種類：炭化材(木炭) 試料の性状：不明 ガス化重量：7.82mg 炭素含有量：4.37mg	AAA処理済試料 サルフィックス
	PLD-12370	遺構：H-12(8号址) 試料No.：KM0803	試料の種類：炭化材(炉) 試料の性状：不明 ガス化重量：7.02mg 炭素含有量：3.83mg	AAA処理済試料 サルフィックス
	PLD-12371	遺構：H-6(19号址) 試料No.：KM0804	試料の種類：炭化材(炉C) 試料の性状：不明 ガス化重量：9.00mg 炭素含有量：4.80mg	AAA処理済試料 サルフィックス
	PLD-12372	遺構：H-5(20号址) 試料No.：KM0805	試料の種類：炭化材(炉A) 試料の性状：不明 ガス化重量：9.90mg 炭素含有量：5.32mg	AAA処理済試料 サルフィックス
	PLD-12373	遺構：H-5(20号址) 試料No.：KM0806	試料の種類：炭化材(炉B) 試料の性状：不明 ガス化重量：7.05mg 炭素含有量：3.74mg	AAA処理済試料 サルフィックス
2009年	PLD-14950	遺跡名：カモイベツ遺跡 試料No. KMB0901 調査区：Y-143 No.5 層位：VIIe層	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	AAA処理済試料
	PLD-14951	遺跡名：カモイベツ遺跡 試料No. KMB0902 遺構：トレンチ内焼土1 その他：117	試料の種類：炭化材 試料の性状：不明 状態：dry	AAA処理済試料
2011年	PLD-20383	試料No. SRKM2 位置：F-125 遺構：SF-7(PIT12) 層位：火床面	試料の種類：炭化材 状態：dry	AAA処理済試料
2012年	PLD-23121	グリッド：F-120 層位：VIIb層 試料No. 1201 遺物No. 190	種類：炭化材 状態：wet	AAA処理済試料
	PLD-23122	グリッド：E-122 層位：VII (IXb)層 (種子集中) 試料No. 1203 遺物No. 409	種類：炭化種実 状態：wet	AAA処理済試料
	PLD-23123	グリッド：E-88 層位：VII層 試料No. 1205 遺物No. 5	種類：炭化材 状態：wet	AAA処理済試料
	PLD-23124	グリッド：F-109 遺構：F-31(焼土1) 試料No. 1206 遺物No. 46	種類：炭化材 状態：wet	AAA処理済試料
	PLD-23125	グリッド：F-120 層位：VII層 (斜面骨木炭範囲) 試料No. 1207 遺物No. 914	種類：炭化材 状態：wet	AAA処理済試料

表2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

採取年	測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に較正した年代範囲	
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
2008年	PLD-12368 試料No. : KM0801	-31.37 \pm 0.17	1448 \pm 19	1450 \pm 20	601AD (68. 2%) 640AD	576AD (95. 4%) 647AD
	PLD-12369 試料No. : KM0802	-26. 86 \pm 0. 18	1451 \pm 19	1450 \pm 20	599AD (68. 2%) 639AD	575AD (95. 4%) 646AD
	PLD-12370 試料No. : KM0803	-28. 25 \pm 0. 20	1314 \pm 19	1315 \pm 20	662AD (54. 8%) 690AD 751AD (13. 4%) 762AD	657AD (73. 8%) 715AD 744AD (21. 6%) 769AD
	PLD-12371 試料No. : KM0804	-28. 44 \pm 0. 17	1264 \pm 18	1265 \pm 20	692AD (59. 5%) 750AD 763AD (8. 7%) 772AD	681AD (95. 4%) 778AD
	PLD-12372 試料No. : KM0805	-27. 20 \pm 0. 18	1471 \pm 18	1470 \pm 20	570AD (68. 2%) 615AD	558AD (95. 4%) 639AD
	PLD-12373 試料No. : KM0806	-28. 07 \pm 0. 17	1267 \pm 18	1265 \pm 20	690AD (42. 9%) 726AD 738AD (15. 3%) 751AD 762AD (10. 0%) 771AD	681AD (95. 4%) 776AD
2009年	PLD-14950	-29. 52 \pm 0. 27	3299 \pm 25	3300 \pm 25	1611BC (68. 2%) 1531BC	1635BC (95. 4%) 1504BC
	PLD-14951	-30. 68 \pm 0. 18	4096 \pm 29	4095 \pm 30	2837BC (13. 2%) 2815BC 2673BC (55. 0%) 2579BC	2861BC (20. 9%) 2808BC 2756BC (8. 4%) 2719BC 2705BC (64. 3%) 2570BC 2515BC (1. 9%) 2501BC
2011年	PLD-20383 (試料No. SRM2)	-28. 12 \pm 0. 11	2070 \pm 20	2070 \pm 20	144BC (1. 7%) 141BC 111BC (66. 5%) 46BC	167BC (95. 4%) 41BC
2012年	PLD-23121 試料No. 1201 遺物No. 190	-24. 47 \pm 0. 24	1810 \pm 21	1810 \pm 20	140AD (11. 5%) 154AD 168AD (23. 4%) 195AD 209AD (33. 3%) 241AD	131AD (95. 4%) 254AD
	PLD-23122 試料No. 1203 遺物No. 409	-26. 88 \pm 0. 20	1992 \pm 21	1990 \pm 20	37BC (7. 9%) 30BC 21BC (11. 2%) 11BC 2BC (38. 5%) 28AD 40AD (10. 7%) 49AD	42BC (95. 4%) 57AD
	PLD-23123 試料No. 1205 遺物No. 5	-26. 43 \pm 0. 22	1565 \pm 21	1565 \pm 20	436AD (51. 0%) 491AD 509AD (8. 1%) 518AD 529AD (9. 1%) 539AD	428AD (95. 4%) 546AD
	PLD-23124 試料No. 1206 遺物No. 46	-27. 04 \pm 0. 24	1818 \pm 21	1820 \pm 20	140AD (14. 6%) 155AD 169AD (25. 9%) 195AD 209AD (27. 6%) 235AD	130AD (95. 4%) 245AD
	PLD-23125 試料No. 1207 遺物No. 914	-25. 79 \pm 0. 27	1678 \pm 21	1680 \pm 20	345AD (68. 2%) 406AD	262AD (6. 2%) 280AD 326AD (89. 2%) 421AD

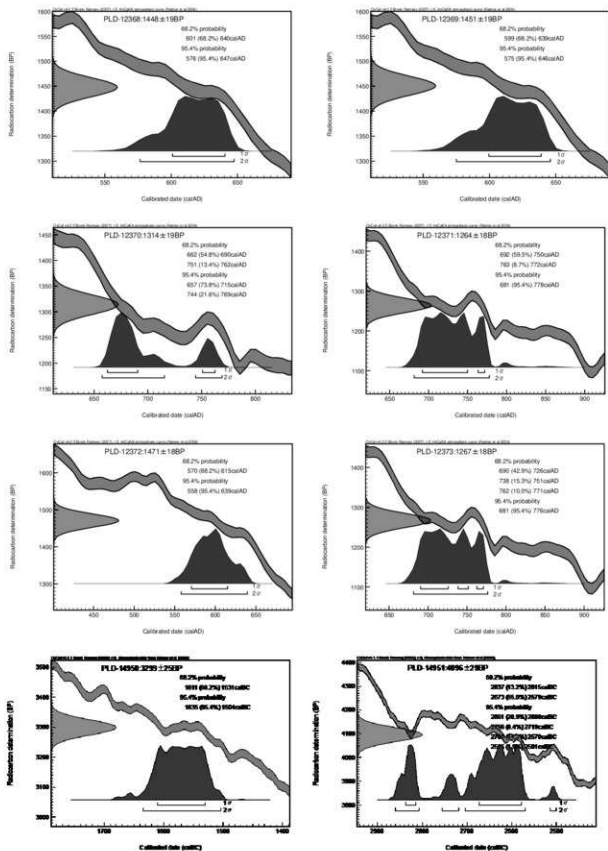


図 1-1 暦年較正結果

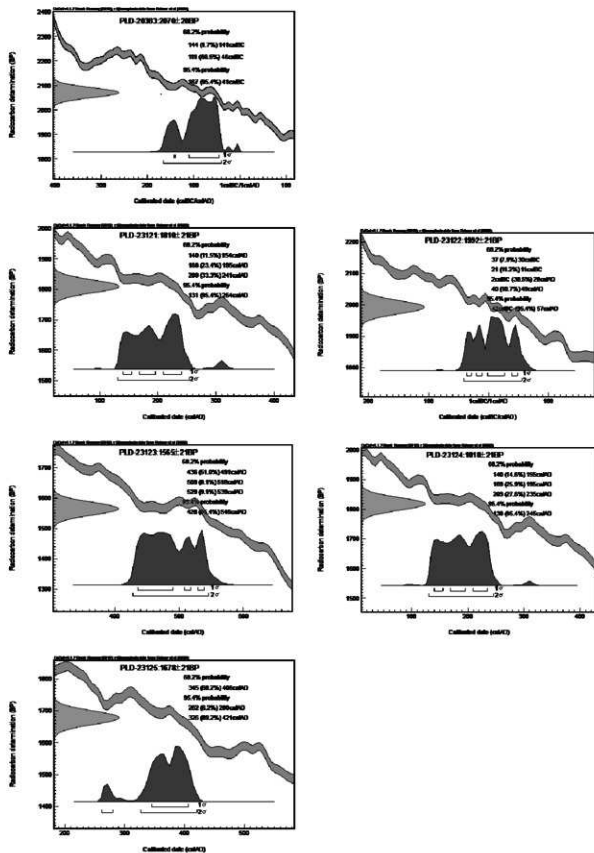


圖 1-2 曆年較正結果

9 カモイベツ遺跡における放射性炭素年代（2）2018年

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

カモイベツ遺跡は、北海道斜里郡斜里町峰浜311、312（北緯43°55'41.5"、東経144°47'13.6"）に所在する。測定対象試料は、畑等から出土した炭化木片15点である（表1）。なお、これらの試料のうち、KMO-1、4、5、7、13の5点について同一試料を対象に樹種同定も実施されている（別稿樹種同定報告参照）。

遺跡の基本層序はⅠ層～Ⅷ層である。今回測定された試料は、Ⅱ層からKMO-12、13の2点、Ⅶa層からKMO-1～4、7、10、11、14、15の9点、Ⅶb層からKMO-5、6、8、9の4点が出土している。Ⅱ層は上部に1793年噴火の樽前aテフラ、1694年噴火の駒ヶ岳cテフラを含み、火山灰の上位に遺物包含層がある。層の年代は、Ⅱ層が近世アイヌ文化期、Ⅶa層がオホーツク文化刻文期、Ⅶb層が縄文時代後半期とされる。

2 測定の意義

遺構または遺物包含層の年代値を推定するため。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1 M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシユウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age : yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必

要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を使い、OxCalv4.3較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2、図1に示した。なお、暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を表*・図* (※受領したが紙面の関係で割愛：編者)、後者を表2、図1に示した。

6 測定結果

測定結果を表1・2、図1に示す。較正年代は、cal BPとcal BC/ADの2通りで算出したが、以下の説明ではcal BC/ADの値で記載し (表2、図1)、cal BPの値は図表のみ提示した (受領したが紙面の関係で割愛：編者)。また、複数の試料の年代値を比較できるようにマルチプロット図を図2に示している。時期によって2つに分けて図示し、いずれもcal BP (受領したが紙面の関係で割愛：編者) とcal BC/AD (図2) の2通りで表示している。以下、試料が属する層 (試料が出土した層、および試料が出土した遺構が検出された層) ごとに分けて記述する。

II層に属する試料2点 (KMO-12、13) の ^{14}C 年代は、試料KMO-12が $190 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料KMO-13が $170 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、試料KMO-12が $1666 \sim 1803\text{cal AD}$ の間に4つの範囲と1938cal AD以降、試料KMO-13が $1670 \sim 1944\text{cal AD}$ の間に4つの範囲でそれぞれ示され、推定年代と一致する。なお、2点の試料の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する (表2下の警告参照)。

Ⅶa層に属する試料9点 (KMO-1~4、7、10、11、14、15) の ^{14}C 年代は $1650 \pm 20\text{yrBP}$ (KMO-11) から $1230 \pm 20\text{yrBP}$ (KMO-10) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い試料KMO-11が $383 \sim 424\text{cal AD}$ の範囲、最も新しい試料KMO-10が $714 \sim 865\text{cal AD}$ の間に4つの範囲でそれぞれ示される。いずれも推定年代におおむね一致、もしくは近い年代値となっている。

Ⅶb層に属する試料4点 (KMO-5、6、8、9) の ^{14}C 年代は、 $1950 \pm 20\text{yrBP}$ (KMO-9) から $1790 \pm 20\text{yrBP}$ (KMO-5) の間にある。暦年較正年代 (1σ) は、最も古い試料KMO-9が

25~78cal ADの範囲、最も新しい試料KMO-5が214~324cal ADの間に2つの範囲でそれぞれ示される。いずれも推定年代におおむね一致、もしくは近い年代値となっている。

今回測定された試料は、炭化木片であることから、以下に記述する古木効果を考慮する必要がある。樹木の年輪の放射性炭素年代は、その年輪が成長した年の年代を示す。したがって樹皮直下の最外年輪の年代が、樹木が伐採され死んだ年代を示し、内側の年輪は、最外年輪からの年輪数の分、古い年代値を示すことになる（古木効果）。今回測定された試料はいずれも炭化木片の小片で、樹皮が確認されていないことから、試料となった木が死んだ年代は測定された年代値よりも新しい可能性がある。

また、試料KMO-5、6、8、9が含まれる1~3世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾畷2009、坂本2010など）。その日本産樹木のデータを用いてこれらの試料の測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて54%を超える適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 尾畷大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代、設楽博己、藤尾慎一郎、松木武彦編弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭、同成社、225-235
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- 坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木-弥生から古墳へ-, 第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集、(株)加速器分析研究所、85-90
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- 臼杵勲編 2007 科学研究費補助金基盤研究(B) (2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書、札幌学院大学人文学部

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-182324	KMO-1	H-19HF-1 焼土	炭化木片	AAA	-23.55 ± 0.25	1,340 ± 20	84.67 ± 0.26
IAAA-182325	KMO-2	H-19HF-2 焼土	炭化木片	AaA	-21.95 ± 0.23	1,350 ± 20	84.56 ± 0.26
IAAA-182326	KMO-3	H-21 床面 遺物番号: 14	炭化木片	AAA	-19.73 ± 0.24	1,510 ± 20	82.91 ± 0.25
IAAA-182327	KMO-4	H-21HF-1 焼土上面 遺物番号: 16	炭化木片	AaA	-22.97 ± 0.24	1,510 ± 20	82.84 ± 0.25
IAAA-182328	KMO-5	H-22HF-1 焼土	炭化木片	AAA	-23.35 ± 0.22	1,790 ± 20	80.07 ± 0.24
IAAA-182329	KMO-6	P-29 覆土	炭化木片	AAA	-22.00 ± 0.25	1,910 ± 20	78.89 ± 0.24
IAAA-182330	KMO-7	PS-31 覆土下層	炭化木片	AAA	-22.58 ± 0.24	1,540 ± 20	82.60 ± 0.24
IAAA-182331	KMO-8	F-61 焼土上面 遺物番号: 1	炭化木片	AaA	-24.52 ± 0.24	1,850 ± 20	79.43 ± 0.24
IAAA-182332	KMO-9	F-64焼土	炭化木片	AAA	-23.75 ± 0.27	1,950 ± 20	78.47 ± 0.24
IAAA-182333	KMO-10	J70区 VIIa1層	炭化木片	AAA	-23.88 ± 0.25	1,230 ± 20	85.79 ± 0.26
IAAA-182334	KMO-11	K66区 VIIa2層	炭化木片	AAA	-23.64 ± 0.26	1,650 ± 20	81.47 ± 0.25
IAAA-182335	KMO-12	SB-4 灰層	炭化木片	AAA	-24.23 ± 0.25	190 ± 20	97.68 ± 0.28
IAAA-182336	KMO-13	SB-5 魚骨集中②	炭化木片	AAA	-23.37 ± 0.24	170 ± 20	97.91 ± 0.27
IAAA-182337	KMO-14	H-8HF	炭化木片	AAA	-25.53 ± 0.23	1,450 ± 20	83.44 ± 0.25
IAAA-182338	KMO-15	H-12HF	炭化木片	AAA	-25.87 ± 0.24	1,460 ± 20	83.43 ± 0.24

[IAA登録番号: #9435]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BC/AD) (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-182324	1,310 ± 20	84.92 ± 0.26	1,337 ± 24	655calAD - 683calAD (68.2%)	648calAD - 710calAD (87.5%) 746calAD - 764calAD (7.9%)
IAAA-182325	1,300 ± 20	85.09 ± 0.26	1,346 ± 24	653calAD - 676calAD (68.2%)	644calAD - 694calAD (91.4%) 748calAD - 763calAD (4.0%)
IAAA-182326	1,420 ± 20	83.81 ± 0.25	1,505 ± 24	545calAD - 591calAD (68.2%)	434calAD - 456calAD (3.6%) 469calAD - 488calAD (4.0%) 533calAD - 618calAD (87.8%)
IAAA-182327	1,480 ± 20	83.19 ± 0.25	1,511 ± 24	540calAD - 595calAD (68.2%)	432calAD - 490calAD (14.1%) 532calAD - 612calAD (81.3%)
IAAA-182328	1,760 ± 20	80.34 ± 0.24	1,785 ± 24	214calAD - 259calAD (39.2%) 281calAD - 324calAD (29.0%)	138calAD - 264calAD (62.7%) 275calAD - 330calAD (32.7%)
IAAA-182329	1,860 ± 20	79.37 ± 0.24	1,905 ± 24	75calAD - 125calAD (68.2%)	27calAD - 40calAD (1.8%) 48calAD - 140calAD (92.4%) 160calAD - 165calAD (0.4%) 197calAD - 207calAD (0.8%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代cal BC/AD) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-182330	1,500 ± 20	83.01 ± 0.24	1,535 ± 23	434calAD - 455calAD (16.4%) 470calAD - 488calAD (16.0%) 534calAD - 566calAD (35.8%)	428calAD - 498calAD (45.4%) 505calAD - 590calAD (50.0%)
IAAA-182331	1,840 ± 20	79.51 ± 0.24	1,849 ± 24	129calAD - 214calAD (68.2%)	86calAD - 110calAD (7.2%) 117calAD - 235calAD (88.2%)
IAAA-182332	1,930 ± 20	78.67 ± 0.23	1,947 ± 24	25calAD - 78calAD (68.2%)	1calAD - 125calAD (95.4%)
IAAA-182333	1,210 ± 20	85.98 ± 0.25	1,231 ± 24	714calAD - 744calAD (24.0%) 765calAD - 779calAD (10.7%) 791calAD - 828calAD (19.7%) 839calAD - 865calAD (13.9%)	689calAD - 750calAD (34.9%) 761calAD - 881calAD (60.5%)
IAAA-182334	1,620 ± 20	81.69 ± 0.25	1,646 ± 24	383calAD - 424calAD (68.2%)	338calAD - 430calAD (90.2%) 493calAD - 511calAD (3.4%) 518calAD - 529calAD (1.7%)
IAAA-182335	180 ± 20	97.84 ± 0.27	188 ± 22	1666calAD - 1681calAD (14.9%)* 1739calAD - 1750calAD (8.1%)* 1763calAD - 1785calAD (20.9%)* 1794calAD - 1803calAD (6.6%)* 1938calAD - ... (17.8%)*	1660calAD - 1685calAD (19.1%)* 1732calAD - 1809calAD (54.1%)* 1927calAD - ... (22.2%)*
IAAA-182336	140 ± 20	98.24 ± 0.27	169 ± 22	1670calAD - 1682calAD (11.5%)* 1736calAD - 1780calAD (41.4%)* 1799calAD - 1805calAD (5.8%)* 1933calAD - 1944calAD (9.5%)*	1665calAD - 1694calAD (17.5%)* 1726calAD - 1814calAD (57.2%)* 1918calAD - ... (20.7%)*
IAAA-182337	1,460 ± 20	83.35 ± 0.24	1,454 ± 23	593calAD - 640calAD (68.2%)	568calAD - 647calAD (95.4%)
IAAA-182338	1,470 ± 20	83.27 ± 0.24	1,455 ± 23	591calAD - 639calAD (68.2%)	567calAD - 647calAD (95.4%)

[参考値]

* Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

(この警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)

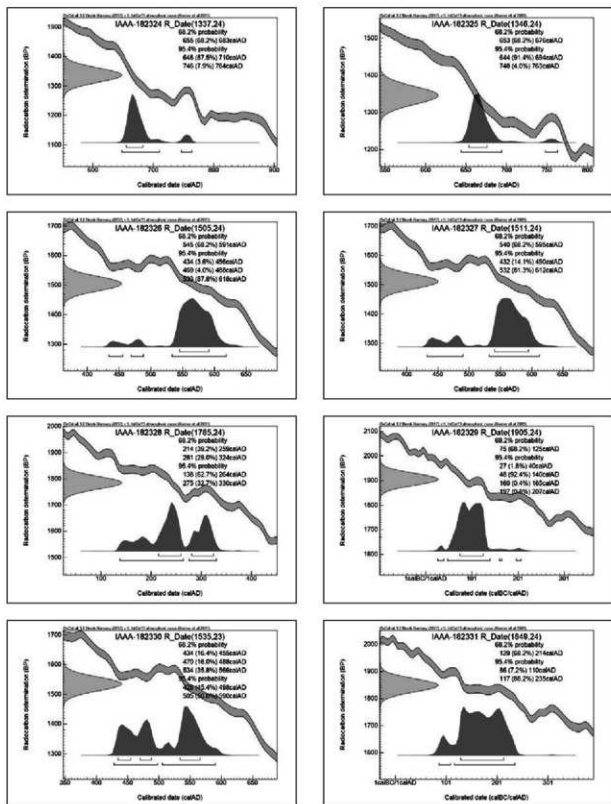


圖 1-1 曆年校正結果

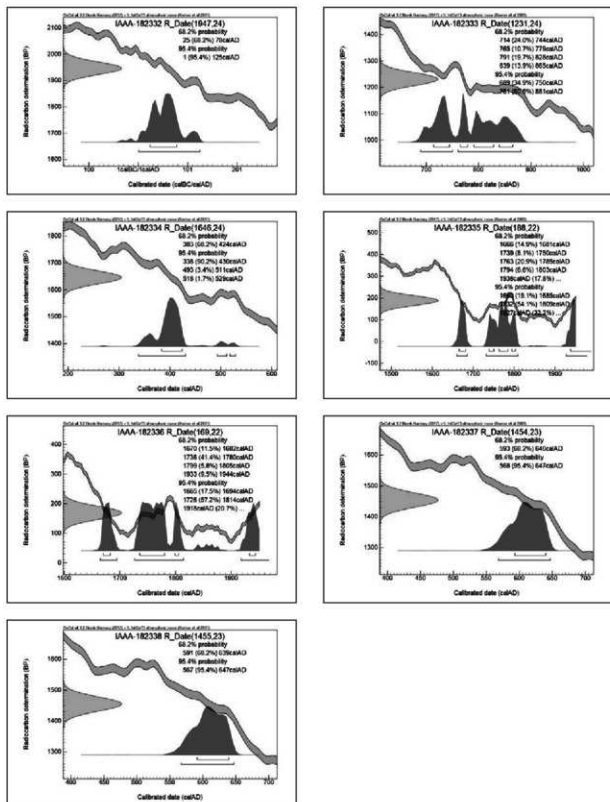


図 1-2 暦年較正結果

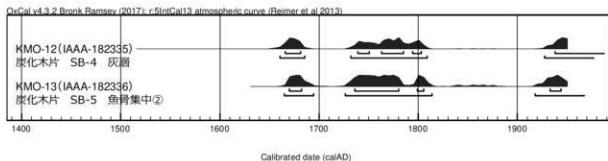


図 2-1 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図, cal BC/AD, 参考)
Ⅱ層、近世アイヌ文化期の試料 (KMO-12、13) を示した。

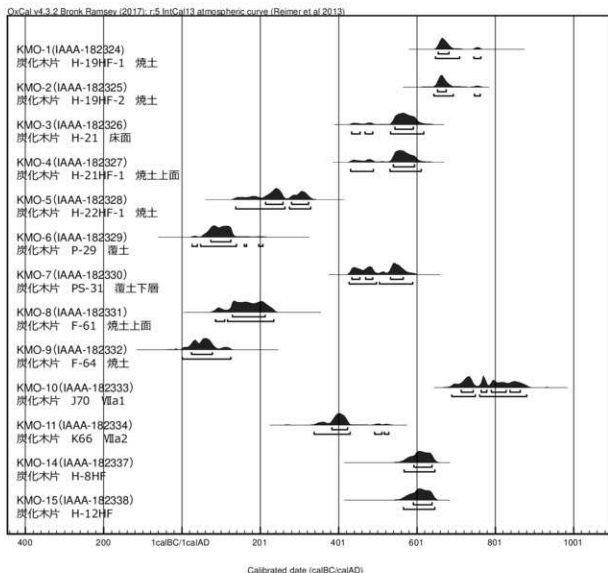


図 2-2 暦年較正年代グラフ (マルチプロット図, cal BC/AD, 参考)
Ⅶ a 層、オホーツク文化刻文期、およびⅦ b 層、統縄文時代後半の試料 (KMO-1~11、14~15) を示した。

10 火山灰同定

アースサイエンス株式会社

火山灰同定試料一覧

番号	種別	出土地点 (遺構/発掘区)	層位	取上日	重量(g)	備考
No1	テフラ	J15	II	2018.10.15	36.3	
No2	テフラ	J15	II	2018.10.15	24.4	
No3	テフラ	I105	IV	2018.10.17	11.9	
No4	テフラ	I105	VI	2018.10.17	35.3	

1 分析方法

前処理

分析に使用する試料は古澤（2003）の方法を基本に前処理を行った。洗浄は、はじめにナイロン製使い捨て#255メッシュシート（糸径43 μ m、オープニングワイド57 μ m）を用い、流水中で洗浄した。残砂を#125メッシュシート（糸径70 μ m、オープニングワイド133 μ m）を用い水中で篩い分けた。これにより、1/8~1/16mmに粒度調整した試料を超音波洗浄機を用いて洗浄し、表面に付着した粘土分などを洗い流した。

顕鏡（粒子組成分析）方法

前処理・プレバートされた粒子は偏光顕微鏡（100倍）を用いて観察し、300粒子（1000粒子の平均値）を古澤（2003）の区分手法にしたがって、火山ガラス、長石類・石英、斜方輝石、単斜輝石、普通角閃石、カミングトン閃石、その他の重鉱物（カンラン石、ジルコンなど）、不透明鉱物および岩片・風化粒に区分した。火山ガラスは発泡跡の大きさにより、発泡跡が0.1mm四方に2~3個以内しか見られない大きな発泡跡を有するバブルウォールタイプ（Bw）、発泡跡が0.1mm四方に4個以上見られるバミスタタイプ（Pm）、発泡跡どうしが密着せずガラス中に細かい泡となって含まれるか全く含まれない急冷タイプ（O）の3タイプにまとめて区分した。また、重鉱物組成については、100粒子を目処に、斜方輝石、単斜輝石、普通角閃石、黒雲母、その他（不透明鉱物、ジルコン、アパタイト etc.）に区分し、粒子組成とは別に記載した。

屈折率測定方法

測定には、浸液の温度を直接測定しつつ屈折率を測定する温度変化型測定装置^{マイオット}“MAIOT”を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001 程度である（古澤、1995）。

顕微鏡は、ニコン顕微鏡ECLIPSE600シリーズ（偏光・位相差装置付）、位相差用対物レンズ（10倍および長作動20倍）、光源は12V100Wハロゲンランプ、全誘電体干渉フィルター（589.3nm）を使用した。温度変化装置として全面等温度透明加温板（0.1 $^{\circ}$ Cの精度で制御可能）、プログラム温度コントローラー（0.1 $^{\circ}$ Cの精度で制御可能）、高感度熱電対（0.1 $^{\circ}$ Cの精度で測定可能）、パーソナルコンピューターを使用した。

以下に測定の手順を示す。

顕微鏡ステージ上に設置した加温板に、浸液と試料および熱電対とを密封したごく薄いカプセルを載せる。カプセルは、大きさ18 \times 24mm、厚さ0.12~0.17mmのガラス板（下板）と、直径18mmで同じ厚さのガラス板（上板）との間に、熱伝導性の高いシーリング材を使用して浸液と試料および熱電対を密封したもので、総厚が0.5~0.6mm程度である。浸液は単一化学式を有する有機化学合成液である。

つぎに、加温板の温度を制御して、ほぼ一定の温度変化速度で、浸液および試料の温度を室温～60℃の範囲で変化させる。この様子を、位相差状態の顕微鏡で観察する。観察時の波長はナトリウムD線(589.3nm)である。この画像を観察しながら、ガラスの輪郭が消失する温度を記録する。実際には温度上昇あるいは下降時に1回パーソナルコンピューターに接続されたマウスを左クリックする。屈折率は、あらかじめ作成した各浸液の温度と屈折率との一次式から変換され、パーソナルコンピューターに記録される。測定個数の目処はガラスが30片、斜方輝石が10片である。ただし、値にバラツキがある試料では、モードを把握できるまで測定した。記録された屈折率、熱伝対の温度データはリアルタイムにパーソナルコンピューターに入力され、温度、測定個数などとともに屈折率ヒストグラムとしてモニターに表示される。

2 分析結果

分析結果

粒子組成分析結果を表1に、屈折率測定結果を図1(火山ガラス)および図2(斜方輝石)に示す。

表1 カモイベツ遺跡テフラの粒子組成分析結果

試料番号	Volcanic Glass			Light Mineral		Heavy Mineral					Rock	V.Rock	生物遺骸	Total	備考
	Bw	Pm	O	Pl+Qu	Opx	Cpx	Gln	Oth	Opq						
No.1	11	101	8	100	22	8	0	0	32	0	18	0	300		
No.2	2	174	7	82	12	3	0	0	20	0	0	0	300	燧灰石含む	
No.3	3	8	8	103	39	57	0	0	33	12	0	37	300	テフラ混在?	
No.4	0	38	0	80	23	8	0	151	0	0	0	0	300	Othは褐色不明鉱物 アモルファス	

試料番号	火山ガラスの屈折率	斜方輝石の屈折率
No.1	1.500-1.509	1.712-1.717
No.2	1.503-1.509	1.706-1.718
No.3	1.496-1.505, 1.507-1.518	1.700-1.714
No.4	1.510-1.524	1.707-1.714

粒子組成の特徴

No. 1

本試料は軽石タイプ火山ガラスを主体とし、斜長石を多く含む。有色鉱物としては斜方輝石>単斜輝石が含まれる。火山ガラスの屈折率は1.500～1.509、斜方輝石の屈折率(γ)は1.712～1.717である。

No. 2

本試料は軽石タイプ火山ガラスを主体とし、斜長石を多く含む。有色鉱物としては斜方輝石>単斜輝石が含まれる。リン灰石も含む。火山ガラスの屈折率は1.503～1.509、斜方輝石の屈折率(γ)は1.706～1.718である。

No. 3

本試料は斜長石、単斜輝石、斜方輝石、不透明鉱物および生物遺骸を主体とし、火山ガラスを少量含む。火山ガラスの屈折率は1.496～1.505、1.507～1.518 (Bi-modal?)、斜方輝石の屈折率(γ)は1.700～1.714である。

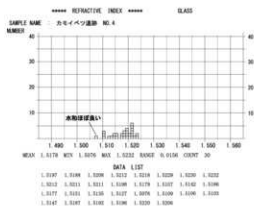
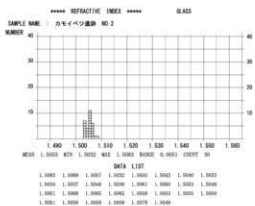
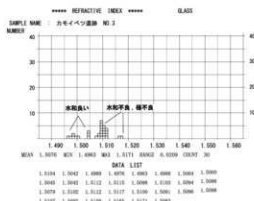
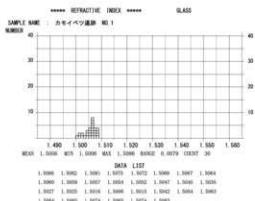


図1 カモイベツ遺跡No.1・2・3・4の火山ガラス屈折率
(No.1・2・4はPm主体、水和不良、極不良)

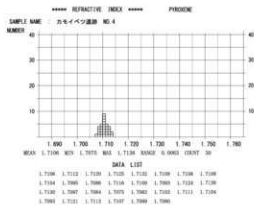
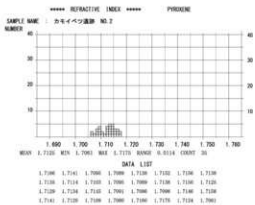
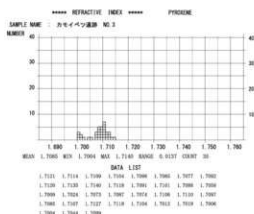
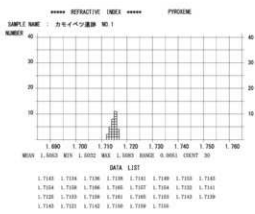


図2 カモイベツ遺跡No.1・2・3・4の斜方輝石屈折率

No. 4

本試料は褐色でアモルファスな粒子（テフラ起源ではない）を主体とし、斜長石および斜方輝石を多く含む。軽石タイプ火山ガラスもやや多く含む。火山ガラスの屈折率は1.510～1.524、斜方輝石の屈折率（ γ ）は1.707～1.714である。

3 考察**3.1 No. 1**

No. 1は表土の下「Ⅱ層」黒褐色土中に斑状に含まれるテフラで、これより上位に近世アイス文化期とみられる貝・骨ブロックがある。

No. 1は苦鉄質鉱物が斜方輝石>単斜輝石で、軽石は主として軽石タイプであるテフラである。

No. 1の火山ガラス屈折率は1.500～1.509であり、Ta-aが1.498～1.508、Ta-bが1.500～1.509である（町田・新井、1992）ので、これらと重なる。

No. 1の斜方輝石の屈折率は1.712～1.717であり、Ta-aが1.713～1.717、Ta-bが1.712～1.716である（町田・新井、1992）ので、やはりこれらと重なる。

Ta-aもTa-bも苦鉄質鉱物は斜方輝石と単斜輝石で火山ガラスは軽石タイプということで共通している。

したがって、分析値自体からNo. 1がTa-aがTa-bかを判断することはできない。道東ではTa-aの分布が確認されている（例えば、別海町茨散：遠藤・隅田、1996）。一方、Ta-bは分布軸が東南東方向のため、調査地周辺に飛来していないと考えられる。

すなわち、No. 1はTa-a（AD1739）であると判断できる。

3.2 No. 2

No. 2は表土の下「Ⅱ層」黒褐色土中に斑状に含まれるテフラで、No. 1の直下に分布する。

No. 2は苦鉄質鉱物が斜方輝石>単斜輝石で、火山ガラスは主として軽石タイプである。

No. 2の火山ガラスの屈折率は1.503～1.509であり、発掘時に考えられたKo-c₂のそれは1.501～1.505である（町田・新井、1992）ので、No. 2はKo-c₂と一部が重複し、一部は屈折率が高い。むしろ、No. 1と同じ火山ガラス屈折率を示すことからTa-aの可能性が考えられる。Ta-aの斜方輝石の屈折率は上記のように1.713～1.717であるが、No. 2のそれは1.706～1.718でTa-aと一部が重なる（図2（2）に示すように、バイモーダルな分布を示すが、Ta-aはその高屈折率側のピークと重なる）。一方、Ko-c₂の斜方輝石屈折率は1.709～1.713（町田・新井、1992）で、No. 2の低屈折率側のピークと重なる。

すなわち、No. 2はKo-c₂（AD1694）とTa-a（AD1739）が混合したような組成のテフラである。

このような混合はNo. 1とNo. 2が近接して分布しているため、小規模な浸食による再堆積があれば混合が可能である。

3.3 No. 3

No. 3はⅣ層で、低地側泥炭質の土壤（Ⅲ層）下に層状に堆積し、Ⅶa（オホーツク文化期）の上位に分布する。分析の結果、純粋な火山灰ではなく、火山灰混り土であった。

No. 3は苦鉄質鉱物が単斜輝石・斜方輝石で、火山ガラスは軽石タイプ>バブルウォールタイプである。

火山ガラスは水和の良いものと不良のものが混り、また屈折率は1.496～1.505と1.507～1.518に分けることができ、あるいはさらに分けることもできる（図1（3））。

同じく、斜方輝石の屈折率は1.700~1.714の範囲にあるが、やはり複数のピークに分れる(図2(3))。

したがって、複数のテフラが土壤中に混じっている可能性が高い。

1つは摩周系のテフラが混入している可能性が考えられる。Ma-b(7.7~9.8 cal BP:中村ほか、2008)は苦鉄質鉱物が斜方輝石・単斜輝石(少量)で、火山ガラスは軽石タイプである。火山ガラスの屈折率は1.501~1.504(町田・新井、1992)で、斜方輝石のそれは1.707~1.711である(中村ほか、2008)。火山ガラスの屈折率はNo. 3の屈折率の低い部分と一致する。また、斜方輝石の屈折率からみても、Ma-bはNo. 3の範囲に含まれる。したがって、No. 3にMa-bが混入していても矛盾はない。

白頭山苦小牧(B-Tm:10世紀)は苦鉄質鉱物を含まず、火山ガラスは軽石タイプとバブルウォールタイプで、火山ガラスの屈折率は1.508~1.519である。これはNo. 3の火山ガラスの屈折率の高い部分と一致する。

したがって、No. 3はMa-bとB-Tmが混入した土壌である可能性が考えられる。

3.4 No. 4

No. 4はVI層でNo. 3の下位、Ⅷa(オホーツク文化期)の上位に分布する。No. 3と同様純粋な火山灰でなく、火山混り土である。

No. 4の苦鉄質鉱物は斜方輝石>単斜輝石で、火山ガラスは軽石タイプである。

No. 4の火山ガラスの屈折率は1.510(1.508)~1.524、斜方輝石屈折率は1.707~1.714である。

オホーツク文化期にかかって、かつMa-bより下位のテフラとしては羅臼2(Ra-2:1.4Ka)が知られている(町田・新井、1992)。Ra-2はスポンジ状火山ガラス(軽石タイプ)に富み、苦鉄質鉱物は斜方輝石・単斜輝石を含む。脱水ガラスの屈折率として1.490~1.525と広い組成幅が、斜方輝石の屈折率として1.706~1.712が報告されている(中村ほか、2008)。したがって、No. 4はRa-2である可能性が高い。

引用文献

- 遠藤邦彦・隅田まり(1996):北海道東部、茨城における最終氷期泥炭層。日本第四紀学会編「第四紀露頭集-日本のテフラ」, p108.
- 古澤 明(1995):火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析。地質雑, 101, 123-133.
- 古澤 明(2003):洞爺火山灰降下以降の岩手火山のテフラの識別。地質雑, 109, 1-1.
- 町田 洋・新井房夫(2003):「新編火山灰アトラス-日本列島とその周辺」。東京大学出版会, 336.
- 中村有吾・九茂美香・平川一臣・澤村教伸(2008):北海道東部、知床半島の完新世テフラ層序。第四紀研究, 47, 39-49.

11 赤色顔料について

1 斜里町における赤色顔料原材料産出地とベンガラ製作関連遺物

知床半島には、膨大な量の褐鉄鉱床が埋蔵されている。褐鉄鉱床には、海別鉱山や宇登呂鉱山、イワウベツ川上流鉱床、イダシユベツ鉱床、知床鉱山、羅臼鉱山などがある。大部分の鉱床は、知床半島脊梁の西側宇登呂方向に分布し、羅臼側には少ない。このうち、褐鉄鉱に鉄明礬石が付随する鉱床には、海別鉱山と宇登呂鉱山が挙げられる。(齋藤、五十嵐1965)。半島基部に位置する海別岳の北山麓には、糠真布川が西流し、河口域は遺跡の所在する峰浜地域に通じている。海別岳山麓に見られる褐鉄鉱床は、この糠真布川の流域に沿って発達している。峰浜地域から、海別鉱山までは約5km、上流域の宝菜沢鉱床は約9km、5号の沢鉱床は約12km、植別川上流鉱床までは約16kmの距離にある。このうち、海別鉱山では褐鉄鉱と鉄明礬石が互層を構成して縞状を呈している所もあるが、上流域の宝菜沢鉱床や5号の沢鉱床では鉄明礬石はほとんど伴っていない(土居、松井1960)。

斜里町内の遺跡では、峰浜海岸1遺跡や尾河台地遺跡ほかから赤色顔料(以下ベンガラ)関連遺構や遺物の出土が報告されている。縄文時代前期の峰浜海岸1遺跡では、大量の焼けた鉄明礬石が出土し、ベンガラが付着したすり石や礫等もあり、ベンガラ製作址であった事が指摘されている。原材料である鉄明礬石やベンガラが付着する石器等があるにもかかわらず、「生成されたはずのベンガラの所在が判明しない」とされ、ベンガラが他の場所に交易品として運び出された事が推察されている。また、出土した鉄明礬石を示差熱分析計と粉末X線回折法を用いて、ベンガラが形成されるまでの加熱実験も行っている(斜里町教委1999、合地・松田2004)。統縄文時代の尾河台地遺跡では、褐鉄鉱石やベンガラの付着する石器等とともに各所からカワシンジュガイが出土した。出土したすり石の中には、炭酸カルシウムが付着しているものがあり、「すり石で粉にしたカワシンジュガイを溶剤として使用した」と、ベンガラ製作過程についても検討している(斜里町教委1983)。

2 カモイベツ遺跡出土の赤色顔料関連遺物の分析

2-1 はじめに(表1)

本遺跡で確認したベンガラ関連遺構や遺物は、統縄文時代宇津内Ⅱ式期が主体である(表1)。このうち、遺構から出土した褐鉄鉱(針鉄鉱や鉄明礬石)または赤鉄鉱等と分類されたものの中から4点について、X線回折装置(XRD)を用いた分析を行った。試料は4点ともに非破壊で行い、表面等が欠落したものを使用した。分析結果中に石英(quartz)がみられるものがあるが、これは包含層中の石英が試料に付着し水洗時に取り切れず残っていたものと考えられる。

2-2 分析試料(表2・図版1)

試料1: 宇津内Ⅱa式期の土坑墓GP-3(旧44号址、図IV-15・16)から採取した粉末および径1cm程度の塊状のベンガラで、赤褐色を呈する。

試料2: オホーツク刻文期の竪穴住居跡H-9(旧15a号址、図IV-44)の床面で採取した準大の亜角礫で、赤鉄鉱として分類されていた。

試料3: 宇津内Ⅱa式期の集石S-3(D136区、IX層)の北側に分布するベンガラ範囲R-5で採取した褐鉄鉱としたもので、最大5cm程度の角礫状を呈する。

試料4: 宇津内Ⅱa式期の焼土F-7(旧PIT22、図VI-23)で採取した準大の亜角礫で褐鉄鉱として分類していた。暗赤褐色を呈し他の試料とは色調が異なる。

表1 カモイベツ遺跡赤色顔料(ベンガラ)出土遺構

調査年	時期	層位	遺構名 (又は遺構名)	遺構種別	発掘区 (又は発掘区)	掘鉄鉱 重量(g)	ベンガラ 重量(g)	備考
2008	宇津内Ⅱa	Ⅴ層	GP-3(44号址)	土坑墓	M134(98d)		1088.5	墓上面に集石、ベンガラ全面覆う、ベンガラ付着確
2008	宇津内Ⅱa	Ⅴ層	R-1(29号址)	ベンガラ制作址	L144(106c)		※	※すり石にベンガラ厚く付着
2008	オホーツク岡文	Ⅴ層	H-9・10(15a・b号址)	壁穴住居跡	N99・100(7b・7f)	288.3		15b号址・14号址(集石)に切られる、床面赤鉄鉱
2008	宇津内Ⅱa	Ⅴ層	P-5(28号址)	土坑	L142・143(105c)		※	※長さ325mmのベンガラ付着確、黒曜石細片も多数に出土
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅴ層	P-13(9778)	土坑	G・H157・158(F124)		※	※ベンガラ付着台石
2011B	宇津内Ⅱb	Ⅴ層	SP-7(F1712)	石組炉	G・H158(F125)	1.0		方形の石組炉、焼骨片、褐鉄鉱
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	PS-24(F1715)	集石土坑	F163・164(F129)	1.2		木炭、褐鉄鉱
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	SP-6(F1716)	石組炉	G164(E129)	102.9	32.1	焼砂、魚骨、褐鉄鉱
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	PS-23(F1717)	集石土坑	F・G164(E129・130)	0.3	60.3	褐鉄鉱、ベンガラ付着磨石
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	F-7(F1722)	焼土	F164(E129)	149.4	223.3	土坑、焼砂、魚骨、褐鉄鉱、ベンガラ付着磨石
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	F-8(F1721)	焼土	F163(D128)		48.9	土坑、焼砂、ベンガラ
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	R-5(S-3)	ベンガラ範囲	(D136・137)		772.2	D136区の周囲に褐鉄鉱分布
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	S-4(O1720)	集石	F166・167(E131)		281.4	木炭、焼砂、ベンガラ 遺物なし
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	S-5(O1714)	集石	G163・164(E129)		228.3	ベンガラ、浅い土坑?
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	S-6(集石1)	集石	F164(D129)		※	※ベンガラ付着台石
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	R-2(O1711)	ベンガラ範囲	E172(D136)		35.5	ベンガラ
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	R-3(O1724)	ベンガラ範囲	G164(E129)			ベンガラ
2011B	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	R-4(O1718)	ベンガラ範囲	F162・163(D・E128)	124.8	168.3	ベンガラ
2012	宇津内Ⅱb	Ⅴ層	P-17(F1747)	土坑	G153(E119・120)	0.0	0.0	堆土? 褐鉄鉱 ベンガラ
2012	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	P-21(F1763)	土坑	H152(F119)		1.3	ベンガラ付着台石 土壌水炭から
2012	宇津内Ⅱa	Ⅵa層	P-22(F1761)	土坑	H151(F119)		19.0	ベンガラ 土壌水炭から

* 掘鉄鉱は酸性度が低く、加水分解が完全な場合の試測であり、鉄明礬石に比して9割程度を保つ条件下で加水分解の途中で定着されたもの(斎藤1965)。

2-3 分析結果(表2・図1)

試料1: 赤鉄鉱(Hm)に同定される回折パターン(ピークの位置と強度比)が強く反応している。また石英(Q)や長石グループ(Ab)といった透明・白色鉱物も反応している。この結果から、赤鉄鉱と判断される。

試料2: 赤鉄鉱(Hm)に同定される回折パターンが、試料1ほどではないがやや強く反応している。また石英(Q)もやや強く反応している。結果から、赤鉄鉱である。

試料3: 赤鉄鉱(Hm)に同定される回折パターンが強く反応している。また鉄明礬石(J)に同定される回折パターンも強く反応している。結果から、鉄明礬石が加熱され赤鉄鉱が生成されたものとみることができる。当試料が出土したR-5やS-3の周囲からは、多量の褐鉄鉱石(針鉄鉱や鉄明礬石)等が分布し、ベンガラが付着するすり石や台石、礫等(図IV-36-16、IV-37-25、IV-37-25~28)が出土していることも関連すると思われる。

試料4: 赤鉄鉱(Hm)に同定される回折パターンのうち一部がわずかに反応している。また石英(Q)に同定される回折パターンが強く反応している。結果から、赤鉄鉱であるとみられる。当試料が出土したF-7では、褐鉄鉱石(針鉄鉱や鉄明礬石)やベンガラが付着したすり石(図IV-23-1)も出土しており、関連があると思われる。

分析試料1・2・4には、石英(Quartz)がみられるが、これは包含層中の石英が試料に付着し、水洗の際洗い切れずに残っていたものに反応したものと考えられる。

2-4 まとめ

以上の事から、ベンガラ^{ベンガラ}の生成には、近郊の鉱床や糠真布川流域等から採取した褐鉄鉱石（針鉄鉱や鉄明礬^{せうめいらん}石または天然の赤鉄鉱を原材料に用い、焼成して赤色の増した赤鉄鉱を使用していた事が考えられる。ベンガラが確認された周囲には、焼土や顔料付着石器が伴っている場合があり、加工状況の一端を垣間見ることができる。（笠原）

※分析データ提供：地方独立行政法人北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部地質研究所

表2 赤色顔料X線回折法分析試料

試料番号	出土地点					分類名	重量 (g)	分析結果(同定鉱物)				
	調査年	遺構名	旧遺構名 / 発掘区	層位	遺物番号			Hm (赤鉄鉱)	G (針鉄鉱)	J (鉄明礬石)	Q (石英)	Ab (長石グループ)
試料1	2008	GP-3	44号址	覆土		ベンガラ	12.3	◎			○	○
試料2	2008	H-9	15号址/70e	床面	1977	赤鉄鉱	281.0	◎			○	
試料3	2011	R-5	D136	IX		褐鉄鉱	126.0	◎		○		
試料4	2011	F-7	PIT22	IX	272	褐鉄鉱	137.0	○			○	

* Hm(hematite), G(goethite), J(jarosite), Q(quartz), Ab(albite)

図版1 赤色顔料X線回折法分析試料



試料1：GP-3（44号址）出土



試料2：H-9（15a号址）出土

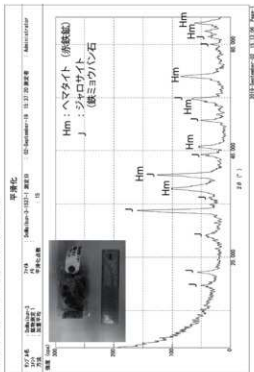


試料3：R-5（D136区IX層）出土

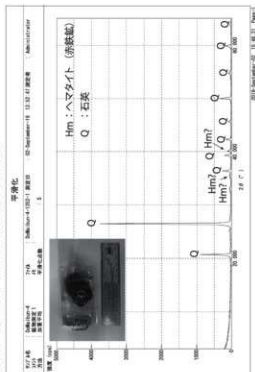


試料4：F-7（PIT22）出土

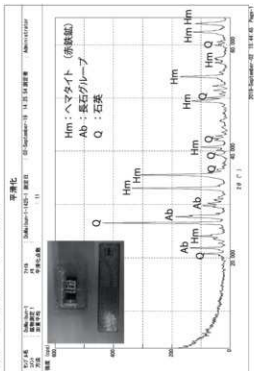
試料 3 : 2011 年 R-5 (D136 区) 区際



試料 4 : 2011 年 F-7 (P122/E129 区) No. 272



試料 1 : 2008 年 G P-3 (44 号址)



試料 2 : 2008 年 H-9 (15 号址 / 70e 区) 床 No. 1977

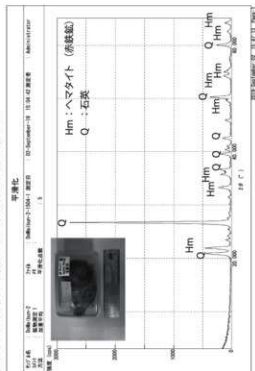


図 1 赤色顔料X線粉末回折法分析結果

IX章 まとめ

カモイベツ遺跡は、知床半島の基部、斜里平野の東端に形成された海岸砂丘上に立地する。6次にわたる調査により、縄文時代後期～晩期の少数の遺構、続縄文時代の土坑墓・土坑・焼土群、オホーツク文化期の竪穴住居跡群、アイヌ文化期の貝・骨ブロックなどを検出し、縄文時代中期～アイヌ文化期の遺物が出土した。遺構・遺物の内容と土層の堆積状況から、新たな砂丘の形成や周辺環境の変化とともに遺跡における生活舞台の変遷過程を知ることができた（II章2）。

各時期の特徴的な遺構・遺物のいくつかを挙げ、まとめとする。

1 主な遺構群の特徴

(1) 続縄文時代の特徴的な遺構

宇津内Ⅱ a 式期を主体としたベンガラ製作関連遺構・遺物

赤色顔料に関連する遺物が各層から出土したが、特にIX層宇津内Ⅱ a 式期はその主体をなす。原料となる「褐鉄鉱」、焙熱して生成された赤鉄鉱、赤色顔料が付着したすり石・石皿、精製されたベンガラなど一連の工程に関わる遺物が出土している。ベンガラが分布する周辺には、製作に関連するとみられる焼土や土坑が検出されている。

「褐鉄鉱」と分類されたものでは、分析（VIII章11）で「試料3」とした角礫状または破砕した礫片が多い。分析の結果、鉄明礬石を由来とし赤鉄鉱が生成されたものとみることができ、ウナベツ鉱床など周辺の産地から鉄明礬石を含む「褐鉄鉱」が遺跡内に多量に持ち込まれたとみられる。精製されたベンガラは該期の土坑墓2基に撒布されているが、ほかに分布範囲が多数みられることから、複数箇所で作られたベンガラを他の地域に搬出したことも考えられる。

宇津内Ⅱ b 式期の遺構群

調査区中央西寄り（2012年主体、2008・2011年調査区の一部）に主に分布する。土坑、石組炉、焼土、土器埋設遺構などがある。特に石組炉が目立ち、単独で検出されたものが多い。亜円礫で囲み、内側を窪ませて火床面を形成している。火床面からは魚骨・海獣骨がまとめて出土した。恒常的な屋外炉として機能していたと考えられる。

後北C₂-D期の遺物出土状況と遺構

国道北側の砂丘を主体に、当時の礫浜の端部まで遺物が広分布し、砂丘上を広域に利用したことがうかがえる。遺物出土状況の特徴として、焼土を中心として炭化木片や小骨片、大小の礫や黒曜石の微細な剥片、土器片などが広範囲に分布する点が挙げられる。散点的に一個体や半個体のままとった土器が出土する。それぞれ活動の痕跡や廃棄単位が重複したものと考えられる。

このような分布状況の中で、掘り込みがないが焼土と柱穴状小土坑のままとりから住居跡としたものが1軒ある（H-22）。砂地の特性から柱穴の確認が困難な状況ではあるが、「移動性の高い生活」（斜里町2008ほか）とされる該期の「住居跡」として、こうした遺構も積極的に評価したい。

また2011年調査区で土坑墓1基を検出した。上面に「蓋石」となる礫、「上層遺構」に頭蓋骨と四肢骨が集約された人骨、「下層遺構」に脆弱な人骨の一部と副葬品のガラス玉（カリガラス・VIII章2）が5点出土した。一度埋めた土坑の上位を再度掘り込み、改葬を行ったと解釈されている（再葬墓・VIII章5）が、追葬の可能性も考えられる。

(2) オホーツク文化刻文期における堅穴群 (図X-1)

堅穴住居跡・堅穴遺構を16軒(建て替え等による重複を含む)検出した。刻文期として確認・調査された遺跡での堅穴軒数としては大規模に位置づけられる(表X-1)。

時期

出土土器から、刻文期～擬縄貼付文期であり、特に刻文期の新しい段階のものが主体とみられる。重複による新旧関係が確認できたのは、以下のとおりである。

H-3→4、6→5・7、11→9→10(建て替えか)、19→20

なお参考までに¹⁴C年代測定では、6世紀後半～8世紀前半、特に7世紀に相当する値を示す試料が多かった(Ⅷ章9)。ただし新旧関係の異なるデータもあり、検討が必要である。

立地の特徴

刻文期の堅穴が確認・調査された遺跡は、礼文島からオホーツク海沿岸を経て根室まで、および奥尻島に点在する(図X-1上段)。これらの立地は、海上交通のメルクマールとなる岬の麓などが多い。このうち網走市モヨロ貝塚は代表的な拠点集落であり、斜里町ではウトロ遺跡(斜里町教委2011)が規模が大きい。カモイベツ遺跡はこの間に位置する集落として、中継地の役割も果たしていた可能性がある。ただその立地は、背後に知床連山のウナベツ岳があるものの目印としての岬ではなく、潟湖および小河川に隣接する砂丘端部にあたり、上記の拠点集落とは様相が異なる。サロマ湖畔の海岸砂丘上に立地する北見市(常呂町)栄浦第二遺跡などに類似する。

また細長い砂丘上ながら周辺に広がる場所があったにもかかわらず、東西約80mの間に堅穴住居が集中している。この点は他のオホーツク文化期の集落にもみられる特徴である。

堅穴の規模・構造の特徴 「小型堅穴」

調査区の幅が狭いため全形を検出したものはほとんどないが、推定される堅穴の規模と形状・構造から、以下のように分けられる。

- ① 推定長軸3m前後、方形または五角形の小型堅穴 H-5・19・20・21
- ② 推定長軸4～5m、(隅丸)多角形の堅穴 H-1・3・12・13
- ③ 推定長軸5～6m、多角形の堅穴 H-6・7・14
- ④ 推定長軸7～8m、多角形の堅穴 H-8・9

構造上では、上記②・③のうち、H-12・13・14は集石土坑上に薄い砂層を挟んで炉が構築されている。③・④のほとんどに溝があり、④には貼床が構築されている。規模が大きいほど構造が付加され、小さいものはそれらが欠落することが多いが、石組炉は規模に関わらず設置される。

オホーツク文化期の堅穴は、10mを超える多角形を呈し、貼床・溝・柱穴・石組炉・骨塚などの構造があるものが典型的であるが、当遺跡では貼床・溝などがある最大の堅穴(H-8)でも推定8mに及ばず、全体的に小型で付属施設を欠くものが多い。特に①の中には、約2.5m四方で石組炉のみを有する堅穴(H-21)がある。このような刻文期の小型堅穴の類例は少ないものの、近郊ではウトロ遺跡町道地点(豊原ほか2008)3号址例がある。約4mの隅丸方形で、小型ながら床面全面に貼床が施され周溝が巡る点は当遺跡と異なる。

オホーツク文化期における「小堅穴」の存在は山浦清が言及し(山浦1979)、冬季の狩猟小屋ないし作業小屋を想定している。また天野哲也は、礼文町香深井5遺跡例の分析を通して、「仮小屋」から「仮設堅穴住居」へ移行し、地域開発の前進基地として機能したとする(天野2003)。これらはオホーツク文化前期に多く、中期の刻文期の検出例はまれである。

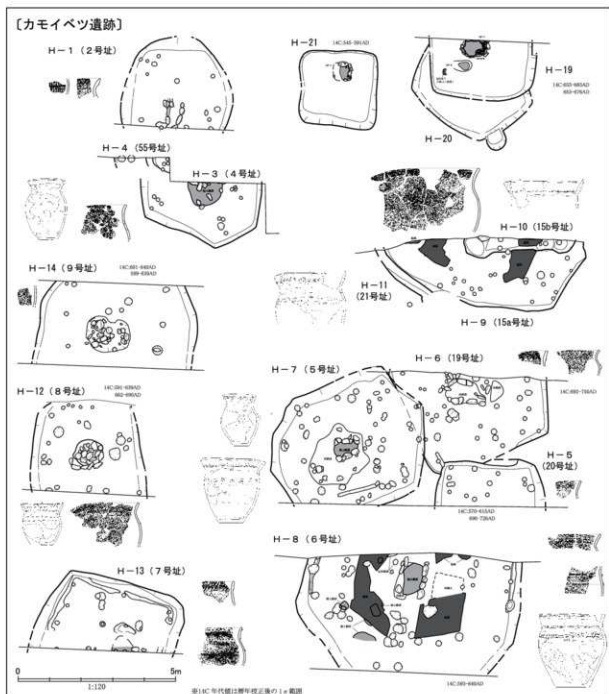
当遺跡の「小堅穴」は、「仮小屋」の規模・構造であり、作業小屋として機能したと考えられる。



表1 刻文期竪穴調査遺跡

番号	市町村	遺跡	刻文期竪穴調査回数	最大竪穴長軸(m)	備考
1	旭川市	青森砂丘遺跡	2	-	3レンガ調査主体
2	礼文町	香深井1遺跡	1 (2)	-	田舎深井A遺跡
3		香深井5遺跡	3	(5.7)	
4	利尻富士町	利尻富士町茂森遺跡	2	9.6	
5	稚子町	赤川砂丘遺跡	2	9.3	
6	稚子町	徳式野倉遺跡	2	7.6	
7	網走市	徳島野尻遺跡	2	8.9	
8		中口の丘	3 (7) <	12.6	3軒重複×2
9	斜里町	カモイベツ	13 (16)	7.2	
10	(11)	ウツノ遺跡	11 (12)	11.2	ウツノ南砂丘遺跡含む
11	標津町	三本木遺跡	2	-	3レンガ調査のみ
12	根室市	赤天島	1	12.5	
13		コタンケン遺跡	3	53.1	

※発掘調査が行われ、刻文期と確認・報告されたものに限定している。各地に多数存在する未調査の竪穴は上記の表に含まれていない。
 ※竪穴軒数の()は重複を含めた軒数



図区-1 オホーツク文化期(刻文期)の竪穴

(3) アイヌ文化期のカモイベツと松浦武四郎 (図X-2)

当遺跡の東端部では、幅の狭い調査区ながらアイヌ文化期の貝・骨ブロックを10か所検出した。「貝塚」と称するには厚さとまとまりにやや欠けた状態で、連続と続いていた。ただし灰層を伴い魚骨が集中する部分もある（SB-3下位・4・5・8・10内の一部など）。儀礼的行為に関わる遺構・遺物は明瞭には確認できなかったが、送り場・捨て場として機能していた可能性がある。

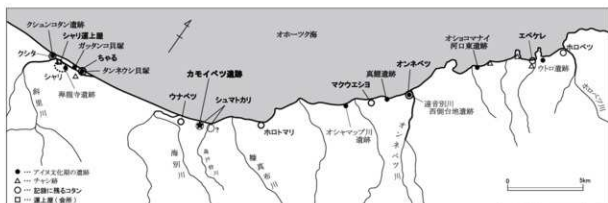
貝・骨ブロックの形成時期について、同遺構は樽前a降下火山灰より上位で薄い黒色土を挟んで検出しており、その後形成された近年の砂層に覆われている。また出土遺物の内容は、近代以前のものと思われる。以上の点から、形成時期は1739年より新しく18世紀後半～19世紀半ばにあたる。なお参考までにSB-4・5の灰層・魚骨層の炭化木片を試料とした¹⁴C年代測定では、ばらつきがあるものの18世紀後半をピークとする値が得られている（Ⅷ章9）。

19世紀半ばといえば、幕末の探検家・松浦武四郎がこのころ蝦夷地を訪れ、山川地理・地名解・植生・動物相そしてアイヌの人々やその暮らしぶりについて詳細な記録を残している。斜里付近では、弘化3年（1846年、往復）と安政3年（1856年）・同5年（1858年）の3度訪れており、それぞれ紀行文・日誌を著している。中でも安政5年『戊午志礼登古日誌』には、当地付近が詳述されている。ウトロ方面からシャリ運上屋への行程中、「シユマトカリヘツ」（＝島戸狩川、峰浜）の項で、「川端より五六丁（600m前後）も行くと一面の茅野になり、その中に人家二軒がある。」とあり、当遺跡中央部付近にあたる。住人に尋ねると、「ここは昔から我々の村で、先祖の墓もあるゆえ住まいす」との返答であり、当遺跡付近に「昔から」住居や墓があったことがうかがえる。そして調査区東部の貝・骨ブロックはこれに関連する可能性があり、そうであれば松浦武四郎が訪れた際の住人家族もしくはそれ以前の「先祖」が残したものと考えられる。

日誌にはさらに「これより砂浜を行くと「カモイヲベツ」形計りの小川で、上は平野である」と当遺跡西部のカモイベツ川の存在が記され、続けて近隣の「ウナベツコタン」について詳述されている。なお普及版の『戊午知床日誌』には、このウナベツコタンにおいて、アイヌの人々のシャリ場所での苛酷な扱いの話が記録されており、近隣コタンのアイヌの人口減少が実数で表記されている。上記の茅野の1軒（カモイベツ付近）も「残らず雇に引き上げられ」て空き家になっているとのことである。

図X-2には、斜里～ウトロ間におけるアイヌ文化期の遺跡の位置と、松浦武四郎ほか古文獻に記録された周辺コタンを記した。斜里町教育委員会の調査により、これらの遺跡が記録されたコタンに比定できるものがある（タンネウシ貝塚、遠音別川西側台地遺跡ほか）。「カモイベツ」もまた、松浦武四郎の記録と遺跡の内容が関連する好資料となろう。

(阿部)



(知床博物館199211を参照)

図X-2 カモイベツ遺跡周辺のアイヌ文化期の遺跡とコタン

2 遺物の特徴

(1) 土器 (図Ⅷ-3)

縄文時代・統縄文時代・オホーツク文化期の土器が約14,000点出土している。主な特徴を記す。

縄文時代

中期末(トコロ6類)以降の土器が出土している。後期になると、口縁部に太い隆帯がめぐると特徴のある「ウトロ型」と、口縁部が肥厚せず全面に縄文が施文されることを特徴とする「シャリ型」(斜里町1980)という北筒Ⅳ～Ⅴ式に相当する地域色の強い土器がある。一方、道内広域にわたる手稲式・鯉調式が当遺跡にも及んでいる。後期後半では、突瘤と刻み列が並存するエリモB式(または堂林式)の古段階がある。後に周堤墓が築かれる、近郊のオクシベツ川流域の遺跡群の土器にもみられ、活動領域の一端を示している。晩期中葉～後葉では、遺跡南部の2008年・2009年調査区でややまとまった資料がある。縄線を主体とする文様が施されている。

統縄文時代

初頭では、口縁部が無文地で横走・波状、あるいは変形工字文などの沈線がえがかれる「緑ヶ岡式併行」とするものが2008年調査区の遺構覆土ほかで散見された。北見市(常呂町)「栄浦第二・第一遺跡の土器群」(熊本1997)に相当する。

宇津内Ⅱa式は、土坑墓や堅穴住居跡から完形に近いものが出土している。大2+小2の単位突起で、口縁部に縄刻文・突瘤文・縄線文・縄端刺突列が施される典型的なものが多く、先行する元町2式に類するものは見られない。同型式の新しい段階(「ⅡaⅡ」熊本1997)のものが主体である。

宇津内Ⅱb式は、2012年調査区での出土数が多い。大2+小4単位の突起が多くみられ、楕円文やV字状・H字状といった直線的な文様が擬縄貼付文により配される。擬縄貼付文が「微隆起線化」したのもみられ、後北式の影響も考えられる。

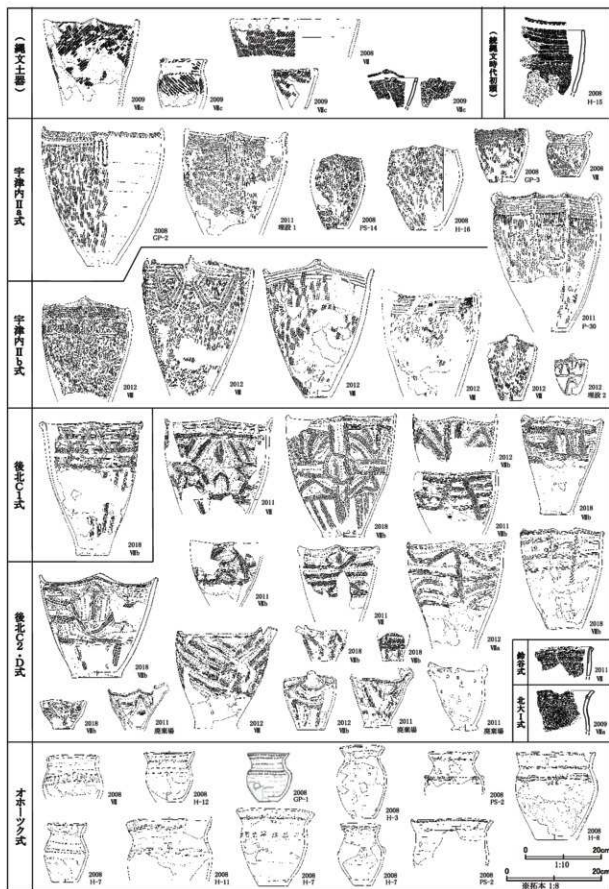
後北C₁式は、2018年調査区で唯一出土した。縦8単位横3段の規則的な配列を特徴とするが、微隆起線の結節点に円形刺突を施す点は独特である。斜里町オシャマツ川遺跡(斜里町教委1995)出土の下田ノ沢Ⅱ式土器にも微隆起線の結節点に円形刺突を施すものがあり、関連があると思われる。

後北C₂・D式は、当遺跡出土土器の主体をなす。同型式の中段階の「道東3式」(熊本2001)あるいはその前後の一部に相当するものがほとんどである。微隆起線がないものの方が、あるものよりもやや多い。帯状文は円文や弧線を基調とするものが多いが、直線区画を主体とするものがみられるようになる。また当遺跡の器種の特徴として、片口や注口付き土器が目立つ点が挙げられ、小型の鉢だけでなく深鉢もある。そのほとんどが土坑墓などの遺構からではなく、「廃棄場」・遺物包含層から出土している。またこれらの中に鈴谷式が少数含まれており、ウトロ遺跡(斜里町教委2011)とともに道北方面の影響もみられる。さらに2009年調査区で、調整がていねいな北大1式が少数出土した。

オホーツク文化期

刻文期を主体に、一部擬縄貼付文期のものが出土している。刻文土器は、肥厚する口縁下部に刻文が連続する典型的なものが多い。古いとみられる方から、櫛歯文(型押文)、刻文(舟窩状・舟形刻文)、ハの字形刻文、爪形文(指圧式浮文)、波状の貼付文、刻みのある擬縄貼付文に近いものなど各種の文様があるが、それらが組み合わせられたものもあり、必ずしも新旧の順を示していない。また刻文・沈線文土器、沈線文土器が少数含まれている。酷似する資料があるウトロ遺跡(斜里町教委2011)とともに、道北方面からの影響がうかがえる。擬縄貼付文は、口縁部・胴部に横位に巡り、籠文をなすものやボタン状の貼付を伴うものがある。刻文期から連続する段階のものともみられる。

(阿部)



図Ⅸ-3 主な出土土器

(2) 石器 (図Ⅹ-4)

カモイベツ遺跡では、縄文時代中期後半～アイヌ文化期の石器が約40,000点出土している。特に縄文時代前半(宇津内Ⅱ式期)、同後半(後北C₂・D式期)、オホーツク文化期(刻文期)の包含層は、場所によって無遺物層との互層となっており、包含層の堆積期間が限定的で、他時期に帰属する遺物の混入等の可能性が低い状況である。石器組成や形態を比較検討する上で、非常に良好な資料体といえる。以下に上述の3つの時期ごとの石器組成及びその特徴を記す。

宇津内Ⅱ式期の石器組成は石鏃、ナイフ、スクレイパー、石錐、Rフレイク、石核、石斧、たたき石、すり石、くはみ石、砥石、台石である。特徴的な形態の石器として、凹基、平基の石鏃、矩形の柄部・尖頭形のナイフ、撥形の石斧、ベンガラ付着すり石・台石・礫が挙げられる。

後北C₂・D式期の石器組成は石鏃、石槍、ナイフ、スクレイパー、石錐、楔形石器、Rフレイク、石核、石斧、石のみ、たたき石、くはみ石、すり石、砥石、台石である。特徴的な形態の石器として、小型で平基の石鏃、尖頭形のナイフ、撥形で片方の角部分が突る斜刃のナイフ・スクレイパー、下端部に円い形状の刃部のあるスクレイパー、メノウ製で棒状の石錐、蛤刃の石斧、溝状の擦り痕が複数見られる有溝砥石等が挙げられる。特に撥形のナイフは、使用していく中で刃部再生が行われ、相似形的に小型化・刃部の急角度化し、スクレイパーとして器種が変化した様子がうかがえる。また、有溝砥石は素材と形状から浮子として利用された可能性がある。

刻文期の石器組成は石鏃、石槍、ナイフ、スクレイパー、楔形石器、Rフレイク、石核、石斧(遺構埋土)、たたき石、すり石、砥石、台石である。特徴として、石鏃の形態が多様化する点が挙げられる。凹基、平基、有茎、柳葉形があり、有茎の中でもカエシが明瞭なものや丸みのあるもの、身部の上部縁辺に屈曲のあるものなどバラエティーに富む。中でも縁辺屈曲の石鏃はオホーツク文化独特の形態として注目すべきである。当遺跡では刻文期の中でも比較的新しい遺構(H-7・8)のみから出

	石鏃				石槍またはナイフ			スクレイパー		石錐	撥形石器	石斧	有溝砥石
	凹基	平基	有茎	柳葉	有茎	尖頭形	撥形・斜刃	斜刃	丸刃				
オホーツク新文期													
後北C ₂ ・D式期													
宇津内Ⅱ式期													

図Ⅹ-4 時期別石器一覧

土している。さらにこれらの石銚形態の多様性はトピニタイ文化まで引き継がれる（羅白町教委1991）。

また、黒曜石製石器の一部を対象として、産地分析を行った（Ⅷ章1）。大型で形態の整った資料や小型でリタクションの進行した資料を選定した。後北C₂・D式期では、最も近い産地である置戸を中心に白滝、上土幌産が利用されている。前述の撚形のナイフは大型の黒曜石から得られた剥片を素材としていたとみられ、白滝産と置戸産が同程度であった。刻文期では分析点数が少ないものの、白滝産が優位となり、生田原産が加わる結果となった。後北C₂・D式期に比べ、オホーツク海側に流下する河川流域の原産地に偏って利用された傾向が指摘できる。（直江）

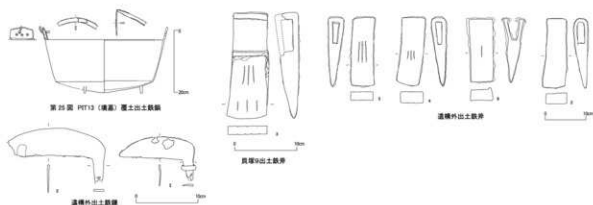
（3）金属製品

当遺跡では、2011年・2018年調査において、アイヌ文化期の金属製品が約150点出土した。斜里町内ではアイヌ文化期を含む遺跡として、オシヨコマナイ河口東遺跡（17世紀中頃～18世紀）やタンネウシ貝塚（17～18世紀前半）、オンネベツ川西側台地遺跡（18～19世紀）、クシュンコタン遺跡（18～19世紀）等がある。オンネベツ川西側台地遺跡を除く他の遺跡では、金属製品や陶磁器等の出土は少なく、動物遺存体が多い（松田1993）。ここでは、当遺跡の2018年調査で出土した鉄鍋、鉄斧、鉄鎌について、オンネベツ川西側台地遺跡の出土例と比較検討する。

オンネベツ川西側台地遺跡（斜里町教委1993）からは、吊耳鉄鍋や鉄斧、鉄鎌、小刀、鉄釘などの金属製品のほか、陶磁器も多く出土している。このうち、Pit13（墳墓）とそこから7m以上離れた包含層から鉄鍋片が出土し、接合した（図Ⅸ-5）。丸型湯口の吊耳鉄鍋で、吊耳部分には孔が4つあり脚は3本である。口径は約37cm底径が約30cmで、当遺跡出土の鉄鍋（図Ⅲ-49）と口径や底径（推定値）、吊耳部の形状や孔の数、孔の位置が類似している。オンネベツ川西側台地遺跡で出土した鉄斧（縦斧^{縦斧}）には、当遺跡で出土した鉄斧（図Ⅲ-48-3）と同様に鑿で筋目が刻まれているものがある（図Ⅸ-5）。貝塚9出土の斧身の片面には、3本の筋目が2か所に刻まれ、断面図を見るともう一方には4本の筋目が確認できる。また、遺構外出土の鉄斧にも、3本や1本の筋目が認められるものがある。斧身に刻まれた筋目には様々な意味がある。このうち、三本の筋目は「ミキ=御神酒」を意味し、四本の場合は「ヨキ=地・水・火（陽）・風」または「五穀」四方山の山海の幸を表し、お供え物の代わりに斧に彫って代わりとした。伐採前には斧を木に立てかけて、押んでから伐った。（西岡1991）。また、3本と4本の筋目を合わせて7本になることから、斧のことを「ナツメ」と呼ぶ場合もあり、「魔よけ」や「幸運を招く」などの説もある（朝岡1984）。立木を伐り倒す伐採斧（縦斧）には筋目が刻まれている例が多く見受けられるが、鉋などの伐採後の加工具にはないようである。北海道では16世紀頃に袋状鉄斧から柄の装着部が方形または台形の孔式鉄斧（縦斧）に代わる（笹田2013）。この時期から出土する縦斧（鉋）の斧身の一方または両側には、鑿で筋目が刻まれたものが多く出土している。オンネベツ川西側台地遺跡で出土している鉄斧の中には筋目が一本のものや、認められないものもあるが、錆蝕で筋目が確認できない場合がある事が考えられる。

カモイベツ遺跡出土の鉄鎌（図Ⅲ-48-1）と、オンネベツ川西側台地遺跡で出土した鉄鎌（図Ⅸ-5）は、有茎で目釘穴があり、腰から刃先にかけて90度に近い形態は共通である。しかしカモイベツ遺跡出土のものは刃部が曲刃であり、オンネベツ川西側台地遺跡で出土した広刃で直刃タイプの鉄鎌とは刃部の形状に違いが見られる。広刃・直刃の鉄鎌は信州・播州型と呼ばれて東日本に多く、刃部幅が狭く湾曲する形態は伊賀・越前型に代表されて西日本に多い形態である（笹田2013）。

このほかに和釘も出土しているが、カモイベツ遺跡の立地を考慮すると、釘類は再利用または再加工するために持ち込まれた可能性が考えられる。（笠原）



図Ⅴ-5 オンネベツ川西側台地遺跡出土の鉄製品（鉄鍋・鉄斧・鉄鎌）

（4）動物遺存体・骨角器

オホーツク文化期

動物遺存体は、主に堅穴住居跡から出土した。骨塚は検出されず、塚から確認されたものがほとんどである。同定・分析結果によると（Ⅷ章3・4）、サケ科を主体とした魚骨を主体とし、キツネなどの中型陸獣、アザラシなどの海獣類、ウミスズメなどの鳥類が確認されている。一方、オホーツク文化に典型的なヒグマ、エゾシカ、オットセイのほか、アホウドリがみられない。出土内容からは、狩猟・漁撈の時期や場所が限定的で、沖合ではなく沿岸域や河口域を中心とした生業活動が行われていたことを示唆しており、典型的なオホーツク文化の主体となる海棲動物に依拠した生業とは異なる様相である、と考察された。ただし限定された調査範囲での資料であることに注意が必要である。前記の堅穴住居跡床面の集石土坑や小型堅穴は、これらの加工の場として機能していた可能性がある。

なおオホーツク文化期に属する骨角器は出土しなかった。

アイヌ文化期

貝・骨ブロックおよび周辺包含層から動物遺存体が多数出土した。同定・分析結果によると（Ⅷ章5）、貝類はピノスガイが主体でウバガイが続き、現在の峰浜～以久科の海岸に打ちあがっている貝類に近似する。また魚類は、カジカ科をはじめ沿岸域や河口域に生息する各種があり、「カムイ・チュブ（神・魚）」であるサケを含め全体的に大型の個体が多いようである。なかでも出土量がわずかなオオカミウオは、岩礁域に生息する体長1m以上の大型魚種で、豊漁を呼び込む「チュブ・カムイ（魚・神）」として特別視されていたとみられる。陸獣はエゾシカが主体で、各部位が広域に散在していた。狐犬などとして身近な存在であったと考えられるイヌは埋葬された出土状況を示しておらず、食用にするために解体された可能性がある、とのことである（Ⅷ章5）。

全体として貝類の採集と漁撈が生業の主体であり、周辺に生息する動物を利用しているものの、陸獣類や海獣類はエゾシカを除いて利用された種が少ないようである。ただし限定された調査範囲から得られた資料であることに注意が必要である。

これらのうち、エゾシカなどの陸獣やアザラシなどの海獣の骨片を利用した骨角器等が少数出土した。ヒグマの尺骨を含め、多くは加工残片や原材であり、骨角器製作の際の残渣が各ブロックに遺棄されていた。製品は少数で、鉋頭・中柄などの漁具、刺突具、装飾品がある。鉋頭は作り出しによるものと、金属製鎌との組み合わせによるものがあり、後者は目釘穴があり銅鎌の基部が残存するものがある。いずれも幅2cm以下の小型のもので、沖合の大型海棲動物を対象とした狩猟ではなく、沿岸域や河口域における漁撈に用いられたと考えられる。（阿部）

引用・参考文献

論文・書籍・資料等

- 秋葉 實 1994 『松浦武四郎知床紀行集』
- 朝岡康二 1984 『鍛冶の民俗技術』考古民俗叢書20 慶友社
- 朝岡康二・工藤員功・田邊 梧・田村 善次郎 1997 『日本民具辞典』日本民具学会 ぎょうせい
- 天野哲也 2003 「オホーツク文化前期の地域開発について」『北海道大学総合博物館研究報告』第1号
- 荒田治也 1979 『斜里平野の地形』『知床博物館研究報告』第1集
- 石川 朗 2004 「石器・石製品-道東・道北」『考古資料大観 第11巻 続縄文・オホーツク・推文文化』小学館
- 大井晴明 1984 『斜里町のオホーツク文化遺跡について』『知床博物館研究報告』第6集
- 小野哲也・赤沼英男・近藤宏樹・中村俊夫・日時和哉 2015 「前近代の北方社会における鉄器流通実態の解明(1)」『岩手県立博物館研究報告』第32号
- 金盛典夫 1982 「北見地方の土器」『縄文文化の研究6 続縄文・南島文化』雄山閣
- 堂野 茂 1978 『アイヌの民具』『アイヌの民具』刊行委員会
- 岸本博志・長谷川 健他 2009 「最近約1万4千年間の摩周火山のテフラ層序と噴火様式」『火山』第54巻第1号
- 工藤治博 2004 『続縄文文化の土器』『考古資料大観 第11巻 続縄文・オホーツク・推文文化』小学館
- 隅田まり 1988 『斜里地域におけるテフラ層序』『知床博物館研究報告』第9集
- 熊木俊明 1997 「宇津内式土器の編年-続縄文土器における文様割りつけ原理と文様単位(1)」『東京大学考古学研究室研究紀要』第15号 東京大学考古学研究室
- 熊木俊明 2001 「第四章 考察 第三節 後北C₂・D式土器の展開と地域差」『トコロナシ踏跡』東京大学大学院人文社会系研究科
- 熊木俊明 2003 「道東北部の続縄文文化」『新 北海道の古代2 続縄文・オホーツク文化』北海道新聞社
- 熊木俊明 2009 「続縄文文化」『知床の考古』北海道新聞社
- 河野広道・宇田川 洋編 1981 『河野広道ノート 考古篇1 一北海道東北部の考古学的調査一』
- 古泉 弘 1993 「考古学からみた日本のきせる」『考古資料にみるきせるとパイプー たばこと塩の博物館』
- 合地信生 2007 『知床平野』『知床の地質』しれとこライブラリー 8
- 合地信生・松田 功 2004 「峰浜海岸1遺跡出土のベニガラ形成温度」『知床博物館研究報告』第25集
- 越田賢一郎 1984 「北海道の鉄鋼について」『物質文化』第42号
- 越田賢一郎 1988 「北海道における中・近世考古学の現状と課題」『物質文化』第50号
- 見平英司 1996 「完新世における斜里地域の古環境復元」『知床博物館研究報告』第17集
- 見玉大成 2002 「縄文時代におけるベンガラ生産の様相 -宇津内遺跡出土赤鉄鉱の考古学的分析-」『青森県考古学会30周年記念論集』青森県考古学会
- 斎藤正雄・五十嵐昭明 1965 「知床半島の褐鉄鉱床の特異性」講演要旨 月報Vol.16 No.5 工業技術院地質調査所
- 斎藤正雄 1967 「知床半島の褐鉄鉱床」『北海道金属非金属鉱床総覧』工業技術院地質調査所
- 笹田朋孝 2013 『北海道における鉄文化の考古学的研究 -鉄ならびに鉄器の生産と普及を中心として-』北海道出版企画センター
- 佐野絵里・松田 功 1998 「斜里町の風と防風林の関係」『知床博物館研究報告』第19集
- 澤 四郎 1982 『釧路地方の土器』『縄文文化の研究6 続縄文・南島文化』雄山閣
- 斜里町史第三巻編纂委員会 2004 『斜里町史 第三巻』斜里町
- 斜里町・斜里町教育委員会 2005 『知床の植物I』しれとこライブラリー 6
- 斜里町・斜里町教育委員会 2006 『知床の植物II』しれとこライブラリー 7
- 斜里町・斜里町教育委員会 2008 『知床の考古』しれとこライブラリー 9
- 館脇 操 1954 『知床半島の植生』北見営林局
- 土居繁雄・松井公平 1960 『斜里町海別岳山麓地域の褐鉄鉱床調査概報』知床半島地下資源開発調査 北海道開発局官房開発調査課 北海道立地下資源調査所
- 土居繁雄・松井公平 1961 『斜里町海別岳および遠音別岳の周辺地域褐鉄鉱床調査報告』知床半島地下資源開発調査報告 北海道開発局官房開発調査課 北海道立地下資源調査所

- 中田裕香 2004 「オホーツク・樺文文化の土器」『考古資料大観 第11巻 続縄文・オホーツク・樺文文化』小学館
- 中村 誠 1980 「斜里平野の地形」『知床博物館研究報告-追加報告-』第2集
- 長沼 孝 1998 「旧石器時代の赤色顔料」『考古学ジャーナル』No. 438 11月号 ニュー・サイエンス社
- 西岡常一 1991 「木に学べ 法隆寺・薬師寺の美」小学館
- 平河内 毅 2018 「丘に眠るオホーツク文化」斜里町立知床博物館
- 福井淳一 2001 「旧石器時代の顔料とその生産 -北海道柏台1遺跡出土顔料関連遺物の分析を中心に-」『北海道考古学』第37輯
- 松井 章 編 2006 『動物考古学の手引き』独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
- 松田 功 2004 『【文化編】第一章 先史』『斜里町史 第三巻』
- 村松貞次郎 1973 『大工道具の歴史』岩波新書
- 村本周三 2013 「斜里平野における縄文時代前期の石器群」『北海道考古学』第49輯 北海道考古学会
- 村本周三 2014 「オホーツク海沿岸南部における縄紋時代後期前葉の土器」『美幌博物館研究報告』第21号
- 村本周三 2016 「北海道斜里平野における縄文時代中期～後期前半の石器群」『北海道考古学』第52輯 北海道考古学会
- 森 秀行 1993 「北海道の遺跡から出土した金属製煙管の実年代」『北海道考古学』第29輯
- 山元孝広・伊藤順一他 2010 「北海道東部、屈斜路・摩周カルデラ噴出物の放射性炭素年代値」『地質調査研究報告』第61巻第5/6号
- 吉川金次 1984 『ものど人間の文化史 斧・鑿・鉋』法政大学出版局
- 柳沢清一 2008 『北方考古学の新天地 -北海道島・環オホーツク海域における編年体系の見直し-』六一書房

図録・図鑑類

- 伊藤 務 2001 『民具図録』網走市立郷土博物館友の会
- 梅沢 俊 2007 『新北海道の花』北海道大学出版会
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英 2003 『北海道野鳥図鑑』鳥壺西社
- 木野田君公 2006 『札幌の昆虫』北海道大学出版会
- クリス・ベラント 1997 『岩石と鉱物の写真図鑑』日本ヴォーグ社
- 鮫島卓一郎・辻井達一・梅沢 俊 1993 『新版 北海道の花<増補版>』北海道大学図書刊行会
- 斜里町立知床博物館 1979 『知床の蝶』郷土学習シリーズ 第1集
- 斜里町立知床博物館 1980 『斜里海岸の植物』郷土学習シリーズ 第2集
- 斜里町立知床博物館 1986 『第8回特別展 斜里平野の生いたち』
- 斜里町立知床博物館 1992 『第13回特別展 近世の斜里』
- 斜里町立知床博物館 1994 『第15回特別展 峰浜のむかし』
- 斜里町立知床博物館 2012 『野外図鑑 オホーツク海岸の石』
- 辻井達一・梅沢 俊・佐藤孝夫 1992 『新版 北海道の樹』北海道大学図書刊行会
- 堀 繁久 2006 『探そう! ほっかいどうの虫』北海道新聞社
- 牧野富太郎 1996 『改訂版 原色牧野植物大図鑑 合弁花・離弁花編』北隆館
- 上田吉幸・前田圭司・嶋田 宏・鷹見達也編 2003 『漁業生物図鑑 新 北のさかなたち』水島敏博・鳥澤 雅監修 北海道新聞社
- 米田正義・小村建夫ほか 1989 『竹中大工道具館 展示解説』

発掘調査報告書

- 網走市教育委員会 2009 『史跡最寄貝塚』
- 枝幸町教育委員会 1985 『ホロベツ砂丘遺跡』
- 小清水町教育委員会・札幌大学埋蔵文化財展示室 2003 『アオシマナイ遺跡』
- 豊原照司・坂井通子・岡 奈穂美 2012 『平成20(2008)年度ウトロ遺跡町道地点発掘調査報告』『知床博物館研究報告』第34集 斜里町立知床博物館
- 東京大学文学部 1963 『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡』上巻
- 東京大学文学部 1963 『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡』下巻

- 根室市教育委員会 1994 『根室市コタンケンシ遺跡発掘調査報告書』
 北海道開拓記念館 1995 『雄武堅穴群遺跡』北海道開拓記念館研究報告第14号
 北海道立北方民族博物館 2010 『能取岬西岸遺跡』北方民族博物館研究報告3
 松下 亘・米村哲英・高山三郎太・安部三郎 1964 『知床岬—知床半島の古代文化をさぐる—』網走市郷土博物館
 報告
 村田良介・松田 功・萩野幸男 1995 『ウナベツチャシ』『知床博物館研究報告』第16集
 羅臼町教育委員会 1980 『船見町高台遺跡』羅臼町文化財報告4
 羅臼町教育委員会 1991 『オタフク岩遺跡』羅臼町文化財報告14
 羅臼町教育委員会 1996 『相泊遺跡(2)』羅臼町文化財報告16
 利尻富士町教育委員会 2011 『利尻富士町役場遺跡発掘調査報告書Ⅱ』

【斜里町教育委員会】

- 1973 『宇津内遺跡』
 1980 『知床国立公園・幌別川口遺跡発掘調査報告書』
 1983 『尾河台地遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅱ
 1993 『オショコマナイ河口東遺跡 オタモイ1遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅴ
 1993 『オンネベツ川西側台地遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅵ
 1994 『シュマトカリベツ9遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅶ
 1995 『オシャマップ川遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅷ
 1998 『朱円24遺跡・ウナベツ3遺跡・ウナベツ11遺跡発掘調査概要報告書』
 1999 『ボンシュマトカリベツ13遺跡・ボンシュマトカリベツ11遺跡・峰浜海岸1遺跡・ボンシュマトカリベツ9
 遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告Ⅹ
 2007 『峰浜海岸1遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告書ⅩⅩⅩ
 2008 『シュマトカリベツ12遺跡・シュマトカリベツ13遺跡・峰浜8線遺跡発掘調査概要報告書』
 2009 『カモイベツ遺跡 発掘調査概要報告書』
 2010 『カモイベツ遺跡 発掘調査概要報告書』
 2011 『ウトロ遺跡』斜里町文化財調査報告書ⅩⅩⅩⅡ
 2011 『朱円25遺跡・峰浜海岸1遺跡・ボンシュマトカリベツ1遺跡・峰浜8線遺跡発掘調査概要報告書』
 2012 『カモイベツ遺跡 発掘調査概要報告書』
 2012 『造営畑総緊急発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告書ⅩⅩⅩⅣ
 2013 『峰浜8線遺跡発掘調査報告書』斜里町文化財調査報告書ⅩⅩⅩⅤ
 2013 『カモイベツ遺跡 発掘調査概要報告書』
 2018 『チャシコツ岬上遺跡 総括報告書』斜里町文化財報告ⅩⅤ

【財団法人北海道埋蔵文化財センター】

- 2000 『千歳市 ユカンボシC15遺跡(3)』北埋調報146
 2002 『白老町 虎杖浜2遺跡(2)』北埋調報172
 2005 『根室市 穂香川右岸遺跡』北埋調報212
 2008 『釧路市 天寧1遺跡』北埋調報254
 2012 『鶴居村 下幌呂1遺跡』北埋調報287

【公益財団法人北海道埋蔵文化財センター】

- 2015 『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群(1)』北埋調報317
 2016 『根室市 トーサムボロ湖周辺堅穴群(2)』北埋調報324
 2018 『調査年報 30 平成29年度』
 2019 『調査年報 31 平成30年度』
 2019 『根室市 温根沼2遺跡』北埋調報354
 2019 『根室市 別当賢一審沢川遺跡』北埋調報355

【北海道立埋蔵文化財センター】

- 2012 『斜里町 斜里朱円岡堤墓』重要遺跡確認調査報告書第8集

写真図版



ウナベツ岳

図版1～8	カラー写真	現地調査状況
図版8	カラー写真	出土遺物
図版9～40	モノクロ写真	現地調査状況
図版41～80	モノクロ写真	出土遺物



1 調査状況(2018年・調査区中央部)



2 基本土層(2018年・I105区)



3 調査区北壁土層(2018年・J82区)



4 礫浜と土層(2018年・J53区付近)



5 調査区北壁土層(2018年・J35区)



6 アイヌ文化期調査状況(2018年・調査区東部)



1 調査状況(2008年・調査区中央部 西から)



2 調査区土層(2008年・中央東部)



3 調査状況(2009年・調査区中央部 東から)



4 調査区土層(2009年・a147区)



5 調査状況と土層(2011年A-K152区 北西から)



6 礫層検出(2011年・南部)



1 基本土層 (2011年B・D140区 西から)



2 調査状況 (2011年B・IX層 北西から)



3 調査状況 (2012年・Ⅷ層下 東から)



4 低地部土層 (2012年・E108区 西から)



5 砂丘部土層 (2012年・E91区 南から)



1 H-1(2号址)石組炉 (南から)



2 H-8(6号址)炉・貼床 (南から)



3 H-12(8号址)集石 (北から)



4 H-17(51号址)石組炉 (南から)



5 H-19 HF-1土層断面 (南から)



6 H-19 HF-2土層断面 (南から)



7 H-21 HF-1土層断面 (西から)



8 H-22 HF-1土層断面 (西から)



1 SF-1 (13号址)検出 (南から)



2 SF-2 (10号址)検出 (南東から)



3 SF-4 (31a号址)検出 (東から)



4 SF-5 (石組炉)検出 (東から)



5 SF-6 (PIT16)検出 (北から)



6 SF-7 (PIT12)火床面検出 (南から)



7 SF-8 (PIT30B)検出 (南西から)



8 SF-9 (PIT35)検出 (北から)



1 F-1(22号址)検出 (南から)



2 F-4(PIT1)検出 (北から)



3 F-7(PIT22)焼砂検出 (北から)



4 F-21(PIT66)検出 (東から)



5 F-26(PIT34)検出 (東から)



6 F-29(PIT39)検出 (東から)



7 F-33(焼土1)検出 (北東から)



8 F-39(焼土6)土層断面 (南西から)



1 F-42(PIT45)検出 (西から)



2 F-45(焼砂)検出 (北から)



3 F-55(PIT73)土層断面 (西から)



4 F-60土層断面 (北西から)



5 F-61土層断面 (西から)



6 F-62-63土層断面 (北西から)



7 F-64~66検出・土層断面 (西から)



8 F-67~70検出・土層断面 (北から)



1 R-1 (29号址)検出 (南から)



2 R-2 (PIT11)ベンガラ土層断面 (南から)



3 ベンガラ層検出 (E122区 東から)



4 R-10(ベンガラ範囲)ほか検出 (北から)



5 ベンガラ関連遺物 (2008・2011・2012年)



1 遺跡遠景（上空西から）



2 H-19付近調査状況（東から）



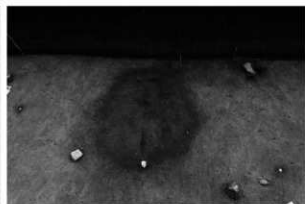
3 続縄文時代遺物出土状況（西から）



1 H-22 検出・遺物出土状況 (北から)



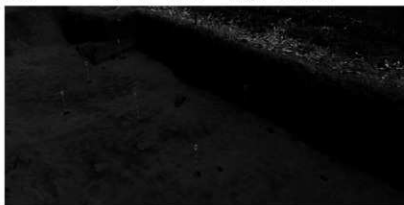
2 H-22 土器出土状況 (南から)



3 H-22 HF-1 検出 (北から)



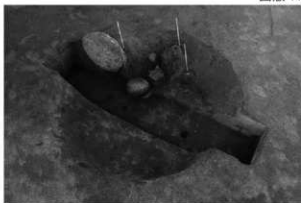
4 H-22 HP-6 メノウ埋設



5 H-22 完掘 (北西から)



1 P-29 土層断面 (南西から)



2 P-29 遺物出土状況 (南から)



3 SP-22 ~ 25 完掘 (北西から)



4 SP-28 裸出土状況



5 F-56 検出・土層断面 (西から)



6 F-57 検出・土層断面 (北から)



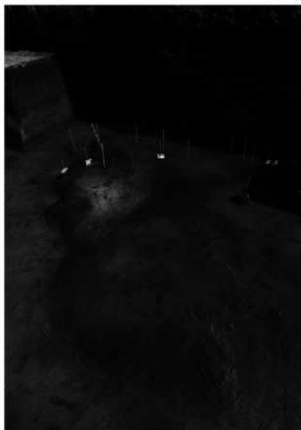
7 F-58 検出・土層断面 (北から)



8 F-59 検出・土層断面 (北から)



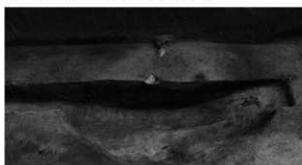
1 F-62・63 検出 (西から)



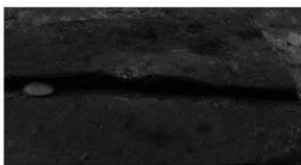
2 F-64～66 検出 (北西から)



3 F-67～70 検出 (北東から)



4 F-67 土層断面 (北から)



5 F-71 土層断面 (北から)



1 FC-12検出 (北西から)



2 FC-14検出 (北西から)



3 FC-15検出 (南から)



4 FC-16検出 (北西から)



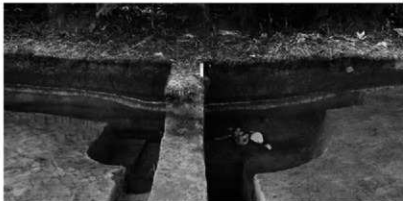
5 石核出土状況 (北東から)

6 土器出土状況(後北C₁式) (北西から)7 土器出土状況(後北C₂-D式) (北東から)

8 小型注口土器出土状況 (東から)



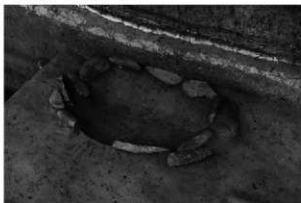
1 H-19 覆土遺物出土状況



2 H-19 東西土層断面 (南西から)



3 H-19 南北土層断面 (東から)



4 H-19 HF-1 完掘 (南東から)



5 H-19-20 完掘 (南東から)



1 H-20南北土層断面 (東から)



2 H-20床面検出 (南東から)



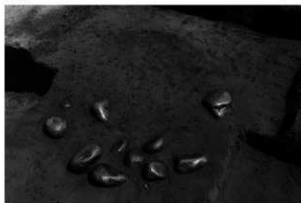
3 H-21検出 (北東から)



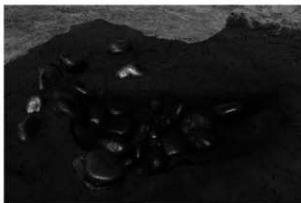
4 H-21土層断面 (北東から)



5 H-21完掘 (北から)



1 PS-31 検出 1 (南西から)



2 PS-31 検出 2 (南東から)



3 PS-31 検出 3 (南東から)



4 PS-31 土層断面 (南東から)



5 PS-31 炭化材出土状況 (南東から)



6 S-11 検出 (南東から)



7 S-12 検出 (南から)



8 FC-11 検出 (北東から)



1 貝・骨ブロック調査状況 (西から)



2 SB-1 検出 (南東から)



3 SB-2 検出 (南西から)



4 SB-3 検出 (南東から)



5 SB-3 骨角器出土状況



6 SB-3 下位灰層検出 (南東から)



7 SB-3 下位灰層断面 (東から)



1 SB-4 検出 (西から)



3 SB-4 海獣頭蓋骨出土状況



2 SB-4 灰層断面 (西から)



4 SB-4 シカ顎骨出土状況



5 SB-5 検出 (北東から)



7 SB-5 樹皮出土状況



6 SB-5 土層断面 (南西から)



8 SB-5 鹿角加工品出土状況



1 SB-6検出 (南東から)



3 SB-8検出 (南東から)



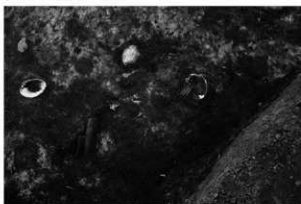
2 SB-6灰層断面 (北から)



4 SB-8灰層断面 (南から)



5 SB-9検出 (北東から)



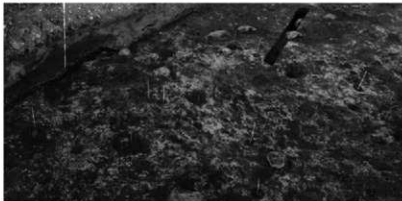
6 SB-9灰層獣骨出土状況 (南西から)



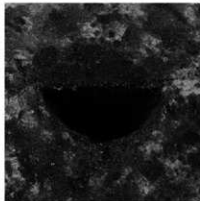
7 SB-10検出 (北から)



8 SB-10土層断面 (北から)



1 SP-32～34 検出 (南西から)



2 SP-32 断面 (南から)



3 S-13 検出 (北西から)



4 S-14 検出 (南西から)



5 II層鉄斧出土状況 (西から)



6 II層鎌出土状況 (北から)



7 貝・骨等水洗乾燥作業



8 水洗後の魚骨等



1 調査状況 (東から)



2 H-17(51号址)検出 (北から)



3 H-16(25号址)検出 (北から)



4 同 倒立土器出土状況



5 H-18(24号址)完掘 (北から)



6 柱穴列H-2(3号址)検出



1 GP-2 (38号址) 検出 (北から)



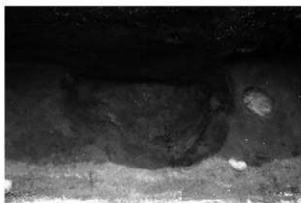
2 GP-3 (44号址) 検出 (南から)



3 GP-3 (44号址) 遺体層 (南から)



4 GP-3 (44号址) 坑底 (北から)



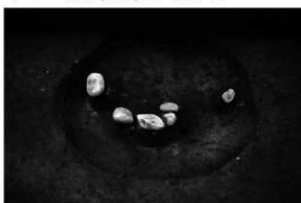
5 P-4 (26号址) 発掘 (北から)



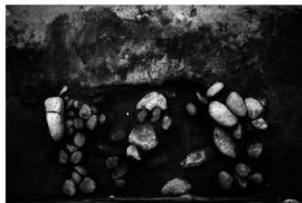
6 P-5 (28号址) 検出 (北から)



7 P-6 (47号址) 検出 (東から)



8 P-7 (43号址) 検出 (北から)



1 PS-5 上位 (37a号址) 検出 (北から)



2 PS-5 下位 (37b号址) 検出 (北から)



3 PS-7 (23号址) 検出 (南東から)



4 PS-8 (40号址) 検出 (南東から)



5 PS-9 (48号址) 検出 (南東から)



6 PS-10 (49号址) 検出 (南東から)



7 PS-11 (46号址) 検出 (南から)



8 PS-12 (50号址) 検出 (北から)



1 PS-13(45号址)断面 (南から)



2 PS-14(31b号址)検出 (北から)



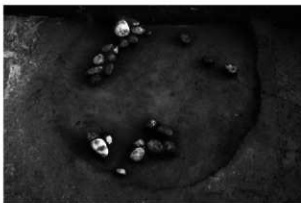
3 PS-15(35号址)検出 (北から)



4 PS-17(53号址)断面 (南から)



5 PS-18(54号址)断面 (南から)



6 PS-20(33号址)検出 (北から)



7 PS-21(42号址)検出 (南から)



8 S-1(52号址)検出 (南から)



1 H-1 (2号址) 検出 (北から)



2 H-3 (4号址) 検出 (南から)



3 H-5 (20号址) 検出 (北東から)



4 H-6 (19号址) 検出 (南から)



1 H-7(5号址) 検出 (西から)



2 H-8(6号址) 検出 (南から)



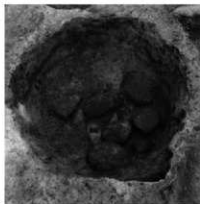
3 H-9・10(15a・b号址) 検出 (南から)



4 同 遺物出土状況 (東から)



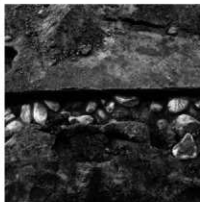
1 H-12(8号址)検出 (北西から)



2 同 集石下位 (西から)



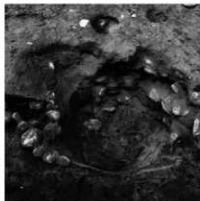
3 H-13(7号址)検出 (西から)



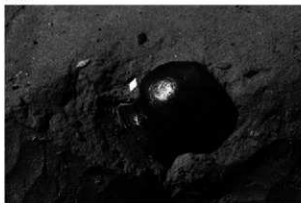
4 同 土坑下位 (北から)



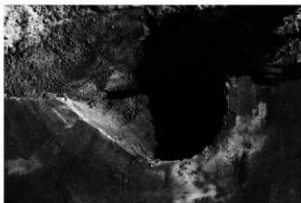
5 H-14(9号址)検出 (北から)



6 同 土坑 (南から)



1 GP-1 (1号址) 土器出土状況 (南から)



2 GP-1 (1号址) 完掘 (北から)



3 PS-1 (32号址) 検出 (南から)



4 PS-2 (17号址) 検出 (南西から)



5 PS-3 (14号址) 検出 (南東から)



6 PS-4 (18号址) 検出 (西から)



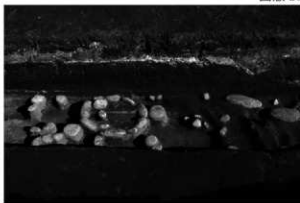
7 調査区西部手稲式土器出土状況



8 調査区西部礎層検出 (西から)



1 調査状況 (北から)



2 SF-5(石組炉)検出 (東から)



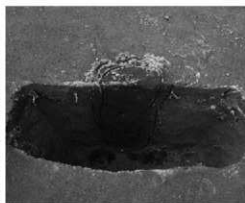
3 F-5 (PIT 2) 検出 (北から)



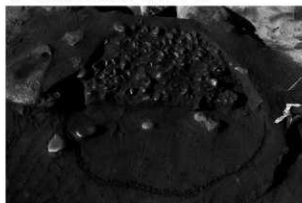
4 北筒式土器出土状況 (南から)



5 南端部調査状況 (北西から)



6 SP-1 (PIT11) 土層断面



7 P-8 (PIT14) 検出 (南から)



8 FC-1 泥岩片集中 (西から)



1 調査状況(「廃棄場」PIT 1付近) (西から)



2 「廃棄場」土層断面 (PIT 1付近)



3 GP-4 (1号墓坑) 蓋石出土状況



4 同 上層人骨出土状況 (北から)



5 同 土層断面 (南から)



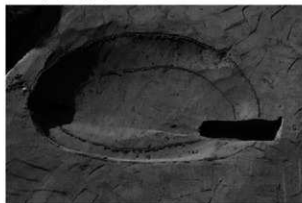
6 同 下層人骨出土状況 (南東から)



7 同 下層人骨顎骨出土状況 (南から)



8 同 完掘 (南東から)



1 P-9 (PIT13) 完掘 (北から)



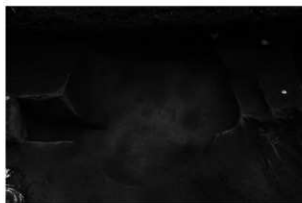
2 P-10 (PIT2) 完掘 (西から)



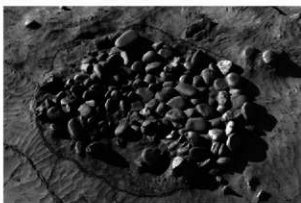
3 P-11 (PIT5) 完掘 (南から)



4 P-12 (PIT25) 完掘 (南から)



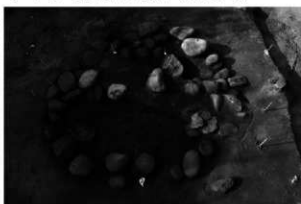
5 P-13 (PIT8) 完掘 (北から)



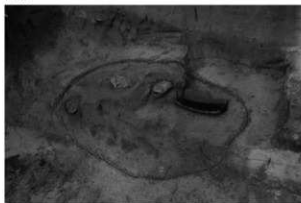
6 P-S-22 (PIT7) 検出 (南東から)



7 P-S-23 (PIT17) 検出 (西から)



8 P-S-24 (PIT15) 検出 (東から)



1 P-30(PIT21) 焼砂検出 (南から)



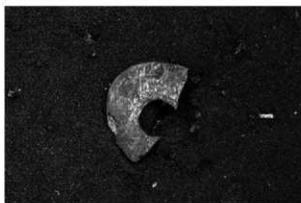
2 S-5 (PIT14) 検出 (北から)



3 S-6 (集石1) 検出 (西から)



4 S-7 (PIT 6) 検出 (北東から)



5 「廃棄場」(PIT 1) 石製品出土状況



6 樹皮出土状況 (F 124区 西から)



7 SP-11(PIT 3) 完掘 (東から)



8 SP-12(PIT 4) 土層断面 (東から)



1 調査状況（東から）



2 調査状況（西から）



3 P-14(PIT53) 完掘（北から）



4 P-15(PIT27) 完掘（東から）



5 P-16(PIT28) 検出（北から）



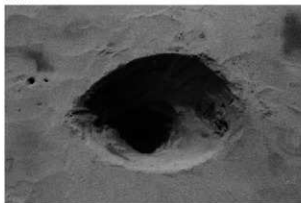
6 同 土器出土状況（北から）



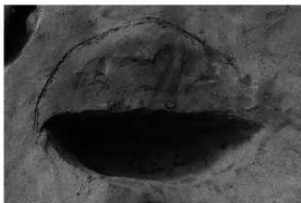
7 P-17(PIT47) 完掘（北から）



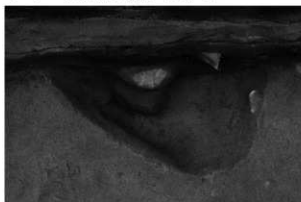
8 P-18(PIT29) 遺物出土状況（西から）



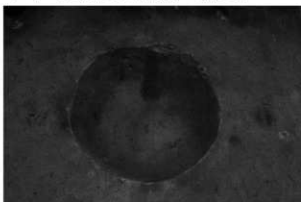
1 P-19 (PIT45) 完掘 (東から)



2 P-20 (PIT65) 土層断面 (北から)



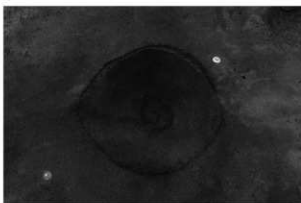
3 P-21 (PIT63) 完掘 (北から)



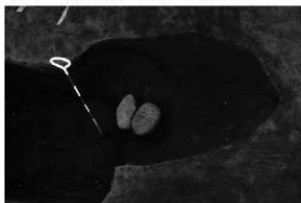
4 P-22 (PIT61) 完掘 (北から)



5 P-23 (PIT30A) 完掘 (南から)



6 P-24 (PIT31) 完掘 (南から)



7 P-27 (PIT50) 遺物出土状況 (南東から)



8 P-28 (PIT69) 完掘 (東から)



1 PS-25(配石1) 検出 (北から)



2 PS-26(配石3) 検出 (南から)



3 PS-27(PIT64) 土層断面 (北から)



4 PS-28(PIT70) 検出 (南から)



5 PS-29-30(PIT68-67) 土層断面 (北から)



6 F-14(焼土2) 検出 (北から)



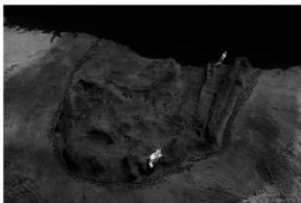
7 F-16(焼土1) 検出 (北から)



8 F-17(焼土2) 検出 (北から)



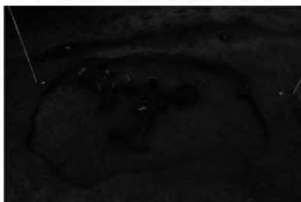
1 F-20(焼土3)検出 (東から)



2 F-22(焼土木炭範囲2)検出 (北から)



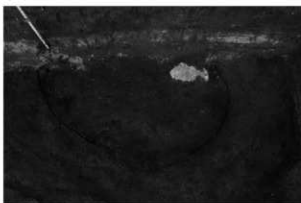
3 F-23(焼土木炭範囲1)検出 (西から)



4 F-24(骨・木炭範囲2)検出 (北から)



5 F-35(焼土4)断面 (南東から)



6 F-40(PIT54)検出 (南から)



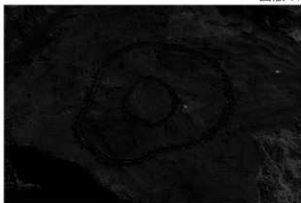
7 F-41(PIT55)検出 (南から)



8 F-43(PIT56)検出 (東から)



1 F-44 (PIT52) 検出 (南東から)



2 F-46 (PIT60) 検出 (東から)



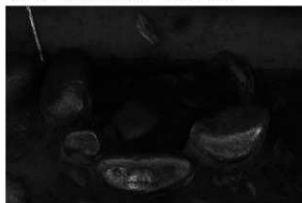
3 F-47 (PIT59) 検出 (北から)



4 F-50 (PIT75) 土層断面 (南から)



5 S-8 (集石) 検出 (北東から)



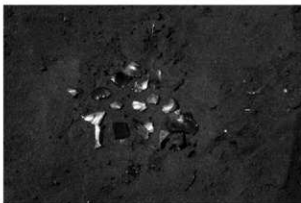
6 S-9 (配石2) 検出 (北から)



7 S-10 (鯨骨・集石) 検出 (西から)



1 FC-5 (石器集中) 検出 (南から)



2 FC-6 (石器集中) 検出 (南から)



3 FC-8 (石器集中) 検出 (東から)



4 FC-9 (石器集中) 検出 (西から)



5 埋設土器2 (埋設土器) 検出 (西から)



6 土器出土状況 (宇津内Ⅱb式 南から)



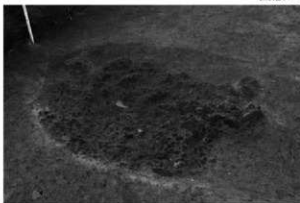
7 シカ角出土状況 (F111区 南東から)



8 鯨骨・樹皮出土状況 (F91区 北から)



1 P-25 (PIT42) 礎出土状況 (北から)



2 P-26 (PIT43) 木炭検出 (東から)



3 SP-14 (PIT41) 土層断面



4 SP-16 (PIT62) 土層断面



5 SP-15 (PIT44) 柱材・土層断面 (北から)



6 SP-17 (柱穴) 検出 (北から)



7 SP-18 (PIT57) 土層断面 (東から)



1 SP-19(PIT49) 完掘 (北から)



2 F-34(PIT40) 土層断面 (南から)



3 低地部調査状況 (南から)



4 低地部材出土状況 (南から)



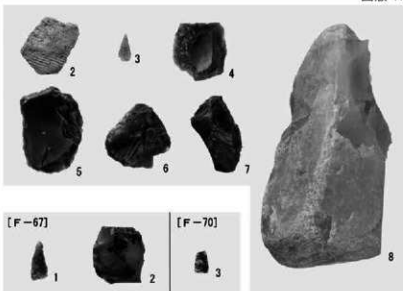
5 殖民軌道のレール (2018年)



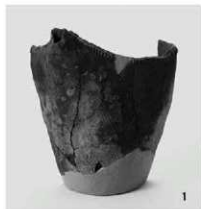
6 完掘 (2011年 西から)



1 H-22出土の遺物



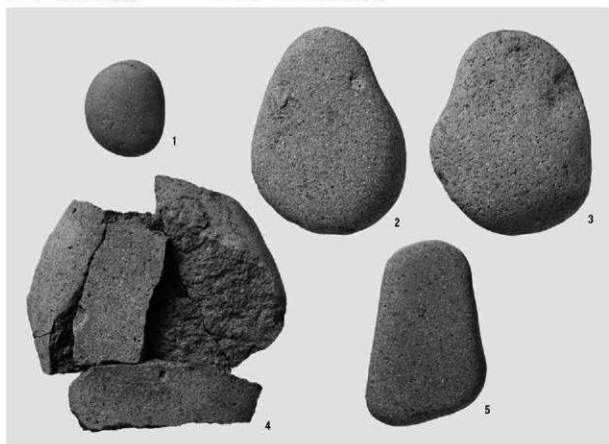
3 F-67・70出土の遺物



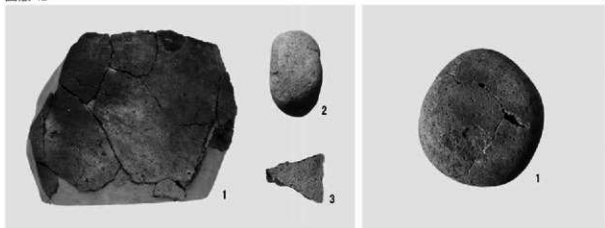
2 F-60出土の遺物



4 FC-14・15出土の遺物

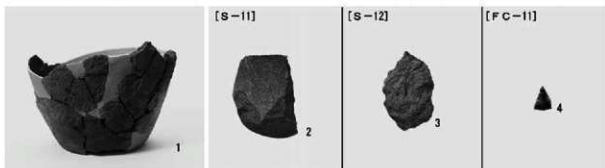


5 H-19・20出土の遺物



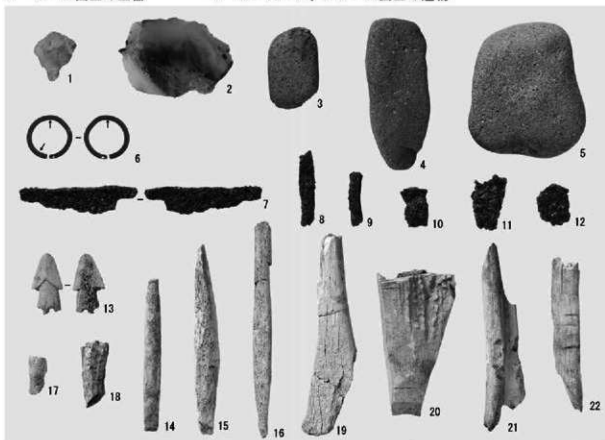
1 H-21出土の遺物

2 P S-31出土の遺物

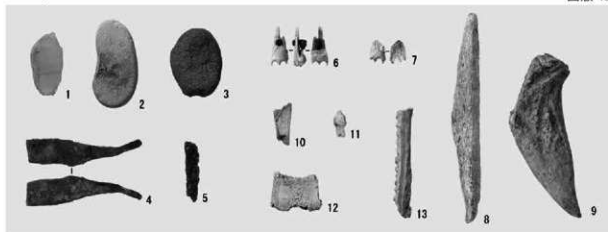


3 S-11出土の土器

4 S-11・12、FC-11出土の遺物



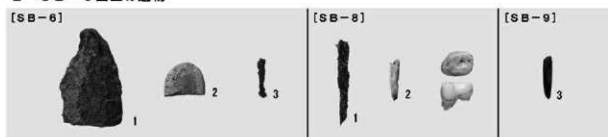
5 S B-3出土の遺物



1 SB-4出土の遺物



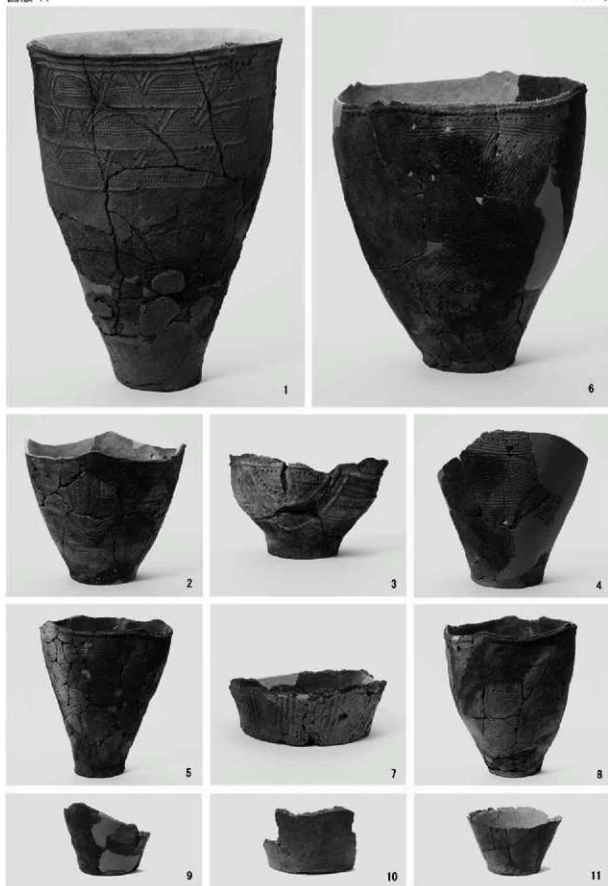
2 SB-5出土の遺物



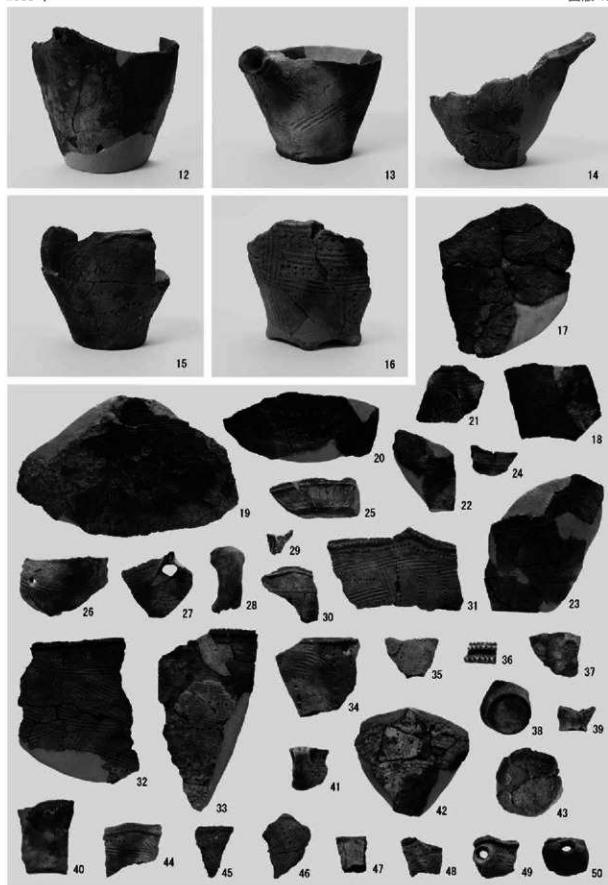
3 SB-6・8・9出土の遺物



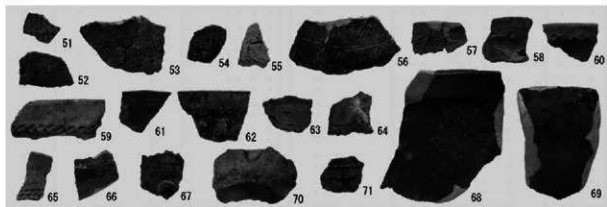
4 SB-10出土の遺物



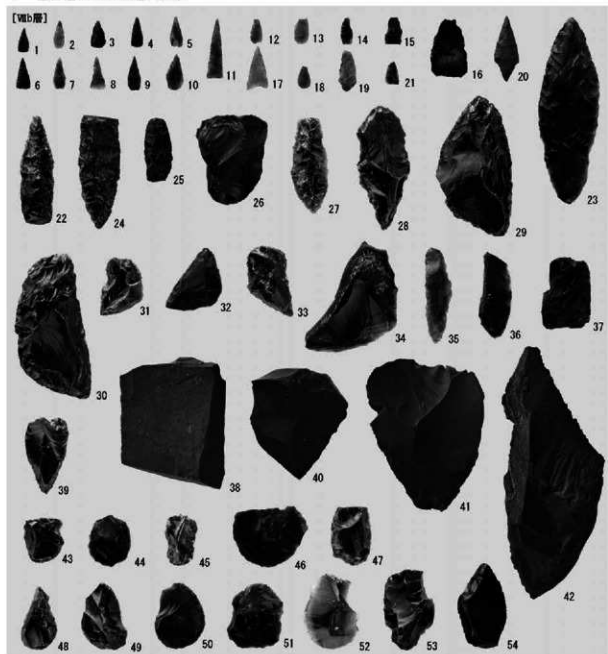
1 包含層出土の土器 (1)



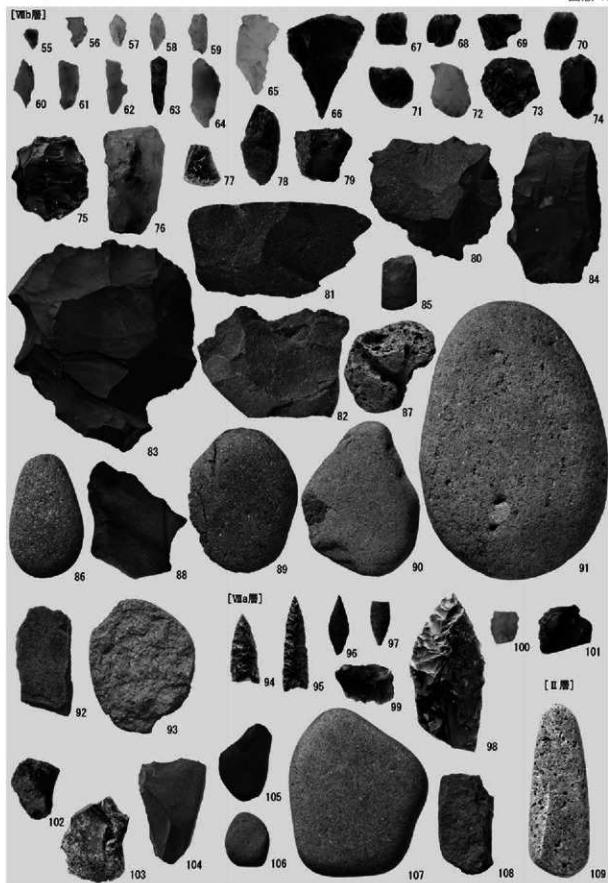
1 包含層出土の土器(2)



1 包含層出土の土器 (3)



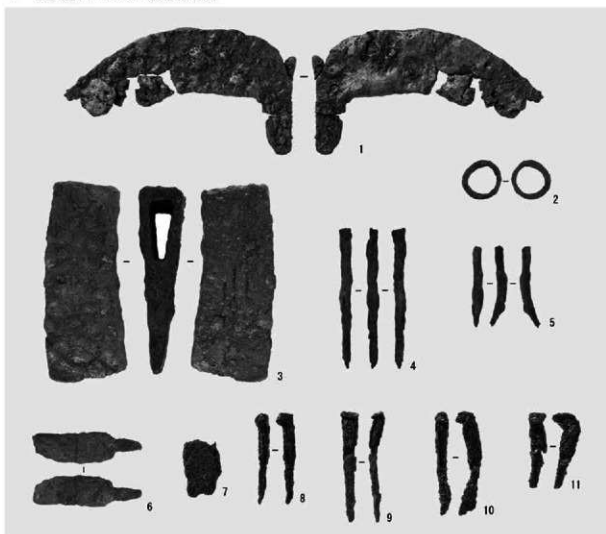
2 包含層出土の石器 (1)



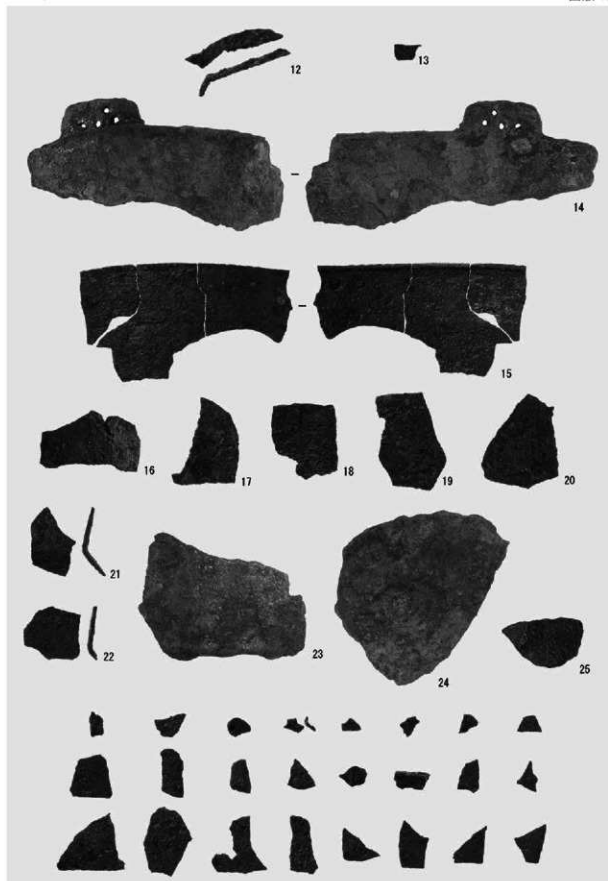
1 包含層出土の石器 (2)



1 包含層出土の加工痕ある骨片



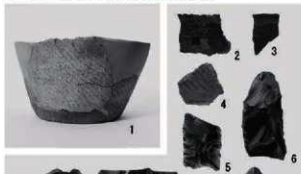
2 包含層出土の鉄製品 (1)



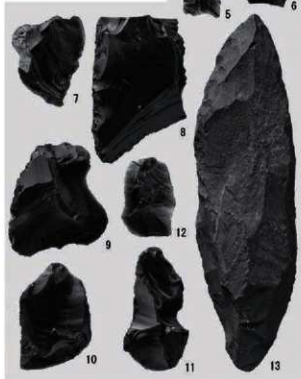
1 包含層出土の鉄製品 (2)



1 H-15 (37c号址) 出土の遺物



2 H-17 (51c号址) 出土の遺物



4 H-18 (24号址) 出土の遺物

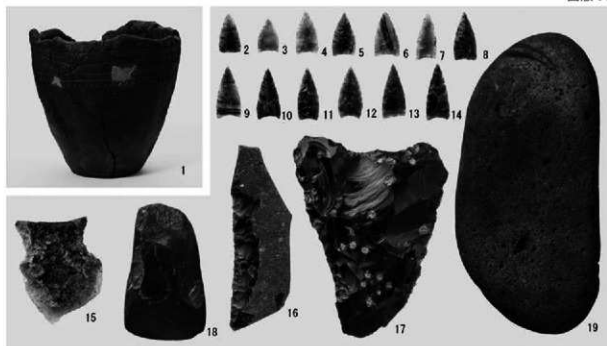


3 H-16 (25号址) 出土の遺物



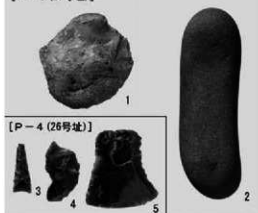
5 GP-2 (38号址) 出土の遺物





1 GP-3 (44号址) 出土の遺物

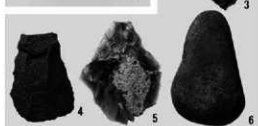
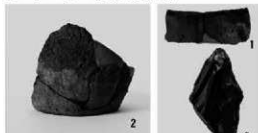
[P-3 (27号址)]



[P-4 (26号址)]



2 P-3・4 出土の遺物



3 P-5 (28号址) 出土の遺物

[PS-5 (37a・b号址)]



[PS-10 (49号址)]

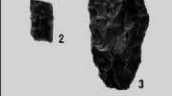


[PS-12 (50号址)]

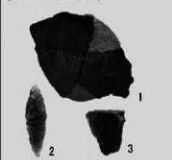


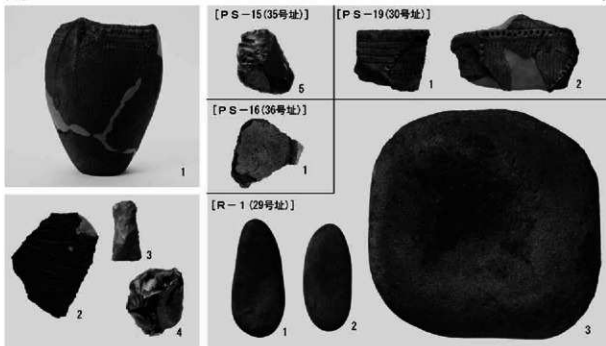
4 PS-5・7・10・11・12 出土の遺物

[PS-7 (23号址)]



[PS-11 (46号址)]



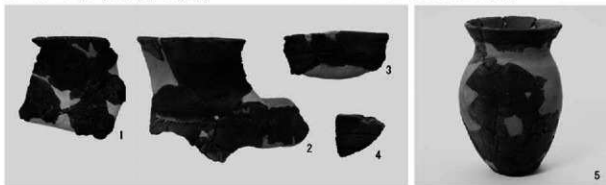


1 PS-14 (31b号址) 出土の遺物 2 PS-15・16・19、R-1 出土の遺物



3 H-1 (2号址) 出土の遺物

4 H-5 (19号址) 出土の遺物



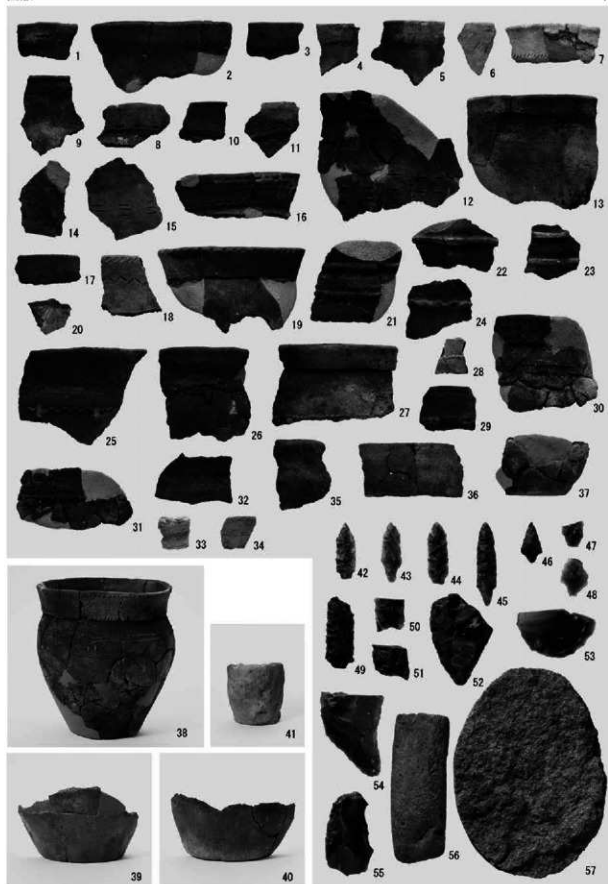
5 H-3 (4号址) 出土の遺物



6 H-6 (20号址) 出土の遺物



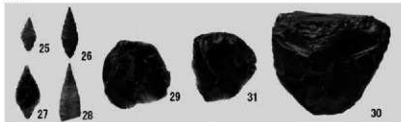
1 H-7 (5号址) 出土の遺物



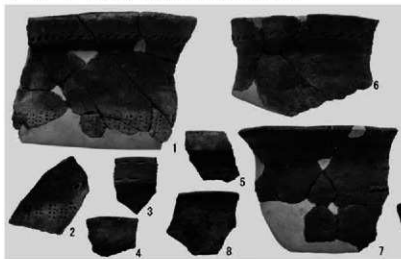
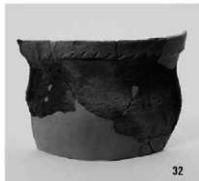
1 H-8 (6号址) 出土の遺物



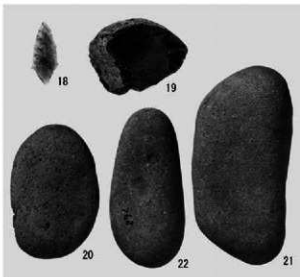
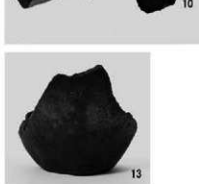
1 H-9・10(15a・b号址)出土の遺物(1)



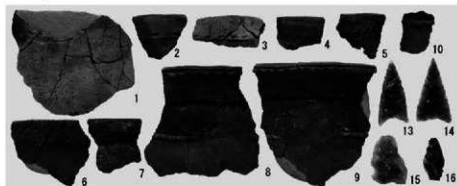
1 H-9・10(15a・b号址) 出土の遺物 (2)



2 H-11(21号址) 出土の遺物



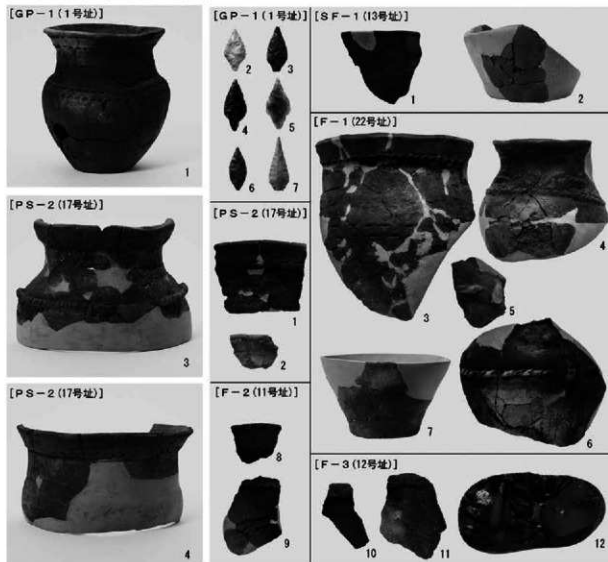
3 H-12(8号址) 出土の遺物



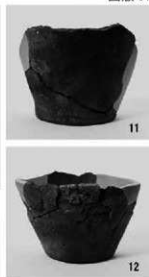
1 H-13(7号址) 出土の遺物

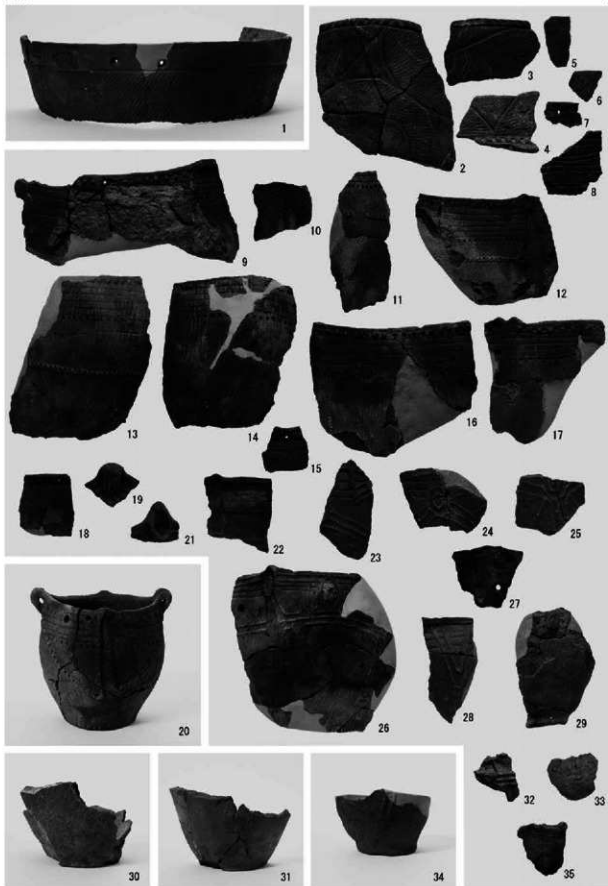


2 H-14(9号址) 出土の遺物

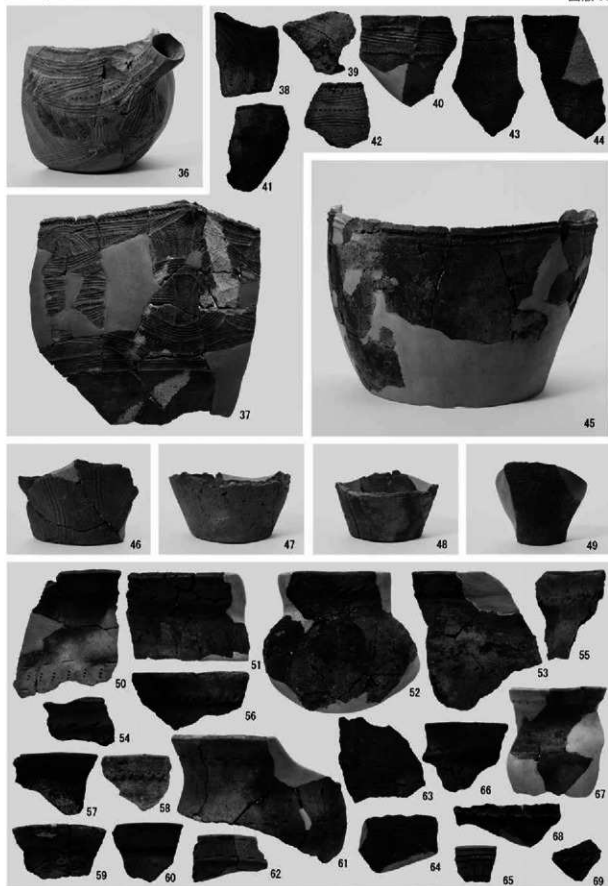


3 GP-1、PS-2、SF-1、F-1~3出土の遺物

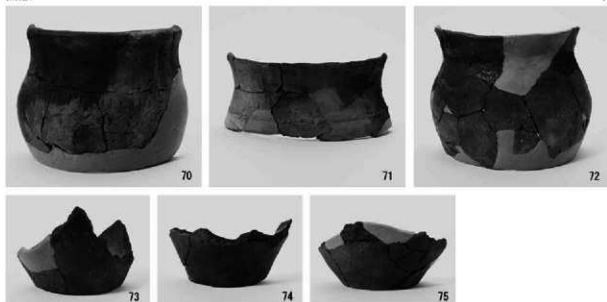




1 包含層出土の土器 (1)

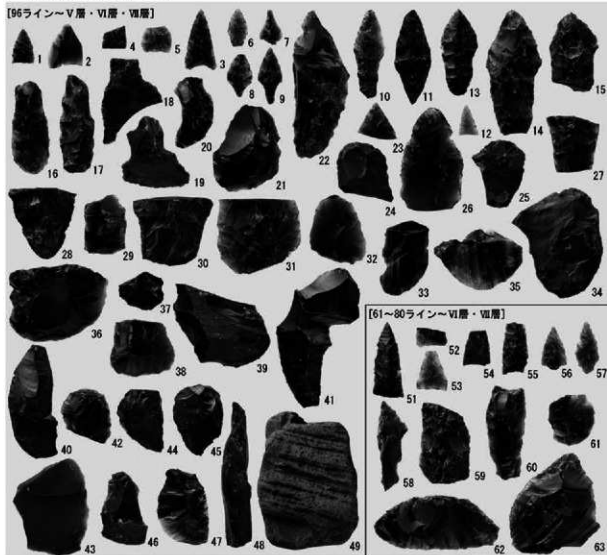


1 包含層出土の土器 (2)

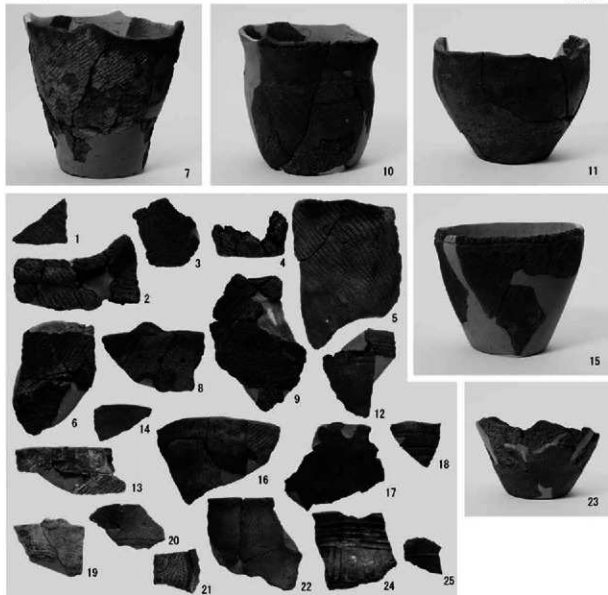


1 包含層出土の土器 (3)

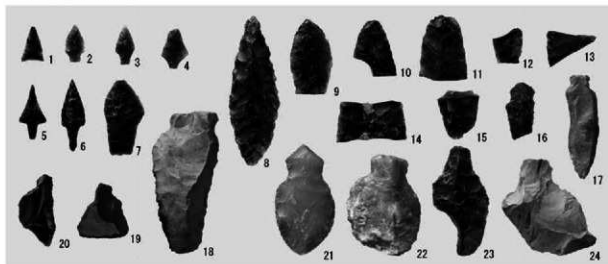
[96ライン～V層・VI層・VII層]



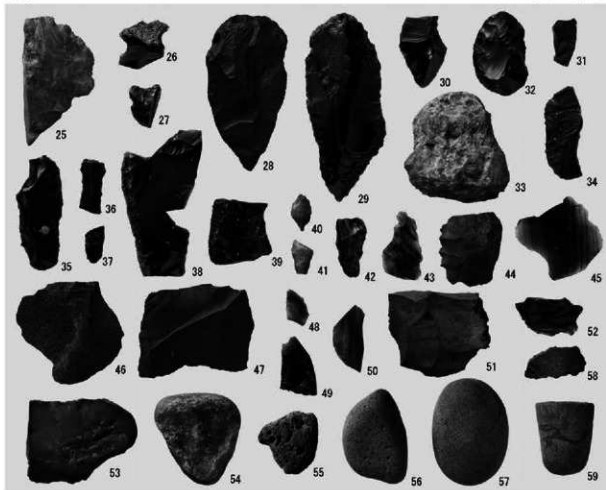
2 包含層出土の石器



1 包含層出土の土器



2 包含層出土の石器 (1)



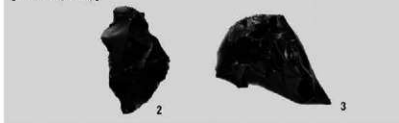
1 包含層出土の石器(2)

2011年A地区

[SP-7 (PIT18)]



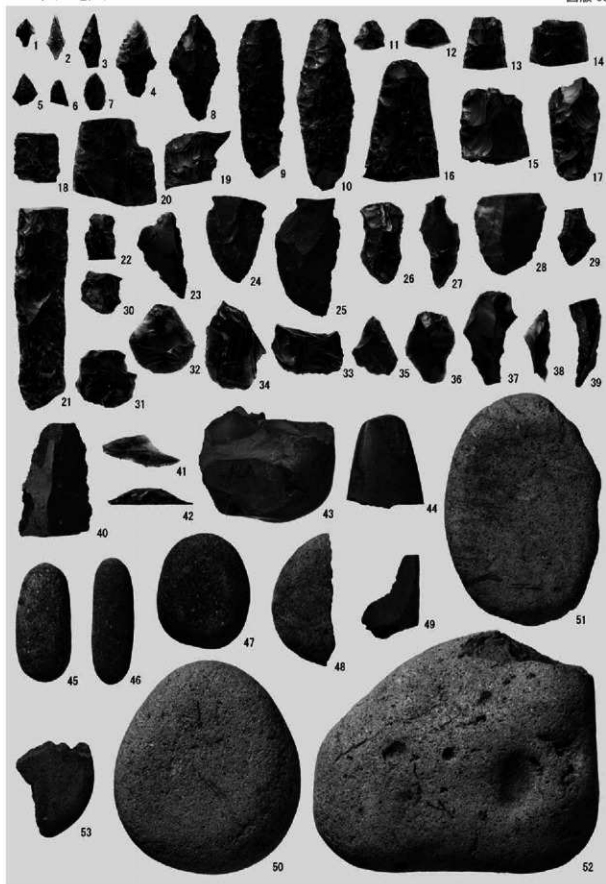
[SP-9 (PIT21)]



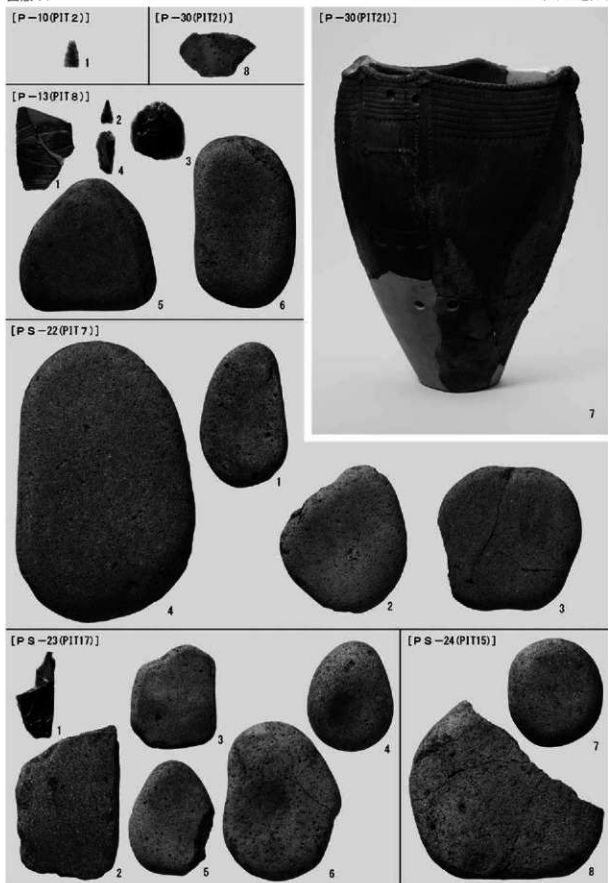
2 SP-7 (PIT18)出土の遺物 3 SP-9 (PIT21)出土の遺物



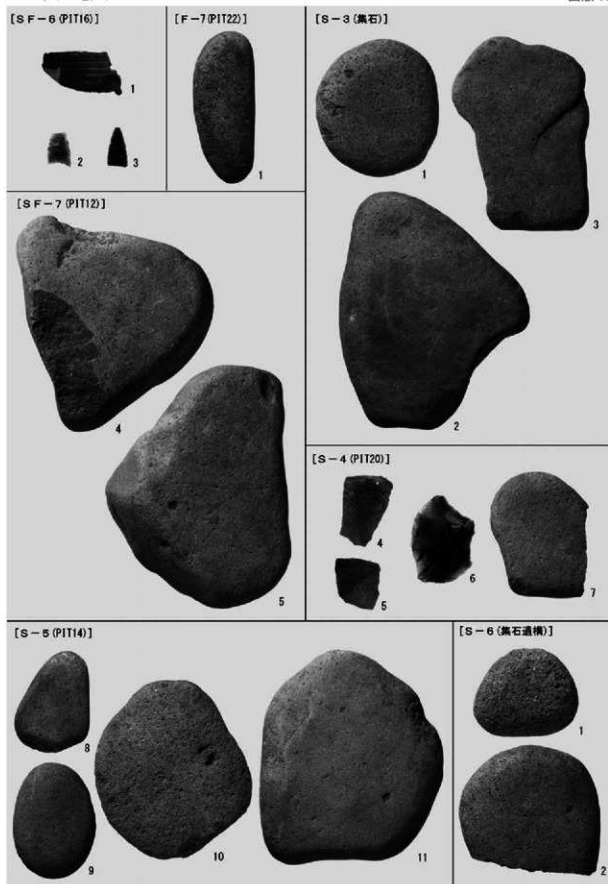
4 A地区包含層出土の土器



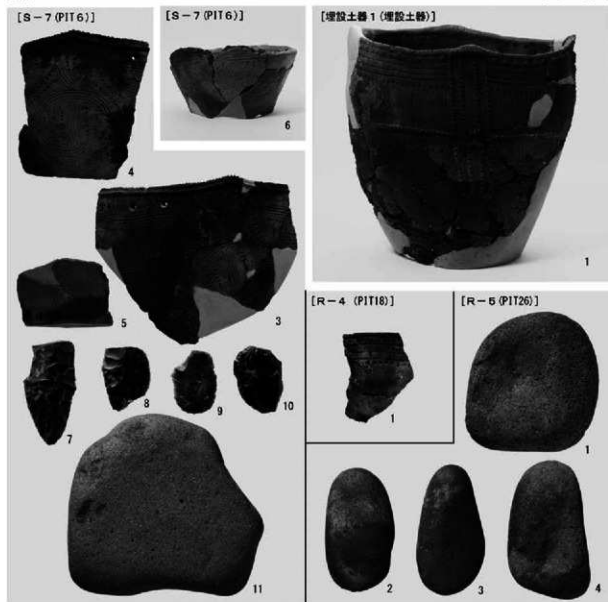
1 A地区包含層出土の石器(2)



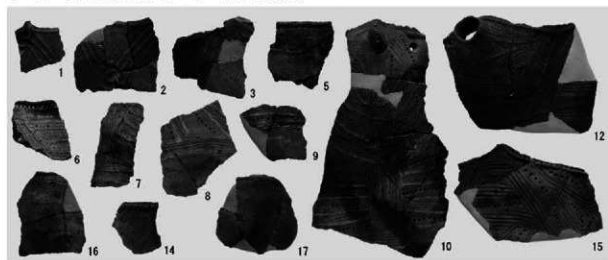
1 P-10・13・30、PS-22~24出土の遺物



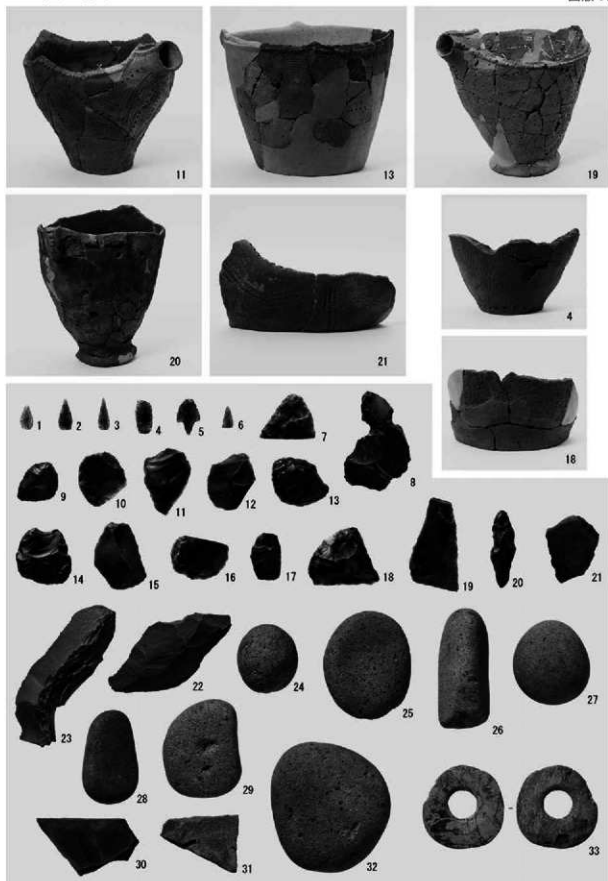
1 SF-6・7、F-8、S-3~6出土の遺物



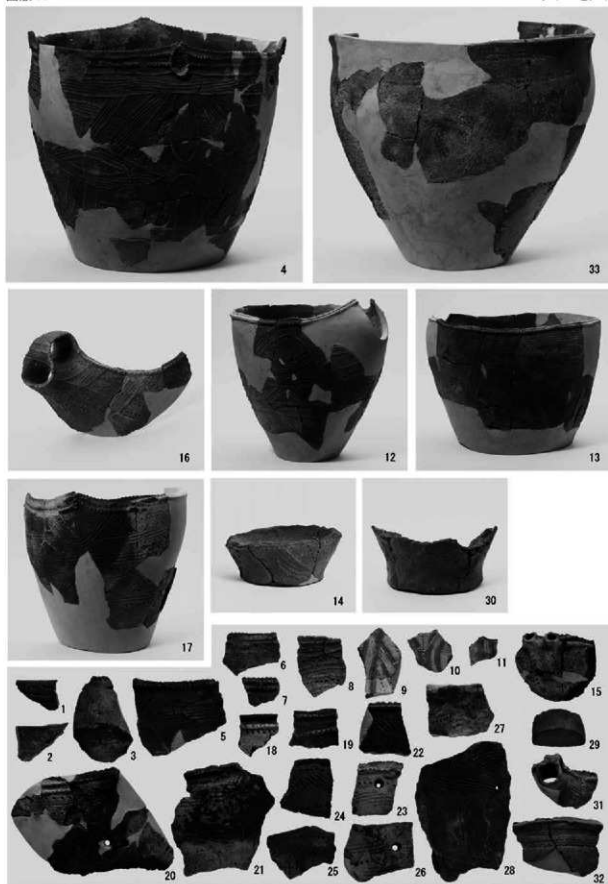
1 S-7、埋設土器、R-4・5出土の遺物



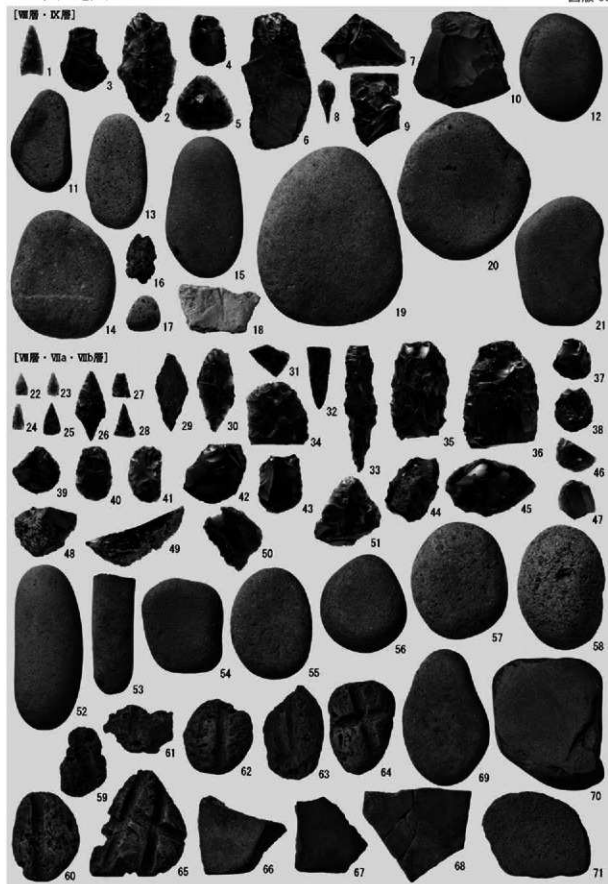
2 「廃棄場」出土の遺物 (1)



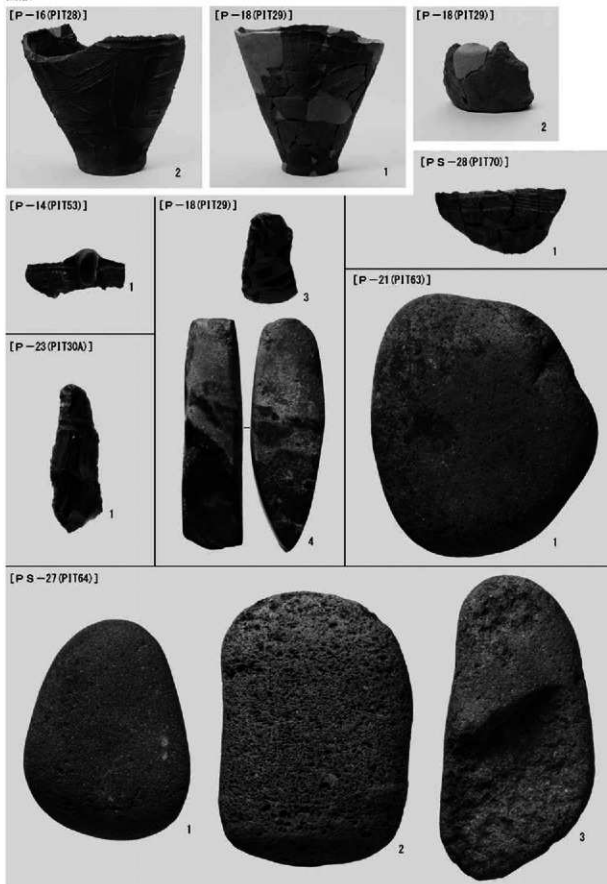
1 「廃棄場」出土の遺物(2)



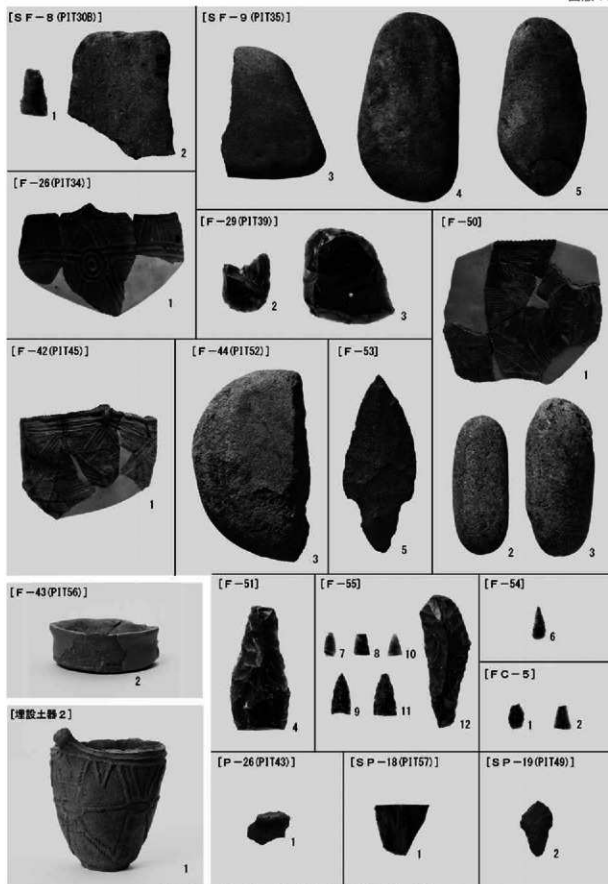
1 B地区包含層出土の土器



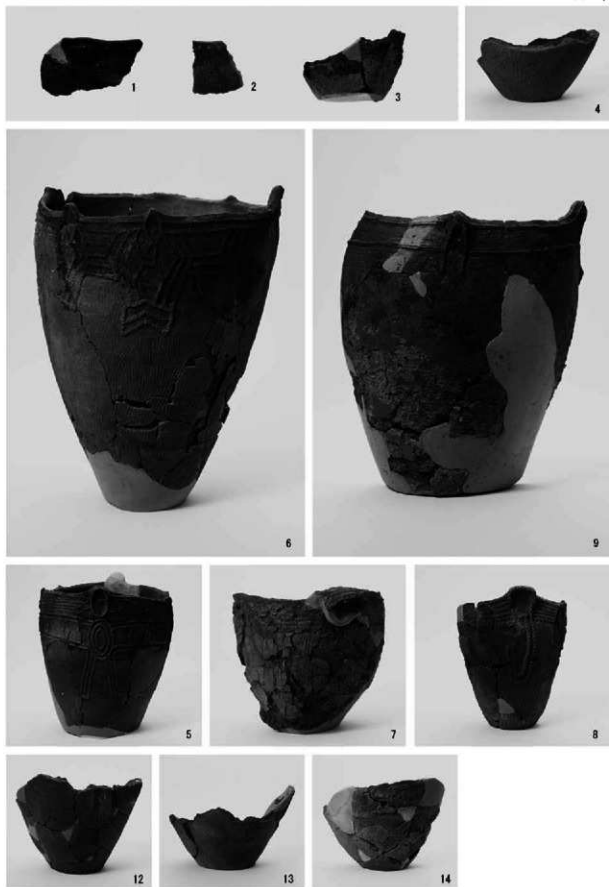
1 B地区包含層出土の石器



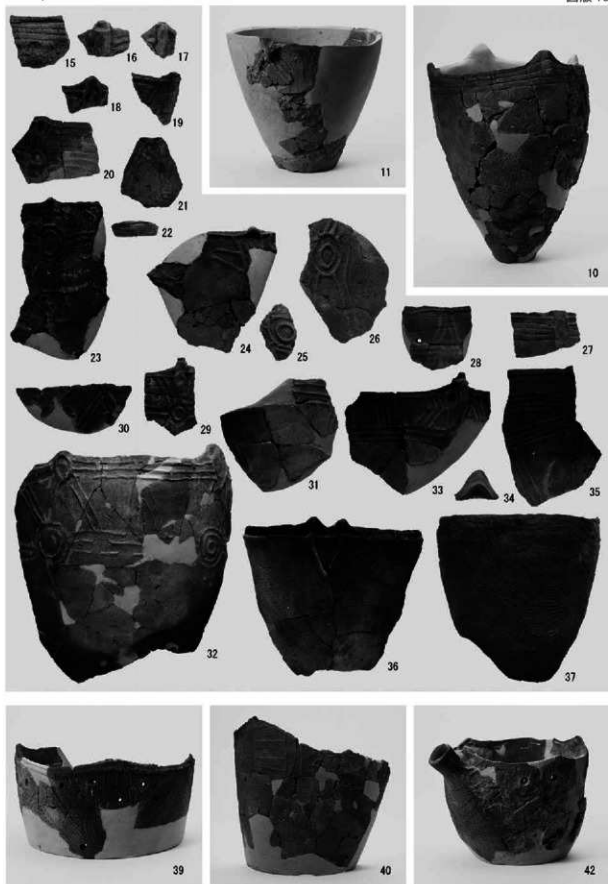
1 P-14・16・18・21・23、P S-27・28出土の遺物



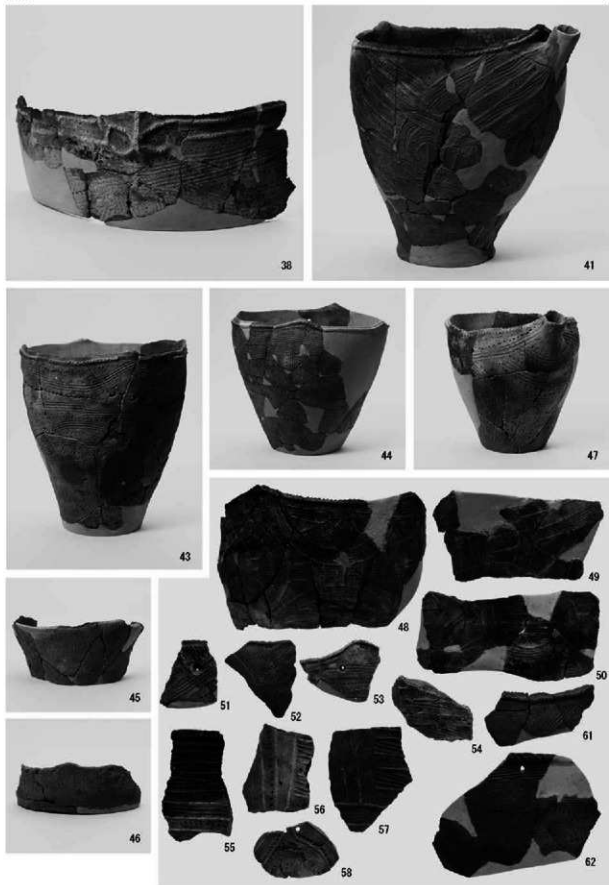
1 SF-8・9、F-26・29・41・43・44・50・51・53・54・55、FC-5、
P-26、埋設土器、SP-18・19出土の遺物



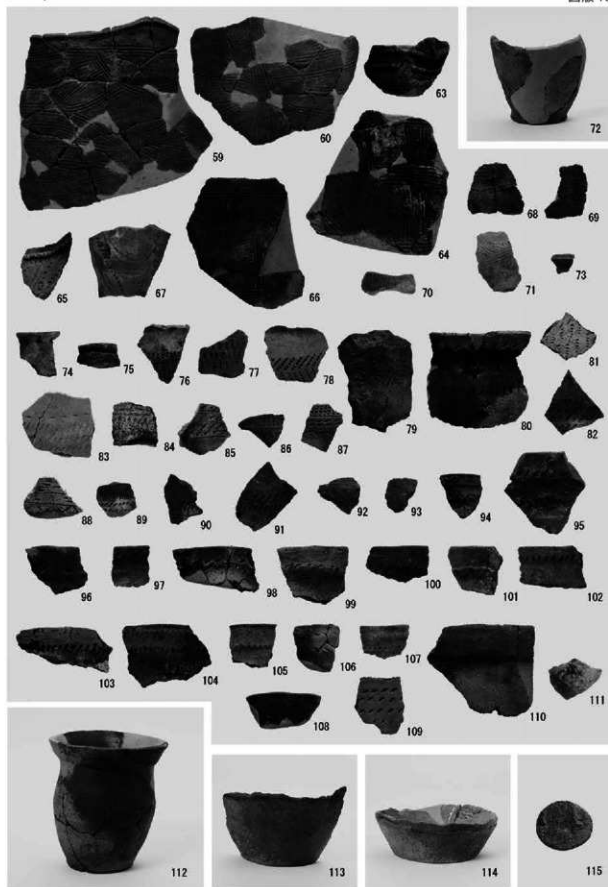
1 包含層出土の土器 (1)



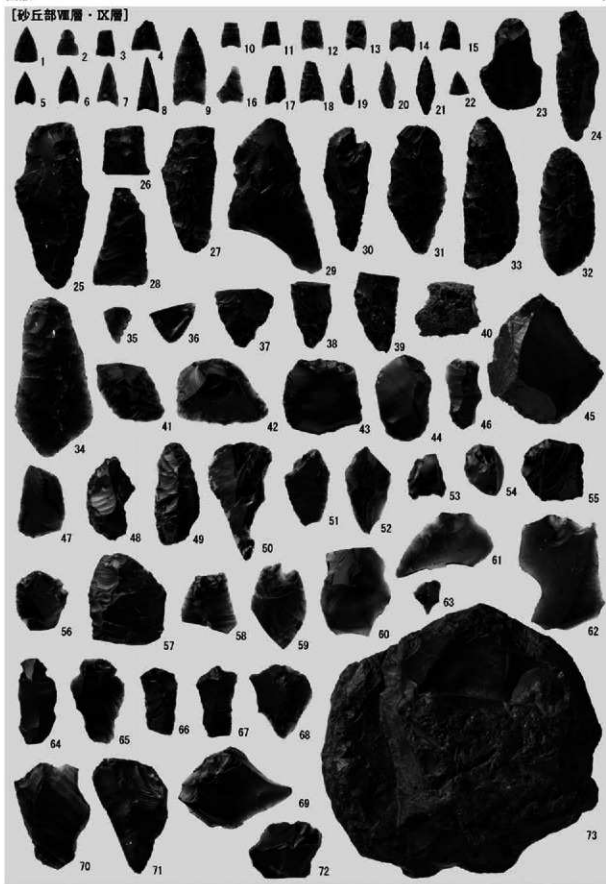
1 包含層出土の土器 (2)



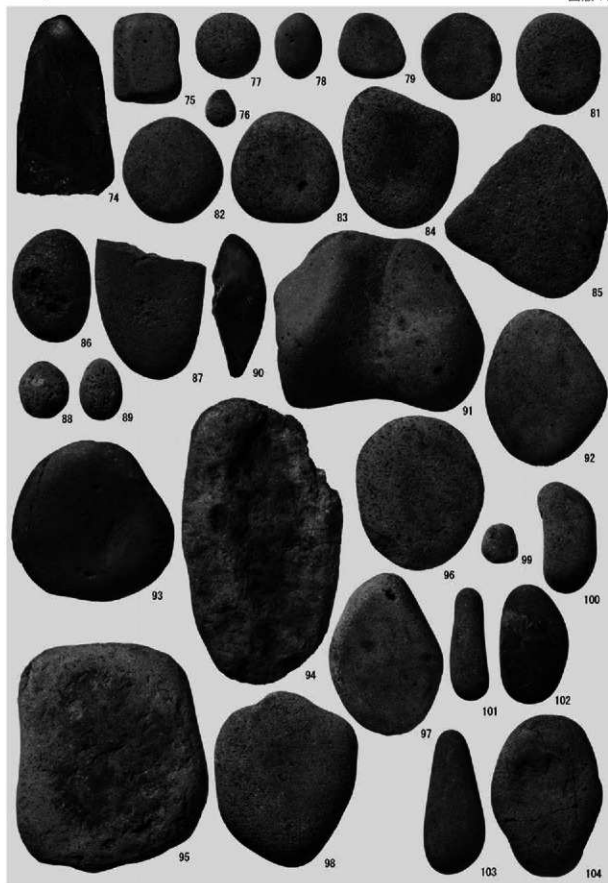
1 包含層出土の土器 (3)



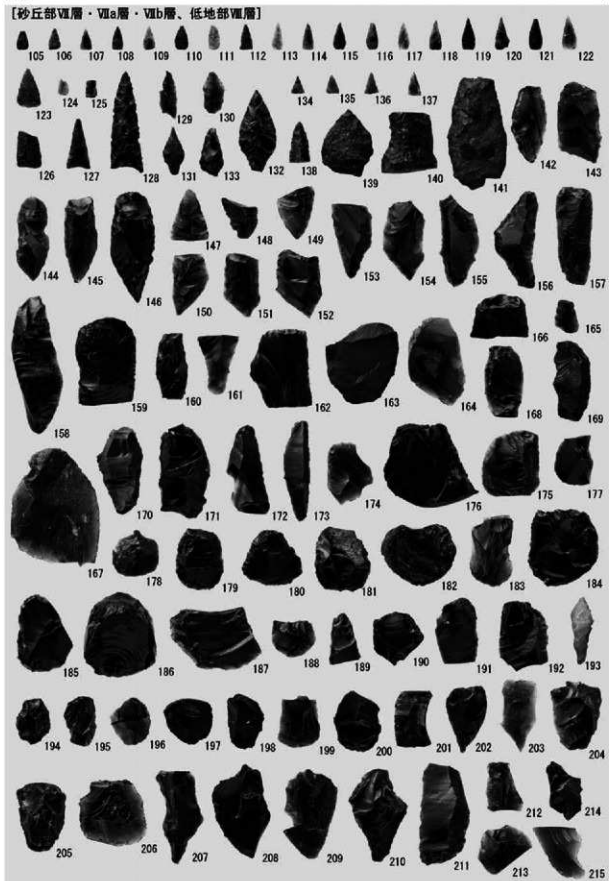
1 包含層出土の土器 (4)



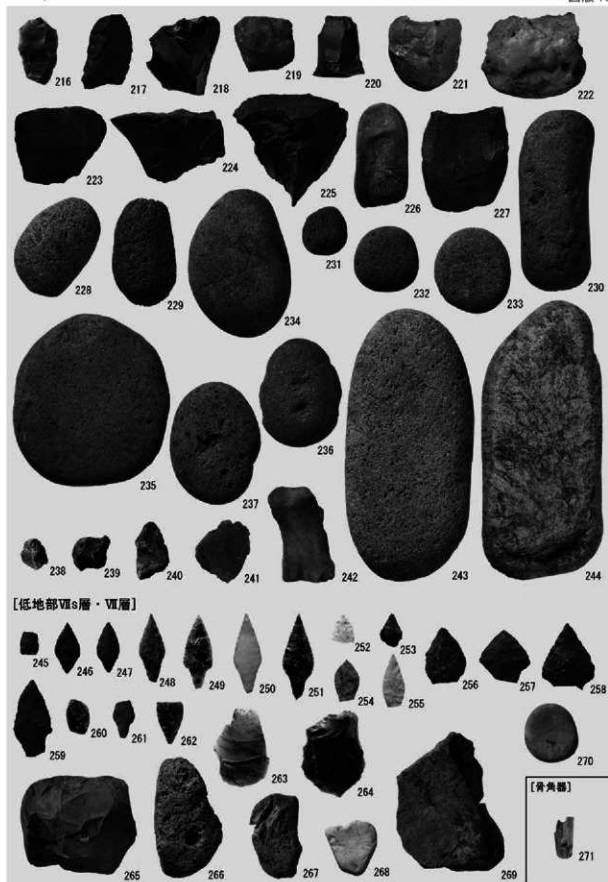
1 包含層出土の石器 (1)



1 包含層出土の石器 (2)



1 包含層出土の石器 (3)



1 包含層出土の石器(4)・骨角器



1 SP-15 (PIT44)出土の木柱



2 旧河道出土の加工痕のある材



3 2008年H-12(8号址)出土の織紐



4 各年度出土の樹皮



5 2011年A地区出土のキセル

報告書抄録

ふりがな	しゃりちょう かもいべつせいき						
書名	斜里町 カモイベツ遺跡						
副書名	一般国道334号斜里町日の出事事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北理調報)						
シリーズ番号	第364集						
編著者名	阿部明義、笠原 興、直江康雄						
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター						
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 Tel. (011) 386-3231						
発行年月日	令和2年(西暦2020年)3月19日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 東経 (J100杭)	調査期間	調査面積	調査原因	
カモイベツ遺跡	北海道 斜里郡 斜里町 峰浜311ほか	01545 30	43° 55′ 42″	144° 47′ 15″	(2008・ 2009・2011・ 2012年、) 20171104～ 20171113・ 20180515～ 20181018、	1,695㎡、 (総計 8,977㎡)	国道334号改 良工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
カモイベツ遺跡	集落跡	※2008～2012年、2018年調査の内容を含む					
		縄文時代中期 ～晩期	竪穴住居跡	土器(縄文中期・後期・晩期)、 石器等			
		続縄文時代 宇津内Ⅱa式期 ～ 後北C ₂ ・D式期	住居跡 土坑墓 集石土坑 石組炉 焼土群 ベンガラ製作址	土器(宇津内Ⅱa・Ⅱb式、後 北C ₂ ・D式、鈴谷式、北大式)、 石器等、石製品、ガラス玉、 褐鉄鉱・ベンガラ、魚骨、獣骨	ガラス玉が副 葬された墓、 ベンガラ製作 関連の遺構・ 遺物		
		オホーツク文化 刻文期	竪穴住居跡 竪穴 集石土坑	土器(刻文・掘縄貼付文)、石 器等、魚骨・獣骨、杭(柱根)	竪穴住居跡群		
		アイヌ文化期	貝・骨ブロック	貝、魚骨・獣骨、骨角器等(鋸 頭ほか)、鉄製品(斧・鎌・鍋・ 釘ほか)、樹皮	近世の貝・骨 ブロック		
要 約							
<p>カモイベツ遺跡は、知床半島基部、斜里町市街地から東に約10kmに位置し、オホーツク海沿岸の標高3～6mの海岸砂丘上に立地する。これまでに2008・2009・2011・2012年の4次にわたり、斜里町教育委員会が発掘調査を実施し、続縄文時代宇津内Ⅱa式期～後北C₂・D式期とオホーツク文化刻文期を主体とする集落跡・遺物包含層が確認された。続縄文時代では、宇津内Ⅱa式期のベンガラ製作にかかわる遺構・遺物、後北C₂・D式期の追葬(または再葬)された墓が特徴的である。オホーツク文化期では、竪穴住居群の炉からサケ科の魚骨や中小型陸獣を主体とする骨片が顕著にみられるなど、該期の周辺遺跡とは異なる生業活動の痕跡を示している。(なお当報告書はこれらの内容も合わせて報告している。)</p> <p>2017年の測量調査を経て、2018年に当センターが残りの範囲の調査を行った。その結果、後北C₂・D式期の(平地)住居跡および焼土群、オホーツク文化刻文期の小型の竪穴や集石土坑、アイヌ文化期の捨て場・送り場である貝・骨ブロック群を検出し、各期の遺物が出土した。</p> <p>縄文海進以降の砂丘の形成・発達に伴い、遺跡形成範囲が移行する様相がうかがえる。</p>							

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第364集

斜里町 カモイベツ遺跡

—一般国道334号斜里町日の出事故対策事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 令和2年3月19日
編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231
E-mail mail@domaibun.or.jp
URL <http://www.domaibun.or.jp>

印刷 北海道印刷企画株式会社
〒064-0811 札幌市中央区南11条西9丁目3番35号
TEL (011) 562-0075 FAX (011) 562-0355

